TOSHIBA
Leading Innovation

東芝デジタル複合機

TopAccessガイド

●このたびは東芝デジタル複合機をお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。
●お使いになる前に取扱説明書をよくお読みください。お読みになった後は必ず保管してください。

©2008, 2009 TOSHIBA TEC CORPORATION All rights reserved
本書は、著作権法により保護されており、東芝テック株式会社の承諾がない場合、本書のいかなる部分もその複写、複製を禁じます。本書中の情報の使用については特許に関する法的責任は生じないものとします。

はじめに

このたびは東芝デジタル複合機をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
この取扱説明書は、Webベースの管理ユーティリティである TopAccessから行うデバイスのリモートセットアップやリモート管理をユーザモード、管理者モード別に説明しています。
これらの機能を使用する前に、この取扱説明書をよくお読みください。また、これらの機能を最良の状態でお使いいただくために、この取扱説明書をいつもお手元に置いて有効にご活用ください。

e-STUDIO455 Seriesおよびe-STUDIO855 Seriesでは、スキャン機能およびプリント機能はオプションです。
お使いの機体によっては、すでにオプションが装着されている場合があります。

■ 本書の読みかた

□ 本文中の記号について

本書では、重要事項には以下の記号を付けて説明しています。これらの内容については必ずお読みください。

⚠警告　「誤った取り扱いをすると人が死亡する、または重傷[*1]を負う可能性があること」を示しています。

⚠注意　「誤った取り扱いをすると人が傷害[*2]を負う可能性、または物的損害[*3]のみが発生する可能性があること」を示しています。

注 意　操作するうえでご注意いただきたい事柄を示しています。

補 足　操作の参考となる事柄や、知っておいていただきたいことを示しています。

📖　関連事項を説明しているページを示しています。必要に応じて参照してください。

＊1　重傷とは、失明やけが・やけど（高温・低温）・感電・骨折・中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものを指します。
＊2　傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど・感電を指します。
＊3　物的損害とは、財産・資材の破損にかかわる拡大損害を指します。

□ 本書の対象機種について

本書の対象機種は、本文中で以下のように表記しています。

対象機種	本文中の表記
e-STUDIO5520C/6520C/6530C	e-STUDIO6530C Series
e-STUDIO2330C/2830C/3520C/4520C	e-STUDIO4520C Series
e-STUDIO255/355/455	e-STUDIO455 Series
e-STUDIO655/755/855	e-STUDIO855 Series

□ 本文中の画面について

本書に掲載している画面は、e-STUDIO4520C Seriesを例にしています。e-STUDIO4520C Series、e-STUDIO6530C Series、e-STUDIO455 Series、e-STUDIO855 Seriesの画面は、各部名称や機能は共通です。
画面はオプション機器の装着状況など、ご使用の環境によって異なる場合があります。

□ 商標について

- Windows 2000の正式名称は、Microsoft Windows 2000 Operating Systemです。
- Windows XPの正式名称は、Microsoft Windows XP Operating Systemです。
- Windows Vistaの正式名称は、Microsoft Windows Vista Operating Systemです。
- Windows Server 2003の正式名称は、Microsoft Windows Server 2003 Operating Systemです。
- Windows Server 2008の正式名称は、Microsoft Windows Server 2008 Operating Systemです。
- Microsoft、Windows、Windows NT、またはその他のマイクロソフト製品の名称及び製品名は、米国 Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Apple、AppleTalk、Macintosh、Mac、Mac OS、Safari、TrueTypeおよびLaserWriterは、米国Apple Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Adobe、Adobe Acrobat、Adobe Reader、Adobe Acrobat Reader およびPostScriptは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- Mozilla、Firefox、Firefoxロゴは、米国Mozilla Foundationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- IBM、ATおよびAIXは、International Business Machines Corporationの商標です。
- NOVELL、NetWare、NDSは米国NOVELL, Inc.の商標または登録商標です。
- TopAccessは、東芝テック株式会社の登録商標です。
- その他、本書に掲載されている会社名、製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標である場合があります。

目次

はじめに 1

第1章　概要

TopAccessの機能 8
TopAccessのユーザモードにアクセスする 9
TopAccess Webユーティリティを起動する 9
TopAccessホームページ 17

第2章　装置状態を確認する

TopAccess［装置］タブ 20
本機の状態を示すアイコン 23

第3章　ジョブを管理する

印刷ジョブを管理する 26
印刷ジョブを表示する 26
印刷ジョブを削除する 27
印刷ジョブを実行する 28
ファクス／インターネットファクスジョブを管理する 29
ファクス／インターネットファクスジョブを表示する 29
ファクス／インターネットファクスジョブを削除する 30
スキャンジョブを管理する 31
スキャンジョブを表示する 31
スキャンジョブを削除する 32

第4章　ログを表示する

印刷ログを表示する 34
送信ログを表示する 35
受信ログを表示する 37
スキャンログを表示する 39

第5章　TopAccessから登録する

テンプレートを管理する 42
プライベートグループを登録する 42
テンプレートを登録する 49
共有テンプレートを表示する 81
アドレス帳を管理する 82
アドレス帳の連絡先を管理する 82
アドレス帳のグループを管理する 88
メールボックスを管理する 90
メールボックスをセットアップする 91
メールボックスを削除する 97

第6章　カウンタを管理する

カウンタを表示する **100**
トータルカウンタを表示する 100
部門カウンタを表示する 102

第7章　TopAccess（管理者モード）

特長および機能について **107**
TopAccessの設定について 107
TopAccessからの保守について 108
TopAccessからの登録について 109
TopAccessを使ったその他の管理機能について 109

TopAccess管理者モードの起動 **110**

TopAccessからセットアップする（管理者モード） **112**
装置設定をセットアップする 112
ネットワーク設定をセットアップする 121
コピー設定をセットアップする 175
ファクス設定をセットアップする 178
共有フォルダに保管設定をセットアップする 182
Eメール設定をセットアップする 190
インターネットファクス設定をセットアップする 193
プリンタ設定をセットアップする 195
プリントサービス設定をセットアップする 201
ICCプロファイル設定をセットアップする 208
バージョン情報を表示する 215

TopAccessからメンテナンスする **216**
保守機能について 216
クライアントソフトウェアを更新する 217
クライアントソフトウェアを削除する 219
データをバックアップする 219
バックアップファイルからデータを復元する 222
共有フォルダからデータを削除する 226
LDAPサービスを登録する 227
通知機能を設定する 229
アドレス帳をインポートまたはエクスポートする 233
部門コードをインポートまたはエクスポートする 238
ログ／ジャーナル／カウンタ情報をエクスポートする 242
ログやジャーナルを削除する 244
再起動する 245

TopAccessから登録する **246**
共有テンプレートを登録する 246
ファクス受信転送およびインターネットファクス受信転送を登録する 254

メッセージログを表示する **268**

部門コードを管理する **269**
部門リストと部門カウンタを表示する 269
部門カウンタをクリアする 271
部門コードを登録・変更する 273
部門コードを削除する 275

ユーザ管理を設定する **277**
部門管理を有効にする 277
ユーザ管理設定を設定する 280

ロール情報を設定する 307
Eメール送信のユーザ認証を設定する 314

第8章　オプション機能の設定

オプション機能の設定について 322
IPセキュリティの設定 323
IPセキュリティをセットアップする 324
ポリシーを登録する 325
IPsec用証明書をインストールする 332
IPsecセッションをフラッシュする 339
メタスキャンの設定 340
メタスキャンテンプレートを登録または編集する 340
メタスキャンテンプレートをメンテナンスする 360
XMLフォーマットファイルをメンテナンスする 365

第9章　付録

クライアントコンピュータに証明書をインストールする 374

索引 381

1

概要

このセクションでは、TopAccess機能の概要について説明します。

TopAccessの機能 8

TopAccessのユーザモードにアクセスする 9

TopAccess Webユーティリティを起動する 9

TopAccessホームページ 17

TopAccessの機能

TopAccess は、Webベースのジョブおよびデバイスの管理ツールです。このツールを使用するとインターネットを介して本機の情報を取得することができます。
TopAccessでは、ユーザ用および管理者用の2種類のWebサイトを使用することができます。

- ユーザ用サイトでは、本機の装置情報やジョブのステータスを表示することができます。また、プライベートグループやテンプレートの作成や更新を行うことができます。
- 管理者サイトでは、本機の装置設定、メンテナンス、およびアドレス帳や共有グループ、テンプレートの作成や更新を行うことができます。

補 足

TopAccessの管理者機能については、次のセクションを参照してください。
📖 P.105 「TopAccess（管理者モード）」

TopAccessのユーザモードから以下の操作を行うことができます：

- 本機の一般情報を表示する（ステータス、カセットやオプション機器の構成、給紙情報など）
- 印刷ジョブ、転送ファクスジョブ、スキャンジョブを表示する（転送ファクスジョブの表示は、オプションのFAXユニット装着時のみ有効）
- 印刷ログ、発信／受信ジャーナル、スキャンログを表示する（発信／受信ジャーナルは、オプションのFAXユニット装着時のみ有効）
- プライベートテンプレートを作成する、変更する
- アドレス帳に連絡先やグループを追加する
- Fコード対応メールボックスを作成する（オプションのFAXユニット装着時のみ有効）
- カウンタログを表示する
- クライアントソフトウェアをダウンロードする

注 意

- TopAccessでは、コンピュータに情報を保存するのにCookieを使用するので、TopAccessを正しく動作させるためにはお使いのブラウザでCookieを使用できるように設定されている必要があります。
- TopAccessが正しく動作しないときには、Cookieを削除して試してみてください。

TopAccessのユーザモードにアクセスする

TopAccessを操作するには、本機がネットワークに接続され、TCP/IPが正しく設定されている必要があります。TCP/IP設定を完了すると、TopAccessのホームページにアクセスすることができます。このページからInternet ExplorerやFirefoxなどのWebブラウザを使用して、さまざまな操作をお使いのコンピュータから行うことができます。
TopAccessのWebユーティリティは、Windows、MacintoshおよびUNIX環境で使用することができます。以下のブラウザをサポートしています：

Windows
- Internet Explorer 5.5 Service Pack 2以上
  （IPv6環境で使用時はInternet Explorer 7.0以上）
- Firefox 1.5.0.4以上

Macintosh
- Safari 2.0以上
- Firefox 1.5.0.4以上

UNIX
- Firefox 1.5.0.4以上

■ TopAccess Webユーティリティを起動する

TopAccess Webユーティリティは、WebブラウザのURLにアドレスを入力することにより起動することができます。Windows Vistaにおいては、LLTD（Link Layer Topology Discovery）機能で［ネットワークマップ］からネットワークの接続状態を確認し、表示された本機のアイコンから起動することができます。
- 📖 P.10 「アドレスを入力して起動する」
- 📖 P.12 「ネットワークマップのアイコンから起動する（Windows Vista）」

アドレスを入力して起動する

1 **TopAccess Webユーティリティを操作するには、Webブラウザを起動し、URLに以下のアドレスを入力します。**

http://<IPアドレス>または、http://<デバイス名>

例：

本機のIPアドレス（IPv4）が「10.10.70.120」のとき

`http://10.10.70.120`

本機のIPアドレス（IPv6）が「3ffe:1:1:10:280:91ff:fe4c:4f54」のとき

`3ffe-1-1-10-280-91ff-fe4c-4f54.ipv6-literal.net`

または

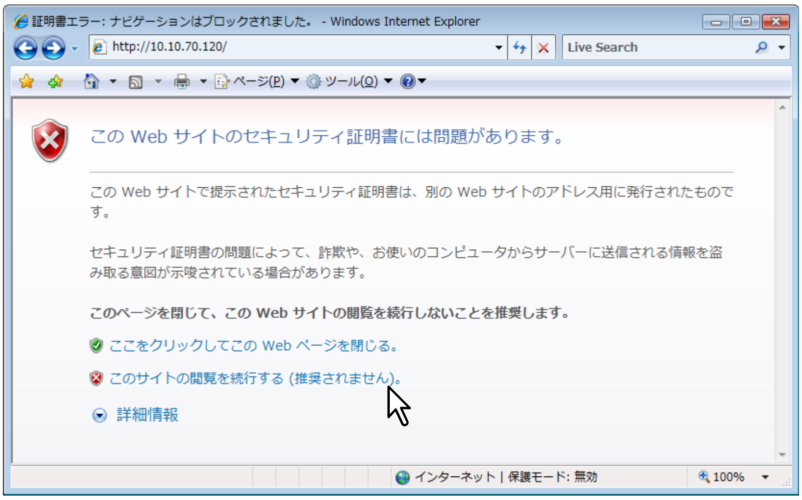
http://[3ffe:1:1:10:280:91ff:fe4c:4f54]

本機のデバイス名が「mfp_04998820」のとき

`http://mfp-04998820`

注 意

HTTPネットワークサービスでSSLが有効に設定されている場合は、TopAccessのアドレスを入力すると警告メッセージが表示されることがあります。その場合は、[このサイトの閲覧を続行する（推奨されません）。] をクリックして操作を続けてください。



2 TopAccess WebユーティリティのWebページが表示されます。

補 足

TopAccessDocMonリンクを使用してTopAccessにアクセスすることもできます。TopAccessDocMonからTopAccessにアクセスする方法は、**TopAccessDocMon 取扱説明書**を参照してください。

ネットワークマップのアイコンから起動する（Windows Vista）

Windows VistaのLLTD（Link Layer Topology Discovery）機能で、［ネットワークマップ］からネットワークの接続状態を確認し、表示された本機のアイコンをクリックして起動します。

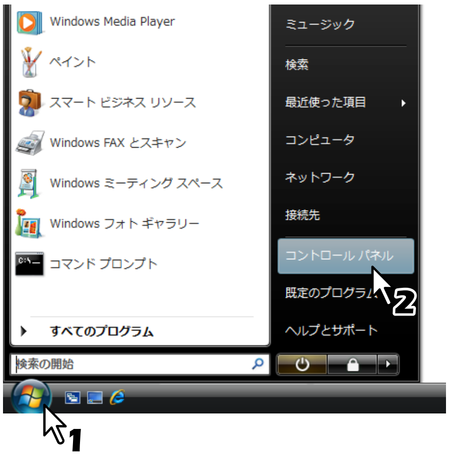
補 足

アイコンの右クリックメニューより［インストール］を選択することにより、Web Serviceに必要なドライバのインストールを開始することができます。Web Serviceに必要なドライバのインストールについては、**インストールガイド**を参照してください。

注 意

- LLTD（Link Layer Topology Discovery）機能を利用する場合は、LLTDの設定を有効にしてください。📖 P.173「LLTDの設定」
- Web Serviceに必要なドライバのインストールを実行する場合は、Web Service設定の設定を有効にしてください。📖 P.172「Web Serviceの設定」

1 **［スタート］から［コントロール パネル］を選択します。**



［コントロール パネル］画面が表示されます。

2 **［ネットワークとインターネット］をクリックします。**

［ネットワークとインターネット］画面を表示します。

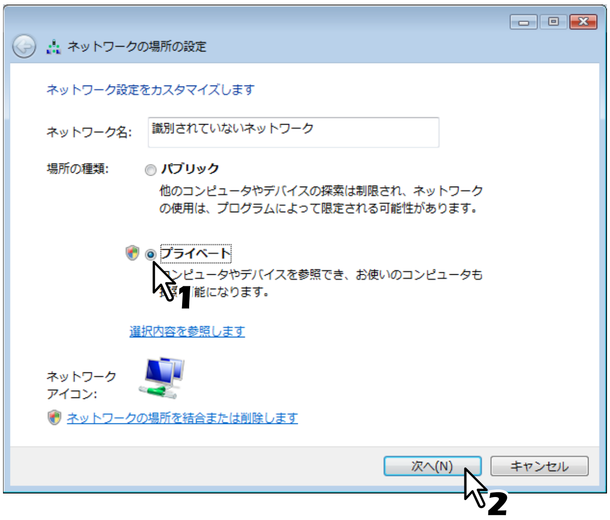
3 ［ネットワークと共有センター］をクリックします。

［ネットワークと共有センター］画面が表示されます。

4 ［識別されていないネットワーク（パブリックネットワーク）］の［カスタマイズ］をクリックします。

［ネットワークの場所の設定］画面が表示されます。

5 ［場所の種類］から［プライベート］をオンにし、［次へ］をクリックします。

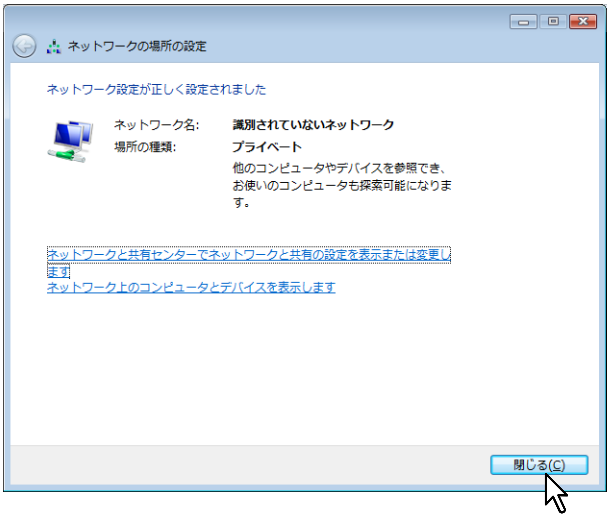


- ［ユーザアカウント制御］ダイアログが表示されます。
- ユーザアカウント制御が無効になっている場合は、［ネットワークの場所の設定-ネットワーク設定が正しく設定されました］画面が表示されます。手順7に進みます。

6 ［ユーザアカウント制御］ダイアログの［続行］をクリックします。

［ネットワークの場所の設定-ネットワーク設定が正しく設定されました］画面が表示されます。

7 ［閉じる］をクリックします。



8 ［ネットワークと共有センター］画面から［フルマップを表示］をクリックします。

［ネットワークマップ］画面にネットワーク上に接続されたデバイスのマップが表示されます。

9 マップの中から本機のアイコンをクリックします。

補 足

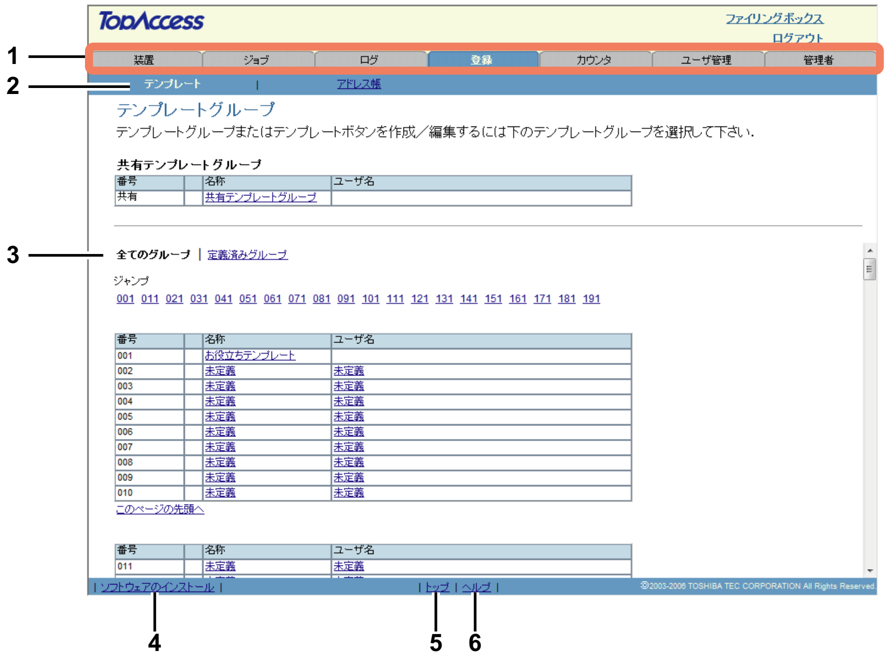
- アイコンにポインタを近づけると装置の名称および、IPアドレス、MACアドレスが表示されます。
- 本機のアイコンは、装置の状態に合わせて、フィニッシャ付きのアイコンと、本体のみのアイコンが表示されます。

10 TopAccess WebユーティリティのWebページが表示されます。

■ TopAccessホームページ

TopAccessホームページでは、装置設定や状態表示、管理機能を利用することができます。

TopAccessでは、以下の項目を使用して基本的な操作を行います。
TopAccessの基本ページには、以下の項目が表示されます：



1) 機能タブ
各タブは機能ごとにまとめられています。タブをクリックすると、該当する機能のメインページが表示されます。

2) メニューバー
選択した機能タブの各メニューページへアクセスします。

3) サブメニューバー
選択した機能タブやメニューの各サブメニューページへアクセスします。

4) ソフトウェアのインストール
このリンクをクリックすると、クライアントソフトウェアをインストールするページが表示されます。このページからクライアントソフトウェアをダウンロードすることができます。

5) トップ

このリンクをクリックすると、表示しているページの先頭へ戻ります。

6) ヘルプ

このリンクをクリックすると、オンラインヘルプが起動します。

注 意

TopAccessのオンラインヘルプは、以下のブラウザはサポートしておりません。

- Safari 2.0

2

装置状態を確認する

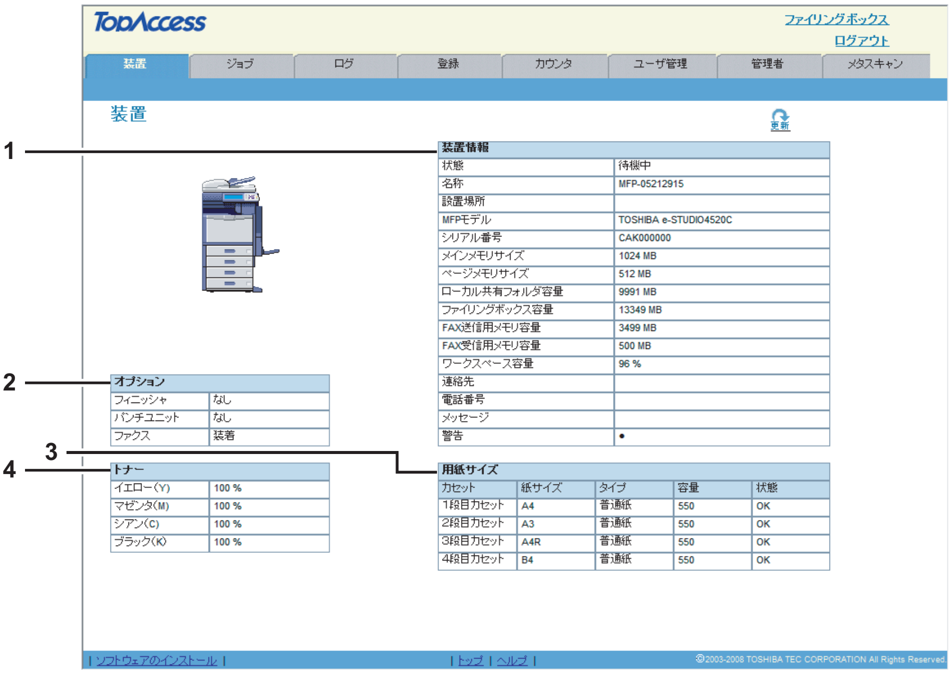
このセクションでは、TopAccessユーザモードの［装置］タブについて説明します。

TopAccess［装置］タブ 20
本機の状態を示すアイコン 23

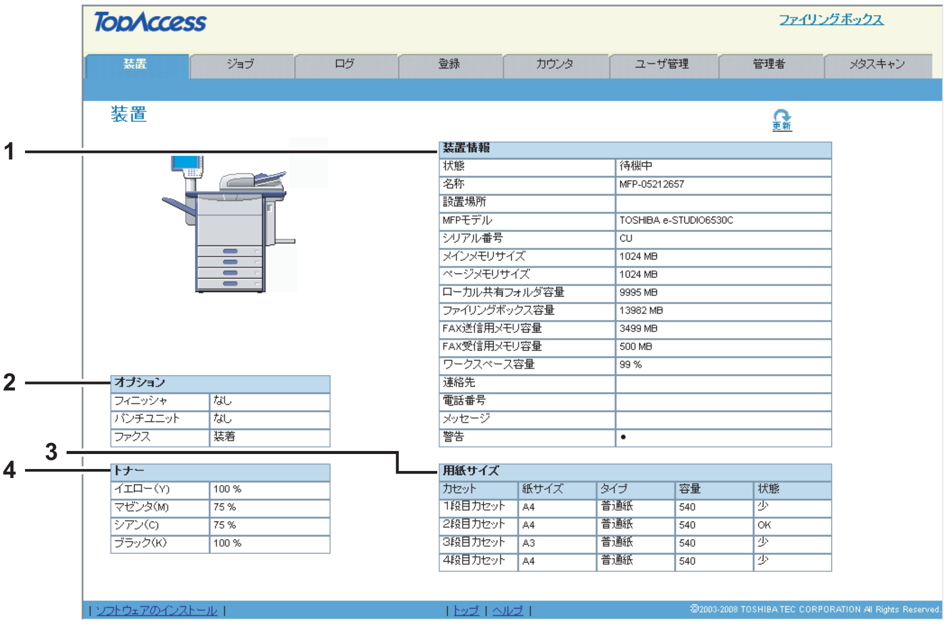
TopAccess［装置］タブ

ユーザ用の［装置］タブが表示され、装置の状態を示すビットマップイメージが表示されます。［更新］をクリックすると、ページ上の情報が更新され、表示されます。
このタブページには、装置に関する以下の情報が表示されます。

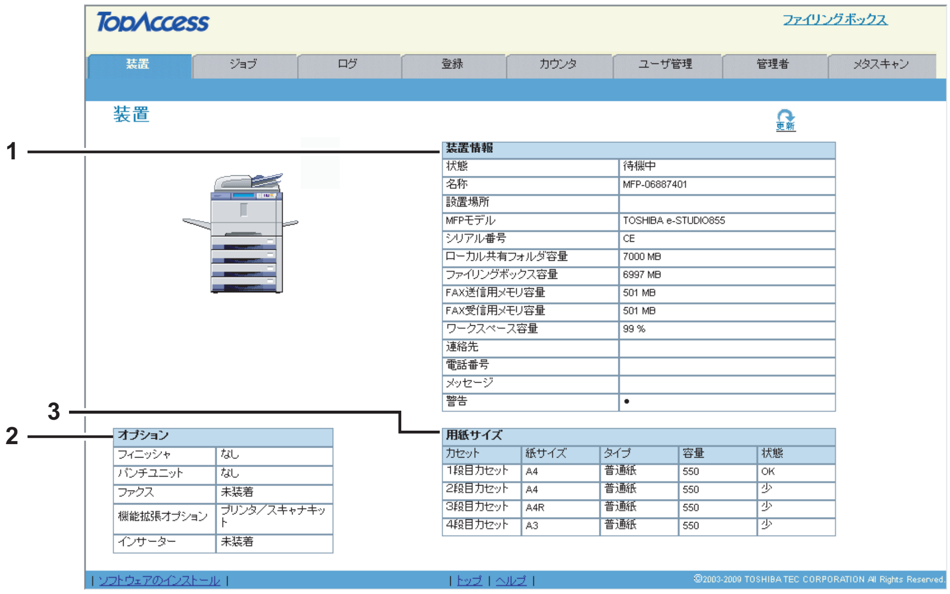
e-STUDIO4520C Seriesをお使いの場合



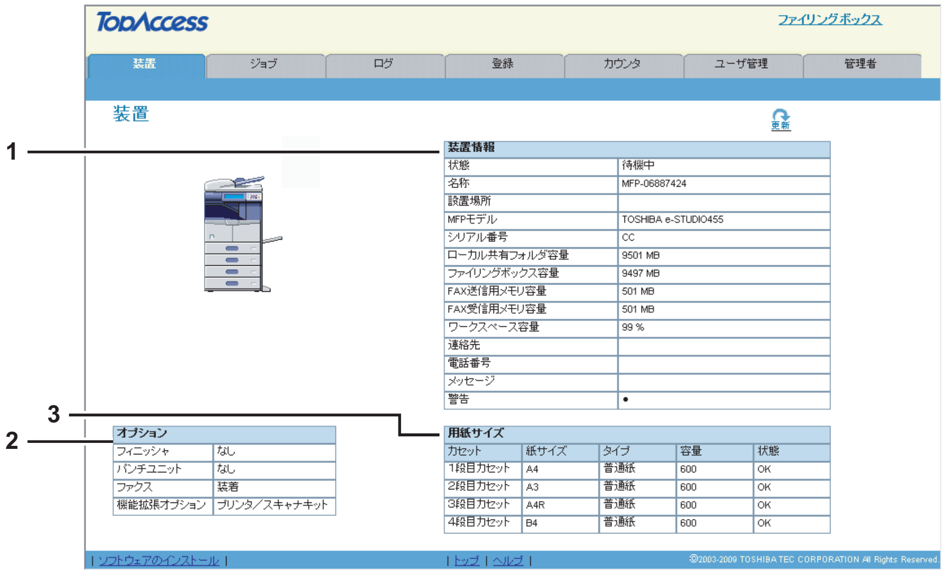
e-STUDIO6530C Seriesをお使いの場合



e-STUDIO855 Seriesをお使いの場合



e-STUDIO455 Seriesをお使いの場合



1) 装置情報

以下の情報が表示されます。

- **状態**：本機の状態を表示します。
- **名称**：本機の名称を表示します。
- **設置場所**：本機の設置場所を表示します。
- **MFPモデル**：本機のモデル名を表示します。
- **シリアル番号**：本機のシリアル番号を表示します。
- **メインメモリサイズ**：メインメモリサイズを表示します。
- **ページメモリサイズ**：ページメモリサイズを表示します。
- **ローカル共有フォルダ容量**：本機のローカルフォルダの空き容量を表示します。
- **ファイリングボックス容量**：本機のファイリングボックスの空き容量を表示します。
- **FAX送信用メモリ容量**：本機のファクス送信用メモリの空き容量を表示します。
- **FAX受信用メモリ容量**：本機のファクス受信用メモリの空き容量を表示します。
- **ワークスペース容量**：テンポラリデータの保存に使用可能なハードディスクの空き容量をパーセンテージで表示します。
- **連絡先**：本機を管理する担当者の氏名を表示します。

- **電話番号**：本機を管理する担当者の電話番号を表示します。
- **メッセージ**：管理者メッセージを表示します。
- **警告**：警告メッセージを表示します。エラーは赤で、警告は黄で表示されます。

補 足

メインメモリサイズ、ページメモリサイズは、e-STUDIO4520C Seriesおよびe-STUDIO6530C Seriesで表示されます。

2) オプション

以下の情報が表示されます。

- **フィニッシャ**：フィニッシャの装着状態を表示します。
- **パンチユニット**：ホールパンチユニットの装着状態を表示します。
- **ファクス**：FAXユニットの装着状態を表示します。
- 機能拡張オプション：機能拡張オプションの装着状態を表示します。
- インサーター：インサーターの装着状態を表示します。

補 足

- 機能拡張オプションは、e-STUDIO455 Seriesおよびe-STUDIO855 Seriesで表示されます。
- インサーターは、e-STUDIO855 Seriesで表示されます。

3) 用紙サイズ

以下の情報が表示されます。

- **カセット**：装着されているカセットを一覧表示します。
- **紙サイズ**：各カセットにセットされている用紙のサイズを表示します。
- **タイプ**：各カセットにセットされている用紙の種類を表示します。
- **容量**：各カセットにセットできる最大の用紙枚数を表示します。
- **状態**：各カセットの用紙の有無を表示します。

注 意

用紙カセットの用紙サイズの設定は、TopAccessから行うことはできません。本機操作パネルより行ってください。設定方法については、**コピーガイド**を参照してください。

4) トナー

各トナーの残量が表示されます。

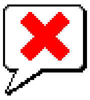
補 足

トナーは、e-STUDIO4520C Seriesおよびe-STUDIO6530C Seriesで表示されます。

■ 本機の状態を示すアイコン

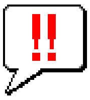
TopAccessの［装置］タブの本機機体イラスト表示部には、装置にエラーが発生したときやメンテナンスが必要なときに、その内容を示すアイコンが表示されます。以下にアイコンの意味と対処方法を説明します。

- プリンタエラー 1



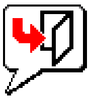
推奨トナーカートリッジ以外を使用したため、印刷を中止したときに表示されます。エラーの解除方法については、**トラブルシューティングガイド**の「トナーカートリッジの交換」を参照してください。

- プリンタエラー 2



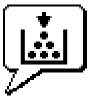
以下の場合に表示されます。
- 排紙トレイから用紙を取り除く必要がある場合。
- フィニッシャのトレイから用紙を取り除く必要がある場合。
- フィニッシャでつまったステイプル針を取り除く必要がある場合。エラーの解除方法については、**トラブルシューティングガイド**の「フィニッシャのステイプラの針づまりの解除」を参照してください。
- サドルステッチユニットでつまったステイプル針を取り除く必要がある場合。エラーの解除方法については、**トラブルシューティングガイド**の「サドルステッチユニットのステイプラの針づまり解除」を参照してください。
- ホールパンチユニットからホールパンチ屑を取り除く必要がある場合。エラーの解除方法については、**トラブルシューティングガイド**の「パンチ屑ケースの清掃」を参照してください。
- 推奨トナーカートリッジを使用していない場合の警告。エラーの解除方法については、**トラブルシューティングガイド**の「トナーカートリッジの交換」を参照してください。
- 用紙サイズ混在の印刷にサドルステッチを行おうとした場合
- 大容量給紙装置から用紙を給紙できない場合の警告
- 排紙トレイに用紙を排紙できない場合の警告（e-STUDIO4520C Seriesのみ）

- カバーオープン



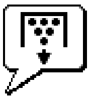
カバーを閉じる必要がある場合に表示されます。

- トナー切れ



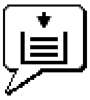
トナーがなくなった場合に表示されます。エラーの解除方法については、**トラブルシューティングガイド**の「トナーカートリッジの交換」を参照してください。

- 廃トナーボックス交換



廃トナーボックスの交換が必要な場合に表示されます。エラーの解除方法については、**トラブルシューティングガイド**の「廃トナーボックスの交換」を参照してください。

- 用紙切れ



カセットの用紙がなくなった場合に表示されます。エラーの解除方法については、**コピーガイド**を参照してください。

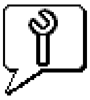
- 用紙づまり

本機機体イラストの、紙づまりが発生したと考えられる場所に表示されます。エラーの解除方法については、**トラブルシューティングガイド**の「紙づまりの解除」を参照してください。

- ステイプル切れ

フィニッシャにステイプル針を補充する必要がある場合に表示されます。エラーの解除方法については、**トラブルシューティングガイド**の「ステイプラの針の補充」を参照してください。

- サービスコール



このアイコンが表示された場合は、サービスエンジニアまたは弊社販売店にご連絡ください。

3

ジョブを管理する

ユーザは、TopAccessを使用してユーザ自身の印刷ジョブやファクス／インターネットファクスジョブ、スキャンジョブを表示したり、削除することができます。

印刷ジョブを管理する 26
印刷ジョブを表示する 26
印刷ジョブを削除する 27
印刷ジョブを実行する 28

ファクス／インターネットファクスジョブを管理する 29
ファクス／インターネットファクスジョブを表示する 29
ファクス／インターネットファクスジョブを削除する 30

スキャンジョブを管理する 31
スキャンジョブを表示する 31
スキャンジョブを削除する 32

印刷ジョブを管理する

ユーザは自分が本機の印刷キューへ送信した印刷ジョブを表示したり、削除することができます。また、印刷を直ちに実行することもできます。

📖 P.26「印刷ジョブを表示する」
📖 P.27「印刷ジョブを削除する」
📖 P.28「印刷ジョブを実行する」

■ 印刷ジョブを表示する

［ジョブ］タブの印刷ジョブページを表示する

1 ［ジョブ］タブをクリックし、［印刷］メニューをクリックします。

印刷ジョブページが表示されます。

2 印刷ジョブ一覧に自分が送信したジョブが表示されていない場合は、ページの右上にある［更新］をクリックします。

補 足

- 印刷を完了したジョブは［ログ］タブに表示されます。
- 特定のジョブを簡単に見つけるには、印刷ジョブ一覧を並べ替えます。該当する表見出しをクリックすると、ページが更新され、指定した順序で情報が表示されます。

印刷ジョブページには、以下の情報が印刷ジョブごとに表示されます。

- **ユーザ名**
  印刷ジョブを送信したコンピュータのログインユーザ名を表示します。
- **日時**
  クライアントコンピュータから印刷ジョブを送信した日時を表示します。
- **タイプ**
  印刷ジョブのタイプを表示します。
- **用紙サイズ**
  印刷ジョブに設定された用紙サイズを表示します。
- **ページ数**
  印刷ジョブの総ページ数を表示します。
- **部数**
  印刷ジョブの印刷部数を表示します。

■ 印刷ジョブを削除する

キューに保管されている印刷ジョブを削除します。

注 意

TopAccessでプライベート印刷ジョブとホールド印刷ジョブを削除するには、[管理者] タブで管理者としてログインしてから［ジョブ］タブの印刷ジョブページを表示します。管理者としてログインしていると、[リリース] ボタンの横に［プライベート印刷ジョブ一括削除］ボタンと［ホールド印刷ジョブ一括削除］ボタンが表示されます。
[プライベート印刷ジョブ一括削除］をクリックすると、一覧に表示されているすべてのプライベート印刷ジョブを削除します。
[ホールド印刷ジョブ一括削除］をクリックすると、一覧に表示されているすべてのホールド印刷ジョブを削除します。
すべてのプライベート印刷ジョブ、ホールド印刷ジョブを削除するには時間がかかる場合があります。

印刷ジョブを削除する

1 **［ジョブ］タブをクリックし、[印刷］メニューをクリックします。**

印刷ジョブページが表示されます。

2 **削除したい印刷ジョブの横のオプションボタンを選択します。**

1回の操作で複数の印刷ジョブを選択することはできません。

3 **［削除］をクリックします。**

選択した印刷ジョブが削除されます。

注 意

削除を確認するには更新リンクをクリックしてください。

■ 印刷ジョブを実行する

印刷キューに待機中の印刷ジョブの印刷を実行します。

注 意

プライベート印刷ジョブとホールド印刷ジョブはTopAccessから印刷を実行できません。

印刷ジョブを実行する

1 ［ジョブ］タブをクリックし、［印刷］メニューをクリックします。

印刷ジョブページが表示されます。

2 印刷を実行したい印刷ジョブの横のオプションボタンを選択します。

1回の操作で複数の印刷ジョブを選択することはできません。

3 ［リリース］をクリックします。

印刷ジョブの印刷を直ちに実行します。

ファクス／インターネットファクスジョブを管理する

ユーザはファクス送信やインターネットファクス送信を含むファクス／インターネットファクスジョブを表示したり、削除することができます。

📖 P.29「ファクス／インターネットファクスジョブを表示する」
📖 P.30「ファクス／インターネットファクスジョブを削除する」

■ ファクス／インターネットファクスジョブを表示する

ファクス／インターネットファクスジョブを表示する

1 **［ジョブ］タブをクリックし、［ファクス／インターネットファクス］メニューをクリックします。**

ファクス／インターネットファクスジョブページが表示されます。

2 **ファクス／インターネットファクスジョブ一覧に自分が送信したジョブが表示されていない場合は、ページの右上にある［更新］をクリックします。**

補 足

- 送信を完了したジョブは［ログ］タブに表示されます。
- 特定のジョブを簡単に見つけるには、ジョブ一覧を並べ替えます。該当する表見出しをクリックすると、ページが更新され、指定した順序で情報が表示されます。

ファクス／インターネットファクスジョブページには、以下の情報がファクス／インターネットファクスジョブごとに表示されます。

- **受付番号**
  通信の受付番号を表示します。
- **宛先**
  ファクスの宛先を表示します。
- **日時**
  ファクス／インターネットファクスジョブを操作した日時を表示します。
- **ページ数**
  ファクス／インターネットファクスジョブの総ページ数を表示します。
- **時刻指定**
  ファクス／インターネットファクスジョブの送信予約時間を表示します。

■ ファクス／インターネットファクスジョブを削除する

ユーザは、ユーザ自身のファクス／インターネットファクスジョブを削除することができます。

ファクス／インターネットファクスジョブを削除する

1 **［ジョブ］タブをクリックし、［ファクス／インターネットファクス］メニューをクリックします。**

ファクス／インターネットファクスジョブページが表示されます。

2 **削除したいジョブの横のオプションボタンを選択します。**

1回の操作で複数のジョブを削除することはできません。

3 **［削除］をクリックします。**

選択したジョブを削除します。

スキャンジョブを管理する

ユーザはスキャンジョブを表示したり、削除することができます。

📖 P.31 「スキャンジョブを表示する」
📖 P.32 「スキャンジョブを削除する」

■ スキャンジョブを表示する

スキャンジョブを表示する

1 **［ジョブ］タブをクリックし、［スキャン］メニューをクリックします。**

スキャンジョブページが表示されます。

2 **スキャンジョブ一覧に自分が送信したジョブが表示されていない場合は、ページの右上にある［更新］をクリックします。**

補 足

- スキャンを完了したジョブは［ログ］タブに表示されます。
- 特定のジョブを簡単に見つけるには、スキャンジョブ一覧を並べ替えます。該当する表見出しをクリックすると、ページが更新され、指定した順序で情報が表示されます。

スキャンジョブページには、以下の情報がスキャンジョブごとに表示されます。

- **宛先／ファイル名**
  Eメール送信されるスキャン文書の場合は、宛先を表示します。共有フォルダかUSBに保管またはファイリングボックスに保管のスキャン文書の場合は、ファイル名を表示します。

  補 足

  Bccアドレス表示がOFFのとき、Bcc送信の宛先の代わりに［Bcc宛先］と表示します。
  📖 P.191 「Eメール設定」

- **エージェント**
  スキャンジョブのエージェントを表示します。複数のエージェントが動作しているジョブの場合は、「マルチエージェント」と表示されます。
- **日時**
  スキャンジョブが本機の操作パネルから送信された日時を表示します。
- **ページ数**
  スキャンジョブの総ページ数を表示します。
- **状態**
  スキャンジョブの詳細なステータスを表示します。

■ スキャンジョブを削除する

ユーザは、ユーザ自身のスキャンジョブを削除することができます。

スキャンジョブを削除する

1 **［ジョブ］タブをクリックし、［スキャン］メニューをクリックします。**

スキャンジョブページが表示されます。

2 **削除したいスキャンジョブの横のオプションボタンを選択します。**

1回の操作で複数のスキャンジョブを選択することはできません。

3 **［削除］をクリックします。**

選択したスキャンジョブが削除されます。

4

ログを表示する

ユーザは、TopAccessを使用して印刷ログや送受信ジャーナル、スキャンログを表示することができます。

印刷ログを表示する 34
送信ログを表示する 35
受信ログを表示する 37
スキャンログを表示する 39

印刷ログを表示する

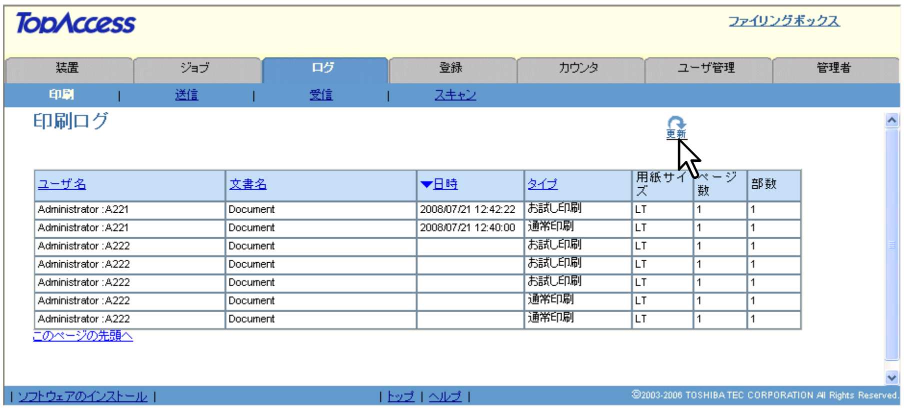
本機で実行した印刷ジョブのログを表示することができます。各ログは新しい順に最大100件まで表示されます。100件を超えると古いものから削除されます。

印刷ログを表示する

1 ［ログ］タブをクリックし、［印刷］メニューをクリックします。

印刷ログページが表示されます。

2 ページ右上にある［更新］をクリックし、ログ情報を更新します。



補 足

特定のログを簡単に見つけるには、印刷ログ一覧を並べ替えます。該当する表見出しをクリックすると、ページが更新され、指定した順序で情報が表示されます。

印刷ログページには、以下の情報が印刷ログごとに表示されます。

- **ユーザ名**
  印刷ジョブを送信したコンピュータのログインユーザ名を表示します。表見出しをクリックすると、印刷ログ一覧を「ユーザ名」で並べ替えます。
- **文書名**
  印刷ジョブの文書名を表示します。表見出しをクリックすると、印刷ログ一覧を「文書名」で並べ替えます。
- **日時**
  クライアントコンピュータから印刷ジョブを送信した日時を表示します。表見出しをクリックすると、印刷ログ一覧を「日時」で並べ替えます。
- **タイプ**
  印刷ジョブのタイプを表示します。表見出しをクリックすると、印刷ログ一覧を「タイプ」で並べ替えます。
- **用紙サイズ**
  印刷ジョブに使用する用紙サイズを表示します。
- **ページ数**
  印刷ジョブの総ページ数を表示します。
- **部数**
  印刷ジョブの印刷部数を表示します。

送信ログを表示する

本機が送信したファクスやインターネットファクス、Eメールの送信ジャーナルを表示することができます。各ログは新しい順に最大100件まで表示されます。100件を超えると古いものから削除されます。

送信ログを表示する

1 **［ログ］タブをクリックし、［送信］メニューをクリックします。**

送信管理記録ページが表示されます。

2 **ページ右上にある［更新］をクリックし、送信管理記録を更新します。**

補 足

特定の送信ジャーナルを簡単に見つけるには、送信ジャーナル一覧を並べ替えます。該当する表見出しをクリックすると、ページが更新され、指定した順序で情報が表示されます。

送信管理記録ページには、以下の情報が送信ジャーナルごとに表示されます。

- **通番**
  ログの通番を表示します。
- **受付番号**
  通信の受付番号を表示します。
- **日時**
  ファクス／インターネットファクスを操作した時間を表示します。
- **通信時間**
  送信に要した時間を表示します。1時間以上の場合は、「59:59」と表示します。
- **ページ数**
  送信ジョブの総ページ数を表示します。
- **相手先**
  送信ジョブの相手先を表示します。
- **部門**
  部門管理機能が有効な場合、部門番号を表示します。
- **モード**
  送信モードを表示します。
  送信モードは、2桁のアルファベットと3桁の数字、最大4桁の補足記号によって表示されます。
  例：EC 603

2桁アルファベット 通信モード	3桁目 伝送速度（bps）	2桁目 解像度（pels/mm）	1桁目 符号化方式	最大4桁 補足記号
EC：ECM通信 G3：G3通信	0：2400 1：4800 2：7200 3：9600 4：12000 5：14400 6：V.34	0：8x3.85 1：8x7.7 2：8x15.4 4：16x15.4 8：300dpi B：600dpi D：150dpi	0：MH 1：MR 2：MMR 3：JBIG	P：ポーリング通信 SB：Fコード通信 SR/R：Fコード中継同報通信 SF/F：Fコード転送通信 ML：インターネットファクス通信 I：N/W-Fax通信 O：オフランプゲートウェイ通信

- **結果**
  送信結果を表示します。
- **回線**
  使用回線を表示します。

受信ログを表示する

本機が受信したファクスやインターネットファクス、Eメール印刷の受信ジャーナルを表示することができます。各ログは新しい順に最大100件まで表示されます。100件を超えると古いものから削除されます。

受信ログを表示する

1 **［ログ］タブをクリックし、［受信］メニューをクリックします。**

受信管理記録ページが表示されます。

2 **ページ右上にある［更新］をクリックし、受信管理記録を更新します。**

補 足

特定の受信ジャーナルを簡単に見つけるには、受信ジャーナル一覧を並べ替えます。該当する表見出しをクリックすると、ページが更新され、指定した順序で情報が表示されます。

受信管理記録ページには、以下の情報が受信ジャーナルごとに表示されます。

- **通番**
  ログの通番を表示します。
- **受付番号**
  通信の受付番号を表示します。
- **日時**
  受信を開始した日時を表示します。
- **通信時間**
  受信に要した時間を表示します。1時間以上の場合は、「59:59」と表示されます。
- **ページ数**
  受信ジョブの総ページ数を表示します。
- **相手先**
  受信ジョブの宛先を表示します。
- **部門**
  部門管理が有効な場合、部門番号を表示します。
- **モード**
  受信モードを表示します。
  受信モードは、2桁のアルファベットと3桁の数字、最大4桁の補足記号によって表示されます。
  例：EC 603

2桁アルファベット 通信モード	3桁目 伝送速度（bps）	2桁目 解像度（pels/mm）	1桁目 符号化方式	最大4桁 補足記号
EC：ECM通信 G3：G3通信	0：2400 1：4800 2：7200 3：9600 4：12000 5：14400 6：V.34	0：8x3.85 1：8x7.7 2：8x15.4 4：16x15.4 8：300dpi B：600dpi D：150dpi	0：MH 1：MR 2：MMR 3：JBIG	P：ポーリング通信 SB：Fコード通信 SR/R：Fコード中継同報通信 SF/F：Fコード転送通信 ML：インターネットファクス通信 I：N/W-Fax通信 O：オンランプゲートウェイ通信

- **結果**
  受信結果を表示します。
- **回線**
  使用回線を表示します。

スキャンログを表示する

本機が実行したスキャンジョブのログを表示することができます。各ログは新しい順に最大100件まで表示されます。100件を超えると古いものから削除されます。

スキャンログを表示する

1 **［ログ］タブをクリックし、［スキャン］メニューをクリックします。**

スキャンログページが表示されます。

2 **ページ右上にある［更新］をクリックし、スキャンログを更新します。**

補 足

特定のスキャンログを簡単に見つけるには、スキャンログ一覧を並べ替えます。該当する表見出しをクリックすると、ページが更新され、指定した順序で情報が表示されます。

スキャンログページには、以下の情報がスキャンログごとに表示されます。

- **宛先／ファイル名**
  コピーやスキャンによって共有フォルダまたはファイリングボックスに保存したものはファイル名が表示されます。ファクス／インターネットファクス送信によって共有フォルダに保存された場合は、宛先を表示します。

  補 足

  Bccアドレス表示がOFFのとき、Bcc送信の宛先の代わりに［Bcc宛先］と表示します。
  P.191 「Eメール設定」

- **ユーザ名**
  ユーザ管理設定が有効なときに、スキャンジョブを行ったユーザのユーザアカウント名を表示します。
- **エージェント**
  スキャンジョブのエージェントを表示します。
- **日時**
  スキャンジョブが本機の操作パネルから送信された日時を表示します。
- **ページ数**
  スキャンジョブの総ページ数を表示します。
- **モード**
  送信モードを6文字のコードで表示します。各コードは以下のフォーマットで表示されます。

  コードフォーマット：AA B C D E

  AA：ジョブタイプを表します。
  - CA： コピーと共有フォルダに保管
    コピーしながらファイリングボックスに保管する
  - CT： コピーしながらファイリングボックスに保管する
  - FS： 転送箱通信
  - FF： ファクス受信転送
  - FE： インターネットファクス受信転送

- ST： スキャンしながら共有フォルダかUSBに保管する
  スキャンしながらファイリングボックスに保管する
  スキャンしながらEメール送信する
- FA： ファクスと共有フォルダに保管
- PA： 印刷とファイリングボックスに保管
- PT： 印刷しながらファイリングボックスに保管
- IA： N/W-Faxと共有フォルダに保管
- BE： ファイリングボックスからのEメール送信
- RS： リモートスキャン

B：通信タイプを表します。
- 0：ファイリングボックス
- 1：Eメール（SMTP）
- 2：FTP
- 3：SMB
- 4：ローカルフォルダに保管
- 5：NetWare IPX/SPX
- 6：USB
- 7：NetWare TCP/IP
- 9：リモートスキャンまたはWeb Serviceスキャン

C：解像度を表します。
- 0：100 dpi
- 1：150 dpi
- 2：200 dpi
- 3：300 dpi
- 4：400 dpi
- 5：600 dpi
- A：8x3.85 （line/mm）（203x98）
- B：8x7.7 （line/mm）（203x196）
- C：8x15.4 （line/mm）（203x391）
- D：16x15.4 （line/mm）（400x391）

D：ファイル形式を表します。
- 0：ファイリングボックス
- 1：TIFF（マルチ）
- 2：TIFF（シングル）
- 3：PDF（マルチ）または暗号化PDF（マルチ）
- 4：JPEG
- 5：PDF（シングル）または暗号化PDF（シングル）
- 6：高圧縮PDF（マルチ）
- 7：高圧縮PDF（シングル）
- 8：XPS（マルチ）
- 9：XPS（シングル）
- A：DIB

E：カラーモードを表します。
- B：Black
- G：Gray Scale
- C：Color
- M：Mix

- **結果**
  スキャンジョブの詳細ステータスを表示します。

5

TopAccessから登録する

このセクションでは、テンプレートやアドレス帳、中継箱の登録方法について説明します。

テンプレートを管理する.. 42
プライベートグループを登録する 42
テンプレートを登録する..49
共有テンプレートを表示する..81
アドレス帳を管理する 82
アドレス帳の連絡先を管理する..82
アドレス帳のグループを管理する 88
メールボックスを管理する 90
メールボックスをセットアップする..91
メールボックスを削除する 97

テンプレートを管理する

テンプレートには、本機操作パネルから操作できるコピーやファクス／インターネットファクス、スキャンなどのエージェント設定を保存することができます。ユーザは、本機の操作パネルからコピーやファクス／インターネットファクス、スキャンを行うときにそのテンプレートを選択して簡単に操作することができるようになります。
各テンプレートはグループごとに管理します。グループは、最大200個のプライベートグループと1つの共有グループで構成されます。各グループには、最大60個のテンプレートを保存することができます。

補 足

- プライベートグループには、あらかじめ役に立つプライベートテンプレートが登録された「お役立ちテンプレート」が登録されています。
- 共有グループのテンプレートは管理者が作成し、管理します。共有グループにはすべてのユーザがアクセスできます。共有テンプレートのセットアップについては、以下の説明を参照してください。
  🕮 P.246 「共有テンプレートを登録する」

プライベートグループのテンプレートは、グループごとに作成、管理します。プライベートグループにはパスワードを設定することができます。また、各テンプレートにパスワードを設定することもできます。パスワードをテンプレートやグループに設定しない場合は、「プライベート」テンプレートであっても、すべてのユーザがアクセス可能です。
実際には、自分が必要とするテンプレートのすべてが管理者やほかのユーザによってすでに作成されており、テンプレートやグループを新たに作成する必要がないかもしれません。テンプレートを作成する前にすでに登録されているテンプレートを確認し、どのテンプレートが利用できるかをご確認ください。
テンプレートやグループをはじめて作成するときは、まず各テンプレートをどのようにグループ分けするかを考え、グループを作成します。グループを作成したら、必要とするテンプレートを登録していきます。
🕮 P.42 「プライベートグループを登録する」
🕮 P.49 「テンプレートを登録する」
共有グループに登録されているテンプレート一覧を表示するときは、以下のページを参照してください。
🕮 P.81 「共有テンプレートを表示する」

補 足

テンプレートの管理は、本機の操作パネルから行うことができます。操作パネルからテンプレートを管理する方法については、**コピーガイド**を参照してください。

■ プライベートグループを登録する

テンプレートを作成する前にテンプレートを管理するプライベートグループを定義する必要があります。プライベートグループを部門やユーザごと、または用途別などに作成して、テンプレートを分類することができます。
また、プライベートグループにはパスワードを設定し登録したテンプレートを保護することもできます。
🕮 P.42 「プライベートグループを登録・編集する」
🕮 P.44 「グループパスワードを設定・変更する」
🕮 P.47 「プライベートグループをリセットする」

□ プライベートグループを登録・編集する

最大200個のプライベートグループを作成することができます。プライベートグループを作成するには、グループ名や所有者、Eメール通知設定を定義します。

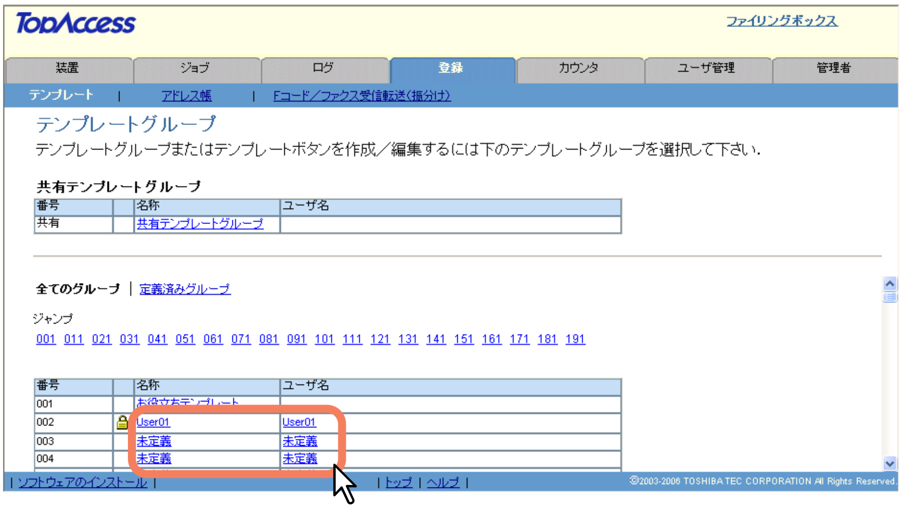
プライベートグループ情報を作成、編集する

1 **［登録］タブをクリックし、［テンプレート］メニューをクリックします。**
テンプレートグループページが表示されます。

注 意

ユーザ管理設定とロールベースアクセスが有効になっている場合は、ログインページが表示されます。ロールベースアクセスが有効な場合は、登録権限を持ったユーザのみ登録ページへログインすることができます。

2 **新規プライベートグループを作成する場合は、[未定義]グループリンクをクリックします。グループ情報を編集したい場合は、定義済みのグループ名リンクをクリックします。**



- 未定義のグループを選択した場合は、グループ情報の登録ページが表示されます。手順5に進みます。
- パスワードが設定されていない定義済みのグループを選択した場合は、選択したグループのプライベートテンプレート一覧ページが表示されます。手順4に進みます。
- パスワードが設定されている定義済みのグループを選択した場合は、[グループパスワードの入力]ページが表示されます。次の手順に進みます。

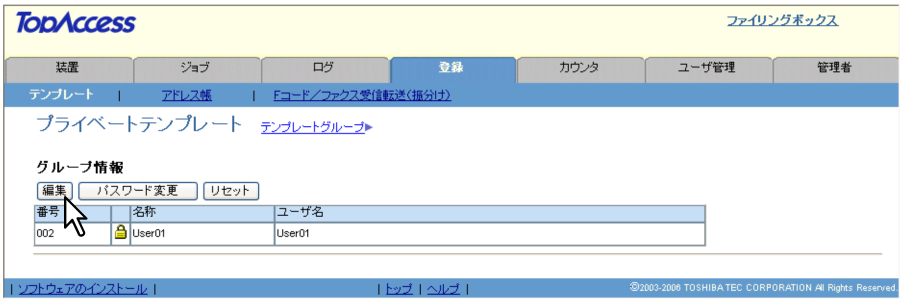
補 足

- 初期表示では、200個のプライベートグループのすべてが表示されます。[定義済みグループ]リンクをクリックすると、定義済みのプライベートグループのみを表示させることができます。
- 作成または編集するプライベートグループの番号が事前に分かっている場合は、[ジャンプ]リンクで目的の番号をクリックします。

3 **[グループパスワードの入力]ページが表示された場合は、選択したプライベートグループの5桁のパスワード(または管理者パスワード)を入力し、[OK]をクリックします。**

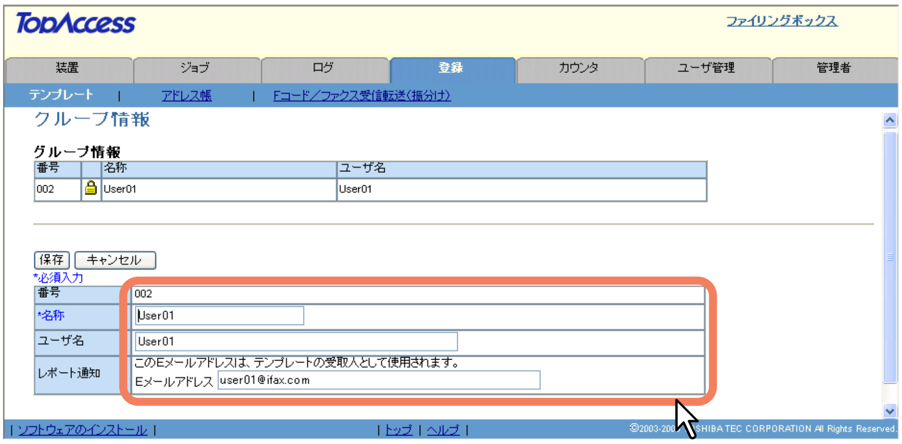
グループ情報ページが表示されます。

4 **[編集]をクリックし、グループ情報を定義、または編集します。**



グループ情報の登録ページが表示されます。

5 必要に応じて、以下の項目を入力します。



番号：プライベートグループの番号を表示します。
名称：プライベートグループのグループ名を入力します。
ユーザ名：プライベートグループの所有者名を入力します。
レポート通知：各テンプレートでレポート通知を有効に設定した場合に、初期設定の通知先として表示されるEメールアドレスを入力します。レポート通知を行うかどうかは、テンプレートごとに設定することができます。

6 ［保存］をクリックし、変更を適用します。

7 必要に応じて、引き続きグループパスワードの設定や、グループ内のテンプレートの登録や編集を行うことができます。

📖 P.44 「グループパスワードを設定・変更する」
📖 P.49 「テンプレートを登録する」

□ グループパスワードを設定・変更する

グループパスワードを設定するには、先にグループ情報を登録する必要があります。プライベートグループを作成後、ユーザは作成したプライベートグループにパスワードを設定することができます。

グループパスワードを設定、変更する

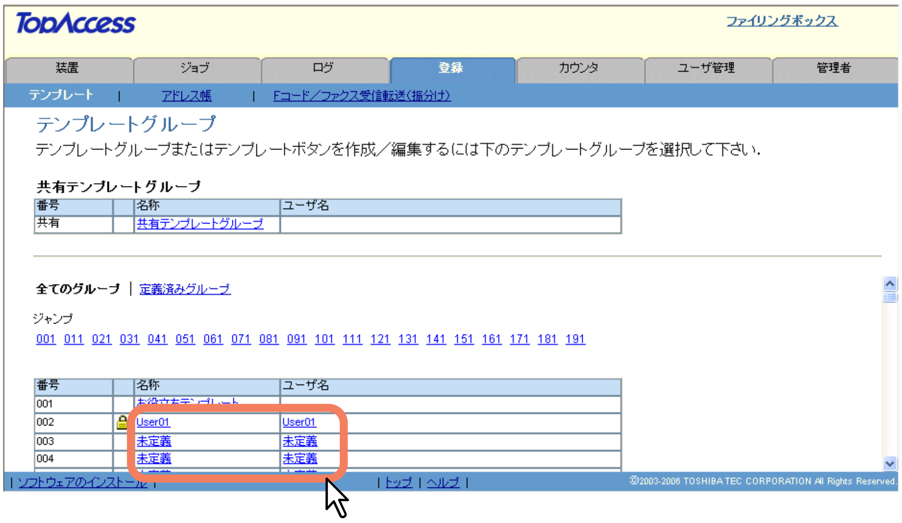
1 ［登録］タブをクリックし、［テンプレート］メニューをクリックします。

テンプレートグループページが表示されます。

注 意

ユーザ管理設定とロールベースアクセスが有効になっている場合は、ログインページが表示されます。ロールベースアクセスが有効な場合は、登録権限を持ったユーザのみ登録ページへログインすることができます。

2 グループパスワードを設定または変更したい定義済みのグループ名リンクをクリックします。

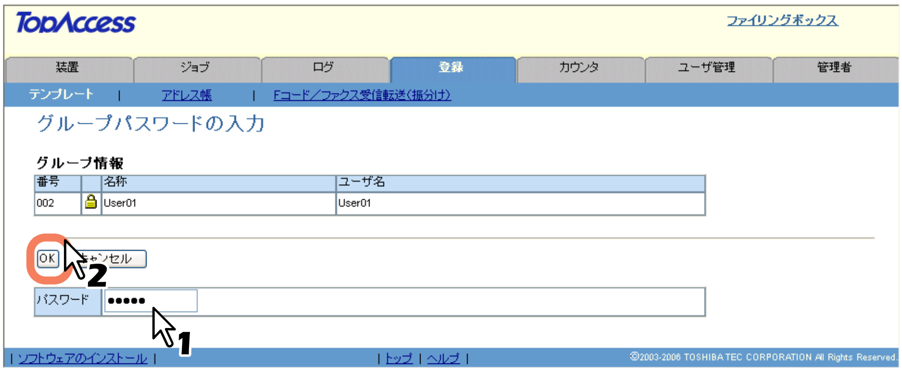


- パスワードが設定されていない定義済みのグループを選択した場合は、選択したグループのプライベートテンプレート一覧ページが表示されます。手順4に進みます。
- パスワードが設定されている定義済みのグループを選択した場合は、［グループパスワードの入力］ページが表示されます。次の手順に進みます。

補 足

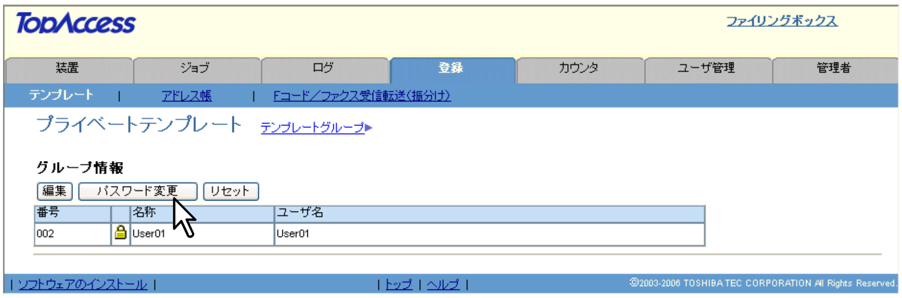
- 初期表示では、200個のプライベートグループのすべてが表示されます。［定義済みグループ］リンクをクリックすると、定義済みのプライベートグループのみを表示させることができます。
- 定義または編集するプライベートグループの番号が事前に分かっている場合は、［ジャンプ］リンクで目的の番号をクリックします。

3 ［グループパスワードの入力］ページが表示された場合は、選択したプライベートグループの5桁のパスワード（または管理者パスワード）を入力し、［OK］をクリックします。



グループ情報ページが表示されます。

4 ［パスワード変更］をクリックします。



［グループパスワードの変更］ページが表示されます。

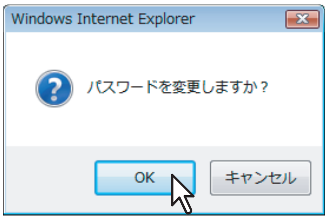
5 ［旧パスワード］ボックスに現在使用しているパスワードを入力し、［新しいパスワード］ボックスに新規パスワードを入力します。［パスワードの確認］ボックスには、確認のため新規パスワードを再入力します。

- パスワードには5桁の数字のみ入力することができます。
- ［旧パスワード］ボックスには、現在使用しているパスワードの代わりに管理者パスワードを入力することもできます。
- 今回はじめてグループにパスワードを設定する場合は、［旧パスワード］ボックスは空欄のままにします。
- ［新しいパスワード］と［パスワードの確認］ボックスを空欄にすると、パスワード保護を解除します。

6 ［保存］をクリックします。

パスワード変更確認のダイアログボックスが表示されます。

7 ［OK］をクリックします。



パスワードが設定または変更されます。

□ プライベートグループをリセットする

必要のないプライベートグループをリセットし、未定義のプライベートグループに戻すことができます。

注 意

プライベートグループをリセットすると、登録されているテンプレートもすべて削除されます。

グループをリセットする

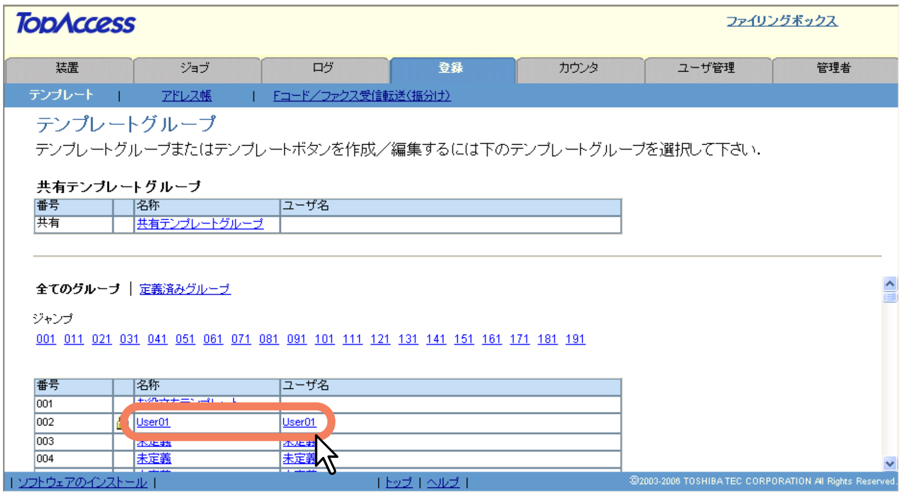
1 **［登録］タブをクリックし、［テンプレート］メニューをクリックします。**

テンプレートグループページが表示されます。

注 意

ユーザ管理設定とロールベースアクセスが有効になっている場合は、ログインページが表示されます。ロールベースアクセスが有効な場合は、登録権限を持ったユーザのみ登録ページへログインすることができます。

2 **リセットしたい定義済みのグループ名リンクをクリックします。**

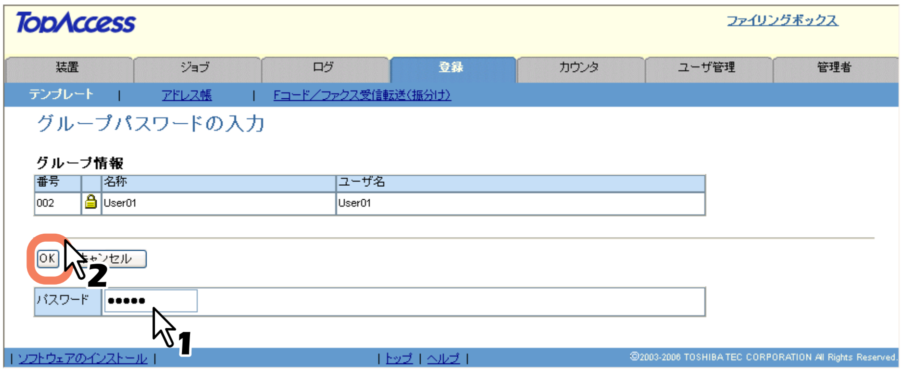


- パスワードが設定されていない定義済みのグループを選択した場合は、選択したグループのプライベートテンプレート一覧ページが表示されます。手順4に進みます。
- パスワードが設定されている定義済みのグループを選択した場合は、［グループパスワードの入力］ページが表示されます。次の手順に進みます。

補 足

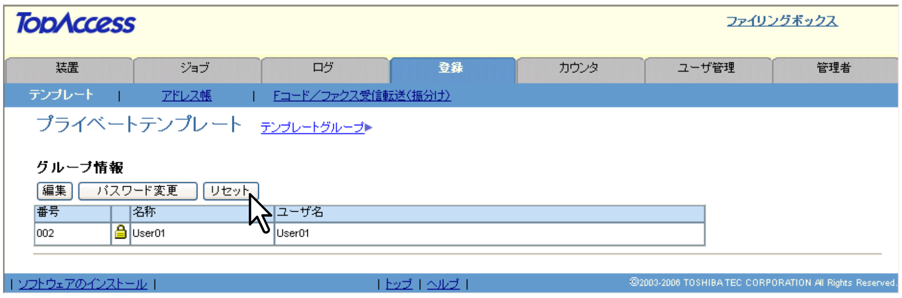
- 初期表示では、200個のプライベートグループのすべてが表示されます。［定義済みグループ］リンクをクリックすると、定義済みのプライベートグループのみを表示させることができます。
- 定義または編集するプライベートグループの番号が事前に分かっている場合は、［ジャンプ］リンクで目的の番号をクリックします。

3 ［グループパスワードの入力］ページが表示された場合は、選択したプライベートグループの5桁のパスワード（または管理者パスワード）を入力し、［OK］をクリックします。



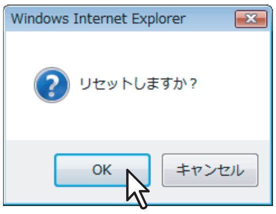
グループ情報ページが表示されます。

4 ［リセット］をクリックします。



リセットの確認ダイアログボックスが表示されます。

5 ［OK］をクリックします。



プライベートグループがリセットされ、未定義のグループに戻ります。

■ テンプレートを登録する

各プライベートグループには最大60個のテンプレートを作成することができます。プライベートテンプレート登録では、本機の操作パネルに表示されるテンプレート名やエージェント設定を指定することができます。また、プライベートテンプレートごとにパスワードを設定し保護することができます。

📖 P.49「プライベートテンプレートを登録・編集する」
📖 P.74「テンプレートパスワードを設定・変更する」
📖 P.78「プライベートテンプレートをリセットする」

□ プライベートテンプレートを登録・編集する

各テンプレートには、以下のエージェントを組み合わせて設定することができます。

- コピーエージェントは、［共有フォルダに保管］または［ファイリングボックスに保管］と組み合わせることができます。
- ファクス／インターネットファクスエージェントは、［共有フォルダに保管］と組み合わせることができます。
- スキャンエージェントは、［共有フォルダに保管］、［Eメール送信］、［ファイリングボックスに保管］のうち、最高2つのエージェントを組み合わせることができます。

プライベートテンプレートを登録する、または編集する

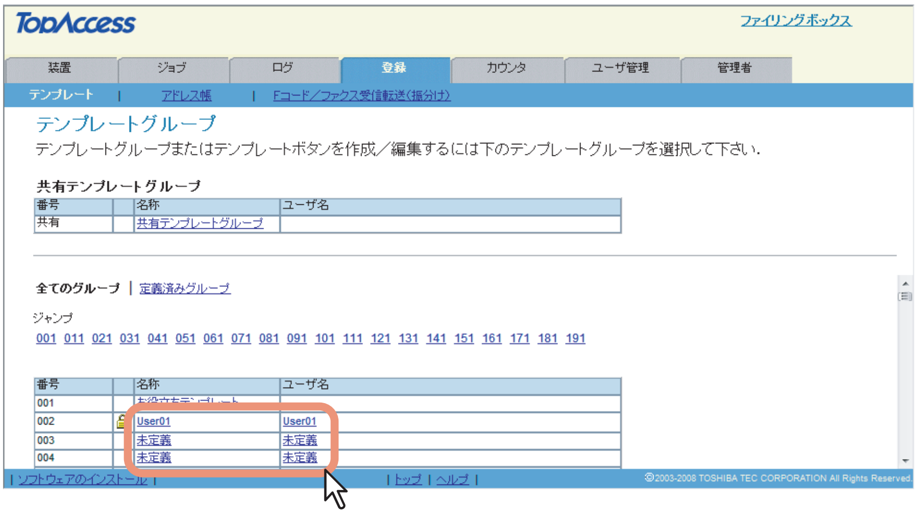
1 ［登録］タブをクリックし、［テンプレート］メニューをクリックします。

テンプレートグループページが表示されます。

注 意

ユーザ管理設定とロールベースアクセスが有効になっている場合は、ログインページが表示されます。ロールベースアクセスが有効な場合は、登録権限を持ったユーザのみ登録ページへログインすることができます。

2 プライベートテンプレートを登録または編集したい定義済みのグループ名リンクをクリックします。



- パスワードが設定されていない定義済みのグループを選択した場合は、選択したグループのプライベートテンプレート一覧ページが表示されます。手順4に進みます。
- パスワードが設定されている定義済みのグループを選択した場合は、［グループパスワードの入力］ページが表示されます。次の手順に進みます。

補 足

- 初期表示では、200個のプライベートグループのすべてが表示されます。［定義済みグループ］リンクをクリックすると、定義済みのプライベートグループのみを表示させることができます。
- 定義または編集するプライベートグループ番号が事前に分かっている場合は、［ジャンプ］リンクをクリックします。

3 **［グループパスワードの入力］ページが表示された場合は、選択したプライベートグループの5桁のパスワード（または管理者パスワード）を入力し、［OK］をクリックします。**

プライベートテンプレート一覧ページが表示されます。

4 **新しいテンプレートを作成する場合は、テンプレートリストから［未定義］アイコンをクリックします。既存のテンプレートを編集するときは定義済みアイコンをクリックします。**

- テンプレートリストが一覧表示で表示されている場合は、［未定義］テンプレート名をクリックし、新規テンプレートを登録します。既存のテンプレートを編集する場合は、定義済みのテンプレート名をクリックします。
- 未定義のテンプレートアイコンをクリックした場合は、エージェントの選択ページが表示されます。この場合は、手順7に進みます。
- パスワードが設定されていない定義済みテンプレートアイコンをクリックした場合は、テンプレート情報ページが表示されます。この場合は、手順6に進みます。
- パスワードが設定されている定義済みテンプレートアイコンをクリックした場合は、［テンプレートパスワードの入力］ページが表示されます。この場合は、次の手順に進みます。

補 足

- ［パネル表示］または［一覧表示］のどちらかをクリックすると、テンプレートリストの表示を切り替えることができます。
- 定義または編集するプライベートテンプレートが事前に分かっている場合は、［ジャンプ］リンクをクリックします。

5 ［テンプレートパスワードの入力］ページが表示された場合は、選択したプライベートテンプレートの5桁のパスワード（または管理者パスワード）を入力し、［OK］をクリックします。

テンプレート情報ページが表示されます。

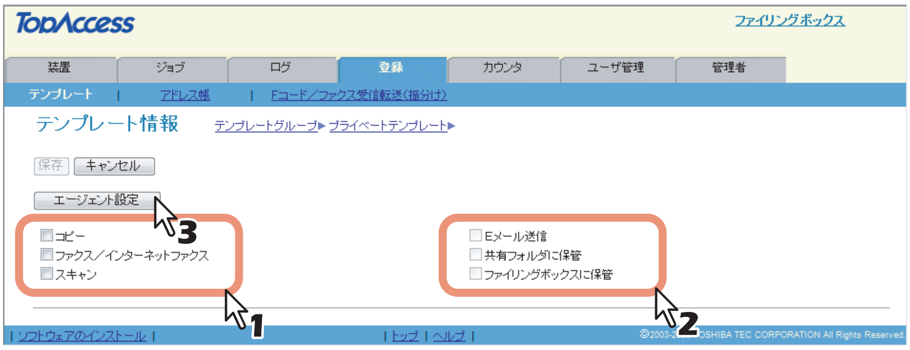
6 ［編集］をクリックし、テンプレートのプロパティを定義または編集します。

テンプレートプロパティページが表示されます。

5

TopAccessから登録する

7 エージェントを選択し、［エージェント設定］をクリックします。



以下のテンプレートの中から1つ選択します：

コピー：コピーエージェントを作成します。このエージェントは、原稿のコピーを実行することができます。通常、原稿をほかの宛先に送信するのと同時にコピーを印刷したいときに、このエージェントを選択します。共有フォルダに保管エージェントまたはファイリングボックスに保管エージェントのどちらかと組み合わせてセットアップすることができます。

ファクス／インターネットファクス：ファクスやインターネットファクス送信用のテンプレートを作成します。共有フォルダに保管エージェントと組み合わせてセットアップすることができます。

スキャン：Eメール送信エージェント、共有フォルダに保管エージェントまたはファイリングボックスに保管エージェントを組み合わせて、スキャン用のテンプレートを作成します。選択した場合は［Eメール送信］、［共有フォルダに保管］または［ファイリングボックスに保管］いずれかを選択する必要があります。最大2つのエージェントを組み合わせることができます。

8 ページに表示されている各ボタンをクリックし、テンプレートプロパティを編集します。

[パネル設定]：テンプレートのアイコン設定を指定します。📖 P.54「パネル設定（プライベートテンプレート）」

パネル設定

画像	
名称1	共有FOLDER
名称2	に保管
ユーザ名	
自動実行	無効
レポート通知	

[宛先設定]：送信する宛先を指定します。ファクス／インターネットファクスエージェントまたはEメール送信エージェントを作成するときに設定します。

📖 P.55 「宛先設定（プライベートテンプレート）」

- ファクス／インターネットファクスエージェントの場合

宛先設定

宛先	

- Eメール送信エージェントの場合

To: 宛先設定

To: 宛先	

Cc: 宛先設定

Cc: 宛先	

補 足

宛先指定方法が「To／Bcc」のときは、[To：宛先] ／ [Bcc：宛先] を表示します。

宛先指定方法が「To／Bcc」から「To／Cc」に変更された場合、Bcc送信で登録したアドレスはCc送信として処理されます。「To／Cc」から「To／Bcc」に変更された場合、Cc送信で登録したアドレスはBcc送信として処理されます。

📖 P.191 「Eメール設定」

To: 宛先設定

To: 宛先	

Bcc: 宛先設定

Bcc: 宛先	

[インターネットファクス設定]：インターネットファクスをどのように送信するかを設定します。ファクス／インターネットファクスエージェントを作成するときに設定します。

📖 P.61 「インターネットファクス設定（プライベートテンプレート）」

インターネットファクス設定

件名	(マシン名称)からのスキャン[(テンプレート名称)](日付)(時間)
送信者アドレス	mfp-04998820@ifax.com
送信者名	MFP-04998820
本文	
ファイル形式	TIFF-S
分割ページサイズ	分割無

[ファクス設定]：ファクスとして文書をどのように送信するかを設定します。ファクス／インターネットファクスエージェントを作成するときに設定します。

📖 P.61 「ファクス設定（プライベートテンプレート）」

ファクス設定

解像度	普通
原稿モード	文字
濃度調整	自動
送信方法	メモリ送信
ECM	ON
回線指定	
海外指定	
SUB/SEP	
ポーリング	
日時指定送信	00 00:00
優先送信	OFF

[Eメール設定]：Eメールメッセージとして文書をどのように送信するかを設定します。Eメール送信エージェントを作成するときに設定します。

📖 P.63 「Eメール設定（プライベートテンプレート）」

Eメール設定

件名	
送信者アドレス	mfp-00c67861@ifax.com
送信者名	MFP-00C67861
本文	
ファイル形式	PDF(マルチ)
ファイル名	DocYYMMDD(YYMMDDは日付です)
分割送信サイズ	分割無

[共有フォルダに保管設定]：本機の共有フォルダ、USBメディアまたはネットワークフォルダに文書をどのように保存するかを設定します。共有フォルダに保管エージェントを作成するときに設定します。
P.66 「共有フォルダに保管設定（プライベートテンプレート）」

共有フォルダに保管設定

ファイル形式	TIFF(マルチ)
宛先	\\MFP-04998820\FILE_SHARE\
ファイル名	DocYYMMDD(YYMMDDは日付です)

[ボックス設定]：ファイリングボックスに文書をどのように保存するかを設定します。ファイリングボックスに保管エージェントを作成するときに設定します。
P.69 「ボックス設定（プライベートテンプレート）」

ボックス設定

保存先	000
フォルダ名	
文書名	DocYYMMDD(YYMMDDは日付です)

[スキャン設定]：文書をどのようにスキャンするかを設定します。共有フォルダに保管エージェント、Eメール送信エージェントおよびファイリングボックスに保管エージェントを作成するときに有効です。
P.70 「スキャン設定（プライベートテンプレート）」

スキャン設定

プレビュー	OFF
両面スキャン	片面
画像回転	A → A
カラーモード	ブラック
解像度	600dpi
Jpeg圧縮率	
原稿モード	文字
濃度調整	自動
原稿サイズ	自動
下地調整	0
コントラスト	0
シャープネス	0
彩度	0
RGB調整	レッド(R) 0
	グリーン(G) 0
	ブルー(B) 0
白紙ページ除去	OFF
原稿外消去	OFF

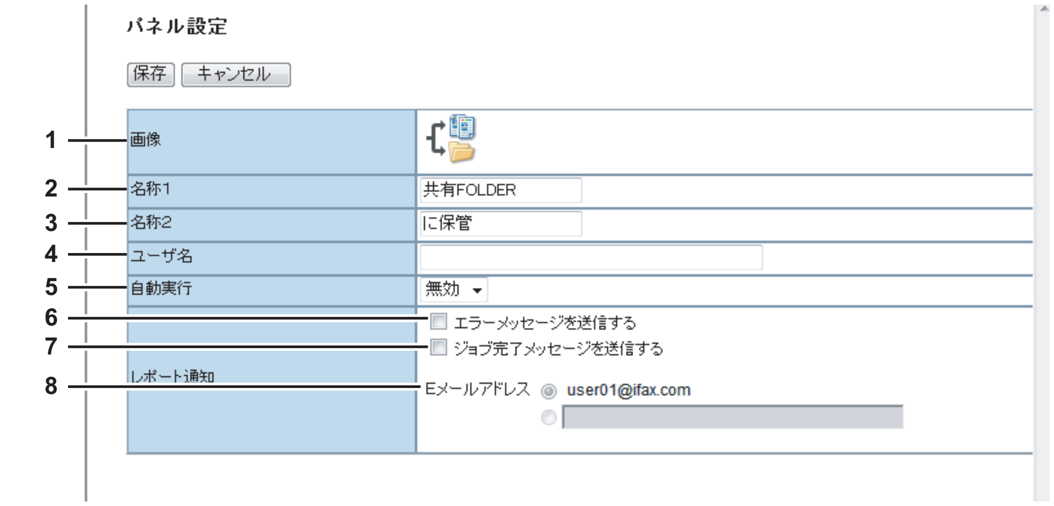
9 **テンプレートプロパティのセットアップを完了したら、[保存] をクリックします。**

設定したプロパティが登録されます。

10 **テンプレートの登録または編集が完了しました。ページ上部に表示されているテンプレートグループリンクをクリックすると、テンプレートグループページへ戻ります。**

パネル設定（プライベートテンプレート）

パネル設定のページでは、タッチパネル画面にテンプレートアイコンをどのように表示するかを設定します。また、テンプレートの通知機能を設定することができます。



1) 画像

タッチパネル画面に表示されるアイコンが表示されます。選択したエージェントによって、アイコンは自動的に指定されます。

2) 名称1

タッチパネル画面のアイコンの隣に表示されるテキストを入力します。半角11文字、全角5文字まで入力することができます。

3) 名称2

タッチパネル画面のアイコンの隣に表示されるテキストを入力します。半角11文字、全角5文字まで入力することができます。

4) ユーザ名

テンプレートの所有者名を入力します。半角30文字、全角15文字まで入力することができます。

5) 自動実行

自動スタート機能の有効／無効を選択します。［有効］を選択した場合、タッチパネル上のテンプレートメニューからテンプレートボタンを押すと、［スタート］ボタンや［スキャン］を押さなくても操作が自動的に開始されます。

注 意

Eメール認証（Eメール送信のユーザ認証設定）とユーザ認証（ユーザ管理設定）のユーザ名またはパスワードが異なる場合、およびEメール認証のみを実施している場合は、自動実行のテンプレート呼び出し時にも、Eメール認証のユーザ名とパスワードの入力が必要です。

6) レポート通知：エラーメッセージを送信する

エラー発生時に指定したEメールアドレスに通知メッセージを送信します。

7) レポート通知：ジョブ完了メッセージを送信する

ジョブ完了時に指定したEメールアドレスに通知メッセージを送信します。

8) レポート通知：Eメールアドレス

通知メッセージを送信するEメールアドレスを指定します。プライベートグループに設定されたEメールアドレスに送信するか、または送信するEメールアドレスを設定することができます。

注 意

レポート通知を設定した場合は、TopAccess管理者モードの［セットアップ］メニューにある［Eメール設定］サブメニューで、Eメール送信の設定を必ず行ってください。設定方法については、以下のセクションを参照してください。

📖 P.190 「Eメール設定をセットアップする」

宛先設定（プライベートテンプレート）

宛先リストのページでは、ファクスやインターネットファクス、Eメール送信文書を送信する宛先を指定します。
Eメール送信エージェントの宛先を指定するときは、Eメールアドレスのみを使用することができます。
ファクス／インターネットファクスエージェントの宛先を指定するときは、ファクス番号およびEメールアドレスの両方を使用することができます。

注 意

宛先にファクス番号を指定するには、オプションのFAXユニットが本機に装着されている必要があります。

宛先を指定するには、相手先のEメールアドレスやファクス番号を手動で入力したり、アドレス帳から個人やグループを選択します。また、LDAPサービスを使って検索することもできます。

📖 P.56 「宛先を手動で入力する」
📖 P.57 「宛先をアドレス帳から選択する」
📖 P.58 「グループをアドレス帳から選択する」
📖 P.59 「LDAPサーバーを使って宛先を検索する」
📖 P.60 「宛先リストから宛先を削除する」

宛先を手動で入力する

宛先を手動で入力し、宛先リストに追加します。

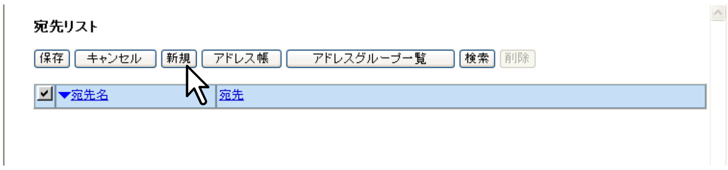
1 ［宛先設定］（ファクス／インターネットファクスエージェントの場合）または［To：宛先設定］／［Cc：宛先設定］（Eメール送信エージェントの場合）をクリックし、宛先リストページを開きます。

補 足

宛先指定方法が「To／Bcc」のときは、［To：宛先］／［Bcc：宛先］を表示します。
宛先指定方法が「To／Bcc」から「To／Cc」に変更された場合、Bcc送信で登録したアドレスはCc送信として処理されます。「To／Cc」から「To／Bcc」に変更された場合、Cc送信で登録したアドレスはBcc送信として処理されます。

📖 P.191「Eメール設定」

2 ［新規］をクリックします。



宛先情報ページが表示されます。

3 ［宛先］ボックスに宛先のEメールアドレスかファクス番号を入力します。

注 意

オプションのFAXユニットを装着している場合にのみ、ファクス番号を宛先に指定できます。

4 ［OK］をクリックします。

入力した宛先が宛先リストページに追加されます。

5 複数の宛先を指定する場合は、手順2～4を繰り返します。

補 足

宛先設定を保存する前に、宛先リストに追加した宛先を削除することができます。📖 P.60「宛先リストから宛先を削除する」

6 ［保存］をクリックします。

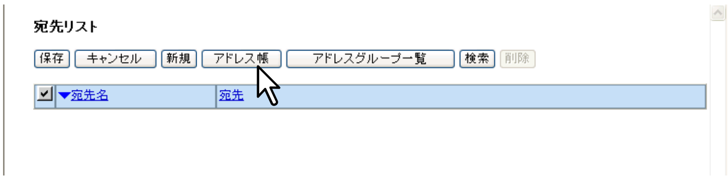
宛先設定が保存されます。

宛先をアドレス帳から選択する

本機のアドレス帳から宛先を選択します。

1 **［宛先設定］をクリックし、宛先リストページを開きます。**

2 **［アドレス帳］をクリックします。**



アドレス帳のページが表示されます。

3 **Eメール送信またはインターネットファクス送信の宛先を選択する場合は、選択したい宛先の［Eメール］チェックボックスをオンにします。ファクス送信の宛先を選択する場合は、目的の宛先の［ファクス］チェックボックスをオンにします。**

注 意

- Eメール送信用のテンプレートを作成している場合は、Eメールアドレスの一覧のみ表示されます。
- オプションのFAXユニットを装着している場合にのみ、ファクス番号を宛先に指定できます。

補 足

特定のグループの宛先のみを表示する場合は、［グループ］ボックスから目的のグループを選択します。

4 **［追加］をクリックします。**

選択した宛先が宛先リストページに追加されます。

補 足

宛先設定を保存する前に、宛先リストに追加した宛先を削除することができます。P.60 「宛先リストから宛先を削除する」

5 ［保存］をクリックします。

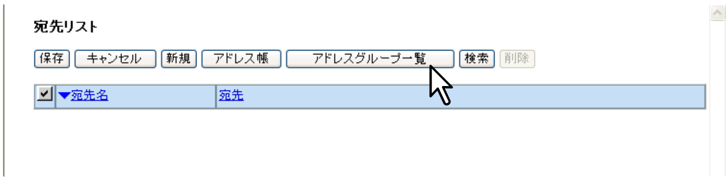
宛先設定が保存されます。

グループをアドレス帳から選択する

本機のアドレス帳からグループを選択します。

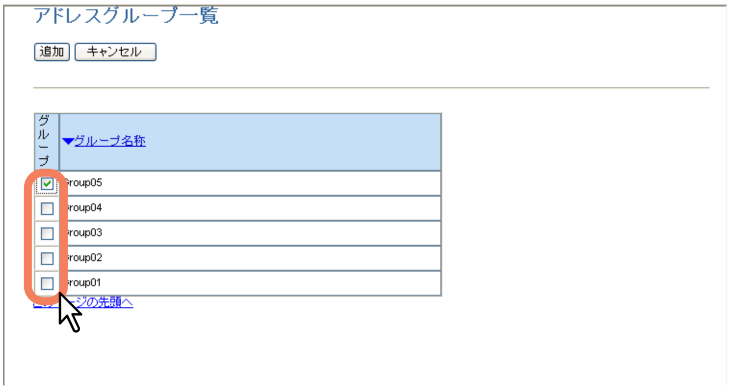
1 ［宛先設定］をクリックし、宛先リストページを開きます。

2 ［アドレスグループ一覧］をクリックします。



アドレスグループ一覧のページが開きます。

3 目的の宛先が所属するグループのチェックボックスをオンにします。



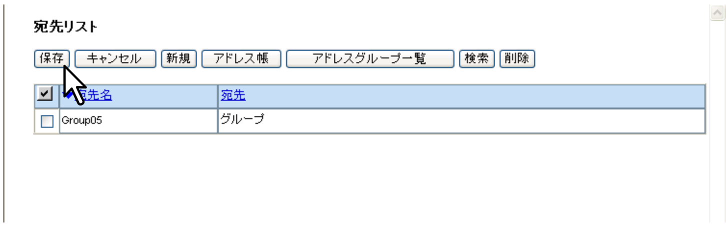
4 ［追加］をクリックします。

選択したグループのすべての宛先が、宛先リストページに追加されます。

補 足

宛先設定を保存する前に、宛先リストに追加した宛先を削除することができます。📖 P.60「宛先リストから宛先を削除する」

5 ［保存］をクリックします。



宛先設定が保存されます。

LDAPサーバーを使って宛先を検索する

登録したLDAPサーバーを使って宛先を検索します。本機のアドレス帳から宛先を検索することもできます。

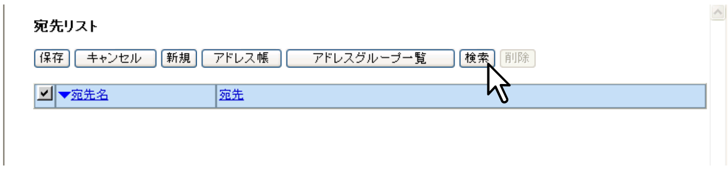
注 意

検索に使用するLDAPサーバーは、管理者によって登録されている必要があります。

📖 P.227 「LDAPサービスを登録する」

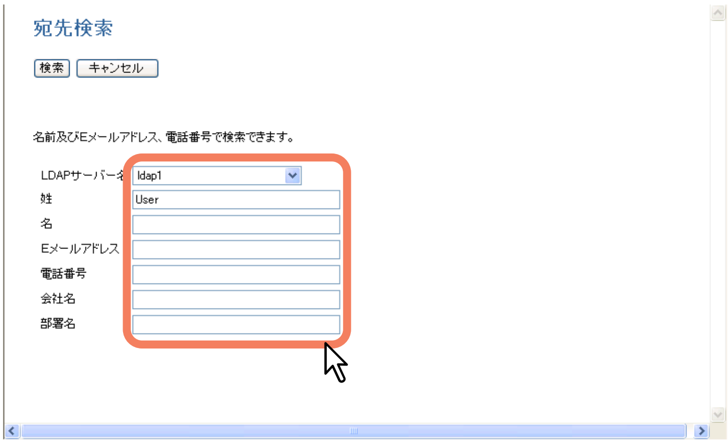
1 **［宛先設定］をクリックし、宛先リストページを開きます。**

2 **［検索］をクリックします。**



連絡先検索のページが表示されます。

3 **［LDAPサーバー名］ボックスで検索するディレクトリサービス名を選択し、検索したい項目欄に検索文字を入力します。**



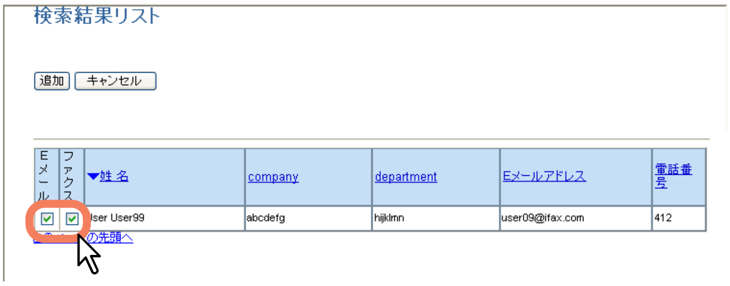
補 足

- ［LDAP サーバー名］ボックスから本機モデル名を選択すると、本機のアドレス帳を検索することができます。
- 各項目に入力した文字列を含む宛先が検索されます。
- 空欄にした項目は無視され、入力した項目だけを用いて検索します。ただし、最低1つのボックスには情報を入力する必要があります。

4 **［検索］をクリックします。**

LDAPサーバーを使った宛先の検索を開始します。検索を終了すると、検索結果が検索結果リストページに表示されます。

5 Eメール送信またはインターネットファクス送信の宛先を選択する場合は、選択したい宛先の［Eメール］チェックボックスをオンにします。ファクス送信の宛先を選択する場合は、目的の宛先の［ファクス］チェックボックスをオンにします。



注 意

- オプションのFAXユニットを装着している場合にのみ、ファクス番号を宛先に指定できます。
- ［company（会社名）］［department（部門名）］の値は管理者の設定に依存します。

6 ［追加］をクリックします。

選択した宛先が宛先リストページに追加されます。

補 足

宛先設定を保存する前に、宛先リストに追加した宛先を削除することができます。P.60 「宛先リストから宛先を削除する」

7 ［保存］をクリックします。

宛先設定が保存されます。

宛先リストから宛先を削除する

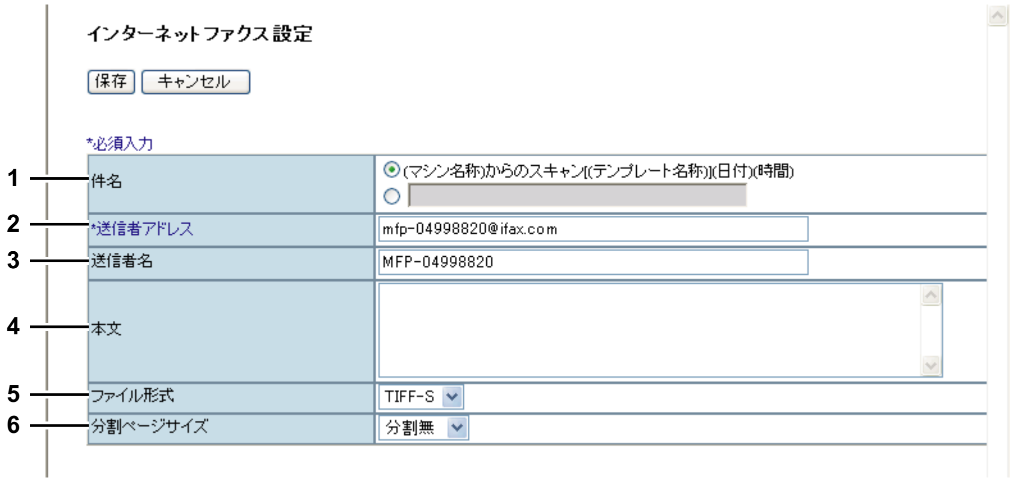
1 ［宛先設定］をクリックし、宛先リストページを開きます。

2 宛先リストから削除したい宛先のチェックボックスをオンにし、［削除］をクリックします。

選択された宛先が宛先リストから削除されます。

インターネットファクス設定（プライベートテンプレート）

インターネットファクス設定のページでは、送信されるインターネットファクスのプロパティを設定します。



1) 件名
インターネットファクスに適用する件名を設定します。デフォルト設定の［(マシン名称）からのスキャン ［(テンプレート名称)］（日付）（時間)］を選択するか、目的の件名をボックスに入力します。手動で入力した場合の件名は、［(件名)（日付）（時間)］となります。

2) 送信者アドレス
送信者のEメールアドレスとして適用するEメールアドレスを入力します。テンプレートを使って本機が送信した文書に対して相手先が返信する場合は、ここで設定するEメールアドレスに返信されます。

3) 送信者名
インターネットファクス送信に適用する送信者の名前を入力します。

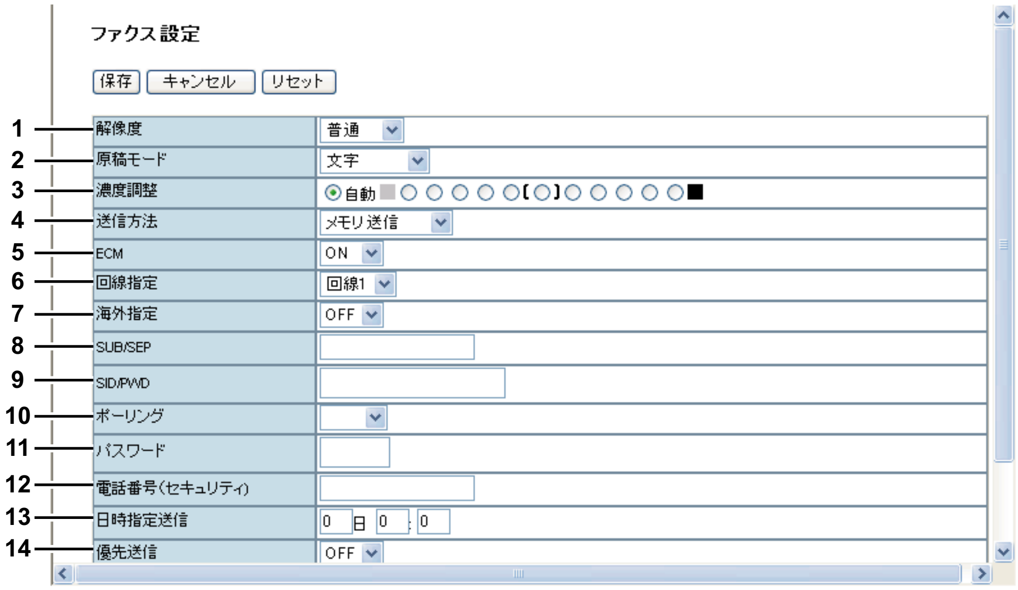
4) 本文
インターネットファクスに適用する本文を入力します。スペースを含み1000文字まで入力することができます。

5) ファイル形式
スキャンイメージのファイル形式を選択します。［TIFF-S］（TIFF-FX（Profile S））のみ選択することができます。

6) 分割ページサイズ
メッセージの分割サイズを選択します。

ファクス設定（プライベートテンプレート）

ファクス設定に関するエージェント設定のページでは、ファクス／インターネットファクスエージェントを使ってファクスをどのように送信するか設定します。



1) 解像度

ファクスを送信する際に適用する標準の解像度を選択します。

- **普通**： 標準の解像度に標準モードを適用します。このモードは、普通サイズの文字で構成されたテキスト原稿をひんぱんに送信する場合に適しています。
- **精細**：標準の解像度に精細モードを適用します。このモードは、細かい文字や細かな線画を含む原稿を送信する場合に適しています。
- **高精細**：標準の解像度に高精細モードを適用します。このモードは、特に細かい文字や精密な線画を含む原稿を送信する場合に適しています。

2) 原稿モード

ファクスを送信する際に適用する標準の画質を選択します。

- **文字**：標準の画質モードに文字モードを適用します。このモードは、テキスト原稿を送信する場合に適しています。
- **文字／写真**：標準の画質モードに文字／写真モードを適用します。このモードは、テキスト、写真両方で構成された原稿を送信する場合に適しています。
- **写真**：標準の画質モードに写真 モードを適用します。このモードは、写真原稿を送信する場合に適しています。

3) 濃度調整

ファクスを送信する際に適用する標準の濃度を選択します。
原稿によって理想的な濃度を適用する［自動］を選択するか、手動で11段階の濃度を調整します。

4) 送信方法

送信モードを選択します。

- **メモリ送信**：このモードでは、原稿をいったんメモリに保存し、自動的に送信を開始します。原稿をすみやかに返却したいときや、同じ原稿を複数の相手先に送信するときに便利な機能です。
- **ダイレクト送信**：このモードでは、相手先にダイヤルし、原稿を1枚ずつ送信します。送信している相手先を確認したいときに便利な機能です。原稿はメモリに保存されないため、送信できる相手先は1件です。

補 足

［ダイレクト送信］はファクス／インターネットファクスのテンプレート（共有フォルダに保管しない）を作成した場合に選択することができます。
ファクス／インターネットファクスと共有フォルダに保管を組み合わせた場合は、非表示となり選択できません。

5) ECM

文書が電話回線のノイズや歪みなどにより影響を受けた部分があるときに、自動的に再送するECM（Error Correction Mode：自動誤り訂正モード）を有効にするかを選択します。

6) 回線指定

使用回線を指定するかを選択します。

- **自動**：使用回線を指定しません（回線が設置されている場合にのみ有効)。
- **回線1**：このファクスエージェントに回線1を使用します。
- **回線2**：このファクスエージェントに回線2を使用します（回線が設置されている場合にのみ有効)。

7) 海外指定

文書を海外指定 モードで送信するかを選択します。この機能は、長距離通信を行う場合などに、文書を通常より遅い速度で送信し、回線の影響を受けにくくします。

8) SUB/SEP

SUB番号またはSEP番号を指定したい場合に番号を入力します。

9) SID/PWD

SUB番号またはSEP番号を指定した場合に、パスワードが必要な場合は、パスワードを入力します。

10) ポーリング

このエージェントにポーリング通信を設定するかを選択します。

- **＜空欄＞**：ポーリング通信を行いません。
- **送信**：ポーリング予約を行います。この機能を使用すると、ポーリング通信のために原稿をメモリに保存することができます。
- **受信**：反転ポーリングを行います。この機能を使用すると、原稿を送信したときに、そのまま回線を切らずに相手先にセットされているポーリング原稿を受信することができます。

注 意

［送信］はファクス／インターネットファクスのテンプレート（共有フォルダに保管しない）を作成した場合に選択することができます。
ファクス／インターネットファクスと共有フォルダに保管を組み合わせた場合は、非表示となり選択できません。

11) パスワード
ポーリングを有効にした場合に、必要に応じてポーリング文書を保存あるいは受信するための4桁のセキュリティコードを入力します。

12) 電話番号（セキュリティ）
［ポーリング］ボックスで［送信］を選択した場合は、保存した文書をポーリングできる電話番号を入力します。
［ポーリング］ボックスで［受信］を選択した場合は、相手機から文書をポーリングするための電話番号を入力します。

13) 日時指定送信
このエージェントに時刻指定通信を許可する場合は、原稿を送信する日時を入力します。日付を「0」に設定すると、日時指定送信は無効になります。

14) 優先送信
ほかのジョブよりも優先して送信を実行するかを選択します。

Eメール設定（プライベートテンプレート）

Eメール設定に関するエージェント設定のページでは、送信されるEメール送信文書のプロパティを設定します。

1) 件名
Eメール文書に適用する件名を設定します。デフォルト設定の［(マシン名称）からのスキャン［(テンプレート名称)］(日付）(時間)］を選択するか、目的の件名をボックスに入力します。手動で入力した場合の件名は、［(件名）(日付）(時間)］となります。

2) 送信者アドレス
送信者のEメールアドレスとして適用するEメールアドレスを入力します。テンプレートを使って本機が送信した文書に対して相手先が返信する場合は、ここで設定するEメールアドレスに返信されます。

3) 送信者名
Eメール文書に適用する送信者の名前を入力します。

4) 本文
Eメール文書に初期設定として適用する本文を入力します。スペースを含み1000文字まで入力することができます。

5) ファイル形式
スキャンイメージのファイル形式を選択します。
- **TIFF（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページのTIFFファイルとして保存します。
- **TIFF（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのTIFFファイルとして保存します。
- **PDF（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページのPDFファイルとして保存します。
- **PDF（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのPDFファイルとして保存します。
- **高圧縮PDF（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページの高圧縮PDFファイルとして保存します。画質よりファイルサイズの縮小を優先したい場合に適しています。
- **高圧縮PDF（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルの高圧縮PDFファイルとして保存します。画質よりファイルサイズの縮小を優先したい場合に適しています。
- **XPS（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページのXPSファイルとして保存します。
- **XPS（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのXPSファイルとして保存します。
- **JPEG**：スキャンイメージを、JPEGファイルとして保存します。

補 足

- 強制暗号化機能が有効に設定されている場合、選択できるファイル形式はPDF（マルチ）とPDF（シングル）のみとなります。強制暗号化機能については、**設定管理ガイド**を参照してください。
- XPSファイルで保存したデータは、お使いのコンピュータがWindows Vista、またはWindows XP SP2/Server 2003 SP1以上に.NET Framework 3.0がインストールされた環境で使用することができます。

6) 暗号化
ファイル形式でPDF（マルチ）またはPDF（シングル）を選択したとき、PDFを暗号化します。

暗号化
PDFを暗号化する場合にオンにします。

ユーザパスワード
暗号化PDFを開くためのパスワードを入力します。

マスタパスワード
PDFの暗号化設定を変更するためのパスワードを入力します。

補 足

- 強制暗号化機能が有効に設定されている場合、[暗号化] チェックボックスをオフにすることはできません。強制暗号化機能については、**設定管理ガイド**を参照してください。
- 工場出荷時の状態では、ユーザパスワードとマスタパスワードは設定されていません。
- 半角の英数字で、1文字以上32文字まで入力することができます。
- ユーザパスワードとマスタパスワードは、同じパスワードを設定することはできません。

注 意

各パスワードはユーザが変更することを許可されている場合のみ入力することができます。マスタパスワードの変更が許可されていない場合は、暗号化レベルおよび権限の設定を変更することはできません。暗号化の詳細設定については**設定管理ガイド**を参照してください。ユーザパスワードおよびマスタパスワードの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

暗号化レベル
暗号化レベルを選択します。

- **40-bit RC4**：Acrobat 3.0, PDF V1.1に互換性のある暗号化レベルを設定します。
- **128-bit RC4**：Acrobat 5.0, PDF V1.4に互換性のある暗号化レベルを設定します。
- **128-bit AES**：Acrobat 7.0, PDF V1.6に互換性のある暗号化レベルを設定します。

権限
暗号化PDFの権限を設定する項目をオンにします。

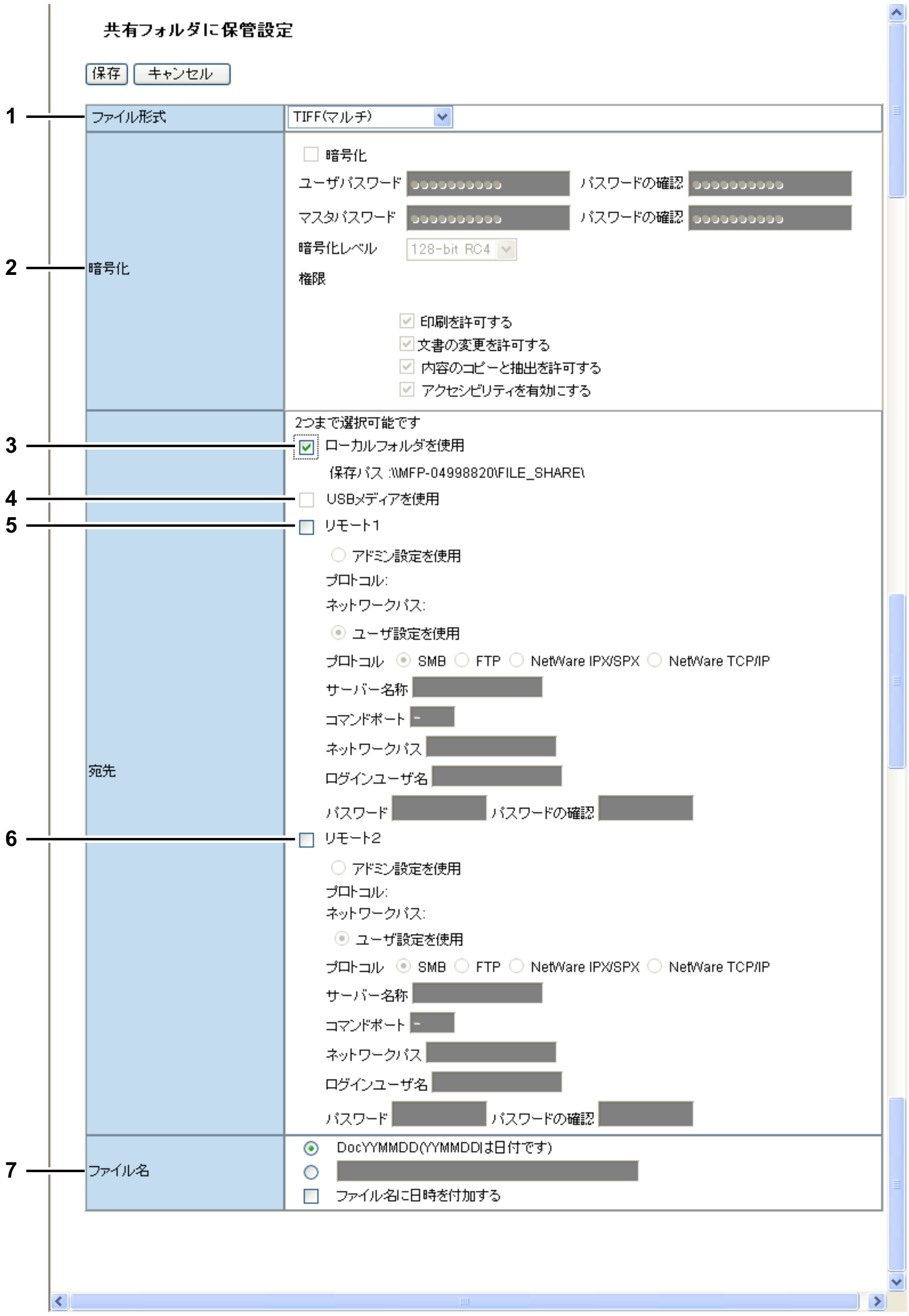
- **印刷を許可する**：作成される暗号化PDFファイルの印刷を許可します。
- **文書の変更を許可**：作成される暗号化PDFファイルの文書の変更を許可します。
- **内容のコピーと抽出を許可する**：作成される暗号化PDFファイルのコピーと抽出を許可します。
- **アクセシビリティを有効にする**：アクセシビリティを有効にします。

7) ファイル名
初期設定として使用されるファイル名を入力します。デフォルト設定の［DocYYMMDD］を選択するか、目的のファイル名をボックスに入力します。
ファイル名に日付と時刻を付加したい場合は、［ファイル名に日時を付加する］チェックボックスをオンにします。

8) 分割送信サイズ
メッセージの分割サイズを選択します。

共有フォルダに保管設定（プライベートテンプレート）

共有フォルダに保管設定のページでは、スキャンファイルの保存方法および保存先を設定します。



1) ファイル形式

スキャンファイルの保存形式を選択します。

- **TIFF（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページのTIFFファイルとして保存します。
- **TIFF（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのTIFFファイルとして保存します。
- **PDF（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページのPDFファイルとして保存します。
- **PDF（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのPDFファイルとして保存します。
- **高圧縮PDF（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページの高圧縮PDFファイルとして保存します。画質よりファイルサイズの縮小を優先したい場合に適しています。
- **高圧縮PDF（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルの高圧縮PDFファイルとして保存します。画質よりファイルサイズの縮小を優先したい場合に適しています。

- **XPS（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページのXPSファイルとして保存します。
- **XPS（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのXPSファイルとして保存します。
- **JPEG**：スキャンイメージを、JPEGファイルとして保存します。

補 足

- 強制暗号化機能が有効に設定されている場合、選択できるファイル形式はPDF（マルチ）とPDF（シングル）のみとなります。強制暗号化機能については、**設定管理ガイド**を参照してください。
- XPSファイルで保存したデータは、お使いのコンピュータがWindows Vista、またはWindows XP SP2/Server 2003 SP1以上に.NET Framework 3.0がインストールされた環境で使用することができます。

2) 暗号化

ファイル形式でPDF（マルチ）またはPDF（シングル）を選択したとき、PDFを暗号化します。

暗号化

PDFを暗号化する場合にオンにします。

ユーザパスワード

暗号化PDFを開くためのパスワードを入力します。

マスタパスワード

PDFの暗号化設定を変更するためのパスワードを入力します。

補 足

- 強制暗号化機能が有効に設定されている場合、[暗号化] チェックボックスをオフにすることはできません。強制暗号化機能については、**設定管理ガイド**を参照してください。
- 工場出荷時の状態では、ユーザパスワードとマスタパスワードは設定されていません。
- 半角の英数字で、1文字以上32文字まで入力することができます。
- ユーザパスワードと同じパスワードを設定することはできません。

注 意

各パスワードはユーザが変更することを許可されている場合のみ入力することができます。マスタパスワードの変更が許可されていない場合は、暗号化レベルおよび権限の設定を変更することはできません。暗号化の詳細設定については**設定管理ガイド**を参照してください。ユーザパスワードおよびマスタパスワードの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

暗号化レベル

暗号化レベルを選択します。

- **40-bit RC4**：Acrobat 3.0, PDF V1.1に互換性のある暗号化レベルを設定します。
- **128-bit RC4**：Acrobat 5.0, PDF V1.4に互換性のある暗号化レベルを設定します。
- **128-bit AES**：Acrobat 7.0, PDF V1.6に互換性のある暗号化レベルを設定します。

権限

暗号化PDFの権限を設定する項目をオンにします。

- **印刷を許可する**：作成される暗号化PDFファイルの印刷を許可します。
- **文書の変更を許可**：作成される暗号化PDFファイルの文書の変更を許可します。
- **内容のコピーと抽出を許可する**：作成される暗号化PDFファイルのコピーと抽出を許可します。
- **アクセシビリティを有効にする**：アクセシビリティを有効にします。

3) 宛先／ローカルフォルダを使用

スキャンファイルを本機の共有フォルダ（「FILE_SHARE」フォルダ）に保存します。

注 意

[USBメディアを使用] を選択している場合は、[ローカルフォルダを使用] を保存先に設定することはできません。設定したい場合は、[USBメディアを使用] の選択を解除してください。

4) 宛先／USBメディアを使用

スキャンファイルを本機に差し込んだUSBメディアに保存します。

注 意

- ［ローカルフォルダを使用］を選択している場合は、［USBメディアを使用］を保存先に設定することはできません。設定したい場合は、［ローカルフォルダを使用］の選択を解除してください。
- USBメディアへの保存は、ページ数によっては時間がかかることがあります。

5) 宛先／リモート1

スキャンファイルをネットワークフォルダに保存する場合にオンにします。管理者が、［セットアップ］メニューの［共有フォルダに保管］サブメニューで、リモート1をどのようにセットアップしたかによって設定方法は異なります。

リモート1が管理者により指定されたネットワークフォルダを使用するように設定されている場合は、［アドミン設定を使用］のみ選択可能です。その場合、保存に使用するプロトコルおよび保存先のネットワークパスが表示されます。

ネットワークフォルダを自由に指定することが許可されている場合は、［ユーザ設定を使用］を選択し、以下の項目を入力してファイルを保存する宛先を設定します。

プロトコル

スキャンファイルをネットワークフォルダに転送するときに使用するプロトコルを選択します。

- **SMB**：SMBプロトコルを使用してスキャンファイルをネットワークフォルダに転送します。
- **FTP**：スキャンファイルをFTPサーバーに転送します。
- **NetWare IPX/SPX**：スキャンファイルをIPX/SPXプロトコルを介してNetWareサーバーに転送します。
- **NetWare TCP/IP**：スキャンファイルをTCP/IPプロトコルを介してNetWareサーバーに転送します。

サーバー名称

プロトコルでFTPを選択した場合は、スキャンファイルを転送するFTPサーバー名またはIPアドレスを入力します。たとえば、スキャンファイルをFTPサーバーの「ftp://192.168.1.1/user/scanned」というFTPフォルダに転送する場合は、このボックスに「192.168.1.1」と入力します。

プロトコルでNetWare IPX/SPXを選択した場合は、スキャンファイルを転送するNetWareサーバー名または、Tree/Context（NDSが使用可能な環境の場合）を入力します。

プロトコルでNetWare TCP/IPを選択した場合は、スキャンファイルを転送するNetWareサーバーのIPアドレスを入力します。

コマンドポート

プロトコルでFTPを選択した場合に、コマンド実行に使用するポート番号を入力します。通常は、初期状態で入力された「-」のままにします。「-」にした場合は、ネットワークの設定ページの［FTPクライアント］で設定したポート番号（初期値）が適用されます。初期設定のポート番号とは別のポート番号を指定したい場合のみこの値を変更します。

ネットワークパス

プロトコルにSMBを選択した場合は、ネットワークフォルダへのネットワークパスを入力します。たとえば、SMBサーバー名が「Client01」というコンピュータの「users￥scanned」というフォルダを指定する場合は、「￥￥Client01￥users￥scanned」と入力します。

プロトコルにFTPを選択した場合は、指定したFTPサーバーのディレクトリを入力します。たとえば、FTPサーバーの「ftp://192.168.1.1/user/scanned」というフォルダを指定する場合は、「user/scanned」と入力します。

プロトコルにNetWare IPX/SPXまたはNetWare TCP/IPを選択した場合は、指定したNetWareサーバーのディレクトリを入力します。たとえば、NetWareサーバーの「sys￥scan」というフォルダを指定する場合は、「￥sys￥scan」と入力します。

ログインユーザ名

必要に応じて、SMBサーバー、FTPサーバー、またはNetWareサーバーにアクセスするためのログインユーザ名を入力します。プロトコルにFTPを選択した場合、このボックスを空欄にすると、匿名でのログインと判断されます。

パスワード

必要に応じて、SMBサーバー、FTPサーバー、またはNetWareサーバーにアクセスするためのパスワードを入力します。

パスワードの確認

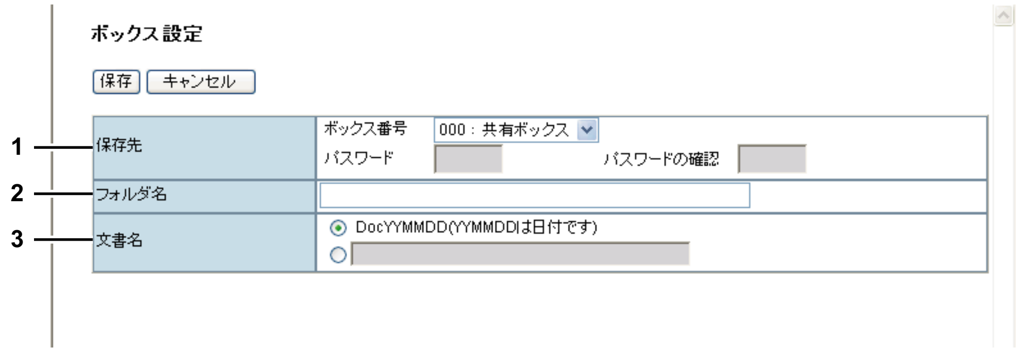
確認のためにパスワードを再入力します。

6) **宛先／リモート2**
スキャンファイルをネットワークフォルダに保存する場合にオンにします。管理者が［セットアップ］メニューの［共有フォルダに保管］サブメニューで、リモート2をどのようにセットアップしたかによって設定方法は異なります。リモート2が管理者により指定されたネットワークフォルダを使用するように設定されている場合は、［アドミン設定を使用］のみ選択可能です。その場合、保存に使用するプロトコルおよび保存先のネットワークパスが表示されます。ネットワークフォルダを自由に指定することが許可されている場合は、［ユーザ設定を使用］を選択し、ファイルを保存する宛先を設定します。設定する項目はリモート1と同様です。

7) **ファイル名**
スキャンファイルの名前の付け方を選択します。デフォルト設定の［DocYYMMDD］を選択するか、目的のファイル名を入力します。
ファイル名に日付と時刻を付加したい場合は、［ファイル名に日時を付加する］チェックボックスをオンにします。

ボックス設定（プライベートテンプレート）

ボックス設定のページでは、ファイリングボックスにスキャンイメージをどのように保存するかを設定します。



1) **保存先**
スキャンイメージを保存するファイリングボックスを指定します。

ボックス番号
スキャンイメージを保存するボックス番号を選択します。

パスワード
指定したボックスにパスワードが設定されている場合は、パスワードを入力します。

パスワードの確認
確認のため、パスワードを再入力します。

2) **フォルダ名**
スキャンイメージをファイリングボックス内のフォルダに保存したい場合は、保存するフォルダ名を入力します。あらかじめフォルダがない場合は、入力したフォルダ名で自動的に作成され、保存されます。

3) **文書名**
スキャンファイルの名前の付け方を選択します。デフォルト設定の［DocYYMMDD］を選択するか、目的の文書名を入力します。

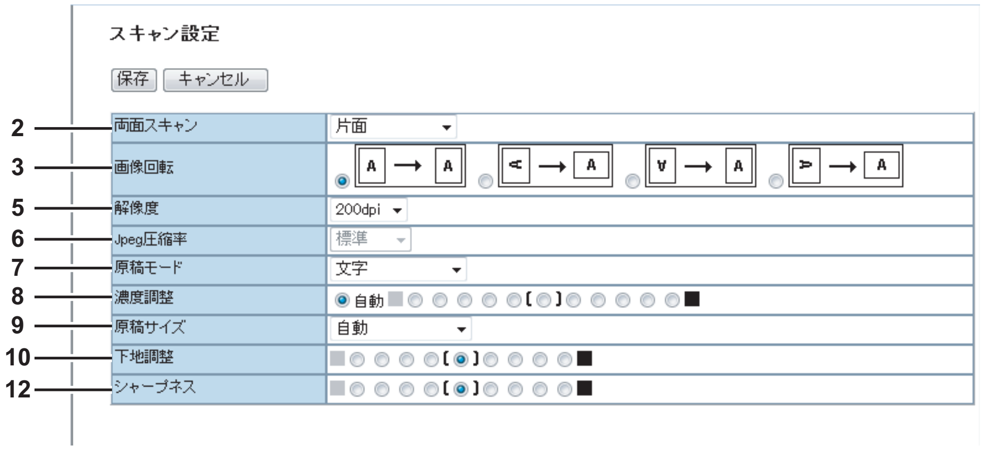
スキャン設定（プライベートテンプレート）

スキャン設定ページでは、スキャンエージェントを選択した場合に、どのように原稿をスキャンするかを設定します。

e-STUDIO4520C Seriesおよびe-STUDIO6530C Seriesをお使いの場合

e-STUDIO455 Seriesをお使いの場合

e-STUDIO855 Seriesをお使いの場合



1) プレビュー

原稿のスキャン後、スキャンイメージを操作パネル上に表示するかを選択します。

- **OFF**：スキャンイメージを表示しません。
- **ON**：スキャンイメージを表示します。

補 足

この機能はe-STUDIO4520C Seriesおよびe-STUDIO6530C Seriesで使用できます。

2) 両面スキャン

原稿の片面をスキャンするか、両面をスキャンするかを選択します。

- **片面**：原稿の片面をスキャンします。
- **両面左右開き**：両面左右開きでスキャンします。
- **両面上下開き**：両面上下開きでスキャンします。

3) 画像回転

スキャンイメージをどのように回転させるかを選択します。

4) カラーモード

スキャンのカラーモードを選択します。

- **ブラック**：モノクロでスキャンします。
- **グレースケール**：グレースケールでスキャンします。
- **フルカラー**：フルカラーでスキャンします。
- **オートカラー**：オートカラーでスキャンします。

注 意

- ［カラーモード］の設定は、共有フォルダに保管設定の［ファイル形式］および E メール設定の［ファイル形式］で［高圧縮PDF（マルチ)］または［高圧縮PDF（シングル)］を選択した場合は、設定できません。
- ［オートカラー］を選択した場合、［ファイル形式］で［JPEG］と［TIFF（マルチ）］は選択できません。また、［ブラック］を選択した場合は、［JPEG］を選択できません。

補 足

この機能はe-STUDIO455 Series、e-STUDIO4520C Seriesおよびe-STUDIO6530C Seriesで使用できます。

5) 解像度

スキャンの解像度を選択します。

注 意

［解像度］の設定は、共有フォルダに保管設定の［ファイル形式］およびEメール設定の［ファイル形式］で［高圧縮PDF（マルチ)］または［高圧縮PDF（シングル)］を選択した場合は、設定できません。

6) Jpeg圧縮率

スキャンデータの圧縮率を選択します。

注 意

- カラーモードで［ブラック］を選択した場合は設定できません。
- ［Jpeg圧縮率］の設定は、共有フォルダに保管設定の［ファイル形式］およびEメール設定の［ファイル形式］で［高圧縮PDF（マルチ）］または［高圧縮PDF（シングル）］を選択した場合は、設定できません。

7) 原稿モード

原稿の種類を選択します。

- **文字**：原稿モードに文字モードを使用します。
- **文字／写真**：原稿モードに文字／写真モードを使用します。カラーモードで［ブラック］を選択している場合のみ設定できます。
- **写真**：原稿モードに写真モードを使用します。カラーモードで［ブラック］を選択している場合のみ設定できます。
- **印画紙写真**：原稿モードに印画紙写真モードを使用します。カラーモードで［フルカラー］または［オートカラー］を選択している場合のみ設定できます。
- **印刷写真**：原稿モードに印刷写真モードを使用します。カラーモードで［フルカラー］または［オートカラー］を選択している場合のみ設定できます。

注 意

カラーモードで［グレースケール］を選択した場合は設定できません。

8) 濃度調整

スキャンの濃度を選択します。

［自動］を選択すると、原稿に応じた理想的なコントラストを自動的に適用します。手動で濃度を調節する場合は、11段階に調節することができます。選択値を右側に設定するほど、画像全体の濃度が濃くなります。

注 意

カラーモードで［グレースケール］［フルカラー］または［オートカラー］を選択した場合は、［自動］は設定できません。その場合は、手動で設定してください。

9) 原稿サイズ

原稿サイズを選択します。

［自動］を選択すると、原稿サイズを自動的に検出します。［原稿サイズ混在］を選択すると、サイズの異なる用紙が混在する原稿をスキャンすることができます。また、目的の原稿サイズを選択することもできます。

10) 下地調整

スキャンの背景色の濃度を選択します。背景色の濃度は9段階に調節することができます。選択値を右側に設定するほど、背景色の濃度が濃くなります。

11) コントラスト

スキャンのコントラストを選択します。コントラストは9段階に調節することができます。選択値を右側に設定するほど、コントラストが強くなります。

注 意

カラーモードで［ブラック］または［グレースケール］を選択した場合は設定できません。

補 足

この機能はe-STUDIO455 Series、e-STUDIO4520C Seriesおよびe-STUDIO6530C Seriesで使用できます。

12) シャープネス

スキャンのシャープネスを選択します。シャープネスの強度は9段階に調節することができます。選択値を右側に設定するほど、画質がシャープになります。

13) 彩度

スキャンの彩度を選択します。彩度は7段階に調節することができます。選択値を右側に設定するほど、画質が鮮やかになります。

注 意

カラーモードで［ブラック］または［グレースケール］を選択した場合は設定できません。

補 足

この機能はe-STUDIO455 Series、e-STUDIO4520C Seriesおよびe-STUDIO6530C Seriesで使用できます。

14) RGB調整

スキャンのRGB濃度を選択します。濃度は色ごとに9段階に調節することができます。選択値を右側に設定するほど、設定した色の濃度が濃くなります。

注 意

カラーモードで［ブラック］または［グレースケール］を選択した場合は設定できません。

補 足

この機能はe-STUDIO455 Series、e-STUDIO4520C Seriesおよびe-STUDIO6530C Seriesで使用できます。

15) 白紙ページ除去

原稿に白紙ページが含まれていた場合、スキャン結果から白紙ページを自動的に省くかを選択します。

- **OFF**：白紙ページを含めます。
- **ON**：白紙ページを省きます。

補 足

この機能はe-STUDIO455 Series、e-STUDIO4520C Seriesおよびe-STUDIO6530C Seriesで使用できます。

16) 原稿外消去

原稿ガラス上に原稿をセットし、原稿カバーを開けた状態でスキャンした場合、原稿以外の部分を消去するかを選択します。消去された部分は白色になります。

原稿以外の部分を消去する場合は、消去する部分を判定するための基準を、7段階に調節することができます。基準を右側に設定するほど、消去する部分を増やすことができます。なお、初期設定では［OFF］が選択されています。

補 足

この機能はe-STUDIO455 Series、e-STUDIO4520C Seriesおよびe-STUDIO6530C Seriesで使用できます。

□ テンプレートパスワードを設定・変更する

テンプレートにパスワードを設定すると、テンプレートを保護することができます。
テンプレートパスワードを設定するには、あらかじめテンプレートを作成する必要があります。

テンプレートパスワードを設定・変更する

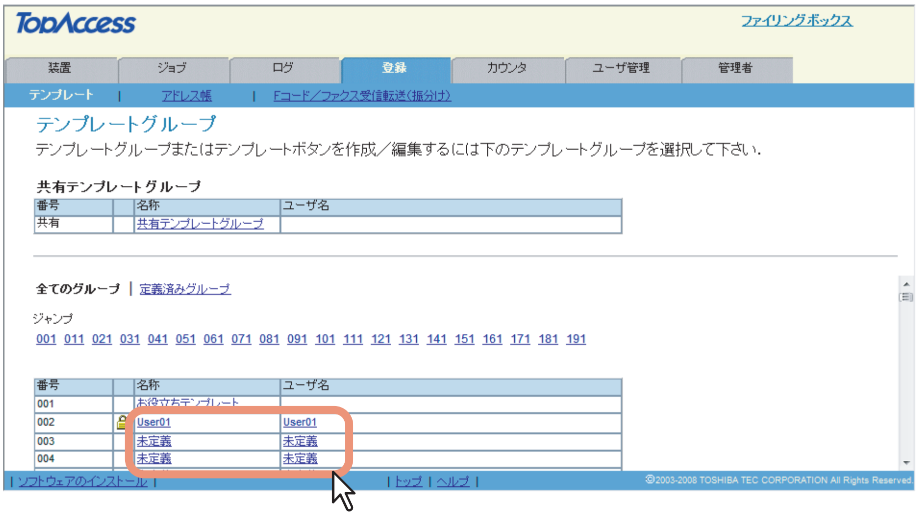
1 ［登録］タブをクリックし、［テンプレート］メニューをクリックします。

テンプレートグループページが表示されます。

注 意

ユーザ管理設定とロールベースアクセスが有効になっている場合は、ログインページが表示されます。ロールベースアクセスが有効な場合は、登録権限を持ったユーザのみ登録ページへログインすることができます。

2 テンプレートパスワードを設定または変更したいテンプレートを含むグループ名リンクをクリックします。



パスワードが設定されていない定義済みのグループを選択した場合は、選択したグループのプライベートテンプレート一覧ページが表示されます。手順4に進みます。パスワードが設定されている定義済みのグループを選択した場合は、［グループパスワードの入力］ページが表示されます。次の手順に進みます。

補 足

- 初期表示では、200個のプライベートグループのすべてが表示されます。［定義済みグループ］リンクをクリックすると、定義済みのプライベートグループのみを表示させることができます。
- 定義または編集するプライベートグループ番号が事前に分かっている場合は、［ジャンプ］リンクをクリックします。

3 ［グループパスワードの入力］ページが表示された場合は、選択したプライベートグループの5桁のパスワード（または管理者パスワード）を入力し、［OK］をクリックします。

グループ情報ページが表示されます。

4 テンプレートパスワードを設定・変更したい定義済みアイコンをクリックします。

- テンプレートリストが一覧表示で表示されている場合は、定義済みのテンプレート名をクリックします。
- パスワードが設定されていない定義済みテンプレートアイコンをクリックした場合は、テンプレート情報ページが表示されます。この場合は、手順6に進みます。パスワードが設定されている定義済みテンプレートアイコンをクリックした場合は、［テンプレートパスワードの入力］ページが表示されます。この場合は、次の手順に進みます。

補 足

- ［パネル表示］または［一覧表示］のどちらかをクリックすると、テンプレートリストの表示を切り替えることができます。
- パスワードを設定または変更するプライベートテンプレート番号が事前に分かっている場合は、［ジャンプ］リンクをクリックし、目的のテンプレートを即座に表示させることができます。

5 ［テンプレートパスワードの入力］ページが表示された場合は、選択したプライベートテンプレートの5桁のパスワード（または管理者パスワード）を入力し、［OK］をクリックします。

テンプレート情報ページが表示されます。

6 ［パスワード変更］をクリックします。

［テンプレートパスワードの変更］ページが表示されます。

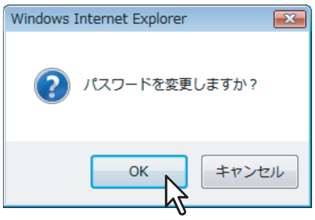
7 **［旧パスワード］ボックスに現在使用しているパスワードを入力し、［新しいパスワード］ボックスに新規パスワードを入力します。［パスワードの確認］ボックスには、確認のため新規パスワードを再入力します。**

- パスワードには5桁の数字のみ入力することができます。
- ［旧パスワード］ボックスには、現在使用しているパスワードの代わりに管理者パスワードを入力することもできます。
- 今回はじめてテンプレートにパスワードを設定する場合は、［旧パスワード］ボックスは空欄のままにします。
- ［新しいパスワード］と［パスワードの確認］ボックスを空欄にすると、パスワード保護を解除します。

8 **［保存］をクリックします。**

パスワード変更を確認するダイアログボックスが表示されます。

9 **［OK］をクリックします。**



パスワードが設定または変更されます。

□ プライベートテンプレートをリセットする

不要なプライベートテンプレートをリセットし、未定義のテンプレートに戻すことができます。

プライベートテンプレートをリセットする

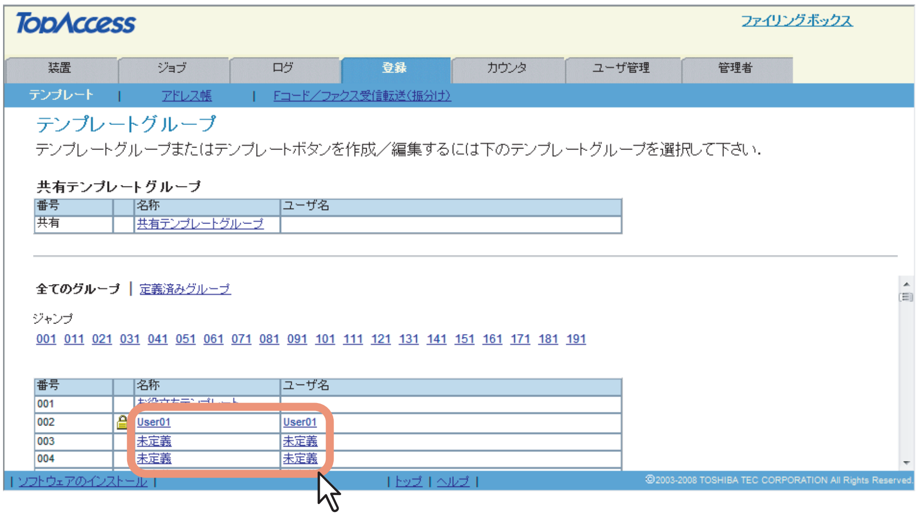
1 ［登録］タブをクリックし、［テンプレート］メニューをクリックします。

テンプレートグループページが表示されます。

注 意

ユーザ管理設定とロールベースアクセスが有効になっている場合は、ログインページが表示されます。ロールベースアクセスが有効な場合は、登録権限を持ったユーザのみ登録ページへログインすることができます。

2 リセットしたいテンプレートを含むグループ名リンクをクリックします。



- パスワードが設定されていない定義済みのグループを選択した場合は、選択したグループのプライベートテンプレート一覧ページが表示されます。手順4に進みます。
- パスワードが設定されている定義済みのグループを選択した場合は、［グループパスワードの入力］ページが表示されます。次の手順に進みます。

補 足

- 初期表示では、200個のプライベートグループのすべてが表示されます。［定義済みグループ］リンクをクリックすると、定義済みのプライベートグループのみを表示させることができます。
- 定義または編集するプライベートグループ番号が事前に分かっている場合は、［ジャンプ］リンクをクリックします。

3 ［グループパスワードの入力］ページが表示された場合は、選択したプライベートグループの5桁のパスワード（または管理者パスワード）を入力し、［OK］をクリックします。

グループ情報ページが表示されます。

4 **リセットしたいテンプレートのアイコンをクリックします。**

- テンプレートリストが一覧表示で表示されている場合は、定義済みのテンプレート名をクリックします。
- パスワードが設定されていない定義済みテンプレートアイコンをクリックした場合は、テンプレート情報ページが表示されます。この場合は、手順6に進みます。
- パスワードが設定されている定義済みテンプレートアイコンをクリックした場合は、［テンプレートパスワードの入力］ページが表示されます。この場合は、次の手順に進みます。

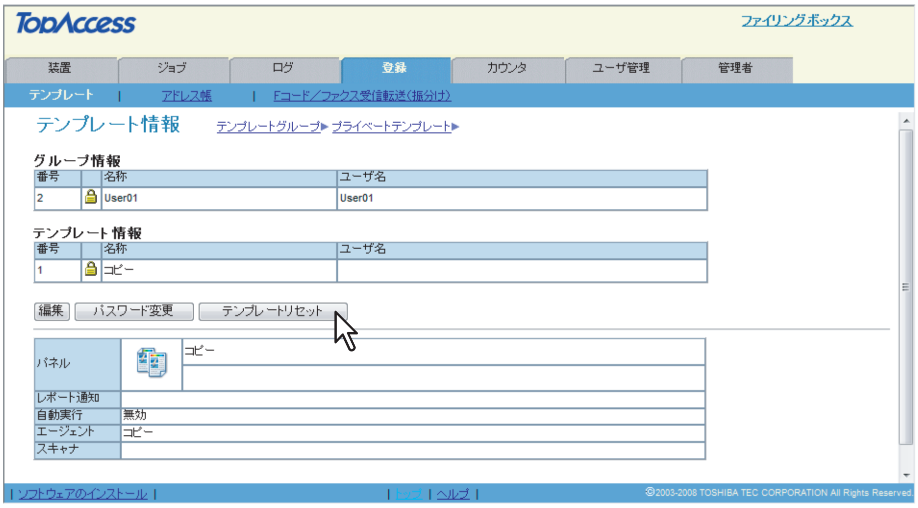
補 足

- ［パネル表示］または［一覧表示］のどちらかをクリックすると、テンプレートリストの表示を切り替えることができます。
- 削除するプライベートテンプレート番号が事前に分かっている場合は、［ジャンプ］リンクをクリックし、目的のテンプレートを即座に表示させることができます。

5 **［テンプレートパスワードの入力］ページが表示された場合は、選択したプライベートテンプレートの5桁のパスワード（または管理者パスワード）を入力し、［OK］をクリックします。**

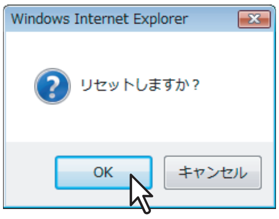
テンプレート情報ページが表示されます。

6 ［テンプレートリセット］をクリックします。



リセットの確認ダイアログボックスが表示されます。

7 ［OK］をクリックします。



テンプレートがリセットされ未定義のテンプレートに戻ります。

■ 共有テンプレートを表示する

ユーザは、共有グループのテンプレートリストを表示させ、どのテンプレートが使用できるかを確認することができます。

共有グループのテンプレートを表示する

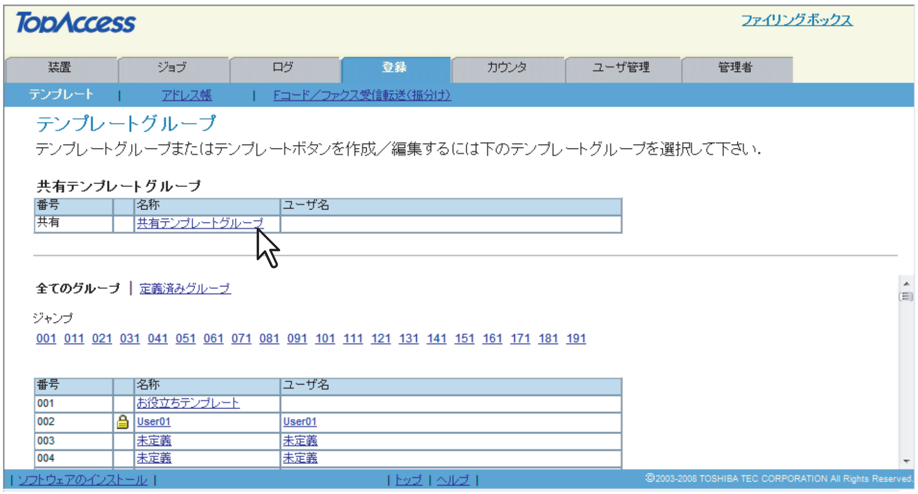
1 **［登録］タブをクリックし、［テンプレート］メニューをクリックします。**

テンプレートグループページが表示されます。

注 意

ユーザ管理設定とロールベースアクセスが有効になっている場合は、ログインページが表示されます。ロールベースアクセスが有効な場合は、登録権限を持ったユーザのみ登録ページへログインすることができます。

2 **［共有テンプレートグループ］リンクをクリックします。**



3 **共有グループのテンプレートリストが表示されます。**

補 足

- ［パネル表示］または［一覧表示］のどちらかをクリックすると、テンプレートリストの表示を切り替えることができます。
- 確認する共有テンプレート番号が事前に分かっている場合は、目的の番号の［ジャンプ］リンクをクリックします。

アドレス帳を管理する

本機には、アドレス帳機能が付属しています。この機能を使用して、Eメール送信、インターネットファクス送信やファクス送信を実行する際に指定する、連絡先リストを管理することができます。
TopAccessの［登録］タブにある［アドレス帳］メニューから、Eメールアドレスやファクス番号などの連絡先のコンタクト情報を追加、編集、削除することができます。また、グループを作成し、複数の連絡先をそのグループに割り当てることもできます。加えて、LDAPサーバーで連絡先情報を検索することもできます。
📖 P.82 「アドレス帳の連絡先を管理する」
📖 P.88 「アドレス帳のグループを管理する」

補 足

アドレス帳の管理は、本機の操作パネルから行うこともできます。操作パネルからアドレス帳を管理する方法については、**設定管理ガイド**を参照してください。

■ アドレス帳の連絡先を管理する

アドレス帳の連絡先を管理するには、以下の2つの方法があります。

- 手動で連絡先を追加、編集、削除する
  📖 P.82 「手動で連絡先を追加、編集、削除する」
- LDAPサーバーを使って連絡先を検索し、追加する
  📖 P.86 「LDAPサーバーを使って新規連絡先を追加する」

□ 手動で連絡先を追加、編集、削除する

連絡先に関する情報を手動で入力し、その連絡先を追加、編集することができます。また、連絡先をアドレス帳から削除することもできます。
📖 P.82 「連絡先を追加、編集する」
📖 P.85 「連絡先を削除する」

連絡先を追加、編集する

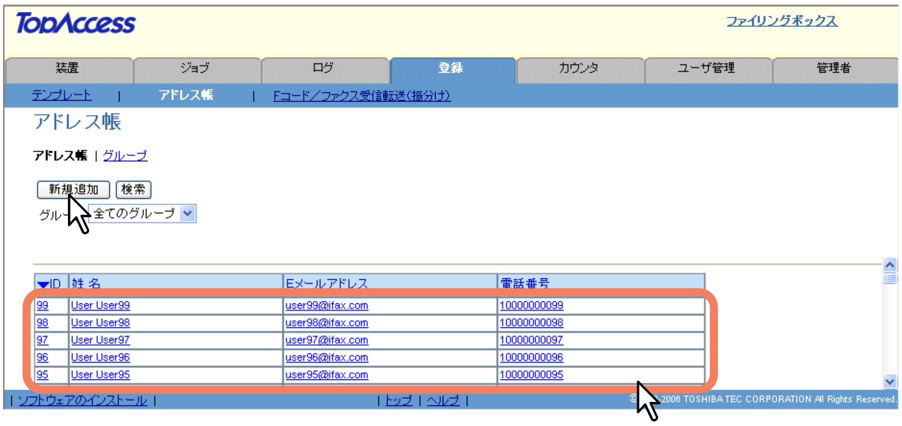
1 ［登録］タブをクリックし、［アドレス帳］メニューをクリックします。

アドレス帳ページが表示されます。

注 意

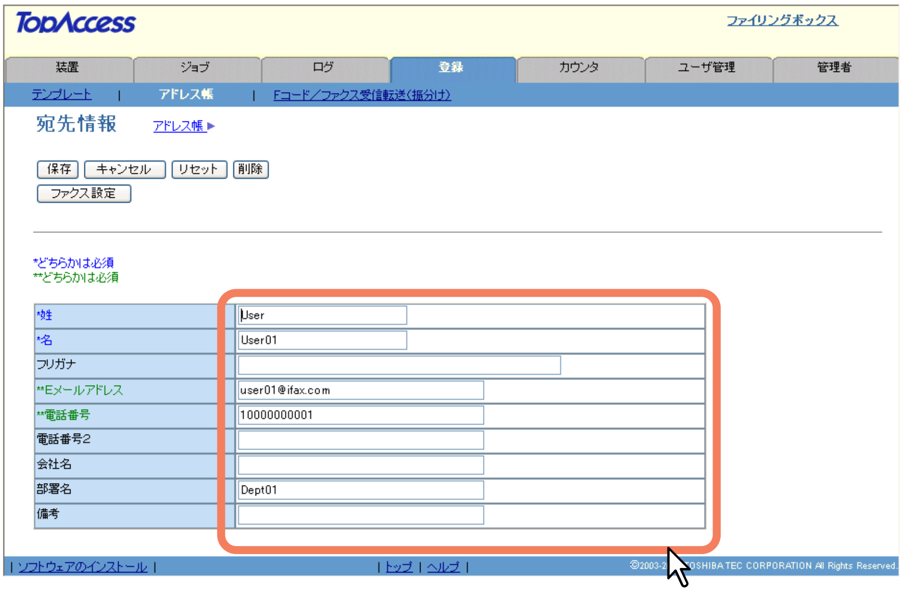
ユーザ管理設定とロールベースアクセスが有効になっている場合は、ログインページが表示されます。ロールベースアクセスが有効な場合は、登録権限を持ったユーザのみ登録ページへログインすることができます。

2 ［新規追加］をクリックし、新規連絡先を追加します。または、連絡先一覧で編集したい連絡先に対応するリンクをクリックします。



宛先情報ページが表示されます。

3 宛先情報に関する以下の項目を入力します。



姓：連絡先の姓を入力します。32文字まで入力することができます。使用できない文字を入力した場合「！」で置き換えられます。
名：連絡先の名を入力します。32文字まで入力することができます。使用できない文字を入力した場合「！」で置き換えられます。
フリガナ：フリガナを入力します。全角カタカナで64文字まで入力することができます。
Eメールアドレス：連絡先のEメールアドレスを入力します。半角英数文字で192文字まで入力することができます。
電話番号：連絡先のファクス番号を入力します。半角数字で128文字まで入力することができます。
電話番号2：連絡先の第2ファクス番号を入力します。半角数字で128文字まで入力することができます。
会社名：連絡先の会社名を入力します。64文字まで入力することができます。使用できない文字を入力した場合「！」で置き換えられます。
部署名：連絡先の部門名を入力します。64文字まで入力することができます。使用できない文字を入力した場合「！」で置き換えられます。
備考：連絡先のコメントを入力します。256文字まで入力することができます。使用できない文字を入力した場合「！」で置き換えられます。

注 意

- 連絡先を登録するには、［姓］または［名］および、［Eメールアドレス］または［電話番号］のどちらか一方を必ず入力する必要があります。
- ［電話番号］および［電話番号2］には、特別な場合以外は、「-」を含めずに入力してください。（「-」を入れるとポーズが入り3秒間ダイヤルの間隔が空きます。）
- 原稿をファクス送信するには、オプションのFAXユニットが必要です。このユニットを装着していない場合は、ファクス番号を設定してもファクス送信を実行することはできません。

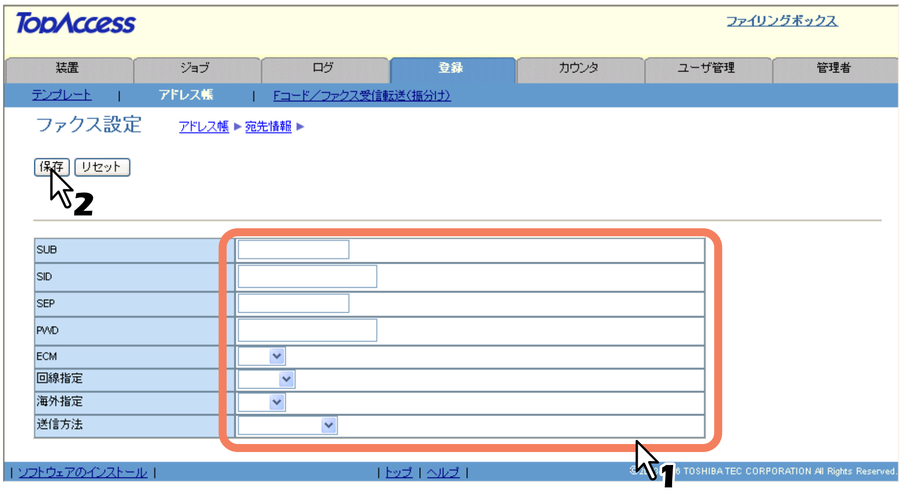
補 足

- 各ボックスに入力した情報を消去する場合は、［リセット］をクリックします。
- 連絡先の追加や編集を中止する場合は、［キャンセル］をクリックします。

4 ファクスの連絡先を登録しているときは、［ファクス設定］をクリックします。そのほかの場合は、手順6へ進みます。

ファクス設定ページが表示されます。

5 宛先のファクス装置本体の性能に合わせ、以下の項目を入力し、［保存］をクリックします。



SUB：連絡先のファクスのメールボックスへ原稿を送信する場合は、メールボックス番号を入力します。数字とハイフン「-」を使用して20文字まで入力することができます。

SID：連絡先ファクスのメールボックスへファクスを入力するためのパスワードを入力します。数字とハイフン「-」を使用して20文字まで入力することができます。

SEP：連絡先ファクスのメールボックスから文書を取り込む場合は、メールボックス番号を入力します。数字とハイフン「-」を使用して20文字まで入力することができます。

PWD：連絡先ファクスのメールボックスから文書を取り込むためのパスワードを入力します。数字とハイフン「-」を使用して20文字まで入力することができます。

ECM：ECM（Error Correction Mode：自動誤り訂正方式）を有効にするか、無効にするかを選択します。この機能を有効にすると、電話回線のノイズや歪みに影響を受けエラーとなった原稿部分を自動的に再送信するので、画像の乱れのない通信を可能にします。

回線指定：使用回線を指定するかを選択します。空欄を選択すると、自動的に使用回線を選択します。ただし、［回線2］はオプションの回線増設ユニットがインストールされている場合にのみ、適用されます。

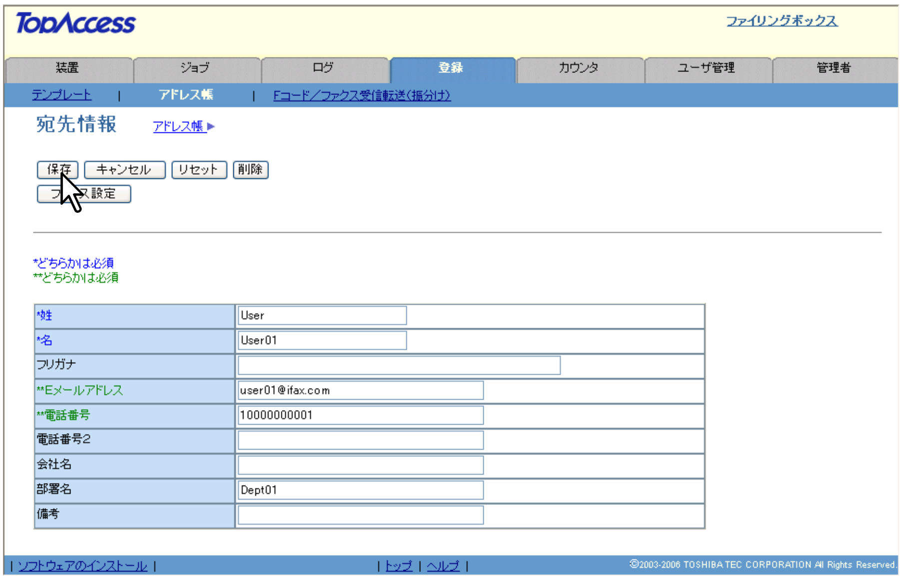
海外指定：文書を海外指定モードで送信するかを選択します。この機能を有効にすると、通常より遅いスピードで文書を送信し、回線の影響を受けにくくします。

送信方法：文書を［メモリ送信］モードで送信するか、または［ダイレクト送信］モードで送信するかを選択します。

補 足

［リセット］をクリックすると、連絡先に設定したファクス設定をデフォルト状態に戻します。

6 宛先情報ページで［保存］をクリックし、新規連絡先を追加します。



連絡先を削除する

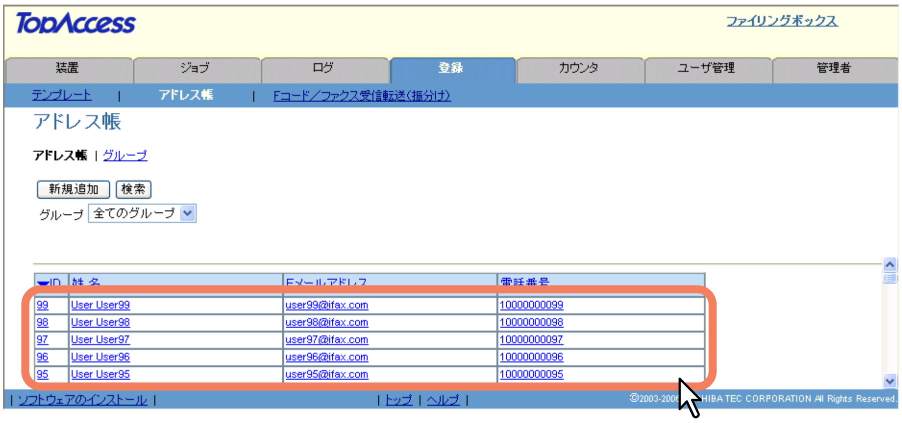
1 ［登録］タブをクリックし、［アドレス帳］メニューをクリックします。

アドレス帳ページが表示されます。

注 意

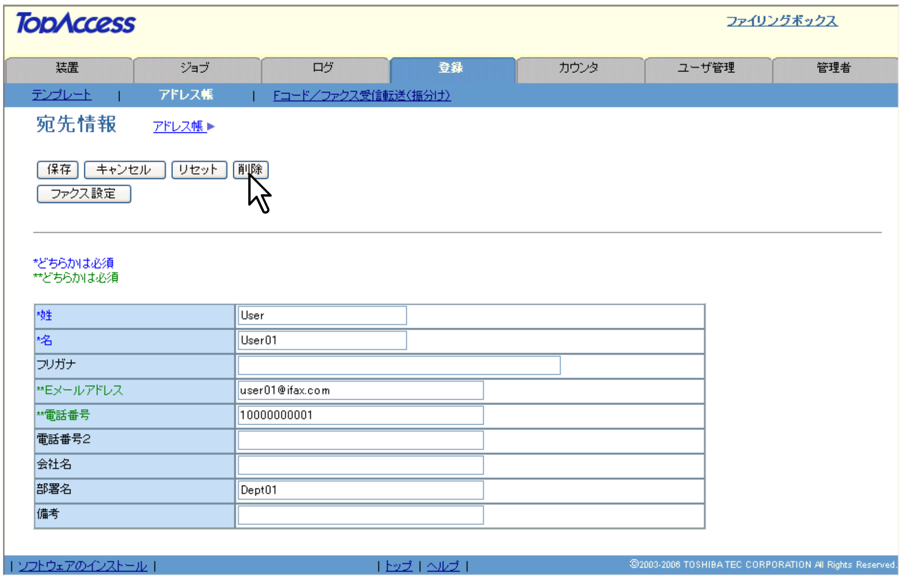
ユーザ管理設定とロールベースアクセスが有効になっている場合は、ログインページが表示されます。ロールベースアクセスが有効な場合は、登録権限を持ったユーザのみ登録ページへログインすることができます。

2 連絡先一覧で削除したい名称リンクをクリックします。



宛先情報ページが表示されます。

3 ［削除］をクリックします。



アドレス帳から連絡先が削除されます。

□ LDAPサーバーを使って新規連絡先を追加する

LDAPサーバーで連絡先を検索し、その連絡先を本機のアドレス帳に追加することができます。LDAP検索を利用するには、ディレクトリサービスが管理者によってセットアップされている必要があります。LDAP検索を操作する前に、ディレクトリサービスがセットアップされているかをご確認ください。

LDAPサーバーから新規連絡先を追加する

1 ［登録］タブをクリックし、［アドレス帳］メニューをクリックします。

アドレス帳ページが表示されます。

注 意

ユーザ管理設定とロールベースアクセスが有効になっている場合は、ログインページが表示されます。ロールベースアクセスが有効な場合は、登録権限を持ったユーザのみ登録ページへログインすることができます。

2 ［検索］をクリックします。

宛先検索ページが表示されます。

3 ［LDAPサーバー名］ボックスで検索するディレクトリサービス名を選択し、検索したい項目欄に検索文字を入力します。

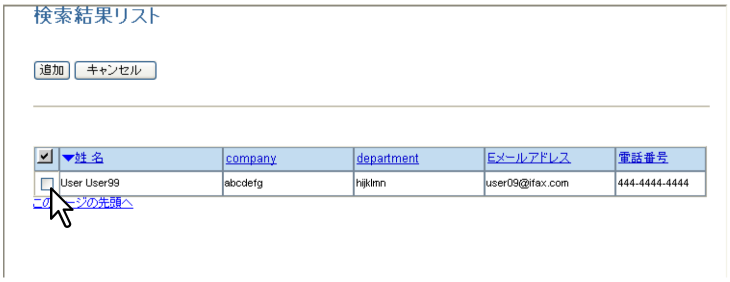
補 足

- ［LDAP サーバー名］ボックスから本機モデル名を選択すると、本機のアドレス帳を検索することができます。
- 各項目に入力した文字列を含む連絡先が、TopAccessによって検索されます。
- 空欄にした項目は無視され、入力した項目だけを用いて検索します。ただし、少なくとも1つのボックスには文字や文字列を入力する必要があります。

4 ［検索］をクリックします。

TopAccessがLDAPサーバーで連絡先の検索を開始します。検索を終了すると、検索結果が検索アドレス一覧ページに表示されます。

5 アドレス帳に追加したい連絡先に対応するチェックボックスをオンにします。



一覧に表示されたすべてのユーザを選択する場合は、 ボタンをクリックします。

注 意

［company（会社名）］［department（部門名）］の値は管理者の設定に依存します。

6 ［追加］をクリックします。

選択した連絡先がアドレス帳に追加されます。

■ アドレス帳のグループを管理する

複数の連絡先を割り当てたグループを作成することができます。このグループ機能を使用すれば、Eメール送信やインターネットファクス送信、ファクス送信を複数の連絡先へ実行する際に、それらの連絡先を個別に選択する手間を省くことができます。また、既存のグループを削除することもできます。

📖 P.88「グループを追加、編集する」
📖 P.89「グループを削除する」

グループを追加、編集する

1 ［登録］タブをクリックし、［アドレス帳］メニューをクリックします。

アドレス帳ページが表示されます。

注 意

ユーザ管理設定とロールベースアクセスが有効になっている場合は、ログインページが表示されます。ロールベースアクセスが有効な場合は、登録権限を持ったユーザのみ登録ページへログインすることができます。

2 ［グループ］サブメニューをクリックします。

グループ一覧が表示されます。

3 ［新規］をクリックし、新規グループを追加します。または、グループ一覧で編集したいグループのリンクをクリックします。

グループ情報ページが表示されます。

4 ［グループ名称］欄に、グループ名を入力します。

補 足

- ［グループ名称］欄に入力した情報を消去する場合は、［リセット］をクリックします。
- グループの追加や編集を中止する場合は、［キャンセル］をクリックします。

5 グループに追加したいユーザの［Eメール］チェックボックスおよび［ファクス］チェックボックスをオンにします。

注 意

原稿をファクス送信するには、オプションのFAXユニットが必要です。このユニットを装着していない場合は、ファクス番号を設定してもファクス送信を実行することはできません。

6 ［OK］をクリックします。

グループが作成されます。

グループを削除する

1 ［登録］タブをクリックし、［アドレス帳］メニューをクリックします。

アドレス帳ページが表示されます。

注 意

ユーザ管理設定とロールベースアクセスが有効になっている場合は、ログインページが表示されます。ロールベースアクセスが有効な場合は、登録権限を持ったユーザのみ登録ページへログインすることができます。

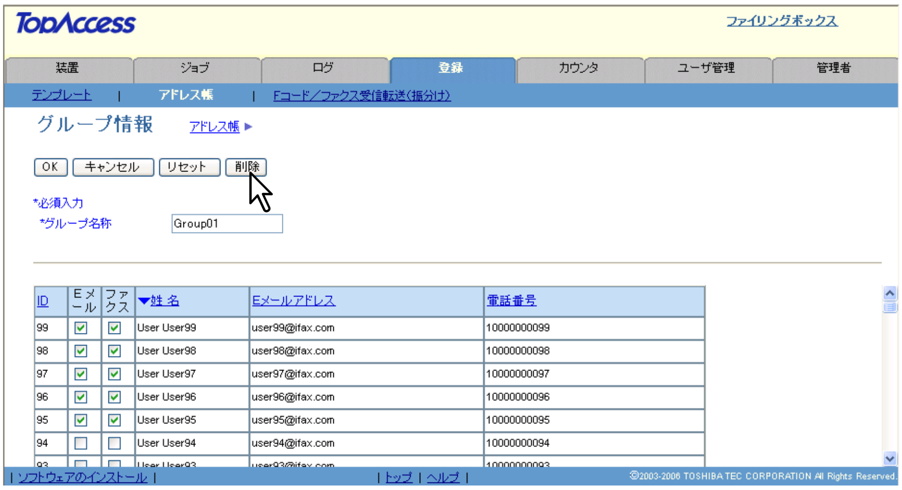
2 ［グループ］サブメニューをクリックします。

グループ一覧が表示されます。

3 グループ一覧で削除したいグループリンクをクリックします。

グループ情報ページが表示されます。

4 ［削除］をクリックします。



選択したグループが削除されます。

メールボックスを管理する

注 意

メールボックスを管理するには、オプションのFAXユニットが本機に装着されている必要があります。

補 足

メールボックスの管理は、本機の操作パネルから行うことができます。操作パネルからメールボックスを管理する方法については、**GD-1250J/GD-1260J/GD-1270J FAXユニット 取扱説明書**を参照してください。

本機は、Fコード通信をサポートしており、メールボックス局によってあらかじめ開設されたメールボックスを使用して原稿の登録、取り出しを行います。

Fコード通信のメールボックスには3つの種類があります。

親展メールボックス

親展メールボックスは、1回のみ取り出し可能なファクス原稿を保管する場合に使用します。メールボックスから原稿を取り出すと、メモリに保存されている原稿を消去します。同じ箱番号で登録をすると、前の原稿に追加して保存します。また、機密性を持たせるためにパスワードを付加することも可能です。

掲示板メールボックス

掲示板メールボックスは、繰り返し取り出し可能なファクス原稿を保管する場合に使用します。メールボックスから原稿を取り出しても、メモリに保存されている原稿は消えません。同じ箱番号で登録をすると、新しい原稿に書き換えられます。また、機密性を持たせるためにパスワードを付加することも可能です。

転送メールボックス

転送メールボックスは、ファクス原稿を指定した宛先に自動的に転送したい場合に使用します。転送メールボックスでは、以下のエージェントを指定することができます。

- **インターネットファクス／ファクス（中継）**：メールボックスに送信されてきた原稿を、公衆回線を介してリモートファクス装置に転送します。または、インターネットを介してインターネットファクス装置に転送します。中継送信を完了すると、送信結果が指定したリモートファクス装置に送信されます。また、パスワードを設定することもできます。
- **共有フォルダに保管**：メールボックスに送信されてきた原稿を、本機ローカルフォルダまたはネットワークフォルダへ転送します。
- **Eメール送信**：メールボックスに送信されてきた原稿を、指定したEメールアドレスへ転送します。
- **ファイリングボックスに保管**：メールボックスに送信されてきた原稿を、本機のファイリングボックスへ転送します。ボックスに保存されたデータは、後で印刷したり、ファイリングボックスWebユーティリティを使って管理することができます。ファイリングボックスWebユーティリティは、Webベースのユーティリティで、ボックスに保存されている各ファイルを表示したり、印刷することができます。また、異なるファイルを合成することもできます。

注 意

メールボックス局への文書の送信、保存やメールボックス局からの文書の取り込みは、Fコード対応ファクス機でのみ有効です。本機は、メールボックス局機能をサポートしています。

TopAccessを使用して、本機上のメールボックスのセットアップ、編集、削除を行うことができます。

■ メールボックスをセットアップする

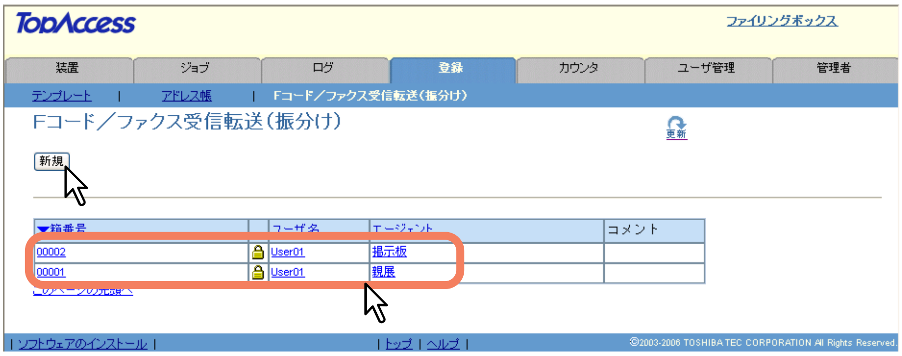
Fコード通信を使用するには、メールボックス局をセットアップする必要があります。最大300個のメールボックスをセットアップすることができます。

メールボックスを作成する、編集する

1 ［登録］タブを選択し、［Fコード／ファクス受信転送（振分け）］メニューをクリックします。

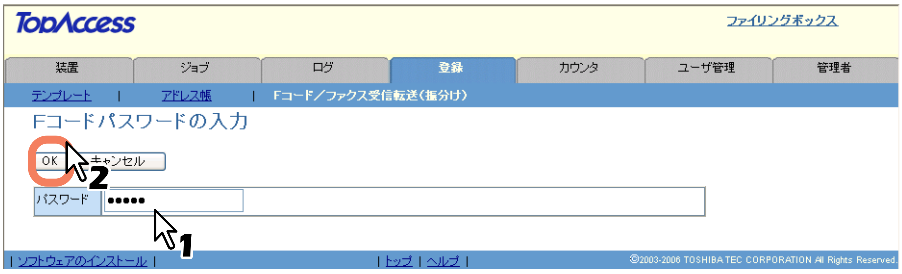
Fコード／ファクス受信転送（振分け）ページが表示されます。

2 ［新規］をクリックし、新規メールボックスをセットアップします。または、メールボックス一覧で編集したい箱番号リンクをクリックします。

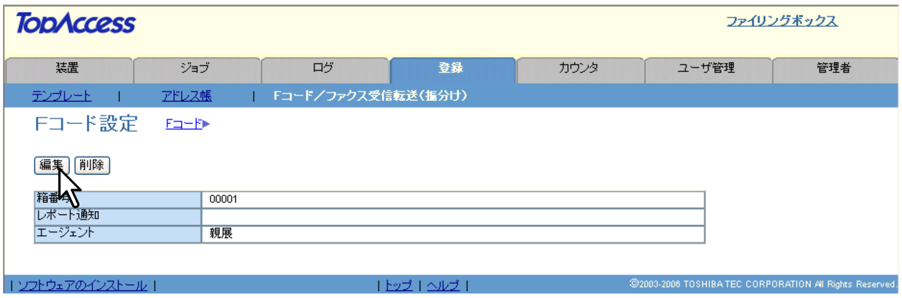


- ［新規］をクリックした場合は、手順5へ進みます。
- パスワードで保護されていない箱番号リンクをクリックした場合は、手順4へ進みます。
- パスワードで保護されている箱番号リンクをクリックした場合は、次の手順へ進みます。

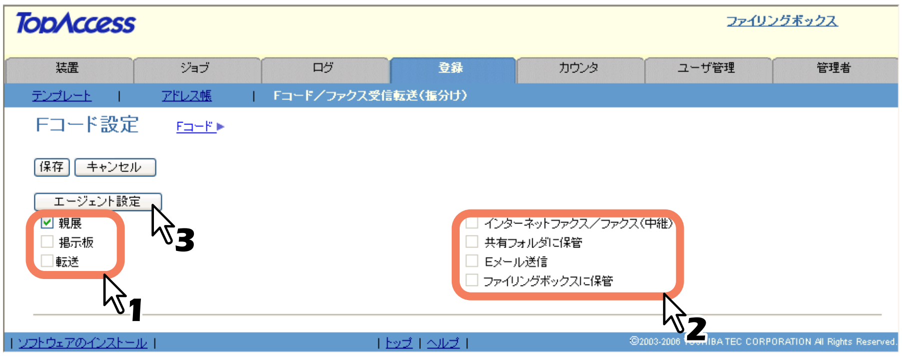
3 5桁のパスワード（または管理者パスワード）を入力し、［OK］をクリックします。



4 ［編集］をクリックします。



5 エージェントを選択し、[エージェント設定]をクリックします。



親展：親展のメールボックスを作成します。
掲示板：掲示板のメールボックスを作成します。
転送：中継同報のメールボックスを作成します。選択した場合は、[インターネットファクス／ファクス（中継)][共有フォルダに保管][Eメール送信][ファイリングボックスに保管]から中継同報に使用するエージェントを選択します。

- **インターネットファクス／ファクス(中継)**：インターネットファクスまたはファクスへの中継同報メールボックスを作成します。このエージェントは、共有フォルダに保管エージェントまたはファイリングボックスに保管エージェントと組み合わせてセットアップすることができます。
- **共有フォルダに保管**：共有フォルダ転送メールボックスを作成します。このエージェントは、インターネットファクス／ファクス（中継）エージェント、Eメール送信エージェント、ファイリングボックスに保管エージェントのどれかと組み合わせてセットアップすることができます。
- **Eメール送信**：Eメール転送メールボックスを作成します。このエージェントは、共有フォルダに保管エージェントまたはファイリングボックスに保管エージェントと組み合わせてセットアップすることができます。
- **ファイリングボックスに保管**：ファイリングボックス転送メールボックスを作成します。このエージェントは、インターネットファクス／ファクス（中継）エージェント、共有フォルダに保管エージェント、またはEメール送信エージェントと組み合わせてセットアップすることができます。

6 ページに表示される各ボタンをクリックし、メールボックスのプロパティを設定します。

[Fコード設定]：メールボックス設定をセットアップします。

📖 P.94 「Fコード設定」

Fコード設定

箱番号	00001
ユーザ名	User01
コメント	
レポート通知	
原稿印刷	常時印刷

[宛先設定]：送信先をセットアップします。この項目は、インターネットファクス／ファクス（中継）エージェントまたはEメール送信エージェントを作成するときに有効です。

📖 P.95 「宛先設定（メールボックス）」

- インターネットファクス／ファクス（中継）エージェントの場合

宛先設定

宛先	

- Eメール送信エージェントの場合

To: 宛先設定

To: 宛先	

Cc: 宛先設定

Cc: 宛先	

補足

宛先指定方法が「To／Bcc」のときは、[To：宛先] ／ [Bcc：宛先] を表示します。

宛先指定方法が「To／Bcc」から「To／Cc」に変更された場合、Bcc送信で登録したアドレスはCc送信として処理されます。「To／Cc」から「To／Bcc」に変更された場合、Cc送信で登録したアドレスはBcc送信として処理されます。

📖 P.191 「Eメール設定」

To: 宛先設定

To: 宛先	

Bcc: 宛先設定

Bcc: 宛先	

[インターネットファクス設定]：文書をインターネットファクスとしてどのように送信するかをセットアップします。この項目は、インターネットファクス／ファクス（中継）エージェントを作成するときに有効です。

📖 P.95 「インターネットファクス設定（メールボックス）」

インターネットファクス設定

件名	(マシン名称)からのスキャン[(テンプレート名称)](日付)(時間)
送信者アドレス	mfp-04998820@ifax.com
送信者名	MFP-04998820
本文	
ファイル形式	TIFF-S
分割ページサイズ	分割無

[中継孫局送信]：転送を行った際に中継孫局結果表を送信する宛先を設定します。インターネットファクス／ファクス（中継）エージェントを作成するときに設定します。

📖 P.96 「中継孫局送信」

中継孫局送信

結果送信宛先	

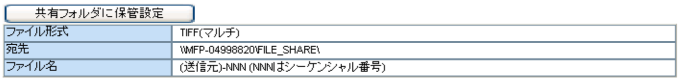
[Eメール設定]：文書をEメールメッセージとしてどのように送信するかをセットアップします。この項目は、Eメール送信エージェントを作成するときに有効です。

📖 P.96 「Eメール設定（メールボックス）」

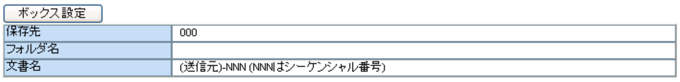
Eメール設定

件名	(マシン名称)からのスキャン[(テンプレート名称)](日付)(時間)
送信者アドレス	mfp-00c67861@ifax.com
送信者名	MFP-00C67861
本文	
ファイル形式	PDF(マルチ)
ファイル名	(送信元)-NNN (NNNはシーケンシャル番号)
分割送信サイズ	分割無

[共有フォルダに保管設定]：文書をお使いのコンピュータのハードディスクまたはネットワークフォルダにどのように保存するかをセットアップします。この項目は、共有フォルダに保管エージェントを作成するときに有効です。
📖 P.96 「共有フォルダに保管設定（メールボックス）」



[ボックス設定]：文書をボックスにどのように保存するかをセットアップします。この項目は、ファイリングボックスに保管エージェントを作成するときに有効です。
📖 P.96 「ボックス設定（メールボックス）」



7 メールボックスのプロパティ設定を完了したら、［保存］をクリックします。

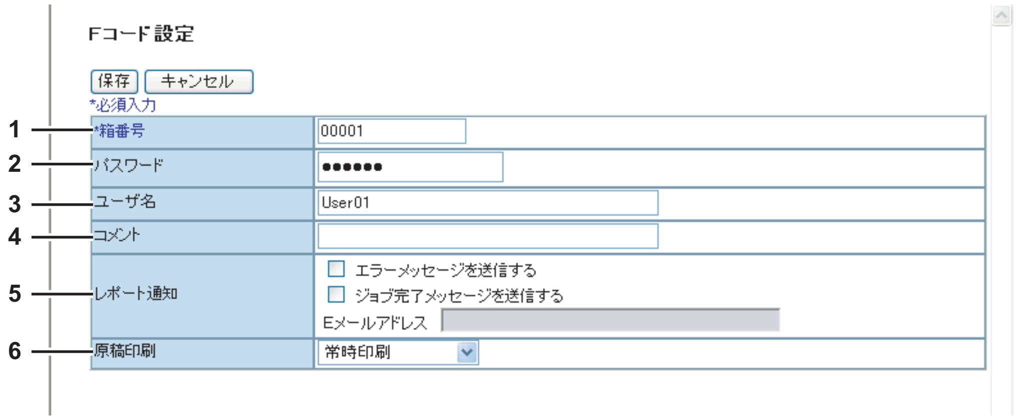
設定したメールボックスのプロパティが登録されます。

□ Fコード設定

Fコード設定ページでは、箱番号、パスワード、所有者、コメントや通知設定など、全般的な情報をセットアップすることができます。

注 意

- 親展ボックスまたは掲示板ボックスを作成する場合は、［レポート通知］および［原稿印刷］は表示されません。
- 相手先の登録と自局の設定が一致しないとFコード通信はできません。箱番号を入力する前に、相手先の箱番号、自局番号がどのように登録されているかを通信管理記録で確認してください。



1) 箱番号

メールボックスの箱番号を入力します。半角の数字、#、*を含め、20文字まで入力することができます。
また、転送メールボックスを作成している場合は、相手先のファクス番号を入力して、受信ファクス転送（送信者情報）機能を設定することもできます。相手先のファクス番号（相手先が自局番号として登録した番号）を指定した場合、指定したファクス番号から受信したファクス原稿は、メールボックスに設定された転送先へ転送されます。

注 意

- 受信ファクス転送（送信者情報）機能は、転送メールボックスにのみ設定することができます。エージェントの選択で［親展］または［掲示板］を選択した場合は、ファクス番号を指定することはできません。
- 指定したファクス番号から箱番号（またはサブアドレス）が指定されたファクス原稿を受信した場合は、受信ファクス転送（送信者情報）機能を利用せずに指定された箱番号（またはサブアドレス）の設定に従って受信ファクスを処理します。

2) パスワード

メールボックスをパスワードで保護する場合は、パスワードを入力します。半角の数字、#、*を含め、20文字まで入力することができます。

3) ユーザ名
メールボックスの所有者を入力します。半角／全角にかかわらず30文字まで入力することができます。

4) コメント
コメントを入力します。半角で64文字、全角で32文字まで入力することができます。

5) レポート通知
レポート通知の方法を設定します。

エラーメッセージを送信する
エラーが発生した場合に、指定したEメールアドレスに通知メッセージを送信します。

ジョブ完了メッセージを送信する
ジョブの完了時に、指定したEメールアドレスに通知メッセージを送信します。

Eメールアドレス
通知メッセージが送信されるEメールアドレスを入力します。

注 意

レポート通知を設定した場合は、TopAccess管理者モードの［セットアップ］メニューにある［Eメール設定］サブメニューで、Eメール送信の設定を必ず行ってください。設定方法については、以下のセクションを参照してください。
P.190 「Eメール設定をセットアップする」

6) 原稿印刷
このメールボックスに送信される文書を本機で印刷するか選択します。

□ 宛先設定（メールボックス）

連絡先リストのページでは、ファクスやインターネットファクス中継転送およびEメール転送する宛先を指定します。
Eメール転送エージェントの宛先を指定するときは、Eメールアドレスのみを使用することができます。
ファクス／インターネットファクス（中継）エージェントの宛先を指定するときは、ファクス番号およびEメールアドレスの両方を使用することができます。

宛先を指定するには、相手先のEメールアドレスやファクス番号を手動で入力したり、アドレス帳から個人やグループを選択します。また、LDAPサービスを使って検索することもできます。

注 意

ファクス／インターネットファクス（中継）エージェントの宛先を設定する場合は、手動による宛先の設定およびLDAPサービスを使用した宛先の設定はできません。

操作方法は、プライベートテンプレートの登録と同じです。
P.55 「宛先設定（プライベートテンプレート）」

□ インターネットファクス設定（メールボックス）

インターネットファクス設定のページでは、送信されるインターネットファクスのプロパティを設定します。
操作方法は、プライベートテンプレートの登録と同じです。
P.61 「インターネットファクス設定（プライベートテンプレート）」

□ 中継孫局送信

中継孫局結果表を送信する宛先を設定します。

中継孫局結果表の送信宛先を設定する

1 **［中継孫局送信］をクリックします。**

結果送信宛先ページが表示されます。

2 **中継孫局結果表を送信する宛先のEメールアドレスまたはファクス番号を入力するか、一覧から送信する宛先の［Eメール］または［ファクス］を選択し、［追加］をクリックします。**

補 足

一覧で選択した宛先を解除するには、［リセット］をクリックします。

注 意

中継孫局結果表の宛先には、複数の宛先を指定することはできません。

□ Eメール設定（メールボックス）

Eメール設定のエージェント設定ページでは、Eメール転送文書の本文をセットアップします。
操作方法は、プライベートテンプレートの登録と同じです。ただし、ファイル名は発信元－NNN（NNNはシーケンシャル番号）固定になります。

📖 P.63 「Eメール設定（プライベートテンプレート）」

□ 共有フォルダに保管設定（メールボックス）

共有フォルダに保管設定ページでは、受信したファクスの保存方法および保存先を設定します。
操作方法は、プライベートテンプレートの登録と同じです。ただし、ファイル名は発信元－NNN（NNNはシーケンシャル番号）固定になります。

📖 P.66 「共有フォルダに保管設定（プライベートテンプレート）」

注 意

ただし、メールボックスの共有フォルダに保管設定ページでは、保存先にUSBメディアを指定することはできません。

□ ボックス設定（メールボックス）

ドキュメントボックス設定のページでは、受信したファクスをファイリングボックスにどのように保存するかを設定します。
操作方法は、プライベートテンプレートの登録と同じです。

📖 P.69 「ボックス設定（プライベートテンプレート）」

■ メールボックスを削除する

本機内のメールボックスをTopAccessから削除することができます。

注 意

削除するメールボックスに文書が存在する場合は、この操作は、そのメールボックスから文書を取り込む、印刷するまたは削除するまで実行することはできません。

メールボックスを削除する

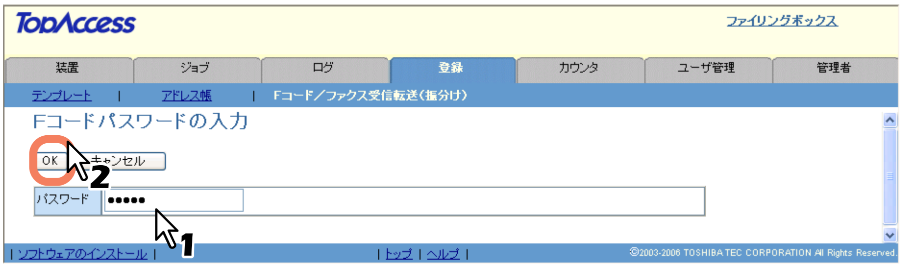
1 **［登録］タブを選択し、［Fコード／ファクス受信転送（振分け）］メニューをクリックします。**

Fコード／ファクス受信転送（振分け）ページが表示されます。

2 **メールボックス一覧で削除したい箱番号リンクをクリックします。**

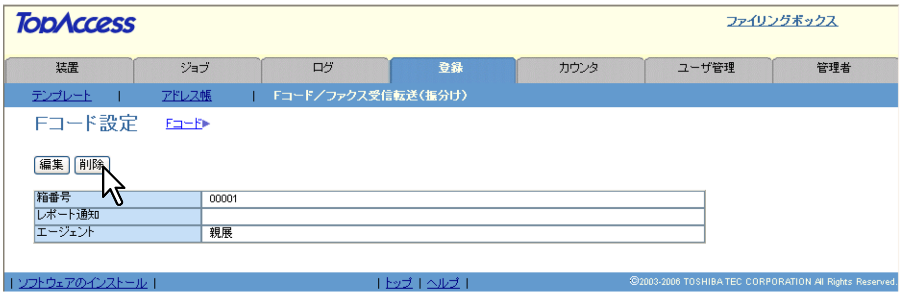
- 選択したメールボックスがパスワードで保護されていない場合は、手順4へ進みます。
- 選択したメールボックスがパスワードで保護されている場合は、次の手順へ進みます。

3 **パスワードを入力し、［OK］をクリックします。**



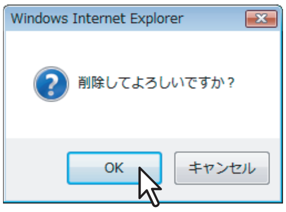
メールボックス設定ページが表示されます。

4 **［削除］をクリックします。**



削除の確認ダイアログボックスが表示されます。

5 ［OK］をクリックします。



選択したメールボックスを削除します。

6

カウンタを管理する

このセクションでは、TopAccessユーザモードの［カウンタ］タブについて説明します。

カウンタを表示する 100
トータルカウンタを表示する 100
部門カウンタを表示する 102

カウンタを表示する

本機は、印刷、コピーおよびスキャンしたページ数の記録を保存し、各カウンタとして管理します。これらのカウンタは、トータルまたは部門別に表示されます。ここでは、各カウンタの表示方法および部門別カウンタの管理方法を説明します。

📖 P.100 「トータルカウンタを表示する」
📖 P.102 「部門カウンタを表示する」

注 意

ユーザはトータルカウンタをリセットすることはできません。ただし、管理者は操作パネルからカウンタをリセットすることができます。**設定管理ガイド**を参照してください。

■ トータルカウンタを表示する

［トータルカウンタ］メニューには、スモールサイズのコピーおよび印刷カウンタ、ラージサイズのコピーおよび印刷カウンタ、スキャンカウンタ別にトータルカウンタ情報が表示されます。

トータルカウンタを表示する

1 ［カウンタ］タブをクリックし、［トータルカウンタ］メニューをクリックします。

トータルカウンタページが表示されます。

2 トータルカウンタを確認します。

e-STUDIO4520C Seriesおよびe-STUDIO6530C Seriesをお使いの場合

プリントカウンタ

	コピー	ファクス	プリンタ	リスト	トータル
フルカラー	11	-	256	-	267
2色カラー	0	-	0	-	0
ブラック	7	0	10	78	95

プリントカウンタ(スモール)

	コピー	ファクス	プリンタ	リスト	トータル
フルカラー	11	-	256	-	267
2色カラー	0	-	0	-	0
ブラック	7	0	10	54	71

プリントカウンタ(ラージ)

	コピー	ファクス	プリンタ	リスト	トータル
フルカラー	0	-	0	-	0
2色カラー	0	-	0	-	0
ブラック	0	0	0	24	24

スキャンカウンタ

	コピー	ネットワーク	ファクス	トータル
フルカラー	9	2	-	11
2色カラー	0	-	-	0
ブラック	8	377	5	390

e-STUDIO455 Seriesをお使いの場合

プリントカウンタ

	コピー	ファクス	プリンタ	リスト	トータル
スモール	0	0	0	0	0
ラージ	0	0	0	0	0
トータル	0	0	0	0	0

スキャンカウンタ

	コピー	ネットワーク	ファクス	トータル
スモール(フルカラー)	-	0	-	0
ラージ(フルカラー)	-	0	-	0
スモール(ブラック)	0	0	0	0
ラージ(ブラック)	0	0	0	0
トータル	0	0	0	0

e-STUDIO855 Seriesをお使いの場合

プリントカウンタ

	コピー	ファクス	プリンタ	リスト	トータル
スモール	10276	0	0	0	10276
ラージ	6	0	0	0	6
トータル	10282	0	0	0	10282

スキャンカウンタ

	コピー	ネットワーク	ファクス	トータル
スモール	1012	0	0	1012
ラージ	19	2	0	21
トータル	1031	2	0	1033

補 足

スモールサイズはB4 、A4、B5 、A5、ラージサイズはA3を意味します。

■ 部門カウンタを表示する

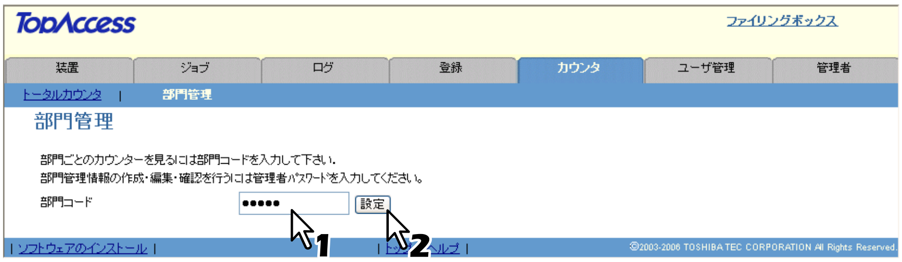
［部門管理］メニューでは、特定の部門のカウンタ情報を確認することができます。部門カウンタを表示するには、該当する部門の部門コードを入力する必要があります。

部門カウンタを表示する

1 **［カウンタ］タブをクリックし、［部門管理］メニューをクリックします。**

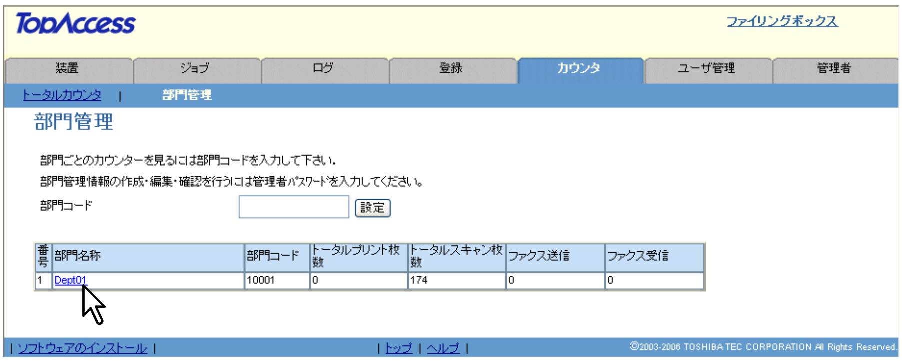
部門管理ページが表示されます。

2 **［部門コード］ボックスに、カウンタを確認したい部門の部門コードを入力し、［設定］をクリックします。**



指定した部門の部門カウンタが表示されます。

3 **部門カウンタの詳細を表示したい場合は、部門名称リンクをクリックします。**



4 部門管理情報ページが表示されます。

e-STUDIO4520C Seriesおよびe-STUDIO6530C Seriesをお使いの場合

部門管理情報

閉じる

部門番号	1
部門名称	Dept01
部門コード	10001

トータルカウンタ

	フルカラー	2色カラー	ブラック	トータル
コピー	0	0	0	0
ファクス	-	-	0	0
プリンタ	0	0	0	0
リスト	-	-	0	0
トータル	0	0	0	0

コピー

	フルカラー	2色カラー	ブラック	トータル
スモール	0	0	0	0
ラージ	0	0	0	0

ファクス

	フルカラー	2色カラー	ブラック	トータル

e-STUDIO455 Seriesをお使いの場合

部門管理情報

閉じる

部門番号	1
部門名称	Dept01
部門コード	10001

プリントカウンタ

	コピー	ファクス	プリンタ	リスト	トータル
スモール	0	0	0	0	0
ラージ	0	0	0	0	0
トータル	0	0	0	0	0

スキャンカウンタ

	コピー	ファクス	ネットワーク	トータル
スモール(フルカラー)	-	-	0	0
ラージ(フルカラー)	-	-	0	0
スモール(ブラック)	0	0	0	0
ラージ(ブラック)	0	0	0	0
トータル	0	0	0	0

ファクス通信カウンタ

	送信	受信	トータル
スモール	-	-	0
ラージ	-	-	0

e-STUDIO855 Seriesをお使いの場合

部門管理情報

閉じる

部門番号	2
部門名称	Dept01
部門コード	10001

プリントカウンタ

	コピー	ファクス	プリンタ	リスト	トータル
スモール	0	0	0	0	0
ラージ	0	0	0	0	0
トータル	0	0	0	0	0

スキャンカウンタ

	コピー	ファクス	ネットワーク	トータル
スモール	0	0	0	0
ラージ	0	0	0	0
トータル	0	0	0	0

ファクス通信カウンタ

	送信	受信	トータル
スモール	-	-	0
ラージ	-	-	0

7

TopAccess（管理者モード）

このセクションでは、TopAccessの管理者機能について説明します。

特長および機能について.. 107
TopAccessの設定について..107
TopAccessからの保守について..108
TopAccessからの登録について..109
TopAccessを使ったその他の管理機能について 109

TopAccess管理者モードの起動.. 110

TopAccessからセットアップする（管理者モード）.. 112
装置設定をセットアップする..112
ネットワーク設定をセットアップする 121
コピー設定をセットアップする..175
ファクス設定をセットアップする 178
共有フォルダに保管設定をセットアップする 182
Eメール設定をセットアップする..190
インターネットファクス設定をセットアップする 193
プリンタ設定をセットアップする 195
プリントサービス設定をセットアップする..201
ICCプロファイル設定をセットアップする..208
バージョン情報を表示する 215

TopAccessからメンテナンスする 216
保守機能について..216
クライアントソフトウェアを更新する 217
クライアントソフトウェアを削除する 219
データをバックアップする 219
バックアップファイルからデータを復元する 222
共有フォルダからデータを削除する..226
LDAPサービスを登録する..227
通知機能を設定する 229
アドレス帳をインポートまたはエクスポートする 233
部門コードをインポートまたはエクスポートする 238
ログ／ジャーナル／カウンタ情報をエクスポートする 242
ログやジャーナルを削除する..244
再起動する 245

TopAccessから登録する.. 246
共有テンプレートを登録する..246
ファクス受信転送およびインターネットファクス受信転送を登録する 254

メッセージログを表示する 268

部門コードを管理する 269
部門リストと部門カウンタを表示する 269
部門カウンタをクリアする 271
部門コードを登録・変更する 273
部門コードを削除する 275

ユーザ管理を設定する 277
部門管理を有効にする 277
ユーザ管理設定を設定する 280
ロール情報を設定する 307
Eメール送信のユーザ認証を設定する 314

特長および機能について

Webベースの管理ユーティリティであるTopAccessの管理者モードから、Webブラウザを使ってネットワークや機器の設定をしたり、メッセージやジョブのログを参照したり、現在処理中のジョブを管理したりすることができます。

■ TopAccessの設定について

TopAccessの管理者モードからは以下の設定を行うことができます。

一般設定
装置情報、節電、日付と時刻やTopAccessの表示言語などのデバイス設定を行うことができます。

ネットワーク設定
TCP/IP、フィルタリング、IPX/SPX、AppleTalk、Bonjour、LDAP、DNS、DDNS、SMB、NetWare、HTTP、SMTPクライアント 、SMTPサーバー、POP3、SNTP設定、FTPクライアント、FTPサーバー、SNMP、セキュリティ、Web Service、LLTDの設定などのネットワーク設定を行うことができます。

コピー設定
カラーモード、カラー原稿モード、ブラック原稿モード、カラー濃度調整、ブラック濃度調整、手差し給紙、ブック両面、マガジンソート、2in1/4in1、最大コピー枚数、自動両面、ソートモードなどのコピー機能標準設定を行うことができます。

補 足

- カラーモード、カラー原稿モード、カラー濃度調整は、e-STUDIO4520C Seriesおよびe-STUDIO6530C Seriesで使用できます。
- e-STUDIO855 Seriesおよびe-STUDIO455 Seriesでは、ブラック原稿モードが「原稿モード」に、ブラック濃度調整が「濃度調整」になります。

ファクス設定
自局名称、自局番号、自局番号（回線2）、呼び出しベル音量、モニタ音量、終了音音量、受信方法、リモート受信、ダイヤルタイプ、ダイヤルタイプ（回線2）、回線2設定、解像度、原稿モード、濃度調整、発信元記録、受信元記録、ECM、切り捨て印刷、縮小印刷、両面印刷、縦横交互排紙、復活送信、通信管理記録自動印刷、メモリ送信結果表、同報送信結果表、ポーリング結果表、中継子局結果表などのファクス機器設定を行うことができます。

注 意

ファクス設定は、本機にFAXユニットを装着した場合にのみ有効です。

共有フォルダに保管設定
本体保存先、期間、宛先、リモート1、リモート2、N/Wファクス、N/Wファクスの保管先など、共有フォルダに保管機能の設定を行うことができます。

Eメール設定
送信者アドレス、送信者名、ファイル形式、分割送信サイズ、本文など、Eメール送信機能の設定を行うことができます。

インターネットファクス設定
送信者アドレス、送信者名、分割ページサイズ、本文など、インターネットファクス機能の設定を行うことができます。

プリンタ設定
プライベート印刷・お試し印刷のデータ保持日数、両面印刷、用紙サイズ、用紙タイプ、用紙向き、ステイプル、排紙トレイ、PCLフォームライン、PCLフォントピッチ、PCLフォントサイズ、PCLフォント番号、LT<-->A4/LD<-->A3、A4ワイド印刷モード（PCL）、スタートページ印刷などのプリンタ設定を行うことができます。

プリントサービス設定
Raw TCP印刷、LPD印刷、IPP印刷、FTP印刷、NetWare印刷、Eメール印刷などの印刷サービスの設定を行うことができます。

■ TopAccessからの保守について

TopAccessの管理者モードから以下の保守操作を行うことができます。

クライアントソフトウェアのアップロード

本機に保存されたクライアントソフトウェアを更新することができます。新しいクライアントソフトウェアがリリースされたときには、管理者は本機のクライアントソフトウェアを 必ずアップロードしてください。各クライアントは、TopAccessから最新バージョンのクライアントソフトウェアをインストールすることができるようになります。

クライアントソフトウェアの削除

本機に保存されたクライアントソフトウェアを削除することができます。

バックアップファイルの作成

アドレス帳、メールボックス（Fコード）、テンプレートのデータをバックアップ用のファイルとして保存することができます。

バックアップファイルの復元（リストア）

バックアップファイルを使いアドレス帳、メールボックス（Fコード）、テンプレートのデータを復元（リストア）することができます。

共有フォルダのデータ削除

本機の共有フォルダに保管されたデータを削除することができます。ディスクの空き容量を確保するために、この機能を定期的に実行し不必要なデータを削除してください。

ディレクトリサービスの登録

LDAPサーバーのディレクトリサービスを追加／削除することができます。LDAPサーバーを登録すると、クライアントは登録されたLDAPサーバーのデータを検索し、アドレス帳に新しいEメールアドレスを追加することができます。

通知設定

特定のイベントが本機に発生したときに、Eメール通知をするかしないかの設定を行うことができます。通知が送信されるEメールアドレスを指定します。

インポート

CSV形式のアドレス帳および部門コードのファイルを本機に読み込ませること（インポート）ができます。

エクスポート／ログのクリア

アドレス帳、印刷ログ、送信管理記録、受信管理記録、スキャンログ、メッセージログ、および部門コードをCSV形式のファイルとして取り出すこと（エクスポート）ができます。また、本機の印刷ログ、送信管理記録、受信管理記録、スキャンログ、メッセージログをクリアすることができます。

再起動

本機を再起動することができます。

■ TopAccessからの登録について

TopAccessの管理者モードから以下の登録を行うことができます。

共有テンプレートの登録

すべてのユーザが使用可能な共有テンプレートを登録することができます。

ファクス受信転送、インターネットファクス受信転送の登録

受信したファクスあるいはインターネットファクスを中継送信するためのエージェントを登録することができます。これらのエージェントを使って、管理者はほかのインターネットファクス機器に受信した原稿を転送したり、ハードディスクにファイルとして保存することができます。また、特定のEメールアドレスに送信したり、ボックスに保存することもできます。

注 意

ファクス受信転送は、本機にFAXユニットが装着されている場合にのみ登録できます。

■ TopAccessを使ったその他の管理機能について

メッセージログの確認

TopAccessの管理者モードでメッセージログを表示させることができます。

部門コードの登録

［カウンタ］タブから部門コードを管理することができます。

ユーザ管理の設定

部門管理設定、ユーザ管理設定およびEメール送信のユーザ認証の設定を行うことができます。

TopAccess管理者モードの起動

本機で使用できるWebベースのユーティリティであるTopAccessは、インターネットや社内イントラネットを経由し本機をリモート管理することができます。
TopAccessを操作するには、本機をネットワークに接続しTCP/IP設定をあらかじめ行っておく必要があります。TCP/IP設定後は、Internet ExplorerやFirefoxなどのWebブラウザを使って、ご使用のコンピュータからTopAccessホームページにアクセスして各種機能を操作することができます。
WebベースユーティリティのTopAccessは、Windows、MacintoshまたはUNIX環境から操作することができます。

TopAccessの管理者ページにアクセスする

TopAccess Webユーティリティは、WebブラウザのURLにアドレスを入力することにより起動します。Windows Vistaにおいては、LLTD（Link Layer Topology Discovery）機能で［ネットワークマップ］からネットワークの接続状態を確認し、表示された本機のアイコンから起動することができます。
ここでは、WebブラウザのURLにアドレスを入力する例で説明します。
Windows Vistaでネットワークマップのアイコンから起動する場合は、📖 P.12 「ネットワークマップのアイコンから起動する（Windows Vista）」を参照してください。TopAccess Webページの表示以降の手順は同じです。

1 TopAccessを起動するには、Webブラウザを起動し URL欄に以下のように入力します。

`http://<IPアドレス>` または `http://<装置名>`

例：

本機のIPアドレス（IPv4）が「10.10.70.120」のとき

`http://10.10.70.120`

本機のIPアドレス（IPv6）が「3ffe:1:1:10:280:91ff:fe4c:4f54」のとき

`3ffe-1-1-10-280-91ff-fe4c-4f54.ipv6-literal.net`

または

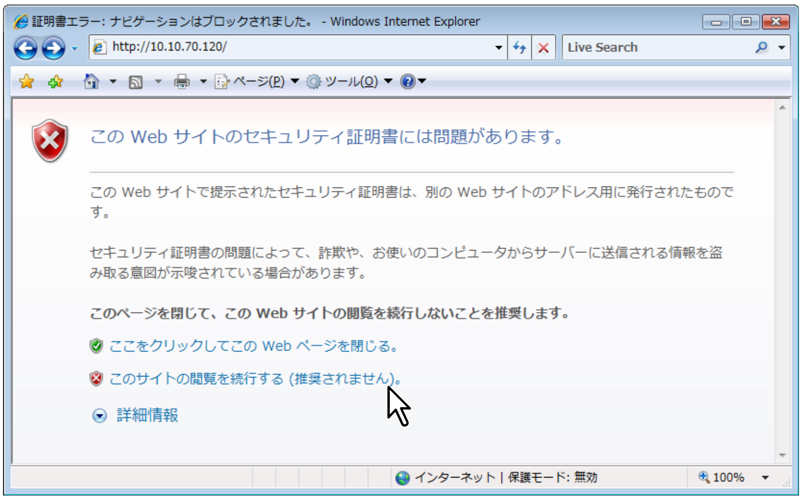
http://[3ffe:1:1:10:280:91ff:fe4c:4f54]

本機のデバイス名が「mfp_04998820」のとき

`http://mfp-04998820`

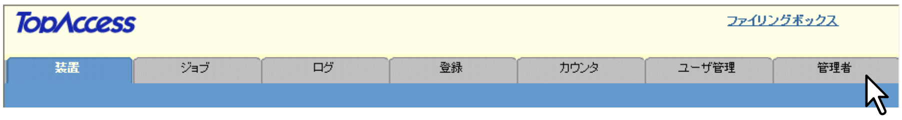
注 意

HTTPネットワークサービスでSSLが有効に設定されている場合は、TopAccessのアドレスを入力すると警告メッセージが表示されることがあります。その場合は、［このサイトの閲覧を続行する（推奨されません）。］をクリックして操作を続けてください。



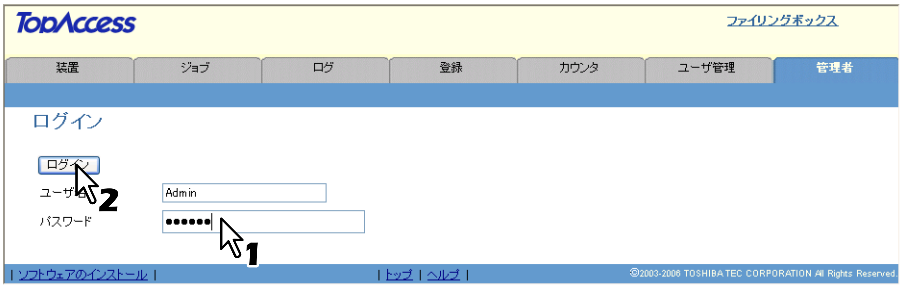
2 TopAccessのWebページが表示されます。

3 ［管理者］タブをクリックします。



ログインページが表示されます。

4 ［パスワード］ボックスに管理者用のパスワードを入力し、［ログイン］をクリックします。

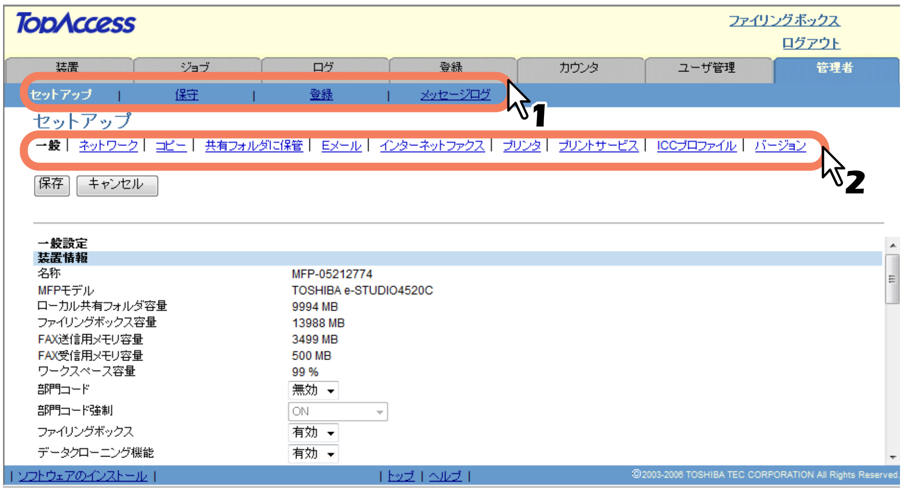


- ユーザ名のボックスは変更しないでください。TopAccessの管理者モードのログイン時は、常に「Admin」でログインする必要があります。
- セットアップページが表示されます。

補 足

工場出荷時の状態では、管理者パスワードは「123456」に設定されています。

5 メニューとサブメニューをクリックし、目的のページを表示します。



補 足

ページ右上の［ログアウト］リンクをクリックすると、管理者ページからログアウトすることができます。

TopAccessからセットアップする（管理者モード）

ここでは、TopAccessを使って本機を設定する方法について説明します。

📖 P.112 「装置設定をセットアップする」
📖 P.121 「ネットワーク設定をセットアップする」
📖 P.175 「コピー設定をセットアップする」
📖 P.178 「ファクス設定をセットアップする」
📖 P.182 「共有フォルダに保管設定をセットアップする」
📖 P.190 「Eメール設定をセットアップする」
📖 P.193 「インターネットファクス設定をセットアップする」
📖 P.195 「プリンタ設定をセットアップする」
📖 P.201 「プリントサービス設定をセットアップする」
📖 P.208 「ICCプロファイル設定をセットアップする」
📖 P.215 「バージョン情報を表示する」

注 意

用紙カセットの用紙サイズの設定は、TopAccessから行うことはできません。本機操作パネルより行ってください。設定方法については、**コピーガイド**を参照してください。

■ 装置設定をセットアップする

管理者は［セットアップ］メニューの［一般］サブメニューのページから、装置情報、節電、日付、時刻やWebの全般的な設定などの一般設定をセットアップすることができます。

注 意

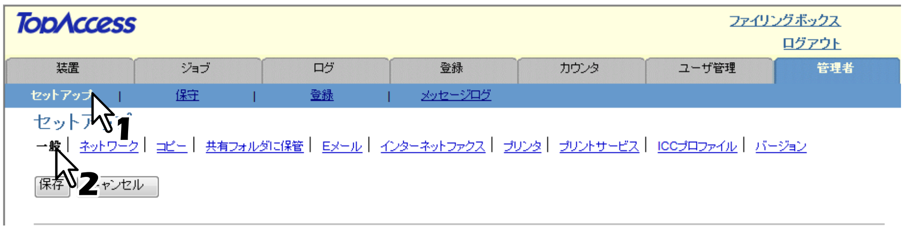
設定を変更しても、設定した内容がすぐに本体タッチパネルに反映されないことがあります。設定を変更した場合は、操作パネルの［リセット］ボタンを押すか、オートクリアされると反映されます。

装置設定のセットアップ手順

1 TopAccessの管理者モードを起動します。

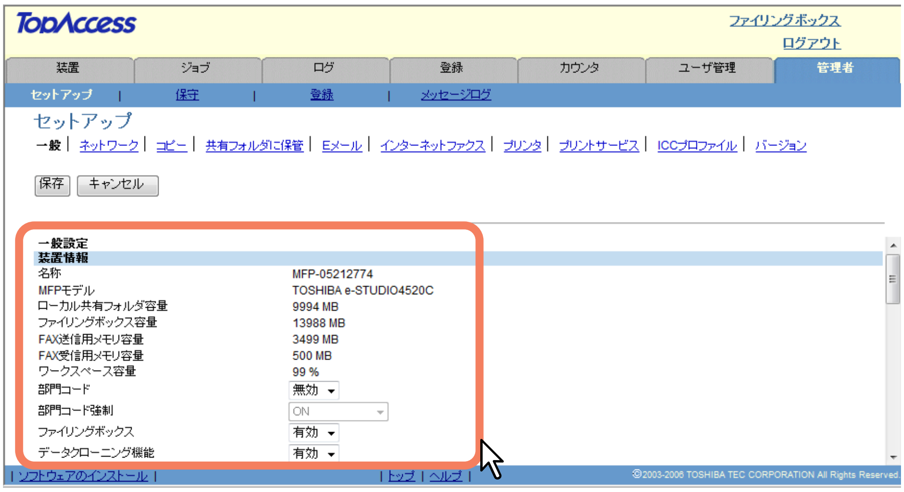
📖 P.110 「TopAccess管理者モードの起動」

2 ［セットアップ］メニューをクリックし、［一般］サブメニューをクリックします。



一般サブメニューページが表示されます。

3 必要に応じて、装置設定をセットアップします。



このページでは、以下の設定を行うことができます：

P.114 「装置情報の設定」
P.116 「ファイリングボックス通知情報イベントの設定」
P.116 「節電モードの設定」
P.117 「日付と時間の設定」
P.118 「サマータイム設定」
P.118 「WEB設定」
P.119 「内蔵ブラウザ設定」

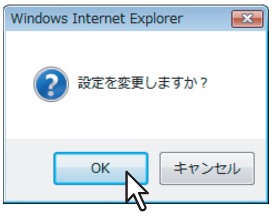
4 ［保存］をクリックします。

保存の確認ダイアログボックスが表示されます。

補 足

設定を保存する前に［キャンセル］をクリックすると、設定を保存せずに現在の設定状態に戻します。［キャンセル］をクリックしても、工場出荷時の設定に戻すことはできません。［キャンセル］ボタンは、設定を保存する前に、変更した設定をクリアしてすべて現在の設定状態に戻したい場合に、クリックします。

5 ［OK］をクリックし、変更を適用します。



注 意

Internet Explorerをお使いの場合、［保存］をクリックして設定の変更を保存した後も、画面上に表示された設定の値が更新されないことがありますが、設定は正常に適用されています。この場合、サブメニューをクリックして画面を更新すると、現在の設定状態で各項目の値が表示されます。

□ 装置情報の設定

［装置］タブページに表示される装置情報の内容を設定します。

1) 名称
本機の装置名を表示します。

2) MFPモデル
本機のモデル名を表示します。

3) シリアル番号
本機のシリアル番号を表示します。

4) ローカル共有フォルダ容量
本機のローカルフォルダの空き容量を表示します。

5) ファイリングボックス容量
本機のファイリングボックスの空き容量を表示します。

6) FAX送信用メモリ容量
本機のファクス送信用メモリの空き容量を表示します。

7) FAX受信用メモリ容量
本機のファクス受信用メモリの空き容量を表示します。

8) ワークスペース容量
テンポラリデータの保存に使用可能なハードディスクの空き容量をパーセンテージで表示します。

9) 部門コード
本機の部門管理設定を有効にするかしないかを設定します。

10) 部門コード強制

本体で部門コードが有効に設定されている場合に、部門コードが設定されていない印刷ジョブまたは不正な部門コードが設定されている印刷ジョブを印刷するかしないかを設定します。

- **ON**：部門コードが設定されていないまたは不正な印刷ジョブを、印刷せずに「部門コードなし」の印刷ジョブとして保留します。
- **強制的に印刷**：不正な印刷ジョブを印刷します。
- **強制的に削除**：不正な印刷ジョブを保留せずに削除します。

注 意

- 部門コード強制を［ON］に設定し、プリンタドライバで双方向通信が有効になっている場合は、プリンタドライバで不正な部門コードを入力すると、正しい部門コードを入力するようメッセージが表示されるようになります。
- ユーザ管理設定を有効にした場合は、部門コード強制の設定は使用されません。

11) ファイリングボックス

本機のファイリングボックス機能を有効にするか無効にするかを選択します。

12) データクローニング機能

サービスエンジニアが、アドレス帳などのユーザデータをほかの機体に移行する場合に有効にします。サービスエンジニアから依頼があった場合は、有効に設定してください。作業終了後は、必ず無効に設定し直してください。

13) USBメディアを使用

USBメディアを利用した機能を有効にするか無効にするかを選択します。

14) USBダイレクト印刷

USBダイレクト印刷機能を有効にするか無効にするかを選択します。

15) キュー名

SMB印刷用のプリントキュー名を表示します。このプリントキュー名が、クライアントソフトウェアのインストーラを使ってプリンタドライバをインストールする際に、ネットワーク検索機能を使ってプリントキューを指定する場合に自動的に取得されるキュー名となります。

16) 設置場所

本機の設置場所を入力します。この情報は、ユーザがTopAccessを起動したときに開かれる［装置］タブページに表示されます。

17) 連絡先

本機を管理する担当者の名前を入力します。この情報は、ユーザがTopAccessを起動したときに開かれる［装置］タブページに表示されます。

18) サービス電話番号

本機のサービス担当者の電話番号を入力します。この情報は、ユーザがTopAccessを起動したときに開かれる［装置］タブページに表示されます。

19) 管理者メッセージ

ユーザに通知したい本機に関するメッセージを入力します。この情報は、ユーザがTopAccessを起動したときに開かれる［装置］タブページに表示されます。

20) 管理者パスワード

本機のタッチパネル画面およびTopAccessから管理者機能にログインするための管理者パスワードを変更したい場合は、新しいパスワードを入力します。パスワードには、6文字以上10文字以下の英数字を使用することができます。管理者パスワードを空欄にすることはできません。

21) パスワードの確認

管理者パスワードを変更したい場合は、［管理者パスワード］に入力した新しいパスワードを、もう一度入力します。

□ ファイリングボックス通知情報イベントの設定

ファイリングボックスに保存されたファイルの保存期限を知らせるEメールの送信条件を設定します。

1) 文書削除事前通知
ファイリングボックス内のファイルの保存期限が迫ったことを知らせるEメールを、保存期限の何日前に送信するかを選択します。日数は0（通知しない）または1～99日の範囲で設定することができます。

□ 節電モードの設定

オートクリア時間、および本機が自動節電モードやスリープモードに入る時間を設定します。節電モードの種類や移行手順については、**クイックスタートガイド**を参照してください。

1) オートクリア
本機のアイドル状態が続いた場合に、タッチパネル画面をデフォルト表示およびデフォルト設定に戻すまでの時間を選択します。

2) 自動節電時間
本機のアイドル状態が続いた場合に、自動的に低電力モードに移行するまでの時間を選択します。

3) スリープ移行時間
本機のアイドル状態が続いた場合に、自動的にスリープモードまたはスーパースリープモードに移行するまでの時間を選択します。

補 足

- スリープモードおよびスーパースリープモードでは、本機の待機時に不要な部分への通電を遮断します。節電モード設定では、スーパースリープモードの消費電力が一番小さくなり、スリープモード、低電力モードの順に待機時の消費電力が大きくなります。
- 本機の動作状態によっては、設定時間どおりに移行しない場合があります。
- e-STUDIO4520C Seriesおよびe-STUDIO6530C Seriesでは、「自動オフ時間」になります。

4) スーパースリープ
本機の低電力モードが一定時間経過した場合、または本機操作パネルの［節電］ボタンを押した場合に、スリープモードに移行するか、スーパースリープモードに移行するかを設定します。設定を「有効」にすると、スーパースリープモードに移行します。

注 意

- 本機にオプションの無線LANモジュール、Bluetoothモジュール、データ消去オプション、e-BRIDGE ID Gateが装着されている場合、またはIPsec機能（オプション）が有効な場合は、この設定を「有効」にしてもスーパースリープモードに移行しません。
- スーパースリープモード中の本機をネットワーク検索できないなど、ネットワーク接続できない場合は、検索などを再試行してください。
- この機能はe-STUDIO455 Seriesおよびe-STUDIO855 Seriesで使用できます。

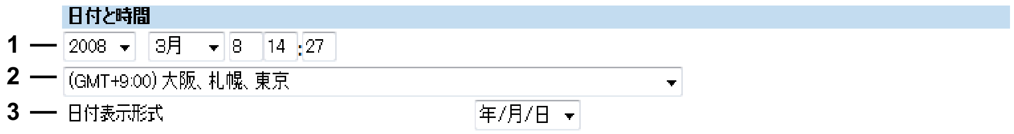
本機がスーパースリープモードに移行するには、以下のネットワーク設定を行う必要があります。
- TCP/IP設定でアドレス設定方法をマニュアルに設定する。
  📖 P.123 「TCP/IPの設定」
- IPv6設定でIPv6使用を無効に、またはIPv6アドレスをマニュアルに設定する。
  📖 P.127 「IPv6の設定」

- IPX/SPX設定でIPX/SPX使用を無効に設定する。
  📖 P.128 「IPX/SPXの設定」
- AppleTalk設定でAppleTalk使用を無効に設定する。
  📖 P.129 「AppleTalkの設定」
- POP3設定でポーリングレートを0分に設定する。
  📖 P.142 「POP3の設定」
- IPセキュリティ設定でIPsec使用を無効に設定する。
  📖 P.323 「IPセキュリティの設定」
- IEEE802.1X認証を無効にする。
  有線LAN環境におけるIEEE802.1X認証方法については、設定管理ガイドの以下の章を参照してください。
  第2章「設定項目（管理者設定）」－「IEEE 802.1X認証設定」

本機のスーパースリープモード中のネットワークアクセス設定については、以下のページを参照してください。
📖 P.173 「スーパースリープモードからの復帰設定」

□ 日付と時間の設定

日付、時刻、タイムゾーン、日付表示形式を設定します。



1) 日付と時間
左から年、月、日、時、分の順に、年月日および時刻の値を各ボックスにそれぞれ入力または選択します。

2) タイムゾーン
本機を設置する場所のタイムゾーンを選択します。

3) 日付表示形式
日付表示のフォーマットを選択します。

□ サマータイム設定

サマータイムへの切り替えに必要な設定をここで行います。

1) サマータイム
サマータイムへの切り替えを行う場合には［有効］を選択します。初期値は［無効］です。

2) 標準時間との差
現地標準時間からの時間差を選択します。0時間を除く -2時間から +2時間までを、30分単位で選択できます。初期値は +1時間です。

3) 日時
サマータイムの適用期間を設定します。
- 開始: サマータイムの開始日時を選択または入力します。
- 終了: サマータイムの終了日時を選択または入力します。

補 足

- サマータイムの適用期間中に設定を変更すると、変更内容がそのまま本機の時刻に反映されます。適用期間中に設定を［無効］にした場合は、標準時間に切り替わります。
- 設定した切り替え日時に本機の電源が入っていない場合、次回起動時に切り替えを行います。
- 切り替え後はウィークリータイマーにもサマータイムが適用されます。

注 意

- 切り替え日時の［開始］と［終了］は、本機に設定された時間を基準に設定してください。📖 P.117「日付と時間の設定」
- 切り替え日時の［開始］と［終了］が同月に設定された場合は、自動切り替えを行いません。

□ WEB設定

TopAccessの表示言語と、自動的に管理者モードからログアウトするセッションタイマを設定します。

1) 言語選択
TopAccessの表示言語を選択します。

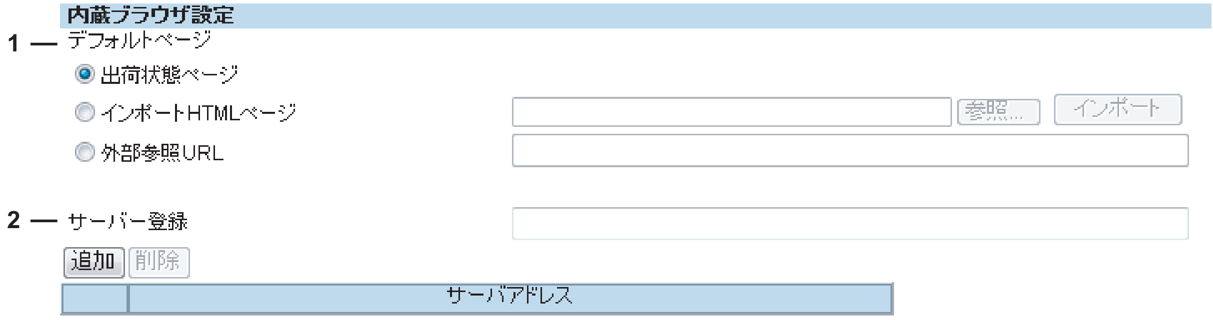
2) セッション確保時間
TopAccessのセッションデータを保持する時間を入力します。5から999の範囲を整数で入力します。この設定は、ファイリングボックスWebユーティリティのセッションデータを保持する時間としても適用されます。

□ 内蔵ブラウザ設定

操作パネル上にWebページを表示させる「EWB（Embedded Web Browser）機能」を設定します。

注 意

EWB（Embedded Web Browser）機能を使用するには、オプションの外部連携オプション（GS-1020）が必要です。



1) **デフォルトページ**
EWB機能で使用するデフォルトページを選択します。
- **出荷状態ページ**：工場出荷状態のデフォルトページです。
- **インポートHTMLページ**：EWB機能で使用するデフォルトページを、HTMLファイルで本機にインポートします。HTMLファイルをインポートすると、デフォルトページの設定はインポートされたHTMLファイルへのリンクになります。
  ＊　この機能はe-STUDIO455 Seriesおよびe-STUDIO855 Seriesで使用できます。
- **外部参照URL**：EWB機能で使用するデフォルトページのアドレスを入力します。

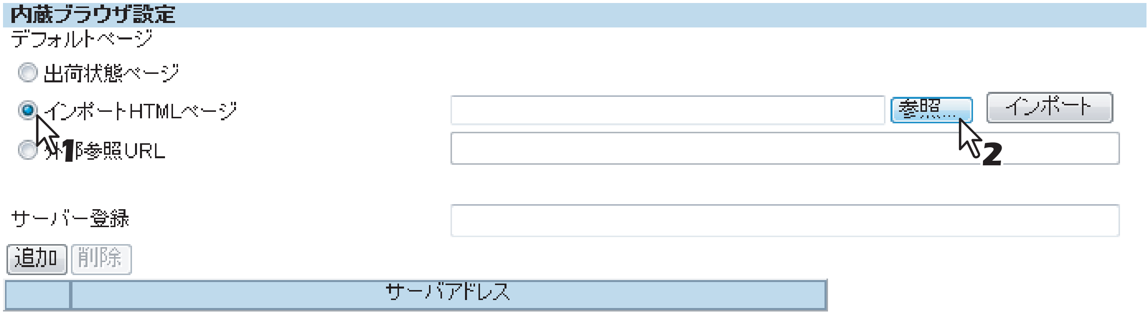
2) **サーバー登録**
EWB機能で使用するサーバーのアドレスを入力します。

EWBデフォルトHTMLをインポートする

補 足

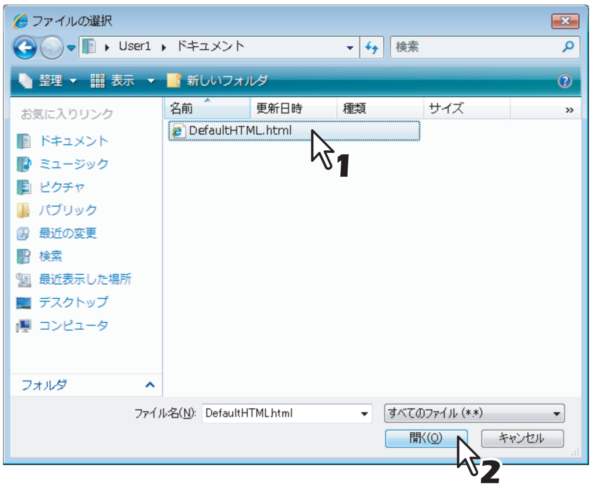
この機能はe-STUDIO455 Seriesおよびe-STUDIO855 Seriesで使用できます。

1 EWB機能でデフォルトHTMLを登録する場合は、「インポートHTMLページ」を選択し、［参照］をクリックします。



［ファイルの選択］ダイアログボックスが表示されます。

2 目的のHTMLファイルを選択し、［開く］をクリックします。



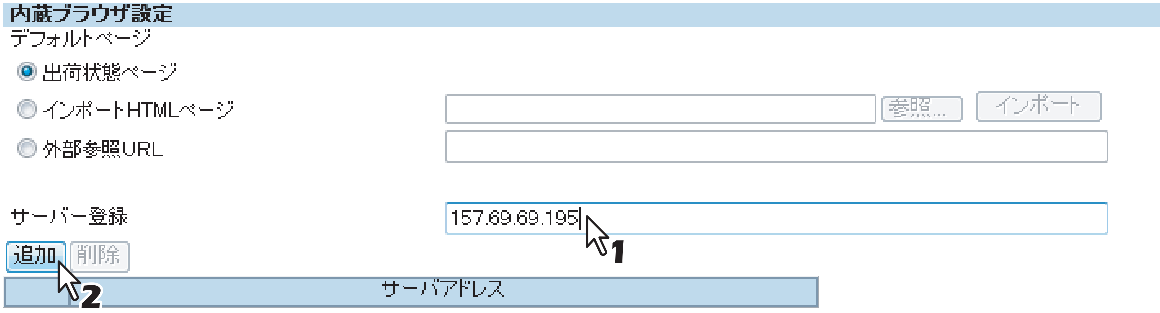
3 ［インポート］をクリックします。

HTMLファイルが本機にインポートされます。

4 ［一般］サブメニューのページで［保存］をクリックします。

サーバーを登録する

1 EWB機能でサーバーを登録する場合は、サーバーのアドレスを入力し、［追加］をクリックします。

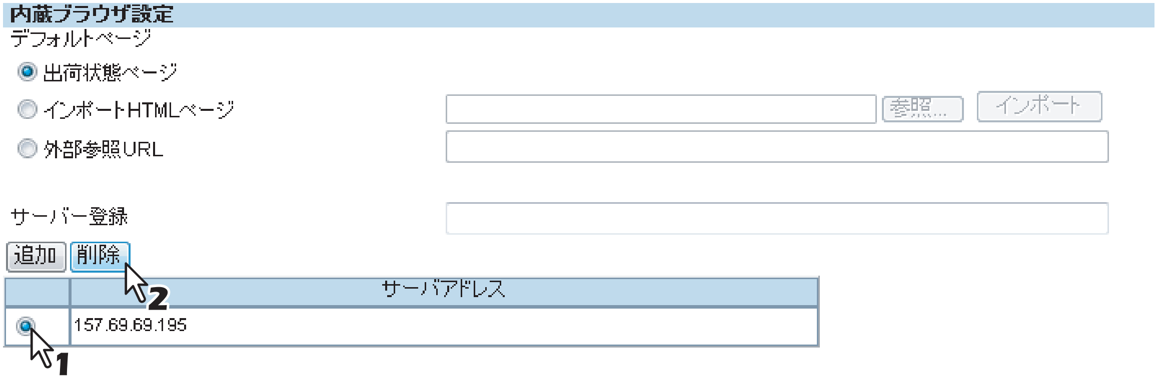


サーバーが登録されます。
同じ手順を繰り返し、複数のサーバーを登録することができます。

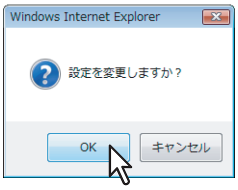
2 ［一般］サブメニューのページで［保存］をクリックします。

サーバーを削除する

1 **EWB機能でサーバーを削除する場合は、削除するサーバーを選択し、［削除］をクリックします。**



2 **［OK］をクリックします。**



サーバーが削除されます。

3 **［一般］サブメニューのページで［保存］をクリックします。**

■ ネットワーク設定をセットアップする

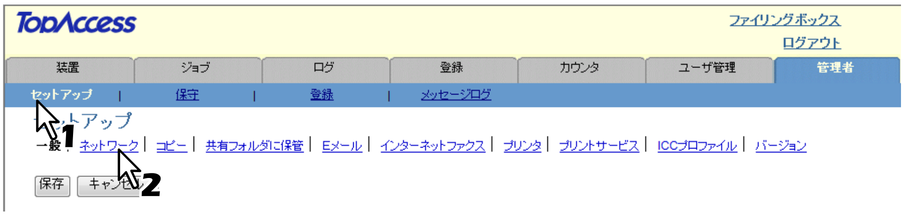
管理者は［セットアップ］メニューの［ネットワーク］サブメニューから、TCP/IP、フィルタリング、IPX/SPX、AppleTalk、Bonjour、LDAP、DNS、DDNS、SMB、NetWare、HTTP、SMTP クライアント 、SMTP サーバー、POP3、SNTP設定、FTPクライアント、FTPサーバー、SNMP、セキュリティ設定などのネットワーク設定をセットアップすることができます。

ネットワーク設定のセットアップ手順

1 **TopAccessの管理者モードを起動します。**

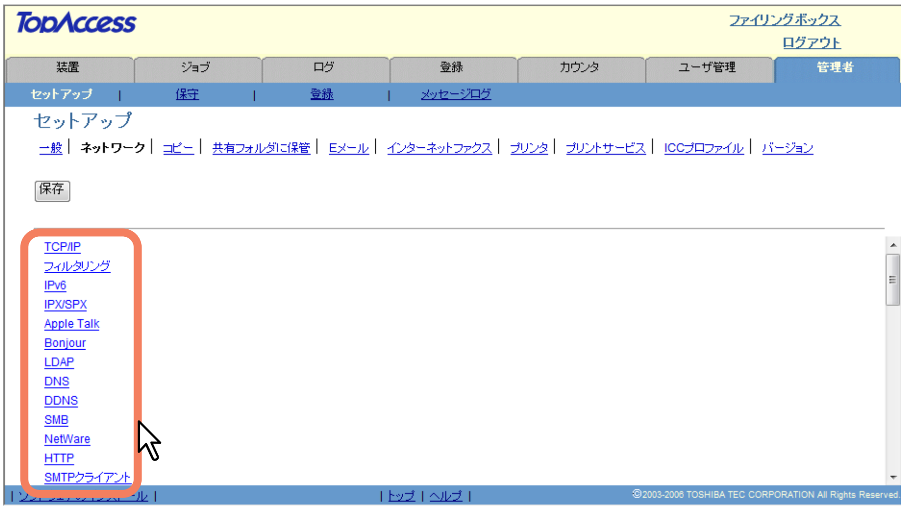
P.110 「TopAccess管理者モードの起動」

2 **［セットアップ］メニューをクリックし、［ネットワーク］サブメニューをクリックします。**



ネットワークサブメニューページが表示されます。

3 リンクをクリックするかページをスクロールして、設定を変更するネットワーク設定の表を表示し、ボタンをクリックして必要に応じてネットワーク設定をセットアップします。



このページでは、以下の設定を行うことができます：

📖 P.123 「TCP/IPの設定」
📖 P.126 「フィルタリングの設定」
📖 P.127 「IPv6の設定」
📖 P.128 「IPX/SPXの設定」
📖 P.129 「AppleTalkの設定」
📖 P.129 「Bonjourの設定」
📖 P.130 「LDAPの設定」
📖 P.131 「DNSの設定」
📖 P.132 「DDNSの設定」
📖 P.134 「SMBの設定」
📖 P.137 「NetWareの設定」
📖 P.138 「HTTPの設定」
📖 P.139 「SMTPクライアントの設定」
📖 P.141 「SMTPサーバーの設定」
📖 P.142 「POP3の設定」
📖 P.143 「SNTPの設定」
📖 P.144 「FTPクライアントの設定」
📖 P.144 「FTPサーバーの設定」
📖 P.145 「SLPの設定」
📖 P.146 「SNMPの設定」
📖 P.151 「セキュリティの設定」
📖 P.172 「Web Serviceの設定」
📖 P.173 「LLTDの設定」
📖 P.173 「スーパースリープモードからの復帰設定」

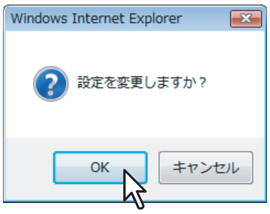
4 ［保存］をクリックします。

保存の確認ダイアログボックスが表示されます。

補 足

設定を保存する前に［キャンセル］をクリックすると、設定を保存せずに現在の設定状態に戻します。［キャンセル］をクリックしても、工場出荷時の設定に戻すことはできません。［キャンセル］は、設定を保存する前に、変更した設定をクリアしてすべて現在の設定状態に戻したい場合に、クリックします。

5 ［OK］をクリックし、変更を適用します。



ネットワークインターフェイスカードの初期化を開始します。

注 意

ネットワークインターフェイスカードを初期化中は、ネットワークが無効になり、TopAccessでは「2～3分ほど待ってからつなぎ直してください。」が表示されます。また、本機のタッチパネルに「NIC初期化中」が表示されます。これらのメッセージが消えたら、TopAccessが再び使用できるようになります。

□ TCP/IPの設定

TCP/IPを介した通信を有効にするには、TCP/IPプロトコルを設定します。TopAccess、SMB印刷、Raw TCPまたはLPR印刷、IPP印刷、Eメール送信、インターネットファクスの各機能を使用するには、TCP/IPを設定する必要があります。

1) Ethernet通信速度／方式

Ethernet通信速度を選択します。

注 意

- 特定の Ethernet 速度を選択する場合は、接続しているネットワークの速度と同じ設定にする必要があります。Ethernetの設定が分からない場合は、［自動］を選択してください。
- 設定を行ってもネットワークの接続が不安定な場合は、本機の電源を一度オフにした後、再度オンにしてください。

2)　アドレス設定方法

IPアドレスの設定方法を選択します。

- **マニュアル**：固定のIPアドレスを手動で設定します。このオプションを選択したときは、［IPアドレス］ボックスにIPアドレスを入力します。
- **自動**：AutoIP機能またはDHCPを使って、IPアドレスを自動で割り付けます。ネットワークがDHCPをサポートしている場合は、IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、プライマリWINSサーバーアドレス、セカンダリWINSサーバーアドレス、POP3サーバーアドレス、SMTPサーバーアドレスを自動的にDHCPサーバーから取得することができます。ネットワークがDHCPをサポートしていない場合は、AutoIP機能を使用してIPアドレスを割り付けます。
- **自動IPなし**：AutoIP機能を使用せずDHCPのみを使ってIPアドレスを自動で割り付けます。ネットワークがDHCPをサポートしている場合はIPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、プライマリWINSサーバーアドレス、セカンダリWINSサーバーアドレス、POP3サーバーアドレス、SMTPサーバーアドレスを自動的にDHCPサーバーから取得することができます。DHCPサーバーと通信できない場合は、前回使用したIPアドレスをそのまま使用します。

3)　ドメイン名の取得

ドメイン名をDHCPサーバーから自動的に取得する場合は、有効に設定します。この設定は［アドレス設定方法］オプションで［自動IPなし］または［自動］が設定されている場合のみ適用されます。

注 意

DHCPサーバーがドメイン名のデータを持っていない場合は、DDNS設定のドメイン名に手動で正しい値を設定しても、反映されず値が空欄になります。その場合は、この設定を［無効］に設定し、DDNS設定で正しいドメイン名を入力してください。

P.132 「DDNSの設定」

4)　ドメインサーバアドレス取得

ドメインサーバーアドレスをDHCPサーバーから自動的に取得する場合は、有効に設定します。この設定は［アドレス設定方法］オプションで［自動IPなし］または［自動］が設定されている場合のみ適用されます。

注 意

DHCPサーバーがプライマリおよびセカンダリDNSサーバーアドレスのデータを持っていない場合は、DNS設定のプライマリおよびセカンダリDNSサーバーアドレスに手動で正しい値を設定しても、反映されず値が空欄になります。その場合は、この設定を［無効］に設定し、DNS設定で正しいプライマリおよびセカンダリDNSサーバーアドレスを入力してください。

P.131 「DNSの設定」

5)　WINSサーバアドレス取得

WINSサーバーアドレスをDHCPサーバーから自動的に取得する場合は、有効に設定します。この設定は［アドレス設定方法］オプションで［自動IPなし］または［自動］が設定されている場合のみ適用されます。

注 意

DHCPサーバーがプライマリおよびセカンダリWINSサーバーアドレスのデータを持っていない場合は、SMB設定のプライマリおよびセカンダリWINSサーバーアドレスに手動で正しい値を設定しても、反映されず値が空欄になります。その場合は、この設定を［無効］に設定し、SMB設定で正しいプライマリおよびセカンダリWINSサーバーアドレスを入力してください。

P.134 「SMBの設定」

6) SMTPサーバアドレス取得

SMTPサーバーアドレスをDHCPサーバーから自動的に取得する場合は、有効に設定します。この設定は［アドレス設定方法］オプションで［自動IPなし］または［自動］が設定されている場合のみ適用されます。

注 意

DHCPサーバーがSMTPサーバーアドレスのデータを持っていない場合は、SMTPクライアント設定のSMTPサーバーアドレスに手動で正しい値を設定しても、反映されず値が空欄になります。その場合は、この設定を［無効］に設定し、SMTPクライアント設定で正しいSMTPサーバーアドレスを入力してください。

📖 P.139 「SMTPクライアントの設定」

7) POP3サーバアドレス取得

POP3サーバーアドレスをDHCPサーバーから自動的に取得する場合は、有効に設定します。この設定は［アドレス設定方法］オプションで［自動IPなし］または［自動］が設定されている場合のみ適用されます。

注 意

DHCPサーバーがPOP3サーバーアドレスのデータを持っていない場合は、POP3設定のPOP3サーバーアドレスに手動で正しい値を設定しても、反映されず値が空欄になります。その場合は、この設定を［無効］に設定し、POP3設定で正しいPOP3サーバーアドレスを入力してください。

📖 P.142 「POP3の設定」

8) SNTPサーバアドレス取得

SNTPサーバーアドレスをDHCPサーバーから自動的に取得する場合は、有効に設定します。この設定は［アドレス設定方法］オプションで［自動IPなし］または［自動］が設定されている場合のみ適用されます。

注 意

DHCPサーバーがSNTPサーバーアドレスのデータを持っていない場合は、SNTP設定のSNTPサーバーアドレスに手動で正しい値を設定しても、反映されず値が空欄になります。その場合は、この設定を［無効］に設定し、SNTP設定で正しいSNTPサーバーアドレスを入力してください。

📖 P.143 「SNTPの設定」

9) IP衝突検出

IPアドレスの衝突を検出するかを設定します。［有効］に設定した場合、衝突を検出すると操作パネル上にメッセージが表示されます。

10) IPアドレス

［アドレス設定方法］ボックスで［マニュアル］を選択したときに、本機に設定する固定のIPアドレスを入力します。

11) サブネットマスク

［アドレス設定方法］ボックスで［マニュアル］を選択したときに、必要に応じてサブネットマスクを入力します。

12) ゲートウェイ

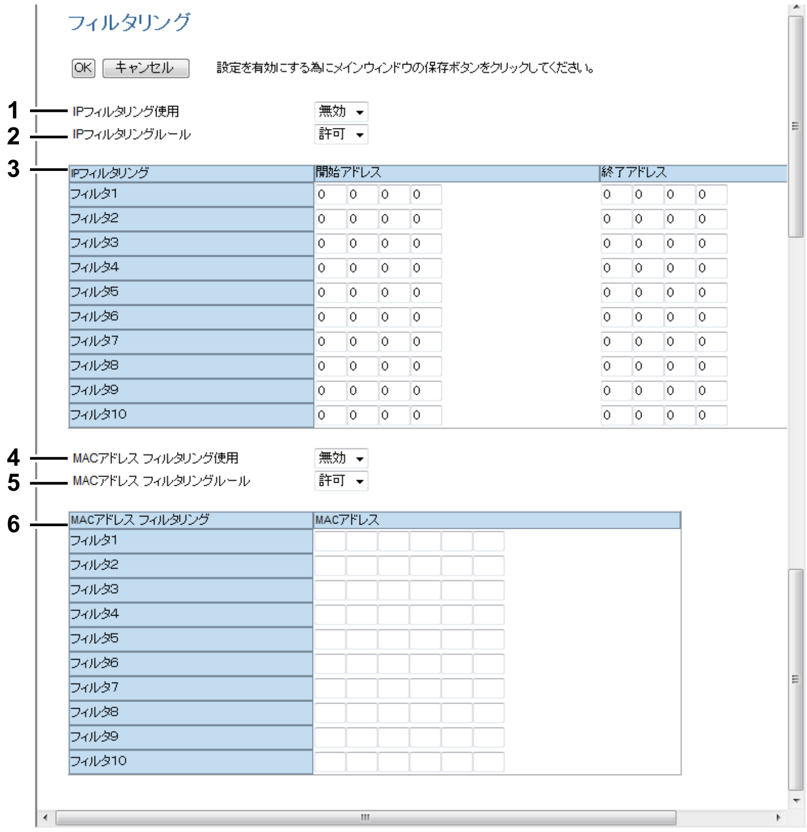
［アドレス設定方法］ボックスで［マニュアル］を選択したときに、必要に応じてゲートウェイアドレスを入力します。

□ フィルタリングの設定

本機へアクセスするクライアントを制限したい場合は、フィルタリングを設定します。フィルタリングの設定は、IPアドレスまたはMACアドレスで指定することができます。

注 意

IPアドレスのフィルタリング設定よりもMACアドレスのフィルタリング設定の方が、より優先的に使用されます。



1) IPフィルタリング使用

IPアドレスでフィルタリングをする場合、［有効］に設定します。この設定を［有効］にすると、［IPフィルタリングルール］で選択した条件で、［IPフィルタリング］で指定したIPアドレスが設定されたネットワーク上の機器からのアクセスを制限します。

注 意

IPフィルタリングは、IPv4で構築されたネットワーク環境でのみ有効となります。IPv6のネットワーク環境では使用できません。IPv6の環境でフィルタリングをしたい場合は、MACアドレスでフィルタリングしてください。

2) IPフィルタリングルール

IPフィルタリングの条件を設定します。

- **許可**：［IPフィルタリング］で指定したIPアドレスが設定されたネットワーク上の機器からのアクセスを、許可します。
- **拒否**：指定したIPアドレスが設定された機器からのアクセスを拒否します。

3) IPフィルタリング

IPフィルタリングするクライアントの開始IPアドレスと終了IPアドレスを入力します。最大10個の範囲を指定することができます。

注 意

IPアドレスは、IPv4のアドレスのみ指定できます。IPv6のアドレスは指定できません。

4) MACアドレス フィルタリング使用

MACアドレスでフィルタリングをする場合、［有効］に設定します。この設定を［有効］にすると、［MACアドレス フィルタリングルール］で選択した条件で、［MACアドレス フィルタリング］で指定したMACアドレスが割り当てられたネットワーク上の機器からのアクセスを制限します。

5) MACアドレス フィルタリングルール

MACアドレスフィルタリングの条件を設定します。

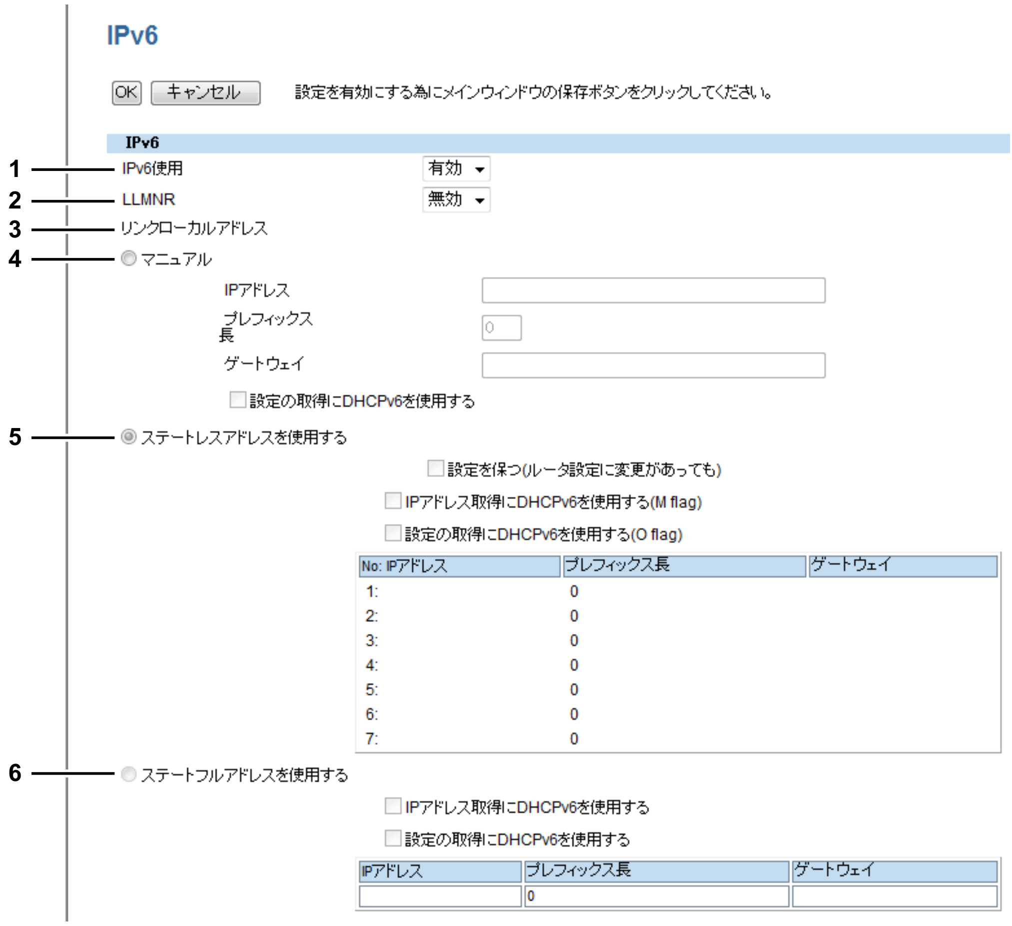
- **許可**：［MACアドレス フィルタリング］で指定したMACアドレスが割り当てられたネットワーク上の機器からのアクセスを許可します。
- **拒否**：指定したMACアドレスが割り当てられた機器からのアクセスを拒否します。

6) MACアドレス フィルタリング

MACアドレスフィルタリングするクライアントのMACアドレスを入力します。最大10個のアドレスを指定することができます。

□ IPv6の設定

IPv6を介した通信を有効にするには、IPv6プロトコルを設定します。



1) IPv6使用

IPv6プロトコルの有効／無効を選択します。

2) LLMNR

IPv6使用を有効にし、LLMNRの有効/無効を選択します。

3) リンクローカルアドレス

IPv6で使用する固有なIPアドレスが表示されます。

4) マニュアル

IPv6アドレスを手動で設定します。設定できるIPv6アドレスは1個です。

- **IPアドレス**：本機のIPアドレスを入力します。
- **プレフィックス長**：IPv6のプレフィックス長を入力します。
- **ゲートウェイ**：デフォルトゲートウェイのアドレスを入力します。
- **設定の取得にDHCPv6を使用する**：DHCPv6サーバーから通知されるDNSサーバーのIPv6アドレスなどのオプション情報を取得します。

補 足

- マニュアルを選択した場合、ステートフルアドレスは設定できません。
- IPv6アドレスが重複した場合は、DAD（Duplicate Address Detection）機能にて検知し、本機のタッチパネルに通知します。

5) ステートレスアドレスを使用する

ルーターから通知されるIPv6アドレス（ステートレスアドレス）を自動で取得します。

- **設定を保つ（ルータ設定に変更があっても）**：すでにIPv6アドレスを付与されているルーターから、異なるIPv6アドレスを付与された場合に、保持しているIPv6アドレスを残します。
- **IPアドレス取得にDHCPv6を使用する（M flag）**：ステートレスのネットワーク環境で、IPv6サーバーから通知されるIPv6アドレスを取得します。
- **設定の取得にDHCPv6を使用する（O flag）**：ステートレスのネットワーク環境で、DHCPv6サーバーから通知されるDNSサーバーのIPv6アドレスなどのオプション情報を使用します。
- **IPアドレス**：ステートレスアドレスを表示します。最大7個までのIPv6アドレスを保持することができます。

補 足

本機がMフラグに “0” が設定されているRA（Router Advertisement）をルーターから受信した場合は、DHCPv6機能は動作しません。ルーターの設定でRAのMフラグの設定を “1” に変更した場合は、DHCPv6機能を動作させるために本機の電源を一度オフにした後、再度オンにしてください。

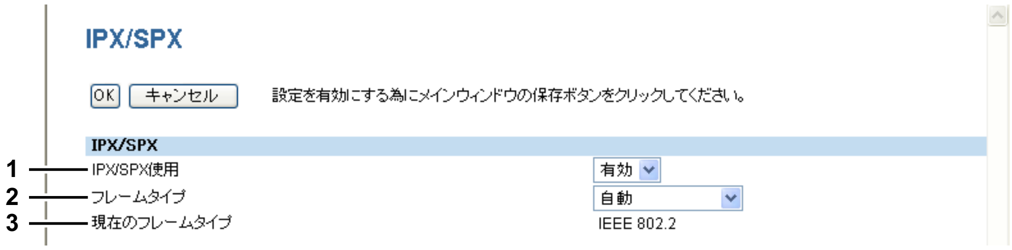
6) ステートフルアドレスを使用する

DHCPv6サーバーから通知されるIPv6アドレス（ステートフルアドレス）を自動で取得します。

- **IPアドレス取得後にDHCPv6を使用する**：DHCPv6サーバーから通知されるIPv6アドレスを使用します。
- **設定の取得にDHCPv6を使用する**：DHCPv6サーバーから通知されるIPv6アドレス以外のDNSサーバーのIPv6アドレスなどのオプション情報を使用します。
- **IPアドレス**：取得したステートフルアドレス、プレフィックス長、ゲートウェイを表示します。

□ IPX/SPXの設定

IPX/SPXを介した通信を有効にするには、IPX/SPXプロトコルを設定します。NetWare 5.1/6.0/6.5サーバーを使いIPX/SPXを介してNovell印刷機能を使用するには、IPX/SPXを設定する必要があります。



1) IPX/SPX使用

IPX/SPXプロトコルの有効／無効を選択します。IPX/SPXネットワークでNovell印刷をセットアップするには、有効を選択してください。

2) フレームタイプ

目的のフレームタイプを選択します。

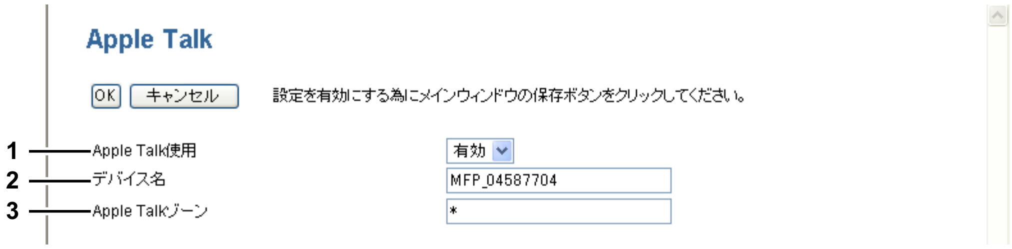
- <u>**自動**</u>：本機が最初に検出した、適切なフレームタイプを使用します。
- **IEEE 802.3/Ethernet II/IEEE 802.3 Snap/IEEE802.2**：［自動］の代わりに、これらのオプションから使用するフレームタイプを選択することもできます。

3) 現在のフレームタイプ

本機の実際のフレームタイプを表示します。

□ AppleTalkの設定

AppleTalkを介した通信を有効にするには、AppleTalkプロトコルを設定します。Macintoshコンピュータから AppleTalk印刷機能を使用するには、AppleTalkを設定する必要があります。



1) AppleTalk使用

AppleTalkプロトコルの有効／無効を選択します。AppleTalk印刷をセットアップするには、有効を選択してください。

2) デバイス名

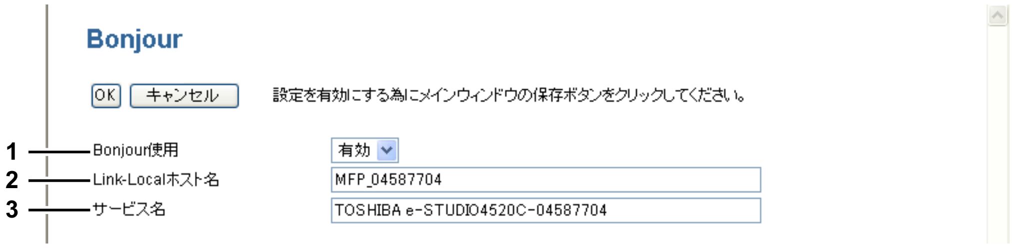
AppleTalkネットワークに表示される本機の装置名を入力します。

3) AppleTalkゾーン

必要に応じて本機が接続するゾーン名を入力します。入力しないと、本機はデフォルトゾーン「＊」に接続します。

□ Bonjourの設定

Mac OS XのBonjourネットワークの有効／無効を設定します。



1) Bonjour使用

Bonjourの有効／無効を選択します。

2) Link-Localホスト名

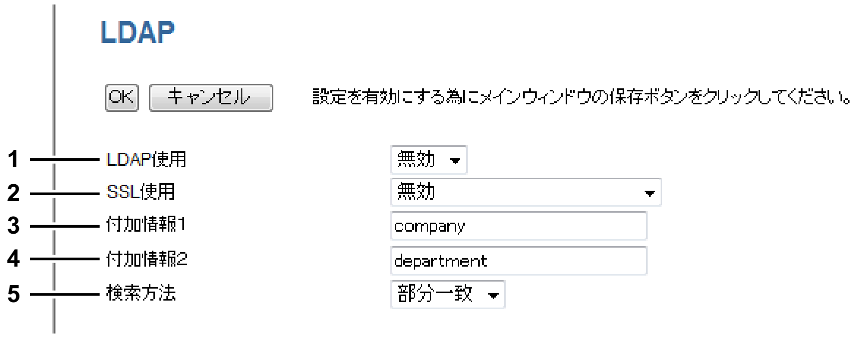
本機のDNS名を入力します。

3) サービス名

Bonjourネットワークに表示される本機の名称を入力します。

□ LDAPの設定

LDAPサーバーのアドレス帳を利用して宛先の検索や指定をしたい場合に、LDAPディレクトリサービスの有効／無効を設定します。



1) LDAP使用

LDAPの有効／無効を選択します。

2) SSL使用

LDAPにアクセスするときにSSL（Secure Sockets Layer）を有効にするか選択します。

- **無効**：SSLを無効にします。
- **登録された証明書を使用する**：本機に登録された証明書を使用してSSL認証を行う場合に選択します。
- **全ての証明書を受け入れる**：本機の登録された証明書を使用せずにSSL認証を行う場合に選択します。

注 意

- ［登録された証明書を使用する］を選択した場合は、セキュリティ設定でCA証明書を登録する必要があります。
  📖 P.151 「セキュリティの設定」
- 登録したLDAPディレクトリサービスのうち1つでもSSLを使用しているLDAPディレクトリサービスがある場合は、有効に設定します。有効に設定すると、LDAPサーバーにSSLを使用してアクセスし、接続できない場合はSSLを使用せずに再度LDAPサーバーに接続するようになります。したがって、有効に設定しても、SSLを必要としないLDAPディレクトリサービスにも接続することができます。
- SSLポート番号は、登録するLDAPディレクトリサービスごとに設定します。
  📖 P.227 「LDAPサービスを登録する」
- SSLを使用するには、サーバーのOSがSSLをサポートしている必要があります。

3) 付加情報1

LDAPサーバーの設定に対応するスキーマ名を入力します。

4) 付加情報2

LDAPサーバーの設定に対応するスキーマ名を入力します。

5) 検索方法

LDAP検索時の検索方法を選択します。

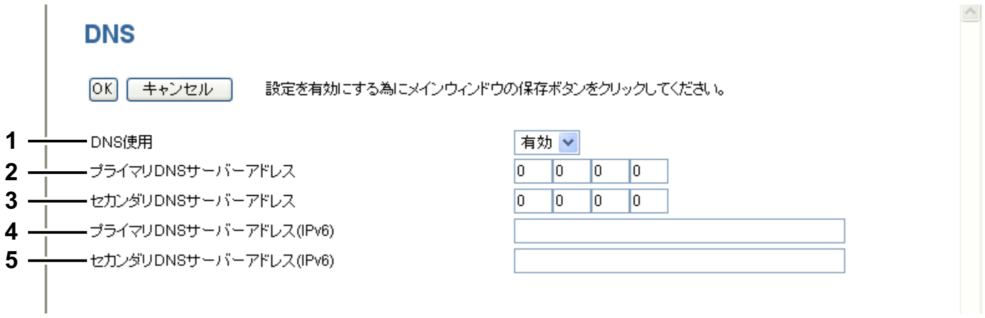
- **部分一致**：検索条件と部分的に一致する情報を検索します。
- **前方一致**：検索条件と一致する内容で始まる情報を検索します。
- **後方一致**：検索条件と一致する内容で終わる情報を検索します。
- **完全一致**：検索条件と完全に一致する情報を検索します。

□ DNSの設定

DNSを使用してSMTPサーバー、POP3サーバー、およびLDAPサーバーの指定にFQDNを設定したい場合に、DNSサーバーを有効にします。

補 足

DNSサービスが有効であり、DNSサーバーがダイナミックDNSサービスをサポートしている場合は、同時にDDNSセッションも設定してください。



1) DNS使用
DNSサーバーの有効／無効を選択します。

2) プライマリDNSサーバーアドレス
DNSサービスが有効な場合に、プライマリDNSサーバーのIPアドレスを指定します。

3) セカンダリDNSサーバーアドレス
DNSサービスが有効な場合に、必要に応じてセカンダリDNSサーバーのIPアドレスを指定します。

4) プライマリDNSサーバーアドレス（IPv6）
IPv6でDNSサービスが有効な場合に、プライマリDNSサーバーのIPアドレスを指定します。

5) セカンダリDNSサーバーアドレス（IPv6）
IPv6でDNSサービスが有効な場合に、必要に応じてセカンダリDNSサーバーのIPアドレスを指定します。

補 足

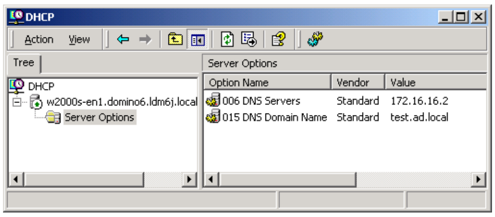
TCP/IPの設定で［ドメインサーバアドレス取得］オプションを有効にした場合は、DHCPサーバーからプライマリDNSサーバーアドレスとセカンダリDNSサーバーアドレスを取得し、適切なIPアドレスが自動的に入力されます。

□ DDNSの設定

DDNSでは、DNSサーバーがダイナミックDNSをサポートしている場合に、ダイナミックDNSサービスを有効にすることができます。

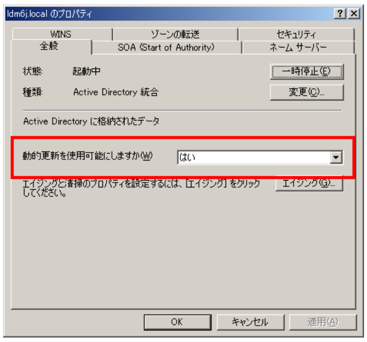
注 意

- 本機においてDDNSでセキュリティを使用する場合、WindowsのDNSのレコードを更新するサーバーと本機の時刻の設定がサーバーのアカウントポリシーに記載されている時間以上ずれている場合、セキュリティを使用したDNSの更新に失敗します。DNSサーバーの時刻の確認をして、本機との時刻を合わせてください。
- DDNSを使用している環境で、DHCPを使って本機のIPアドレスを割り当てている場合は、DHCP Server's Scope OptionsまたはServer Optionで「006 DNS Servers」および「015 DNS Domain Name」を有効にします。

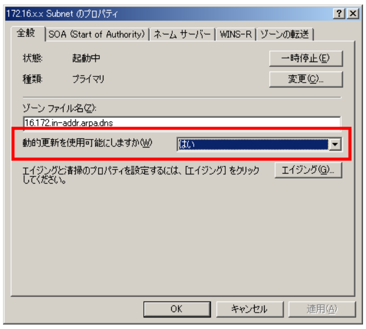


- DDNSを有効にする場合は、前方参照ゾーンおよび逆引き参照ゾーンで、「自動更新を使用可能にしますか」オプションが「はい」（Windows 2000 Serverの場合）または「非セキュリティ保護およびセキュリティ保護」（Windows Server 2003の場合）に設定されていることを確認してください。
  Windows Server 2003の設定が「セキュリティ保護のみ」または「なし」に設定されている場合は、DDNSの設定で、プライマリおよびセカンダリの「ログインネーム」、「パスワード」にログイン可能な設定を行ってください。
  DDNSの設定のプライマリおよびセカンダリの「ログインネーム」、「パスワード」を使用して、DNSサーバーのレコードをアップデートしたくない場合には、本機のホスト名を前方参照ゾーンおよび逆引き参照ゾーンに追加してください。

前方参照ゾーン
（Windows 2000 Server）



逆引き参照ゾーン
（Windows 2000 Server）



1) DDNS使用

ダイナミックDNSサービスの有効／無効を選択します。

2) ホスト名

ダイナミックDNSサービスを使用してDNSサーバーに登録する本機のホスト名を入力します。

3) ドメイン名

ダイナミックDNSサービスを使用してDNSサーバーに登録する本機のドメイン名を入力します。

補 足

TCP/IPの設定で［ドメイン名の取得］オプションを有効にした場合は、DHCPサーバーからドメイン名を取得することができます。

📖 P.123 「TCP/IPの設定」

4) セキュリティ方式

セキュリティ方式を選択します。

- GSS-TSIG
  GSS-TSIGを使用してセキュアなDDNSを行います。ログインネームとパスワードが設定可能です。ログインネームとパスワードが設定されていない場合は、セキュアなDDNSは行われません。
- TSIG
  TSIGを使用してセキュアなDDNSを行います。キーファイルとプライベートキーファイルをアップロードする必要があります。2つのファイルがアップロードされていない場合は、セキュリティ設定が行われません。
- SIG（0）
  SIG（0）を使用してセキュアなDDNSを行います。キーファイルとプライベートキーファイルをアップロードする必要があります。2つのファイルがアップロードされていない場合は、セキュリティ設定が行われません。

5) プライマリログインネーム

セキュリティ方式でGSS-TSIGを選択した場合は、プライマリログインネームを指定します。

6) プライマリパスワード

セキュリティ方式でGSS-TSIGを選択した場合は、プライマリパスワードを指定します。

7) セカンダリログインネーム

セキュリティ方式でGSS-TSIGを選択した場合は、セカンダリログインネームを指定します。

8) セカンダリパスワード

セキュリティ方式でGSS-TSIGを選択した場合は、セカンダリパスワードを指定します。

9) TSIG/SIG（0）キーファイル

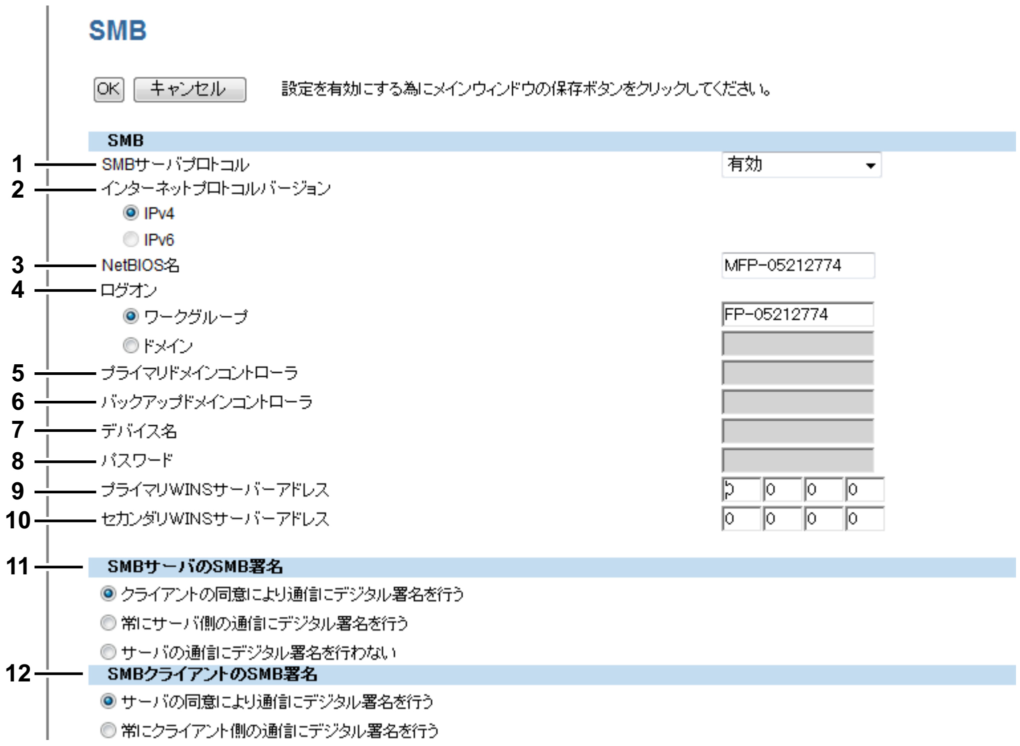
TSIGおよびSIG（0）で使用するキーファイルを、アップロードまたは削除する場合に設定します。
アップロードする場合は、［参照］をクリックしキーファイルを指定して、［アップロード］をクリックします。
削除する場合は、［削除］をクリックします。

10) TSIG/SIG（0）プライベートキーファイル

TSIGおよびSIG（0）で使用するプライベートキーファイルを、アップロードまたは削除する場合に設定します。
アップロードする場合は、［参照］をクリックしキーファイルを指定して、［アップロード］をクリックします。
削除する場合は、［削除］をクリックします。

□ SMBの設定

SMBでは、SMBネットワークの各プロパティを設定し、Microsoft Windowsネットワークによる本機へのアクセスや、SMB印刷を有効にします。SMBを有効にすると、SMB印刷が利用可能になるほか、本機の共有フォルダを参照できるようになります。また、異なるサブネット間のファイル共有やプリンタ共有をWINSサーバーを使って解決している場合は、WINSサーバーアドレスを指定します。



1) SMBサーバプロトコル

SMBの有効／無効を選択します。
- **有効**：SMBを有効にします。
- **無効**：SMBを無効にします。
- **プリント共有無効**：共有フォルダの参照のみ有効にし、本機のSMB印刷を無効にします。
- **ファイル共有無効**：SMB印刷のみ有効にし、本機の共有フォルダの参照を無効にします。

2) インターネットプロトコルバージョン

インターネットプロトコルのバージョンを選択します。
- **IPv4**：IPv4での使用を有効にします。IPv6での使用は無効となります。
- **IPv6**：IPv6での使用を有効にします。IPv4での使用は無効となります。

注 意

本機のSMBのIPv6が有効になっているときにIPv6使用を無効にすると、設定を反映させるため本機の再起動が必要になります。本機の表示パネルに「電源をいれ直してください」と表示されたら、電源を入れ直してください。

3) NetBIOS名

Windowsネットワーク上で表示される本機の名称を入力します。標準の設定では、「MFP-<NICシリアル番号>」がNetBIOS名として設定されています。

注 意

NetBIOS名は、半角英数字と「-」（ハイフン）のみを使用して入力してください。それ以外の文字を使用して入力した場合は、警告メッセージが表示されます。

4) ログオン

本機が所属するワークグループ名またはドメイン名を入力します。

- **ワークグループ**：本機をワークグループにログオンさせる場合は、ワークグループ名を入力します。すべてのクライアントコンピュータは、ユーザ名やパスワードを使用せずに本機にアクセスすることができます。
- **ドメイン**：本機をドメインにログオンさせる場合は、ドメイン名を入力します。ドメインのメンバとしてログオンしていないクライアントコンピュータから本機にアクセスするには、ユーザ名とパスワードが必要になります。本機へのアクセスを制限したい場合は、ドメインで管理します。

補 足

TCP/IPの設定で［ドメイン名の取得］オプションを有効にした場合は、DHCPサーバーからドメイン名を取得することができます。

📖 P.123 「TCP/IPの設定」

注 意

ワークグループ名は、半角英数字と以下の記号「; : " < > + = \ | ? ,」以外の文字とひらがな、漢字を使用して入力してください。それ以外の文字を使用して入力した場合は、警告メッセージが表示されます。

5) プライマリドメインコントローラ

本機をドメインにログオンさせる場合に、プライマリドメインコントローラのサーバー名またはIPアドレスを指定します。

6) バックアップドメインコントローラ

本機をドメインにログオンさせる場合に、必要に応じてバックアップドメインコントローラのサーバー名またはIPアドレスを指定します。プライマリドメインコントローラが使用できない場合に、バックアップドメインコントローラが使用されます。

注 意

プライマリドメインコントローラおよびバックアップドメインコントローラに誤った設定を行うと、Windowsネットワーク内のプライマリドメインコントローラおよびバックアップドメインコントローラを5～10分程度検索するとともに、検索中はタッチパネルの「NIC初期化中」表示が消えません。この場合は、「NIC初期化中」表示が消えた後、プライマリドメインコントローラおよびバックアップドメインコントローラに正しい設定を行ってください。

7) デバイス名

指定したドメインにログオンするための、本機のデバイス名（ログオンユーザ名）を入力します。

8) パスワード

指定したデバイス名（ログオンユーザ名）のパスワードを入力します。

9) プライマリWINSサーバーアドレス

WINSサーバーを使用して本機のNetBIOS名およびワークグループ名を解決する必要がある場合に、プライマリWINSサーバーのIPアドレスを指定します。異なるサブネットからNetBIOS経由でアクセスしたい場合に設定します。

補 足

TCP/IPの設定で［WINSサーバーアドレス取得］オプションを有効にした場合は、DHCPサーバーからプライマリおよびセカンダリWINSサーバーアドレスを取得することができます。

📖 P.123 「TCP/IPの設定」

10) セカンダリWINSサーバーアドレス

WINSサーバーを使用して本機のNetBIOS名およびワークグループ名を解決する必要がある場合に、必要に応じてセカンダリWINSサーバーのIPアドレスを指定します。プライマリWINSサーバーが使用できない場合に、セカンダリWINSサーバーが使用されます。

補 足

TCP/IPの設定で［WINSサーバーアドレス取得］オプションを有効にした場合は、DHCPサーバーからプライマリおよびセカンダリWINSサーバーアドレスを取得することができます。

P.123 「TCP/IPの設定」

注 意

［プライマリWINSサーバーアドレス］および［セカンダリWINSサーバーアドレス］に、「0.0.0.0」を入力した場合は、WINSの設定は無効になります。

11) SMBサーバのSMB署名

クライアントが本機の共有フォルダにアクセスする場合など、クライアントから本機にSMBでアクセスする際に、SMB署名を使用するかどうかを設定します。

- **クライアントの同意により通信にデジタル署名を行う**：クライアントがデジタル署名を使用してSMB通信した場合のみ、デジタル署名を使ってSMB通信を保護します。クライアントがデジタル署名を使用していない場合は、デジタル署名を使用せずにSMB通信を行います。
- **常にサーバ側の通信にデジタル署名を行う**：クライアントがデジタル署名を使用してSMB通信した場合のみ、本機と通信ができるようにします。クライアントがデジタル署名を使用せずに本機にSMB通信した場合は、本機とSMB通信することはできません。
- **サーバの通信にデジタル署名を行わない**：クライアントがデジタル署名を使わずにSMB通信した場合のみ、本機と通信ができるようにします。クライアントが常にデジタル署名を使用してSMBサーバーにアクセスするよう設定されている場合は、本機とSMB通信することはできません。

注 意

クライアントコンピュータでSMBクライアントのSMB署名の設定がどのように設定されているか分からない場合は、［クライアントの同意により通信にデジタル署名を行う］を設定してください。誤ったSMB署名の設定を行うと、SMB通信ができなくなる恐れがあります。

12) SMBクライアントのSMB署名

ネットワークフォルダにスキャンデータを保管する場合など、本機からSMBサーバーにアクセスする際に、SMB署名を使用するかどうかを設定します。

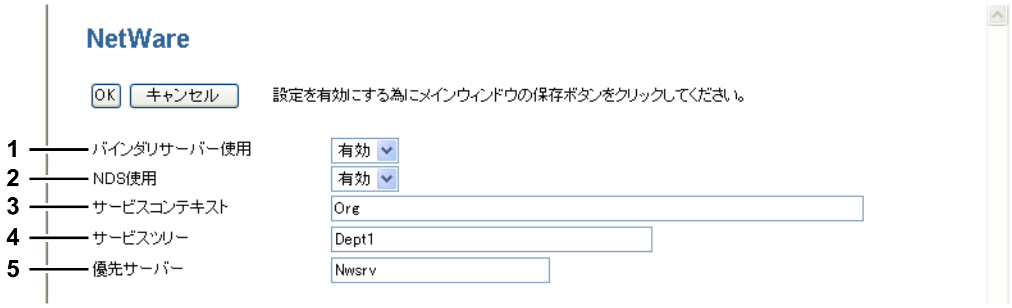
- **サーバの同意により通信にデジタル署名を行う**：通信するSMBサーバーのSMB署名の設定が有効の場合のみ、デジタル署名を使ってSMB通信を保護します。通信するSMBサーバーのSMB署名の設定が無効の場合は、デジタル署名を使用せずにSMB通信を行います。
- **常にクライアント側の通信にデジタル署名を行う**：常にデジタル署名を使用してSMBサーバーとSMB通信を行います。通信するSMBサーバーのSMB署名の設定が無効の場合は、SMBサーバーと通信することはできません。
- **クライアントの通信にデジタル署名を行わない**：デジタル署名を使用せずにSMBサーバーとSMB通信を行います。通信するSMBサーバーのSMB署名の設定が有効の場合は、SMBサーバーと通信することはできません。

注 意

- 通信するSMBサーバーでSMBサーバーのSMB署名の設定がどのように設定されているか分からない場合は、［サーバの同意により通信にデジタル署名を行う］を設定してください。誤ったSMB署名の設定を行うと、SMB通信ができなくなる恐れがあります。
- Windows Server 2003では、デフォルトの設定で常にサーバー側の通信にデジタル署名を行うよう設定されています。Windows Server 2003とSMB通信を行う場合は、［サーバの同意により通信にデジタル署名を行う］または［常にクライアント側の通信にデジタル署名を行う］を設定してください。

□ NetWareの設定

NetWareでは、NetWareバインダリとNDSサービスを設定します。Novell印刷環境を構築するときは、この設定を行う必要があります。



1) バインダリサーバー使用
NetWareバインダリモードでのNovell印刷を有効にするか選択します。バインダリモードでNetWareサーバーを使ってNovell印刷環境を構築するときは、有効を選択してください。

2) NDS使用
NetWare NDSモードでのNovell印刷を有効にするか選択します。NDSモードで NetWareサーバーを使ってNovell印刷環境を構築するときは、有効を選択してください。有効を選択した場合は、同時にNDSのコンテキストと ツリーの指定も行ってください。

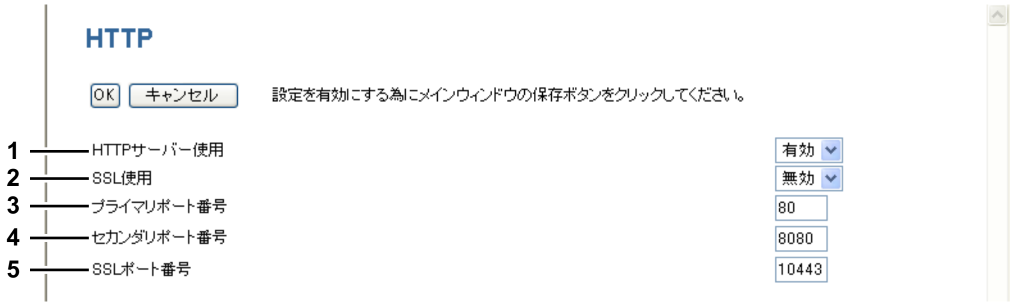
3) サービスコンテキスト
本機用のNetWareプリントサーバーのNDSコンテキストを入力します。

4) サービスツリー
NDSツリーを入力します。

5) 優先サーバー
優先して接続するNetWareサーバー名を入力します。

□ HTTPの設定

HTTPネットワークサービスでは、TopAccessやファイリングボックスWebユーティリティなど、Webベースのサービスを有効にするかを設定します。



1) HTTPサーバー使用

TopAccessやファイリングボックスWebユーティリティなどのWebベースのサービスを有効にするか選択します。

2) SSL使用

HTTPで本機にアクセスするときにSSL（Secure Sockets Layer）を使用するか選択します。有効にすると、TopAccessやファイリングボックスWebユーティリティの操作により通信されるデータは暗号化されます。

注 意

- SSL使用を有効にする前に、セキュリティ設定で自己証明書の作成またはサーバー証明書のインポートを行ってください。自己証明書が作成されていない場合またはサーバー証明書がインポートされていない場合は、SSLが正常に機能しません。また、Windows Vistaをお使いの場合は、クライアントコンピュータにも証明書をインポートする必要があります。
  P.151 「セキュリティの設定」
  P.374 「クライアントコンピュータに証明書をインストールする」
- SSLを使用するには、サーバーのOSがSSLをサポートしている必要があります。

3) プライマリポート番号

HTTPアクセスに使用するポート番号を入力します。通常、「80」を使用します。

4) セカンダリポート番号

TopAccessおよびファイリングボックスWebユーティリティに使用するポート番号を入力します。通常、「8080」を使用します。

注 意

HTTPのSSL無効時に、セカンダリポート番号に、その他のネットワーク設定と同じポート番号を指定すると、TopAccessやファイリングボックスWebユーティリティにアクセスできなくなります。誤って設定してしまった場合は、本機の操作パネルからHTTP設定を変更し、正しいポート番号を設定してください。

5) SSLポート番号

SSLに使用するポート番号を入力します。通常、「10443」を使用します。

注 意

HTTPのSSL有効時に、HTTP設定のSSLポート番号に、その他のネットワーク設定と同じポート番号を指定すると、TopAccessやファイリングボックスWebユーティリティにアクセスできなくなります。誤って設定してしまった場合は、本機の操作パネルからHTTP設定を変更し、正しいポート番号を設定してください。

□ SMTPクライアントの設定

SMTPクライアントでは、インターネットファクスおよびEメールのSMTP送信を有効にするか選択します。

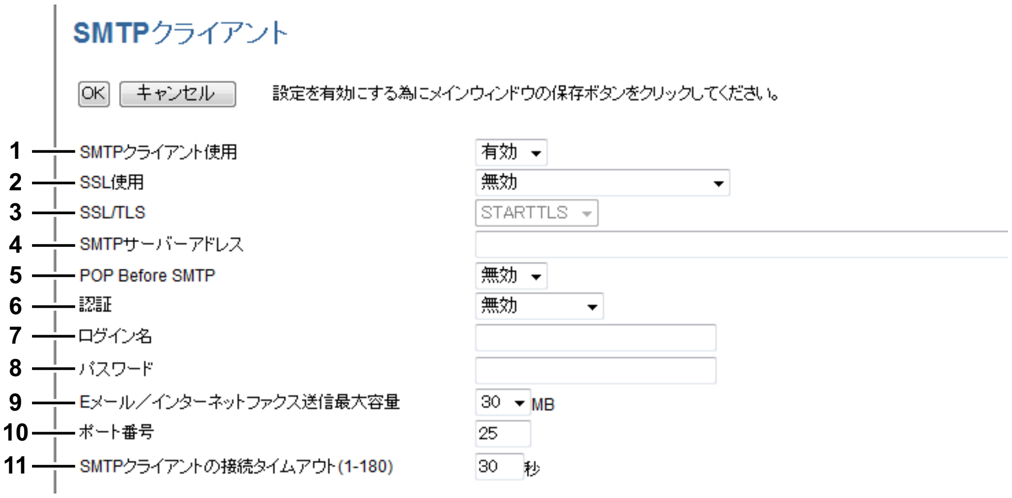
注 意

インターネットファクスおよびEメール送信を行うには、送信者アドレスを設定する必要があります。送信者アドレス設定については、以下の説明を参照してください。

📖 P.190 「Eメール設定をセットアップする」
📖 P.193 「インターネットファクス設定をセットアップする」

また、内部認証以外のユーザ管理設定が有効になっている場合は、本機にログインしたユーザの送信者アドレスが自動的に設定されます。ユーザ管理設定の詳細については、以下の説明を参照してくだい。

📖 P.277 「ユーザ管理を設定する」



1) SMTPクライアント使用

本機からSMTPサーバーを介してインターネットファクスおよびEメールを送信する場合に有効にします。

2) SSL使用

SMTPサーバーにアクセスするときにSSL（Secure Sockets Layer）を使用するか選択します。

- **無効**：SSLを無効にします。
- **登録された証明書を使用する**：本機に登録された証明書を使用してSSL認証を行う場合に選択します。
- **すべての証明書を受け入れる**：本機の登録された証明書を使用せずにSSL認証を行う場合に選択します。

注 意

- ［登録された証明書を使用する］を選択した場合は、セキュリティ設定でCA証明書を登録する必要があります。
  📖 P.151 「セキュリティの設定」
- SSLを使用するには、サーバーのOSがSSLをサポートしている必要があります。

3) SSL/TLS

［SSL使用］を有効にした場合に、SSLに使用するプロトコルを選択します。

- **STARTTLS**：SMTPの拡張コマンドであるSTARTTLSを使用してメッセージをTLS（Transport Layer Security）で送信する場合に選択します。
- **Over SSL**：メッセージをSSL（Secure Socket Layer）で送信する場合に選択します。

注 意

［Over SSL］を選択した場合は、ポート番号を正しいSSLポート番号に変更してください。Over SSLでは、通常「465」を使用します。

4) SMTPサーバーアドレス
［SMTPクライアント使用］を有効にした場合に、SMTPサーバーのIPアドレスまたはFQDNを入力します。

注 意

FQDNを使用してSMTPサーバーを指定する場合は、DNSサーバーを設置しDNSの設定を有効にする必要があります。

補 足

TCP/IPの設定で［SMTPサーバーアドレスの取得］オプションを有効にした場合は、DHCPサーバーからSMTPサーバーアドレスを取得することができます。
P.123 「TCP/IPの設定」

5) POP Before SMTP
POP Before SMTP認証を有効にするかどうかを選択します。

6) 認証
SMTPサーバーに接続するための認証方法を選択します。
- **無効**：認証を使用せずにSMTPサーバーに接続する場合に選択します。
- **Plain**：Plain認証を使用してSMTPサーバーに接続する場合に選択します。
- **Login**：Login認証を使用してSMTPサーバーに接続する場合に選択します。
- **CRAM-MD5**：CRAM-MD5認証を使用してSMTPサーバーに接続する場合に選択します。
- **Digest-MD5**：Digest-MD5認証を使用してSMTPサーバーに接続する場合に選択します。
- **Kerberos**：Kerberos認証を使用してSMTPサーバーに接続する場合に選択します。
- **NTLM（IWA）**：NTLM（IWA）認証を使用してSMTPサーバーに接続する場合に選択します。
- **自動**：自動で認証を識別してSMTPサーバーに接続する場合に選択します。

7) ログイン名
認証を使用してSMTPサーバーに接続する場合に、SMTPサーバーに接続するためのログイン名を入力します。

8) パスワード
認証を使用してSMTPサーバーに接続する場合に、SMTPサーバーに接続するためのパスワードを入力します。

9) Eメール／インターネットファクス送信最大容量
SMTPを介して送信可能な最大容量を選択します。

10) ポート番号
［SMTPクライアント使用］を有効にした場合に、SMTPサーバーにアクセスするためのポート番号を入力します。入力するポート番号は、SMTPサーバーのポート設定によって異なります。通常、「25」を使用します。

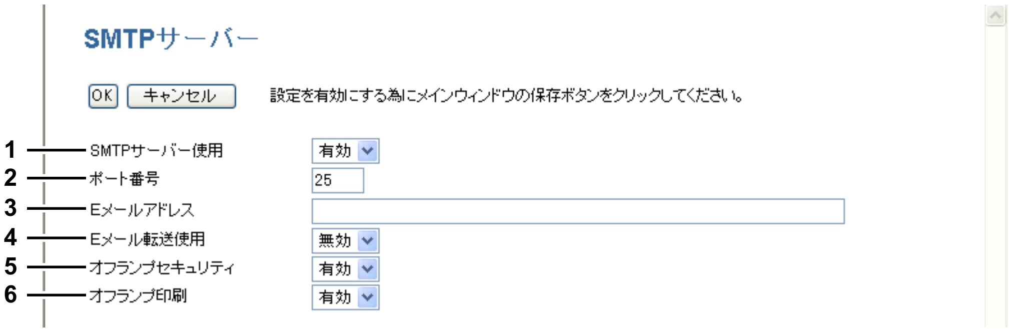
注 意

HTTP設定のセカンダリポート番号（HTTPのSSL有効時はSSLポート番号）と同じポート番号を指定すると、TopAccessやファイリングボックスWebユーティリティにアクセスできなくなります。誤って設定してしまった場合は、本機の操作パネルからHTTP設定を変更し、正しいポート番号を設定してください。

11) SMTPクライアントの接続タイムアウト（1-180）
SMTPサーバーが応答しない場合に、通信を終了するタイムアウト時間を入力します。1～180秒の範囲で設定します。

□ SMTPサーバーの設定

SMTPサーバーでは、インターネットファクスおよびEメールのSMTP受信を有効にするか選択します。通常は、オフランプゲートウェイ機能を利用したい場合に設定します。



1) SMTPサーバー使用
本機がSMTPサーバーとして働くかどうかを選択します。オフランプゲートウェイ機能を利用したい場合は、有効にする必要があります。有効にすると、本機ドメイン宛のインターネットファクスやEメールを、SMTP通信によりSMTPサーバーを介して受信することができます。

2) ポート番号
SMTPでインターネットファクスやEメールを受信するポート番号を入力します。通常、「25」を使用します。

注 意

HTTP設定のセカンダリポート番号（HTTPのSSL有効時はSSLポート番号）と同じポート番号を指定すると、TopAccessやファイリングボックスWebユーティリティにアクセスできなくなります。誤って設定してしまった場合は、本機の操作パネルからHTTP設定を変更し、正しいポート番号を設定してください。

3) Eメールアドレス
本機のEメールアドレスを入力します。本機がSMTPサーバーとして動作する場合は、本機のドメイン名を含むすべてのインターネットファクスやEメールをSMTPを使って受信することができます。受信した文書のEメールアドレスが、ここで入力した名前と一致すると、本機は受信した文書を印刷します。

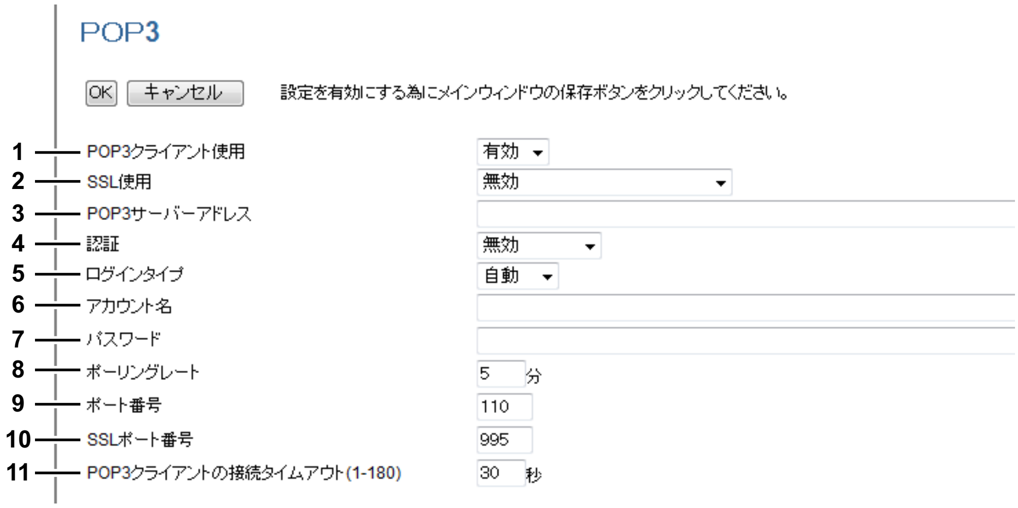
4) Eメール転送使用
オフランプゲートウェイ転送を有効にするか選択します。

5) オフランプセキュリティ
本機のアドレス帳に登録されたファクス番号にのみオフランプゲートウェイ転送を行うかどうかを設定します。有効にすると、指定された転送宛先が本機のアドレス帳に登録されていない場合、送信を中断します。不正なオフランプゲートウェイ転送を防ぐことができます。

6) オフランプ印刷
オフランプゲートウェイ転送を行う際に、転送される文書を本機で印刷するかを設定します。有効にすると、オフランプゲートウェイ転送される文書を自動的に印刷し、どのような文書が転送されたのかを確認することができます。

□ POP3の設定

POP3ネットワークサービスでは、インターネットファクスやEメール印刷ジョブを受信するPOP3サーバーを設定します。



1) POP3クライアント使用

POP3サーバーからのインターネットファクスやEメールの取り込みを有効にするか選択します。

2) SSL使用

POP3サーバーにアクセスするときにSSL（Secure Sockets Layer）を使用するか選択します。

- **無効**：SSLを無効にします。
- **登録された証明書を使用する**：本機に登録された証明書を使用してSSL認証を行う場合に選択します。
- **全ての証明書を受け入れる**：本機の登録された証明書を使用せずにSSL認証を行う場合に選択します。

注 意

- ［登録された証明書を使用する］を選択した場合は、セキュリティ設定でCA証明書を登録する必要があります。
  📖 P.151 「セキュリティの設定」
- SSLを使用するには、サーバーのOSがSSLをサポートしている必要があります。

3) POP3サーバーアドレス

［POP3クライアント使用］を有効にした場合に、POP3サーバーのIPアドレスまたはFQDNを入力します。

注 意

FQDNを使用してPOP3サーバーを指定する場合は、DNSサーバーを設置しDNSの設定を有効にする必要があります。

補 足

TCP/IPの設定で［SMTPサーバアドレスの取得］オプションを有効にした場合は、DHCPサーバーからSMTPサーバーアドレスを取得することができます。
📖 P.123 「TCP/IPの設定」

4) 認証

POP3サーバーにアクセスするときの認証を有効にするかどうかを設定します。

- **無効**：認証を無効にします。
- **NTLM/SPA**：NTLM/SPA認証を有効にします。
- **Kerberos**：Kerberos認証を有効にします。

5) ログインタイプ
POP3のログインタイプを選択します。
- 自動：POP3サーバーによって、ログインタイプを自動的に決定する場合に選択します。
- **POP3**：一般的なPOP3ログインタイプを使用する場合に選択します。
- **APOP**：APOPのログインタイプを使用する場合に選択します。APOPでは、ユーザ名およびパスワードを暗号化して、POP3サーバーにアクセスすることができます。

注 意

［自動］を選択してもメールサーバーにログインできない場合は、［POP3］または［APOP］いずれかのログインタイプを選択してください。

6) アカウント名
本機がPOP3サーバーにアクセスするためのアカウント名を入力します。

注 意

［認証］で［NTLM/SPA］または［Kerberos］を選択している場合は、アカウント名はドメインを除いたアカウント名を入力してください。

7) パスワード
本機がPOP3サーバーにアクセスするためのパスワードを入力します。

8) ポーリングレート
本機が新着メッセージを確認するために、どのくらいの間隔でPOP3サーバーにアクセスするか指定します。

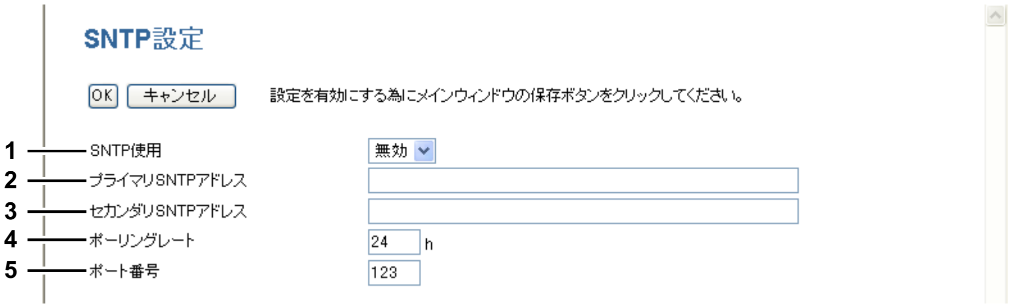
9) ポート番号
POP3サーバーにアクセスするポート番号を入力します。入力するポート番号は、POP3サーバーのポート設定によって異なります。通常、「110」を使用します。

10) SSLポート番号
SSLを使用してPOP3サーバーにアクセスするポート番号を入力します。入力するポート番号は、POP3サーバーのポート設定によって異なります。通常、「995」を使用します。

11) POP3クライアントの接続タイムアウト（1-180）
POP3サーバーが応答しない場合に、通信を終了するタイムアウト時間を入力します。1～180秒の範囲で設定します。

□ SNTPの設定

SNTPでは、SNTPサービスを使用して本機の時間設定を同期するかどうかを設定することができます。



1) SNTP使用
SNTPサービスを有効にするかどうかを設定します。有効にした場合は、SNTPサービスを利用して本機の時間設定を自動的に更新することができます。

2) プライマリSNTPアドレス
［SNTP使用］を有効にした場合に、プライマリSNTPサーバーアドレスのIPアドレスまたはFQDNを入力します。

3) セカンダリSNTPアドレス
［SNTP使用］を有効にした場合に、必要に応じてセカンダリSNTPサーバーアドレスのIPアドレスまたはFQDNを入力します。

4) ポーリングレート

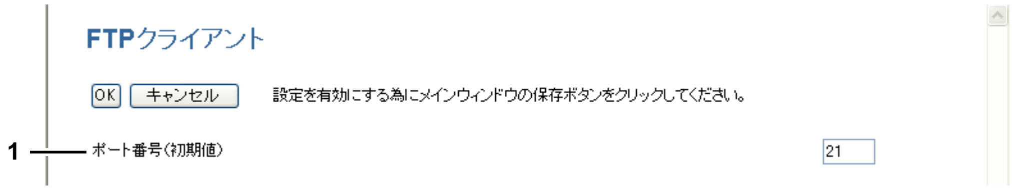
本機が時間を確認するために、どのくらいの間隔でSNTPサーバーにアクセスするか指定します。

5) ポート番号

SNTPで使用するポート番号を入力します。通常、「123」を使用します。

□ FTPクライアントの設定

FTPクライアントでは、［共有フォルダかUSBに保管］操作でFTPを使ってネットワークフォルダに文書を保存する場合に、初期値として使用されるポート番号を設定します。

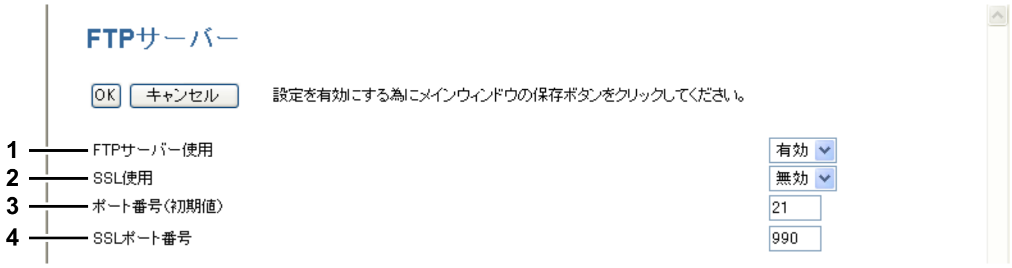


1) ポート番号（初期値）

ネットワークフォルダにFTPでアクセスするときに使用するポート番号を入力します。FTPで使用するポート番号はFTPサーバーの設定よって異なることがあります。通常、「21」を使用します。

□ FTPサーバーの設定

FTPサーバーでは、本機のFTPサーバー機能の有効／無効を設定します。



1) FTPサーバー使用

本機のFTPサーバー機能を有効にするかどうかを選択します。以下の機能を使用する場合は、有効にする必要があります。

- FTP印刷
- AddressBook Viewerで本機のアドレス帳データを読み書きする
- ファイリングボックスBackup/Restore Utilityでファイリングボックスデータをバックアップ／リストアする

2) SSL使用

FTPサーバーにアクセスするときにSSL （Secure Sockets Layer）を使用するか選択します。

注 意

- SSL使用を有効にする前に、セキュリティ設定で自己証明書の作成またはサーバー証明書のインポートを行ってください。自己証明書が作成されていない場合またはサーバー証明書がインポートされていない場合は、SSLが正常に機能しません。また、Windows Vistaをお使いの場合は、クライアントコンピュータにも証明書をインポートする必要があります。
  P.151 「セキュリティの設定」
  P.374 「クライアントコンピュータに証明書をインストールする」
- SSLを使用するには、サーバーのOSがSSLをサポートしている必要があります。

3) ポート番号（初期値）
本機にFTPでアクセスするときに使用するポート番号を入力します。通常、「21」を使用します。

注 意

HTTP設定のセカンダリポート番号（HTTPのSSL有効時はSSLポート番号）と同じポート番号を指定すると、TopAccessやファイリングボックスWebユーティリティにアクセスできなくなります。誤って設定してしまった場合は、本機の操作パネルからHTTP設定を変更し、正しいポート番号を設定してください。

4) SSLポート番号
SSLを使用してFTPサーバーにアクセスするポート番号を入力します。入力するポート番号は、FTPサーバーのポート設定によって異なります。通常、「990」を使用します。

注 意

HTTP設定のセカンダリポート番号（HTTPのSSL有効時はSSLポート番号）と同じポート番号を指定すると、TopAccessやファイリングボックスWebユーティリティにアクセスできなくなります。誤って設定してしまった場合は、本機の操作パネルからHTTP設定を変更し、正しいポート番号を設定してください。

□ SLPの設定

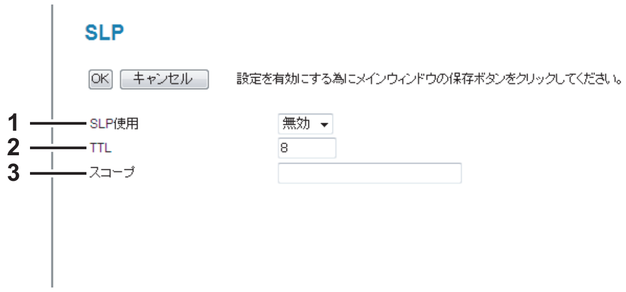
SLPを有効にすると、本機はService Agentとなり、User Agentからのサービス検索および、Directory Agentへのサービス登録に対応します。

補 足

SLP設定では、以下のプリントサービスのみサポートしています。
Raw TCP印刷、LPD印刷、IPP印刷、WSD印刷、SMB印刷、FTP印刷

注 意

SLPの"printer-location" attributeについて
SLPで通知するサービスに、情報として"printer-location"というattributeがあります。その情報はTopAccessの［管理者］タブ、［セットアップ］メニュー、［一般］サブメニュー、［装置情報］にある［設置場所］の設定が使用されます。TopAccessから［設置場所］の設定を変更した場合は、本機の電源を一度オフにした後、再度オンにしてください。電源を入れ直した後、SLPの"printer-location"に反映されます。



1) SLP使用
SLPサービスの有効／無効を選択します。

2) TTL
サービスを提供するネットワークの範囲TTL（Time To Live）を設定します。
異なるネットワーク上に存在するUser AgentおよびDirectory Agentと通信を行うために使用します。

3) スコープ
スコープを設定します。デフォルト値は「DEFAULT」になります。
スコープを設定することで、サービスを提供するグループを指定できます。

補 足

- スコープの入力では、「,」（カンマ）区切りで複数指定することができます。
- スコープの設定では、以下の記号「( ) ¥ ! < = > ~ ; * +」は入力できません。
- スコープの入力欄を空欄にして設定することはできません。
- User Agent（UA）であるKonqueror（SUSE Linux）やSLPSNOOPユーティリティ（Novellクライアント）などを使用してサービス検索を行うことができます。

□ SNMPの設定

SNMPネットワークサービスでは、SNMPネットワーク監視ユーティリティを使って装置状態を監視するSNMPを有効にするか選択します。管理者が本機のMIBに適合したSNMPネットワーク監視ユーティリティを使って装置状態を監視したい場合は、SNMPおよびSNMPトラップを有効に設定する必要があります。

1) SNMP使用

SNMP V1／V2の有効／無効を選択します。TopAccessDocMon、TWAIN ドライバ、ファイルダウンローダおよびAddressBook Viewerの使用をユーザに許可する場合は、有効を選択してください。

2) リードコミュニティ

SNMPアクセス用のSNMPリードコミュニティ名を入力します。

注 意

- リードコミュニティに「public」以外のコミュニティ名を入力すると、MIB を使用しているアプリケーション（TopAccess、TWAINドライバ、ファイルダウンローダ、AddressBook Viewer）が使用できなくなります。また、プリンタドライバのSNMP通信も無効になり、オプション構成の自動取得や部門コードチェック、有効なファイリングボックスの取得などの機能が使用できなくなります。
- リードコミュニティを空欄にした場合、クライアントコンピュータと本機のSNMP通信はできなくなります。

3) リードライトコミュニティ
SNMP通信による読み書きを許可するSNMPリードライトコミュニティ名を入力します。

注 意

リードライトコミュニティに「private」以外のコミュニティ名を入力すると、MIBを使用しているアプリケーション（TopAccess、TWAIN ドライバ、ファイルダウンローダ、AddressBook Viewer）が使用できなくなります。また、プリンタドライバのSNMP通信も無効になり、オプション構成の自動取得や部門コードチェック、有効なファイリングボックスの取得などの機能が使用できなくなります。

4) SNMP V3使用
SNMP V3の有効／無効を選択します。TWAIN ドライバ、ファイルダウンローダおよびAddressBook Viewerの使用をユーザに許可する場合は、有効を選択してください。

5) SNMPユーザ情報の作成
本機に登録されたSNMPユーザ情報がリスト表示されます。SNMPユーザ情報は、登録、編集、削除、およびエクスポートすることができます。詳しくは以下の説明を参照してください。
📖 P.148 「SNMPユーザ情報を登録・編集する」
📖 P.149 「SNMPユーザ情報をエクスポートする」
📖 P.150 「SNMPユーザ情報を削除する」

6) SNMP V3トラップ使用
SNMP V3トラップを送信するかを選択します。

7) SNMP V3トラップユーザ名
SNMP V3トラップユーザ名を入力します。

8) SNMP V3トラップ認証プロトコル
認証に使用するプロトコルを選択します。
- HMAC-MD5：HMAC-MD5を使用する場合に選択します。
- HMAC-SHA：HMAC-SHAを使用する場合に選択します。

9) SNMP V3トラップ認証パスワード
認証パスワードを入力します。

10) SNMP V3トラッププライバシープロトコル
データの暗号化に使用するプロトコルを選択します。
- None：暗号化をしない場合に選択します。
- CBC-DES：CBC-DESを使用する場合に選択します。

11) SNMP V3トラッププライバシーパスワード
プライバシーパスワードを入力します。

12) 認証トラップ使用
指定したプライベートコミュニティ以外からSNMP V1／V2により本機にアクセスがあった場合に、SNMPトラップを送信するかを選択します。

13) 警告トラップ使用
警告状況が発生したときに、SNMP V1／V2トラップを送信するかを選択します。

14) トラップ送信先 1〜10
SNMPトラップを送信するIPアドレスを入力します。アドレスは10か所まで指定することができます。

15) IPトラップコミュニティ
IPトラップ用のトラップコミュニティ名を入力します。

16) IPXトラップアドレス
IPXトラップを送信するIPXアドレスを入力します。

注 意

「SNMP V3ユーザ情報」の一覧表に登録済みのユーザ名を、SNMP V3トラップのユーザ名として使用する場合は、一覧に登録されている「認証プロトコル」、「認証パスワード」（一覧表には表示されない）、「プライバシープロトコル」、「パスワード」（一覧表には表示されない）と同一のプロトコルとパスワードを、「SNMP V3トラップ認証プロトコル」、「SNMP V3トラップ認証パスワード」、「SNMP V3トラッププライバシープロトコル」、「SNMP V3トラッププライバシーパスワード」に入力してください。
これらの情報が同一ではない場合には、一覧表に登録されている情報が使用されます。

SNMPユーザ情報を登録・編集する

1 **SNMPユーザ情報を新規作成する場合は［新規］をクリックし、すでに登録済みのユーザ情報を編集する場合は、リストから編集したいユーザ名をクリックします。**

SNMPユーザ情報の作成ページが表示されます。

2 **以下の項目を選択し、［保存］をクリックします。**

コンテキスト名：コンテキスト名が表示されます。
ユーザ名：ユーザの名前を入力します。最大31文字まで入力できます。
認証プロトコル：認証に使用するプロトコルを選択します。
- **HMAC-MD5**：HMAC-MD5を使用する場合に選択します。
- **HMAC-SHA**：HMAC-SHAを使用する場合に選択します。

認証パスワード：認証に使用するパスワードを入力します。半角英数字で最大31文字まで入力できます。
プライバシープロトコル：データの暗号化に使用するプロトコルを選択します。
- **None**：暗号化をしない場合に選択します。
- **CBC-DES**：CBC-DESを使用する場合に選択します。

パスワード：ユーザ情報のパスワードを入力します。最大31文字まで入力できます。
許可レベル：SNMPのユーザのアクセス許可レベルを選択します。
- **読み取り専用**：データの読み取りのみを許可します。
- **読み書き**：データの読み取りと書き込みを許可します。

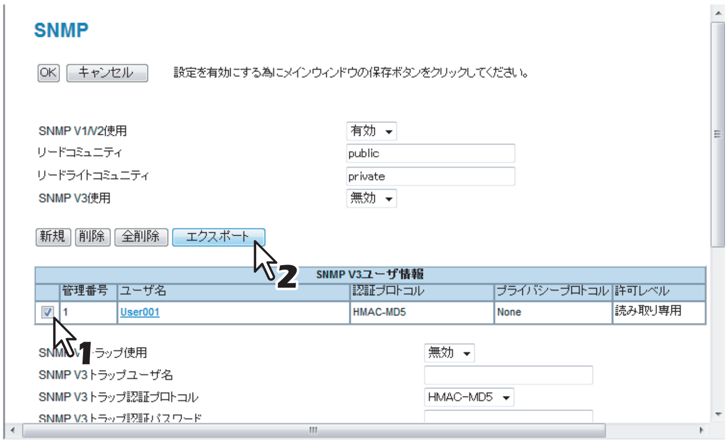
SNMPユーザ情報の作成ページが閉じ、SNMPユーザ情報の作成リストに作成したユーザ情報が登録されます。

3 ［OK］をクリックしてSNMP設定ページを閉じます。

4 ［ネットワーク］サブメニューのページで［保存］をクリックします。

SNMPユーザ情報をエクスポートする

1 SNMPユーザ情報のリストからエクスポートする情報のチェックボックスをオンにし、［エクスポート］をクリックします。

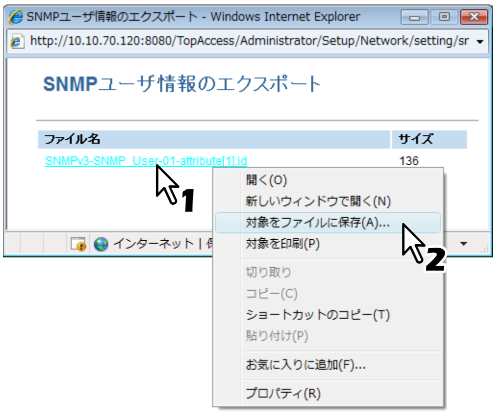


エクスポート画面が表示されます。

注 意

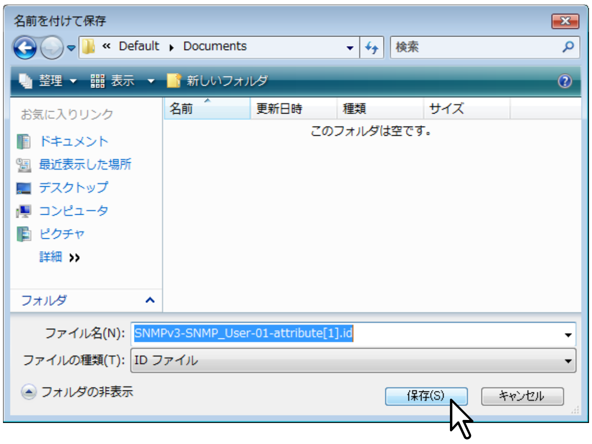
「ユーザ情報をエクスポートする前にネットワーク設定を保存してください。」というメッセージが表示された場合は、［ネットワーク］サブメニューのページで［保存］をクリックした後、エクスポートの操作をしてください。

2 エクスポートするユーザ情報のファイル名のリンクを右クリックし、［対象をファイルに保存］を選択します。

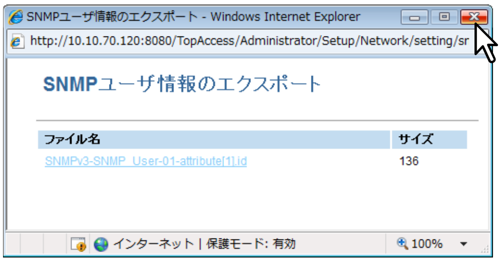


［名前を付けて保存］ダイアログボックスが表示されます。

3 保存先を指定し、［保存］を選択します。



4 エクスポートページを閉じます。



注 意

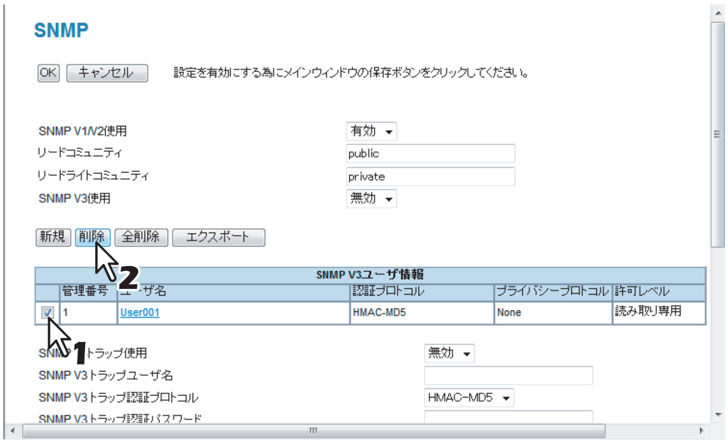
管理者が複数のコンピュータから管理者モードで本機に同時にアクセスし、同時にエクスポート操作を行った場合、エクスポートの動作が不安定になる可能性があります。エクスポートをする場合は、必ず管理者が1台のコンピュータから管理者モードで本機にアクセスし、操作をするようにしてください。

SNMPユーザ情報を削除する

1 SNMPユーザ情報のリストから削除する情報のチェックボックスをオンにし、［削除］をクリックします。

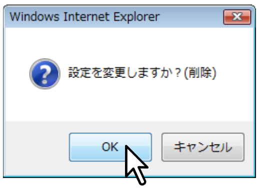
補 足

すべてのSNMPユーザ情報を削除する場合は、［全削除］ボタンをクリックします。



設定の確認ダイアログボックスが表示されます。

2 ［OK］をクリックします。



SNMPユーザ情報が削除されます。

3 ［OK］をクリックしてSNMP設定ページを閉じます。

4 ［ネットワーク］サブメニューのページで［保存］をクリックします。

□ セキュリティの設定

セキュリティの設定では、無線LAN通信でRADIUSサーバーを使用して認証するときに必要な無線LAN証明書のインストール、SSLを使用するときに必要なサーバー証明書のインストール・エクスポート・SCEP（自動取得）設定やCA証明書のインストール、IEEE802.1X認証に必要なIEEE802.1X用証明書のインストール・SCEP設定を行うことができます。

📖 P.151 「無線LAN証明書をインストールする」
📖 P.153 「サーバー証明書をインストールする」
📖 P.163 「IEEE802.1X用証明書をインストールする」
📖 P.170 「CA証明書をインストールする」

無線LAN証明書をインストールする

オプションの無線LANモジュール（GN-1050）を利用して、RADIUSサーバーを使用したIEEE802.1X認証を設定する場合は、必要に応じてユーザ証明書・CA証明書をインストールします。

注 意

- 本機は以下のエンコード方式のCA証明書およびユーザ証明書をサポートします。
  - CA証明書：　DER、BASE64、PKCS#7
  - ユーザ証明書：　PKCS#12
- 本機は、md5RSAまたはsha1RSAアルゴリズムの証明書のみサポートしています。これらのアルゴリズムの証明書を使用しているか確認してください。
- ユーザ証明書を本機にインストールするときは、セキュリティを確保するため、本機とクライアントコンピュータをクロスケーブルで接続し、インストールすることを推奨します。

補 足

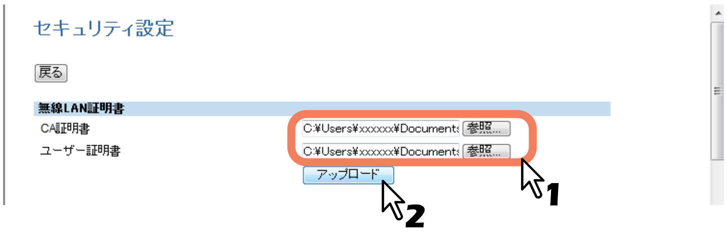
無線LANの詳しい説明については、**GN-1050 無線LANモジュール 取扱説明書**を参照してください。

無線LAN証明書をインストールする

1 ［セキュリティ設定］をクリックします。

セキュリティ設定ページが表示されます。

2 ［無線LAN証明書］の［参照］をクリックして、必要に応じてCA証明書、ユーザー証明書のファイルを選択し、［アップロード］をクリックします。



証明書のインストールを開始します。

注 意

証明書のインストールが完了し、セキュリティ設定ページが表示されるまでしばらくお待ちください。

3 証明書がインストールされます。［戻る］をクリックしてセキュリティ設定ページを閉じます。

4 ［ネットワーク］サブメニューのページで［保存］をクリックします。

サーバー証明書をインストールする

HTTPの設定、FTPサーバーの設定、IPP印刷、およびWeb ServiceプリントでSSL使用を有効にしたい場合は、サーバー証明書をインストールする必要があります。
サーバー証明書をインストールするには、自己証明書を作成するか、認証機関から入手またはCAサーバーで発行したサーバー証明書をインストールします。また、SCEPでCAサーバーからサーバー証明書を自動取得することもできます。

📖 P.154 「自己証明書を作成する／エクスポートする」
📖 P.156 「自己証明書を削除する」
📖 P.158 「サーバー証明書をインストールする」
📖 P.159 「登録したサーバー証明書を削除する」
📖 P.160 「サーバー証明書を自動取得する」
📖 P.162 「自動取得したサーバー証明書を削除する」

補 足

HTTPの設定、FTPサーバーの設定、IPP印刷、およびWeb ServiceプリントでSSL使用を有効にしたい場合で、本機およびクライアントコンピュータにインストールする必要のある証明書は以下のとおりです。

使用目的	ユーザー証明書			クライアントコンピュータに必要な証明書		
	サーバー証明書		CA証明書	自己証明書	クライアント証明書	CA証明書
	自己証明書	認証機関から入手／CAサーバが発行したサーバー証明書				
HTTP、FTP、IPP印刷＊1	○	-	-	(○)＊2	-	-
	-	○	-	-	-	(○)＊2
Web Serviceプリント	-	○	○	-	○	○
	○	-	-	○	-	-

＊1　HTTPの設定、FTPサーバーの設定、およびIPP印刷で、本機に自己証明書をインストールする場合は、クライアント側にも自己証明書をインストールします。本機に認証機関から入手したサーバー証明書をインストールする場合は、クライアント側にCA証明書をインストールしてください。
＊2　Windows Vista/XP/2000の場合、証明書を本機のみにインストールしてSSL使用を有効にすることも可能です。この場合は使用中に以下のメッセージが表示されるので、次の項目を選択してください。
Windows Vistaの場合、「このWebサイトのセキュリティ証明書には問題があります。」というメッセージが表示されるので、［このサイトの閲覧を続行する（推奨されません）。］を選択してください。
Windows XP/2000の場合、「この証明書は信頼された証明機関が発行したものではありません。信頼し受け入れますか？」というメッセージが表示されるので、［はい］を選択してください。
なお、より機密性を高めたい場合は、クライアントコンピュータにも証明書をインストールしてください。

📖 P.170 「CA証明書をインストールする」
📖 P.374 「クライアントコンピュータに証明書をインストールする」

注 意

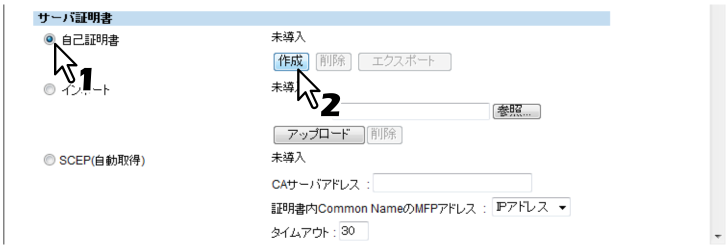
ユーザ証明書を本機にインストールするときは、セキュリティを確保するため、本機とクライアントコンピュータをクロスケーブルで接続し、インストールすることを推奨します。

自己証明書を作成する／エクスポートする

1 ［セキュリティ設定］をクリックします。

セキュリティ設定ページが表示されます。

2 ［サーバ証明書］の［自己証明書］を選択し、［作成］をクリックします。



自己証明書作成ページが表示されます。

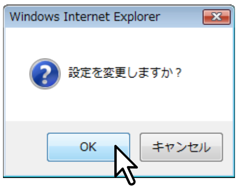
3 以下の項目をすべて入力し、［保存］をクリックします。

国、地域コード：半角英数字で2文字で国名または地域コードを入力します。（例：JP）
都道府県名：半角英数字で都道府県名を入力します。最大128文字まで入力できます。
市区町村名：半角英数字で市区町村名を入力します。最大128文字まで入力できます。
組織名：半角英数字で組織名を入力します。最大64文字まで入力できます。
部署名：半角英数字で部署名を入力します。最大64文字まで入力できます。
一般名：半角英数字で名前を入力します。最大64文字まで入力できます。
Eメールアドレス：半角英数字でEメールアドレスを入力します。最大64文字まで入力できます。

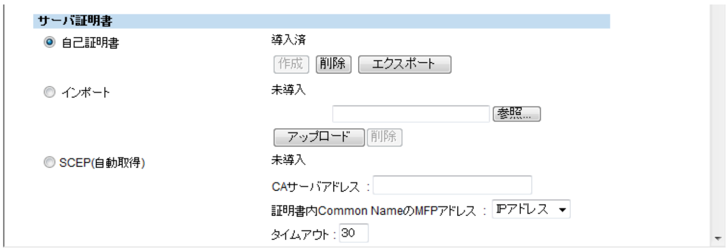
注 意

［一般名］には、作成する証明書の種類に合わせて以下の内容を入力してください。
- サーバー証明書（crt）を作成する場合は、本機のFQDNまたはIPアドレスを入力してください。
- クライアント証明書（pfx）を作成する場合は、証明書を使用するクライアントコンピュータのFQDNまたはIPアドレスを入力してください。

4 ［OK］をクリックします。

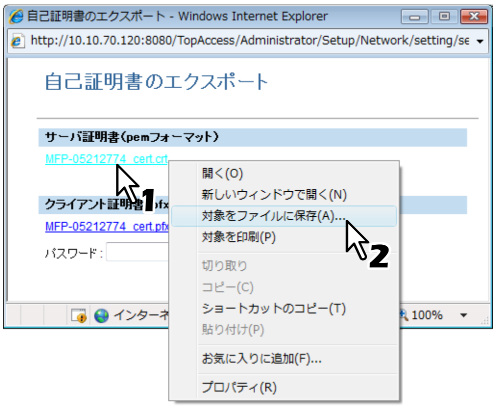


5 自己証明書が作成されます。



- 作成した自己証明書をクライアントコンピュータにエクスポートする場合は、［エクスポート］をクリックします。自己発行証明書のエクスポートページが表示されるので、次の手順へ進みます。
- 操作を終了する場合は、［戻る］をクリックしてセキュリティ設定ページを閉じます。そして、［ネットワーク］サブメニューのページで［保存］をクリックして変更を適用します。

6 ［サーバ証明書（crtフォーマット）］または［クライアント証明書（pfxフォーマット）］でエクスポートする証明書のファイル名のリンクを右クリックし、［対象をファイルに保存］を選択します。

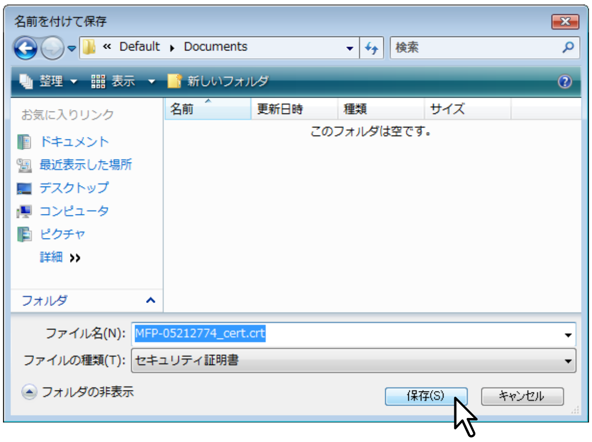


［名前を付けて保存］ダイアログボックスが表示されます。

補 足

クライアント証明書が未導入の場合は、［パスワード］にパスワードを入力し、［作成］をクリックして証明書を作成します。

7 保存先を指定し、［保存］をクリックします。



8 自己発行証明書のエクスポートページを閉じ、セキュリティ設定ページの［戻る］をクリックして閉じます。

9 ［ネットワーク］サブメニューのページで［保存］をクリックします。

補 足

エクスポートした証明書をクライアントコンピュータにインストールすると、機密性をより高めることができます。証明書をクライアントコンピュータにインストールする方法については、以下の説明を参照してください。

📖 P.374 「クライアントコンピュータに証明書をインストールする」

10 自己証明書を作成したら、以下の設定でSSLを有効に設定することができます。

📖 P.138 「HTTPの設定」
📖 P.144 「FTPサーバーの設定」
📖 P.172 「Web Serviceの設定」
📖 P.204 「IPP印刷の設定」

自己証明書を削除する

注 意

HTTPのSSLが有効に設定されている状態のときに、本機に登録された自己証明書を削除してしまうと、TopAccessにアクセスできなくなります。この場合は、一度、操作パネルからHTTPのSSLを無効に設定し、その後、TopAccessにアクセスして、HTTPのSSLを有効に再設定してください。

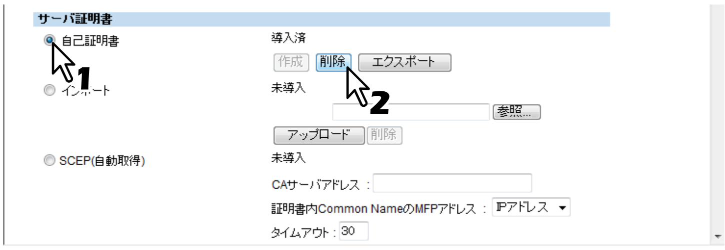
［HTTPの設定］については、以下の説明を参照してください。また、操作パネルからの設定方法については、**設定管理ガイド**を参照してください。

📖 P.138 「HTTPの設定」

1 ［セキュリティ設定］をクリックします。

セキュリティ設定ページが表示されます。

2 ［サーバ証明書］の［自己証明書］の［削除］をクリックします。

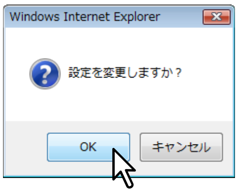


設定の確認ダイアログボックスが表示されます。

注 意

自己証明書が作成されていない場合は、削除することはできません。

3 ［OK］をクリックします。



自己証明書が削除されます。

4 ［戻る］をクリックしてセキュリティ設定ページを閉じます。

5 ［ネットワーク］サブメニューのページで［保存］をクリックします。

サーバー証明書をインストールする

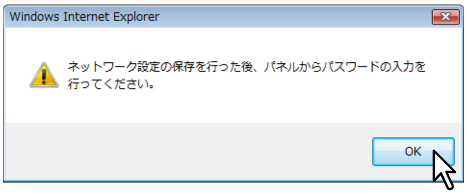
1 ［セキュリティ設定］をクリックします。

セキュリティ設定ページが表示されます。

2 ［サーバ証明書］の［インポート］の［参照］をクリックして、サーバー証明書ファイルを選択し、［アップロード］をクリックします。

警告メッセージが表示されます。

3 ［OK］をクリックします。



サーバー証明書がインストールされます。

補 足

表示される警告メッセージは、サーバー証明書をインストールした後に、本機の操作パネルからパスワードの入力が必要なことを通知するメッセージです。パスワードを入力しないと、証明書を使用することができません。

4 ［サーバ証明書］の［インポート］を選択し、［戻る］をクリックしてセキュリティ設定ページを閉じます。

5 ［ネットワーク］サブメニューのページで［保存］をクリックします。

6 SSL設定を行う前に、本機の操作パネルから登録したサーバー証明書のパスワードを入力する必要があります。

パスワードの入力方法については、**設定管理ガイド**の以下の章を参照してください。
第2章「設定項目（管理者設定）」－「ネットワーク設定」－「ユーザ証明書の復号」

7 以下の設定でSSLを有効に設定することができます。

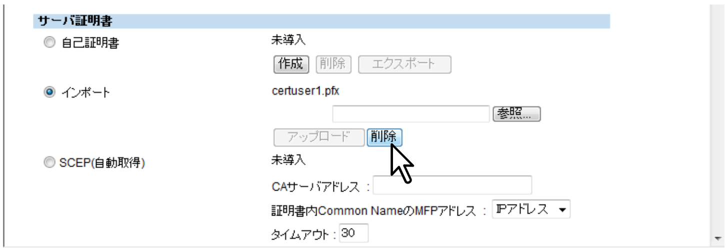
📖 P.138 「HTTPの設定」
📖 P.144 「FTPサーバーの設定」
📖 P.172 「Web Serviceの設定」
📖 P.204 「IPP印刷の設定」

登録したサーバー証明書を削除する

1 ［セキュリティ設定］をクリックします。

セキュリティ設定ページが表示されます。

2 ［サーバ証明書］の［インポート］の［削除］をクリックします。

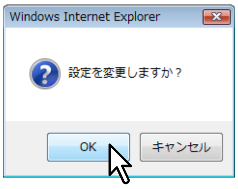


設定の確認ダイアログボックスが表示されます。

注 意

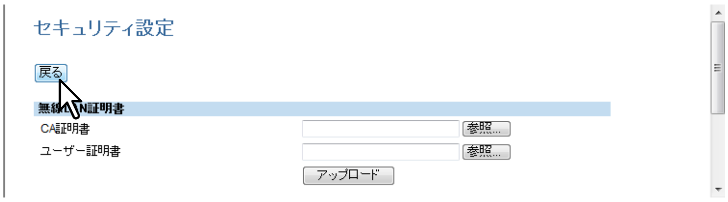
サーバー証明書がインポートされていない場合は、削除することはできません。

3 ［OK］をクリックします。



サーバー証明書が削除されます。

4 ［戻る］をクリックしてセキュリティ設定ページを閉じます。



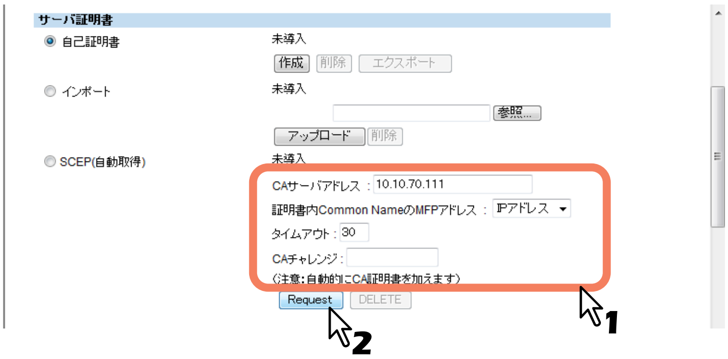
5 ［ネットワーク］サブメニューのページで［保存］をクリックします。

サーバー証明書を自動取得する

1 ［セキュリティ設定］をクリックします。

セキュリティ設定ページが表示されます。

2 ［サーバ証明書］の［SCEP(自動取得)］で以下の項目を入力し、［要求］をクリックします。



CAサーバアドレス：CAサーバのIPアドレスまたはFQDNを入力します。最大128文字まで入力できます。
証明書内CommonNameのMFPアドレス：証明書のCommon Nameに記述する本機のアドレスを、IPアドレスまたはFQDNのどちらかにするかを選択します。
タイムアウト：CAサーバが応答しない場合に、通信を終了するタイムアウト時間を入力します。
CAチャレンジ：CAチャレンジを入力します。

注 意

- ［CAサーバアドレス］でFQDNを使用してCAサーバーを指定する場合は、DNSサーバを設置しDNSの設定を有効にする必要があります。
- ［証明書のCommon NameのMFPアドレス］で［FQDN］を使用する場合は、DNSサーバーに本機のIPアドレスが登録されている必要があります。

サーバー証明書が取得されます。

3 ［サーバ証明書］の［SCEP（自動取得)］を選択し、［戻る］をクリックしてセキュリティ設定ページを閉じます。

注 意

サーバー証明書と同時にCA証明書も自動取得されます。CA証明書がすでに自動取得されていた場合は、新しいCA証明書を自動取得させるために、一度、サーバー証明書のSCEPの［削除］をクリックして自動取得されていたCA証明書を削除し、［取得］をクリックして新たに証明書を自動取得してください。

4 ［ネットワーク］サブメニューのページで［保存］をクリックします。

5 以下の設定でSSLを有効に設定することができます。

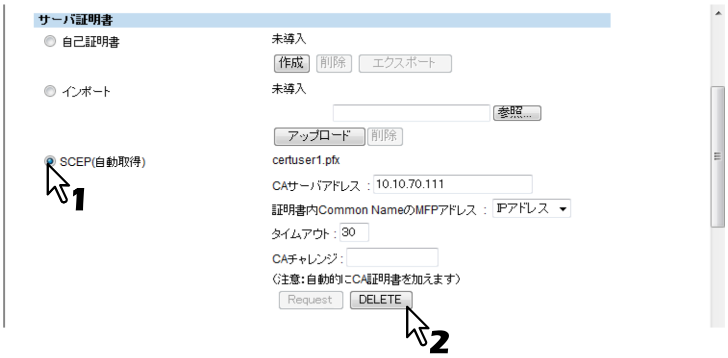
📖 P.130「LDAPの設定」
📖 P.138「HTTPの設定」
📖 P.139「SMTPクライアントの設定」
📖 P.142「POP3の設定」
📖 P.144「FTPサーバーの設定」
📖 P.172「Web Serviceの設定」
📖 P.204「IPP印刷の設定」

自動取得したサーバー証明書を削除する

1 ［セキュリティ設定］をクリックします。

セキュリティ設定ページが表示されます。

2 ［サーバ証明書］の［SCEP（自動取得）］を選択し、［削除］をクリックします。

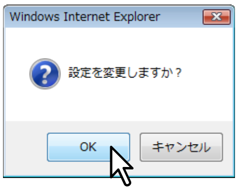


設定の確認ダイアログボックスが表示されます。

注 意

- サーバー証明書と同時に自動取得したCA証明書も削除されます。
- サーバー証明書が自動取得されていない場合は、削除することはできません。

3 ［OK］をクリックします。



サーバー証明書が削除されます。

4 ［戻る］をクリックしてセキュリティ設定ページを閉じます。

5 ［ネットワーク］サブメニューのページで［保存］をクリックします。

IEEE802.1X用証明書をインストールする

有線LANの環境上でRADIUSサーバーを使用したIEEE802.1X認証を設定する場合は、必要に応じてユーザ証明書・CA証明書をインストールします。

注 意

- 本機は以下のエンコード方式のCA証明書およびユーザ証明書をサポートします。
  - CA証明書：　DER、BASE64、PKCS#7
  - ユーザ証明書：　PKCS#12
- 本機は、md5RSAまたはsha1RSAアルゴリズムの証明書のみサポートしています。これらのアルゴリズムの証明書を使用しているか確認してください。
- ユーザ証明書を本機にインストールするときは、セキュリティを確保するため、本機とクライアントコンピュータをクロスケーブルで接続し、インストールすることを推奨します。

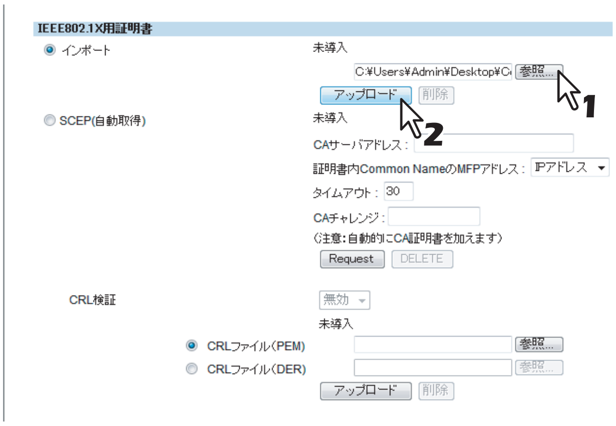
📖 P.163「IEEE802.1X用証明書をインストールする」
📖 P.165「登録したIEEE802.1X用証明書を削除する」
📖 P.166「IEEE802.1X用証明書を自動取得する」
📖 P.169「自動取得したIEEE802.1X用証明書を削除する」

IEEE802.1X用証明書をインストールする

1 ［セキュリティ設定］をクリックします。

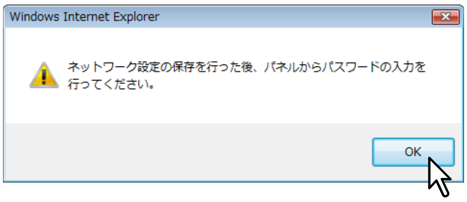
セキュリティ設定ページが表示されます。

2 ［IEEE802.1X用証明書］の［インポート］の［参照］をクリックして、IEEE802.1X用証明書ファイルを選択し、［アップロード］をクリックします。



警告メッセージが表示されます。

3 ［OK］をクリックします。

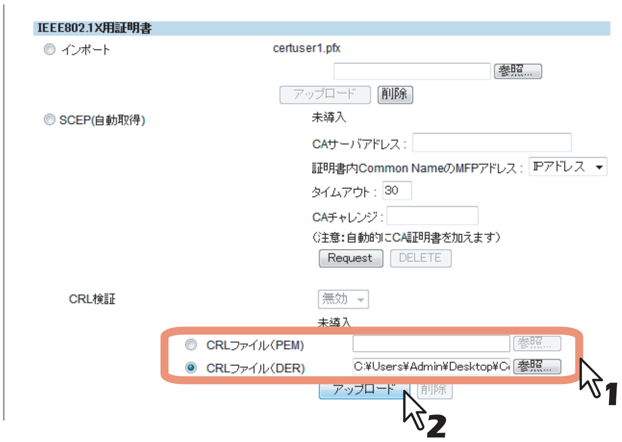


IEEE802.1X用証明書がインストールされます。
CRL検証を［有効］にする場合は次の手順へ、設定しない場合は手順6進みます。

補 足

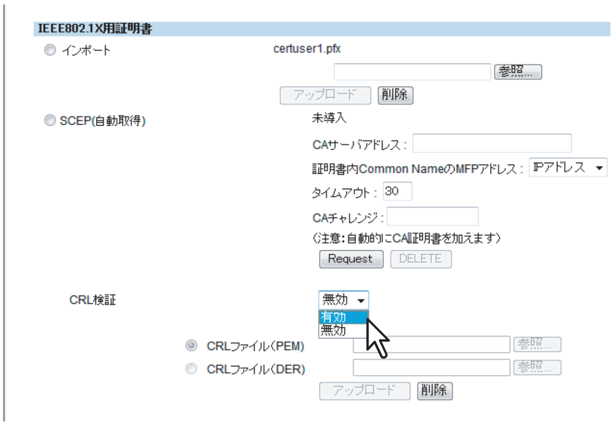
表示される警告メッセージは、IEEE802.1X用証明書をインストールした後に、本機の操作パネルからパスワードの入力が必要なことを通知するメッセージです。パスワードを入力しないと、証明書を使用することができません。

4 お使いになるCRLファイルの形式に合わせて［CRLファイル（PEM)]、［CRLファイル（DER)］を選択します。［参照］をクリックしてCRLファイルを指定し、［アップロード］をクリックします。



CRLファイルがアップロードされます。

5 ［CRL検証］の［有効］を選択します。



6 ［インポート］を選択し、［戻る］をクリックしてセキュリティ設定ページを閉じます。

7 ［ネットワーク］サブメニューのページで［保存］をクリックします。

8 IEEE802.1X設定を行う前に、本機の操作パネルから登録したIEEE802.1X用証明書のパスワードを入力する必要があります。

パスワードの入力方法については、**設定管理ガイド**の以下の章を参照してください。
第2章「設定項目（管理者設定）」－「ネットワーク設定」－「ユーザ証明書の復号」

9 以下の設定でIEEE802.1Xを有効に設定することができます。

有線LAN環境におけるIEEE802.1X認証を有効にする方法については、**設定管理ガイド**の以下の章を参照してください。
第2章「設定項目（管理者設定）」－「IEEE 802.1X認証設定」

登録したIEEE802.1X用証明書を削除する

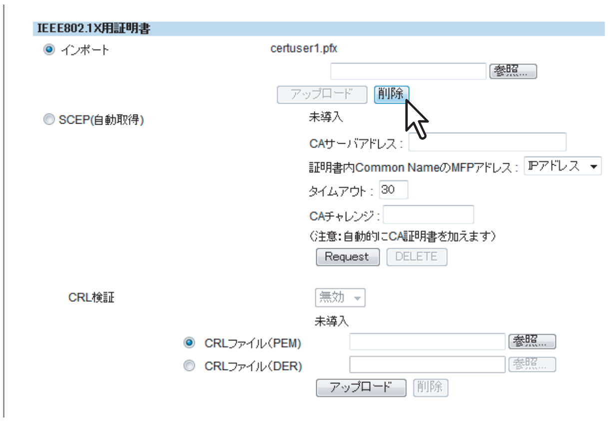
注 意

使用中のIEEE802.1X用証明書を削除することはできません。

1 ［セキュリティ設定］をクリックします。

セキュリティ設定ページが表示されます。

2 ［IEEE802.1X用証明書］の［インポート］の［削除］をクリックします。

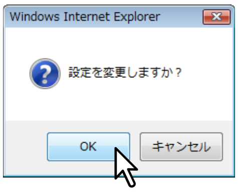


設定の確認ダイアログボックスが表示されます。

注 意

IEEE802.1X用証明書がインポートされていない場合は、削除することはできません。

3 ［OK］をクリックします。



IEEE802.1X用証明書が削除されます。

4 ［戻る］をクリックしてセキュリティ設定ページを閉じます。

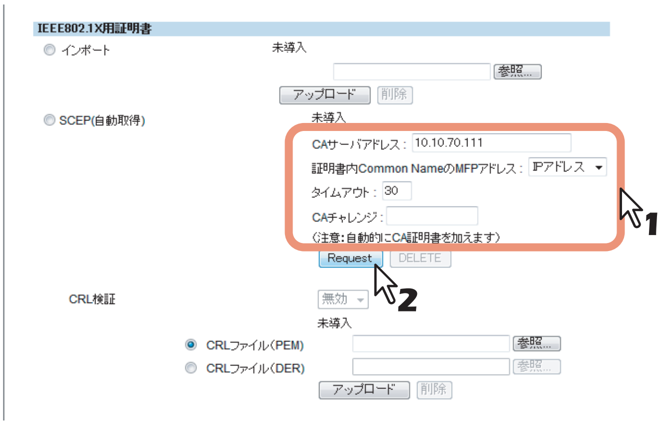
5 ［ネットワーク］サブメニューのページで［保存］をクリックします。

IEEE802.1X用証明書を自動取得する

1 ［セキュリティ設定］をクリックします。

セキュリティ設定ページが表示されます。

2 ［IEEE802.1X用証明書］の［SCEP（自動取得)］で以下の項目を入力し、［Request］をクリックします。



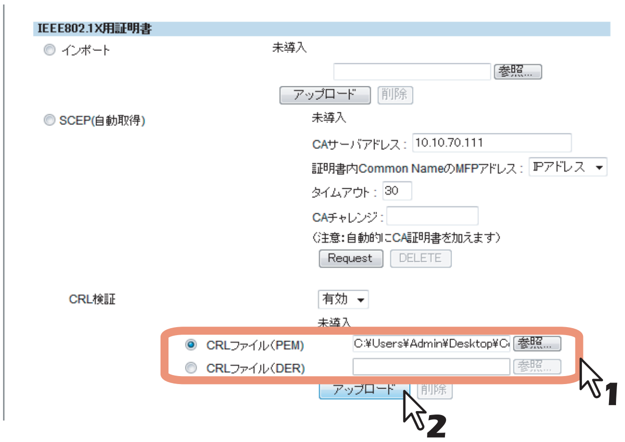
CAサーバアドレス：CAサーバーのIPアドレスまたはFQDNを入力します。最大128文字まで入力できます。
証明書内CommonNameのMFPアドレス：証明書のCommon Nameに記述する本機のアドレスを、IPアドレスまたはFQDNのどちらかにするかを選択します。
タイムアウト：CAサーバーが応答しない場合に、通信を終了するタイムアウト時間を入力します。
CAチャレンジ：CAチャレンジを入力します。

注 意

- ［CAサーバアドレス］でFQDNを使用してCAサーバーを指定する場合は、DNSサーバーを設置しDNSの設定を有効にする必要があります。
- ［証明書のCommon NameのMFPアドレス］で［FQDN］を使用する場合は、DNSサーバーに本機のIPアドレスが登録されている必要があります。

IEEE802.1X用証明書が取得されます。
CRL検証を［有効］にする場合は次の手順へ、設定しない場合は手順5進みます。

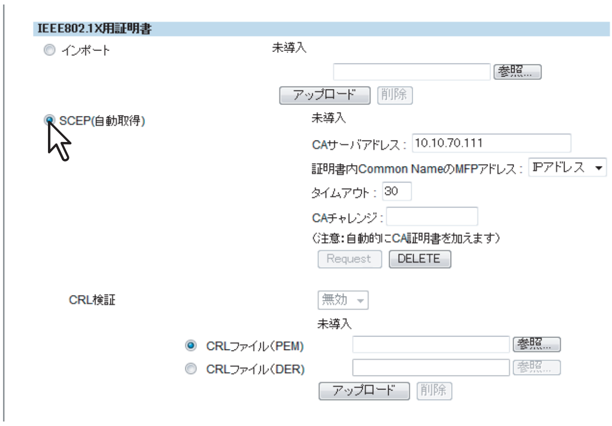
3 お使いになるCRLファイルの形式に合わせて［CRLファイル（PEM)］、［CRLファイル（DER)］を選択します。［参照］をクリックしてCRLファイルを指定し、［アップロード］をクリックします。



CRLファイルがアップロードされます。

4 ［CRL検証］の［有効］を選択します。

5 ［IEEE802.1X用証明書］の［SCEP（自動取得)］を選択し、［戻る］をクリックしてセキュリティ設定ページを閉じます。



注 意

IEEE802.1X用証明書と同時にCA証明書も自動取得されます。CA証明書がすでに自動取得されていた場合は、新しいCA証明書を自動取得させるために、一度、IEEE802.1X用証明書のSCEPの［削除］をクリックして自動取得されていたCA証明書を削除し、［取得］をクリックして新たに証明書を自動取得してください。

6 ［ネットワーク］サブメニューのページで［保存］をクリックします。

7 以下の設定でIEEE802.1Xを有効に設定することができます。

有線LAN環境におけるIEEE802.1X認証を有効にする方法については、**設定管理ガイド**の以下の章を参照してください。

第2章「設定項目（管理者設定)」－「IEEE 802.1X認証設定」

自動取得したIEEE802.1X用証明書を削除する

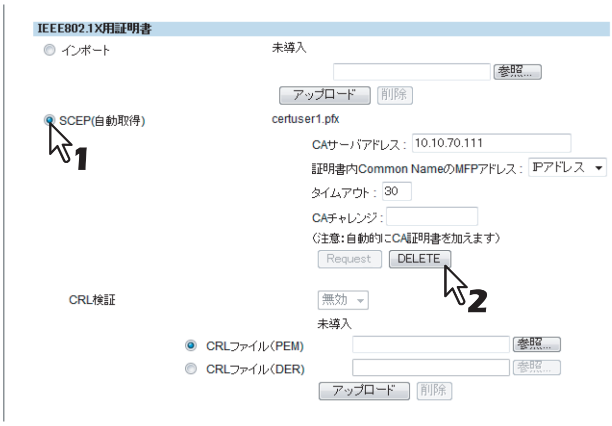
注 意

使用中のIEEE802.1X用証明書を削除することはできません。

1 ［セキュリティ設定］をクリックします。

セキュリティ設定ページが表示されます。

2 ［IEEE802.1X用証明書］の［SCEP（自動取得）］を選択し、［削除］をクリックします。

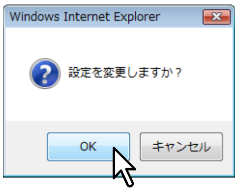


設定の確認ダイアログボックスが表示されます。

注 意

- IEEE802.1X用証明書と同時に自動取得したCA証明書も削除されます。
- IEEE802.1X用証明書が自動取得されていない場合は、削除することはできません。

3 ［OK］をクリックします。



IEEE802.1X用証明書が削除されます。

4 ［戻る］をクリックしてセキュリティ設定ページを閉じます。

5 ［ネットワーク］サブメニューのページで［保存］をクリックします。

CA証明書をインストールする

LDAPの設定、SMTPクライアントの設定、およびPOP3の設定でSSL使用を［登録された証明書を使用する］にしたい場合は、CA証明書をインストールする必要があります。CA証明書は最大10個まで登録することができます。

P.170 「CA証明書をインストールする」
P.171 「登録したCA証明書を削除する」

補 足

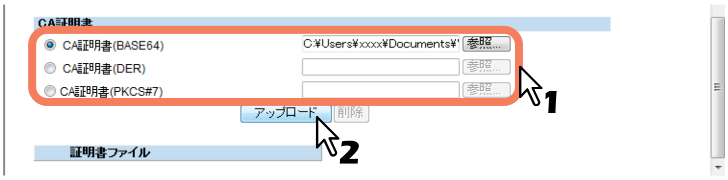
サーバー証明書／IPsec用証明書／IEEE802.1X用証明書のSCEPで自動取得されるCA証明書は、登録数にカウントされません。SCEPで自動取得されるCA証明書は、それぞれ1個ずつ登録することができます。

CA証明書をインストールする

1 ［セキュリティ設定］をクリックします。

セキュリティ設定ページが表示されます。

2 CA証明書の暗号化種別を選択し、［参照］をクリックしてCA証明書ファイルを選択して、［アップロード］をクリックします。



CA証明書がインストールされます。

3 ［戻る］をクリックしてセキュリティ設定ページを閉じます。

4 ［ネットワーク］サブメニューのページで［保存］をクリックします。

5 以下の設定のSSL使用設定で［登録された証明書を使用する］を選択して、SSLを有効に設定することができます。

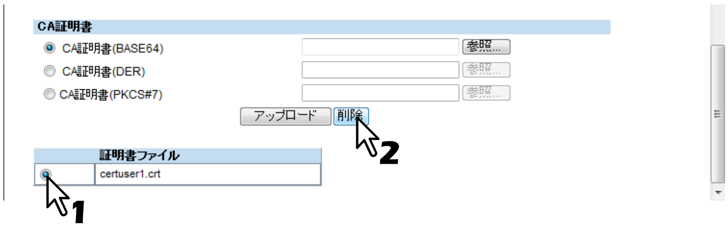
📖 P.130 「LDAPの設定」
📖 P.139 「SMTPクライアントの設定」
📖 P.142 「POP3の設定」

登録したCA証明書を削除する

1 ［セキュリティ設定］をクリックします。

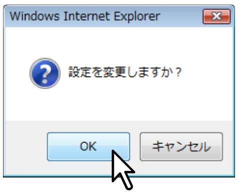
セキュリティ設定ページが表示されます。

2 ［証明書ファイル］で削除したいCA証明書を選択し、［CA証明書］の［削除］をクリックします。



設定の確認ダイアログボックスが表示されます。

3 ［OK］をクリックします。



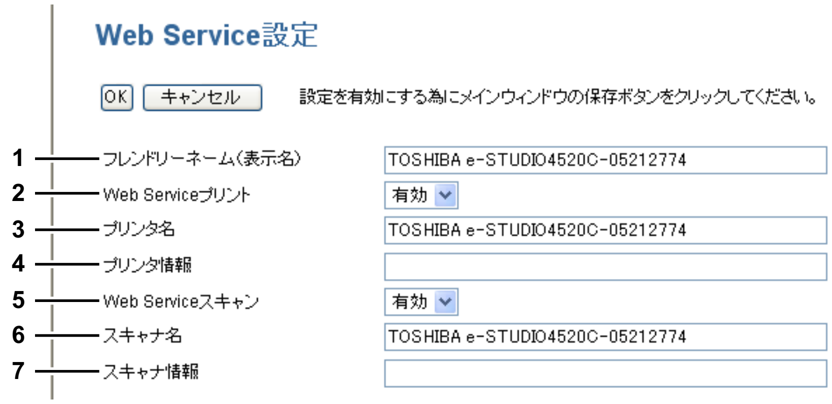
CA証明書が削除されます。

4 ［戻る］をクリックしてセキュリティ設定ページを閉じます。

5 ［ネットワーク］サブメニューのページで［保存］をクリックします。

□ Web Serviceの設定

Web ServiceプリントおよびWeb Serviceスキャンを行う場合に設定します。Windows Vistaコンピュータ搭載の機能を利用して、ネットワークを介したクライアントとの操作ができます。



1) フレンドリーネーム（表示名）
本機の表示名を入力します。

2) Web Serviceプリント
Web Serviceプリントの有効／無効を設定します。
- **有効**：Web Serviceプリントを有効にします。
- **有効（セキュリティあり）**：Web Serviceプリントを有効にします。データの通信にはSSLを使用します。
- **無効**：Web Serviceプリントを無効にします。

注 意

SSLを使用したWeb Serviceプリントを有効にするには、本機やクライアントコンピュータに証明書をインストールする必要があります。詳細は、以下を参照してください。

📖 P.151 「セキュリティの設定」
📖 P.374 「クライアントコンピュータに証明書をインストールする」

3) プリンタ名
本機のプリンタ名を入力します。

4) プリンタ情報
本機のプリンタ情報を入力します。

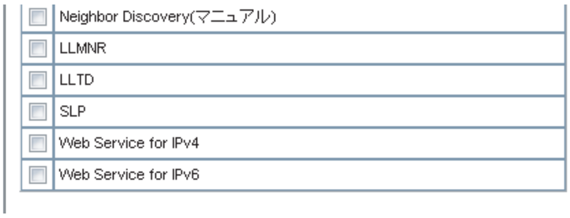
5) Web Serviceスキャン
Web Serviceスキャンの有効／無効を設定します。
- **有効**：Web Serviceスキャンを有効にします。
- **無効**：Web Serviceスキャンを無効にします。

6) スキャナ名
本機のスキャナ名を入力します。

7) スキャナ情報
本機のスキャナ情報を入力します。

□ LLTDの設定

LLTD（Link Layer Topology Discovery）では、デバイスの接続検証やインストール、TopAccessの起動などを行う場合に有効に設定します。Windows Vistaでローカルネットワーク上のデバイスの探索を行い、ネットワークマップに位置情報やIPアドレス、MACアドレス、プロファイルなどを表示することができます。



1) LLTD

LLTDの有効／無効を設定します。

- **有効**：LLTDを有効にします。
- **無効**：LLTDを無効にします。

2) デバイス名

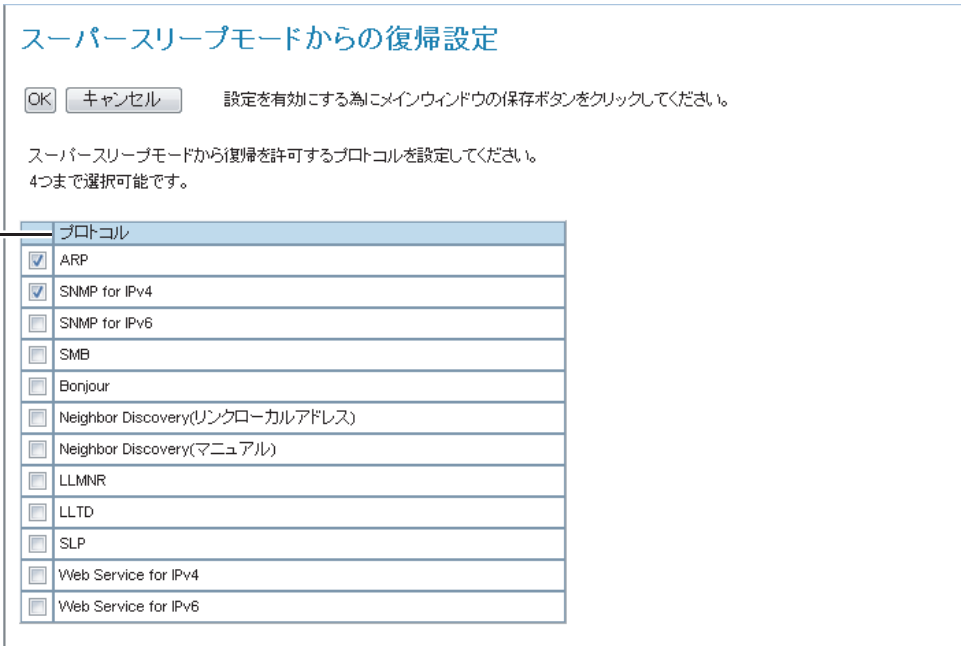
ネットワークマップに表示されるデバイス名を入力します。
半角または全角の文字が入力可能で、半角の英数字で16文字まで入力することができます。

□ スーパースリープモードからの復帰設定

スーパースリープモード中のネットワークアクセスについて設定します。
ネットワーク検索により本機をスーパースリープモードから復帰させたい場合などに設定してください。

注 意

- この機能はe-STUDIO455 Seriesおよびe-STUDIO855 Seriesで使用できます。
- 節電モード設定で、スーパースリープモード設定が「有効」に設定されている場合に、復帰設定が有効になります。スーパースリープモード設定が「有効」に設定されていない場合は、本機がスーパースリープモードに移行しないので、復帰設定は無効になります。
📖 P.116 「節電モードの設定」



1

1) プロトコル

本機をスーパースリープモードから復帰させるプロトコルを選択します。4つまで選択できます。

- **ARP**
  IPv4環境で本機を使用する場合に、アドレス解決ができるようになります。
- **SNMP for IPv4**
  IPv4環境でClient Utilitiesを使用する場合に、SNMPでネットワーク検索されるようになります。
- **SNMP for IPv6**
  IPv6環境でClient Utilitiesを使用する場合に、SNMPでネットワーク検索されるようになります。
- **SMB**
  IPv4環境でNetBIOS名を利用する場合に、名前解決ができるようになります。
- **Bonjour**
  Bonjourを使用する場合に、Bonjourでネットワーク検索されるようになります。
- **Neighbor Discovery（リンクローカルアドレス）/ Neighbor Discovery（マニュアルIPアドレス）**
  IPv6環境で本機を使用する場合に、アドレス解決ができるようになります。
- **LLMNR**
  IPv6環境でNetBIOS名を利用する場合に、名前解決ができるようになります。
- **LLTD**
  ネットワークマップを利用する場合に、ネットワークマップの表示（デバイス探索）ができるようになります。
- **SLP**
  SLPを利用する場合に、サービス探索されるようになります。
- **Web Service for IPv4**
  IPv4環境でWS-Discoveryを使用する場合に、WS-Discoveryでネットワーク検索されるようになります。
- **Web Service for IPv6**
  IPv6環境でWS-Discoveryを使用する場合に、WS-Discoveryでネットワーク検索されるようになります。

注 意

- スーパースリープモードからの復帰設定では、各プロトコルの設定の「有効」/「無効」に関係なく、任意のプロトコルを選択できます。ただし、復帰設定で選択していても、選択したプロトコルがプロトコルの設定で「無効」に設定されている場合は、本機はスーパースリープモードから復帰しません。
- 本設定で選択したプロトコルでネットワークアクセスを行っても、本機から応答が来ない場合は、ネットワークアクセスを再試行してください。

補 足

以下のプロトコルは、復帰設定を行わなくても、スーパースリープモードから復帰できます。

- IPP
- FTP
- HTTP
- SMTP
- RAW9100
- LPD
- WebService

■ コピー設定をセットアップする

管理者は［セットアップ］メニューの［コピー］サブメニューから、コピー設定をセットアップすることができます。この設定では、コピー操作に適用される設定を行います。

注 意

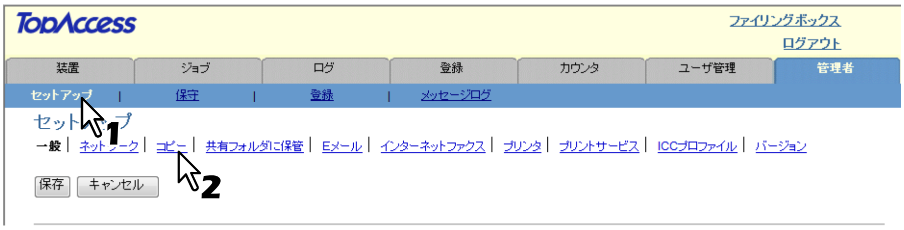
設定を変更しても、設定した内容がすぐに本体タッチパネルに反映されないことがあります。設定を変更した場合は、操作パネルの［リセット］ボタンを押すか、オートクリアされると反映されます。

コピー設定のセットアップ手順

1 TopAccessの管理者モードを起動します。

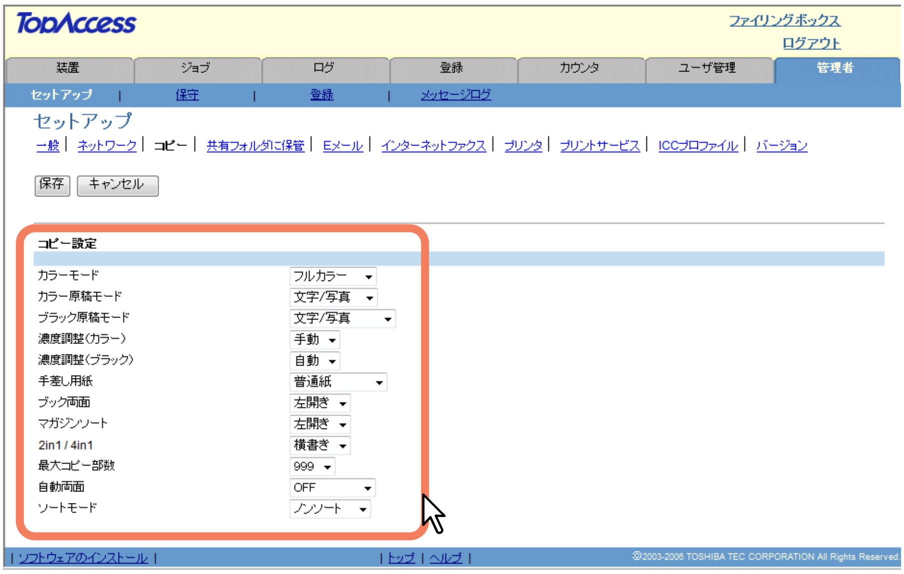
P.110「TopAccess管理者モードの起動」

2 ［セットアップ］メニューをクリックし、［コピー］サブメニューをクリックします。



コピーサブメニューページが表示されます。

3 必要に応じて、コピー設定をセットアップします。



このページでは、以下の設定を行うことができます：

P.176「コピー設定」

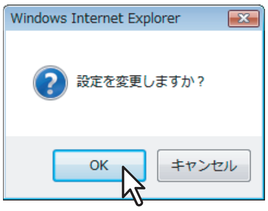
4 ［保存］をクリックします。

保存の確認ダイアログボックスが表示されます。

補 足

設定を保存する前に［キャンセル］をクリックすると、設定を保存せずに現在の設定状態に戻します。［キャンセル］をクリックしても、工場出荷時の設定に戻すことはできません。［キャンセル］ボタンは、設定を保存する前に、変更した設定をクリアしてすべて現在の設定状態に戻したい場合に、クリックします。

5 ［OK］をクリックし、変更を適用します。



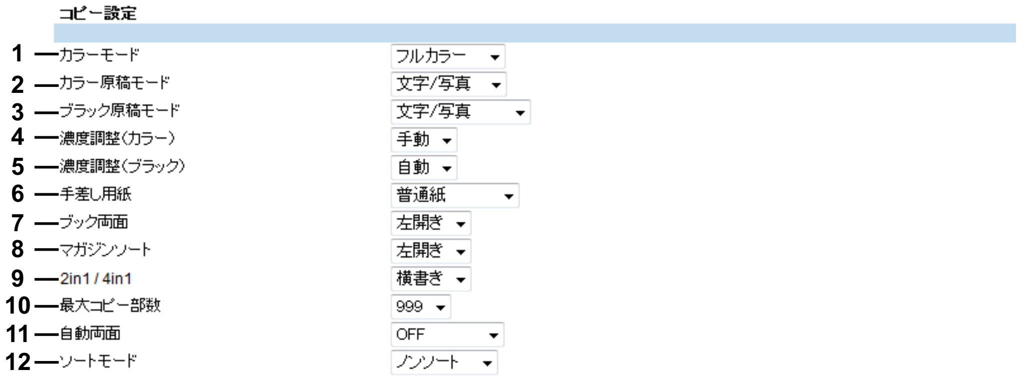
注 意

Internet Explorerをお使いの場合、［保存］をクリックして設定の変更を保存した後も、画面上に表示された設定の値が更新されないことがありますが、設定は正常に適用されています。この場合、サブメニューをクリックして画面を更新すると、現在の設定状態で各項目の値が表示されます。

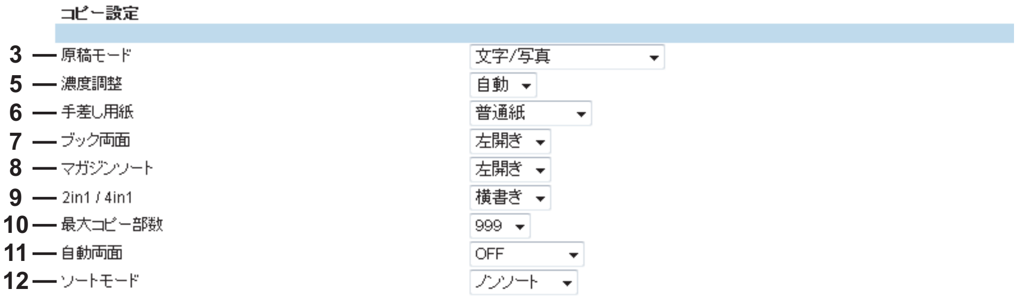
□ コピー設定

コピー設定では、タッチパネル画面から行うコピー操作に適用する標準のコピー設定をセットアップします。

e-STUDIO4520C Seriesおよびe-STUDIO6530C Seriesをお使いの場合



e-STUDIO855 Seriesおよびe-STUDIO455 Seriesをお使いの場合



1) カラーモード

コピーに適用する標準のカラーモードを選択します。

注 意

ブラック無制限機能が有効な場合は、［ブラック］のみを選択することができます。ブラック無制限機能の詳細については、**設定管理ガイド**を参照してください。

補 足

この機能はe-STUDIO4520C Seriesおよびe-STUDIO6530C Seriesで使用できます。

2) カラー原稿モード
カラー原稿に適用する標準の原稿モードを選択します。

補 足

この機能はe-STUDIO4520C Seriesおよびe-STUDIO6530C Seriesで使用できます。

3) ブラック原稿モード
原稿に適用する標準の原稿モードを選択します。

補 足

e-STUDIO855 Seriesおよびe-STUDIO455 Seriesでは、「原稿モード」になります。

4) 濃度調整（カラー）
カラーイメージの濃度を選択します。
- **自動**：標準のカラー濃度モードに自動モードを適用します。自動モードでは、原稿の濃度を自動的に検知して最適な濃度でコピーします。
- **手動**：標準のカラー濃度モードに手動モードを適用します。手動モードでは、原稿の濃度を手動で設定します。

補 足

この機能はe-STUDIO4520C Seriesおよびe-STUDIO6530C Seriesで使用できます。

5) 濃度調整（ブラック）
イメージの濃度を選択します。
- **自動**：標準の濃度モードに自動モードを適用します。自動モードでは、原稿の濃度を自動的に検知して最適な濃度でコピーします。
- **手動**：標準の濃度モードに手動モードを適用します。手動モードでは、原稿の濃度を手動で設定します。

補 足

e-STUDIO855 Seriesおよびe-STUDIO455 Seriesでは、「濃度調整」になります。

6) 手差し用紙
手差しコピーを行う際に標準で使用する用紙の種類を選択します。

7) ブック両面
ブック原稿を両面コピーする際に適用する標準のページ配列を選択します。
- **左開き**：左ページから読む配列でブック原稿をコピーします。
- **右開き**：右ページから読む配列でブック原稿をコピーします。

8) マガジンソート
マガジンソートコピーに適用する標準のページ配列を選択します。
- **左開き**：左ページから読む配列で冊子を作成します。
- **右開き**：右ページから読む配列で冊子を作成します。

9) 2in1/4in1
2in1/4in1コピーに適用するページ配列を選択します。
- **横書き**：2ページまたは4ページを左から右、または上から下の配列でコピーします。縦向き原稿のときは、本機は左から右にコピーします。横向き原稿の場合は、上から下にコピーします。
- **縦書き**：2ページまたは4ページを右から左、上から下の配列でコピーします。縦向き原稿のときは、本機は右から左にコピーします。横向き原稿の場合は、上から下にコピーします。

10) 最大コピー部数
ユーザが指定できるコピーの最大枚数を選択します。[9999]*、[999]、[99]、[9]の中から選択することができます。

11) 自動両面

自動両面原稿送り装置に原稿がセットされたときに自動的に適用する両面コピー設定を選択します。

- **OFF**：自動両面原稿送り装置に原稿がセットされたときに、初期設定として両面コピーを［片面→片面］にします。
- **片面／両面**：自動両面原稿送り装置に原稿がセットされたときに、初期設定として両面コピーを［片面→両面］にします。
- **両面／両面**：自動両面原稿送り装置に原稿がセットされたときに、初期設定として両面コピーを［両面→両面］にします。
- **ユーザ設定**：自動両面原稿送り装置に原稿がセットされたときに、両面コピーの選択画面を自動的に表示します。

12) ソートモード

コピーを実行する際に適用する標準のソートモードを選択します。

＊ e-STUDIO6530C Seriesおよびe-STUDIO855 Seriesに適用されます。

■ ファクス設定をセットアップする

管理者は［セットアップ］メニューの［ファクス］サブメニューのページから、ファクス設定をセットアップすることができます。この設定では、ファクス装置に関する設定とファクス操作に適用される設定を行います。

注 意

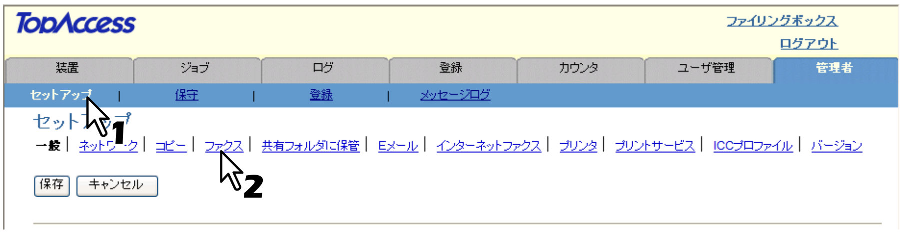
- 設定を変更しても、設定した内容がすぐに本体タッチパネルに反映されないことがあります。設定を変更した場合は、操作パネルの［リセット］ボタンを押すか、オートクリアされると反映されます。
- この［ファクス］サブメニューのページは、本機にオプションのFAXユニットを装着している場合にのみ利用できます。

ファクス設定のセットアップ手順

1 TopAccessの管理者モードを起動します。

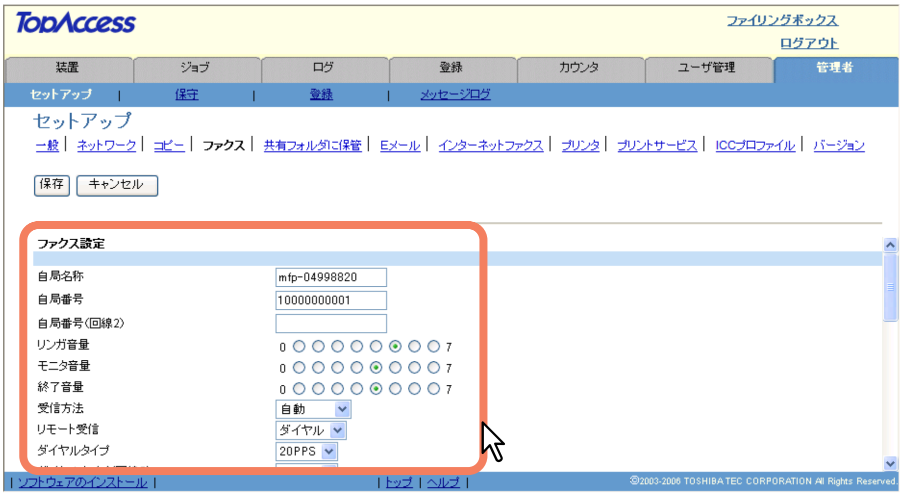
P.110「TopAccess管理者モードの起動」

2 ［セットアップ］メニューをクリックし、［ファクス］サブメニューをクリックします。



ファクスサブメニューページが表示されます。

3 必要に応じて、ファクス設定をセットアップします。



このページでは、以下の設定を行うことができます：

P.179「ファクス設定」

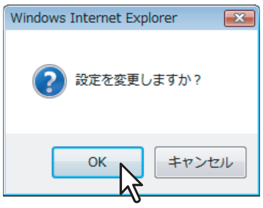
4 **［保存］をクリックします。**

保存の確認ダイアログボックスが表示されます。

補 足

設定を保存する前に［キャンセル］をクリックすると、設定を保存せずに現在の設定状態に戻します。［キャンセル］をクリックしても、工場出荷時の設定に戻すことはできません。［キャンセル］ボタンは、設定を保存する前に、変更した設定をクリアしてすべて現在の設定状態に戻したい場合に、クリックします。

5 **［OK］をクリックし、変更を適用します。**

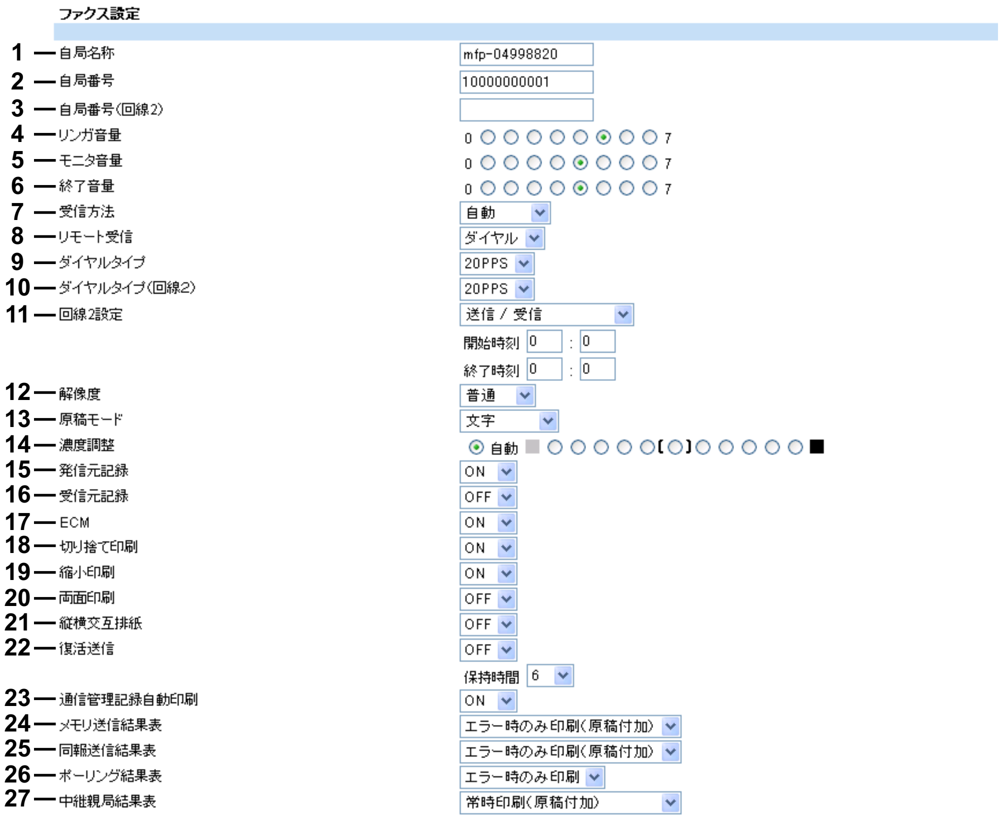


注 意

Internet Explorerをお使いの場合、［保存］をクリックして設定の変更を保存した後も、画面上に表示された設定の値が更新されないことがありますが、設定は正常に適用されています。この場合、サブメニューをクリックして画面を更新すると、現在の設定状態で各項目の値が表示されます。

□ ファクス設定

ファクス設定では、タッチパネル画面から行うファクス操作に適用する標準のファクス設定をセットアップします。



1) **自局名称**

本機を識別するターミナルID（会社名）を入力します。この名称は、本機から送信されるすべての文書の先頭に印字されます。

2) 自局番号

本機のファクス番号を入力します。このファクス番号は、本機の回線1から送信されるすべての文書の先頭に印字されます。

3) 自局番号（回線2）

本機に回線2を設置している場合に、回線2のファクス番号を入力します。このファクス番号は、本機の回線2から送信されるすべての文書の先頭に印字されます。

4) リンガ音量

呼び出し音量を選択します。

5) モニタ音量

送信中の回線モニタ音量を選択します

6) 終了音量

受信完了時の終了音の音量を選択します。

7) 受信方法

ファクス受信時に本機をどのように動作させるかを選択します。

- **自動**：呼び出し時に、着信原稿を自動的に受信します。回線がファクス通信専用に使用されている場合は、このオプションを選択します。
- **手動**：操作パネルの［スタート］ボタンを押すことによって、着信原稿の受信を開始します。
- **TEL/FAX**：受信したときに電話かファクスかを自動的に検知します。電話としても使用されている回線に本機を接続する場合は、このオプションを選択します。

8) リモート受信

外付け電話を使ってファクスのリモート受信する場合の操作方法を選択します。

- **OFF**：リモート受信機能を無効にします。
- **ダイヤル**：受話器を取って通話した後、ダイヤル操作で受信を開始します。
- **簡易**：受話器を取った後、指定時間内に受話器を元に戻すと受信を開始します。

9) ダイヤルタイプ

回線1のダイヤルの種類を選択します。

- **10PPS**：10PPSパルスタイプのダイヤル回線を使用します。
- **20PPS**：20PPSパルスタイプのダイヤル回線を使用します。
- **PB**：トーンタイプのプッシュホン回線を使用します。

10) ダイヤルタイプ（回線2）

回線2を設置している場合に、回線2のダイヤルの種類を選択します。

- **10PPS**：10PPSパルスタイプのダイヤル回線を使用します。
- **20PPS**：20PPSパルスタイプのダイヤル回線を使用します。
- **PB**：トーンタイプのプッシュホン回線を使用します。

11) 回線2設定

回線2を設置している場合に、回線2をどのように使用するか選択します。

- **送信／受信**：回線2をファクスの送受信に使用します。
- **受信専用**：回線2をファクスの受信専用に使用します。
- **受信専用（時刻指定）**：回線2を指定した時間の間、受信専用として使用します。

12) 解像度

ファクスを送信する際に適用する標準の解像度を選択します。

- **普通**：標準の解像度に標準モードを適用します。このモードは、普通サイズの文字で構成されたテキスト原稿をひんぱんに送信する場合に適しています。
- **精細**：標準の解像度に精細モードを適用します。このモードは、細かい文字や細かな線画を含む原稿を送信する場合に適しています。
- **高精細**：標準の解像度に高精細モードを適用します。このモードは、特に細かい文字や精密な線画を含む原稿を送信する場合に適しています。

13) 原稿モード

ファクスを送信する際に適用する標準の画質を選択します。

- **文字**：標準の画質モードに文字モードを適用します。このモードは、テキスト原稿を送信する場合に適しています。
- **文字／写真**：標準の画質モードに文字／写真モードを適用します。このモードは、テキスト、写真両方で構成された原稿を送信する場合に適しています。
- **写真**：標準の画質モードに写真 モードを適用します。このモードは、写真原稿を送信する場合に適しています。

14) 濃度調整

ファクスを送信する際に適用する標準の濃度を選択します。

原稿によって理想的な濃度を適用する［自動］を選択するか、手動で11段階の濃度を選択します。

15) 発信元記録

送信者を識別する送信ヘッダ（TTI）を受信ファクスに印刷するか選択します。

16) 受信元記録

受信した時刻、日付、ページ数を確認する受信ヘッダ（RTI）を受信ファクスに印刷するか選択します。

17) ECM

文書が電話回線のノイズや歪みなどにより影響を受けた部分があるときに、自動的に再送するECM（Error Correction Mode：自動誤り訂正モード）を有効にするか選択します。

18) 切り捨て印刷

記録紙より大きなファクス原稿を受信したときに、受信したファクス原稿の下の部分を切り捨てるかを選択します。

19) 縮小印刷

記録紙の印刷可能範囲より大きなファクス原稿を受信したときに、受信したファクス原稿を縮小するか選択します。

20) 両面印刷

記録紙の両面に受信したファクス原稿を印刷するか選択します。

21) 縦横交互排紙

受信ごとに、縦横交互に排紙方向を変えて排紙トレイに出力するか選択します。

22) 復活送信

初期値で指定されているリダイヤル回数に失敗した後、メモリ内に保持した原稿を操作パネルで操作して送信することができます。このオプションを有効にした場合は、1～24時間の範囲でデータを保持する時間を選択します。

23) 通信管理記録自動印刷

通信を完了するたびに、送信ジャーナルや受信ジャーナルを自動的に印刷するか選択します。

24) メモリ送信結果表

メモリ送信を実行した後に、どのように結果レポートを印刷するか選択します。

- **OFF**：メモリ送信レポートを印刷しません。
- **常時印刷**：メモリ送信を完了するたびにメモリ送信レポートを印刷します。
- **エラー時のみ印刷**：メモリ送信に失敗した場合にのみメモリ送信レポートを印刷します。
- **常時印刷（原稿付加）**：メモリ送信を完了するたびに、原稿の最初のページを添付したメモリ送信レポートを印刷します。
- **エラー時のみ印刷（原稿付加）**：メモリ送信に失敗した場合にのみ、最初のページのイメージを添付したメモリ送信レポートを印刷します。

25) 同報送信結果表

同報送信を実行した後に、どのように結果レポートを印刷するか選択します。

- **OFF**：同報送信レポートを印刷しません。
- **常時印刷**：同報送信を完了するたびに同報送信レポートを印刷します。
- **エラー時のみ印刷**：同報送信に失敗した場合にのみ同報送信レポートを印刷します。
- **常時印刷（原稿付加）**：同報送信を完了するたびに、最初のページのイメージを添付した同報送信レポートを印刷します。
- **エラー時のみ印刷（原稿付加）**：同報送信に失敗した場合にのみ、最初のページのイメージを添付した同報送信レポートを印刷します。

26) ポーリング結果表

ポーリング受信を実行した後に、どのように結果レポートを印刷するか選択します。

- **OFF**：ポーリングレポートを印刷しません。
- **常時印刷**：ポーリング受信を完了するたびに、ポーリングレポートを印刷します。
- **エラー時のみ印刷**：ポーリング受信に失敗した場合にのみ、ポーリングレポートを印刷します。

27) 中継親局結果表

中継送信を実行した後に、どのように結果レポートを印刷するか選択します。

- **OFF**：中継局レポートを印刷しません。
- **常時印刷**：中継送信を完了するたびに中継局レポートを印刷します。
- **エラー時のみ印刷**：中継送信に失敗した場合にのみ中継局レポートを印刷します。
- **常時印刷（原稿付加）**：中継送信を完了するたびに、最初のページのイメージを添付した中継局レポートを印刷します。
- **エラー時のみ印刷（原稿付加）**：中継送信に失敗した場合にのみ、最初のページのイメージを添付した中継局レポートを印刷します。

■ 共有フォルダに保管設定をセットアップする

管理者は［セットアップ］メニューの［共有フォルダに保管］サブメニューのページから、共有フォルダ保存設定をセットアップすることができます。この設定では、ファイル保存操作やN/W-Faxドライバの共有フォルダ保存機能に適用される設定を行います。

注 意

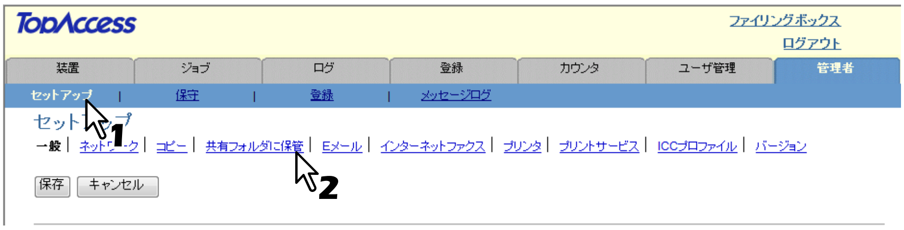
設定を変更しても、設定した内容がすぐに本体タッチパネルに反映されないことがあります。設定を変更した場合は、操作パネルの［リセット］ボタンを押すか、オートクリアされると反映されます。

共有フォルダ保存設定のセットアップ手順

1 TopAccessの管理者モードを起動します。

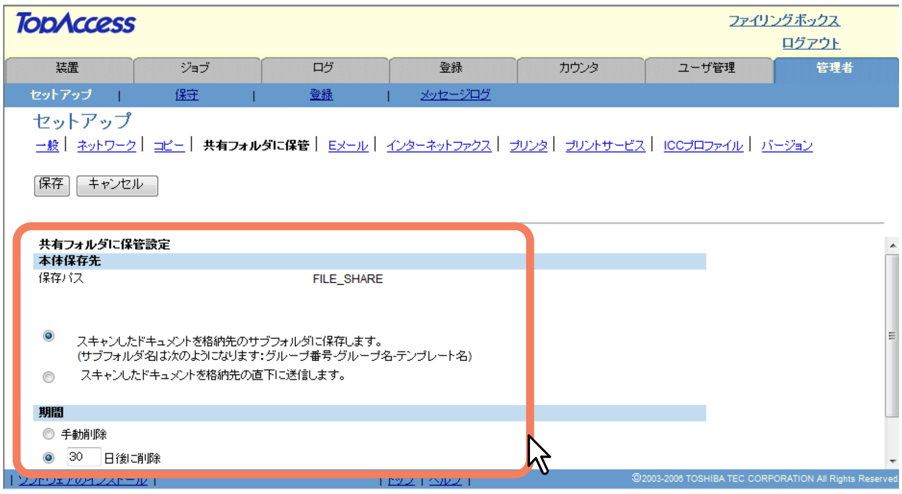
P.110「TopAccess管理者モードの起動」

2 ［セットアップ］メニューをクリックし、［共有フォルダに保管］サブメニューをクリックします。



共有フォルダに保管サブメニューページが表示されます。

3 必要に応じて、共有フォルダ保存設定をセットアップします。



このページでは、以下の設定を行うことができます：

📖 P.184 「本体保存先の設定」
📖 P.184 「期間の設定」
📖 P.184 「宛先の設定」
📖 P.185 「フォルダ名の設定」
📖 P.185 「フォーマットの設定」
📖 P.185 「シングルページファイルの保存場所の設定」
📖 P.186 「シングルページファイルの構成の設定」
📖 P.186 「ファイル保存時のユーザ名とパスワード表示設定」
📖 P.187 「検索間隔の設定」
📖 P.187 「ネットワークフォルダ（リモート1または2）の設定」
📖 P.188 「N/Wファクスの設定」
📖 P.189 「N/Wファクスの保管先の設定」

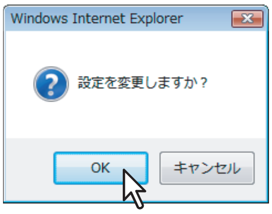
4 ［保存］をクリックします。

保存の確認ダイアログボックスが表示されます。

補 足

設定を保存する前に［キャンセル］をクリックすると、設定を保存せずに現在の設定状態に戻します。［キャンセル］をクリックしても、工場出荷時の設定に戻すことはできません。［キャンセル］ボタンは、設定を保存する前に、変更した設定をクリアしてすべて現在の設定状態に戻したい場合に、クリックします。

5 ［OK］をクリックし、変更を適用します。

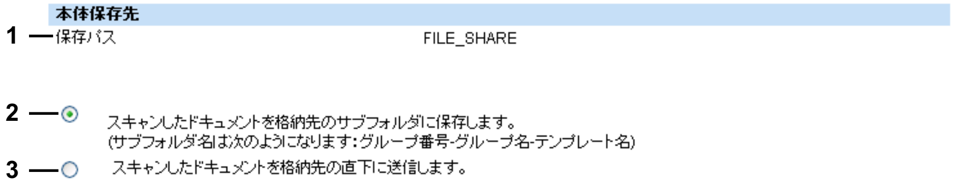


注 意

Internet Explorerをお使いの場合、［保存］をクリックする前に長い時間が経過すると各項目の値が更新されないことがありますが、設定は正常に適用されています。この場合、各項目の値を確認した後、サブメニューをクリックして画面を更新してください。

□ 本体保存先の設定

本機の共有フォルダのパスを確認することができます。共有フォルダは、Windowsネットワークから本機を参照して開くことができます。



1) 保存パス
共有フォルダかUSBに保管操作でローカルフォルダを指定した場合にファイルが保存される本機の共有フォルダ名を表示します。

2) スキャンしたドキュメントを格納先のサブフォルダに保存します
共有フォルダに「グループ番号-グループ名-テンプレート名」の名前のサブフォルダを作成してファイルを保存する場合に選択します。

3) スキャンしたドキュメントを格納先の直下に送信します
共有フォルダ直下にファイルを保存する場合に選択します。

□ 期間の設定

保存期間の設定では、本機の共有フォルダに保存したファイルをどのように削除するか選択します。

注 意

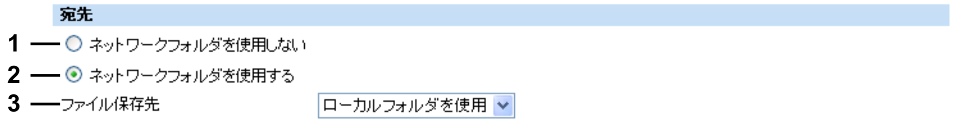
ローカル保存時に作成されたフォルダは、そのフォルダ内のファイルが削除されて空になると自動的に削除されます。

1) 手動削除
手動でスキャンファイルを削除します。このオプションを選択した場合は、共有フォルダに保存されたファイルは自動的に削除されません。

2) [ ] 日後に削除
指定した保存日数が経過すると、保存したファイルを自動的に削除します。このオプションを選択した場合は、ファイルを保存しておく日数を入力します。

□ 宛先の設定

保存先にネットワークフォルダを指定することを許可するか選択します。



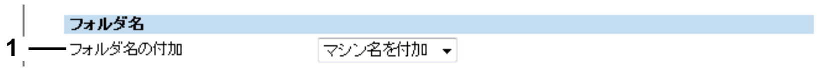
1) ネットワークフォルダを使用しない
保存先にネットワークフォルダを指定することを許可しません。このオプションを選択した場合は、ユーザは本機の共有フォルダまたはUSBメディアにのみスキャンファイルを保存することができます。

2) ネットワークフォルダを使用する
保存先にネットワークフォルダを指定することを許可します。このオプションを選択した場合は、リモート1およびリモート2の設定を行い、ユーザが 保存先にネットワークフォルダをどのように選択するのかを設定します。

3) ファイル保存先
操作パネルの［共有フォルダかUSBに保管］画面を表示したときにデフォルトで選択される保存先を選択します。

□ フォルダ名の設定

ファイルの保存時に自動的に作成されるフォルダの名前に、機体やユーザの情報を付けるかを選択します。



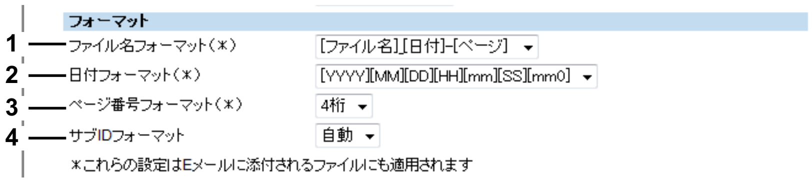
1) フォルダ名の付加

ファイル保存時に作成されるフォルダ名の付加情報を選択します。

- <u>**付加しない**</u>：情報を付加しません。
- **マシン名を付加**：本機のNetBIOS名を付加します。
- **ユーザ名を付加**：ユーザ認証で設定されたユーザ名を付加します。

□ フォーマットの設定

スキャン結果を共有フォルダやUSBに保存する際のファイル名の付け方を設定します。



1) ファイル名フォーマット

ファイル名のフォーマットを選択します。ファイル名、日付、ページ番号の各情報が、選択したフォーマットのとおりに付加されます。なお、この設定の内容は、Eメールに添付するファイル名にも適用されます。

2) 日付フォーマット

［ファイル名フォーマット］で選択したファイル名の「日付」部分の付け方を選択します。なお、この設定の内容は、Eメールに添付するファイル名にも適用されます。

- <u>**[YYYY]［MM］［DD］［HH］［mm］［SS]**</u>：年（4桁）、月、日、時、分、秒を付加します。
- **[YY]［MM］［DD］［HH］［mm］［SS]**：年（2桁）、月、日、時、分、秒を付加します。
- **[YYYY]［MM］［DD]**：年（4桁）、月、日を付加します。
- **[YY]［MM］［DD]：年（2桁）**、月、日を付加します。
- **[HH]［mm］［SS]**：時、分、秒を付加します。
- **[YYYY] [MM] [DD] [HH] [mm] [SS] [mm0]**：年（4桁）、月、日、時、分、秒、乱数（3桁：乱数2桁と0）を付加します。

3) ページ番号フォーマット

［ファイル名フォーマット］で選択したファイル名の「ページ」部分に適用されるページ番号の桁数を、3～6桁の範囲で選択します。なお、この設定の内容は、Eメールに添付するファイル名にも適用されます。

4) サブIDフォーマット

ファイルの保存時、すでに同じ名前のファイルが保存先に存在していた場合、本機はそのファイル名の末尾に自動的にサブID（識別番号）を付加して保存します。このサブIDの桁数を、［自動］または4～6桁の範囲で選択します。なお、初期設定では［自動］が設定されており、ファイル名の状況に合わせて任意の桁数（4～6桁）の番号が入力されます。

□ シングルページファイルの保存場所の設定

スキャン時にマルチ／スキャン設定で［シングル］を選択すると、スキャン結果はシングルページのファイルとして保存されます。この設定では、シングルページのファイルを保存する際に、サブフォルダを作成して保存するかどうかを選択します。

1) サブフォルダを作成し保存

指定した保存先にサブフォルダを作成し、その中にファイルを保存します。

2) サブフォルダを作成せずに保存

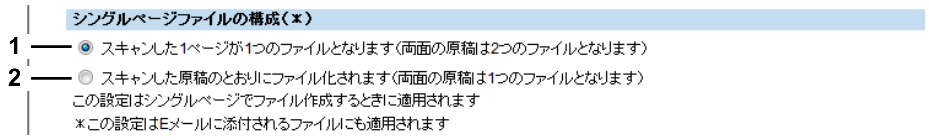
指定した保存先にそのままファイルを保存します。

7

TopAccess（管理者モード）

□ シングルページファイルの構成の設定

スキャン時にマルチ／スキャン設定で［シングル］を選択すると、スキャン結果はシングルページのファイルとして保存されます。この設定では、シングルページで保存されるファイルのページ構成を選択します。なお、この設定の内容は、Eメールに添付するファイルにも適用されます。



1) スキャンした1ページが1つのファイルとなります

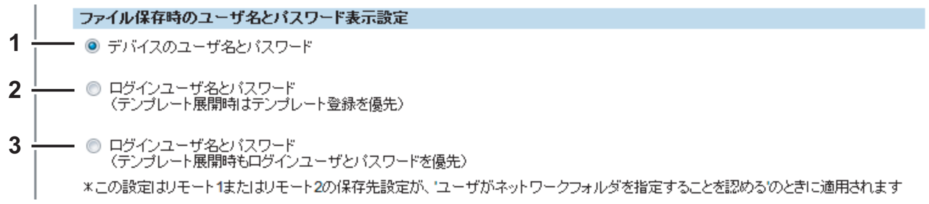
原稿を1ページスキャンするごとに、1つのファイルとして保存します。たとえば、1枚の両面原稿をスキャンする場合は、表面を1ファイル、裏面を1ファイルとして保存します。

2) スキャンした原稿のとおりにファイル化されます

原稿を1枚スキャンするごとに、1つのファイルとして保存します。たとえば、1枚の両面原稿をスキャンする場合は、表面と裏面の2ページを1ファイルとして保存します。

□ ファイル保存時のユーザ名とパスワード表示設定

ユーザ認証機能が有効の場合、ユーザ認証に使用しているユーザ名とパスワードを、ネットワークフォルダ（リモート1／2で指定したフォルダ）に保存する際の［ログインユーザ名］と［パスワード］にも自動的に入力して優先的に使用するかどうかを設定します。この設定はリモート1またはリモート2の保存先設定が、'ユーザがネットワークフォルダを指定することを認める'のときに適用されます。



1) デバイスのユーザ名とパスワード

ログイン中のユーザ名とパスワードは使用しません。スキャン時に必要に応じて［ログインユーザ名］と［パスワード］を入力してください。

2) ログインユーザ名とパスワード（テンプレート展開時はテンプレート登録を優先）

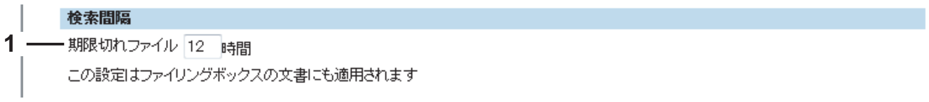
ログイン中のユーザ名とパスワードが自動的に使用されます。ただし、テンプレートを使用した場合は、テンプレートに登録されているユーザ名とパスワードが自動的に使用されます。

3) ログインユーザ名とパスワード（テンプレート展開時もログインユーザとパスワードを優先）

ログイン中のユーザ名とパスワードが自動的に使用されます。テンプレートを使用した場合も、ログイン中のユーザ名とパスワードが使用されます。

□ 検索間隔の設定

共有フォルダに保存されたファイルの保存期間を検索するタイミングを設定します。なお、この設定の内容は、ファイリングボックスに保存されたファイルにも適用されます。



1) 期限切れファイル［　］時間

指定した時間が経過するごとにファイルの保存期間の検索を行います。1～24時間の範囲で設定します。初期設定では12時間に設定されています。

補 足

共有フォルダ内のファイルの保存期間や、期限が切れたファイルを削除するかどうかは、以下の項目で設定することができます。

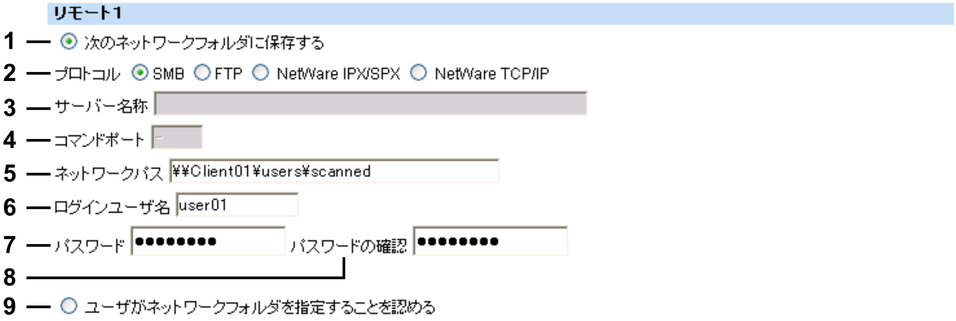
📖 P.184 「期間の設定」

□ ネットワークフォルダ（リモート1または2）の設定

ネットワークフォルダへの保存を許可する場合に、適用されるネットワークフォルダの保存先の設定を行います。リモート1およびリモート2の2つのネットワークフォルダを指定することができます。リモート1、リモート2の設定項目は同じです。

注 意

保存先のネットワークフォルダは、共有設定されている必要があります。



1) 次のネットワークフォルダに保存する

ネットワークフォルダへの保存を選択した場合に、保存されるネットワークフォルダを設定します。ユーザに任意のネットワークフォルダの設定を許可する場合は、［ユーザがネットワークフォルダを指定することを認める］を選択します。

2) プロトコル

スキャンファイルをネットワークフォルダに転送するときに使用するプロトコルを選択します。

- **SMB**：SMBプロトコルを使用してスキャンファイルをネットワークフォルダに転送します。
- **FTP**：スキャンファイルをFTPサーバーに転送します。
- **NetWare IPX/SPX**：スキャンファイルをIPX/SPXプロトコルを介してNetWareサーバーに転送します。
- **NetWare TCP/IP**：スキャンファイルをTCP/IPプロトコルを介してNetWareサーバーに転送します。

3) サーバー名称

プロトコルでFTPを選択した場合は、スキャンファイルを転送するFTPサーバー名またはIPアドレスを入力します。たとえば、スキャンファイルをFTPサーバーの「ftp://192.168.1.1/user/scanned」というFTPフォルダに転送する場合は、このボックスに「192.168.1.1」と入力します。
プロトコルでNetWare IPX/SPXを選択した場合は、スキャンファイルを転送するNetWareサーバー名または、Tree/Context（NDSが使用可能な環境の場合）を入力します。
プロトコルでNetWare TCP/IPを選択した場合は、スキャンファイルを転送するNetWareサーバーのIPアドレスを入力します。

4) **コマンドポート**
プロトコルでFTPを選択した場合に、コマンド実行に使用するポート番号を入力します。通常は、初期状態で入力された「-」のままにします。「-」にした場合は、ネットワークの設定ページの［FTPクライアント］で設定したポート番号（初期値）が適用されます。初期設定のポート番号とは別のポート番号を指定したい場合のみこの値を変更します。

5) **ネットワークパス**
プロトコルにSMBを選択した場合は、ネットワークフォルダへのネットワークパスを入力します。たとえば、SMBサーバー名が「Client01」というコンピュータの「users￥scanned」というフォルダを指定する場合は、「￥￥Client01￥users￥scanned」と入力します。
プロトコルにFTPを選択した場合は、指定したFTPサーバーのディレクトリを入力します。たとえば、FTPサーバーの「ftp://192.168.1.1/user/scanned」というフォルダを指定する場合は、「user/scanned」と入力します。
プロトコルにNetWare IPX/SPXまたはNetWare TCP/IPを選択した場合は、指定したNetWareサーバーのディレクトリを入力します。たとえば、NetWareサーバーの「sys￥scan」というフォルダを指定する場合は、「￥sys￥scan」と入力します。

6) **ログインユーザ名**
必要に応じて、SMBサーバー、FTPサーバー、またはNetWareサーバーにアクセスするためのログインユーザ名を入力します。プロトコルにFTPを選択した場合、このボックスを空欄にすると、匿名でのログインと判断されます。

7) **パスワード**
必要に応じて、SMBサーバー、FTPサーバー、またはNetWareサーバーにアクセスするためのパスワードを入力します。パスワードにはスペースも入力可能です。

8) **パスワードの確認**
確認のためにパスワードを再入力します。

9) **ユーザがネットワークフォルダを指定することを認める**
保存先のネットワークフォルダを指定することをユーザに許可します。ファイルを保存するネットワークフォルダを固定で設定する場合は、［次のネットワークフォルダに保存する］を選択します。

補 足

どちらか一方のネットワークフォルダをユーザに指定することを認める場合は、リモート1またはリモート2のネットワークフォルダの保存先を設定していない方に［次のネットワークフォルダに保存する］を選択します。

□ N/Wファクスの設定

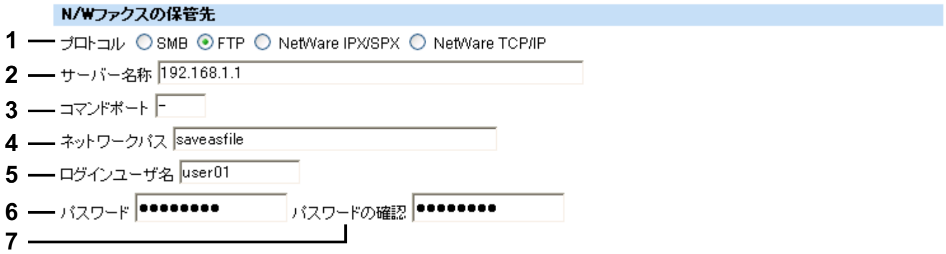
N/W-Faxドライバでファイル保存機能をオンにして文書をファクス送信した場合に、保存先にネットワークフォルダを指定することを許可するか選択します。

1) **ネットワークフォルダを使用しない**
N/W-Faxドライバのファイル保存機能をオンにして送信した文書の保存先にネットワークフォルダを指定することを許可しません。このオプションを選択した場合は、ユーザは本機の共有フォルダにのみN/W-Faxドライバを使って送信した文書を保存することができます。

2) **ネットワークフォルダを使用する**
N/W-Faxドライバのファイル保存機能をオンにして送信した文書を、ネットワークフォルダに保存することを許可します。選択した場合は、［N/Wファクスの保管先］で、文書を保存するネットワークフォルダを設定します。

□ N/Wファクスの保管先の設定

N/W-Faxドライバでファイル保存機能でネットワークフォルダへの保存を許可する場合に、適用されるネットワークフォルダの保存先の設定を行います。



1) プロトコル

N/W-Faxドライバで送信する文書をネットワークフォルダに転送するときに使用するプロトコルを選択します。

- **SMB**：SMBプロトコルを使用して文書をネットワークフォルダに転送します。
- **FTP**：文書をFTPサーバーに転送します。
- **NetWare IPX/SPX**：スキャンファイルをIPX/SPXプロトコルを介してNetWareサーバーに転送します。
- **NetWare TCP/IP**：スキャンファイルをTCP/IPプロトコルを介してNetWareサーバーに転送します。

2) サーバー名称

プロトコルでFTPを選択した場合は、文書を転送するFTPサーバー名またはIPアドレスを入力します。たとえば、文書をFTPサーバーの「ftp://192.168.1.1/user/scanned」というFTPフォルダに転送する場合は、このボックスに「192.168.1.1」と入力します。

プロトコルでNetWare IPX/SPXを選択した場合は、スキャンファイルを転送するNetWareサーバー名または、Tree/Context（NDSが使用可能な環境の場合）を入力します。

プロトコルでNetWare TCP/IPを選択した場合は、スキャンファイルを転送するNetWareサーバーのIPアドレスを入力します。

3) コマンドポート

プロトコルでFTPを選択した場合に、コマンド実行に使用するポート番号を入力します。通常は、初期状態で入力された「-」のままにします。「-」にした場合は、ネットワークの設定ページの［FTPクライアント］で設定したポート番号（初期値）が適用されます。初期設定のポート番号とは別のポート番号を指定したい場合のみこの値を変更します。

4) ネットワークパス

プロトコルにSMBを選択した場合は、ネットワークフォルダへのネットワークパスを入力します。たとえば、SMBサーバー名が「Client01」というコンピュータの「users￥scanned」というフォルダを指定する場合は、「￥￥Client01￥users￥scanned」と入力します。

プロトコルにFTPを選択した場合は、指定したFTPサーバーのディレクトリを入力します。たとえば、FTPサーバーの「ftp://192.168.1.1/user/scanned」というフォルダを指定する場合は、「user/scanned」と入力します。

プロトコルにNetWare IPX/SPXまたはNetWare TCP/IPを選択した場合は、指定したNetWareサーバーのディレクトリを入力します。たとえば、NetWareサーバーの「sys￥scan」というフォルダを指定する場合は、「￥sys￥scan」と入力します。

5) ログインユーザ名

必要に応じて、SMBサーバー、FTPサーバー、またはNetWareサーバーにアクセスするためのログインユーザ名を入力します。プロトコルにFTPを選択した場合、このボックスを空欄にすると、匿名でのログインと判断されます。

6) パスワード

必要に応じて、SMBサーバー、FTPサーバー、またはNetWareサーバーにアクセスするためのパスワードを入力します。パスワードにはスペースも入力可能です。

7) パスワードの確認

確認のためにパスワードを再入力します。

■ Eメール設定をセットアップする

管理者は［セットアップ］メニューの［Eメール］サブメニューのページから、Eメール設定をセットアップすることができます。この設定では、Eメール送信操作に必要な設定を行います。

注 意

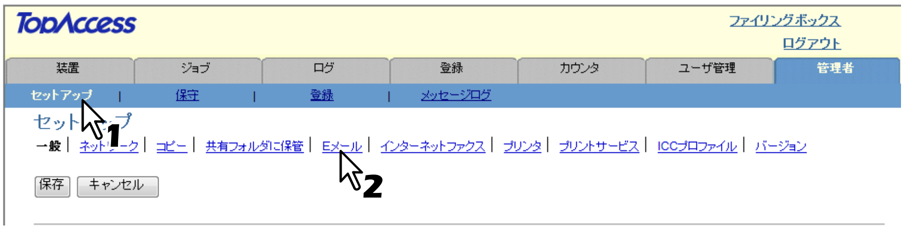
設定を変更しても、設定した内容がすぐに本体タッチパネルに反映されないことがあります。設定を変更した場合は、操作パネルの［リセット］ボタンを押すか、オートクリアされると反映されます。

Eメール設定のセットアップ手順

1 TopAccessの管理者モードを起動します。

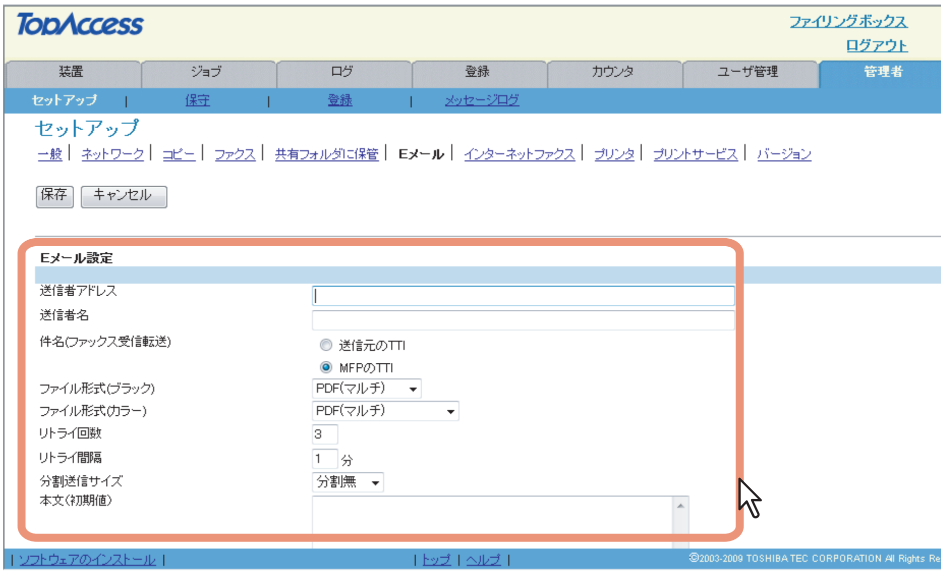
P.110「TopAccess管理者モードの起動」

2 ［セットアップ］メニューをクリックし、［Eメール］サブメニューをクリックします。



Eメールサブメニューページが表示されます。

3 必要に応じて、Eメール設定をセットアップします。



このページでは、以下の設定を行うことができます：

P.191「Eメール設定」

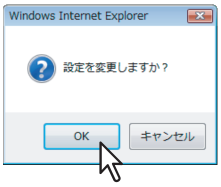
4 ［保存］をクリックします。

保存の確認ダイアログボックスが表示されます。

補 足

設定を保存する前に［キャンセル］をクリックすると、設定を保存せずに現在の設定状態に戻します。［キャンセル］をクリックしても、工場出荷時の設定に戻すことはできません。［キャンセル］ボタンは、設定を保存する前に、変更した設定をクリアしてすべて現在の設定状態に戻したい場合に、クリックします。

5 **［OK］をクリックし、変更を適用します。**

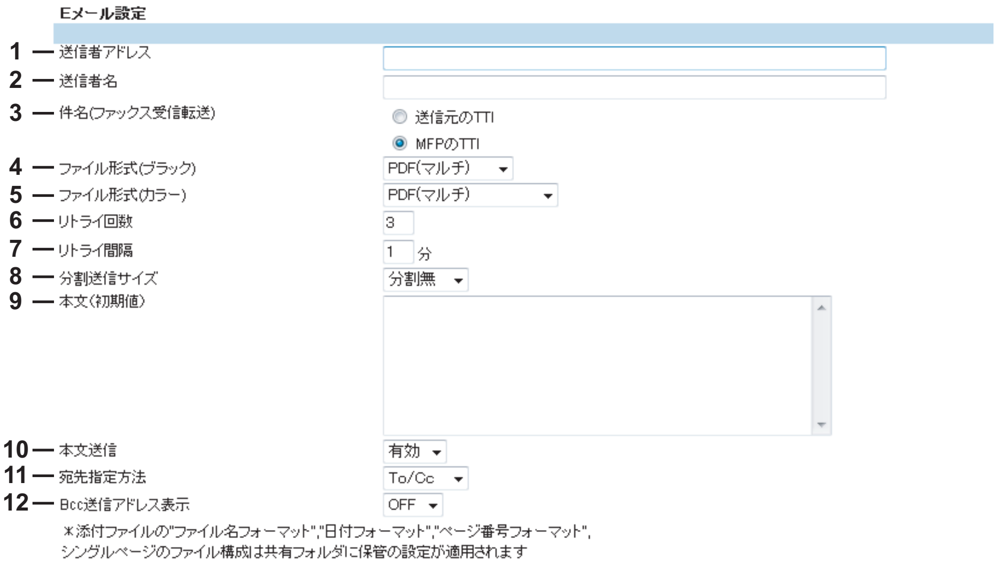


注 意

Internet Explorerをお使いの場合、［保存］をクリックして設定の変更を保存した後も、画面上に表示された設定の値が更新されないことがありますが、設定は正常に適用されています。この場合、サブメニューをクリックして画面を更新すると、現在の設定状態で各項目の値が表示されます。

□ Eメール設定

Eメール文書に適用する送信者アドレス、送信者名、ファイル形式、分割送信サイズ、本文を設定します。



1) 送信者アドレス

本機のEメールアドレスを入力します。

注 意

Eメール送信を有効にするには、［送信者アドレス］を入力する必要があります。ただし、内部認証以外のユーザ管理設定が有効になっている場合は、本機にログインしたユーザの送信者アドレスが自動的に設定されます。ユーザ管理設定の詳細については、以下の説明を参照してください。

📖 P.277 「ユーザ管理を設定する」

2) 送信者名

本機の名前を入力します。

3) 件名（ファクス受信転送）

ファクス受信転送時に件名として使用するTTIを選択します。

4) ファイル形式（ブラック）
ブラックモードでスキャン時に、Eメール送信操作で送信されるスキャンイメージのファイル形式を選択します。
- **TIFF（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページのTIFFファイルとして保存します。
- **TIFF（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのTIFFファイルとして保存します。
- **PDF（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページのPDFファイルとして保存します。
- **PDF（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのPDFファイルとして保存します。
- **XPS（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページのXPSファイルとして保存します。
- **XPS（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのXPSファイルとして保存します。

5) ファイル形式（カラー）
カラーモードでスキャン時に、Eメール送信操作で送信されるスキャンイメージのファイル形式を選択します。
- **TIFF（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページのTIFFファイルとして保存します。
- **TIFF（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのTIFFファイルとして保存します。
- **PDF（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページのPDFファイルとして保存します。
- **PDF（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのPDFファイルとして保存します。
- **高圧縮PDF（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページの高圧縮PDFファイルとして保存します。画質よりファイルサイズの縮小を優先したい場合に適しています。
- **高圧縮PDF（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルの高圧縮PDFファイルとして保存します。画質よりファイルサイズの縮小を優先したい場合に適しています。
- **XPS（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページのXPSファイルとして保存します。
- **XPS（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのXPSファイルとして保存します。
- **JPEG**：スキャンイメージをJPEGファイルとして保存します。

補 足

XPSファイルで保存したデータは、お使いのコンピュータがWindows Vista、またはWindows XP SP2/Server 2003 SP1以上に.NET Framework 3.0がインストールされた環境で使用することができます。

6) リトライ回数
インターネットへのEメール送信が正常に完了できなかった場合に、再送信を試す回数を入力します。

7) リトライ間隔
インターネットへのEメール送信が正常に完了できなかった場合に、再送信を試す間隔を分単位で入力します。

注 意

［リトライ回数］および［リトライ間隔］の設定を変更した場合、インターネットファクス設定の［リトライ回数］および［リトライ間隔］も同様に変更されます。
P.194 「インターネットファクス設定」

8) 分割送信サイズ
メッセージの分割サイズを選択します。

9) 本文（初期値）
タッチパネル画面からユーザがEメール送信操作を実行するときに、［本文］ボックスに自動的に入力される標準の本文を設定します。この本文は、ユーザがEメール送信操作を行うときに、自由に変更することができます。

10) 本文送信
本文を送信するかしないかを選択します。

補 足

この機能はe-STUDIO455 Seriesおよびe-STUDIO855 Seriesで使用できます。

11) 宛先指定方法
Eメールの送信アドレス指定方法を選択します。
- **To／Cc**：送信アドレスとしてToとCcを使用します。
- **To／Bcc**：送信アドレスとしてToとBccを使用します。

12) Bccアドレス表示

宛先指定方法がTo／Bccのとき、スキャンログ、スキャンジョブ、Fコードリストに表示されるBcc送信の宛先の表示方法を設定します。

- **OFF**：Bcc送信の宛先を表示しないで、代わりに［Bcc宛先］と表示します。
- **ON**：Bcc送信の宛先を表示します。

■ インターネットファクス設定をセットアップする

管理者は［セットアップ］メニューの［インターネットファクス］サブメニューのページから、インターネットファクス設定をセットアップすることができます。この設定では、インターネットファクス操作に必要な設定を行います。

注 意

設定を変更しても、設定した内容がすぐに本体タッチパネルに反映されないことがあります。設定を変更した場合は、操作パネルの［リセット］ボタンを押すか、オートクリアされると反映されます。

インターネットファクス設定をセットアップする手順

1 **TopAccessの管理者モードを起動します。**

📖 P.110「TopAccess管理者モードの起動」

2 **［セットアップ］メニューをクリックし、［インターネットファクス］サブメニューをクリックします。**

インターネットファクスサブメニューページが表示されます。

3 **必要に応じて、インターネットファクス設定をセットアップします。**

このページでは、以下の設定を行うことができます：

📖 P.194「インターネットファクス設定」

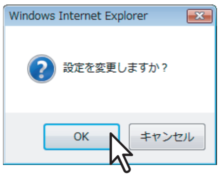
4 ［保存］をクリックします。

保存の確認ダイアログボックスが表示されます。

補 足

設定を保存する前に［キャンセル］をクリックすると、設定を保存せずに現在の設定状態に戻します。［キャンセル］をクリックしても、工場出荷時の設定に戻すことはできません。［キャンセル］ボタンは、設定を保存する前に、変更した設定をクリアしてすべて現在の設定状態に戻したい場合に、クリックします。

5 ［OK］をクリックし、変更を適用します。

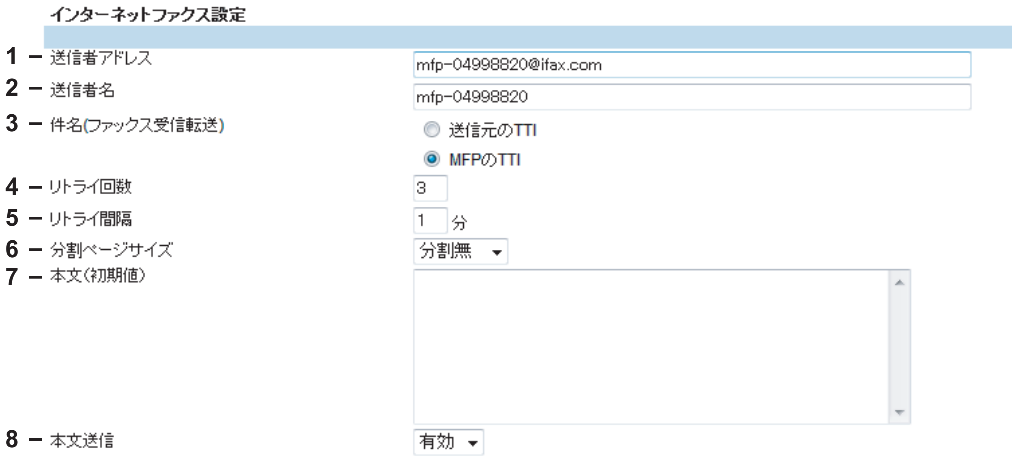


注 意

Internet Explorerをお使いの場合、［保存］をクリックして設定の変更を保存した後も、画面上に表示された設定の値が更新されないことがありますが、設定は正常に適用されています。この場合、サブメニューをクリックして画面を更新すると、現在の設定状態で各項目の値が表示されます。

□ インターネットファクス設定

インターネットファクスに適用する送信者アドレス、送信者名、分割ページサイズ、初期値として設定される本文、および本文を送信するかどうかを設定します。



1) 送信者アドレス

本機のEメールアドレスを入力します。

注 意

インターネットファクス送信を有効にするには、［送信者アドレス］を入力する必要があります。ただし、内部認証以外のユーザ管理設定が有効になっている場合は、本機にログインしたユーザの送信者アドレスが自動的に設定されます。ユーザ管理設定の詳細については、以下の説明を参照してください。

P.277「ユーザ管理を設定する」

2) 送信者名

本機の名前を入力します。

3) 件名（ファクス受信転送）

ファクス受信転送時に件名として使用するTTIを選択します。

4) **リトライ回数**
インターネットへのインターネットファクス送信が正常に完了できなかった場合に、再送信を試す回数を入力します。

5) **リトライ間隔**
インターネットへのインターネットファクス送信が正常に完了できなかった場合に、再送信を試す間隔を分単位で入力します。

注 意

［リトライ回数］および［リトライ間隔］の設定を変更した場合、Eメール設定の［リトライ回数］および［リトライ間隔］も同様に変更されます。
📖 P.191 「Eメール設定」

6) **分割ページサイズ**
メッセージの分割サイズを選択します。

7) **本文（初期値）**
タッチパネル画面からユーザがインターネットファクス操作を実行するときに、［本文］ボックスに自動的に入力される標準の本文を設定します。この本文は、ユーザがインターネットファクス操作を行うときに、目的の本文に変更することができます。

8) **本文送信**
本文を送信するかしないかを選択します。

■ プリンタ設定をセットアップする

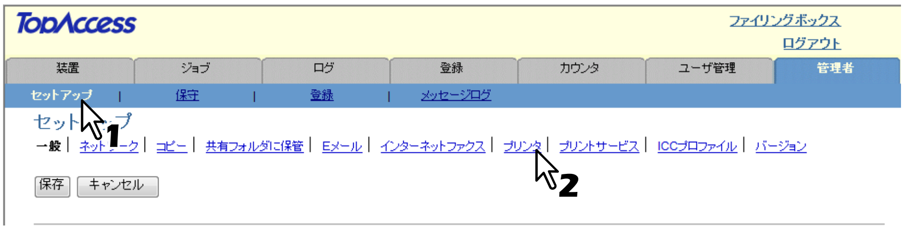
管理者は、［セットアップ］メニューの［プリンタ］サブメニューのページで、プリンタの動作方法とRaw印刷ジョブに適応するプリンタオプションを設定することができます。

プリンタ設定をセットアップする手順

1 TopAccessの管理者モードを起動します。

📖 P.110 「TopAccess管理者モードの起動」

2 ［セットアップ］メニューをクリックし、［プリンタ］サブメニューをクリックします。



プリンタサブメニューページが表示されます。

3 必要に応じて、プリンタ設定をセットアップします。

このページでは、以下の設定を行うことができます：

📖 P.197 「一般設定」
📖 P.198 「Raw印刷ジョブ印刷初期値設定」
📖 P.199 「Raw印刷ジョブ設定」

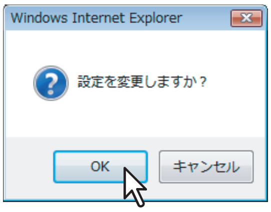
4 ［保存］をクリックします。

保存の確認ダイアログボックスが表示されます。

補 足

設定を保存する前に［キャンセル］をクリックすると、設定を保存せずに現在の設定状態に戻します。［キャンセル］をクリックしても、工場出荷時の設定に戻すことはできません。［キャンセル］ボタンは、設定を保存する前に、変更した設定をクリアしてすべて現在の設定状態に戻したい場合に、クリックします。

5 ［OK］をクリックし、変更を適用します。

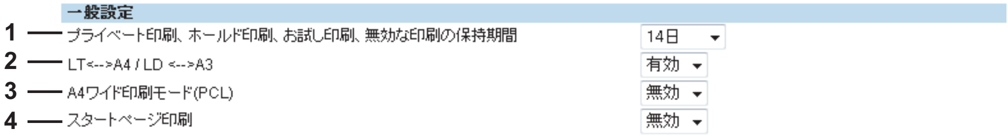


注 意

Internet Explorerをお使いの場合、［保存］をクリックして設定の変更を保存した後も、画面上に表示された設定の値が更新されないことがありますが、設定は正常に適用されています。この場合、サブメニューをクリックして画面を更新すると、現在の設定状態で各項目の値が表示されます。

□ 一般設定

印刷ジョブをキューに保存する日数など、プリンタ関連の機能を設定します。



1) プライベート印刷、ホールド印刷、お試し印刷、無効な印刷の保持期間

プライベート印刷、ホールド印刷およびお試し印刷ジョブをどのくらいの期間保存するか選択します。期間は、1～12時間または1～30日の範囲で選択できます。また、［無制限］を選択し、キューにあるジョブを手動で削除するまで保存することもできます。

2) LT<-->A4/LD<-->A3

印刷ジョブに設定された用紙サイズがセットされていない場合に、自動的に異なる用紙に印刷するか選択します。［有効］を選択した場合、たとえば、レターサイズに設定された印刷ジョブをA4用紙に印刷することができます。［無効］を選択した場合は、印刷ジョブに設定されているサイズと同じサイズの用紙をカセットにセットするようメッセージが表示されます。

3) A4ワイド印刷モード（PCL）

PCLの印刷ジョブをA4用紙に印刷する場合、印刷範囲の横幅を広くするかを選択します。［有効］を選択した場合、用紙向きが縦で約3.5 mm、横で約1.5 mm印刷範囲の横幅が広がり、1行当たりに印刷される内容を増やすことができます。

4) スタートページ印刷

本機の電源投入後に、スタートアップページ（NIC設定ページ）を印刷するか選択します。スタートアップページには、本機NICの現在の設定状況が印刷されます。スタートアップページは、タッチパネル画面から手動で操作し、印刷することもできます。

□ Raw印刷ジョブ印刷初期値設定

LPRキューが指定されていないRaw印刷ジョブ、または指定したLPRキューが存在しないRaw印刷ジョブに適用される印刷設定を設定します。

補 足

Raw印刷ジョブの設定は、LPRキューを追加してLPRキューごとに設定することもできます。

📖 P.199 「Raw印刷ジョブ設定」

1) Raw印刷ジョブ__両面印刷
Raw印刷ジョブを両面印刷するか選択します。

2) Raw印刷ジョブ__用紙サイズ
Raw印刷ジョブに適用する標準の用紙サイズを選択します。

3) Raw印刷ジョブ__用紙タイプ
Raw印刷ジョブに適用する標準の用紙の種類を選択します。

4) Raw印刷ジョブ__用紙向き
Raw印刷ジョブに適用する標準の印刷の向きを選択します。

5) Raw印刷ジョブ__ステイプル
Raw印刷ジョブをステイプル留めするか選択します。

6) Raw印刷ジョブ__排紙トレイ
Raw印刷ジョブに適用する標準の排紙トレイを選択します。Novell、UNIX、WindowsなどOSが作成したバナーページもここで指定したトレイに排紙されます。

7) PCLフォームライン
各ページに印刷する行数を入力します。

8) PCLフォントピッチ
選択したフォント番号が固定ピッチフォントである場合に、フォントピッチを入力します。文字ピッチは1インチ当たりのANK文字の数で計算されます。10ピッチタイプは、1インチにANK文字を10文字印刷します。

9) PCLフォントサイズ
選択したフォント番号がプロポーショナルフォントである場合に、フォントサイズを入力します。フォントサイズオプションでは、標準フォントのポイントサイズ（高さ）を決定することができます。

10) PCLフォント番号
印刷を行う際に、標準フォントとして使用する内蔵PCLフォントのフォント番号を入力します。フォント番号および内蔵PCLフォントは、内蔵PCLフォントリストで確認することができます。フォント番号および内蔵PCLフォントについては、**印刷ガイド**を参照してください。

11) PCL改行設定
改行設定を選択します。

12) シンボルセット
Raw印刷ジョブに適用するシンボルセットを選択します。

13) 給紙方法

Raw印刷ジョブに適用する給紙方法を選択します。

14) 白紙は印字しない

Raw印刷ジョブに含まれる白紙ページを印字するか選択します。

注 意

UNIXフィルタやCUPSから印刷する場合には、本設定は反映されません。これらの印刷で白紙ページを印刷したくない場合は、UNIXフィルタのコマンドやCUPSの設定で、白紙ページを印刷しないように設定してください。設定方法については、**インストールガイド**および**印刷ガイド**を参照してください。

15) ヘッダ印刷モード

合計ページ数が奇数となるRaw印刷ジョブを両面印刷する場合に、最終奇数ページをほかの奇数ページと同じ印字面に印刷するかを選択します。[有効] を選択した場合、最終奇数ページもほかの奇数ページと同じ印字面（うら）に印刷されます。[無効] を選択した場合は、最終奇数ページは偶数ページと同じ印字面（おもて）に印刷されます。

注 意

ヘッダ印刷モードは、e-STUDIO455 Series、e-STUDIO4520C Seriesおよびe-STUDIO6530C Seriesで使用できます。

□ Raw印刷ジョブ設定

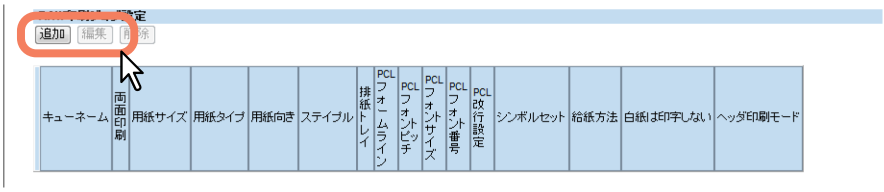
最大16個のLPRキューを作成し、キューごとにRaw印刷ジョブ設定を指定することができます。これらのキューは、UNIXコンピュータから印刷する場合など、プリンタドライバを使用せずに印刷する場合に使用します。Raw印刷ジョブでは、LPRキューの追加、変更、削除を行います。

📖 P.199 「LPRキューを追加または変更する」
📖 P.201 「LPRキューを削除する」

LPRキューを追加または変更する

1 LPRキューを追加する場合は、[追加] をクリックします。

既存のLPRキューの設定を変更する場合は、一覧で設定を変更したいLPRキューのラジオボタンを選択し、[編集] をクリックします。



新しいLPRキューの追加ページが表示されます。

2 以下の項目を設定します。

キューネーム：キュー名を、31文字以下の半角英数字で入力します。キュー名は、大文字・小文字を認識するため、「Queue1」と「queue1」など、大文字・小文字が異なるキュー名も異なるLPRキューとして追加することができます。
両面印刷：Raw印刷ジョブを両面印刷するか選択します。
用紙サイズ：Raw印刷ジョブに適用する標準の用紙サイズを選択します。
用紙タイプ：Raw印刷ジョブに適用する標準の用紙の種類を選択します。
用紙向き：Raw印刷ジョブに適用する標準の印刷の向きを選択します。
ステイプル：Raw印刷ジョブをステイプル留めするか選択します。
排紙トレイ：Raw印刷ジョブに適用する標準の排紙トレイを選択します。Novell、UNIX、WindowsなどOSが作成したバナーページもここで指定したトレイに排紙されます。
PCLフォームライン：各ページに印刷する行数を入力します。
PCLフォントピッチ：選択したフォント番号が固定ピッチフォントである場合に、フォントピッチを入力します。文字ピッチは1インチ当たりのANK文字の数で計算されます。10ピッチタイプは、1インチにANK文字を10文字印刷します。
PCLフォントサイズ：選択したフォント番号がプロポーショナルフォントである場合に、フォントサイズを入力します。フォントサイズオプションでは、標準フォントのポイントサイズ（高さ）を決定することができます。
PCLフォント番号：印刷を行う際に、標準フォントとして使用する内蔵PCLフォントのフォント番号を入力します。フォント番号および内蔵PCLフォントは、内蔵PCLフォントリストで確認することができます。フォント番号および内蔵PCLフォントについては、**印刷ガイド**を参照してください。
PCL改行設定：改行設定を選択します。
シンボルセット：Raw印刷ジョブに適用するシンボルセットを選択します。
給紙方法：Raw印刷ジョブに適用する給紙方法を選択します。
白紙は印字しない：Raw印刷ジョブに含まれる白紙ページを印字するか選択します。

注 意

UNIXフィルタやCUPSから印刷する場合には、本設定は反映されません。これらの印刷で白紙ページを印刷したくない場合は、UNIXフィルタのコマンドやCUPSの設定で、白紙ページを印刷しないように設定してください。設定方法については、**インストールガイド**および**印刷ガイド**を参照してください。

ヘッダ印刷モード：合計ページ数が奇数となるRaw印刷ジョブを両面印刷する場合に、最終奇数ページをほかの奇数ページと同じ印字面に印刷するかを選択します。［有効］を選択した場合、最終奇数ページもほかの奇数ページと同じ印字面（うら）に印刷されます。［無効］を選択した場合は、最終奇数ページは偶数ページと同じ印字面（おもて）に印刷されます。

注 意

ヘッダ印刷モードは、e-STUDIO455 Series、e-STUDIO4520C Seriesおよびe-STUDIO6530C Seriesで使用できます。

3 ［保存］をクリックします。

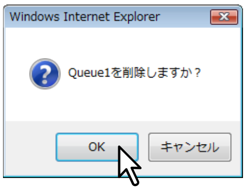
キュー名が一覧に追加されます。

LPRキューを削除する

1 一覧で削除したいLPRキューのラジオボタンを選択し、［削除］をクリックします。

確認ダイアログボックスが表示されます。

2 ［OK］をクリックします。



選択したLPRキューが削除されます。

■ プリントサービス設定をセットアップする

管理者は［セットアップ］メニューの［プリントサービス］サブメニューから、Raw TCP印刷、LPD印刷、IPP印刷、FTP印刷、NetWare印刷やEメール印刷などの印刷サービスを設定します。

注 意

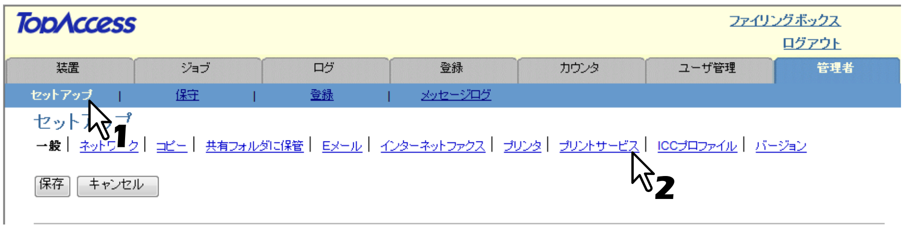
設定を変更しても、設定した内容がすぐに本体タッチパネルに反映されないことがあります。設定を変更した場合は、操作パネルの［リセット］ボタンを押すか、オートクリアされると反映されます。

プリントサービス設定をセットアップする手順

1 TopAccessの管理者モードを起動します。

P.110「TopAccess管理者モードの起動」

2 ［セットアップ］メニューをクリックし、［プリントサービス］サブメニューをクリックします。



プリントサービスサブメニューページが表示されます。

3 必要に応じて、プリントサービス設定をセットアップします。

このページでは、以下の設定を行うことができます：

📖 P.203 「Raw TCP印刷の設定」
📖 P.203 「LPD印刷の設定」
📖 P.204 「IPP印刷の設定」
📖 P.206 「FTP印刷の設定」
📖 P.206 「NetWare印刷の設定」
📖 P.207 「Eメール印刷の設定」

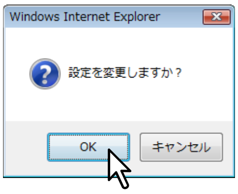
4 ［保存］をクリックします。

保存の確認ダイアログボックスが表示されます。

補 足

設定を保存する前に［キャンセル］をクリックすると、設定を保存せずに現在の設定状態に戻します。［キャンセル］をクリックしても、工場出荷時の設定に戻すことはできません。［キャンセル］ボタンは、設定を保存する前に、変更した設定をクリアしてすべて現在の設定状態に戻したい場合に、クリックします。

5 ［OK］をクリックし、変更を適用します。



注 意

Internet Explorerをお使いの場合、［保存］をクリックして設定の変更を保存した後も、画面上に表示された設定の値が更新されないことがありますが、設定は正常に適用されています。この場合、サブメニューをクリックして画面を更新すると、現在の設定状態で各項目の値が表示されます。

□ Raw TCP印刷の設定

Raw TCP印刷では、Raw TCP印刷サービスを有効／無効およびRaw TCP印刷用のLPDポート番号を設定します。

1) Raw TCP印刷使用

Raw TCP印刷サービスの有効／無効を選択します。

2) ポート番号

Raw TCP印刷に使用するポート番号を入力します。通常、「9100」を使用します。

注 意

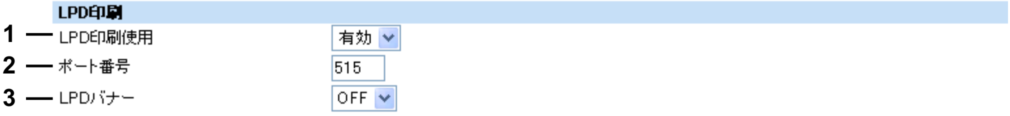
HTTP設定のセカンダリポート番号（HTTPのSSL有効時はSSLポート番号）と同じポート番号を指定すると、TopAccessやファイリングボックスWebユーティリティにアクセスできなくなります。誤って設定してしまった場合は、本機の操作パネルからHTTP設定を変更し、正しいポート番号を設定してください。

3) Raw bi-directional使用

Raw双方向通信の有効／無効を選択します。

□ LPD印刷の設定

ユーザにLPR印刷を許可する場合は、LPD印刷を設定しLPD/LPR印刷サービスを有効にする必要があります。



1) LPD印刷使用

LPD印刷サービスの有効／無効を選択します。

2) ポート番号

LPR印刷に使用するポート番号を入力します。通常、「515」を使用します。

注 意

HTTP設定のセカンダリポート番号（HTTPのSSL有効時はSSLポート番号）と同じポート番号を指定すると、TopAccessやファイリングボックスWebユーティリティにアクセスできなくなります。誤って設定してしまった場合は、本機の操作パネルからHTTP設定を変更し、正しいポート番号を設定してください。

3) LPDバナー

LPR印刷で印刷するジョブごとにバナーページ（ヘッダページ）を印刷するか選択します。

□ IPP印刷の設定

ユーザにIPP印刷を許可する場合は、IPP印刷を設定しIPP印刷サービスを有効にする必要があります。

1) IPP印刷使用

IPP印刷サービスの有効／無効を選択します。

2) IPPポート80使用

IPP印刷にポート80を有効にするか選択します。通常、ポート631がIPPアクセスに使用されるので、各ユーザはURLにIPPポートを指定する必要があります（例：http://<IPアドレスまたはDNS名>:631/Print）。このオプションを有効にすると、HTTPアクセスの標準ポートであるポート80を介してのIPPアクセスが許可され、IPPポートのポート番号を指定する必要がなくなります（例：http://<IPアドレスまたはDNS名>/Print）。

3) ポート番号

IPP印刷に使用するポート番号を入力します。通常、「631」を使用します。

注 意

HTTP設定のセカンダリポート番号（HTTPのSSL有効時はSSLポート番号）と同じポート番号を指定すると、TopAccessやファイリングボックスWebユーティリティにアクセスできなくなります。誤って設定してしまった場合は、本機の操作パネルからHTTP設定を変更し、正しいポート番号を設定してください。

4) URL

IPP印刷用のURLが表示されます。IPP印刷用のURLを変更することはできません。ユーザはプリンタドライバでIPP印刷をセットアップする際に、このURLを印刷ポートとして設定します。

5) SSL使用

SSLを使用してIPP印刷を行うかどうかを設定します。

補 足

- SSL使用を有効にする前に、セキュリティ設定で自己証明書の作成またはサーバー証明書のインポートを行ってください。自己証明書が作成されていない場合またはサーバー証明書がインポートされていない場合は、SSLが正常に機能しません。
  📖 P.151 「セキュリティの設定」
- SSLを有効にした場合、SSLを利用したIPP印刷ポートを利用することができるようになります。SSLを利用したIPP印刷ポートを利用する場合は、以下のURLをIPP印刷ポートとして使用します。
  `https://<IPアドレス>:<SSLポート番号>/Print`
  例：https://192.168.53.204:443/Print

6) SSLポート番号

SSLを有効にした場合に使用するポート番号を入力します。通常は「443」を使用します。

注 意

HTTP設定のセカンダリポート番号（HTTPのSSL有効時はSSLポート番号）と同じポート番号を指定すると、TopAccessやファイリングボックスWebユーティリティにアクセスできなくなります。誤って設定してしまった場合は、本機の操作パネルからHTTP設定を変更し、正しいポート番号を設定してください。

7) SSL URL

SSLを使用したIPP印刷用のURLが表示されます。IPP印刷用のURLを変更することはできません。ユーザはプリンタドライバでIPP印刷をセットアップする際に、このURLを印刷ポートとして設定します。

8) 管理者名

IPPキューにある印刷ジョブの一括削除を許可するユーザ名を入力します。

ここに設定されたユーザ名およびパスワードでログインしたWindowsコンピュータから、プリンタをダブルクリックして表示されるキューダイアログの［ファイル］－［すべてのドキュメントの取り消し］を選択すると、キュー内にあるすべてのジョブを削除することができます。

9) 管理者パスワード

IPPキューにある印刷ジョブの一括削除を許可するパスワードを入力します。

10) 認証

コンピュータにキューを作成する際に認証を行うかどうかを設定します。認証を有効にすると、IPP印刷ポートの作成時にユーザ名とパスワードの要求を行います。

無効：認証を無効にします。

Basic：認証を有効にします。

注 意

Macintoshコンピュータから IPP印刷を行う場合は、認証は無効に設定してください。Mac OSでは、Basic認証はサポートされておりません。

11) ユーザ名

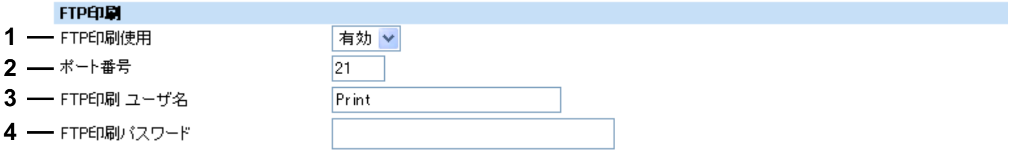
認証が有効な場合に、認証に使用するユーザ名を入力します。ユーザは、IPPキューを作成時にこのユーザ名を入力します。

12) パスワード

認証に使用するパスワードを入力します。ユーザは、IPPキューを作成時にこのパスワードを入力します。工場出荷時の設定では「password」に設定されています。

□ FTP印刷の設定

ユーザにFTP印刷を許可する場合は、FTP印刷サービスを有効にする必要があります。



1) FTP印刷使用

FTP印刷サービスの有効／無効を選択します。

2) ポート番号

FTP印刷に使用するポート番号を入力します。通常、「21」を使用します。

注 意

HTTP設定のセカンダリポート番号（HTTPのSSL有効時はSSLポート番号）と同じポート番号を指定すると、TopAccessやファイリングボックスWebユーティリティにアクセスできなくなります。誤って設定してしまった場合は、本機の操作パネルからHTTP設定を変更し、正しいポート番号を設定してください。

3) FTP印刷ユーザ名

FTP印刷を実行するユーザにログインユーザ名を要求する場合は、ユーザ名を入力します。このボックスを空欄にした場合は、デフォルトの「Print」がユーザ名として使用されます。

4) FTP印刷パスワード

FTP印刷を実行するユーザにログインパスワードを要求する場合は、パスワードを入力します。

□ NetWare印刷の設定

ユーザにNovell印刷を許可する場合は、NetWare印刷を設定しNovell印刷サービスを有効にする必要があります。

1) NetWareログイン名

NetWareファイルサーバーに作成したプリントサーバー名を入力します。

2) パスワード

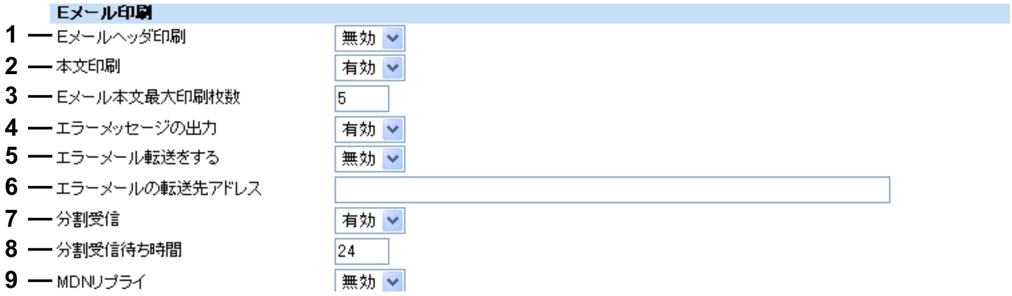
必要に応じて、プリントサーバーに設定されたパスワードを入力します。

3) 印刷キューポーリングレート

プリントキューをどのくらいの頻度でスキャンするかを設定します。1から255の範囲で、秒単位で指定します。

□ Eメール印刷の設定

受信したEメールの印刷方法を設定します。



1) Eメールヘッダ印刷
Eメール印刷ジョブを受信したときに、Eメールヘッダを印刷するか選択します。

2) 本文印刷
Eメール印刷ジョブを受信したときに、本文を印刷するか選択します。

3) Eメール本文最大印刷枚数
Eメール印刷ジョブの本文を、最大何ページまで印刷するかを1から99の範囲で入力します。

4) エラーメッセージの出力
Eメール印刷を正常に終了できなかったときに、エラーメッセージを記載したレポートを印刷するか選択します。

5) エラーメール転送をする
Eメール印刷を正常に終了できなかったときに、エラーメッセージを指定したEメールアドレスに送信するか選択します。

6) エラーメールの転送先アドレス
［エラーメール転送をする］を有効にした場合に、エラーメッセージが送信されるEメールアドレスを入力します。

7) 分割受信
分割して送信されてきたEメールジョブを印刷するか選択します。

8) 分割受信待ち時間
分割して送信されてきたEメールジョブを本機が印刷するまでの待ち時間を入力します。時間単位で指定します。

9) MDNリプライ
開封確認メッセージを要求されたEメール印刷ジョブを受信した場合に、開封確認メッセージを返信するかどうかを選択します。

■ ICCプロファイル設定をセットアップする

管理者は［セットアップ］メニューの［ICCプロファイル］サブメニューから、プリンタ機能で使用するプロファイルを設定することができます。

補 足

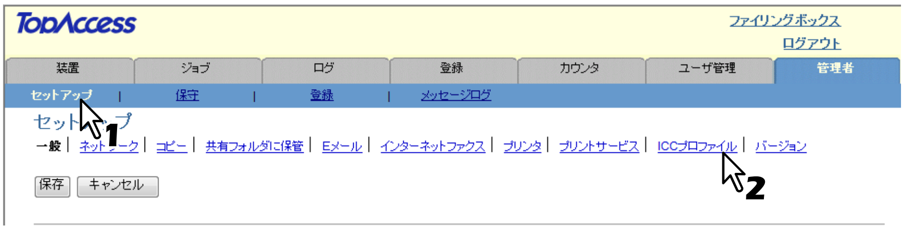
この機能はe-STUDIO4520C Seriesおよびe-STUDIO6530C Seriesで使用できます。

ICCプロファイル設定をセットアップする手順

1 TopAccessの管理者モードを起動します。

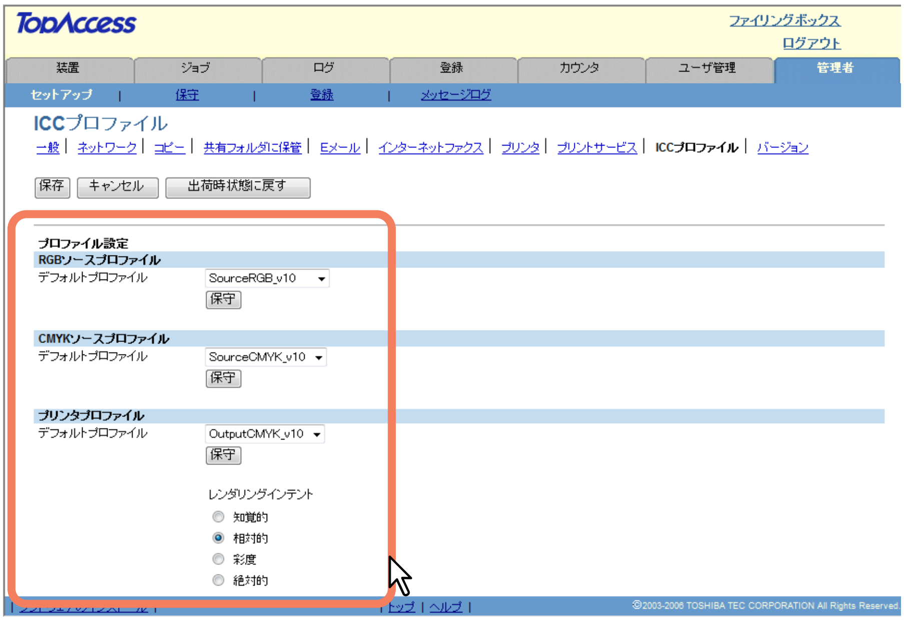
📖 P.110 「TopAccess管理者モードの起動」

2 ［セットアップ］メニューをクリックし、［ICCプロファイル］サブメニューをクリックします。



ICCプロファイルサブメニューページが表示されます。

3 必要に応じて、ICCプロファイル設定をセットアップします。



このページでは、以下の設定を行うことができます：

📖 P.209 「RGBソースプロファイルの設定」
📖 P.214 「CMYKソースプロファイルの設定」
📖 P.214 「プリンタプロファイルの設定」

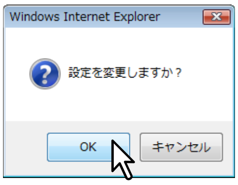
4 ［保存］をクリックします。

保存の確認ダイアログボックスが表示されます。

補 足

- 設定を保存する前に［キャンセル］をクリックすると、設定を保存せずに現在の設定状態に戻します。［キャンセル］をクリックしても、工場出荷時の設定に戻すことはできません。［キャンセル］は、設定を保存する前に、変更した設定をクリアしてすべてを現在の設定状態に戻したい場合にクリックします。
- ［出荷状態に戻す］をクリックすると、工場出荷時の設定に戻すことができます。

5 ［OK］をクリックし、変更を適用します。



注 意

Internet Explorerをお使いの場合、［保存］をクリックして設定の変更を保存した後も、画面上に表示された設定の値が更新されないことがありますが、設定は正常に適用されています。この場合、サブメニューをクリックして画面を更新すると、現在の設定状態で各項目の値が表示されます。

□ RGBソースプロファイルの設定

RGBデータの印刷時、RGBデータのカラースペース変換に使用する入力プロファイルを設定します。

1) デフォルトプロファイル

印刷時にプリンタドライバのカラープロファイル設定の初期設定として表示する、RGBソースプロファイルを設定します。本機に登録されているRGBソースプロファイルの中から選択することができます。

2) ［保守］

RGBソースプロファイルをメンテナンスする場合にクリックします。クリックするとRGBソースプロファイルの保守ページが表示され、本機にプロファイルをインポートしたり、登録済みのプロファイルをエクスポートしたり、削除したりすることができます。詳しくは、以下の説明を参照してください。

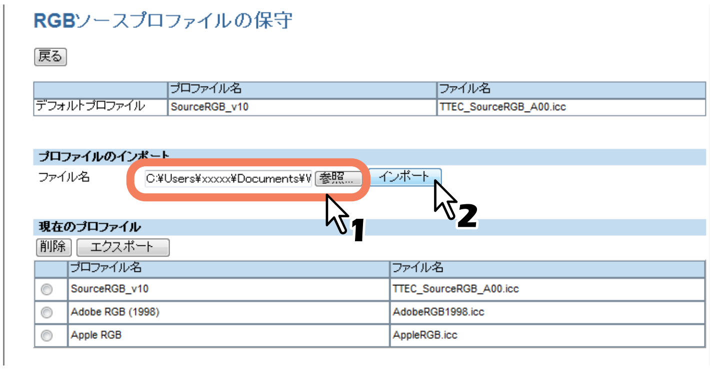
P.210「プロファイルをインポートする」
P.211「プロファイルをエクスポートする」
P.213「プロファイルを削除する」

プロファイルをインポートする

1 **インポートしたいプロファイル設定の［保守］をクリックします。**

選択したプロファイルの保守ページが表示されます。

2 **［プロファイルのインポート］の［参照］をクリックして、プロファイルのファイルを選択し、［インポート］をクリックします。**



プロファイルのインポートを開始します。

3 **プロファイルがインポートされます。［戻る］をクリックしてプロファイルの保守ページを閉じます。**

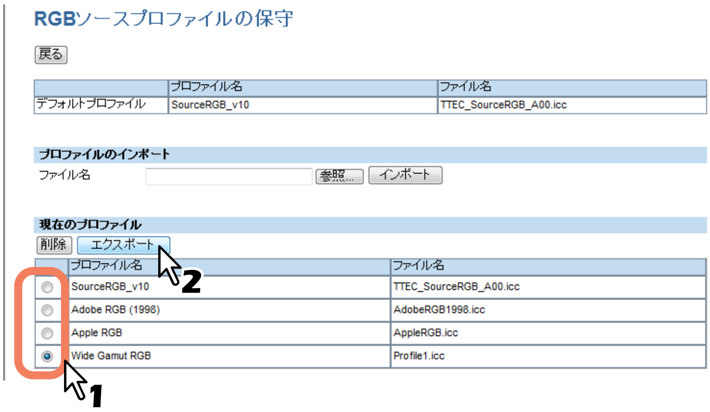
［現在のプロファイル］のリストにインポートしたプロファイルが追加されます。

プロファイルをエクスポートする

1 エクスポートしたいプロファイル設定の［保守］をクリックします。

選択したプロファイルの保守ページが表示されます。

2 ［現在のプロファイル］のリストでプロファイルを選択し、［エクスポート］をクリックします。

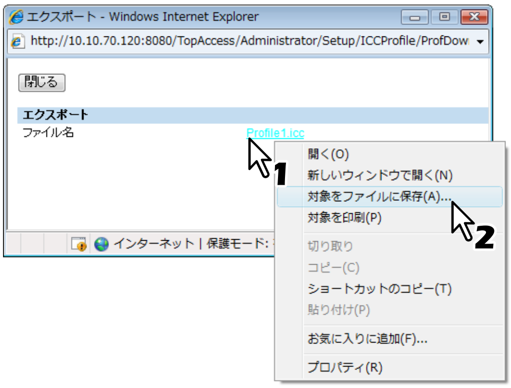


エクスポート画面が表示されます。

注 意

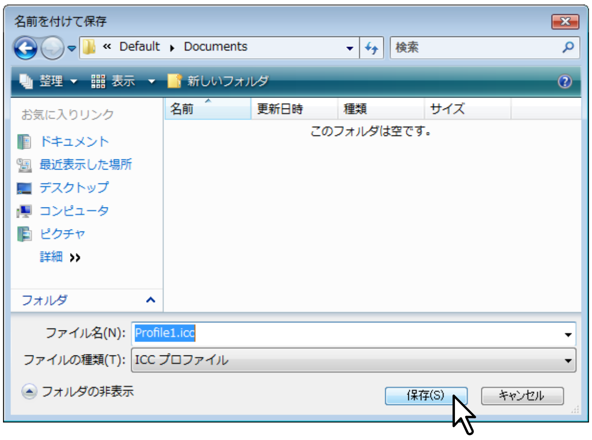
工場出荷時に登録されているプロファイルをエクスポートすることはできません。

3 エクスポートするプロファイルのファイル名のリンクを右クリックし、［対象をファイルに保存］を選択します。

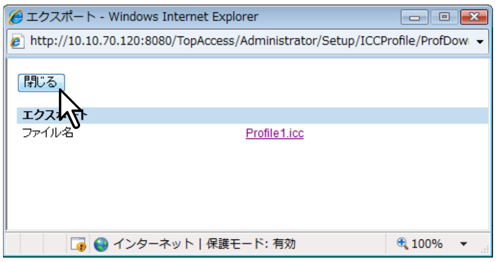


［名前を付けて保存］ダイアログボックスが表示されます。

4 保存先を指定し、［保存］を選択します。



5 ［閉じる］をクリックしてエクスポートページを閉じます。



6 ［戻る］をクリックしてプロファイルの保守ページを閉じます。

プロファイルを削除する

1 **削除したいプロファイル設定の［保守］をクリックします。**

選択したプロファイルの保守ページが表示されます。

2 **［現在のプロファイル］のリストでプロファイルを選択し、［削除］をクリックします。**

設定の確認ダイアログボックスが表示されます。

注 意

工場出荷時に登録されているプロファイルを、削除することはできません。

3 **［OK］をクリックします。**

プロファイルが削除されます。

7

TopAccess（管理者モード）

4 ［戻る］をクリックしてプロファイルの保守ページを閉じます。

現在のプロファイルのリストからプロファイルが削除されます。

□ CMYKソースプロファイルの設定

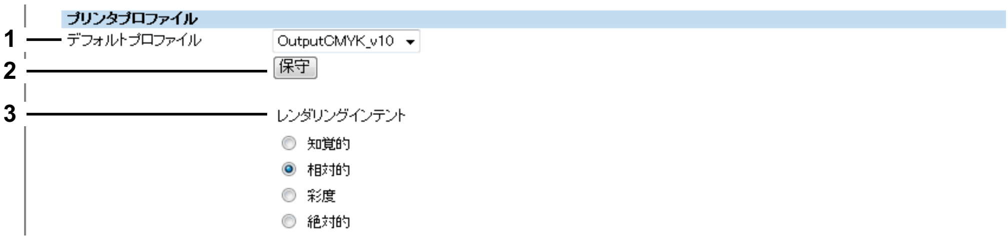
CMYKデータの印刷時、CMYKデータのカラースペース変換に使用する入力プロファイルを設定します。

1) デフォルトプロファイル
印刷時にプリンタドライバのカラープロファイル設定の初期設定として表示する、CMYKソースプロファイルを設定します。本機に登録されているCMYKソースプロファイルの中から選択することができます。

2) ［保守］
CMYKソースプロファイルをメンテナンスする場合にクリックします。クリックするとCMYKソースプロファイルの保守ページが表示され、本機にプロファイルをインポートしたり、登録済みのプロファイルをエクスポートしたり、削除したりすることができます。詳しくは、以下の説明を参照してください。
📖 P.210 「プロファイルをインポートする」
📖 P.211 「プロファイルをエクスポートする」
📖 P.213 「プロファイルを削除する」

□ プリンタプロファイルの設定

印刷時にデータのカラースペース変換に使用する出力プロファイルを設定します。



1) デフォルトプロファイル
印刷時にプリンタドライバのカラープロファイル設定の初期設定として表示する、プリンタプロファイルを設定します。本機に登録されているプリンタプロファイルの中から選択することができます。

2) ［保守］
プリンタプロファイルをメンテナンスする場合にクリックします。クリックするとプリンタプロファイルの保守ページが表示され、本機にプロファイルをインポートしたり、登録済みのプロファイルを削除したり、エクスポートしたりすることができます。詳しくは、以下の説明を参照してください。
📖 P.210 「プロファイルをインポートする」
📖 P.211 「プロファイルをエクスポートする」
📖 P.213 「プロファイルを削除する」

3) **レンダリングインテント**
印刷時のカラースペース変換を、どのような方法で処理するかを設定します。
- **知覚的**：写真画像に適しています。
- **相対的**：［知覚的］よりも多くの画像のオリジナルの色を保護することができます。
- **彩度**：色の正確さよりも、画像の鮮明な色の再現を重視します。グラフや図表などのグラフィックスに適しています。
- **絶対的**：用紙の色を考慮した色の保護をすることができます。

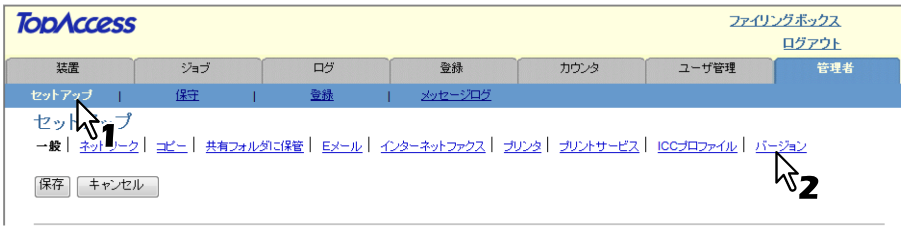
■ バージョン情報を表示する

管理者は［セットアップ］メニューの［バージョン］サブメニューから、本機システムウェアのバージョン情報を表示することができます。

バージョン情報を表示する手順

1 **TopAccessの管理者モードを起動します。**

2 **［セットアップ］メニューをクリックし、［バージョン］サブメニューをクリックします。**



バージョンサブメニューページが表示されます。

3 **バージョンサブメニューページでは本機のバージョン情報を確認することができます。**

TopAccessからメンテナンスする

ここでは、TopAccessから行う本機の保守作業について説明します。ファイルのバックアップや復元、本機に保存したファイルの削除やユーザに提供するソフトウェアの更新などをTopAccessから行う方法について説明します。

■ 保守機能について

TopAccessの管理者モードの［保守］メニューでは、以下の保守作業を行うことができます。

- クライアントソフトウェアを更新する
  管理者は本機にクライアントソフトウェアをアップロードすることができ、ユーザはそれらのソフトウェアをTopAccessから自分のコンピュータにダウンロードすることができます。この機能は、本機に最新バージョンのソフトウェアを転送するときに使用します。
  📖 P.217「クライアントソフトウェアを更新する」
- クライアントソフトウェアを削除する
  管理者は本機に転送したクライアントソフトウェアを削除し、ユーザがそのソフトウェアをTopAccessからダウンロードすることを禁止できます。この機能は、特定のソフトウェアのダウンロードを無効にするときに使用します。
  📖 P.219「クライアントソフトウェアを削除する」
- ハードディスクのデータをバックアップする
  管理者は本機のハードディスクにあるアドレス帳やメールボックス、テンプレートデータのバックアップファイルを作成することができます。この機能は、システムのソフトウェアを更新する前やハードディスクを交換する前などに、バックアップファイルを作成するときに使用します。
  📖 P.219「データをバックアップする」
- バックアップファイルからデータを復元する
  管理者は本機のバックアップファイルからアドレス帳やメールボックス、テンプレートデータを復元することができます。この機能は、システムのソフトウェアを更新した後やハードディスクを交換した後などに、データを復元するときに使用します。
  📖 P.222「バックアップファイルからデータを復元する」
- 共有フォルダに保存されているファイルを削除する
  管理者は本機の［共有フォルダかUSBに保管］操作で共有フォルダ（「FILE_SHARE」フォルダ）に保存されたスキャンデータやファクス／インターネットファクス送信データ、ファクス／インターネットファクス受信データを削除することができます。この機能は、ハードディスクの空き容量を確保するために定期的に行ってください。
  📖 P.226「共有フォルダからデータを削除する」
- ディレクトリサービスを登録する
  管理者はLDAP（Lightweight Directory Access Protocol）サーバーのディレクトリサービスに関するプロパティを登録することができます。
  📖 P.227「LDAPサービスを登録する」
- 通知機能を設定する
  管理者はEメールを使った通知機能を有効にすることができます。また、どのイベントが発生したら通知するのかを指定することができます。
  📖 P.229「通知機能を設定する」
- アドレス帳のデータをインポートまたはエクスポートする
  異なるアプリケーションで作成したCSV形式のアドレス帳データをインポートすることができます。また、アドレス帳データをCSVファイルとして異なるアプリケーションにエクスポートすることができます。
  📖 P.233「アドレス帳をインポートまたはエクスポートする」
- 部門コードデータをインポートまたはエクスポートする
  本機の部門コードデータをCSV形式でエクスポートすることができます。また、エクスポートされたCSV形式の部門コードデータをインポートすることができます。
  📖 P.238「部門コードをインポートまたはエクスポートする」
- ログやジャーナルをエクスポートする
  管理者は本機のログやジャーナルをCSVファイルとしてエクスポートすることができます。この機能は、ログやジャーナルを削除する前にファイルとして保存することが必要な場合に使用します。
  📖 P.242「ログ／ジャーナル／カウンタ情報をエクスポートする」
- ログやジャーナルを削除する
  管理者は本機のログやジャーナルを削除することができます。この機能は、ハードディスクの空き容量を確保するために定期的に行ってください。
  📖 P.244「ログやジャーナルを削除する」

- 再起動する
  管理者は本機を再起動することができます。
  📖 P.245 「再起動する」

■ クライアントソフトウェアを更新する

管理者は、本機に内蔵されているクライアントソフトウェアを更新することができます。ユーザは、それらのソフトウェアをTopAccessの［ソフトウェアのインストール］リンクから自分のコンピュータにダウンロードすることができます。

- クライアントソフトウェアインストーラ
- Macintosh PPDファイル
- UNIXフィルタ
- ポイントアンドプリント用プリンタドライバファイル

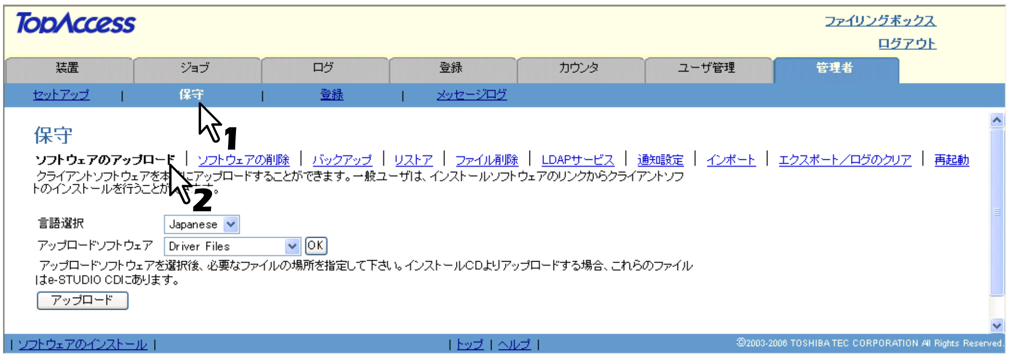
注 意

新しいクライアントソフトウェアをアップロードした場合、以前アップロードした古いバージョンのクライアントソフトウェアを上書きします。

TopAccessから最新バージョンのクライアントソフトウェアを更新する

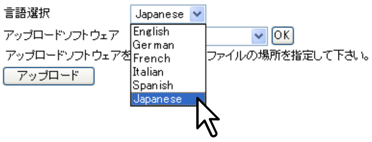
1 **TopAccessの管理者モードを起動します。**
📖 P.110 「TopAccess管理者モードの起動」

2 **［保守］メニューをクリックし、［ソフトウェアのアップロード］サブメニューをクリックします。**

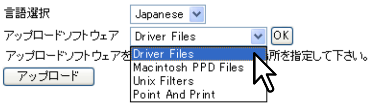


ソフトウェアのアップロードサブメニューページが表示されます。

3 **［言語選択］ボックスから転送するソフトウェア言語を選択します。**



4 **［アップロードソフトウェア］ボックスから転送するソフトウェアを選択します。**

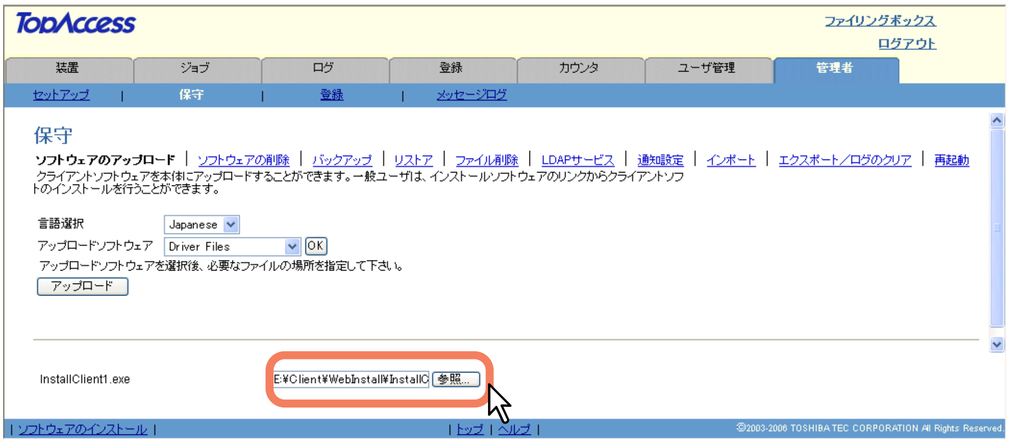


Driver Files：クライアントソフトウェアのインストーラファイルをアップロードします。
Macintosh PPD Files：Mac OS X用のMacintosh PPDファイルをアップロードします。
Unix Filters：UNIXワークステーション用のtarファイルをアップロードします。
Point And Print：本機の印刷キューをダブルクリックしたときにインストールされるプリンタドライバをアップロードします。

5 ［OK］をクリックします。

ページの下部が選択したソフトウェアに変更されます。

6 表示される各ボックスで［参照］をクリックし、アップロードする設定ファイルを指定します。



注 意

それぞれのボックスの左側には、ファイル名が表示されます。各ボックスには、必ず同じファイルを指定してください。

補 足

アップロード用のファイルはクライアントソフトウェアごとに以下のように提供されます。

- **ドライバファイル**：入手については、サービスエンジニアにご連絡ください。
- **Macintosh PPDファイル**：Client Utilities CD-ROMの「Client￥MacPPD￥OSX￥」フォルダにあります。
- **UNIXフィルタ**：Client Utilities CD-ROMの「Admin」フォルダ内のワークステーションごとのフォルダにあります。
- **Point And Print**：入手については、サービスエンジニアにご連絡ください。

7 ［アップロード］をクリックします。

選択したファイルがアップロードされます。

■ クライアントソフトウェアを削除する

管理者は、転送したソフトウェアを削除し、ユーザがTopAccessからダウンロードすることを禁止することができます。

注 意

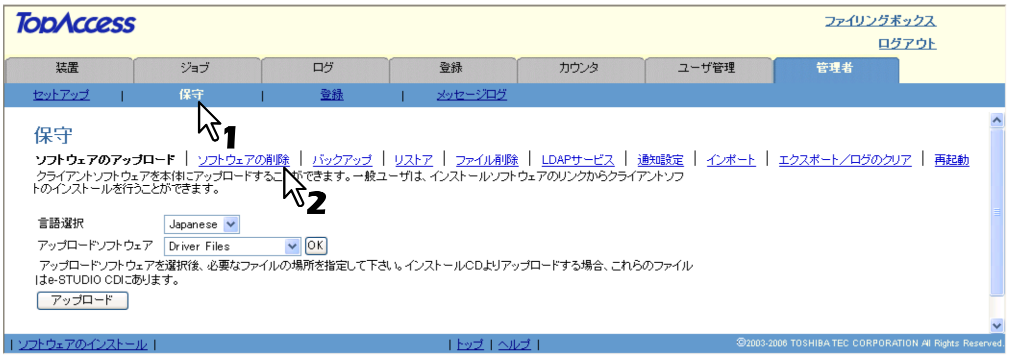
本機能ではアップロードされたポイントアンドプリント用プリンタドライバファイルを削除することはできません。ただし、新しいバージョンのプリンタドライバファイルをアップロードして、古いバージョンのプリンタドライバファイルを上書きすることができます。

TopAccessからソフトウェアを削除する

1 TopAccessの管理者モードを起動します。

P.110「TopAccess管理者モードの起動」

2 ［保守］メニューをクリックし、［ソフトウェアの削除］サブメニューをクリックします。



ソフトウェアの削除サブメニューページが表示されます。

3 削除するソフトウェアのチェックボックスをオンにし、［削除］をクリックします。

選択したソフトウェアが本機から削除されます。

■ データをバックアップする

管理者は本機のハードディスクに保存されているアドレス帳やメールボックス、テンプレートデータのバックアップファイルを作成することができます。この機能は、システムのソフトウェアを更新する前やハードディスクを交換する前などに、バックアップファイルを作成するときに使用します。作成したバックアップファイルは、データを復元するときや、ほかのe-STUDIO6530C Series、e-STUDIO4520C Series、e-STUDIO855 Seriesおよびe-STUDIO455 Seriesにアップロードするときに使用することができます。

補 足

アドレス帳、メールボックス（Fコード）、およびテンプレートのデータはハードディスクに保存されています。万一ハードディスクが破損した場合などに備えて、ハードディスクのデータを定期的にバックアップしてください。

データをファイルとしてバックアップする

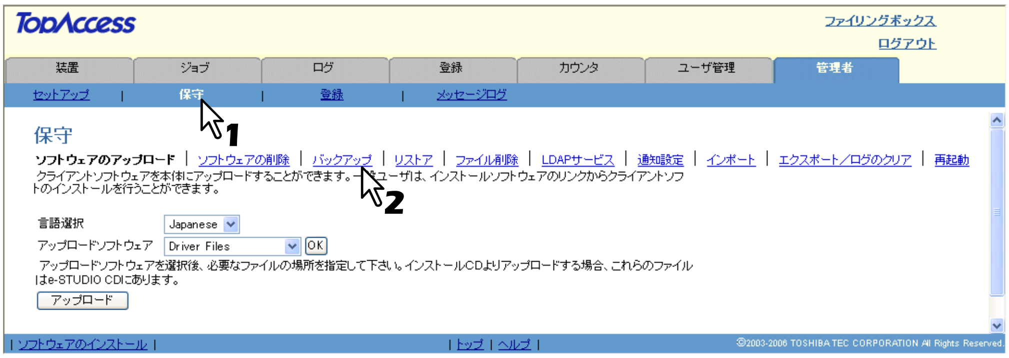
注 意

- バックアップファイルを作成する前に、現在処理中のジョブや、プライベート印刷ジョブ、予約印刷ジョブ、お試し印刷ジョブがないことを確認してください。これらのジョブがある場合、バックアップファイルを作成することができません。
- テンプレートのバックアップファイルにはパスワードが記載されていますので取り扱いには十分注意してください。

1 TopAccessの管理者モードを起動します。

P.110「TopAccess管理者モードの起動」

2 ［保守］メニューをクリックし、［バックアップ］サブメニューをクリックします。



バックアップサブメニューページが表示されます。

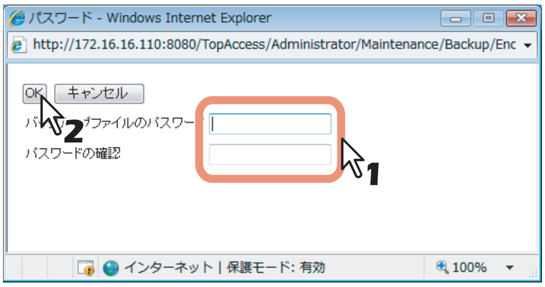
補 足

以前にバックアップファイルを作成した場合は、バックアップファイルのリンクと情報が各エリアに表示されます。リンクをクリックすると、以前に作成したバックアップファイルをそのまま残すことができます。

3 バックアップファイルを作成するデータの ［新規作成］をクリックします。すべてのデータを含むバックアップファイルを作成する場合は、［全てのデータ］部の［新規作成］をクリックします。

- ［パスワード］ダイアログボックスが表示されます。
- アドレス帳のバックアップファイルの作成時は、パスワードの入力は表示されません。手順5へ進みます。

4 バックアップファイルのパスワードを入力します。



バックアップファイルが作成され、バックアップファイル名およびファイルサイズが表示されます。

補 足

パスワードは半角の英数字で、1文字以上128文字まで入力することができます。

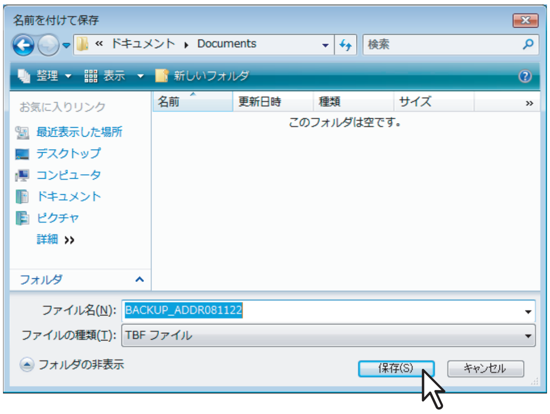
注 意

バックアップファイルの作成はデータのサイズによって処理に時間がかかる場合があります。

5 ［ファイル名］リンクを右クリックし、［対象をファイルに保存］を選択します。

［名前を付けて保存］ダイアログボックスが表示されます。

6 保存先を指定し、［ファイルの種類］ボックスで［すべてのファイル］を選択します。



注 意

バックアップファイルのファイル名は変更しないことをお勧めします。以下のファイル名以外の名前に変更すると、バックアップファイルからデータを復元できなくなります。
- アドレス帳：BACKUP_ADDR<日付>.tbf
- Fコード：BACKUP_MBOX<日付>.enc
- テンプレート：BACKUP_TEMP<日付>.enc
- すべてのデータ：BACKUP_ALL<日付>.enc

7 ［保存］をクリックします。

選択した保存先にバックアップファイルが保存されます。

■ バックアップファイルからデータを復元する

管理者はバックアップファイルを使って、本機のアドレス帳やメールボックス、テンプレートデータを復元することができます。この機能は、システムのソフトウェアを更新した後やハードディスクを交換した後などに、バックアップファイルからデータを復元しシステムを同じ環境に戻すときに使用します。また、この機能を使ってほかの本機にデータを転送することもできます。

注 意

バックアップファイルからデータを復元した場合、同番号で登録されているテンプレート設定やメールボックスは上書きされます。

バックアップファイルからデータを復元する

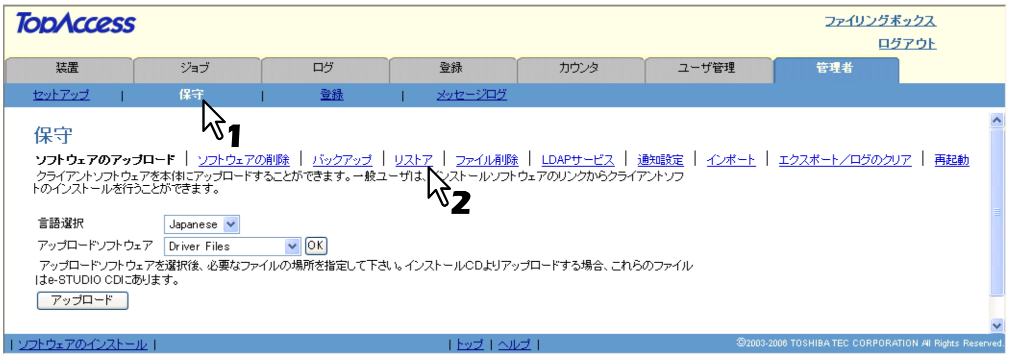
注 意

本機の操作パネルのボタンから操作を終了して数分間は、リストア画面を表示することはできません。また、バックアップファイルからデータを復元する前に、現在処理中のジョブや、プライベート印刷ジョブ、予約印刷ジョブ、お試し印刷ジョブがないことを確認してください。これらのジョブがある場合、バックアップファイルからデータを復元することができません。それでもバックアップデータの復元に時間がかかる場合は、本機がスリープモードに入ってからデータの復元を行ってください。

1 TopAccessの管理者モードを起動します。

📖 P.110 「TopAccess管理者モードの起動」

2 ［保守］メニューをクリックし、［リストア］サブメニューをクリックします。



リストアサブメニューページが表示されます。

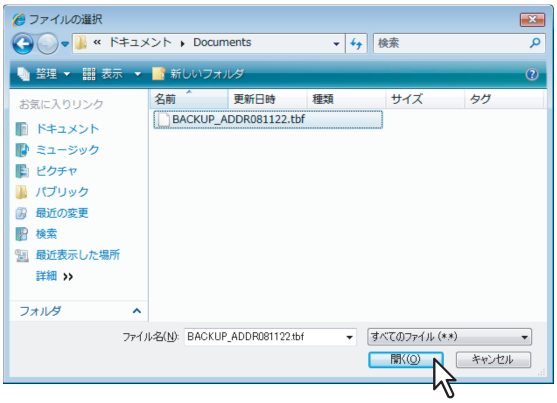
3 復元したいデータの［参照］をクリックします。すべてのデータを一括して復元したい場合は、［全てのデータ］部の［参照］をクリックします。

［ファイルの選択］ダイアログボックスが表示されます。

注 意

一度に複数のバックアップファイルを復元することはできません。

4 バックアップファイルを選択し、［開く］をクリックします。



注 意

バックアップファイルが以下の名前で保存されていない場合は、データを復元することはできません。

- アドレス帳：BACKUP_ADDR<日付>.tbf
- Fコード：BACKUP_MBOX<日付>.enc
- テンプレート：BACKUP_TEMP<日付>.enc
- すべてのデータ：BACKUP_ALL<日付>.enc

5 ［アップロード］をクリックします。

選択したバックアップファイルの情報がリスト画面に表示されます。

6 バックアップファイルをアップロードしたデータのチェックボックスをオンにし、[リストア]をクリックします。

データがリストアされます。

7

TopAccess(管理者モード)

■ 共有フォルダからデータを削除する

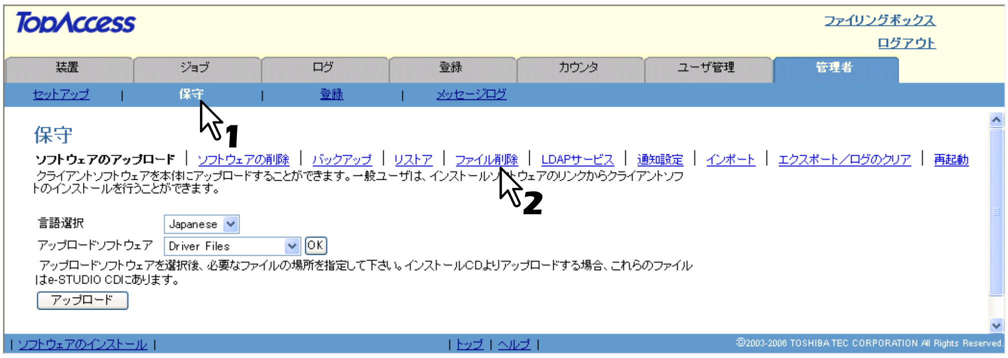
管理者は［共有フォルダへ保管］操作で本機の共有フォルダ（「FILE_SHARE」フォルダ）に保存されたスキャンデータや送信データ、受信データなどの保存データを削除することができます。この操作を定期的に行い、ハードディスクの空き容量を確保することをお勧めします。

データを削除する

1 TopAccessの管理者モードを起動します。

📖 P.110 「TopAccess管理者モードの起動」

2 ［保守］メニューをクリックし、［ファイル削除］サブメニューをクリックします。



ファイルの削除サブメニューページが表示されます。

3 削除したいデータのチェックボックスをオンにし、［ファイル削除］をクリックします。

Scan：スキャン時に共有フォルダに保管されたデータをすべて削除します。

Transmission：ファクス／インターネットファクス送信時に共有フォルダに保管されたデータをすべて削除します。

Reception：ファクス／インターネットファクス受信時にメールボックス（Fコード）やファクス受信転送やインターネットファクス受信転送で共有フォルダに保管されたデータをすべて削除します。

データが削除されます。

■ LDAPサービスを登録する

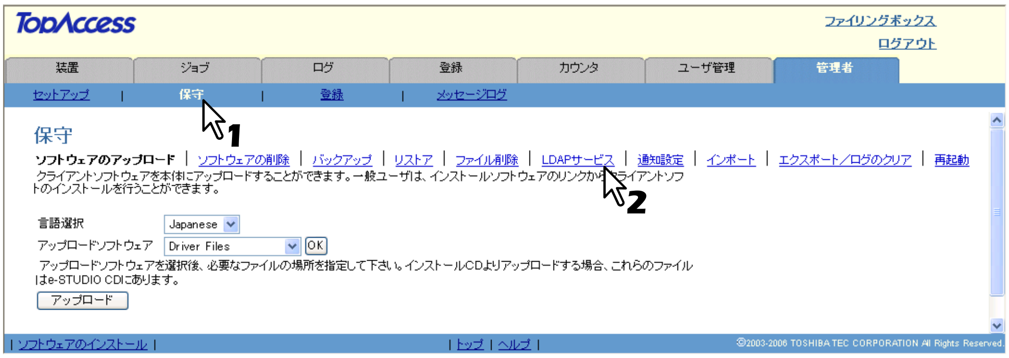
管理者はTopAccessを使ってLDAP（Lightweight Directory Access Protocol）サーバーのディレクトリサービスに関するプロパティを登録することができます。新しいディレクトリサービスを追加すると、ユーザはLDAPサーバーを使って宛先を検索することができます。

ディレクトリサービスをセットアップする

1 TopAccessの管理者モードを起動します。

📖 P.110 「TopAccess管理者モードの起動」

2 ［保守］メニューをクリックし、［LDAPサービス］サブメニューをクリックします。

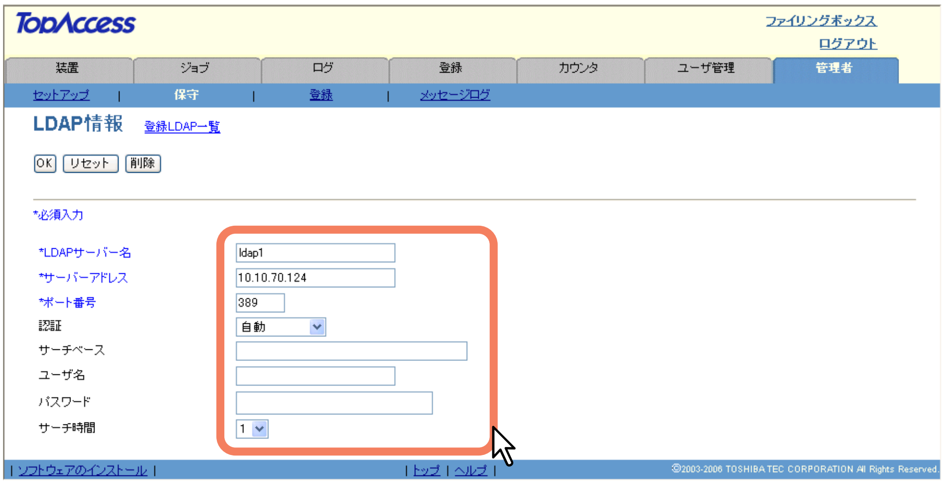


LDAPサービスサブメニューページが表示されます。

3 ［新規］をクリックし、新しいディレクトリサービスを追加します。既存の ディレクトリサービスを編集する場合は、ディレクトリサービス名リンクをクリックします。

LDAPプロパティページが表示されます。

4 必要に応じて、以下の項目を入力します。



LDAPサーバー名：ディレクトリサービスを識別するディレクトリサービス名を入力します。
サーバーアドレス：LDAPサーバーのIPアドレスまたはFQDNを入力します。
ポート番号：LDAPサーバーにアクセスするポート番号を入力します。SSLを使用しないLDAPサーバーにアクセスするには、通常、「389」を使用します。SSLを使用する場合は、通常「636」を使用します。
認証：SASL認証プロトコルを選択します。SASL認証プロトコルが分からない場合は、［自動］を選択します。

- **自動**：自動で認証を識別してLDAPサーバーに接続する場合に選択します。
- **Kerberos**：Kerberos認証を使用してLDAPサーバーに接続する場合に選択します。
- **Digest-MD5**：Digest-MD5認証を使用してLDAPサーバーに接続する場合に選択します。
- **CRAM-MD5**：CRAM-MD5認証を使用してLDAPサーバーに接続する場合に選択します。
- **Login**：Login認証を使用してLDAPサーバーに接続する場合に選択します。
- **Plain**：Plain認証を使用してLDAPサーバーに接続する場合に選択します。
- **Simple Bind**：Simple Bind認証を使用してLDAPサーバーに接続する場合に選択します。

サーチベース：検索ベースを入力します。Windowsサーバーを使用している場合は、必ず入力してください。
ユーザ名：LDAPサービスにアクセスするためにユーザ名が必要な場合は、ログインユーザ名を入力します。
パスワード:LDAPサービスにアクセスするためにパスワードが必要な場合は、ログインパスワードを入力します。
サーチ時間：LDAPサーバーが応答しない場合に、通信を終了するタイムアウト時間を選択します。

注 意

- FQDNを使用してLDAPサーバーを指定する場合は、DNSサーバーを設置しDNSの設定を有効にする必要があります。
- ユーザ管理設定を有効にして、Windows Serverに対してロールベースアクセスを行う場合には、設定するユーザ名は、Windows ServerでDomain AdminsかAccount Operatorに属しているユーザを使用してください。

補 足

- ［リセット］をクリックすると、入力した値が消去されます。
- 既存のディレクトリサービスを編集している場合は、［削除］をクリックして登録したディレクトリサービスを削除することができます。

5 ［OK］をクリックします。

登録したディレクトリサービスが、ディレクトリサービス一覧に追加されます。

6 標準のLDAPサーバーとして使用するLDAPディレクトリサービスのラジオボタンを選択します。

補 足

標準のLDAPサーバーとして選択したディレクトリサービスは、操作パネルでLDAP検索するときに初期値として選択されるディレクトリサービスになります。本機を標準のLDAPサーバーとして選択した場合は、標準のディレクトリサービスが設定されていない状態になります。

■ 通知機能を設定する

管理者は通知機能を設定し、エラーが発生した場合やジョブを完了したときにEメール（携帯の端末も可）による通知を受けることができます。

注 意

通知機能を有効にする場合は、［セットアップ］メニューの［Eメール］サブメニューでEメール設定を行う必要があります。

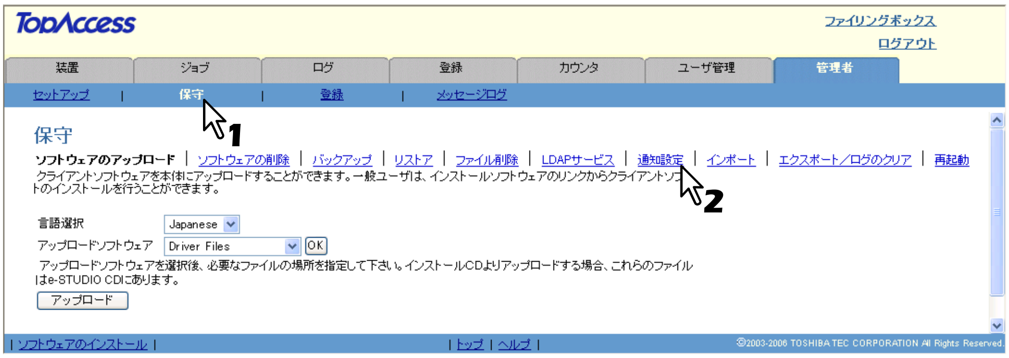
📖 P.190 「Eメール設定をセットアップする」

通知イベントを設定する

1 TopAccessの管理者モードを起動します。

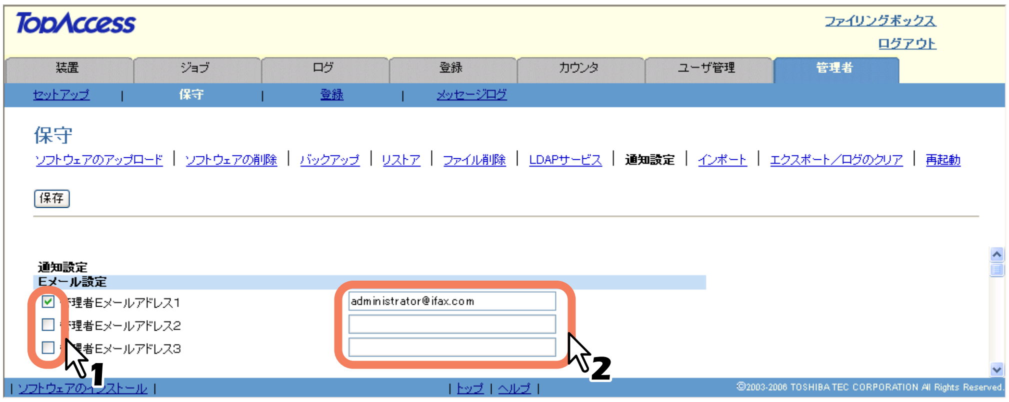
📖 P.110 「TopAccess管理者モードの起動」

2 ［保守］メニューをクリックし、［通知設定］サブメニューをクリックします。

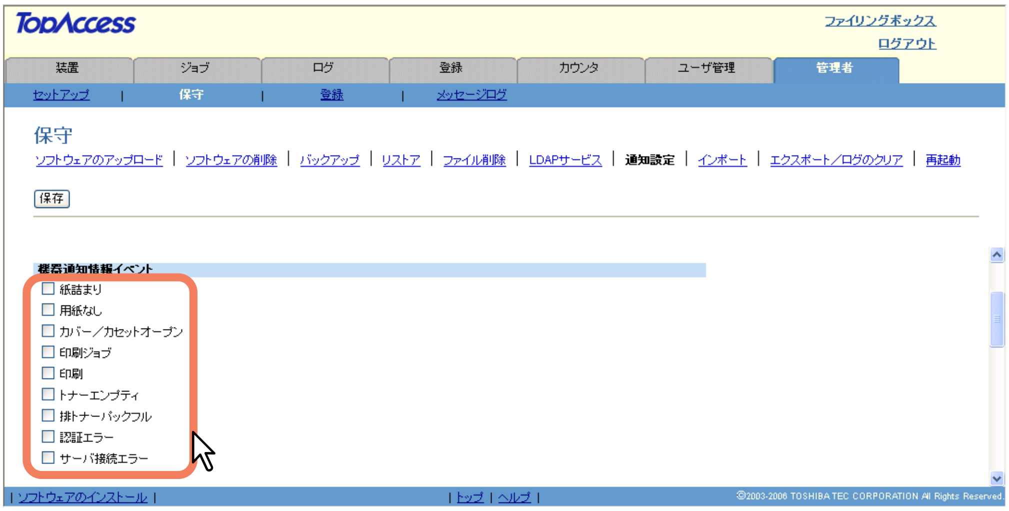


通知設定サブメニューページが表示されます。

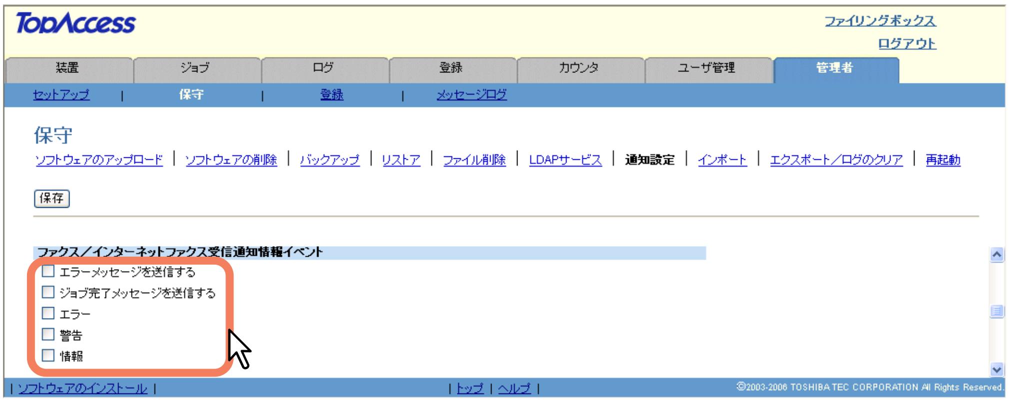
3 Eメール設定では、通知機能を有効にするために［管理者Eメールアドレス1～3］チェックボックスをオンにし、通知を送信する管理者のEメールアドレスを入力します。



4 機器通知情報イベントでは、通知を受けたいイベントのチェックボックスをオンにします。



5 ファクス／インターネットファクス受信通知情報イベントでは、通知を受けたい中継ファクス送信の状況のチェックボックスをオンにします。



補 足

ファクス／インターネットファクス受信通知情報イベントを有効にした場合は、以下のイベント情報を通知することができます。

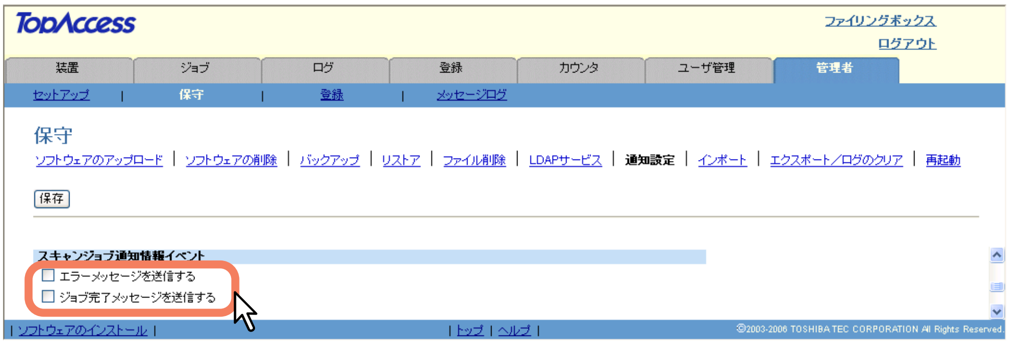
[エラーメッセージを送信する］を有効にした場合
- 受信ファクス／インターネットファクスジョブの保存または印刷に失敗した場合

[エラー］を有効にした場合
- POP3サーバーからインターネットファクスジョブの受信に失敗した場合

[警告］を有効にした場合
- 定期的な受信ファクス／インターネットファクスの削除が正常終了した場合

[情報］を有効にした場合
- [保守]メニューの[ファイル削除]機能で受信ファクス／インターネットファクスが正常に削除された場合

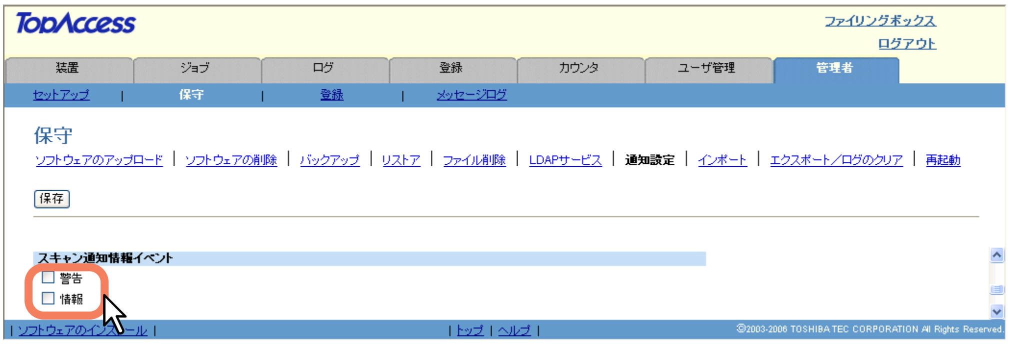
6 スキャンジョブ通知情報イベントでは、スキャン操作において通知を受けたい各項目のチェックボックスをオンにします。



補 足

[エラーメッセージを送信する］を有効にした場合は、以下のイベント情報を通知することができます。
- リソース確保に失敗しスキャンできなかった場合
- [保守］メニューの［ファイル削除］機能でスキャンファイルの削除に失敗した場合

7 **スキャン通知情報イベントでは、スキャン操作において通知を受けたい各項目のチェックボックスをオンにします。**



補 足

スキャン通知情報イベントを有効にした場合は、以下のイベント情報を通知することができます。

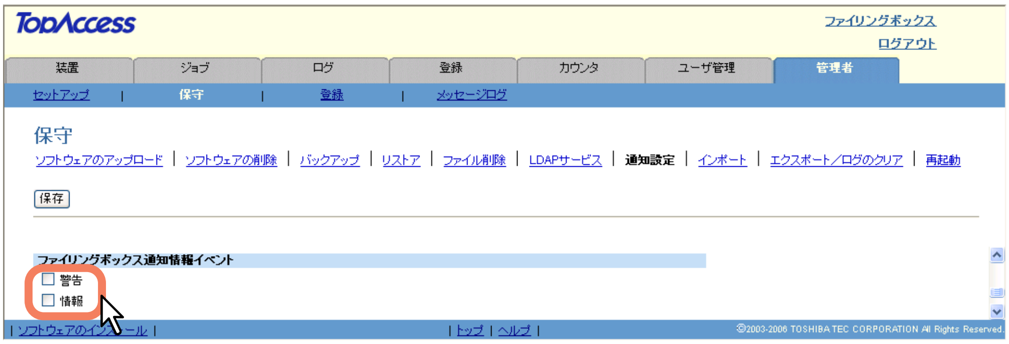
［警告］を有効にした場合

- 定期的なスキャンファイルの削除が正常終了した場合

［情報］を有効にした場合

- ［保守］メニューの［ファイル削除］機能でスキャンファイルが正常に削除された場合

8 **ファイリングボックス通知情報イベントでは、ファイリングボックス操作において通知を受けたい各項目のチェックボックスをオンにします。**



補 足

ファイリングボックス通知情報イベントを有効にした場合は、以下のイベント情報を通知することができます。

［警告］を有効にした場合

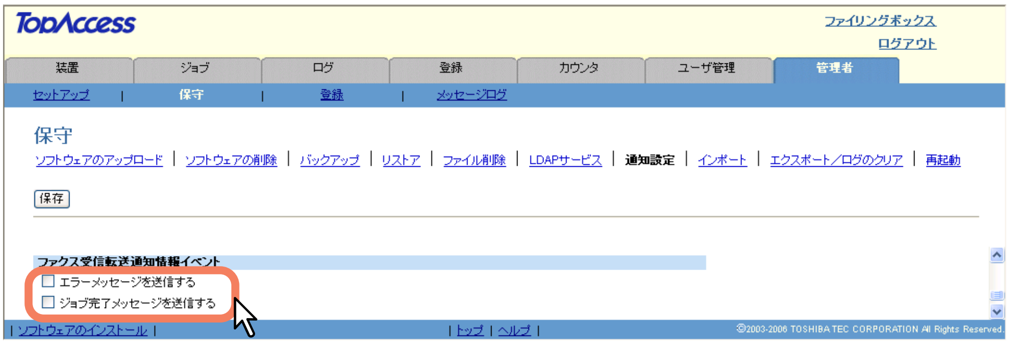
- ファイリングボックス空き容量が残りわずかになった場合
- ファイリングボックス文書の保存期間が残りわずかになった場合

［情報］を有効にした場合

- ファイリングボックスが初期化された場合

ファイリングボックス操作が正常に終了したかを通知したい場合は、ファイリングボックスWebユーティリティを使ってボックスごとのプロパティ画面で設定します。設定する方法については、**ファイリングボックスガイド**を参照してください。

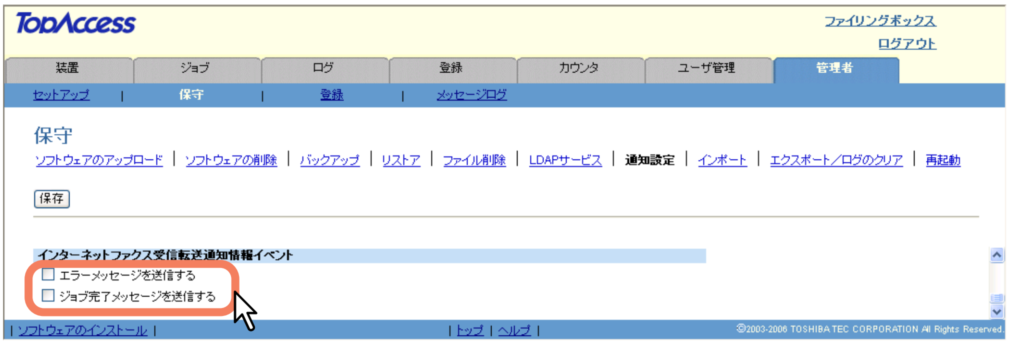
9 ファクス受信転送通知情報イベントでは、ファクス受信転送中にエラーが発生した場合および転送が完了した場合に通知するかをそれぞれ選択します。



注 意

ファクス受信転送通知情報イベントを設定しても、オプションのFAXユニットが装着されていない場合は通知されません。

10 インターネットファクス受信転送通知情報イベントでは、インターネットファクス受信転送中にエラーが発生した場合および転送が完了した場合に通知するかをそれぞれ選択します。



11 ［保存］をクリックします。

■ アドレス帳をインポートまたはエクスポートする

CSV形式のアドレス帳データをインポートまたはエクスポートすることができます。

□ アドレス帳データをインポートする

他のe-STUDIO6530C Series、e-STUDIO4520C Series、e-STUDIO3510C Series、e-STUDIO451C Series、e-STUDIO855 Series、e-STUDIO850 Series、e-STUDIO4511 Series、e-STUDIO455 Series、e-STUDIO452 Series、e-STUDIO282 Seriesのアドレス帳や、異なるアドレス帳プログラムからCSV形式でエクスポートされたアドレス情報をインポートすることができます。

アドレス帳のインポート方法は、本機に登録済みのアドレス帳にインポートしたアドレス帳の情報を追加する方法と、登録済みのアドレス帳をすべて削除してインポートしたアドレス帳の情報に書き換える方法があります。

取り込むファイルは、TopAccessのアドレス帳データのフォーマットに準じたカンマ区切りのCSV形式で作成されている必要があります。アドレス帳データは以下のフォーマットで作成します。

```
"First Name","Last Name","Email Address","Tel Number","Company","Department","Furigana"
"User01","User","user01@ifax.com","00000000001","12345 COMPANY","Dept01","ユーザ01"
"User02","User","user02@ifax.com","00000000002","12345 COMPANY","Dept01","ユーザ02"
"User03","User","user03@ifax.com","00000000003","12345 COMPANY","Dept01","ユーザ03"
```

補 足

インポートしたアドレス帳のデータには、グループデータは含まれません。

CSVファイルからアドレス帳データをインポートする

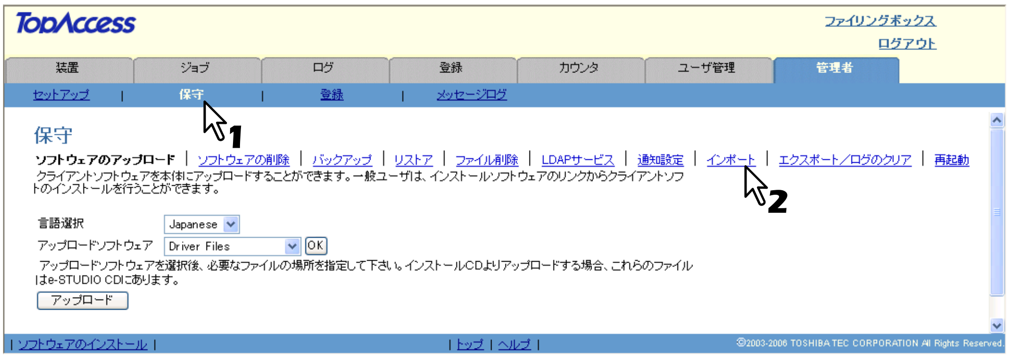
注 意

アドレス帳データをインポートする前に、現在処理中のジョブや、プライベート印刷ジョブ、予約印刷ジョブ、お試し印刷ジョブがないことを確認してください。これらのジョブがある場合、アドレス帳データをインポートすることができません。それでもアドレス帳データのインポートに時間がかかる場合は、本機がスリープモードに入ってからデータのインポートを行ってください。

1 **TopAccessの管理者モードを起動します。**

📖 P.110「TopAccess管理者モードの起動」

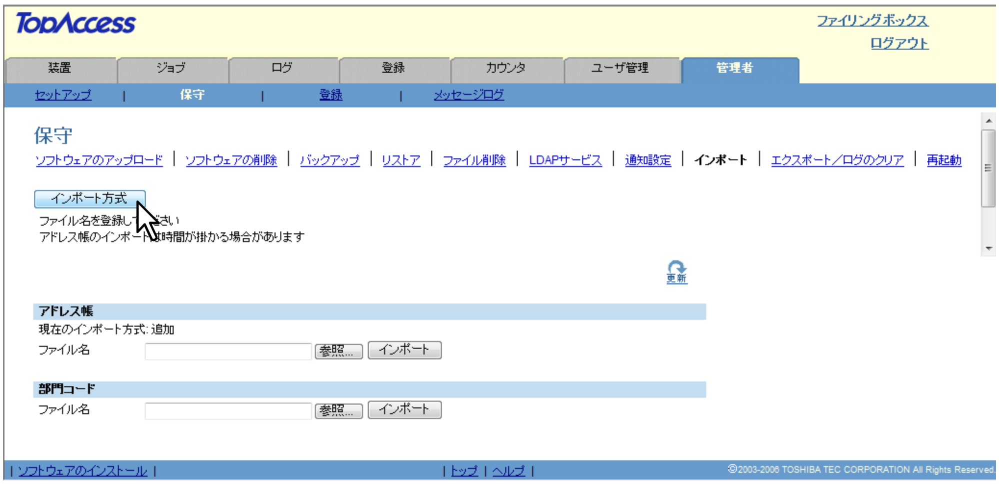
2 **［保守］メニューをクリックし、［インポート］サブメニューをクリックします。**



インポートサブメニューページが表示されます。

3 **インポート方式を変更したい場合は［インポート方式］をクリックします。**

アドレス帳エリアの［現在のインポート方式］に、設定中のインポート方式が表示されます。インポート方式を変更しない場合は、手順5に進みます。



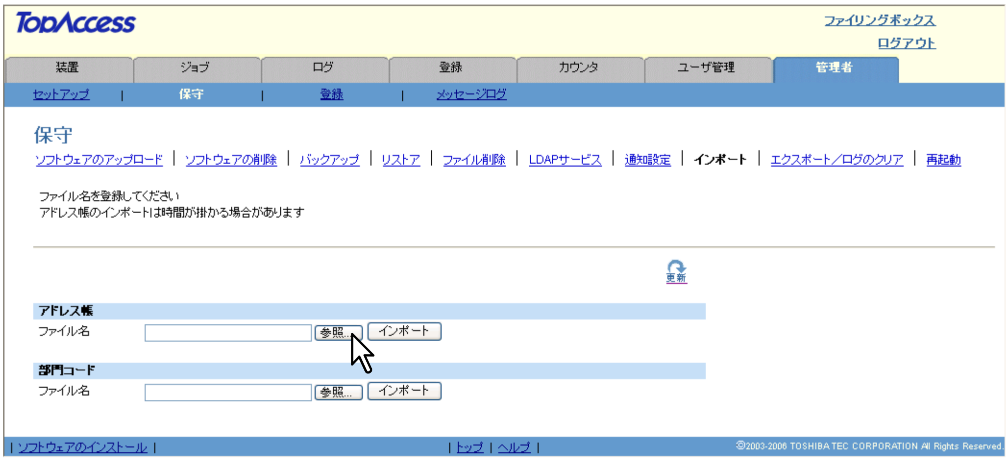
インポート方式ページが表示されます。

4 **インポート方式を選択し、［保存］をクリックします。**

追加：本機に登録済みのアドレス帳に、インポートするアドレス帳の情報を追加します。
上書き：本機に登録済みのアドレス帳をすべて削除し、インポートするアドレス帳の情報に書き換えます。

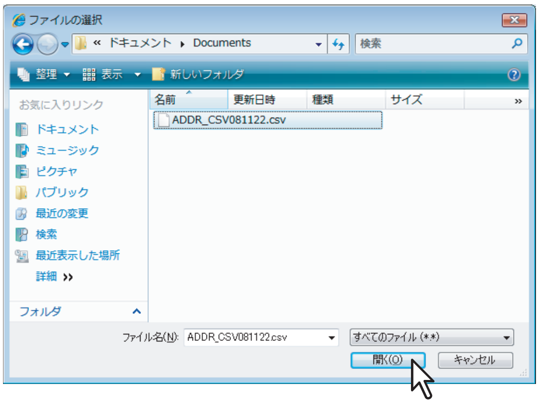
インポート方式ページが閉じます。

5 アドレス帳エリアの［参照］をクリックします。

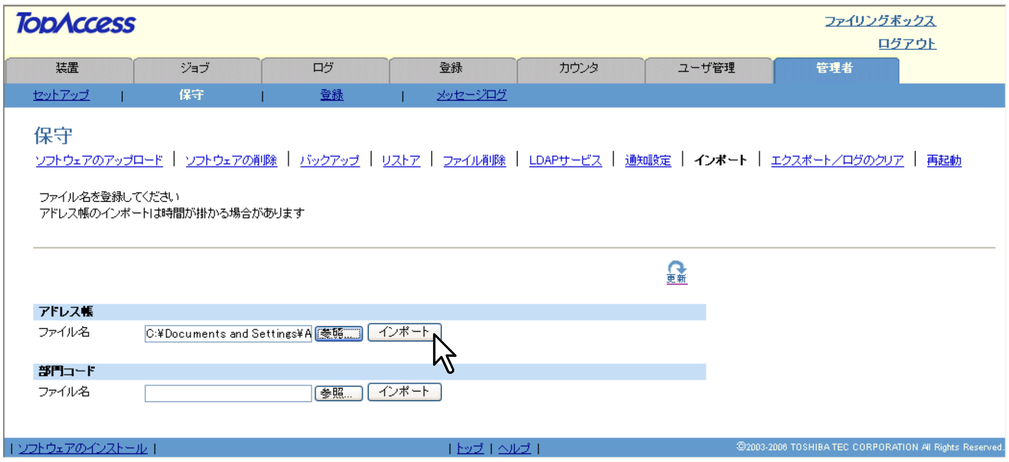


［ファイルの選択］ダイアログボックスが表示されます。

6 目的のアドレス帳のデータを含むCSVファイルを選択し、［開く］をクリックします。



7 ［インポート］をクリックします。



データが本機のアドレス帳にインポートされます。

□ アドレス帳データをエクスポートする

管理者は、アドレス情報をエクスポートすることができます。

補 足

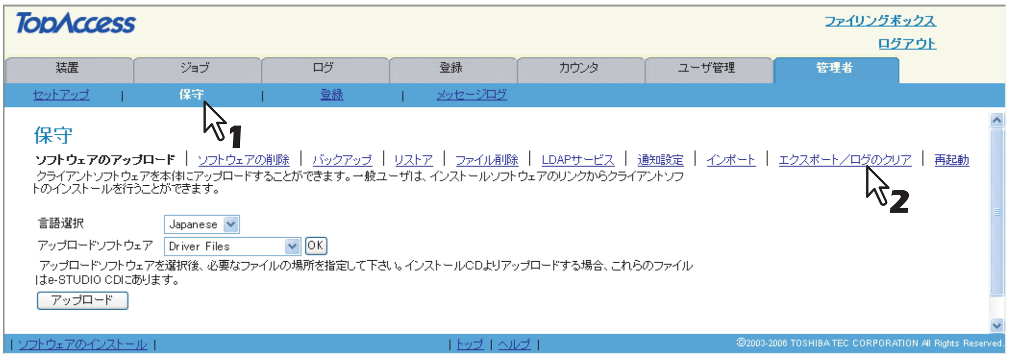
エクスポートしたアドレス帳のデータには、グループデータは含まれません。

CSVファイルとしてアドレス帳データをエクスポートする

1 TopAccessの管理者モードを起動します。

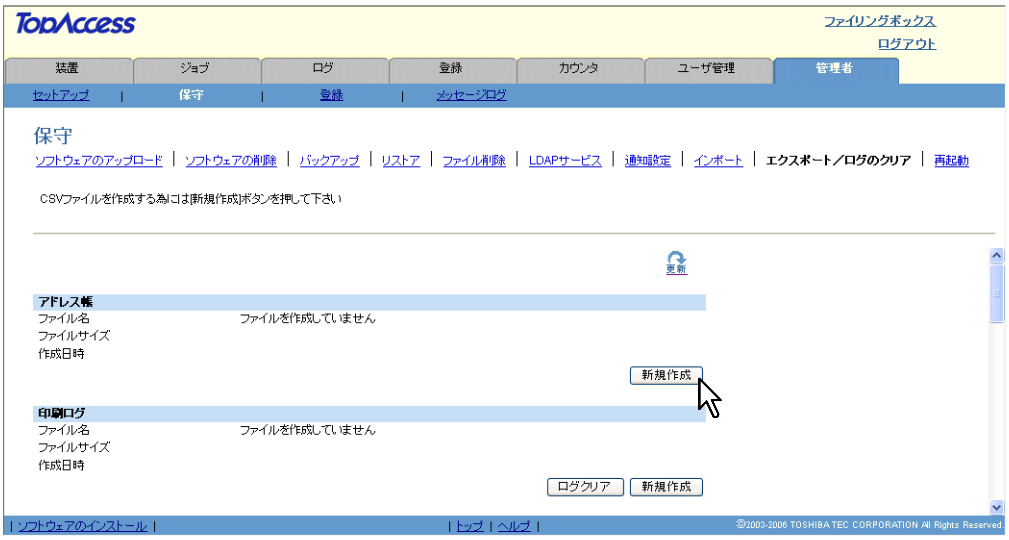
P.110 「TopAccess管理者モードの起動」

2 ［保守］メニューをクリックし、［エクスポート／ログのクリア］サブメニューをクリックします。



エクスポート／ログのクリアサブメニューページが表示されます。

3 アドレス帳エリアの［新規作成］をクリックします。



エクスポートファイル情報が表示されます。

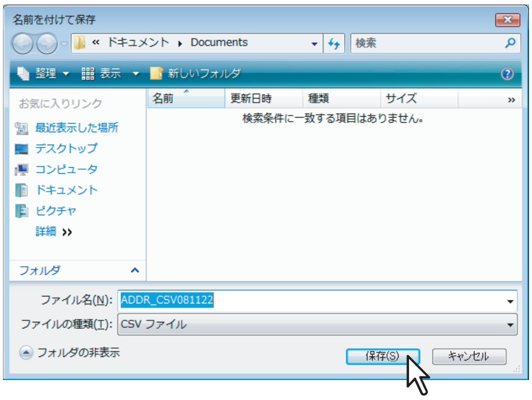
補 足

以前にアドレス帳データをエクスポートした場合は、エクスポートしたファイルのリンクと情報がアドレス帳エリアに表示されます。リンクをクリックすると、以前にエクスポートしたファイルを保存することができます。

4 ［ファイル名］リンクを右クリックし、［対象をファイルに保存］を選択します。

［名前を付けて保存］ダイアログボックスが表示されます。

5 ファイルの保存先を選択し、［ファイルの種類］ボックスで［すべてのファイル］を選択します。



6 ［保存］をクリックします。

アドレス帳データを含むCSVファイルが選択した場所に保存されます。

■ 部門コードをインポートまたはエクスポートする

CSV形式の部門コードデータをインポートまたはエクスポートすることができます。

□ 部門コードデータをインポートする

他のe-STUDIO6530C Series、e-STUDIO4520C Series、e-STUDIO3510c Series、e-STUDIO451c Series、e-STUDIO855 Series、e-STUDIO850 Series、e-STUDIO4511 Series、e-STUDIO455 Series、e-STUDIO452 Series、e-STUDIO282 SeriesからCSVファイルとしてエクスポートされた部門コード情報をインポートすることができます。
部門コード情報をインポートすると、既存の部門コード情報はインポートした部門コード情報に置き換えられます。
取り込むファイルは、TopAccessの部門コードデータのフォーマットに準じたカンマ区切りのCSV形式で作成されている必要があります。

CSVファイルから部門コードデータをインポートする

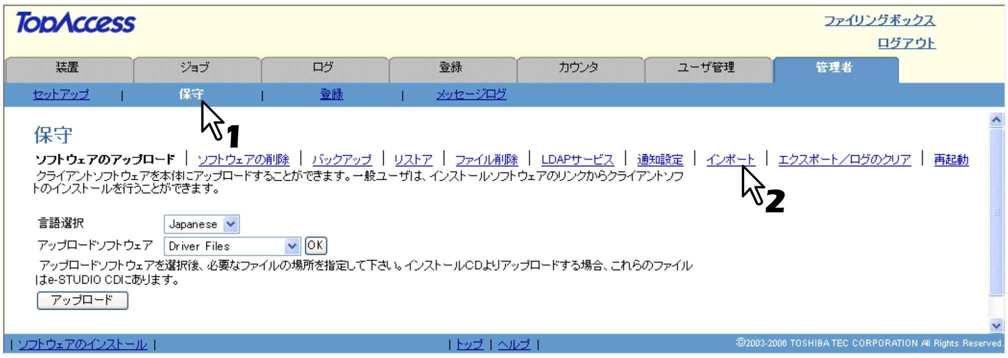
注 意

部門コードデータをインポートする前に、現在処理中のジョブや、プライベート印刷ジョブ、予約印刷ジョブ、お試し印刷ジョブがないことを確認してください。これらのジョブがある場合、部門コードデータをインポートすることができません。それでも部門コードデータのインポートに時間がかかる場合は、本機がスリープモードに入ってからデータのインポートを行ってください。

1 TopAccessの管理者モードを起動します。

P.110 「TopAccess管理者モードの起動」

2 ［保守］メニューをクリックし、［インポート］サブメニューをクリックします。

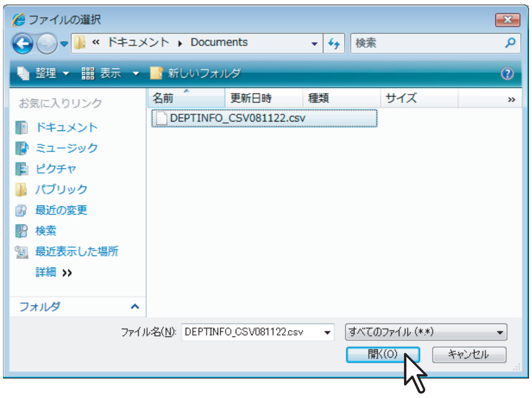


インポートサブメニューページが表示されます。

3 部門コードエリアの［参照］をクリックします。

［ファイルの選択］ダイアログボックスが表示されます。

4 目的の部門コードデータを含むCSVファイルを選択し、［開く］をクリックします。



5 ［インポート］をクリックします。

データが本機の部門コード情報にインポートされます。

□ 部門コードデータをエクスポートする

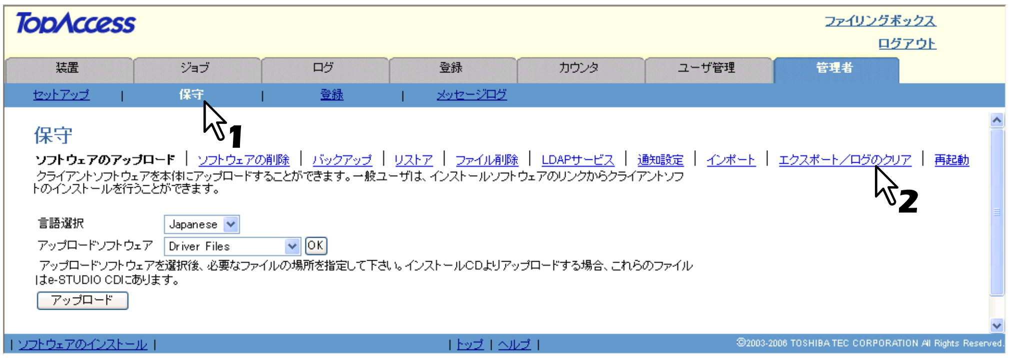
管理者は、本機に設定された部門コード情報をエクスポートすることができます。

CSVファイルとして部門コードデータをエクスポートする

1 TopAccessの管理者モードを起動します。

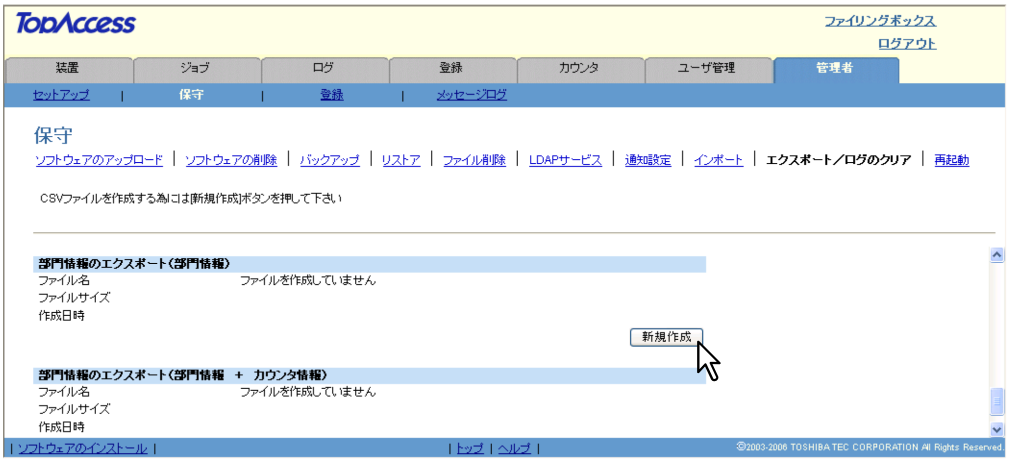
📖 P.110 「TopAccess管理者モードの起動」

2 ［保守］メニューをクリックし、［エクスポート／ログのクリア］サブメニューをクリックします。



エクスポート／ログのクリアサブメニューページが表示されます。

3 **ページを最下部までスクロールし、[部門情報のエクスポート（部門情報）] または [部門情報のエクスポート（部門情報＋カウンタ情報）] エリアの [新規作成] をクリックします。**



部門コードファイル情報が表示されます。

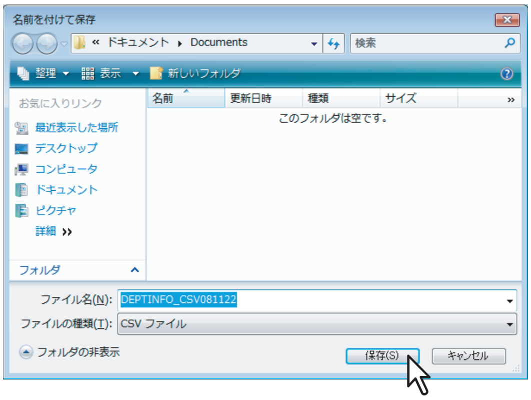
補 足

以前に部門データをエクスポートした場合は、エクスポートしたファイルのリンクと情報が部門情報のエクスポートエリアに表示されます。リンクをクリックすると、以前にエクスポートしたファイルを保存することができます。

4 **[ファイル名] リンクを右クリックし、[対象をファイルに保存] を選択します。**

[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。

5 ファイルの保存先を選択し、［ファイルの種類］ボックスで［すべてのファイル］を選択します。



6 ［保存］をクリックします。

部門コードデータを含むCSVファイルが選択した場所に保存されます。

7

TopAccess（管理者モード）

■ ログ／ジャーナル／カウンタ情報をエクスポートする

管理者は本機のログやジャーナル、カウンタ情報をCSVファイルとしてエクスポートすることができます。これらを削除する前に、ファイルとして保存することができます。

補 足

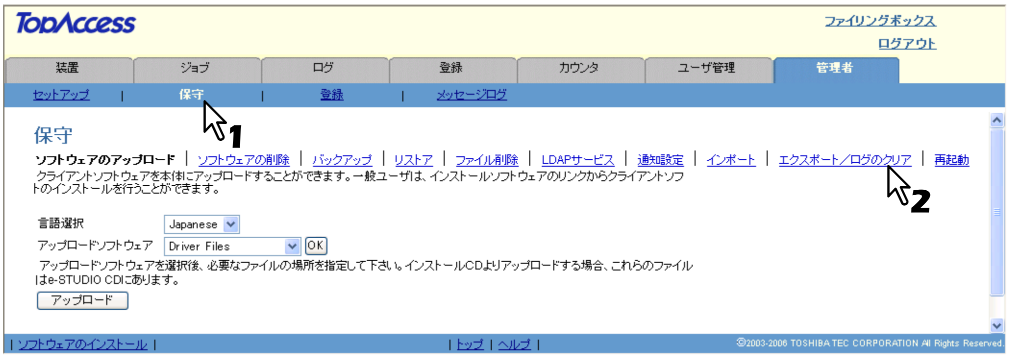
ログやジャーナルの印刷では、最新100件または120件までしか印刷されません。100件を超えてログとして必要な場合は、以下の手順でCSVファイルでエクスポートしてください。

CSVファイルとしてログ／ジャーナル／カウンタ情報をエクスポートする

1 TopAccessの管理者モードを起動します。

P.110 「TopAccess管理者モードの起動」

2 ［保守］メニューをクリックし、［エクスポート／ログのクリア］サブメニューをクリックします。



エクスポート／ログのクリアサブメニューページが表示されます。

3 エクスポートしたいログ、ジャーナル、またはカウンタ情報部の［新規作成］をクリックします。

エクスポートファイル情報が表示されます。

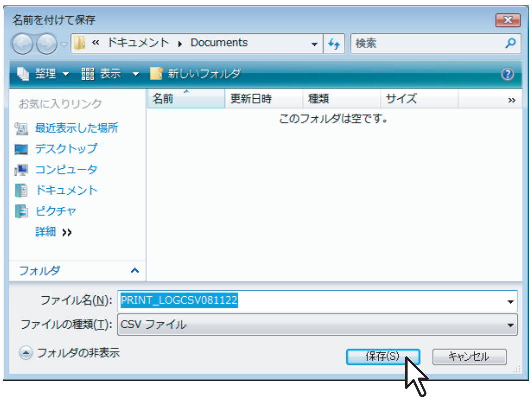
補 足

以前にデータをエクスポートした場合は、エクスポートしたファイルのリンクと情報が各エリアに表示されます。リンクをクリックすると、以前エクスポートしたファイルをそのまま残すことができます。

4 ［ファイル名］リンクを右クリックし、［対象をファイルに保存］を選択します。

［名前を付けて保存］ダイアログボックスが表示されます。

5 ファイルの保存先を選択し、［ファイルの種類］ボックスで［すべてのファイル］を選択します。



6 ［保存］をクリックします。

ログ、ジャーナル、またはカウンタデータを含むCSVファイルが選択した場所に保存されます。

7

TopAccess（管理者モード）

■ ログやジャーナルを削除する

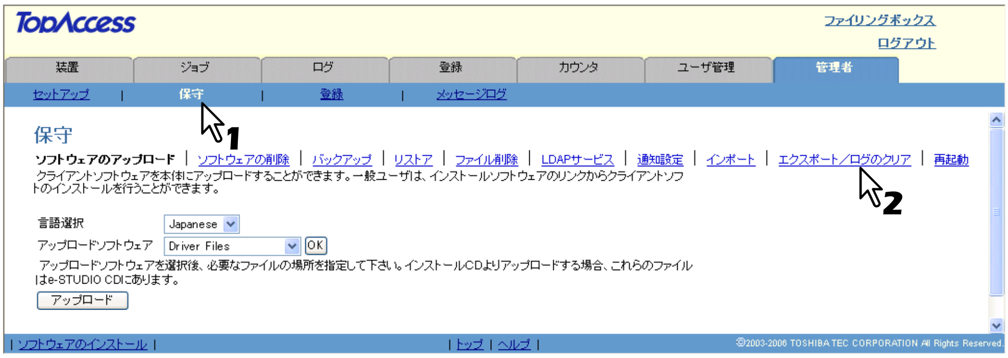
管理者は本機のログやジャーナルを削除することができます。この機能を定期的に行い、ハードディスクの空き容量を確保することをお勧めします。

ログやジャーナルを削除する

1 **TopAccessの管理者モードを起動します。**

P.110「TopAccess管理者モードの起動」

2 **［保守］メニューをクリックし、［エクスポート／ログのクリア］サブメニューをクリックします。**



エクスポート／ログのクリアサブメニューページが表示されます。

3 **削除したいログまたはジャーナルエリアの［ログクリア］をクリックします。**

選択したログまたはジャーナルが削除されます。

■ 再起動する

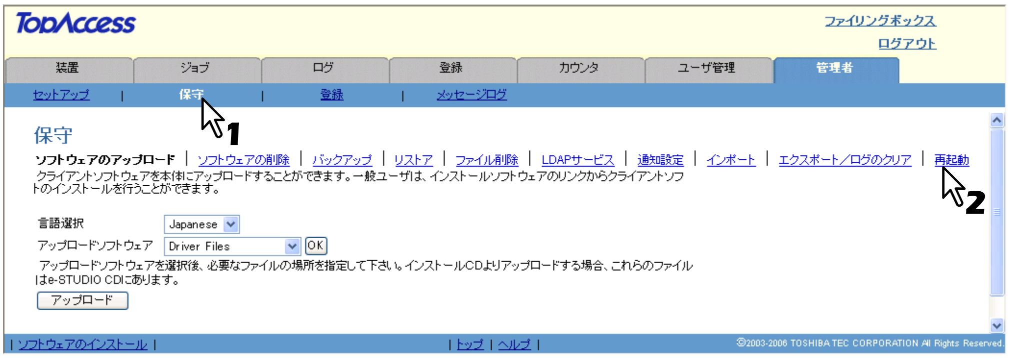
管理者は本機を再起動することができます。

本機を再起動する

1 **TopAccessの管理者モードを起動します。**

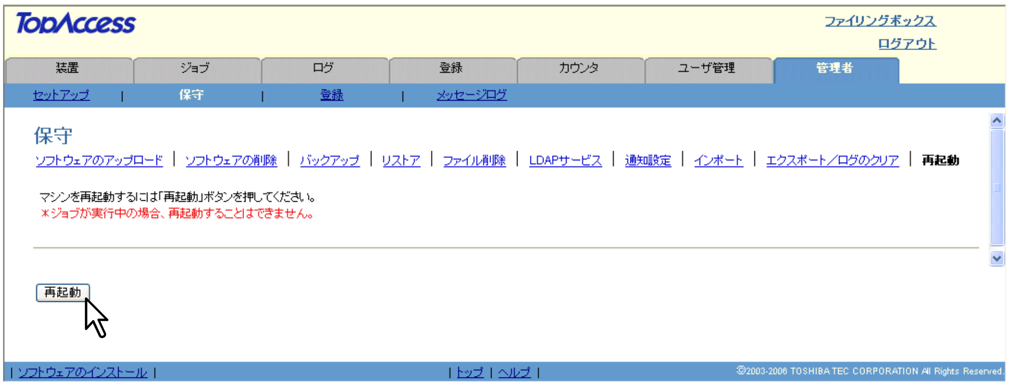
📖 P.110 「TopAccess管理者モードの起動」

2 **［保守］メニューをクリックし、［再起動］サブメニューをクリックします。**



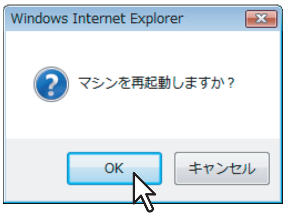
再起動サブメニューページが表示されます。

3 **［再起動］をクリックします。**



再起動の確認ダイアログボックスが表示されます。

4 **［OK］をクリックします。**



本機の再起動を開始します。

注 意

本機の再起動中は、ネットワークが無効になり、TopAccessでは「2〜3分ほど待ってからつなぎ直してください。」が表示されます。また、本機のタッチパネルに「NIC初期化中」が表示されます。「NIC初期化中」のメッセージが消えたら、TopAccessが再び使用できるようになります。

TopAccessから登録する

TopAccessの管理者モードの［登録］メニューでは、共有テンプレートの登録や受信ファクス、インターネットファクスの中継送信を登録することができます。

- 共有テンプレート
  管理者は共有テンプレートグループに登録する共有テンプレートを作成します。このテンプレートグループには、ネットワーク内のすべてのユーザがアクセスすることができます。
  P.246「共有テンプレートを登録する」
- ファクス受信転送、インターネットファクス受信転送
  管理者はすべての受信ファクスやインターネットファクスを指定の宛先に転送する、エージェントを登録することができます。これにより、管理者は本機が受信するすべてのファクスを確認することができます。
  P.254「ファクス受信転送およびインターネットファクス受信転送を登録する」

注 意

ファクス転送機能は、オプションのFAXユニットが本機に装着されているときにのみ有効です。

■ 共有テンプレートを登録する

管理者は共有テンプレートの作成や保守を行い、また共有テンプレートグループを管理します。ユーザは共有テンプレートを表示したり、使用することはできますが、テンプレートを変更することはできません。
共有グループには、最大60個の共有テンプレートを格納することができます。通常、共有テンプレートは汎用のテンプレートであり、すべてのユーザが使用することができます。
TopAccessの管理者モードから、共有テンプレートの管理に関する以下の操作を行うことができます。
P.246「共有テンプレートを作成または編集する」
P.251「共有テンプレートをリセットする」

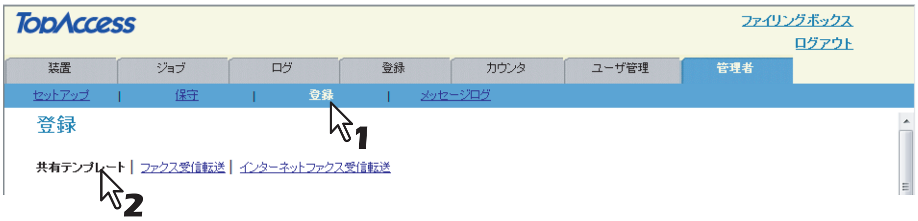
□ 共有テンプレートを作成または編集する

テンプレートのページを使ってテンプレートの作成や編集を行います。

共有テンプレートを作成または編集する

1 **TopAccessの管理者モードを起動します。**
P.110「TopAccess管理者モードの起動」

2 **［登録］メニューをクリックし、［共有テンプレート］サブメニューをクリックします。**



共有テンプレートサブメニューページが表示されます。

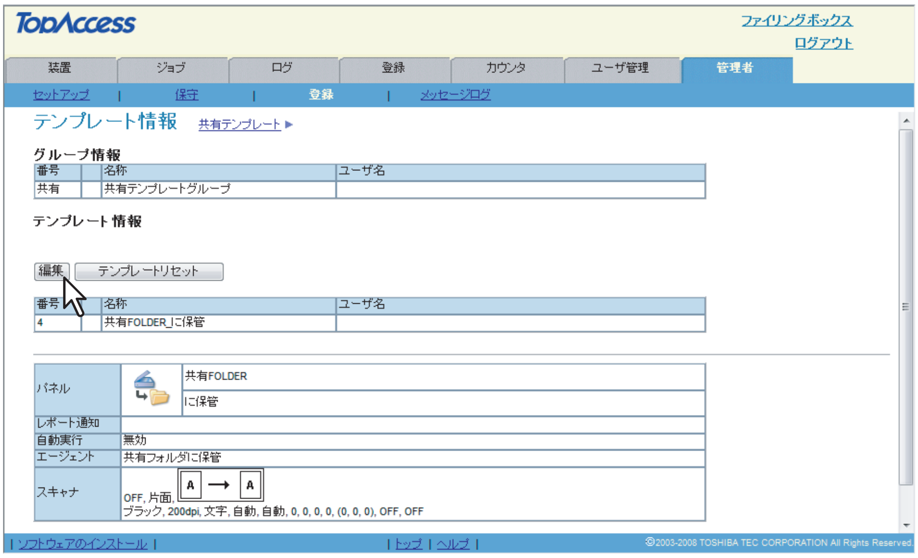
3 パネルビューを表示します。未定義の空白のアイコンをクリックし、新規テンプレートを作成します。既存のテンプレートを編集する場合は、定義済みの画像が表示されたアイコンをクリックします。

- テンプレートリストが一覧表示で表示されている場合は、［未定義］テンプレート名をクリックし、新規テンプレートを登録します。既存のテンプレートを編集する場合は、定義済みのテンプレート名をクリックします。
- 未定義のアイコンをクリックした場合は、エージェントの選択ページが表示されます。手順5に進みます。
- 定義済みのアイコンをクリックした場合は、テンプレート情報ページが表示されます。次の手順に進みます。

補 足

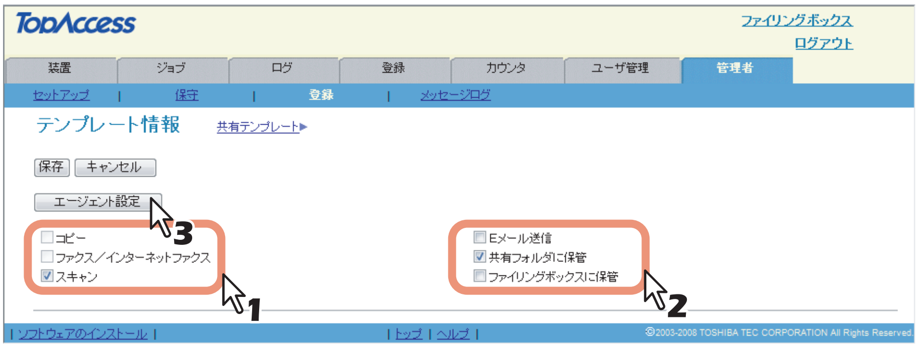
- ［パネル表示］または［一覧表示］のどちらかをクリックすると、テンプレートリストの表示を切り替えることができます。
- 定義または編集するプライベートテンプレートが事前に分かっている場合は、［ジャンプ］リンクをクリックします。

4 定義済みのテンプレートアイコンを選択した場合は、テンプレート情報が表示されます。［編集］をクリックします。



エージェントの選択ページが表示されます。

5 組み合わせるエージェントを選択し、［エージェント設定］をクリックします。



以下のテンプレートの中から1つ選択します：

コピー：コピーエージェントを作成します。このエージェントは、原稿のコピーを実行することができます。通常、原稿をほかの宛先に送信するのと同時にコピーを印刷したいときに、このエージェントを選択します。共有フォルダに保管エージェントまたはファイリングボックスに保管エージェントのどちらかと組み合わせてセットアップすることができます。

ファクス／インターネットファクス：ファクスやインターネットファクス送信用のテンプレートを作成します。共有フォルダに保管エージェントと組み合わせてセットアップすることができます。

スキャン：Eメール送信エージェント、共有フォルダに保管エージェントまたはファイリングボックスに保管エージェントを組み合わせて、スキャン用のテンプレートを作成します。選択した場合は［Eメール送信］、［共有フォルダに保管］または［ファイリングボックスに保管］いずれかを選択する必要があります。最大2つのエージェントを組み合わせることができます。

6 ページに表示されるボタンをクリックし、テンプレートのプロパティを設定または編集します。

[パネル設定]：テンプレートのアイコン設定を指定します。
📖 P.250 「パネル設定（共有テンプレート）」

パネル設定

画像	
名称1	共有FOLDER
名称2	に保管
ユーザ名	
自動実行	無効
レポート通知	

[宛先設定]：送信する宛先を指定します。ファクス／インターネットファクスエージェントまたはEメール送信エージェントを作成するときに設定します。
📖 P.250 「宛先設定（共有テンプレート）」

- ファクス／インターネットファクスエージェントの場合

宛先設定

宛先	

- Eメール送信エージェントの場合

To: 宛先設定

To: 宛先	

Cc: 宛先設定

Cc: 宛先	

補 足

宛先指定方法が「To／Bcc」のときは、[To：宛先] ／ [Bcc：宛先] を表示します。
宛先指定方法が「To／Bcc」から「To／Cc」に変更された場合、Bcc送信で登録したアドレスはCc送信として処理されます。「To／Cc」から「To／Bcc」に変更された場合、Cc送信で登録したアドレスはBcc送信として処理されます。
📖 P.191 「Eメール設定」

To: 宛先設定

To: 宛先	

Bcc: 宛先設定

Bcc: 宛先	

[インターネットファクス設定]：インターネットファクスをどのように送信するかを設定します。ファクス／インターネットファクスエージェントを作成するときに設定します。
📖 P.251 「インターネットファクス設定（共有テンプレート）」

インターネットファクス設定

件名	(マシン名称)からのスキャン[(テンプレート名称)](日付)(時間)
送信者アドレス	mfp-04998820@ifax.com
送信者名	MFP-04998820
本文	
ファイル形式	TIFF-S
分割ページサイズ	分割無

[ファクス設定]：ファクスとして文書をどのように送信するかを設定します。ファクス／インターネットファクスエージェントを作成するときに設定します。
📖 P.251 「ファクス設定（共有テンプレート）」

ファクス設定

解像度	普通
原稿モード	文字
濃度調整	自動
送信方法	
ECM	ON
回線指定	
海外指定	
SUB/SEP	
ポーリング	
日時指定送信	00 00:00
優先送信	OFF

[Eメール設定]：Eメールメッセージとして文書をどのように送信するかを設定します。Eメール送信エージェントを作成するときに設定します。
📖 P.251 「Eメール設定（共有テンプレート）」

Eメール設定

件名	
送信者アドレス	mfp-00c67861@ifax.com
送信者名	MFP-00C67861
本文	
ファイル形式	PDF(マルチ)
ファイル名	DocYYMMDD(YYMMDDは日付です)
分割送信サイズ	分割無

[共有フォルダに保管設定]：ローカルのハードディスク、USBメディアまたはネットワークフォルダに文書をどのように保存するかを設定します。共有フォルダに保管エージェントを作成するときに設定します。
P.251 「共有フォルダに保管設定（共有テンプレート）」

共有フォルダに保管設定

ファイル形式	TIFF(マルチ)
宛先	\\MFP-04998820\FILE_SHARE\
ファイル名	DocYYMMDD(YYMMDDは日付です)

[ボックス設定]：ファイリングボックスに文書をどのように保存するかを設定します。ファイリングボックスに保管エージェントを作成するときに設定します。
P.251 「ボックス設定（共有テンプレート）」

ボックス設定

宛先	000
フォルダ名	
文書名	DocYYMMDD(YYMMDDは日付です)

[スキャン設定]：文書をどのようにスキャンするかを設定します。共有フォルダに保管エージェント、Eメール送信エージェントおよびファイリングボックスに保管エージェントを作成するときに設定します。
P.251 「スキャン設定（共有テンプレート）」

スキャン設定

プレビュー	OFF
両面スキャン	片面
画像回転	A → A
カラーモード	ブラック
解像度	600dpi
Jpeg圧縮率	
原稿モード	文字
濃度調整	自動
原稿サイズ	自動
下地調整	0
コントラスト	0
シャープネス	0
彩度	0
RGB調整	レッド(R) 0
	グリーン(G) 0
	ブルー(B) 0
白紙ページ除去	OFF
原稿外消去	OFF

7 プロパティの設定を完了したら、[保存] をクリックします。

テンプレートのプロパティが登録されます。

パネル設定（共有テンプレート）

パネル設定のページでは、タッチパネル画面にテンプレートアイコンをどのように表示するかを設定します。また、テンプレートの通知機能を設定することができます。セットアップ手順は、プライベートテンプレートの登録と同じです。
P.54 「パネル設定（プライベートテンプレート）」

宛先設定（共有テンプレート）

宛先リストのページでは、ファクスやインターネットファクス、Eメール文書を送信する宛先を指定します。
Eメール送信エージェントの宛先を指定するときは、Eメールアドレスのみを使用することができます。
ファクス／インターネットファクスエージェントの宛先を指定するときは、ファクス番号およびEメールアドレスの両方を使用することができます。

注 意

宛先にファクス番号を指定するには、オプションのFAXユニットが本機に装着されている必要があります。

宛先を指定するには、相手先のEメールアドレスやファクス番号を手動で入力したり、アドレス帳から個人やグループを選択します。また、LDAPサービスを使って検索することもできます。
セットアップ手順は、プライベートテンプレートの登録と同じです。
P.55 「宛先設定（プライベートテンプレート）」

インターネットファクス設定（共有テンプレート）

インターネットファクス設定ページでは、送信されるインターネットファクスのプロパティを設定します。
セットアップ手順は、プライベートテンプレートの登録と同じです。
📖 P.61 「インターネットファクス設定（プライベートテンプレート）」

ファクス設定（共有テンプレート）

ファクス設定に関するエージェント設定のページでは、ファクス／インターネットファクスエージェントを使ってファクスをどのように送信するか設定します。
セットアップ手順は、プライベートテンプレートの登録と同じです。
📖 P.61 「ファクス設定（プライベートテンプレート）」

Eメール設定（共有テンプレート）

Eメール設定ページでは、送信されるEメール文書のプロパティを設定します。
セットアップ手順は、プライベートテンプレートの登録と同じです。
📖 P.63 「Eメール設定（プライベートテンプレート）」

共有フォルダに保管設定（共有テンプレート）

共有フォルダに保管設定ページでは、スキャンファイルの保存方法および保存先を設定します。
セットアップ手順は、プライベートテンプレートの登録と同じです。
📖 P.66 「共有フォルダに保管設定（プライベートテンプレート）」

ボックス設定（共有テンプレート）

ボックス設定のページでは、ファイリングボックスにスキャンイメージをどのように保存するかを設定します。
セットアップ手順は、プライベートテンプレートの登録と同じです。
📖 P.69 「ボックス設定（プライベートテンプレート）」

スキャン設定（共有テンプレート）

スキャン設定ページでは、スキャンエージェントを選択した場合に、どのように原稿をスキャンするかを設定します。
セットアップ手順は、プライベートテンプレートの登録と同じです。
📖 P.70 「スキャン設定（プライベートテンプレート）」

□ 共有テンプレートをリセットする

定義済みのテンプレートをリセットし、未定義の状態に戻します。
選択したテンプレートのみをリセットするか、または共有テンプレートグループに登録されたすべてのテンプレートをリセットすることができます。
📖 P.251 「定義済み共有テンプレートをリセットする」
📖 P.253 「すべての共有テンプレートをまとめてリセットする」

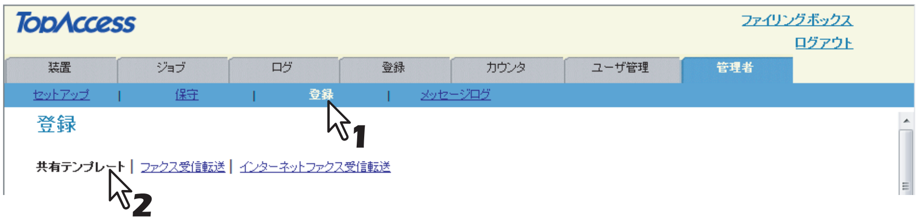
選択した共有テンプレートをリセットする

必要のない共有テンプレートのみをリセットしたい場合は、以下の操作でテンプレートをリセットします。

定義済み共有テンプレートをリセットする

1 TopAccessの管理者モードを起動します。
📖 P.110 「TopAccess管理者モードの起動」

2 ［登録］メニューをクリックし、［共有テンプレート］サブメニューをクリックします。

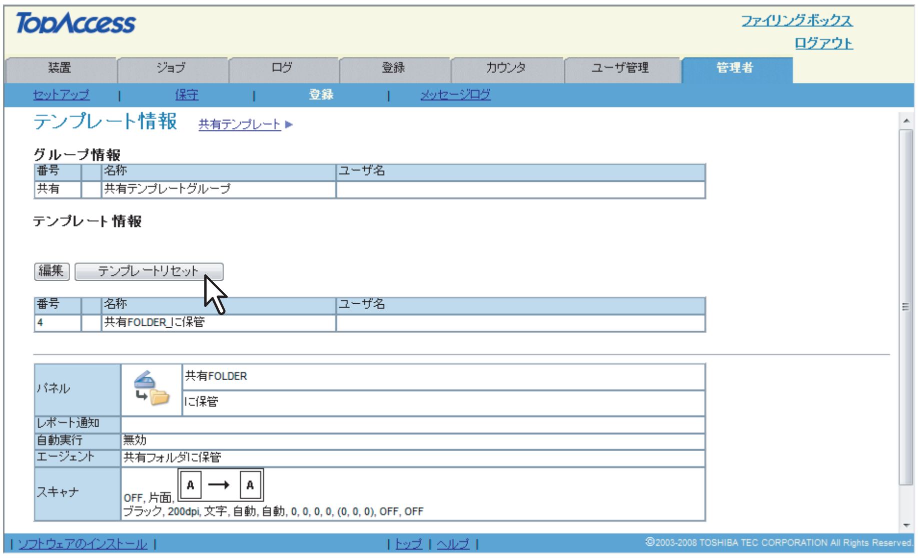


共有テンプレートサブメニューページが表示されます。

3 ［パネル表示］リンクをクリックしてパネルビューを表示し、リセットしたい定義済みのテンプレートアイコンをクリックします。

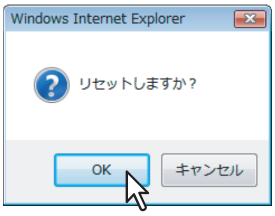
- ジャンプリンクを使用すると、ページをスクロールしリセットしたいテンプレート番号を表示することができます。
- テンプレート情報ページが表示されます。

4 ［テンプレートリセット］をクリックします。



リセットの確認メッセージが表示されます。

5 **［OK］をクリックします。**



テンプレート設定がリセットされ未定義のテンプレートに戻ります。

すべての共有テンプレートをリセットする

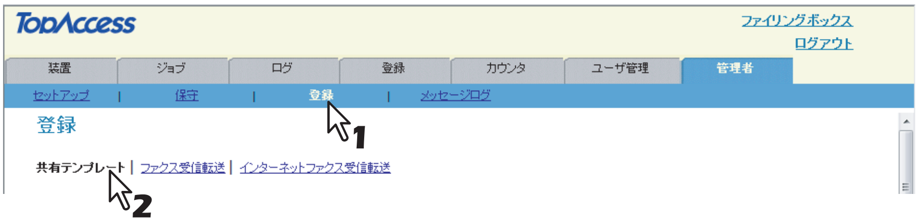
すべての共有テンプレートをリセットしたい場合は、以下の操作でテンプレートをリセットします。

すべての共有テンプレートをまとめてリセットする

1 **TopAccessの管理者モードを起動します。**

📖 P.110「TopAccess管理者モードの起動」

2 **［登録］メニューをクリックし、［共有テンプレート］サブメニューをクリックします。**

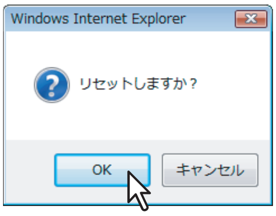


共有テンプレートサブメニューページが表示されます。

3 **［リセット］をクリックします。**

リセットの確認ダイアログボックスが表示されます。

4 **［OK］をクリックします。**



すべての共有テンプレートがリセットされます。

■ ファクス受信転送およびインターネットファクス受信転送を登録する

ファクス受信転送およびインターネットファクス受信転送では、受信ファクスやインターネットファクスを特定の宛先に転送することができます。この機能を使用すれば、本機が受信したすべてのファクスやインターネットファクスを確認することができます。

注 意

- Fコード通信機能を持つファクスどうしで通信する場合は、本機のFコード通信機能を使用して転送することができます。事前に箱（メールボックス）を開設しておく必要があります。また相手先のファクス番号を箱番号にして、箱（メールボックス）ごとに指定した保存先へ原稿を転送するTSI（送信者情報）転送機能を利用することもできます。
📖 P.90 「メールボックスを管理する」
- ファクス受信転送は、オプションのFAXユニットを装着している場合にのみ登録することができます。
- オプションのFAXユニットに回線増設ユニットが装着されている場合は、回線1と回線2どちらで受信しても、設定した転送先に受信ファクスを転送します。

受信ファクスやインターネットファクスを以下の宛先に転送することができます。
- ほかのインターネットファクス装置
- 本機の共有フォルダまたはネットワークフォルダ
- Eメールアドレス
- 本機内のファイリングボックス

ファクス転送やインターネットファクス転送を登録する

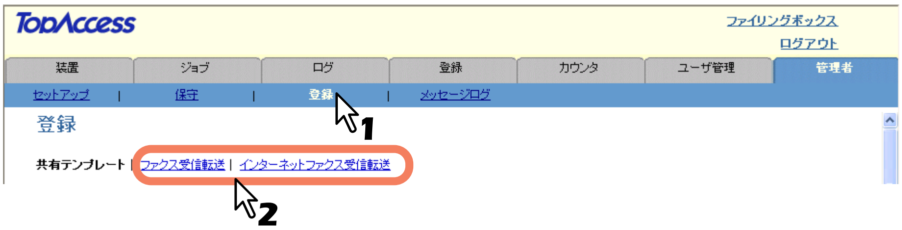
補 足

ファクス受信転送とインターネットファクス受信転送の登録手順は、ほぼ同じです。ここでは、それぞれの登録のしかたをまとめて説明しています。

1 TopAccessの管理者モードを起動します。

📖 P.110 「TopAccess管理者モードの起動」

2 ［登録］メニューをクリックします。ファクス受信転送を登録する場合は［ファクス受信転送］サブメニューを、インターネットファクス受信転送を登録する場合は［インターネットファクス受信転送］サブメニューをクリックします。

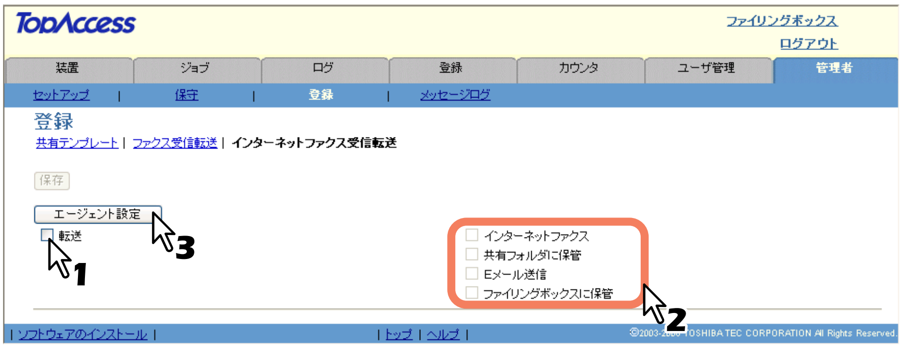


- ［ファクス受信転送］サブメニューをクリックした場合は、ファクス受信転送サブメニューページが表示されます。
- ［インターネットファクス受信転送］サブメニューをクリックした場合は、インターネットファクス受信転送サブメニューページが表示されます。

3 ［転送］チェックボックスをオンにし、エージェントを選択して［エージェント設定］をクリックします。

補 足

ファクス受信転送またはインターネットファクス受信転送を無効にしたい場合は、［転送］チェックボックスをオフにし、［保存］をクリックします。

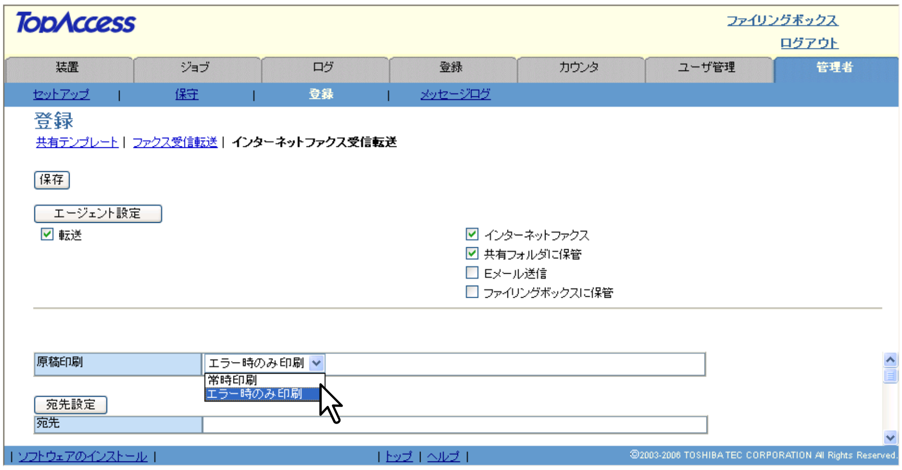


インターネットファクス：受信ファクスまたはインターネットファクスを別のインターネットファクス装置に転送します。このエージェントは、共有フォルダに保管エージェントまたはファイリングボックスに保管エージェントと組み合わせてセットアップすることができます。
共有フォルダに保管：受信ファクスまたはインターネットファクスを本機の共有フォルダまたはネットワークフォルダに転送します。このエージェントは、ほかのエージェントの1つと組み合わせてセットアップすることができます。
Eメール送信：受信ファクスをEメールアドレスに転送します。このエージェントは、共有フォルダに保管エージェントまたはファイリングボックスに保管エージェントと組み合わせてセットアップすることができます。
ファイリングボックスに保管：受信ファクスを本機内のファイリングボックスに転送します。このエージェントは、ほかのエージェントの1つと組み合わせてセットアップすることができます。

注 意

共有フォルダに保管、Eメール送信、ファイリングボックスに保管で保管された受信文書を印刷した場合、画像処理が通常のファクスと異なるため、画質が異なります。

4 転送する受信原稿を印刷するかどうかを［原稿印刷］ボックスで選択します。



常時印刷：転送する受信原稿を常に印刷します。
エラー時のみ印刷：すべての転送箇所がエラーになったとき受信原稿を印刷します。（たとえば、共有フォルダ保管とEメール送信設定でEメール送信エラーだけが発生した場合は印刷しません。）

5 ページに表示されるボタンをクリックし、ファクス受信転送またはインターネットファクス受信転送のプロパティを設定または編集します。

[宛先設定]：送信する宛先を指定します。インターネットファクスエージェントまたはEメール送信エージェントを作成するときに設定します。

📖 P.257 「宛先設定（ファクス／インターネットファクス受信転送）」

- インターネットファクスエージェントの場合

宛先設定

宛先	

- Eメール送信エージェントの場合

To: 宛先設定

To: 宛先	

Cc: 宛先設定

Cc: 宛先	

補 足

宛先指定方法が「To／Bcc」のときは、［To：宛先］／［Bcc：宛先］を表示します。

宛先指定方法が「To／Bcc」から「To／Cc」に変更された場合、Bcc送信で登録したアドレスはCc送信として処理されます。「To／Cc」から「To／Bcc」に変更された場合、Cc送信で登録したアドレスはBcc送信として処理されます。

📖 P.191 「Eメール設定」

To: 宛先設定

To: 宛先	

Bcc: 宛先設定

Bcc: 宛先	

[インターネットファクス設定]：インターネットファクスをどのように送信するかを設定します。インターネットファクスエージェントを作成するときに設定します。

📖 P.261 「インターネットファクス設定（ファクス／インターネットファクス受信転送）」

インターネットファクス設定

件名	(マシン名称)からのスキャン[(テンプレート名称)](日付)(時間)
送信者アドレス	mfp-04998820@ifax.com
送信者名	MFP-04998820
本文	
ファイル形式	TIFF-S
分割ページサイズ	分割無

[Eメール設定]：Eメールメッセージとして文書をどのように送信するかを設定します。Eメール送信エージェントを作成するときに設定します。

📖 P.261 「Eメール設定（ファクス／インターネットファクス受信転送）」

Eメール設定

件名	(マシン名称)からのスキャン[(テンプレート名称)](日付)(時間)
送信者アドレス	mfp-00c67861@ifax.com
送信者名	MFP-00C67861
本文	
ファイル形式	PDF(マルチ)
暗号化	無効
ファイル名	(送信元)-NNN (NNNはシーケンシャル番号)
分割送信サイズ	分割無

[共有フォルダに保管設定]：本機の共有フォルダまたはネットワークフォルダに文書をどのように保存するかを設定します。共有フォルダに保管エージェントを作成するときに設定します。

📖 P.264 「共有フォルダに保管設定（ファクス／インターネットファクス受信転送）」

共有フォルダに保管設定

ファイル形式	TIFF(マルチ)
暗号化	無効
宛先	\\MFP-05212774\FILE_SHARE\
ファイル名	(送信元)-NNN (NNNはシーケンシャル番号)

[ボックス設定]：ファイリングボックスに文書をどのように保存するかを設定します。ファイリングボックスに保管エージェントを作成するときに設定します。

📖 P.267 「ボックス設定（ファクス／インターネットファクス受信転送）」

ボックス設定

保存先	000
フォルダ名	
文書名	(送信元)-NNN (NNNはシーケンシャル番号)

6 **メールボックスのプロパティ設定を完了したら、［保存］をクリックします。**

メールボックスのプロパティが登録されます。

□ 受信転送プロパティを設定する

ここでは、ファクス受信転送およびインターネットファクス受信転送の各プロパティで設定する項目について説明します。

宛先設定（ファクス／インターネットファクス受信転送）

連絡先リストのページでは、受信したファクスやインターネットファクスを転送する宛先を指定します。宛先には、Eメールアドレスのみ設定することができます。
宛先を指定するには、相手先のEメールアドレスを手動で入力したり、アドレス帳から個人やグループを選択します。また、LDAPサービスを使って検索することもできます。

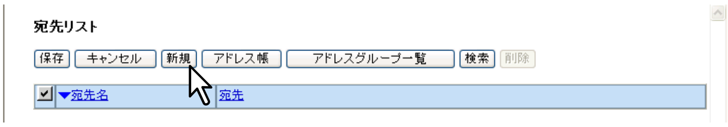
📖 P.257 「宛先を手動で入力する」
📖 P.258 「宛先をアドレス帳から選択する」
📖 P.259 「グループをアドレス帳から選択する」
📖 P.259 「LDAPサーバーを使って宛先を検索する」
📖 P.261 「宛先リストから宛先を削除する」

宛先を手動で入力する

宛先を手動で入力し、宛先リストに追加します。

1 **［宛先設定］をクリックし、宛先リストページを開きます。**

2 **［新規］をクリックします。**



宛先情報ページが表示されます。

3 **［宛先］ボックスに宛先のEメールアドレスを入力します。**

4 **［OK］をクリックします。**

入力した宛先が宛先リストページに追加されます。

5 **複数の宛先を指定する場合は、手順2～4を繰り返します。**

補 足

宛先設定を保存する前に、宛先リストに追加した宛先を削除することができます。

📖 P.261 「宛先リストから宛先を削除する」

6 **［保存］をクリックします。**

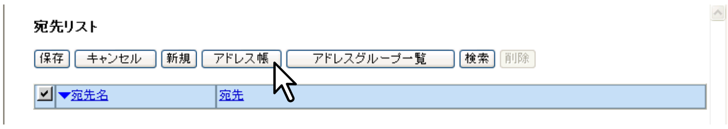
宛先設定が保存されます。

宛先をアドレス帳から選択する

本機のアドレス帳から宛先を選択します。

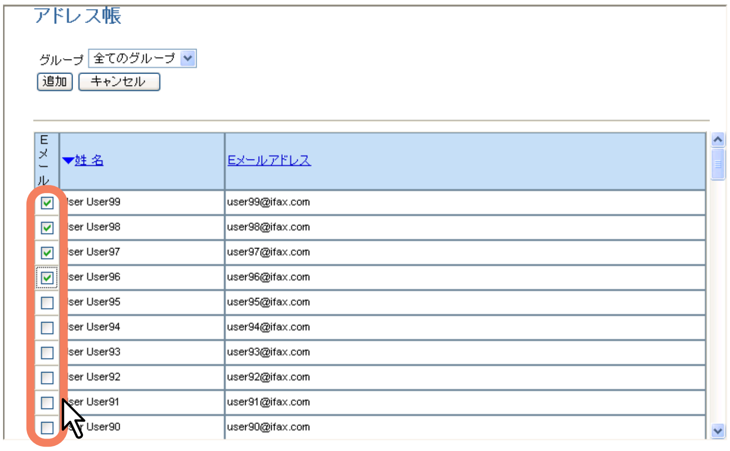
1 ［宛先設定］をクリックし、宛先リストページを開きます。

2 ［アドレス帳］をクリックします。



アドレス帳のページが表示されます。

3 宛先に追加するチェックボックスをオンにします。



補 足

特定のグループの宛先のみを表示する場合は、［グループ］ボックスから目的のグループを選択します。

4 ［追加］をクリックします。

選択した宛先が宛先リストページに追加されます。

補 足

宛先設定を保存する前に、宛先リストに追加した宛先を削除することができます。

📖 P.261 「宛先リストから宛先を削除する」

5 ［保存］をクリックします。

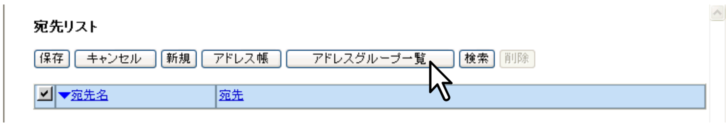
宛先設定が保存されます。

グループをアドレス帳から選択する

本機のアドレス帳からグループを選択します。

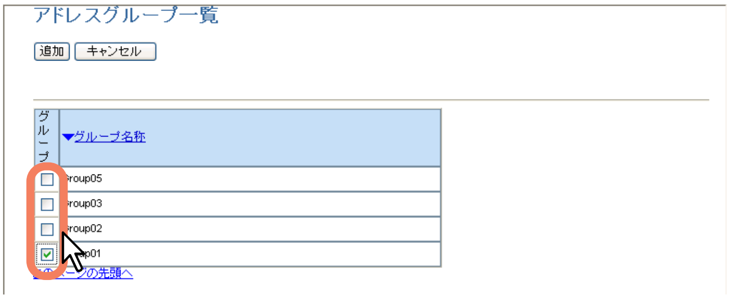
1 ［宛先設定］をクリックし、宛先リストページを開きます。

2 ［アドレスグループ一覧］をクリックします。



アドレスグループ一覧のページが開きます。

3 目的の宛先が所属するグループのチェックボックスをオンにします。



4 ［追加］をクリックします。

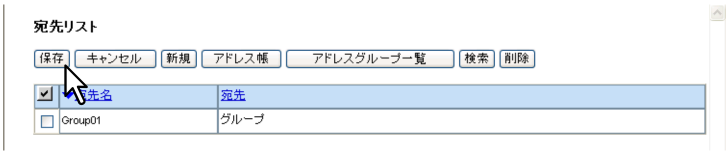
選択したグループのすべての宛先が、宛先リストページに追加されます。

補 足

宛先設定を保存する前に、宛先リストに追加した宛先を削除することができます。

📖 P.261 「宛先リストから宛先を削除する」

5 ［保存］をクリックします。



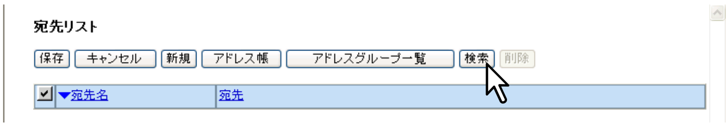
宛先設定が保存されます。

LDAPサーバーを使って宛先を検索する

登録したLDAPサーバーを使って宛先を検索します。本機のアドレス帳から宛先を検索することもできます。

1 ［宛先設定］をクリックし、宛先リストページを開きます。

2 ［検索］をクリックします。



連絡先検索のページが表示されます。

3 ［LDAPサーバー名］ボックスで検索するディレクトリサービス名を選択し、検索したい項目欄に検索文字を入力します。

注 意

LDAPサーバーを使って宛先を検索するには、［Eメールアドレス］または［電話番号］欄に検索文字を入力してください。その他の欄に検索文字を入力しても、正しく検索できません。

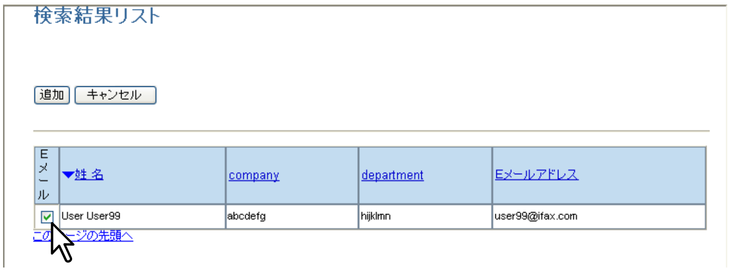
補 足

- ［LDAP サーバー名］ボックスから本機モデル名を選択すると、本機のアドレス帳を検索することができます。
- 各項目に入力した文字列を含む宛先が検索されます。
- ボックスを空欄にすると、ワイルドカード検索を行うことができます。ただし、最低1つのボックスには情報を入力する必要があります。

4 ［検索］をクリックします。

LDAPサーバーを使った宛先の検索を開始します。検索を終了すると、検索結果が検索結果リストページに表示されます。

5 宛先に追加する連絡先の［Eメール］チェックボックスをオンにします。



注 意

［company（会社名）］［department（部門名）］の値は管理者の設定に依存します。

6 ［追加］をクリックします。

選択した宛先が宛先リストページに追加されます。

補 足

宛先設定を保存する前に、宛先リストに追加した宛先を削除することができます。

📖 P.261 「宛先リストから宛先を削除する」

7 ［保存］をクリックします。

宛先設定が保存されます。

宛先リストから宛先を削除する

1 宛先リストから削除したい宛先のチェックボックスをオンにし、［削除］をクリックします。

選択された宛先が宛先リストから削除されます。

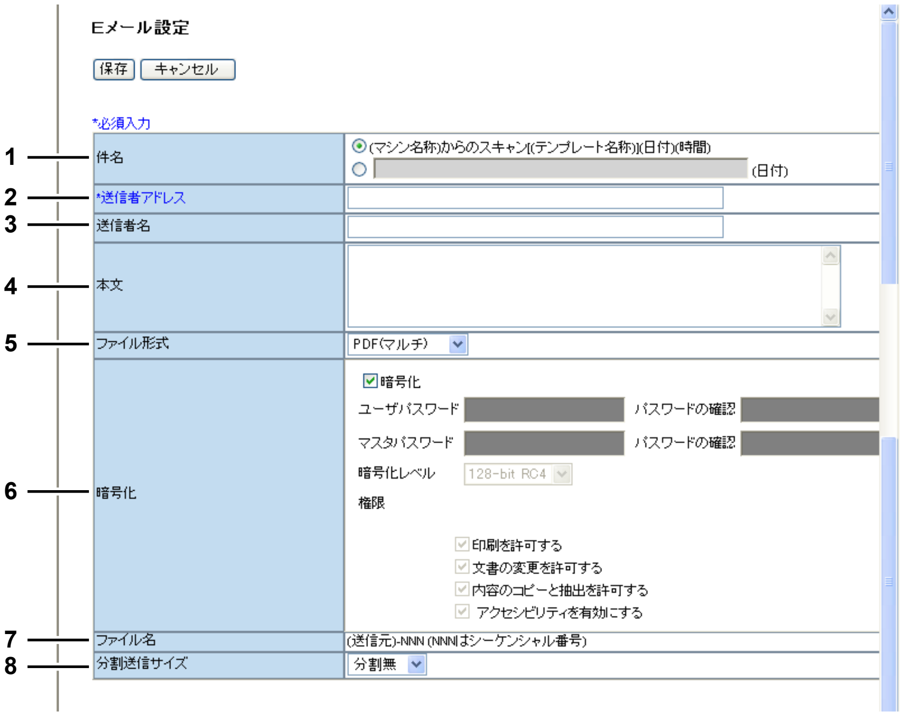
2 ［保存］をクリックします。

インターネットファクス設定（ファクス／インターネットファクス受信転送）

インターネットファクス設定ページでは、送信されるインターネットファクスのプロパティを設定します。
セットアップ手順は、プライベートテンプレートの登録と同じです。
📖 P.61 「インターネットファクス設定（プライベートテンプレート）」

Eメール設定（ファクス／インターネットファクス受信転送）

Eメール設定ページでは、転送されるEメール文書のプロパティを設定します。



1) 件名
Eメール文書に適用する件名を設定します。デフォルト設定の［(マシン名称) からのスキャン［(テンプレート名称)］(日付)(時間)］を選択するか、目的の件名をボックスに入力します。

2) 送信者アドレス
送信者のEメールアドレスとして適用するEメールアドレスを入力します。テンプレートを使って本機が送信した文書に対して相手先が返信する場合は、ここで設定するEメールアドレスに返信されます。

3) 送信者名
Eメール文書に適用する送信者の名前を入力します。

4) 本文
Eメール文書に初期設定として適用する本文を入力します。スペースを含み1000文字まで入力することができます。

5) ファイル形式
ファイル形式を選択します。
- **TIFF（マルチ）**：スキャンイメージを、複数ページのTIFFファイルとして保存します。
- **TIFF（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのTIFFファイルとして保存します。
- **PDF（マルチ）**：スキャンイメージを、複数ページのPDFファイルとして保存します。
- **PDF（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのPDFファイルとして保存します。
- **XPS（マルチ）**：スキャンイメージを、複数ページのXPSファイルとして保存します。
- **XPS（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのXPSファイルとして保存します。

補 足

- 強制暗号化機能が有効に設定されている場合、選択できるファイル形式はPDF（マルチ）とPDF（シングル）のみとなります。強制暗号化機能については、**設定管理ガイド**を参照してください。
- XPSファイルで保存したデータは、お使いのコンピュータがWindows Vista、またはWindows XP SP2/Server 2003 SP1以上に.NET Framework 3.0がインストールされた環境で使用することができます。

6) 暗号化
ファイル形式でPDF（マルチ）またはPDF（シングル）を選択したとき、PDFを暗号化します。

暗号化
PDFを暗号化する場合にオンにします。

ユーザパスワード
暗号化PDFを開くためのパスワードを入力します。

マスタパスワード
PDFの暗号化設定を変更するためのパスワードを入力します。

補 足

- 強制暗号化機能が有効に設定されている場合、［暗号化］チェックボックスをオフにすることはできません。強制暗号化機能については、**設定管理ガイド**を参照してください。
- 工場出荷時の状態では、ユーザパスワードとマスタパスワードは設定されていません。
- 半角の英数字で、1文字以上32文字まで入力することができます。
- ユーザパスワードとマスタパスワードは、同じパスワードを設定することはできません。

注 意

各パスワードはユーザが変更することを許可されている場合のみ入力することができます。マスタパスワードの変更が許可されていない場合は、暗号化レベルおよび権限の設定を変更することはできません。暗号化の詳細設定については**設定管理ガイド**を参照してください。ユーザパスワードおよびマスタパスワードの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

暗号化レベル

暗号化レベルを選択します。

- **40-bit RC4**：Acrobat 3.0, PDF V1.1に互換性のある暗号化レベルを設定します。
- **128-bit RC4**：Acrobat 5.0, PDF V1.4に互換性のある暗号化レベルを設定します。
- **128-bit AES**：Acrobat 7.0, PDF V1.6に互換性のある暗号化レベルを設定します。

権限

暗号化PDFの権限を設定する項目をオンにします。

- **印刷を許可する**：作成される暗号化PDFファイルの印刷を許可します。
- **文書の変更を許可**：作成される暗号化PDFファイルの文書の変更を許可します。
- **内容のコピーと抽出を許可する**：作成される暗号化PDFファイルのコピーと抽出を許可します。
- **アクセシビリティを有効にする**：アクセシビリティを有効にします。

7) ファイル名

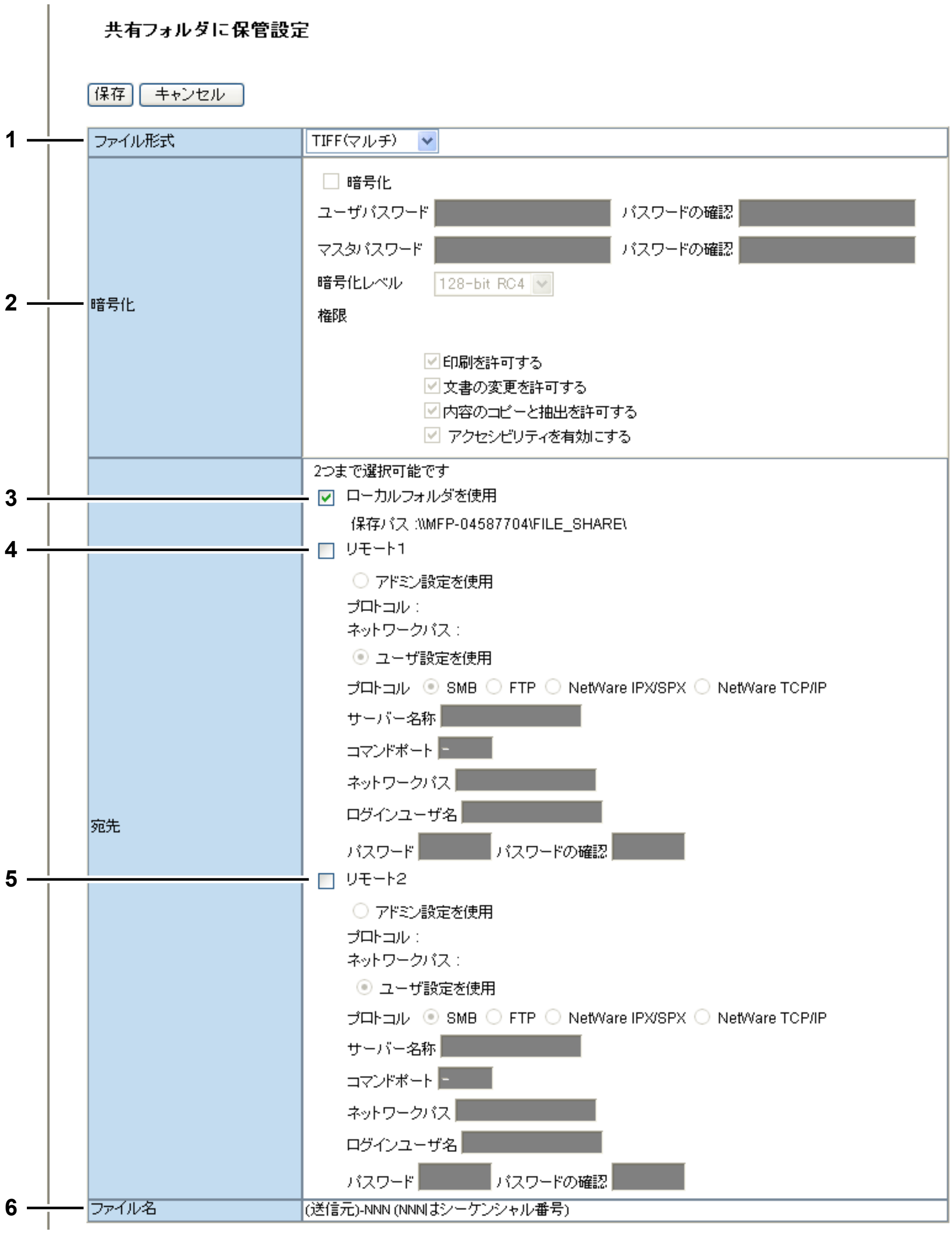
「（送信元）-NNN」がファイル名になります。ファイル名を変更することはできません。「（送信元）」は、送信元番号またはアドレス帳に登録されている場合は設定されている姓名になります。

8) 分割送信サイズ

メッセージの分割サイズを選択します。

共有フォルダに保管設定（ファクス／インターネットファクス受信転送）

共有フォルダに保管設定のページでは、受信した文書の保存方法および保存先を設定します。



1) ファイル形式

スキャンファイルの保存形式を選択します。

- <u>**TIFF（マルチ）**</u>：スキャンイメージを複数ページのTIFFファイルとして保存します。
- **TIFF（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのTIFFファイルとして保存します。
- **PDF（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページのPDFファイルとして保存します。
- **PDF（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのPDFファイルとして保存します。
- **XPS（マルチ）**：スキャンイメージを、複数ページのXPSファイルとして保存します。
- **XPS（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのXPSファイルとして保存します。

補 足

- 強制暗号化機能が有効に設定されている場合、選択できるファイル形式はPDF（マルチ）とPDF（シングル）のみとなります。強制暗号化機能については、**設定管理ガイド**を参照してください。
- XPSファイルで保存したデータは、お使いのコンピュータがWindows Vista、またはWindows XP SP2/Server 2003 SP1以上に.NET Framework 3.0がインストールされた環境で使用することができます。

2) 暗号化
ファイル形式でPDF（マルチ）またはPDF（シングル）を選択したとき、PDFを暗号化します。

暗号化
PDFを暗号化する場合にオンにします。

ユーザパスワード
暗号化PDFを開くためのパスワードを入力します。

マスタパスワード
PDFの暗号化設定を変更するためのパスワードを入力します。

補 足

- 暗号化PDF強制モードが有効に設定されている場合、［暗号化］チェックボックスをオフにすることはできません。強制暗号化機能については、**設定管理ガイド**を参照してください。
- 工場出荷時の状態では、ユーザパスワードとマスタパスワードは設定されていません。
- 半角の英数字で、1文字以上32文字まで入力することができます。
- ユーザパスワードとマスタパスワードは、同じパスワードを設定することはできません。

注 意

各パスワードはユーザが変更することを許可されている場合のみ入力することができます。マスタパスワードの変更が許可されていない場合は、暗号化レベルおよび権限の設定を変更することはできません。暗号化の詳細設定については**設定管理ガイド**を参照してください。ユーザパスワードおよびマスタパスワードの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

暗号化レベル
暗号化レベルを選択します。
- **40-bit RC4**：Acrobat 3.0, PDF V1.1に互換性のある暗号化レベルを設定します。
- **128-bit RC4**：Acrobat 5.0, PDF V1.4に互換性のある暗号化レベルを設定します。
- **128-bit AES**：Acrobat 7.0, PDF V1.6に互換性のある暗号化レベルを設定します。

権限
暗号化PDFの権限を設定する項目をオンにします。
- **印刷を許可する**：作成される暗号化PDFファイルの印刷を許可します。
- **文書の変更を許可**：作成される暗号化PDFファイルの文書の変更を許可します。
- **内容のコピーと抽出を許可する**：作成される暗号化PDFファイルのコピーと抽出を許可します。
- **アクセシビリティを有効にする**：アクセシビリティを有効にします。

3) 宛先／ローカルフォルダを使用
受信原稿を本機の共有フォルダ（「FILE_SHARE」フォルダ）に保存します。

4) 宛先／リモート1
受信原稿をネットワークフォルダに保存する場合にオンにします。［セットアップ］メニューの［共有フォルダに保管］サブメニューで、リモート1をどのようにセットアップしたかによって設定方法は異なります。
リモート1が管理者により指定されたネットワークフォルダを使用するように設定されている場合は、［アドミン設定を使用］のみ選択可能です。その場合、保存に使用するプロトコルおよび保存先のネットワークパスが表示されます。

ネットワークフォルダを自由に指定することが許可されている場合は、［ユーザ設定を使用］を選択し、以下の項目を入力してファイルを保存する宛先を設定します。

プロトコル
受信原稿をネットワークフォルダに転送するときに使用するプロトコルを選択します。
- **SMB**：SMBプロトコルを使用して受信原稿をネットワークフォルダに転送します。
- **FTP**：受信原稿をFTPサーバーに転送します。
- **NetWare IPX/SPX**：スキャンファイルをIPX/SPXプロトコルを介してNetWareサーバーに転送します。
- **NetWare TCP/IP**：スキャンファイルをTCP/IPプロトコルを介してNetWareサーバーに転送します。

サーバー名称
プロトコルでFTPを選択した場合は、受信原稿を転送するFTPサーバー名またはIPアドレスを入力します。たとえば、受信原稿をFTPサーバーの「ftp://192.168.1.1/user/scanned」というFTPフォルダに転送する場合は、このボックスに「192.168.1.1」と入力します。
プロトコルでNetWare IPX/SPXを選択した場合は、スキャンファイルを転送するNetWareサーバー名または、Tree/Context（NDSが使用可能な環境の場合）を入力します。
プロトコルでNetWare TCP/IPを選択した場合は、スキャンファイルを転送するNetWareサーバーのIPアドレスを入力します。

コマンドポート
プロトコルでFTPを選択した場合に、コマンド実行に使用するポート番号を入力します。通常は、初期状態で入力された「-」のままにします。「-」にした場合は、ネットワークの設定ページの［FTPクライアント］で設定したポート番号（初期値）が適用されます。初期設定のポート番号とは別のポート番号を指定したい場合のみこの値を変更します。

ネットワークパス
プロトコルにSMBを選択した場合は、ネットワークフォルダへのネットワークパスを入力します。たとえば、SMBサーバー名が「Client01」というコンピュータの「users￥scanned」というフォルダを指定する場合は、「￥￥Client01￥users￥scanned」と入力します。
プロトコルにFTPを選択した場合は、指定したFTPサーバーのディレクトリを入力します。たとえば、FTPサーバーの「ftp://192.168.1.1/user/scanned」というフォルダを指定する場合は、「user/scanned」と入力します。
プロトコルにNetWare IPX/SPXまたはNetWare TCP/IPを選択した場合は、指定したNetWareサーバーのディレクトリを入力します。たとえば、NetWareサーバーの「sys￥scan」というフォルダを指定する場合は、「￥sys￥scan」と入力します。

ログインユーザ名
必要に応じて、SMBサーバー、FTPサーバー、またはNetWareサーバーにアクセスするためのログインユーザ名を入力します。プロトコルにFTPを選択した場合、このボックスを空欄にすると、匿名でのログインと判断されます。

パスワード
必要に応じて、SMBサーバー、FTPサーバー、またはNetWareサーバーにアクセスするためのパスワードを入力します。

パスワードの確認
確認のためにパスワードを再入力します。

5) 宛先／リモート2
受信原稿をネットワークフォルダに保存する場合にオンにします。［セットアップ］メニューの［共有フォルダに保管］サブメニューで、リモート2をどのようにセットアップしたかによって設定方法は異なります。リモート2が管理者により指定されたネットワークフォルダを使用するように設定されている場合は、［アドミン設定を使用］のみ選択可能です。その場合、保存に使用するプロトコルおよび保存先のネットワークパスが表示されます。ネットワークフォルダを自由に指定することが許可されている場合は、［ユーザ設定を使用］を選択し、ファイルを保存する宛先を設定します。設定する項目はリモート1と同様です。

6) ファイル名
「（送信元）-NNN」がファイル名になります。ファイル名を変更することはできません。

補 足

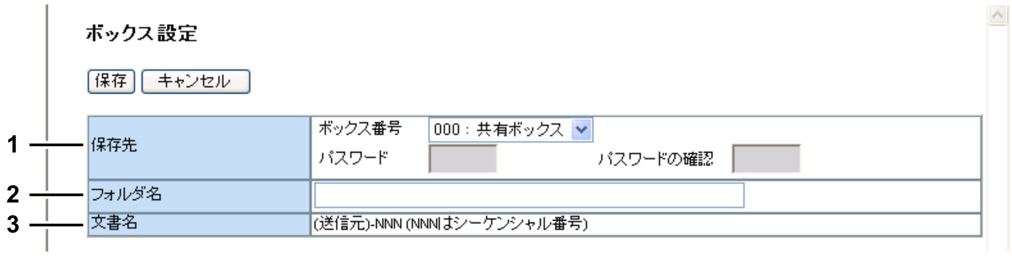
ファクス受信転送またはインターネットファクス受信転送を設定する場合のファイル名の表示は、設定条件によって以下のように異なります。
- アドレス帳に登録された番号と、相手番号が同じ場合はアドレス帳の登録名。
- アドレス帳に登録がなく、相手先が自局番号を登録している場合は相手の自局番号。
- アドレス帳に登録がなく、相手先の自局番号も登録されていない場合には、DOC＋日付。

注 意

同一の送信者により送信された最大999個のファイルを同じ保存先に保管することができます。999を超えると、本機はファイルを保管する代わりに、受信文書を印刷します。

ボックス設定（ファクス／インターネットファクス受信転送）

ボックス設定のページでは、ファイリングボックスに受信した文書をどのように保存するかを設定します。



1) 保存先

保存先
受信原稿を保存するファイリングボックスを指定します。

ボックス番号
受信原稿を保存するボックス番号を選択します。

パスワード
指定したボックスにパスワードが設定されている場合は、パスワードを入力します。

パスワードの確認
確認のため、パスワードを再入力します。

2) フォルダ名

受信原稿をファイリングボックス内のフォルダに保存したい場合は、保存するフォルダ名を入力します。

3) 文書名

「(送信元) -NNN」が文書名になります。文書名を変更することはできません。

メッセージログを表示する

［メッセージログ］メニューでは、ジョブ情報、警告、エラーなどのシステムメッセージを表示することができます。このページから、各ジョブの処理状況や本機に発生したエラー状況などを把握することができます。

メッセージログを表示する

1 **TopAccessの管理者モードを起動します。**

P.110「TopAccess管理者モードの起動」

2 **［メッセージログ］メニューをクリックします。**

メッセージログメニューページが表示されます。

部門コードを管理する

［カウンタ］タブにある［部門管理］メニューから、管理者は以下の操作を行うことができます。

以下の操作を行うには、管理者パスワードが必要となります。

- カウンタ情報を含む全部門リストの表示
- 各部門カウンタの表示
- 全部門カウンタのクリア
- 各部門カウンタのクリア
- 部門コードの登録
- 部門コード設定の変更
- 全部門コードの一括削除
- 各部門コードの削除

注 意

- 部門コードには、あらかじめ［未定義］部門が登録されています。この部門は無効ジョブをカウントする際に使用されます。［未定義］部門は、カウンタ情報を表示することはできますが、変更または削除することはできません。
- 部門管理機能は、Web Serviceスキャンをサポートしていません。
  部門管理機能が有効なときに実行されたWeb Serviceスキャンジョブは、常に［未定義］部門にカウントされます。

補 足

部門コードの管理は、［ユーザ管理］タブの［ユーザ確認／作成／編集］メニューにログインし、表示されたページで［部門管理］サブメニューをクリックして操作することもできます。

■ 部門リストと部門カウンタを表示する

管理者は、本機に登録されている部門コードのリストと全部門カウンタを含むリストを表示することができます。また、各部門カウンタの詳細を表示することができます。

補 足

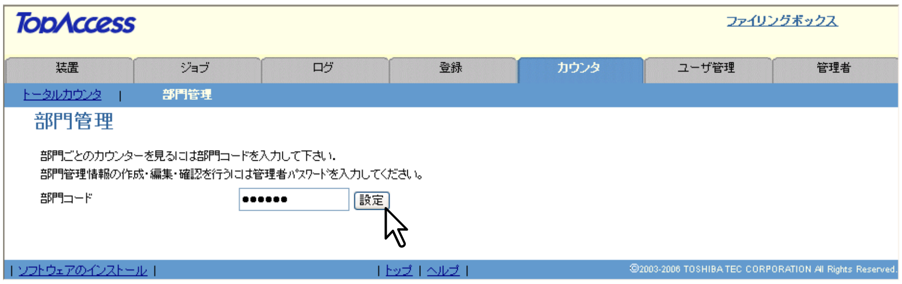
サービスエンジニアコード設定を使用して、コピー／ファクス／プリンタ／スキャン／リスト印刷の機能ごとに、部門管理設定を有効にするか無効にするかを選択できます。詳しくは、サービスエンジニアにお問い合わせください。

部門リストを表示する

1 **［カウンタ］タブをクリックし、［部門管理］メニューをクリックします。**

部門管理ページが表示されます。

2 **［部門コード］ボックスに管理者パスワードを入力し、［設定］をクリックします。**



7

TopAccess（管理者モード）

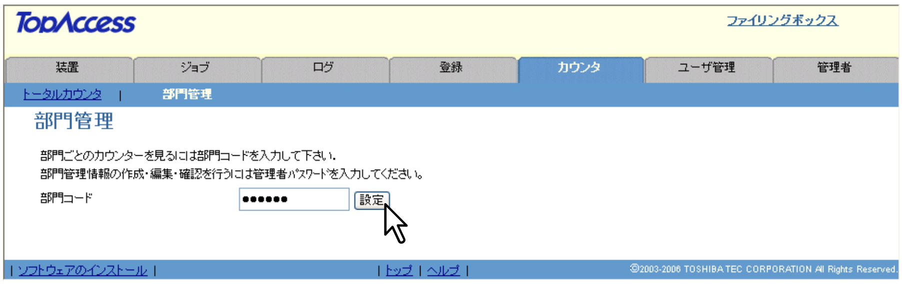
3 カウンタ情報を含む部門リストが表示されます。

部門カウンタを表示する

1 ［カウンタ］タブをクリックし、［部門管理］メニューをクリックします。

部門管理ページが表示されます。

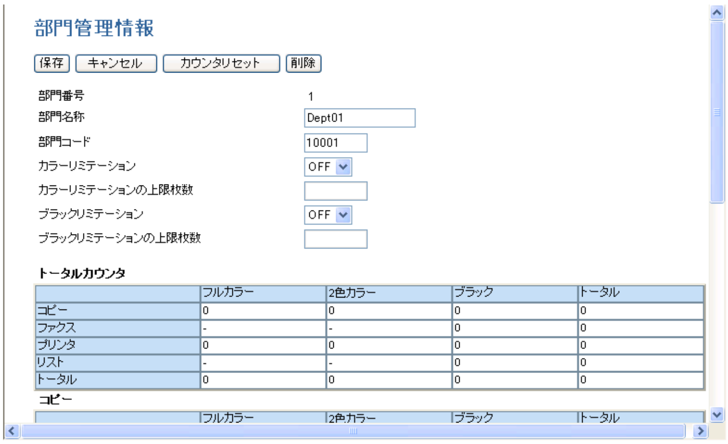
2 ［部門コード］ボックスに管理者パスワードを入力し、［設定］をクリックします。



カウンタ情報を含む部門リストが表示されます。

3 詳細な部門カウンタ情報を表示したい部門名称リンクをクリックします。

4 部門管理情報ページが表示されます。



■ 部門カウンタをクリアする

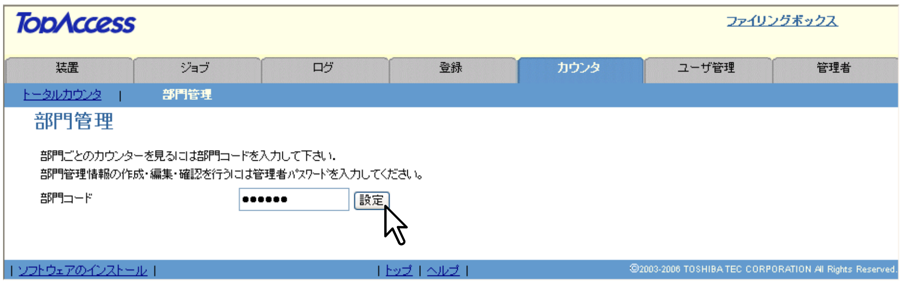
管理者は、全部門カウンタの一括クリアおよび部門ごとの部門カウンタをクリアすることができます。

全部門カウンタをクリアする

1 ［カウンタ］タブをクリックし、［部門管理］メニューをクリックします。

部門管理ページが表示されます。

2 ［部門コード］ボックスに管理者パスワードを入力し、［設定］をクリックします。

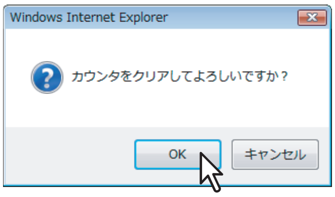


カウンタ情報を含む部門リストが表示されます。

3 ［全部門のカウンタリセット］をクリックします。

確認ダイアログボックスが表示されます。

4 ［OK］をクリックします。



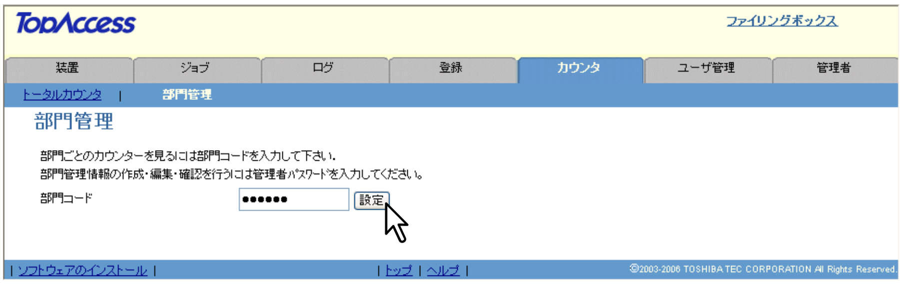
全部門のカウンタがリセットされます。

部門ごとにカウンタをリセットする

1 ［カウンタ］タブをクリックし、［部門管理］メニューをクリックします。

部門管理ページが表示されます。

2 ［部門コード］ボックスに管理者パスワードを入力し、［設定］をクリックします。

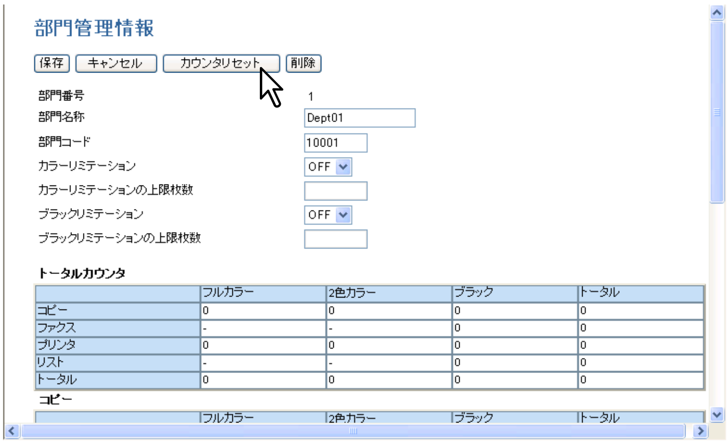


カウンタ情報を含む部門リストが表示されます。

3 カウンタをリセットする部門の部門名称リンクをクリックします。

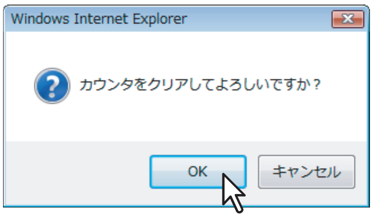
部門管理情報ページが表示されます。

4 ［カウンタリセット］をクリックします。



確認ダイアログボックスが表示されます。

5 ［OK］をクリックします。



選択した部門のカウンタがリセットされます。

■ 部門コードを登録・変更する

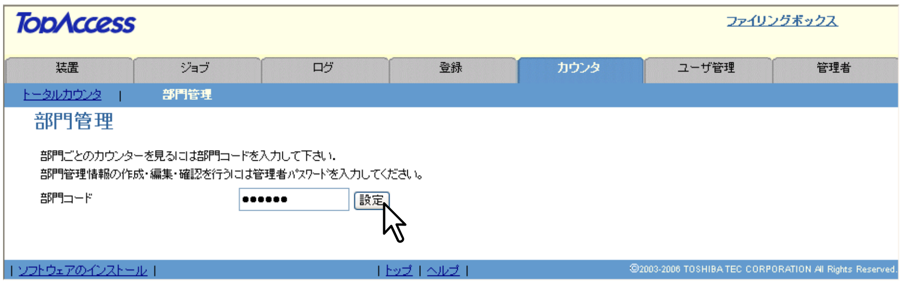
管理者は部門コードの登録および変更を操作することができます。

部門コードを登録または変更する

1 ［カウンタ］タブをクリックし、［部門管理］メニューをクリックします。

部門管理ページが表示されます。

2 ［部門コード］ボックスに管理者パスワードを入力し、［設定］をクリックします。



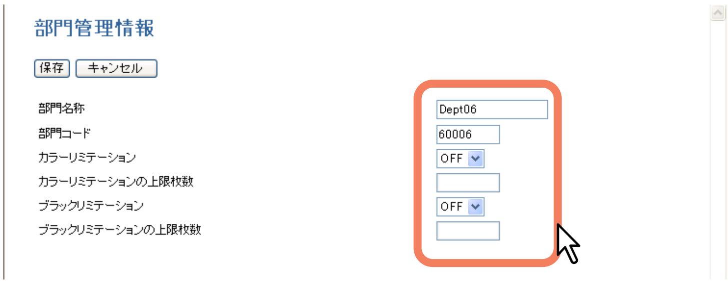
カウンタ情報を含む部門リストが表示されます。

3 新しい部門コードを設定する場合は、［新規］をクリックします。部門リストを編集する場合は、部門名リンクをクリックします。

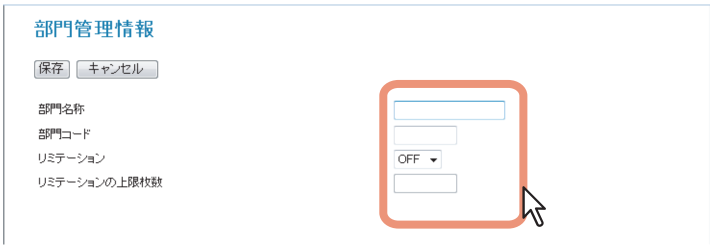
部門管理情報のページが表示されます。

4 以下の項目を入力し、部門情報を設定します。

e-STUDIO4520C Seriesおよびe-STUDIO6530C Seriesをお使いの場合



e-STUDIO855 Seriesおよびe-STUDIO455 Seriesをお使いの場合



部門名称：部門コードを識別する部門名を入力します。20文字まで入力することができます。
部門コード：5桁の部門コードを入力します。
カラーリミテーション：この部門のカラー出力枚数を制限するか選択します。
カラーリミテーションの上限枚数：カラー出力枚数を制限する場合に、許可するカラー出力の最大枚数を入力します。

補 足

「カラーリミテーション」、「カラーリミテーションの上限枚数」は、e-STUDIO4520C Series およびe-STUDIO6530C Seriesで表示されます。

ブラックリミテーション：この部門のモノクロ出力枚数を制限するか選択します。
ブラックリミテーションの上限枚数：モノクロ出力枚数を制限する場合に、許可するモノクロ出力の最大枚数を入力します。

補 足

e-STUDIO855 Series およびe-STUDIO455 Series では、「リミテーション」、「リミテーションの上限枚数」になります。

注 意

- ブラック無制限が有効な場合は、［ブラックリミテーション］および［ブラックリミテーションの上限枚数］を設定することはできません。
- 印刷中に印刷枚数がリミテーションを超えた場合は、ジョブを即座に中止することができないため、設定値を数枚超えて印刷され、カウントされる場合があります。

5 **［保存］をクリックします。**

部門コードが追加または編集されます。

■ 部門コードを削除する

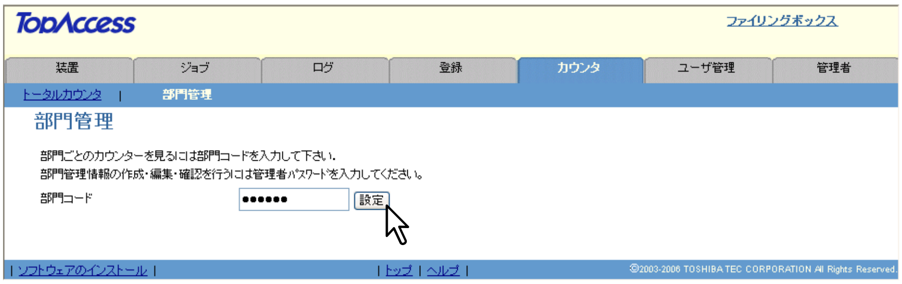
管理者は、登録された全部門コードを一括して削除することができます。また、部門コードを個々に削除することもできます。

全部門コードを削除する

1 **［カウンタ］タブをクリックし、［部門管理］メニューをクリックします。**

部門管理ページが表示されます。

2 **［部門コード］ボックスに管理者パスワードを入力し、［設定］をクリックします。**

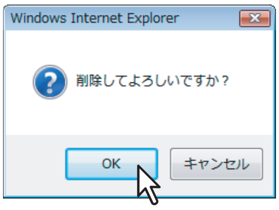


カウンタ情報を含む部門リストが表示されます。

3 **［全部門削除］をクリックします。**

確認ダイアログボックスが表示されます。

4 **［OK］をクリックします。**



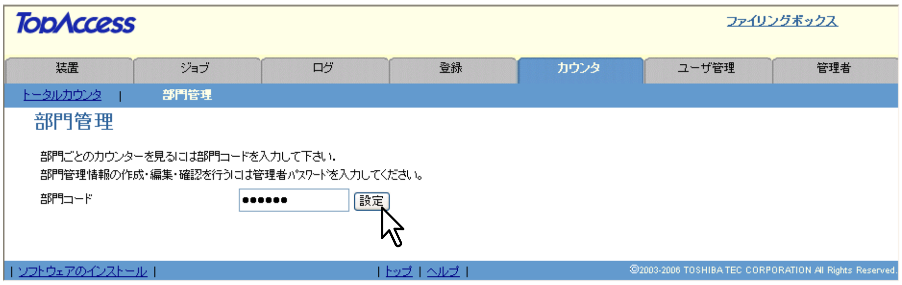
全部門コードが削除されます。

各部門コードを削除する

1 **［カウンタ］タブをクリックし、［部門管理］メニューをクリックします。**

部門管理ページが表示されます。

2 **［部門コード］ボックスに管理者パスワードを入力し、［設定］をクリックします。**

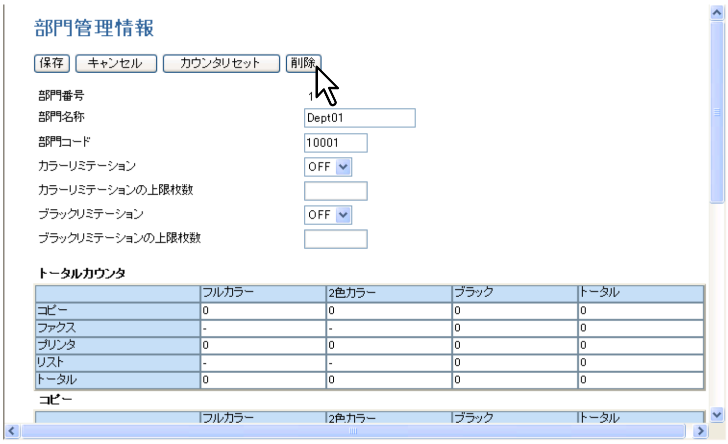


カウンタ情報を含む部門リストが表示されます。

3 **削除する部門コードの部門名称リンクをクリックします。**

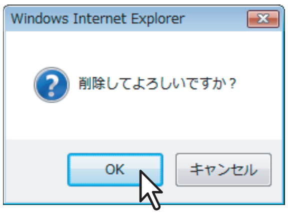
部門管理情報ページが表示されます。

4 **［削除］をクリックします。**



確認ダイアログボックスが表示されます。

5 **［OK］をクリックします。**



選択した部門コードが削除されます。

ユーザ管理を設定する

ユーザ管理の設定では、部門管理の有効／無効およびユーザ管理設定、Eメール送信のユーザ認証の設定を行うことができます。

P.277「部門管理を有効にする」
P.280「ユーザ管理設定を設定する」
P.307「ロール情報を設定する」
P.314「Eメール送信のユーザ認証を設定する」

■ 部門管理を有効にする

初期設定では、部門管理は無効になっています。部門ごとにカウンタを管理したい場合は、部門管理を有効に設定します。部門管理を有効にすると、操作パネルからコピーやスキャン、ファクスおよびインターネットファクス送信、ファイリングボックスの操作などを行うときに部門コードの入力画面を表示し、本機の操作を部門ごとに管理することができます。また、部門管理を有効にすると、コンピュータからの印刷操作も部門ごとに管理することができます。

注 意

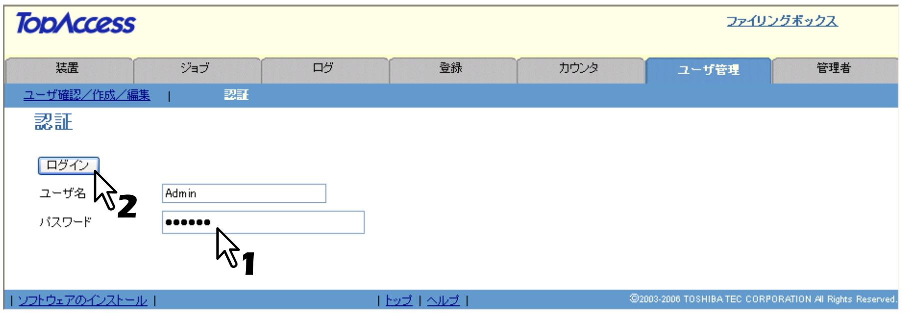
- 部門管理設定を有効にするには、1つ以上の部門コードが登録されている必要があります。部門管理を有効にする前に、必要な部門コードの登録を行ってください。
  P.273「部門コードを登録・変更する」
- ユーザ管理設定を有効にしても、部門管理は自動的に有効にはなりません。
  ユーザ管理を設定するときに、1つ以上の部門を登録させておく必要はありません。
  ただし、ユーザ情報の自動登録を有効にしたい場合には、1つ以上の部門が登録されたうえで部門管理を有効にする必要があります。
- 部門管理設定の有効／無効は、[セットアップ] メニューの [一般] サブメニューでも設定することができます。
  P.114「装置情報の設定」
- 部門管理設定の有効／無効は、操作パネルから操作することもできます。操作パネルからの操作については、**設定管理ガイド**を参照してください。
- 部門管理機能は、Web Serviceスキャンをサポートしていません。
  部門管理機能が有効なときに実行されたWeb Serviceスキャンジョブは、常に [未定義] 部門にカウントされます。

部門管理を有効にする

1 **[ユーザ管理] タブをクリックし、[認証] メニューをクリックします。**

ログインページが表示されます。

2 ［パスワード］ボックスに管理者用のパスワードを入力し、［ログイン］をクリックします。

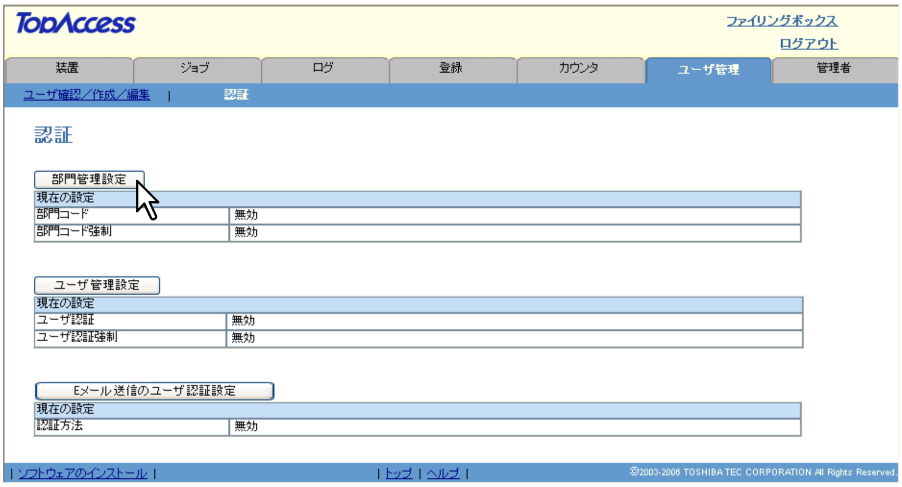


- ユーザ名のボックスは変更しないでください。TopAccessの管理者モードのログイン時は、常に「Admin」でログインする必要があります。
- 認証ページが表示されます。

補 足

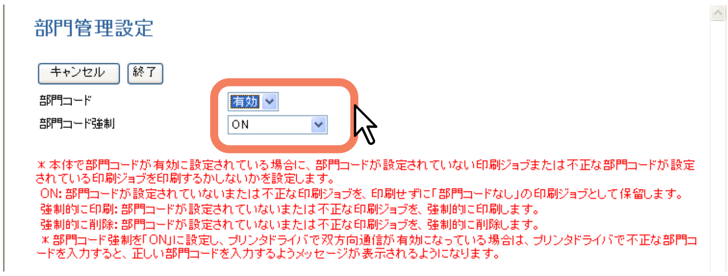
工場出荷時の状態では、管理者パスワードは「123456」に設定されています。

3 ［部門管理設定］をクリックします。



部門管理設定ページが表示されます。

4 以下の項目を設定し、［終了］をクリックします。



- **部門コード**
  本機の部門管理設定を有効にするかしないかを設定します。

- **部門コード強制**
  本体で部門コードが有効に設定されている場合に、部門コードが設定されていない印刷ジョブまたは不正な部門コードが設定されている印刷ジョブを印刷するかしないかを設定します。
  ON：部門コードが設定されていないまたは不正な部門コードが設定されている印刷ジョブを、印刷せずに「部門コードなし」の印刷ジョブとして保留します。
  強制的に印刷：不正な印刷ジョブを印刷します。
  強制的に削除：不正な印刷ジョブを保留せずに削除します。

注 意

- 部門コード強制を［ON］に設定し、プリンタドライバで双方向通信が有効になっている場合は、プリンタドライバで不正な部門コードを入力すると、正しい部門コードを入力するようメッセージが表示されるようになります。
- ユーザ管理設定を有効にした場合は、部門コード強制の設定は使用されません。

■ ユーザ管理設定を設定する

ユーザ管理設定を有効に設定すると、本機タッチパネルから操作する際に、ユーザ名とパスワードの入力画面が表示されるようになります。予期しないユーザの操作から本機を保護することができます。

ユーザ管理設定を有効にすると、以下の機能が有効になります。

- ユーザごとにカウンタを管理する。
- ユーザごとに印刷可能枚数を設定する。
- 最大10000ユーザまで登録可能。
- 本機操作パネルの［コピー］［スキャン］［ファイリングボックス］［ファクス］［テンプレート］［設定／登録］［状況確認］ボタンからの操作、およびファイリングボックスWebユーティリティの操作をユーザ名とパスワードで保護します。
- 登録されたユーザ名でログインしたコンピュータからのみ印刷ジョブを受け付けます。
（ただし、Windowsドメイン認証やLDAP認証の場合は、ドメインに参加している必要があります。）
- Windowsドメイン認証またはLDAP認証を使用している場合は、操作パネルのユーザ認証画面で入力しその後部門コードを入力すると、入力したユーザ情報を自動的に本機に登録することができます。

ユーザ管理設定が適用される機能は以下の表のとおりです。

操作		認証	備考
操作パネル	コピー	○	
	スキャン	○	
	ファイリングボックス	○	
	ファクス／インターネットファクス	○	
	拡張機能	×	
	状況確認	○	
	アクセスボタン	×	
	割り込み	○	
	テンプレート	○	
	設定・登録	○	
Web	TopAccess	×	
	ファイリングボックスWebユーティリティ	○	
クライアントソフトウェア	プリンタドライバ N/W-Faxドライバ	○ （ユーザ名のみ）	コンピュータでドメインにログインしていること
	TopAccessDocMon	×	
	ファイルダウンローダ	×	
	TWAINドライバ	×	
	Backup/Restore	×	
	AddressBook Viewer	×	
	リモートスキャン	×	
	Web Serviceスキャン	×	

注 意

ユーザ管理設定を有効にした場合は、以下の注意点および制限事項があります。

- TopAccessからジョブを削除することはできません。ジョブを削除したい場合は、タッチパネルの［状態確認］からジョブの削除を行ってください。
- Windows ドメイン認証または LDAP 認証を利用する場合は、ユーザ情報で設定したパスワードは使用しません。Windowsドメイン認証またはLDAP認証を利用する場合は、ユーザ情報では、パスワードは設定しないでください。
- ユーザから実行されたジョブが処理中の場合、または操作パネルにログイン中の場合、そのユーザの情報の削除、およびカウンタのリセットを行うことはできません。
- ユーザごとにカウンタを管理するには、あらかじめ部門管理を有効にする必要があります。
📖 P.277「部門管理を有効にする」

ユーザ管理設定を使用したい場合は、最初にユーザ管理設定を有効にします。
P.281 「ユーザ管理設定を有効にする」
ユーザ管理設定を有効にしたら、ユーザ情報を登録します。
P.293 「ユーザ情報を登録する」

□ ユーザ管理設定を有効にする

本機では、以下の認証方法をサポートしています。

- **Windowsドメイン認証**
  ネットワークユーザをWindowsドメインで管理しているネットワークでは、本機をWindowsドメイン認証を使って管理することができます。
  Windowsドメイン認証を有効にした場合、ユーザはWindowsドメインに登録されているユーザ名およびパスワードを入力すると、本機の操作パネルから操作を行うことができます。
  P.281 「Windowsドメイン認証を設定する」
- **LDAP認証**
  ネットワークユーザをLDAPで管理しているネットワークでは、本機をLDAP認証を使って管理することができます。
  LDAP認証を有効にした場合、ユーザはLDAPサーバーに登録されているユーザ名およびパスワードを入力すると、本機の操作パネルから操作を行うことができます。
  P.286 「LDAP認証を設定する」
- **内部認証**
  ネットワークユーザを管理するシステムがない環境では、本機の内部認証を使って管理することができます。
  内部認証を有効にした場合、ユーザは本機に登録されているユーザ名およびパスワードを入力すると、本機の操作パネルから操作を行うことができます。
  P.291 「内部認証を設定する」

注 意

認証方法を変更する場合は、ユーザ情報のドメイン名およびパスワードの設定を適切に変更してください。ユーザ情報の設定の変更は、エクスポート／インポート機能を使用すると簡単に変更できます。
P.300 「ユーザ情報をエクスポートする」
P.303 「ユーザ情報をインポートする」

Windowsドメイン認証を設定する

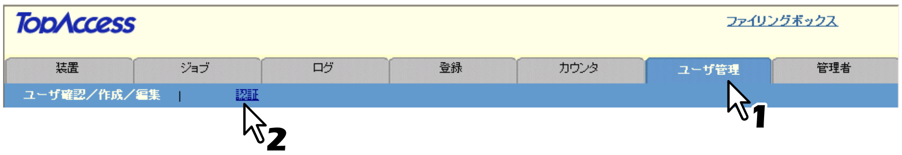
Windowsドメイン認証を使用するには、ネットワークにWindowsドメイン認証システムが構築されている必要があります。

注 意

Windowsドメイン認証を有効にして印刷するときは、双方向通信を有効にしないと正常に印刷されません。

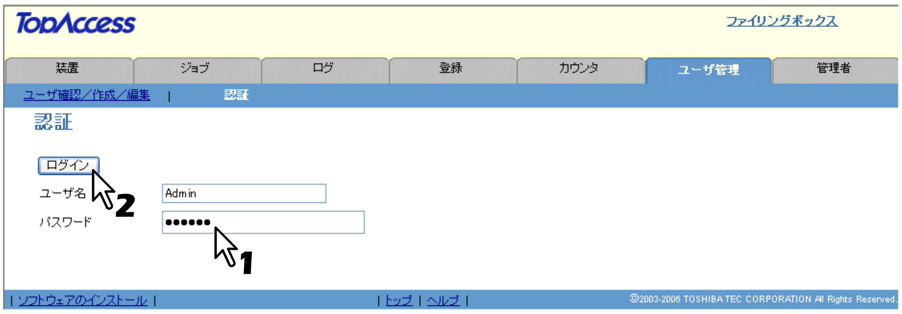
Windowsドメイン認証を有効にする

1 ［ユーザ管理］タブをクリックし、［認証］メニューをクリックします。



ログインページが表示されます。

2 ［パスワード］ボックスに管理者用のパスワードを入力し、［ログイン］をクリックします。

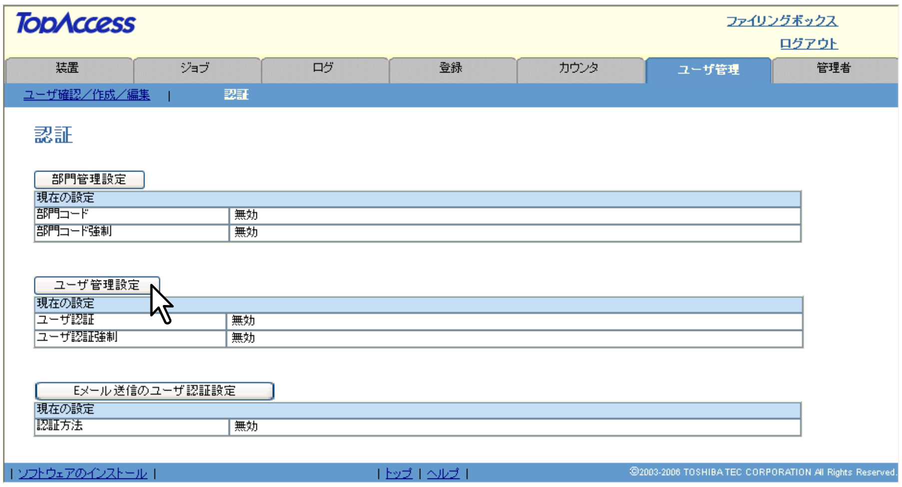


- ユーザ名のボックスは変更しないでください。TopAccessの管理者モードのログイン時は、常に「Admin」でログインする必要があります。
- 認証ページが表示されます。

補 足

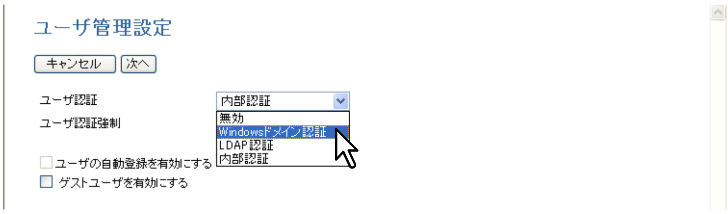
工場出荷時の状態では、管理者パスワードは「123456」に設定されています。

3 ［ユーザ管理設定］をクリックします。



ユーザ管理設定ページが表示されます。

4 ［Windowsドメイン認証］を選択します。



補 足

ユーザ管理設定を無効にしたい場合は［無効］を選択し［次へ］をクリックします。

5 ［ユーザ認証強制］ボックスで無効ジョブの処理方法を選択し、［次へ］をクリックします。

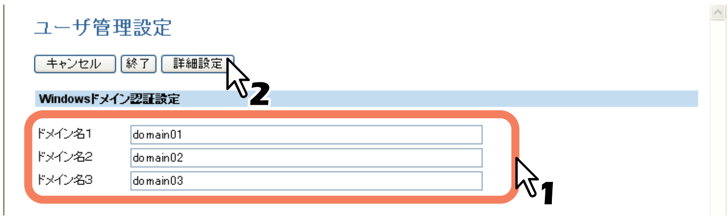
ユーザ管理設定がWindowsドメイン認証に設定されている場合に、認証に失敗した印刷ジョブを印刷するかしないかを設定します。

- **ON**：認証に失敗した印刷ジョブを、印刷せずに無効な印刷ジョブとして保留します。
- **強制的に印刷**：認証に失敗した印刷ジョブを印刷します。
- **強制的に削除**：認証に失敗した印刷ジョブを保留せずに削除します。

補 足

- 操作パネル、TopAccess、ファイリングボックス Web ユーティリティのユーザ認証画面で入力したユーザ情報を自動的に本機に登録したい場合は、部門管理を有効に設定し、［ユーザの自動登録を有効にする］チェックボックスをオンにします。
- ゲストユーザの操作を有効にする場合は、［ゲストユーザを有効にする］チェックボックスをオンにします。

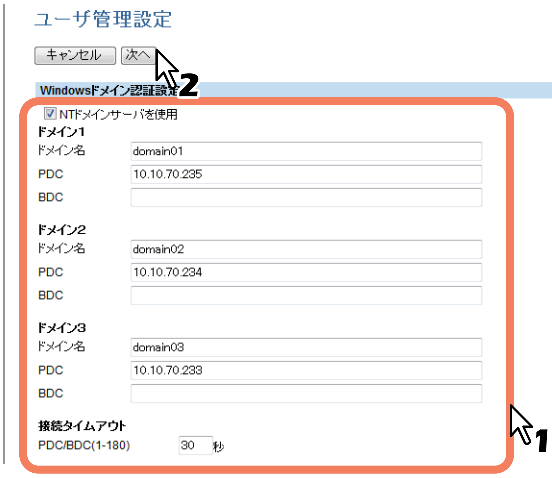
6 ［ドメイン名1］、［ドメイン名2］、［ドメイン名3］にネットワークのドメイン名を入力し、［詳細設定］をクリックします。



注 意

最大3つまでドメイン名を指定することができます。Windows ドメイン認証を有効にする場合は、少なくとも1つのドメイン名を指定する必要があります。

7 ［NTドメインサーバを使用］チェックボックスをオンにして以下の項目を入力し、［次へ］をクリックします。

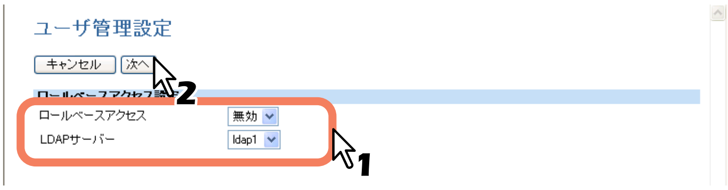


ドメイン名：手順6のドメイン名が表示されます。
PDC：プライマリドメインコントローラ（PDC）のサーバー名またはIPアドレスを入力します。
BDC：バックアップドメインコントローラ（BDC）のサーバー名またはIPアドレスを入力します。
接続タイムアウト：PDCおよびBDCのサーバーが応答しない場合に、通信を終了するタイムアウト時間を入力します。1～180秒の範囲で設定します。

注 意

プライマリドメインコントローラおよびバックアップドメインコントローラに誤った設定を行うと、Windowsネットワーク内のプライマリドメインコントローラおよびバックアップドメインコントローラを2～4分程度検索するとともに、検索中はタッチパネルのユーザ認証画面の［OK］が反転したままになります。この場合は、警告音が鳴り操作パネルに「認証が失敗しました」が表示されたら、プライマリドメインコントローラおよびバックアップドメインコントローラに正しい設定を行ってください。

8 以下の項目を入力し、［次へ］をクリックします。

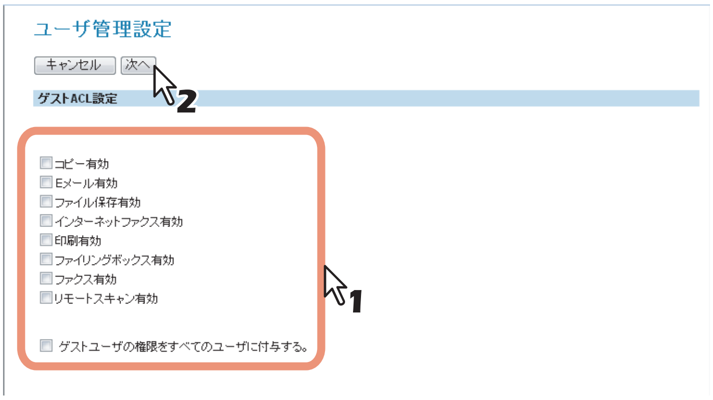


ロールベースアクセス：ロールベースアクセスの有効／無効を選択します。
LDAPサーバー：ロールベースアクセスを管理するLDAPサーバーを選択します。

補 足

- ロールベースアクセスを有効にする場合は、本機または他のe-STUDIO6530C　Series、e-STUDIO4520C Series、e-STUDIO3510C Series、e-STUDIO451C Series、e-STUDIO855 Series、e-STUDIO850 Series、e-STUDIO455 Series、e-STUDIO452 Series、e-STUDIO282 Seriesに登録されているロール情報設定ファイルをエクスポートし、LDAPサーバーで必要な設定に合わせて編集してインポートし直す必要があります。ロール情報設定ファイルの編集については、P.309「ロール情報をエクスポートする」および P.311「ロール情報をインポートする」を参照してください。
- 認証に使用するLDAPサーバーは、あらかじめ［保守］メニューの［LDAPサービス］サブメニューで登録しておく必要があります。Windows Serverに対してロールベースアクセスを行う場合には、LDAPサーバーを登録する際に設定するユーザ名は、Windows ServerでDomain AdminsかAccount Operatorに属しているユーザを使用してください。
- 手順5で［ゲストユーザを有効にする］チェックボックスをオンにした場合は、ゲストACLページが表示されます。この場合は、次の手順に進みます。オフの場合は手順10に進みます。

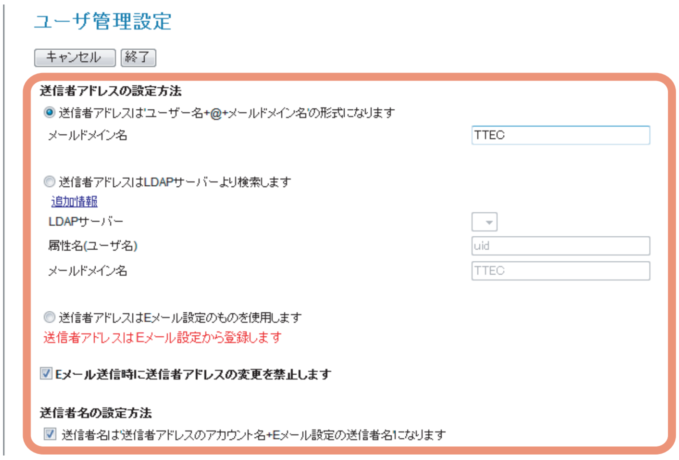
9 ゲストに許可する項目をオンにし、［次へ］をクリックします。



コピー有効：コピー操作を有効にします。
Eメール有効：Eメール操作を有効にします。
ファイル保存有効：ファイル保存操作を有効にします。
インターネットファクス有効：インターネットファクス操作を有効にします。
印刷有効：カラーモードが白黒の印刷操作を有効にします。
ファイルボックス有効：ファイルボックス操作を有効にします。
ファクス有効：ファクス操作を有効にします。
カラー印刷有効：カラーモードがフルカラー／オートカラーの印刷操作を有効にします。
＊　この機能はe-STUDIO4520C Seriesおよびe-STUDIO6530C Seriesで使用できます。
リモートスキャン有効：リモートスキャン操作を有効にします。

ゲストユーザの権限をすべてのユーザに付与する。：
ここで設定するゲストユーザの権限を、すべてのユーザで有効にします。

10 Eメール送信の送信者アドレスの取得方法を指定します。



注 意

この設定はEメール送信のユーザ認証が有効の場合のみ使用します。

- **送信者アドレスは'ユーザ名+@+メール名'の形式になります**
  送信者アドレスを、「ユーザ名＋＠＋メールドメイン名」の形式で設定します。「ユーザ名」には、認証時にタッチパネルで入力したユーザ名が使用されます。「メールドメイン名」には、［メールドメイン名］ボックスで設定したドメイン名が使用されます。
  これを選択した場合は、［メールドメイン名］ボックスを入力します。

- **送信者アドレスはLDAPサーバーより検索します**
  LDAPアドレスから検索した送信者アドレスを設定します。
  これを選択した場合、指定したLDAPサーバーの［属性名（ユーザ名）］で指定したスキーマから認証時にタッチパネルで入力したユーザ名を検索します。
  入力したユーザ名が指定したスキーマから見つかった場合は、そのユーザ名に登録されているEメールアドレスを送信者アドレスとして設定します。
  入力したユーザ名が指定したスキーマから見つからなかった場合は、送信者アドレスを、「ユーザ名＋@＋メールドメイン名」の形式で設定します。「ユーザ名」には、認証時にタッチパネルで入力したユーザ名が使用されます。「メールドメイン名」には、［メールドメイン名］ボックスで設定したドメイン名が使用されます。
  これを選択した場合は、［LDAPサーバー］ボックスで検索するLDAPサーバー名を、［属性名（ユーザ名）］ボックスでユーザ名を検索するスキーマを、［メールドメイン名］ボックスでLDAPサーバーで検索できなかった場合に使用するメールドメイン名を指定します。
- **送信者アドレスはEメール設定のものを使用します**
  Eメール設定で指定した送信者アドレスを設定します。
- **Eメール送信時に送信者アドレスの変更を禁止します**
  Eメール送信操作時に、送信者アドレスの変更を許可しない場合は、このチェックボックスをオンにします。
- **送信者名は'送信者アドレスのアカウント名+Eメール設定の送信者名'になります**
  Eメール送信時の送信者名を、「アカウント名＋スペース＋Eメール設定の送信者名」の形式で設定する場合は、このチェックボックスをオンにします。「アカウント名」には送信者アドレスの@より前の文字列が使用されます。「Eメール設定の送信者名」には［管理者］タブ、［セットアップ］メニュー、［Eメール］サブメニューの［送信者名］が使用されます。

11 **［終了］をクリックします。**

Windowsドメイン認証が有効になります。

LDAP認証を設定する

LDAP認証を使用するには、ネットワークにLDAPディレクトリサービスが構築されている必要があります。

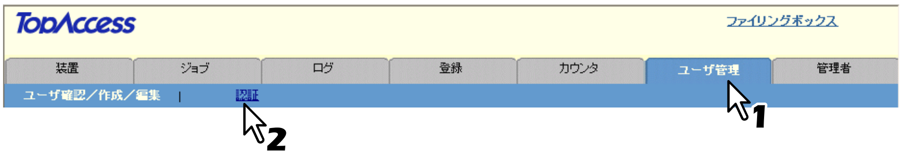
注 意

SSLを使用してLDAP認証を行う場合は、以下の説明を参照してください。

P.130 「LDAPの設定」

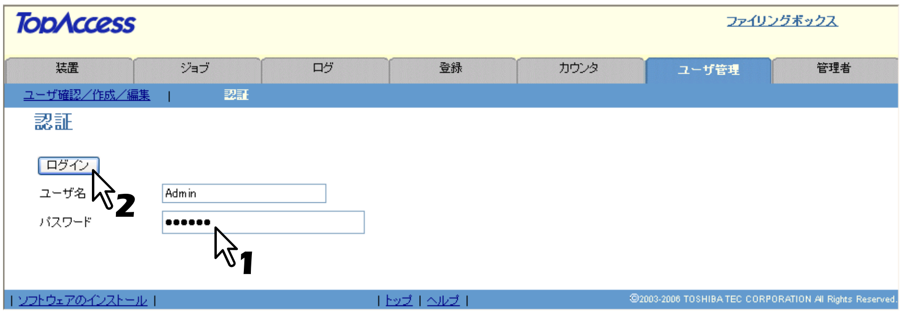
LDAP認証を有効にする

1 **［ユーザ管理］タブをクリックし、［認証］メニューをクリックします。**



ログインページが表示されます。

2 ［パスワード］ボックスに管理者用のパスワードを入力し、［ログイン］をクリックします。

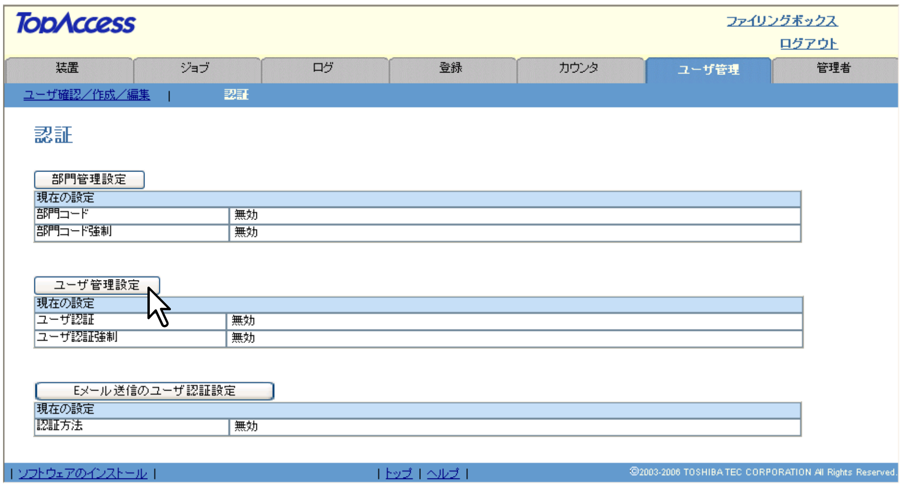


- ユーザ名のボックスは変更しないでください。TopAccessの管理者モードのログイン時は、常に「Admin」でログインする必要があります。
- 認証ページが表示されます。

補 足

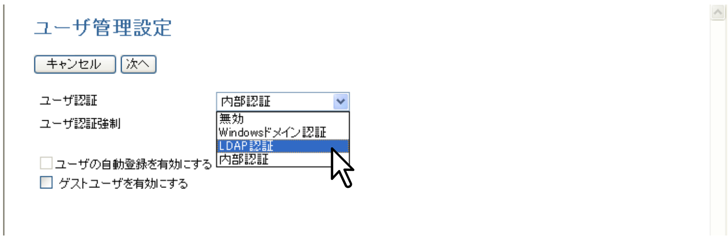
工場出荷時の状態では、管理者パスワードは「123456」に設定されています。

3 ［ユーザ管理設定］をクリックします。



ユーザ管理設定ページが表示されます。

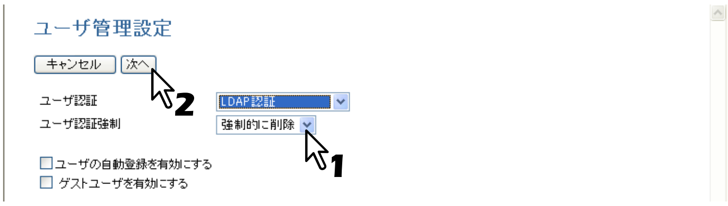
4 ［LDAP認証］を選択します。



補 足

ユーザ管理設定を無効にしたい場合は［無効］を選択し［次へ］をクリックします。

5 ［ユーザ認証強制］ボックスで無効ジョブの処理方法を選択し、［次へ］をクリックします。



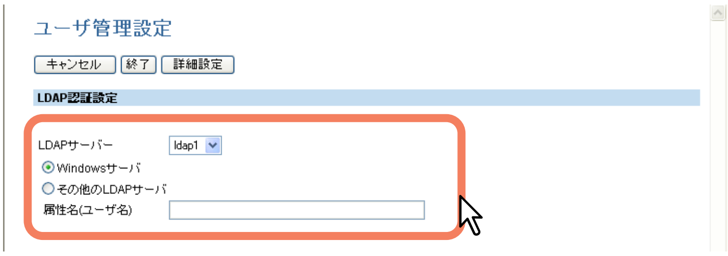
ユーザ管理設定がLDAP認証に設定されている場合に、認証に失敗した印刷ジョブを印刷するかしないかを設定します。

- **ON**：認証に失敗した印刷ジョブを、印刷せずに無効な印刷ジョブとして保留します。
- **強制的に印刷**：認証に失敗した印刷ジョブを印刷します。
- **強制的に削除**：認証に失敗した印刷ジョブを保留せずに削除します。

補 足

- 操作パネル、TopAccess、ファイリングボックス Web ユーティリティのユーザ認証画面で入力したユーザ情報を自動的に本機に登録したい場合は、部門管理を有効に設定し、［ユーザの自動登録を有効にする］チェックボックスをオンにします。
- ゲストユーザの操作を有効にする場合は、［ゲストユーザを有効にする］チェックボックスをオンにします。

6 認証に使用するLDAPサーバーを選択し、LDAPサーバーの種類を選択して、［詳細設定］をクリックします。



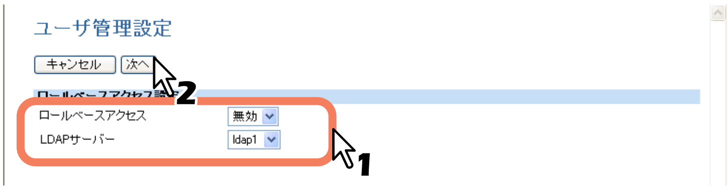
Windowsサーバ：Windowsサーバーを使用してLDAPを設定している場合に選択します。
その他のLDAPサーバ：Windowsサーバー以外のOSを使ってLDAPを設定している場合に選択します。Windowsサーバー以外のOSを使っている場合は、LDAPに登録されたユーザ名の属性名を入力します。

補 足

認証に使用するLDAPサーバーは、あらかじめ［保守］メニューの［LDAPサービス］サブメニューで登録しておく必要があります。

📖 P.227 「LDAPサービスを登録する」

7 以下の項目を入力し、［次へ］をクリックします。

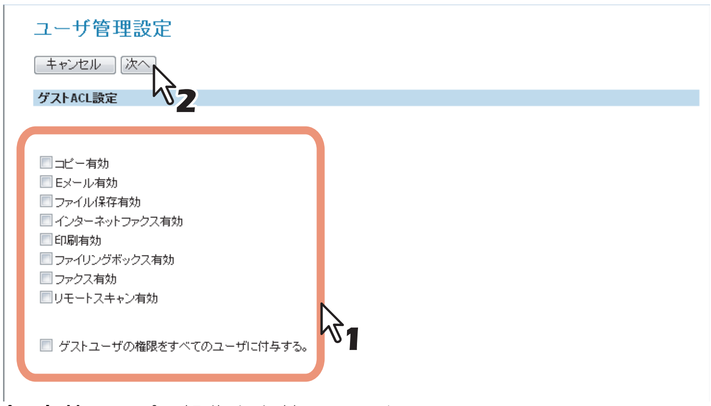


ロールベースアクセス：ロールベースアクセスの有効／無効を選択します。
LDAPサーバー：ロールベースアクセスを管理するLDAPサーバーを選択します。

補 足

- ロールベースアクセスを有効にする場合は、本機または他のe-STUDIO6530C　Series、e-STUDIO4520C Series、e-STUDIO3510C Series、e-STUDIO451C Series、e-STUDIO855 Series、e-STUDIO850 Series、e-STUDIO455 Series、e-STUDIO452 Series、e-STUDIO282 Seriesに登録されているロール情報設定ファイルをエクスポートし、LDAPサーバーで必要な設定に合わせて編集してインポートし直す必要があります。ロール情報設定ファイルの編集については、📖 P.309 「ロール情報をエクスポートする」および📖 P.311「ロール情報をインポートする」を参照してください。
- 認証に使用するLDAPサーバーは、あらかじめ［保守］メニューの［LDAPサービス］サブメニューで登録しておく必要があります。Windows Serverに対してロールベースアクセスを行う場合には、LDAPサーバーを登録する際に設定するユーザ名は、Windows ServerでDomain AdminsかAccount Operatorに属しているユーザを使用してください。
📖 P.227 「LDAPサービスを登録する」
- 手順5で［ゲストユーザを有効にする］チェックボックスをオンにした場合は、ゲストACLページが表示されます。この場合は、次の手順に進みます。オフの場合は手順9に進みます。

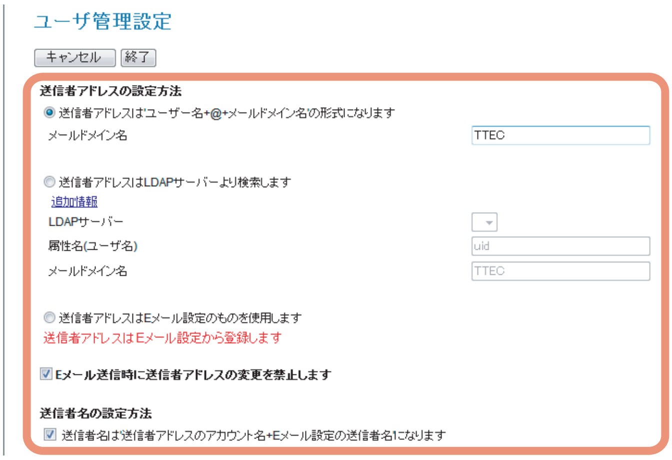
8 ゲストに許可する項目をオンにし、［次へ］をクリックします。



コピー有効：コピー操作を有効にします。
Eメール有効：Eメール操作を有効にします。
ファイル保存有効：ファイル保存操作を有効にします。
インターネットファクス有効：インターネットファクス操作を有効にします。
印刷有効：カラーモードが白黒の印刷操作を有効にします。
ファイルボックス有効：ファイルボックス操作を有効にします。
ファクス有効：ファクス操作を有効にします。
カラー印刷有効：カラーモードがフルカラー／オートカラーの印刷操作を有効にします。
＊　この機能はe-STUDIO4520C Seriesおよびe-STUDIO6530C Seriesで使用できます。
リモートスキャン有効：リモートスキャン操作を有効にします。

ゲストユーザの権限をすべてのユーザに付与する。：
ここで設定するゲストユーザの権限を、すべてのユーザで有効にします。

9 Eメール送信の送信者アドレスの取得方法を指定します。



注 意

この設定はEメール送信のユーザ認証が有効の場合のみ使用します。

- **送信者アドレスは'ユーザ名+@+メール名'の形式になります**
  送信者アドレスを、「ユーザ名＋@＋メールドメイン名」の形式で設定します。「ユーザ名」には、認証時にタッチパネルで入力したユーザ名が使用されます。「メールドメイン名」には、［メールドメイン名］ボックスで設定したドメイン名が使用されます。
  これを選択した場合は、［メールドメイン名］ボックスを入力します。
- **送信者アドレスはLDAPサーバーより検索します**
  LDAPアドレスから検索した送信者アドレスを設定します。
  これを選択した場合、指定したLDAPサーバーの［属性名（ユーザ名）］で指定したスキーマから認証時にタッチパネルで入力したユーザ名を検索します。
  入力したユーザ名が指定したスキーマから見つかった場合は、そのユーザ名に登録されているEメールアドレスを送信者アドレスとして設定します。
  入力したユーザ名が指定したスキーマから見つからなかった場合は、送信者アドレスを、「ユーザ名＋@＋メールドメイン名」の形式で設定します。「ユーザ名」には、認証時にタッチパネルで入力したユーザ名が使用されます。「メールドメイン名」には、［メールドメイン名］ボックスで設定したドメイン名が使用されます。
  これを選択した場合は、［LDAPサーバー］ボックスで検索するLDAPサーバー名を、［属性名（ユーザ名）］ボックスでユーザ名を検索するスキーマを、［メールドメイン名］ボックスでLDAPサーバーで検索できなかった場合に使用するメールドメイン名を指定します。
- **送信者アドレスはEメール設定のものを使用します**
  Eメール設定で指定した送信者アドレスを設定します。
- **Eメール送信時に送信者アドレスの変更を禁止します**
  Eメール送信操作時に、送信者アドレスの変更を許可しない場合は、このチェックボックスをオンにします。
- **送信者名は'送信者アドレスのアカウント名+Eメール設定の送信者名'になります**
  Eメール送信時の送信者名を、「アカウント名＋スペース＋Eメール設定の送信者名」の形式で設定する場合は、このチェックボックスをオンにします。「アカウント名」には送信者アドレスの@より前の文字列が使用されます。「Eメール設定の送信者名」には［管理者］タブ、［セットアップ］メニュー、［Eメール］サブメニューの［送信者名］が使用されます。

10 ［終了］をクリックします。

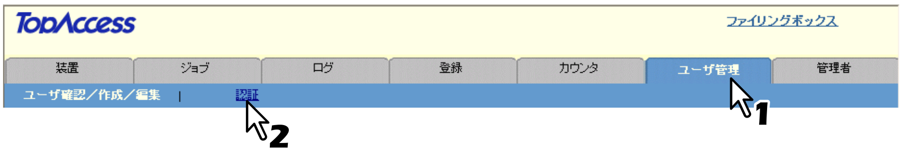
LDAP認証が有効になります。

内部認証を設定する

ネットワークに認証システムがない場合は、内部認証を使用することができます。
内部認証は本機に登録されたユーザ情報を使用して認証を行います。内部認証を行う場合は、あらかじめユーザ情報を登録しておく必要があります。
📖 P.294 「ユーザ情報を登録・変更する」
ユーザ情報の登録後、内部認証を有効にします。
📖 P.291 「内部認証を有効にする」

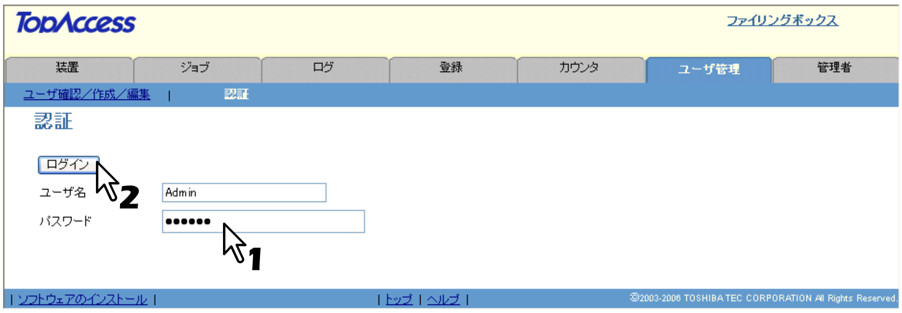
内部認証を有効にする

1 **[ユーザ管理] タブをクリックし、[認証] メニューをクリックします。**



ログインページが表示されます。

2 **[パスワード] ボックスに管理者用のパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。**

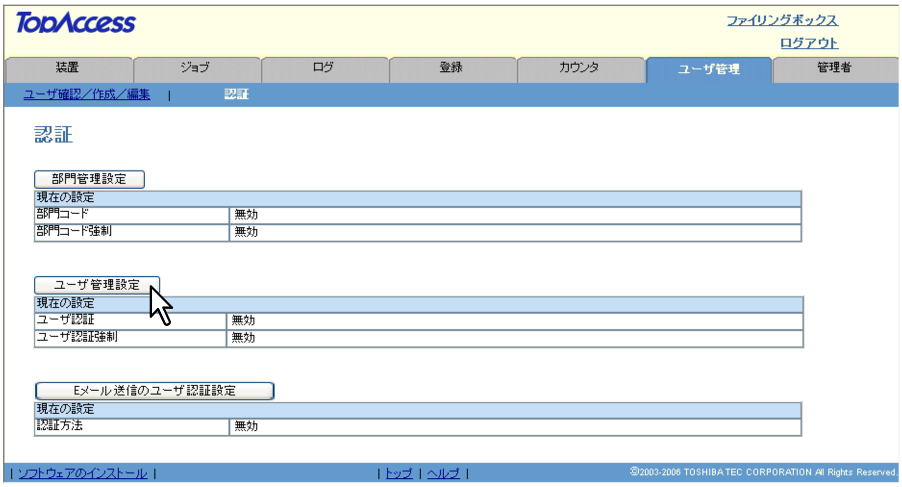


- ユーザ名のボックスは変更しないでください。TopAccessの管理者モードのログイン時は、常に「Admin」でログインする必要があります。
- 認証ページが表示されます。

補 足

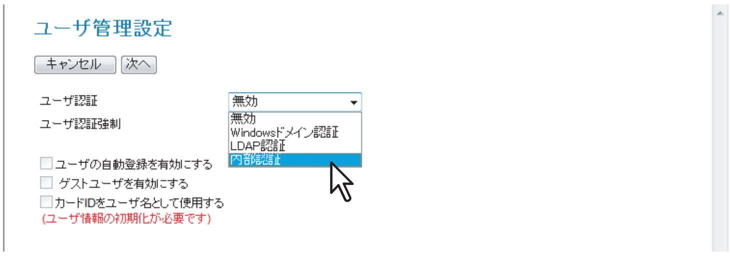
工場出荷時の状態では、管理者パスワードは「123456」に設定されています。

3 **[ユーザ管理設定] をクリックします。**



ユーザ管理設定ページが表示されます。

4 ［ユーザ認証］ボックスで［内部認証］を選択します。

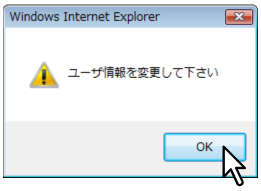


確認ダイアログボックスが表示されます。

補 足

ユーザ管理設定を無効にしたい場合は［無効］を選択し［次へ］をクリックします。

5 ［OK］をクリックします。



6 ［ユーザ認証強制］ボックスで無効ジョブの処理方法を選択し、［次へ］をクリックします。

ユーザ管理設定が有効に設定されている場合に、認証に失敗した印刷ジョブを印刷するかしないかを設定します。

- **ON**：認証に失敗した印刷ジョブを、印刷せずに無効な印刷ジョブとして保留します。
- **強制的に印刷**：認証に失敗した印刷ジョブを印刷します。
- **強制的に削除**：認証に失敗した印刷ジョブを保留せずに削除します。

補 足

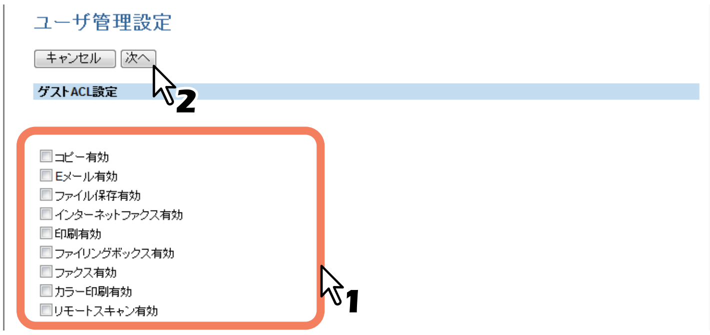
- ゲストユーザの操作を有効にする場合は、［ゲストユーザを有効にする］チェックボックスをオンにします。オンにした場合は、ゲストACLページが表示されます。この場合は、次の手順に進みます。
- カードIDをユーザ名として使用する場合は、［カードIDをユーザ名として使用する］チェックボックスをオンにします。このチェックボックスは、カード認証時に表示されます。

注 意

設定を変更した場合は、ユーザ情報を登録し直す必要があります。ユーザ情報を登録し直すには、ユーザ管理画面からすべてのユーザ情報を削除し、設定に応じたユーザ情報をインポートして登録し直してください。

📖 P.296 「すべてのユーザ情報を削除する」
📖 P.303 「ユーザ情報をインポートする」

7 ゲストに許可する項目をオンにし、［次へ］をクリックします。



コピー有効：コピー操作を有効にします。
Eメール有効：Eメール操作を有効にします。
ファイル保存有効：ファイル保存操作を有効にします。
インターネットファクス有効：インターネットファクス操作を有効にします。
印刷有効：カラーモードが白黒の印刷操作を有効にします。
ファイルボックス有効：ファイルボックス操作を有効にします。
ファクス有効：ファクス操作を有効にします。
カラー印刷有効：カラーモードがフルカラー／オートカラーの印刷操作を有効にします。
＊　この機能はe-STUDIO4520C Seriesおよびe-STUDIO6530C Seriesで使用できます。
リモートスキャン有効：リモートスキャン操作を有効にします。

□ ユーザ情報を登録する

内部認証を有効にする前に、［ユーザ確認／作成／編集］メニューでユーザ情報の登録を行います。
［ユーザ確認／作成／編集］メニューでは、以下の操作を行うことができます。

P.294「ユーザ情報を登録・変更する」
P.295「特定のユーザ情報を削除する」
P.296「すべてのユーザ情報を削除する」
P.298「特定のユーザのカウンタをリセットする」
P.299「すべてのユーザのカウンタをリセットする」
P.300「ユーザ情報をエクスポートする」
P.303「ユーザ情報をインポートする」

すでに登録されているユーザは、［ユーザ確認／作成／編集］メニューに自分のユーザ名とパスワードでログインすると、自分のユーザ情報を確認することができます。また、内部認証の場合はパスワードの変更を行うことができます。

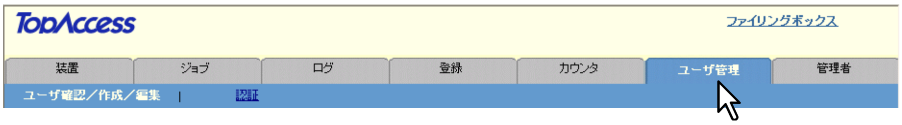
P.305「ユーザ情報を確認する」
P.306「ユーザによるパスワード変更（内部認証時のみ）」

注 意

- Windowsドメイン認証またはLDAP認証を使用し、部門管理が有効に設定されている場合は、操作パネルのユーザ認証画面で入力しその後部門コードを入力すると、入力したユーザ情報を自動的に本機に登録することができます。
- ユーザ情報には、あらかじめ［未定義］ユーザが登録されています。このユーザは無効ジョブをカウントする際に使用されます。［未定義］ユーザは、カウンタ情報を表示することはできますが、変更または削除することはできません。

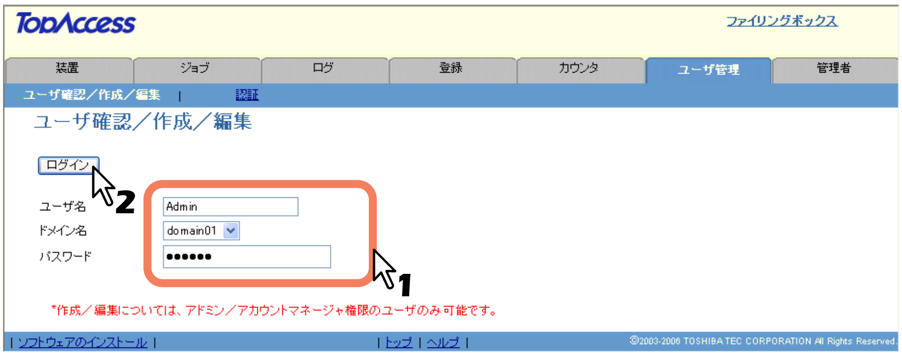
ユーザ情報を登録・変更する

1 **[ユーザ管理] タブをクリックします。**



ログインページが表示されます。

2 **[ユーザ名] ボックスに「Admin」と入力し、[パスワード] ボックスに管理者用のパスワードを入力して、 [ログイン] をクリックします。**

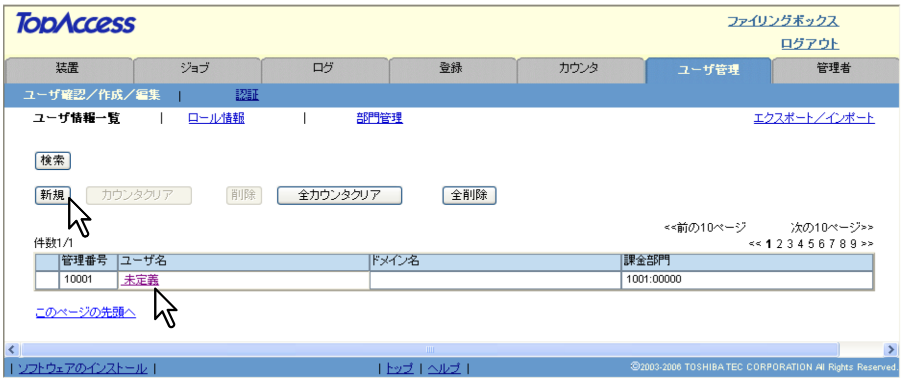


ユーザ情報一覧サブメニューページが表示されます。

補 足

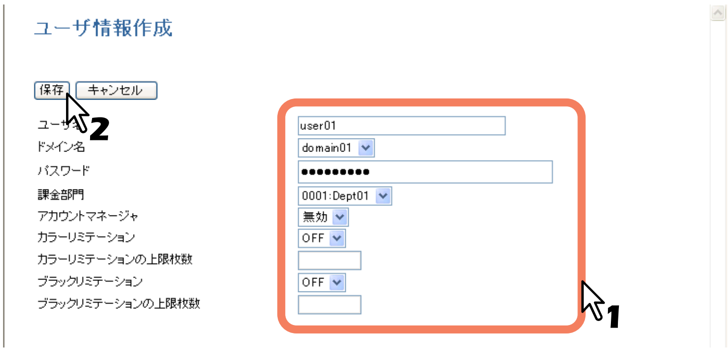
- アカウントマネージャの権限を持つユーザ名、ドメイン名 (Windowsドメイン認証有効時のみ) とパスワードを使ってログインすることもできます。
- 管理者でログインする場合は、ドメイン名を選択する必要はありません。

3 **新しいユーザ情報を登録する場合は、[新規] をクリックします。**
既存のユーザ情報を変更する場合は、ユーザ名リンクをクリックします。



ユーザ情報作成ページが表示されます。

4 以下の項目を入力し、[保存] をクリックします。



ユーザ名：ログインユーザ名を入力します。128文字以内の半角英数字で入力します。
ドメイン名：Windowsドメイン認証を有効にした場合に、ログインするドメイン名を選択します。
パスワード：ログインパスワードを入力します。64文字以内の半角英数字で入力します。Windowsドメイン認証またはLDAP認証を使用する場合は、パスワードを指定する必要はありません。
課金部門：ユーザが所属する部門コードを選択します。作成したユーザが操作したカウンタは、ここで指定した部門コードのカウンタとしてカウントされます。
アカウントマネージャ：アカウントマネージャの権限を有効にするかどうかを選択します。アカウントマネージャの権限を持つユーザは、ユーザ情報作成ページにログインし、ユーザ情報の管理を行うことができます。
カラーリミテーション：このユーザの最大カラーコピー枚数を制限するかどうかを選択します。有効にした場合は、[カラーリミテーションの上限枚数] で上限枚数を入力します。
カラーリミテーションの上限枚数：カラーリミテーションを有効にした場合に、上限枚数を入力します。
ブラックリミテーション：このユーザの最大ブラックコピー枚数を制限するかどうかを選択します。有効にした場合は、[ブラックリミテーションの上限枚数] で上限枚数を入力します。
ブラックリミテーションの上限枚数：ブラックリミテーションを有効にした場合に、上限枚数を入力します。

補 足

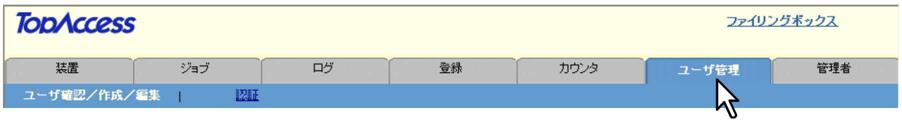
- [削除] をクリックすると、ユーザ情報を削除することができます。
- [リセットカウンタ] をクリックすると、ユーザのカウンタをリセットすることができます。
- ユーザ情報の変更を行っている場合は、ページ下部にユーザのカウンタ情報が表示されます。
- カラーリミテーションおよびカラーリミテーションの上限枚数は、e-STUDIO4520C　Series およびe-STUDIO6530C Seriesで使用できます。
- e-STUDIO855 Seriesおよびe-STUDIO455 Seriesでは、ブラックリミテーションが「リミテーション」に、ブラックリミテーションの上限枚数が「リミテーションの上限枚数」になります。

特定のユーザ情報を削除する

注 意

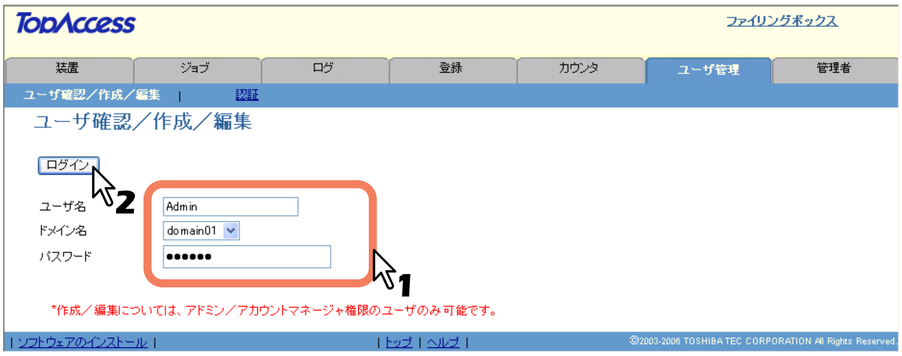
- ユーザから実行されたジョブが処理中の場合、または操作パネルにログイン中の場合、そのユーザの情報を削除することはできません。
- [未定義] ユーザの情報を削除することはできません。

1 [ユーザ管理] タブをクリックします。



ログインページが表示されます。

2 ［ユーザ名］ボックスに「Admin」と入力し、［パスワード］ボックスに管理者用のパスワードを入力して、［ログイン］をクリックします。



ユーザ情報一覧サブメニューページが表示されます。

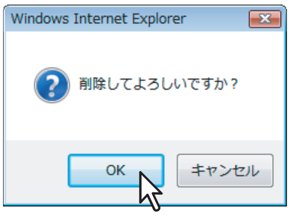
補 足

- アカウントマネージャの権限を持つユーザ名、ドメイン名（Windowsドメイン認証有効時のみ）とパスワードを使ってログインすることもできます。
- 管理者でログインする場合は、ドメイン名を選択する必要はありません。

3 削除したいユーザのチェックボックスをオンにし、［削除］をクリックします。

確認ダイアログボックスが表示されます。

4 ［OK］をクリックします。



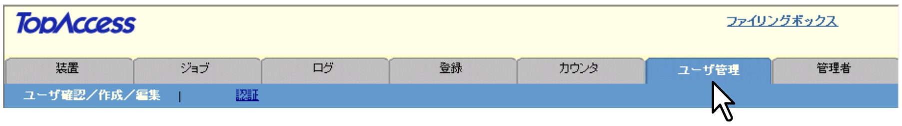
ユーザ情報を削除します。

すべてのユーザ情報を削除する

注 意

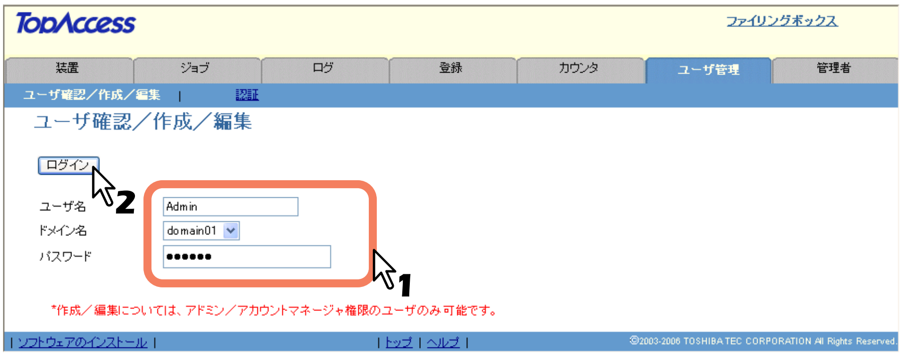
- ユーザから実行されたジョブが処理中の場合、または操作パネルにログイン中の場合、そのユーザの情報を削除することはできません。
- ［未定義］ユーザの情報を削除することはできません。

1 ［ユーザ管理］タブをクリックします。



ログインページが表示されます。

2 ［ユーザ名］ボックスに「Admin」と入力し、［パスワード］ボックスに管理者用のパスワードを入力して、［ログイン］をクリックします。



ユーザ情報一覧サブメニューページが表示されます。

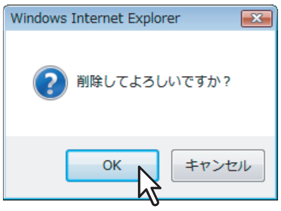
補 足

- アカウントマネージャの権限を持つユーザ名、ドメイン名（Windowsドメイン認証有効時のみ）とパスワードを使ってログインすることもできます。
- 管理者でログインする場合は、ドメイン名を選択する必要はありません。

3 ［全削除］をクリックします。

確認ダイアログボックスが表示されます。

4 ［OK］をクリックします。



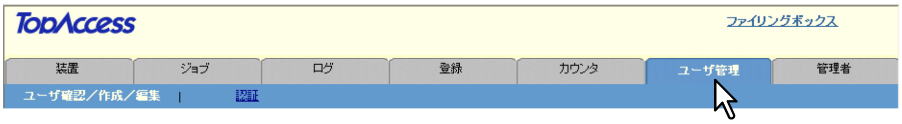
ユーザ情報をすべて削除します。

特定のユーザのカウンタをリセットする

注 意

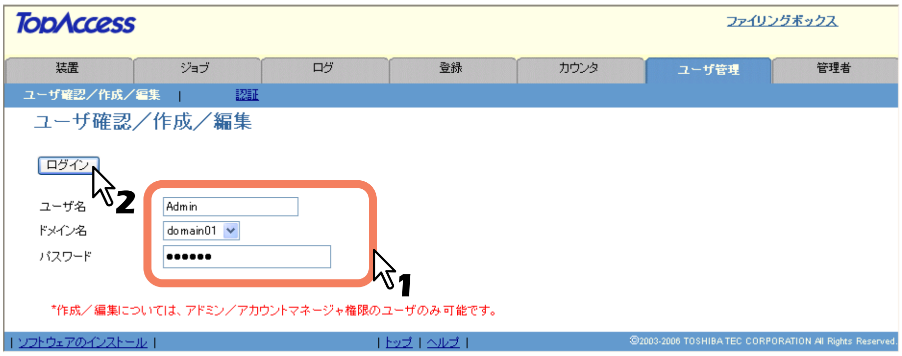
ユーザから実行されたジョブが処理中の場合、または操作パネルにログイン中の場合、そのユーザのカウンタをリセットすることはできません。

1 ［ユーザ管理］タブをクリックします。



ログインページが表示されます。

2 ［ユーザ名］ボックスに「Admin」と入力し、［パスワード］ボックスに管理者用のパスワードを入力して、［ログイン］をクリックします。



ユーザ情報一覧サブメニューページが表示されます。

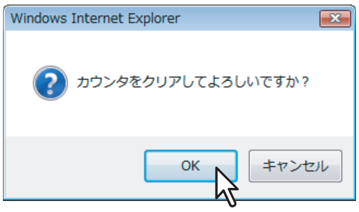
補 足

- アカウントマネージャの権限を持つユーザ名、ドメイン名（Windowsドメイン認証有効時のみ）とパスワードを使ってログインすることもできます。
- 管理者でログインする場合は、ドメイン名を選択する必要はありません。

3 カウンタをリセットしたいユーザのチェックボックスをオンにし、［カウンタクリア］をクリックします。

確認ダイアログボックスが表示されます。

4 ［OK］をクリックします。



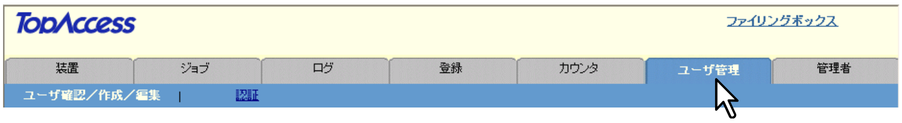
ユーザ情報のカウンタをリセットします。

すべてのユーザのカウンタをリセットする

注 意

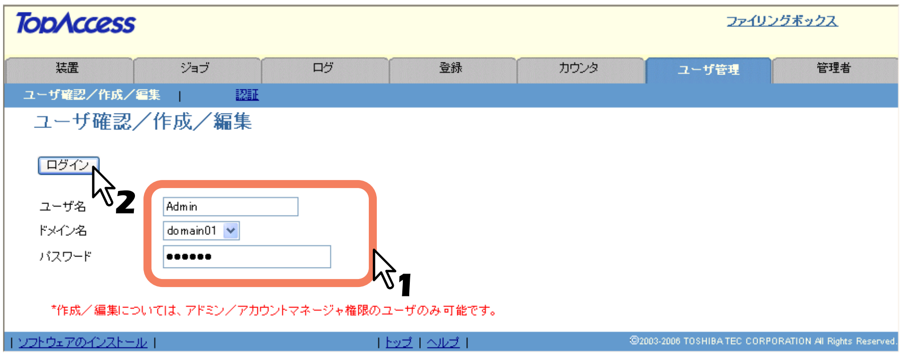
ユーザから実行されたジョブが処理中の場合、または操作パネルにログイン中の場合、そのユーザのカウンタをリセットすることはできません。

1 ［ユーザ管理］タブをクリックします。



ログインページが表示されます。

2 ［ユーザ名］ボックスに「Admin」と入力し、［パスワード］ボックスに管理者用のパスワードを入力して、［ログイン］をクリックします。



ユーザ情報一覧サブメニューページが表示されます。

補 足

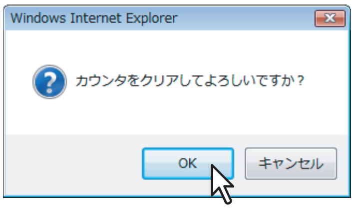
- アカウントマネージャの権限を持つユーザ名、ドメイン名（Windowsドメイン認証有効時のみ）とパスワードを使ってログインすることもできます。
- 管理者でログインする場合は、ドメイン名を選択する必要はありません。

7 TopAccess（管理者モード）

3 ［全カウンタクリア］をクリックします。

確認ダイアログボックスが表示されます。

4 ［OK］をクリックします。



すべてのユーザ情報のカウンタをリセットします。

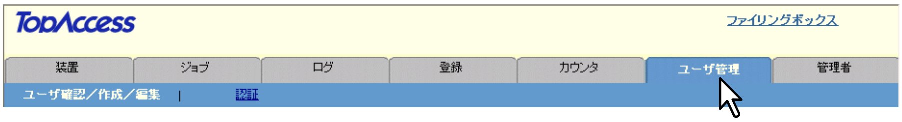
ユーザ情報をエクスポートする

本機に設定されたユーザ情報をエクスポートすることができます。

注 意

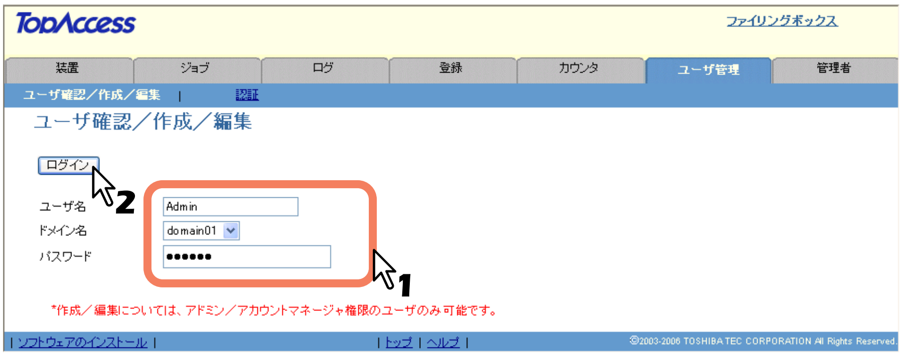
ユーザ情報データをエクスポートする前に、現在処理中のジョブや、プライベート印刷ジョブ、ホールド印刷ジョブ、予約印刷ジョブ、お試し印刷ジョブがないことを確認してください。これらのジョブがある場合、ユーザ情報データをエクスポートすることができません。それでもユーザ情報データのエクスポートに時間がかかる場合は、本機がスリープモードに入ってからデータのエクスポートを行ってください。ユーザ情報の件数が多い場合や、ユーザ名やドメイン名が長いデータを含む場合は、エクスポートに時間がかかることがあります。

1 ［ユーザ管理］タブをクリックします。



ログインページが表示されます。

2 ［ユーザ名］ボックスに「Admin」と入力し、［パスワード］ボックスに管理者用のパスワードを入力して、［ログイン］をクリックします。



ユーザ情報一覧サブメニューページが表示されます。

補 足

- アカウントマネージャの権限を持つユーザ名、ドメイン名（Windowsドメイン認証有効時のみ）とパスワードを使ってログインすることもできます。
- 管理者でログインする場合は、ドメイン名を選択する必要はありません。

3 画面右上にある［エクスポート／インポート］リンクをクリックします。

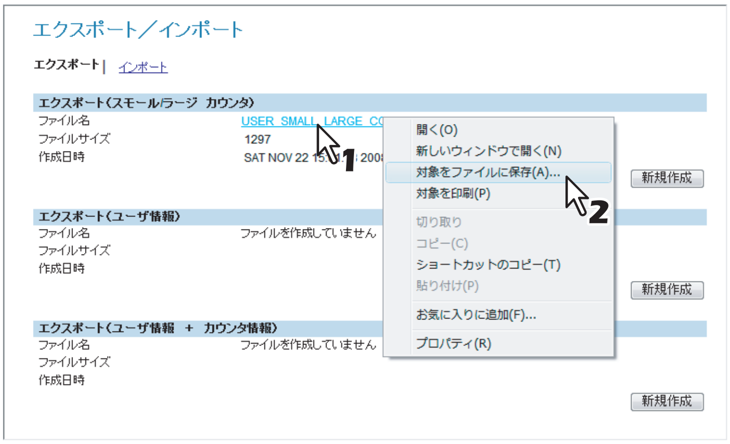
エクスポート／インポートページが表示されます。

4 ［新規作成］をクリックします。

補 足

以前にユーザ情報をエクスポートした場合は、エクスポートしたファイルのリンクと情報が表示されます。リンクをクリックすると、以前にエクスポートしたファイルを保存することができます。

5 ［ファイル名］リンクを右クリックし、［対象をファイルに保存］を選択します。

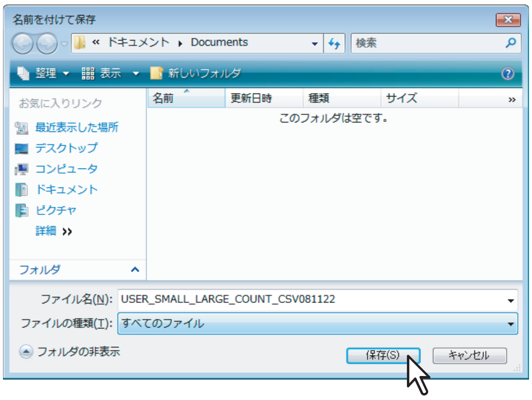


［名前を付けて保存］ダイアログボックスが表示されます。

注 意

- ［ファイル名］リンクが表示されない、またはアップデートされない場合は、ウィンドウをいったん閉じ、もう一度表示してみてください。ファイルの作成には、数分かかることがあります。
- スモール/ラージ カウンタのCSVファイルをインポートすることはできません。

6 ファイルの保存先を選択し、［ファイルの種類］ボックスで［すべてのファイル］を選択して、［保存］をクリックします。



ユーザ情報データを含むCSVファイルが選択した場所に保存されます。

ユーザ情報をインポートする

他のe-STUDIO6530C Series、e-STUDIO4520C Series、e-STUDIO3510C Series、e-STUDIO451C Series、e-STUDIO855 Series、e-STUDIO850 Series、e-STUDIO455 Series、e-STUDIO452 Series、またはe-STUDIO282 SeriesからCSVファイルとしてエクスポートされたユーザ情報をインポートすることができます。
取り込むファイルは、TopAccessのユーザ情報データのフォーマットに準じたカンマ区切りのCSV形式で作成されている必要があります。

注 意

- ユーザ情報をインポートすると、過去データはすべて破棄され新しいデータに置き換わります。
- ユーザ情報データをインポートする前に、現在処理中のジョブや、プライベート印刷ジョブ、ホールド印刷ジョブ、予約印刷ジョブ、お試し印刷ジョブがないことを確認してください。これらのジョブがある場合、ユーザ情報データをインポートすることができません。それでもユーザ情報データのインポートに時間がかかる場合は、本機がスリープモードに入ってからデータのインポートを行ってください。ユーザ情報の件数が多い場合や、ユーザ名やドメイン名が長いデータを含む場合は、インポートに時間がかかることがあります。
- CSV ファイルをインポートする前に必要なデータが入力されているか確認してください。必要なデータは認証方式によって異なります。

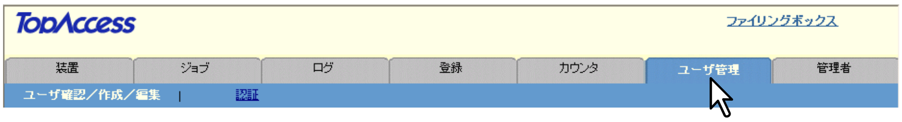
＊ ○ = 必要　× = 不要

項目	Windows ドメイン	LDAP	Local	補足
UserId	○	○	○	
Username	○	○	○	
Password	×	×	○	WindowsドメインE認証またはLDAP認証のときは、値を削除する必要があります。
Domainname	○	×	×	LDAP認証または内部認証時は値を削除する必要があります。
Department Code	○	○	○	
Access Manager	×	×	×	値が空白の場合は、［0］が設定されます。 0 = 無効 1 = 有効
Rolebase	×	×	×	値が空白の場合は、［0］が設定されます。 0 = 無効 1 = 有効
Set limitation of full color	×	×	×	値が空白の場合または無効な値が入力されていた場合は、[OFF]が設定されます。
Maximum reached for Full Color output	×	×	×	
Set limitation of Black	×	×	×	値が空白の場合または無効な値が入力されていた場合は、[OFF]が設定されます。
Maximum reached for Black output	×	×	×	

＊ 「Set limitation of full color」、「Maximum reached for Full Color output」は、e-STUDIO4520C Seriesおよびe-STUDIO6530C Seriesで使用できます。

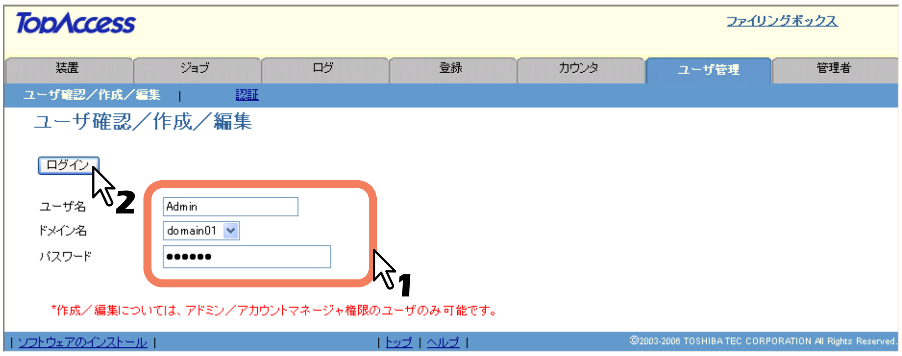
- インポートするCSVファイルでは、UserIdやUsernameが重複しないように注意してください。UserIdやUsernameが重複していると、CSVファイルをインポートしても、ユーザ情報が正しく登録されません。
- ユーザ情報をインポート時に印刷ジョブが送られてきた場合は、印刷ジョブを受け付けられないという警告メッセージを表示します。また、ユーザ情報をインポート時にファクスを受信した場合は、受信を開始できずに呼び出し音が鳴り続けます。

1 ［ユーザ管理］タブをクリックします。



ログインページが表示されます。

2 ［ユーザ名］ボックスに「Admin」と入力し、［パスワード］ボックスに管理者用のパスワードを入力して、［ログイン］をクリックします。



ユーザ情報一覧サブメニューページが表示されます。

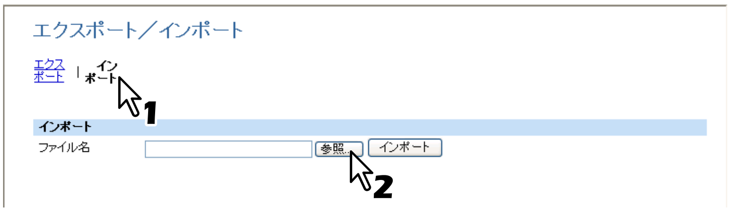
補 足

- アカウントマネージャの権限を持つユーザ名、ドメイン名（Windowsドメイン認証有効時のみ）とパスワードを使ってログインすることもできます。
- 管理者でログインする場合は、ドメイン名を選択する必要はありません。

3 画面右上にある［エクスポート／インポート］リンクをクリックします。

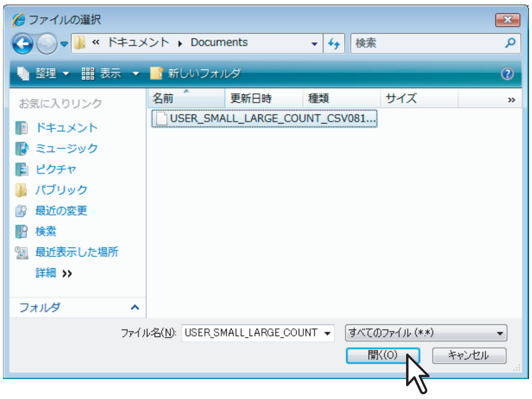
エクスポート／インポートページが表示されます。

4 ［インポート］メニューをクリックし、［参照］をクリックします。



［ファイルの選択］ダイアログボックスが表示されます。

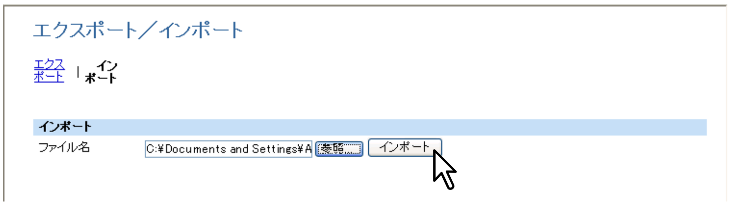
5 目的のユーザ情報データを含むCSVファイルを選択し、［開く］をクリックします。



注 意

スモール/ラージ カウンタのCSVファイルをインポートすることはできません。

6 ［インポート］をクリックします。

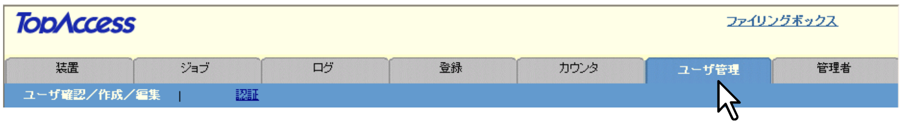


データが本機のユーザ情報にインポートされます。

ユーザ情報を確認する

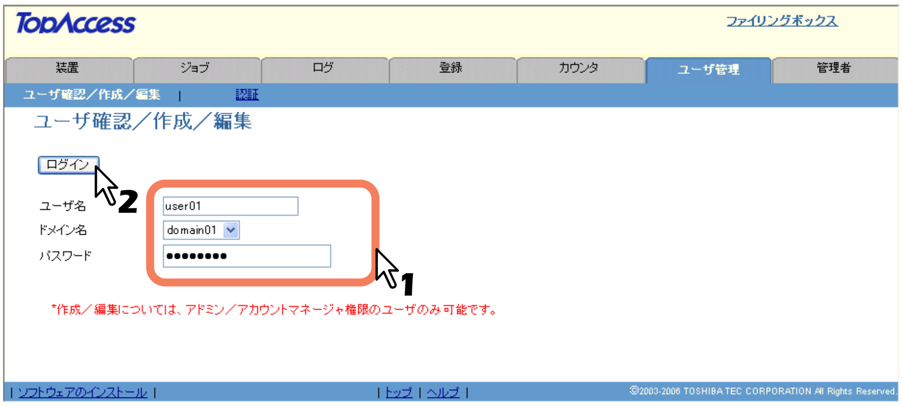
［ユーザ確認／作成／編集］メニューに登録ユーザ名とパスワードでログインすると、自分のユーザ情報を確認することができます。ロールベースアクセスを有効にしている場合は、許可されている機能を確認することもできます。

1 ［ユーザ管理］タブをクリックします。

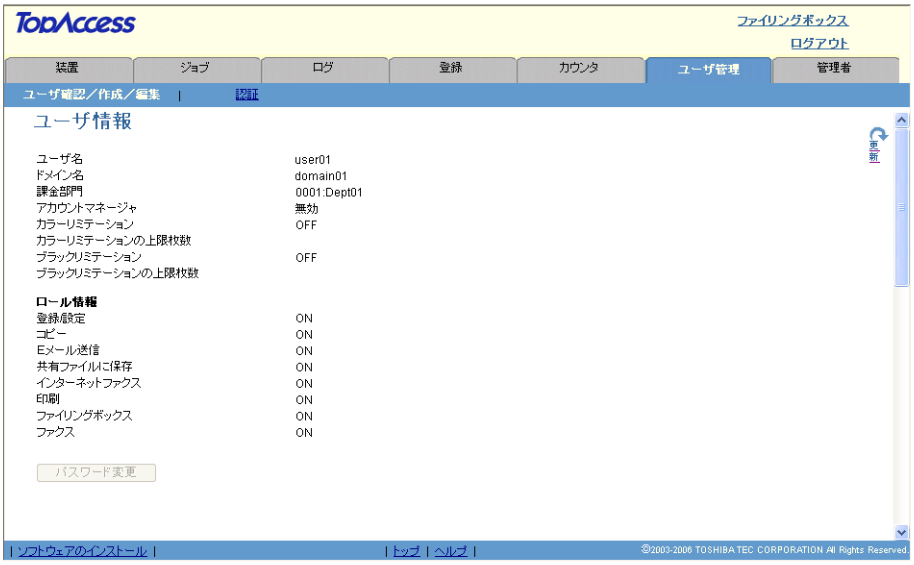


ログインページが表示されます。

2 ［ユーザ名］ボックスにユーザ名を入力し、ドメイン名を選択し（Windowsドメイン認証時のみ）、［パスワード］ボックスに自分のパスワードを入力して、［ログイン］をクリックします。



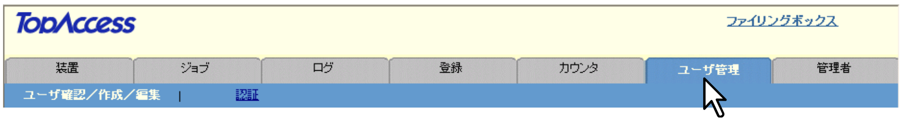
3 ユーザ情報ページが表示されます。



ユーザによるパスワード変更（内部認証時のみ）

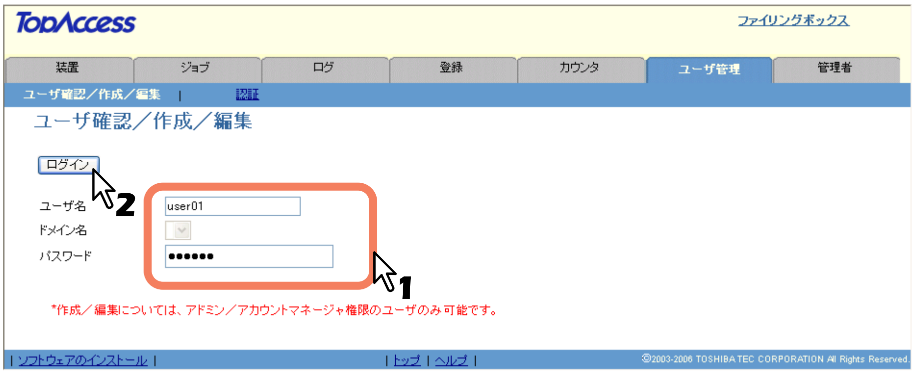
内部認証が有効になっている場合は、管理者だけでなくそれぞれの登録ユーザも自分のパスワードを変更することができます。

1 ［ユーザ管理］タブをクリックします。



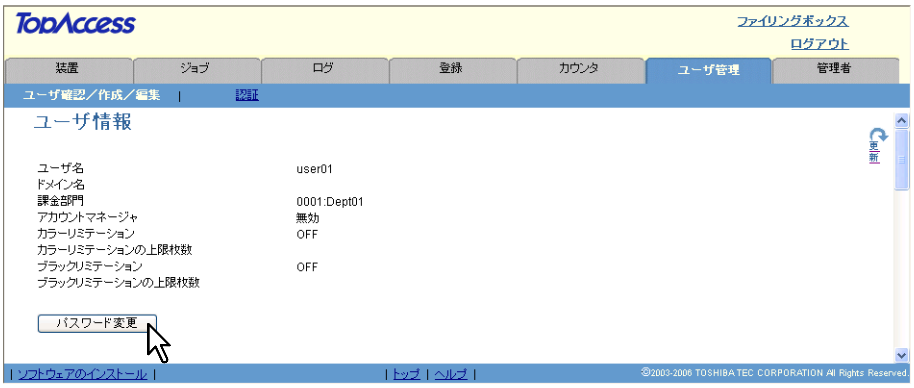
ログインページが表示されます。

2 ［ユーザ名］ボックスにユーザ名を入力し、ドメイン名を選択し（Windowsドメイン認証時のみ）、［パスワード］ボックスに自分のパスワードを入力して、［ログイン］をクリックします。



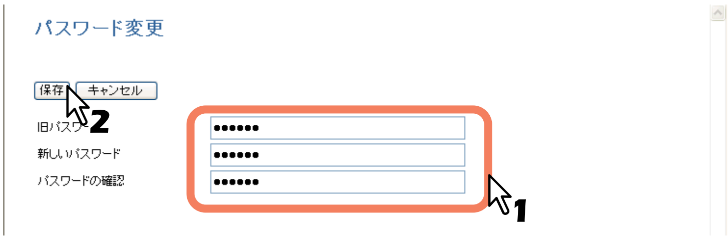
ユーザ情報ページが表示されます。

3 ［パスワード変更］をクリックします。



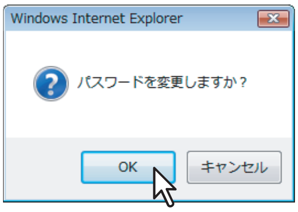
パスワード変更ページが表示されます。

4 以下の項目を入力し、［保存］をクリックします。



旧パスワード：現在のパスワードを入力します。
新しいパスワード：新しいパスワードを入力します。
パスワードの確認：［新しいパスワード］に入力したパスワードをもう一度入力します。

5 ［OK］をクリックします。



パスワードが変更されます。

■ ロール情報を設定する

ロール情報は、XML形式のファイルで本機に設定します。本機に設定されたロール情報をエクスポートすることができます。
他のe-STUDIO6530C Series、e-STUDIO4520C Series、e-STUDIO3510C Series、e-STUDIO451C Series、e-STUDIO855 Series、e-STUDIO850 Series、e-STUDIO455 Series、e-STUDIO452 Series、またはe-STUDIO282 SeriesからXMLファイルとしてエクスポートされたロール情報をインポートすることができます。
インポートするファイルは、TopAccessのロール情報データのフォーマットに準じたXML形式で作成されている必要があります。

補 足

ロール情報を編集する場合は、エクスポートしたロール情報設定ファイルに記載された情報を参照してください。

注 意

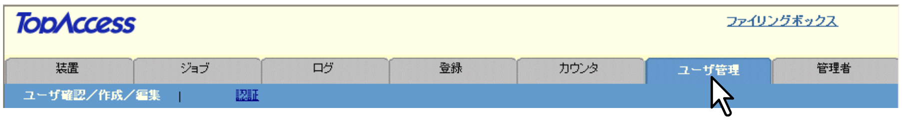
Web Serviceスキャンは、ユーザ管理による制限を与えることができません。

□ ロール情報を確認する

［ユーザ確認／作成／編集］メニューの［ロール情報］サブメニューでロール情報で設定されている機能を確認することができます。

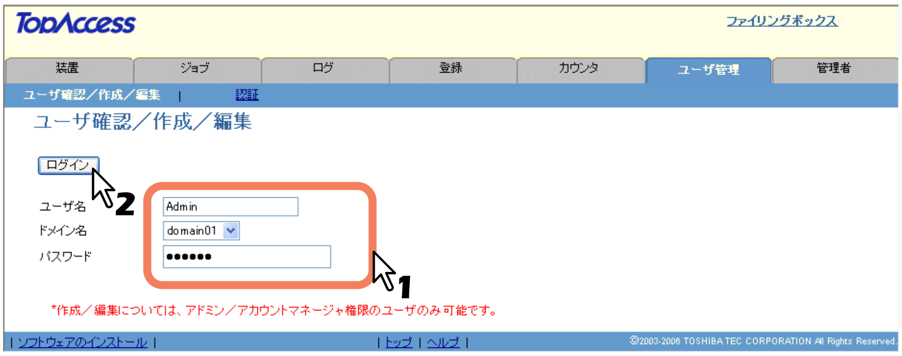
ロール情報を確認する

1 ［ユーザ管理］タブをクリックします。



ログインページが表示されます。

2 ［ユーザ名］ボックスに「Admin」と入力し、［パスワード］ボックスに管理者用のパスワードを入力して、［ログイン］をクリックします。



ユーザ情報一覧サブメニューページが表示されます。

補 足

- アカウントマネージャの権限を持つユーザ名、ドメイン名（Windowsドメイン認証有効時のみ）とパスワードを使ってログインすることもできます。
- 管理者でログインする場合は、ドメイン名を選択する必要はありません。

3 ［ロール情報］サブメニューをクリックします。

ロール情報ページが表示されます。

4 **画面右上にある［エクスポート／インポート］リンクをクリックします。**

エクスポート／インポートページが表示されます。

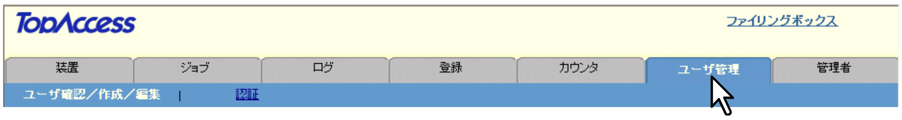
□ ロール情報をエクスポート／インポートする

［ユーザ確認／作成／編集］メニューの［ロール情報］サブメニューでロール情報のインポート／エクスポートを行います。

📖 P.309 「ロール情報をエクスポートする」
📖 P.311 「ロール情報をインポートする」

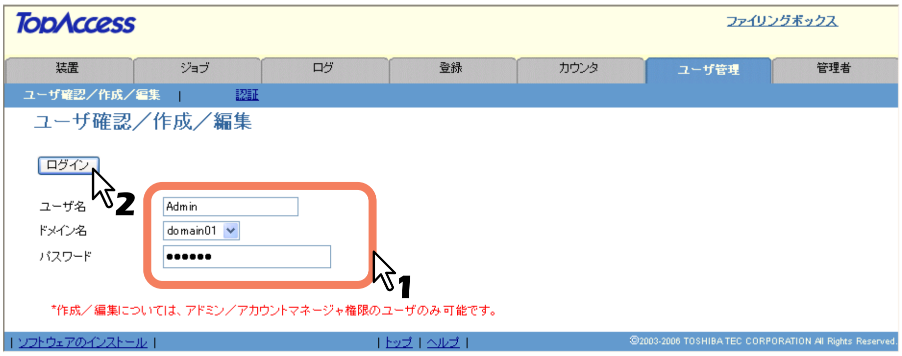
ロール情報をエクスポートする

1 **［ユーザ管理］タブをクリックします。**



ログインページが表示されます。

2 **［ユーザ名］ボックスに「Admin」と入力し、［パスワード］ボックスに管理者用のパスワードを入力して、［ログイン］をクリックします。**



ユーザ情報一覧サブメニューページが表示されます。

補 足

- アカウントマネージャの権限を持つユーザ名、ドメイン名（Windowsドメイン認証有効時のみ）とパスワードを使ってログインすることもできます。
- 管理者でログインする場合は、ドメイン名を選択する必要はありません。

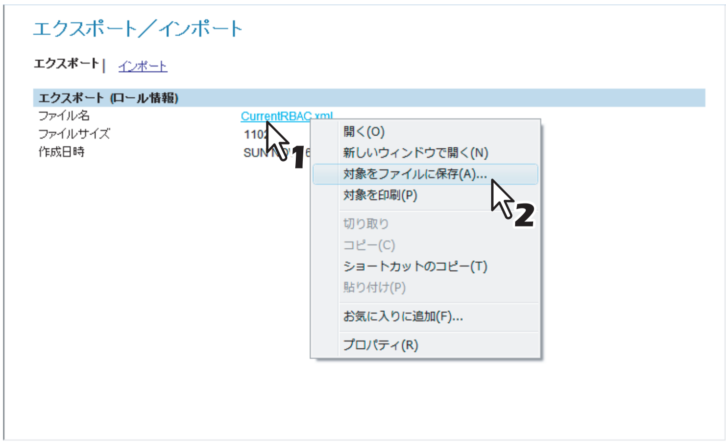
3 ［ロール情報］サブメニューをクリックします。

ロール情報ページが表示されます。

4 画面右上にある［エクスポート／インポート］リンクをクリックします。

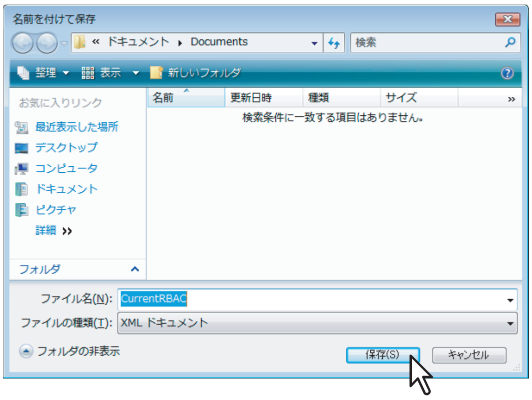
エクスポート／インポートページが表示されます。

5 ［ファイル名］リンクを右クリックし、［対象をファイルに保存］を選択します。



［名前を付けて保存］ダイアログボックスが表示されます。

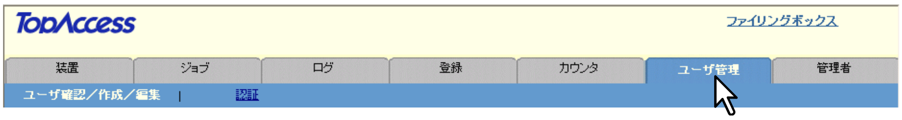
6 ファイルの保存先を選択し、［保存］をクリックします。



ロール情報データを含むXMLファイルが選択した場所に保存されます。

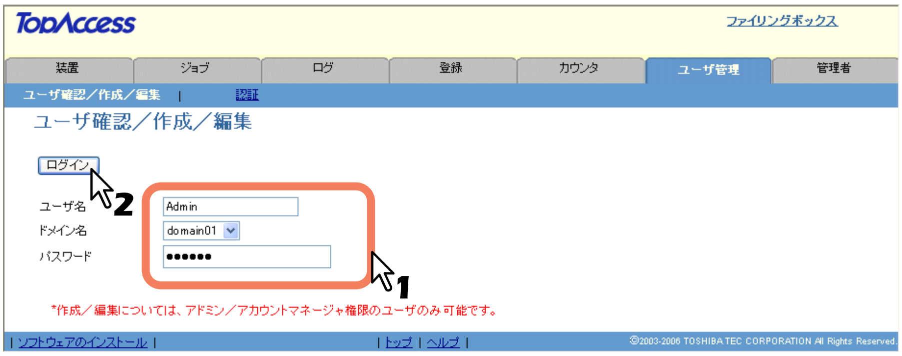
ロール情報をインポートする

1 ［ユーザ管理］タブをクリックします。



ログインページが表示されます。

2 ［ユーザ名］ボックスに「Admin」と入力し、［パスワード］ボックスに管理者用のパスワードを入力して、［ログイン］をクリックします。



ユーザ情報一覧サブメニューページが表示されます。

補 足

- アカウントマネージャの権限を持つユーザ名、ドメイン名（Windowsドメイン認証有効時のみ）とパスワードを使ってログインすることもできます。
- 管理者でログインする場合は、ドメイン名を選択する必要はありません。

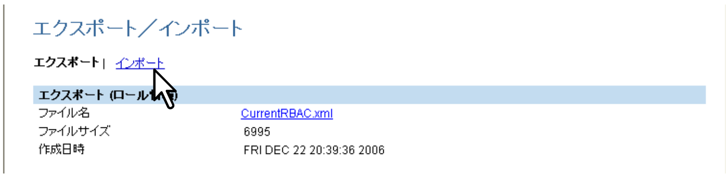
3 ［ロール情報］サブメニューをクリックします。

ロール情報ページが表示されます。

4 画面右上にある［エクスポート／インポート］リンクをクリックします。

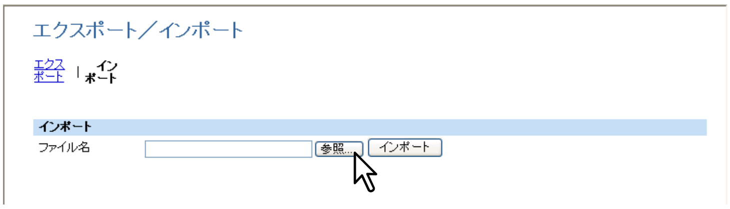
エクスポート／インポートページが表示されます。

5 ［インポート］メニューをクリックします。



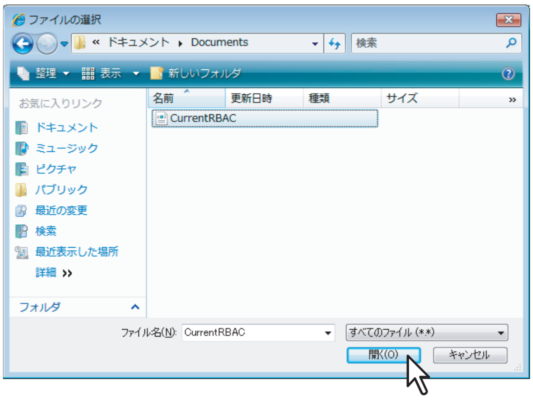
インポートページが表示されます。

6 ［参照］をクリックします。

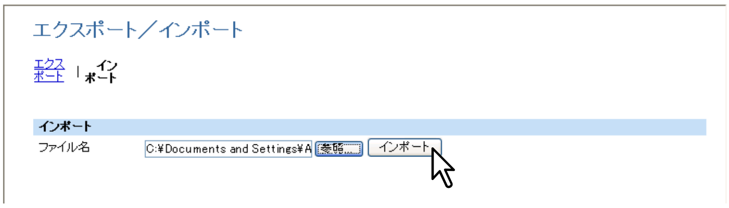


［ファイルの選択］ダイアログボックスが表示されます。

7 目的のユーザ情報データを含むXMLファイルを選択し、［開く］をクリックします。



8 ［インポート］をクリックします。



データが本機のロール情報にインポートされます。

■ Eメール送信のユーザ認証を設定する

Eメール送信のユーザ認証を有効にすると、スキャン画面からEメール送信を行う際に、ユーザはユーザ名とパスワードの入力が必要になります。

Eメール送信のユーザ認証では、SMTP認証またはLDAP認証のいずれかを利用することができます。

- SMTP認証
  本機をSMTP認証を使って管理することができます。
  SMTP認証を有効にした場合、ユーザはSMTPサーバーに登録されているユーザ名およびパスワードを入力すると、本機の操作パネルからEメール送信操作を行うことができます。
  📖 P.314 「Eメール送信のユーザ認証（SMTP）を設定する」
- LDAP認証
  ネットワークユーザをLDAPで管理しているネットワークでは、本機をLDAP認証を使って管理することができます。
  LDAP認証を有効にした場合、ユーザはLDAPサーバーに登録されているユーザ名およびパスワードを入力すると、本機の操作パネルからEメール送信操作を行うことができます。
  📖 P.317 「Eメール送信のユーザ認証（LDAP）を設定する」

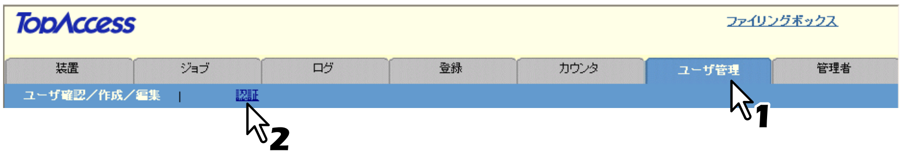
注 意

Eメール送信のユーザ認証を有効にした場合、通知設定が有効になっていても、管理者に通知されない場合があります。SMTPクライアント設定でログイン名、パスワードを設定するようにしてください。

📖 P.139 「SMTPクライアントの設定」

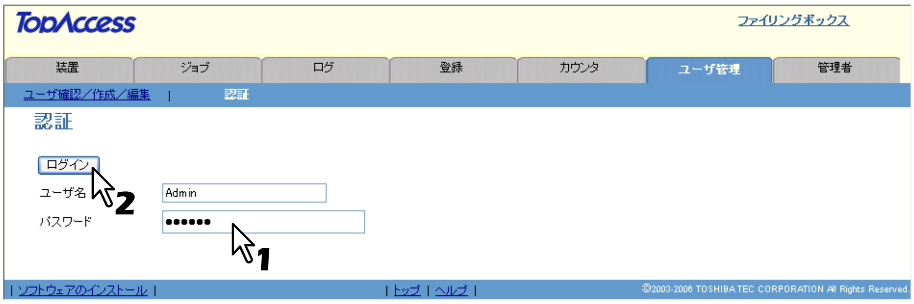
Eメール送信のユーザ認証（SMTP）を設定する

1 **[ユーザ管理] タブをクリックし、[認証] メニューをクリックします。**



ログインページが表示されます。

2 **[パスワード] ボックスに管理者用のパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。**

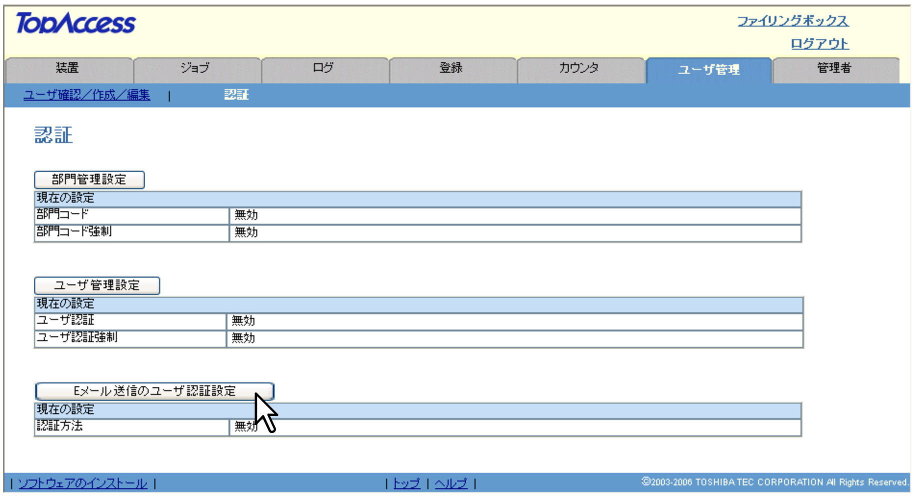


- ユーザ名のボックスは変更しないでください。TopAccessの管理者モードのログイン時は、常に「Admin」でログインする必要があります。
- 認証ページが表示されます。

補 足

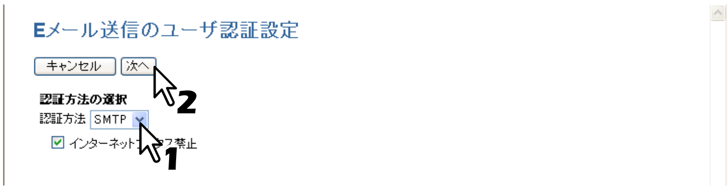
工場出荷時の状態では、管理者パスワードは「123456」に設定されています。

3 **［Eメール送信のユーザ認証設定］をクリックします。**



Eメール送信のユーザ認証設定ページが表示されます。

4 **［認証方法］ボックスで［SMTP］を選択し、［次へ］をクリックします。**



補 足

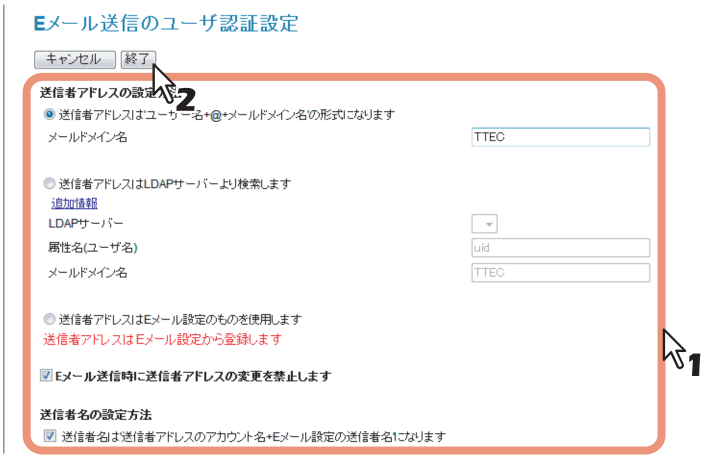
- 本機はEメール送信にユーザ認証を設定することはできますが、インターネットファクス送信にユーザ認証を設定することはできません。ユーザにインターネットファクス送信を許可したくない場合は、［インターネットファクス禁止］チェックボックスをオンにします。［インターネットファクス禁止］チェックボックスをオンにすると、すべてのユーザはインターネットファクス送信を操作することができなくなります。
- ユーザ認証を無効にしたい場合は、［認証方法］ボックスで［無効］を選択し［次へ］をクリックします。

5 **SMTPサーバーのIPアドレスまたはFQDNを入力し、［認証］ボックスで認証方法を選択して、［次へ］をクリックします。**

補 足

ネットワーク設定ページで、すでにSMTPクライアントを設定している場合は、SMTPクライアントで設定した値をそれぞれの項目に反映した状態で表示されます。

6 Eメール送信の送信者アドレスの取得方法を指定し、［終了］をクリックします。



- **送信者アドレスは'ユーザ名+@+メール名'の形式になります**
  送信者アドレスを、「ユーザ名＋@＋メールドメイン名」の形式で設定します。「ユーザ名」には、認証時にタッチパネルで入力したユーザ名が使用されます。「メールドメイン名」には、［メールドメイン名］ボックスで設定したドメイン名が使用されます。
  これを選択した場合は、［メールドメイン名］ボックスを入力します。
- **送信者アドレスはLDAPサーバーより検索します**
  LDAPアドレスから検索した送信者アドレスを設定します。
  これを選択した場合、指定したLDAPサーバーの［属性名（ユーザ名）］で指定したスキーマから認証時にタッチパネルで入力したユーザ名を検索します。
  入力したユーザ名が指定したスキーマから見つかった場合は、そのユーザ名に登録されているEメールアドレスを送信者アドレスとして設定します。
  入力したユーザ名が指定したスキーマから見つからなかった場合は、送信者アドレスを、「ユーザ名＋@＋メールドメイン名」の形式で設定します。「ユーザ名」には、認証時にタッチパネルで入力したユーザ名が使用されます。「メールドメイン名」には、［メールドメイン名］ボックスで設定したドメイン名が使用されます。
  これを選択した場合は、［LDAPサーバー］ボックスで検索するLDAPサーバー名を、［属性名（ユーザ名）］ボックスでユーザ名を検索するスキーマを、［メールドメイン名］ボックスでLDAPサーバーで検索できなかった場合に使用するメールドメイン名を指定します。
- **送信者アドレスはEメール設定のものを使用します**
  Eメール設定で指定した送信者アドレスを設定します。
- **Eメール送信時に送信者アドレスの変更を禁止します**
  Eメール送信操作時に、送信者アドレスの変更を許可しない場合は、このチェックボックスをオンにします。
- **送信者名は'送信者アドレスのアカウント名+Eメール設定の送信者名'になります**
  Eメール送信時の送信者名を、「アカウント名＋スペース＋Eメール設定の送信者名」の形式で設定する場合は、このチェックボックスをオンにします。「アカウント名」には送信者アドレスの@より前の文字列が使用されます。「Eメール設定の送信者名」には［管理者］タブ、［セットアップ］メニュー、［Eメール］サブメニューの［送信者名］が使用されます。

7 ［終了］をクリックします。

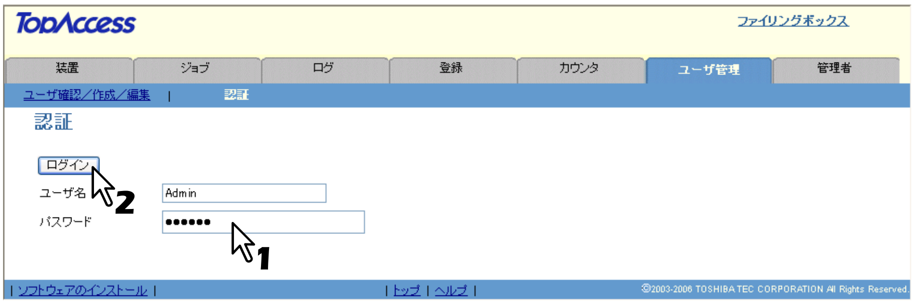
Eメール送信のユーザ認証が有効になります。

Eメール送信のユーザ認証（LDAP）を設定する

1 **［ユーザ管理］タブをクリックし、［認証］メニューをクリックします。**

ログインページが表示されます。

2 **［パスワード］ボックスに管理者用のパスワードを入力し、［ログイン］をクリックします。**

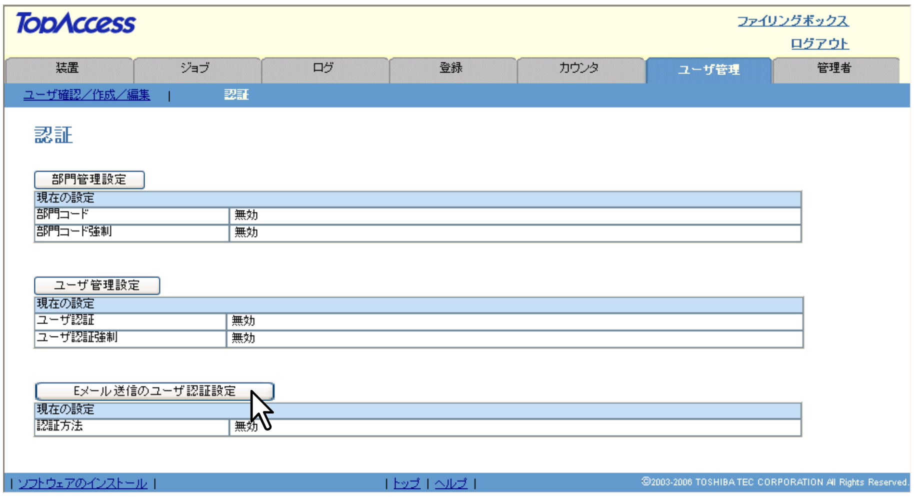


- ユーザ名のボックスは変更しないでください。TopAccessの管理者モードのログイン時は、常に「Admin」でログインする必要があります。
- 認証ページが表示されます。

補 足

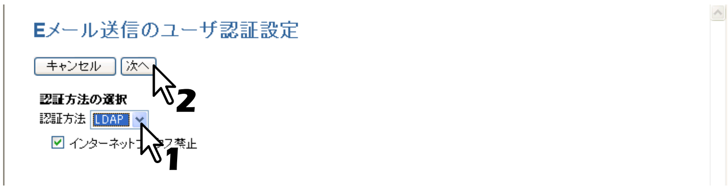
工場出荷時の状態では、管理者パスワードは「123456」に設定されています。

3 **［Eメール送信のユーザ認証設定］をクリックします。**



Eメール送信のユーザ認証設定ページが表示されます。

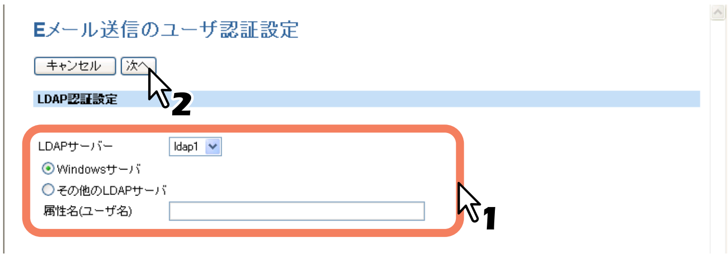
4 ［認証方法］ボックスで［LDAP］を選択し、［次へ］をクリックします。



補 足

- 本機はEメール送信にユーザ認証を設定することはできますが、インターネットファクス送信にユーザ認証を設定することはできません。ユーザにインターネットファクス送信を許可したくない場合は、［インターネットファクス禁止］チェックボックスをオンにします。［インターネットファクス禁止］チェックボックスをオンにすると、すべてのユーザはインターネットファクス送信を操作することができなくなります。
- ユーザ認証を無効にしたい場合は、［認証方法］ボックスで［無効］を選択し［次へ］をクリックします。

5 認証に使用するLDAPサーバーを選択し、LDAPサーバーの種類を選択して、［次へ］をクリックします。

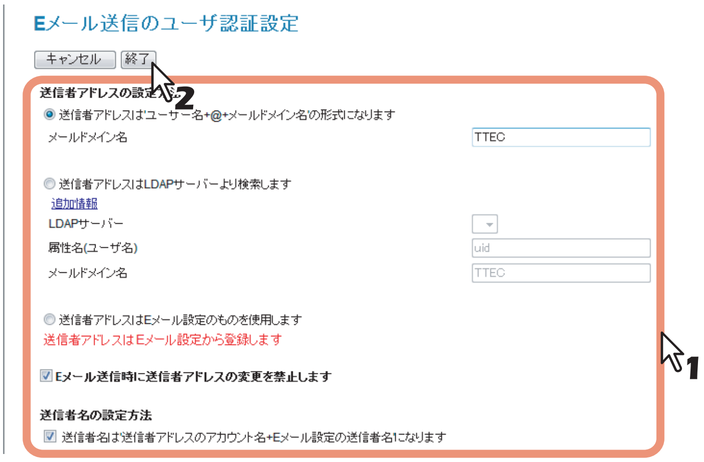


Windowsサーバ：Windowsサーバーを使用してLDAPを設定している場合に選択します。
その他のLDAPサーバ：Windowsサーバー以外のOSを使ってLDAPを設定している場合に選択します。Windowsサーバー以外のOSを使っている場合は、LDAPに登録されたユーザ名の属性名を入力します。

補 足

認証に使用するLDAPサーバーは、あらかじめ［保守］メニューの［LDAPサービス］サブメニューで登録しておく必要があります。
📖 P.227 「LDAPサービスを登録する」

6 Eメール送信の送信者アドレスの取得方法を指定し、［終了］をクリックします。



- **送信者アドレスは'ユーザ名+@+メール名'の形式になります**
  送信者アドレスを、「ユーザ名＋@＋メールドメイン名」の形式で設定します。「ユーザ名」には、認証時にタッチパネルで入力したユーザ名が使用されます。「メールドメイン名」には、［メールドメイン名］ボックスで設定したドメイン名が使用されます。
  これを選択した場合は、［メールドメイン名］ボックスを入力します。

- **送信者アドレスはLDAPサーバーより検索します**
  LDAPアドレスから検索した送信者アドレスを設定します。
  これを選択した場合、指定したLDAPサーバーの［属性名（ユーザ名）］で指定したスキーマから認証時にタッチパネルで入力したユーザ名を検索します。
  入力したユーザ名が指定したスキーマから見つかった場合は、そのユーザ名に登録されているEメールアドレスを送信者アドレスとして設定します。
  入力したユーザ名が指定したスキーマから見つからなかった場合は、送信者アドレスを、「ユーザ名＋@＋メールドメイン名」の形式で設定します。「ユーザ名」には、認証時にタッチパネルで入力したユーザ名が使用されます。「メールドメイン名」には、［メールドメイン名］ボックスで設定したドメイン名が使用されます。
  これを選択した場合は、［LDAPサーバー］ボックスで検索するLDAPサーバー名を、［属性名（ユーザ名）］ボックスでユーザ名を検索するスキーマを、［メールドメイン名］ボックスでLDAPサーバーで検索できなかった場合に使用するメールドメイン名を指定します。
- **送信者アドレスはEメール設定のものを使用します**
  Eメール設定で指定した送信者アドレスを設定します。
- **Eメール送信時に送信者アドレスの変更を禁止します**
  Eメール送信操作時に、送信者アドレスの変更を許可しない場合は、このチェックボックスをオンにします。
- **送信者名は'送信者アドレスのアカウント名+Eメール設定の送信者名'になります**
  Eメール送信時の送信者名を、「アカウント名＋スペース＋Eメール設定の送信者名」の形式で設定する場合は、このチェックボックスをオンにします。「アカウント名」には送信者アドレスの@より前の文字列が使用されます。「Eメール設定の送信者名」には［管理者］タブ、［セットアップ］メニュー、［Eメール］サブメニューの［送信者名］が使用されます。

7 **［終了］をクリックします。**
Eメール送信のユーザ認証が有効になります。

8

オプション機能の設定

このセクションでは、TopAccessからオプション機能の設定をする方法について説明します。

オプション機能の設定について 322

IPセキュリティの設定 323

IPセキュリティをセットアップする 324

ポリシーを登録する 325

IPsec用証明書をインストールする 332

IPsecセッションをフラッシュする 339

メタスキャンの設定 340

メタスキャンテンプレートを登録または編集する 340

メタスキャンテンプレートをメンテナンスする 360

XMLフォーマットファイルをメンテナンスする 365

オプション機能の設定について

本機が以下のオプションを使用可能な場合、各オプションの機能をTopAccessから設定することができます。

IPsecオプション（GP-1080）

本機でIPsec（IP Security Protocol）を利用した暗号化通信が可能となります。TopAccessでは、IPsec機能の有効／無効の切り替えや、IPsecに使用するフィルタ・IKEキー・プロファイル・ポリシーの登録・編集・削除が設定できます。

P.323 「IPセキュリティの設定」

メタスキャンオプション（GS-1010）：

本機でスキャンした画像データにメタデータ（XMLファイル）を添付して送信する「メタスキャン機能」が可能となります。たとえば、スキャンした画像データの処理方法を定義したメタデータと、文書の回覧や保管を行うワークフローシステムを連動させることで、本機でスキャンした文書の画像データをワークフローで自動処理させるドキュメントソリューション環境を構築することなどができます。

TopAccessでは、メタスキャン用のテンプレートの登録や、メタデータの内容を定義するXMLフォーマットファイルのインポートなどができます。

P.340 「メタスキャンの設定」

外部連携オプション（GS-1020）：

本機の操作パネル上にWebページを表示させる「EWB（Embedded Web Browser）機能」や、本機のジョブ制御や保存データの参照などをリモート操作で行う「Web Service Interface機能」が可能となります。

TopAccessでは、EWB機能の使用時に、EWB機能のデフォルトページの設定と、本機で認証したユーザ情報を送信するサーバーの登録と削除ができます。

EWB機能の詳細につきましては、サービスエンジニアにお問い合わせください。

注 意

- TopAccess上に表示される各オプションの設定メニューは、各オプションが使用可能な場合のみ表示されます。
- 各オプションの設定は、管理者のみ設定することができます。

IPセキュリティの設定

IPセキュリティ機能を使用すると、IPsec（IP Security Protocol）による暗号化通信が可能となります。
IPセキュリティの設定では、IPsec通信の有効／無効の切り替えや、IPsecのフィルタ・IKEキー・プロファイル・ポリシーの登録・編集・削除を設定することができます。
P.324「IPセキュリティ設定のセットアップ手順」

注 意

- IPセキュリティ機能を使用するには、オプションのIPsecオプション（GP-1080）が必要です。
- TopAccess上に表示されるIPセキュリティの設定メニューは、IPセキュリティ機能が使用可能な場合のみ表示されます。（[管理者］タブ＞［セットアップ］メニュー＞［ネットワーク］サブメニュー＞［IPセキュリティ]）
- IPセキュリティの設定は、管理者のみ設定することができます。
- フィルタ機能は、IP セキュリティ機能のフィルタ設定よりも［フィルタリング］の設定の方が、より優先的に使用されます。
- IPsec通信が有効な場合、本機はスーパースリープモードに移行しません。
  P.116「節電モードの設定」

補 足

本機のIPセキュリティ機能には、フォールバック機能が搭載されています。本機がIKEv2で通信した際に、通信相手から通知ペイロードで「INVALID_MAJOR_VERSION 5」のNotify Message Typeを受信した場合は、自動的にIKEv2からIKEv1にフォールバックが行われます。

■ IPセキュリティをセットアップする

管理者は［セットアップ］メニューの［ネットワーク］サブメニューから、IPセキュリティ設定をセットアップすることができます。

IPセキュリティ設定のセットアップ手順

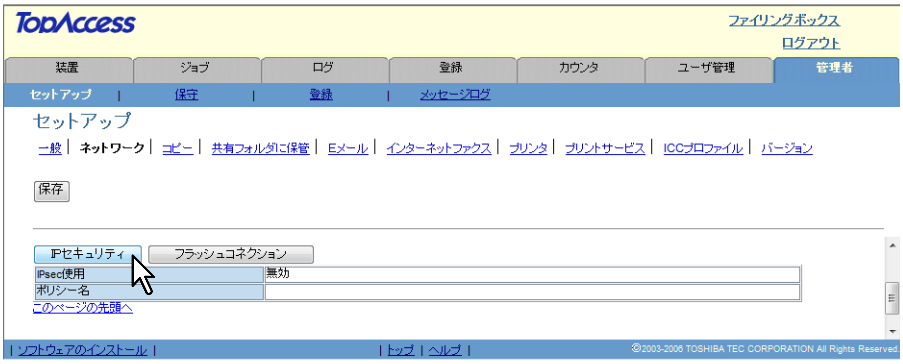
1 TopAccessの管理者モードを起動します。

📖 P.110「TopAccess管理者モードの起動」

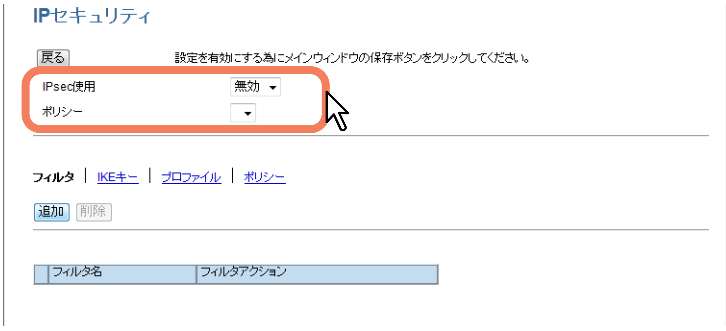
2 ［セットアップ］メニューをクリックし、［ネットワーク］サブメニューをクリックします。

📖 P.121「ネットワーク設定をセットアップする」

3 リンクをクリックするかページをスクロールして、［IPセキュリティ］をクリックします。



IPセキュリティの設定ページが表示されます。



IPセキュリティの設定ページでは、以下の項目を設定することができます。

IPsec使用：IPsecの有効／無効を設定します。

- **有効**：IPsecを有効にします。
- **無効**：IPsecを無効にします。

ポリシー：IPsecで使用するポリシーを選択します。

補 足

IPsecを有効にするには、ポリシーを選択する必要があります。ポリシーは、お使いになるIPsecの環境に合わせて設定し、本機にあらかじめ登録しておきます。ポリシーの登録方法については、以下の説明を参照してください。

📖 P.325「ポリシーを登録する」

IPsecメニュー：IPsecの詳細機能を設定するための各メニューへアクセスします。メニューを選択すると、各メニューの登録内容がリストで表示されます。各リストの内容は、編集・削除することもできます。各メニューの操作方法については、以下の説明を参照してください。

📖 P.325「ポリシーを登録する」

4 設定が完了したら［戻る］をクリックします。

IPセキュリティの設定ページを閉じます。

5 ［保存］をクリックします。

保存の確認ダイアログボックスが表示されます。

6 保存の確認ダイアログボックスの［OK］をクリックし、変更を適用します。

注 意

ネットワークインターフェイスカードを初期化中は、ネットワークが無効になり、TopAccessでは「2〜3分ほど待ってからつなぎ直してください。」が表示されます。また、本機のタッチパネルに「NIC初期化中」が表示されます。これらのメッセージが消えたら、TopAccessが再び使用できるようになります。

補 足

- IPsec通信のIKEの認証に証明書を使用する場合は、本機にIPsec用証明書をインストールする必要があります。詳細については、以下の説明を参照してください。
  📖 P.332 「IPsec用証明書をインストールする」
- IPsec通信に使用するキーの漏えいや、セキュリティへの侵害が発生した場合、フラッシュコネクション機能を使用して、現在のセッションを手動で消去（フラッシュ）し、新しいセッションを開始させることができます。また、何らかの理由によりSAD（Security Association Database）の情報を消去したい場合にも、フラッシュコネクション機能で情報を消去することができます。詳細については、以下の説明を参照してください。
  📖 P.339 「IPsecセッションをフラッシュする」

■ ポリシーを登録する

IPsecによる暗号化通信を行うには、お使いになる環境に合わせたIPsecのポリシーを作成する必要があります。ポリシーは、IKEによる鍵交換プロセスの設定や、通信を許可・拒否するアドレスなどを登録するフィルタ設定、セキュリティプロトコルとして使用するESPやAHの設定などを組み合わせて作成します。

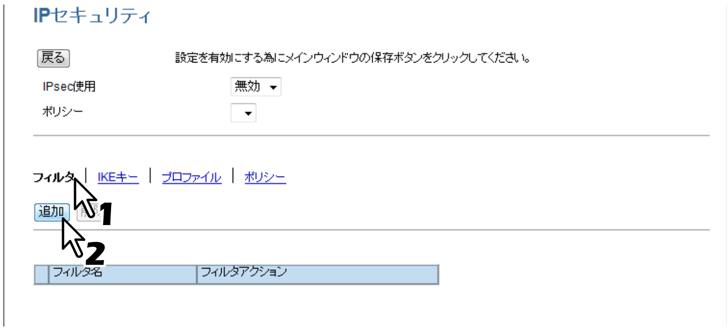
📖 P.325 「ポリシーを登録・編集する」
📖 P.331 「ポリシーを削除する」

□ ポリシーを登録・編集する

IPsecに必要なポリシーを定義します。まず、お使いになるIPsecの環境に合わせて「フィルタ」と「IKEキー」を作成し、それらを組み合わせて「プロファイル」を作成します。そして作成したプロファイルの中から利用するものを選択して「ポリシー」を作成します。

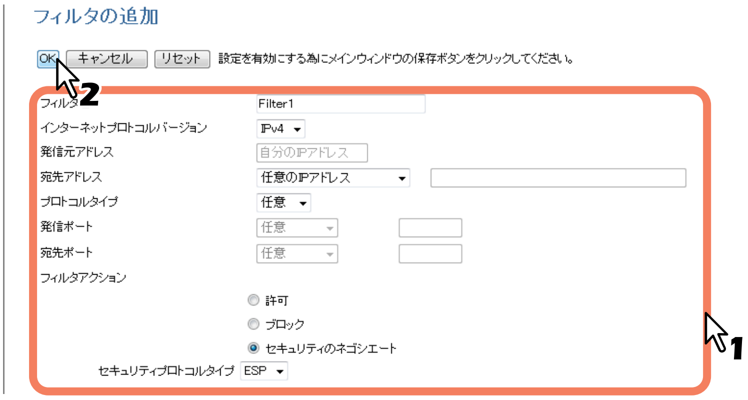
IPsecのポリシーを登録・編集する

1 IPsecメニューの［フィルタ］を選択し、［追加］をクリックします。すでに登録済みのフィルタを編集する場合は、リストから編集したいフィルタ名をクリックします。



フィルタの追加／修正ページが表示されます。

2 以下の項目を選択し、[OK] をクリックします。



フィルタ名：フィルタの名前を入力します。半角の英数字や「# % & + ¥ ' ; ,」以外の記号で、最大63文字まで入力できます。

インターネットプロトコルバージョン：IPsecを使用するIPのバージョンを選択します。
- **IPv4**：IPsecをIPv4環境で使用する場合に選択します。
- **IPv6**：IPsecをIPv6環境で使用する場合に選択します。

発信元アドレス：フィルタを適用させる通信の発信元のアドレスとして、本機のIPアドレスが設定されます。ボックスには［自分のIPアドレス］と表示されます。この項目を変更することはできません。

宛先アドレス：フィルタを適用させる通信の宛先のアドレスを設定します。
- **特定のIPアドレス**：特定の宛先をIPアドレスで設定します。アドレスの入力ボックスにIPアドレスを入力します。
- **サブネット/プレフィックス**：宛先をIPアドレスとサブネットマスクで設定します。アドレスの入力ボックスにIPアドレスとサブネットマスクのプレフィックス値を直接入力します。
- **FQDN**：宛先をFQDNで設定します。アドレスの入力ボックスにFQDNを入力します
- **任意のIPアドレス**：任意の宛先を設定します。

プロトコルタイプ：フィルタに使用するプロトコルを選択します。
- **任意**：任意のプロトコルを使用します。
- **TCP**：TCPのみを使用します。
- **UDP**：UDPのみを使用します。
- **ICMP**：ICMPのみを使用します。

発信ポート：発信元のポート番号を設定します。プロトコルタイプでTCPまたはUDPを選択した場合のみ、設定することができます。
- **任意**：任意の発信ポートを使用します。
- **ポート番号**：発信ポート番号を設定します。ポート番号の入力ボックスにポート番号を入力します。

宛先ポート：宛先のポート番号を設定します。プロトコルタイプでTCPまたはUDPを選択した場合のみ、設定することができます。
- **任意**：任意の宛先ポートを使用します。
- **ポート番号**：宛先ポート番号を設定します。ポート番号の入力ボックスにポート番号を入力します。

フィルタアクション：フィルタの動作を設定します。
- **許可**：指定した宛先からのアクセスを許可します。
- **ブロック**：指定した宛先からのアクセスを拒否します。
- **セキュリティのネゴシエート**：指定した宛先とIPsec通信を行います。なお、この項目を設定した場合は、IPsec通信に使用するセキュリティプロトコルタイプを以下から選択します。
  - **ESP**：ESP（Encapsulating Security Payload）を使用します。
  - **AH**：AH（Authentication Header）を使用します。

フィルタの追加／修正ページが閉じ、リストに作成したフィルタが登録されます。

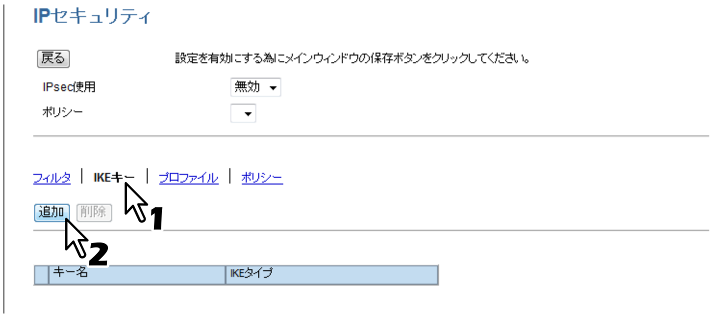
補 足

- ［リセット］をクリックすると、入力した値が消去されます。
- 最大で60個のフィルタを作成することができます。

注 意

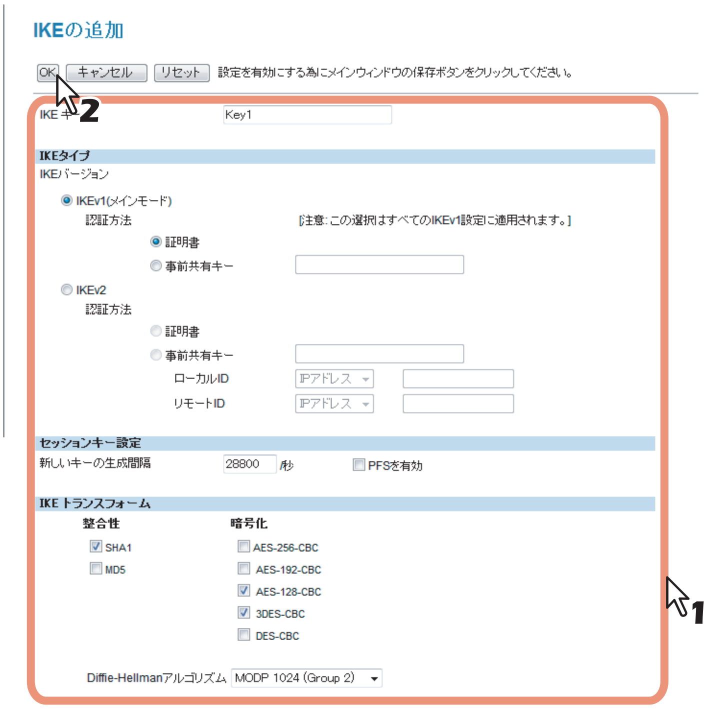
フィルタ機能は、IPセキュリティ機能のフィルタ設定よりも［フィルタリング］の設定の方が、優先的に使用されます。

3 **IPsecメニューの［IKEキー］を選択し、［追加］をクリックします。すでに登録済みのキーを編集する場合は、リストから編集したいキー名をクリックします。**



IKEの追加／修正ページが表示されます。

4 **以下の項目を選択し、［OK］をクリックします。**



IKEキー名：IKEキーの名前を入力します。半角の英数字や「# % & + ¥ ' ; ,」以外の記号で、最大63文字まで入力できます。

IKEタイプ

IKEv1（メインモード）：IKEv1を使用します。

- **証明書**：電子証明書により認証する場合に選択します。この項目を選択するには、あらかじめ本機にIPsec用証明書がインストールされている必要があります。詳しくは以下の説明を参照してください。
📖 P.332 「IPsec用証明書をインストールする」
- **事前共有キー**：あらかじめ通信相手と鍵情報を交換して認証する場合に選択します。入力ボックスに通信相手と共有する鍵情報を入力します。半角の英数字や「& ` ¥ { } " , =」およびスペース以外の記号で、最大で128文字まで入力できます。

注 意

複数のKEv1の事前共有キーを登録すると、最後に登録した事前共有キーのみ有効になります。

IKEv2：IKEv2を使用します。
- **証明書**：電子証明書により認証する場合に選択します。この項目を選択するには、あらかじめ本機にIPsec用証明書がインストールされている必要があります。詳しくは以下の説明を参照してください。
P.332 「IPsec用証明書をインストールする」
- **事前共有キー**：あらかじめ通信相手と鍵情報を交換して認証する場合に選択します。入力ボックスに通信相手と共有する鍵情報を入力します。半角の英数字や「& ` ￥ { } " , =」とスペース以外の記号で、最大で128文字まで入力できます。
  - ローカルID：IPアドレス、FQDN、Email、Key-IDから選択します。Key-IDを選択した場合は、対応した値を入力します。半角の英数字や「& ` ￥ { } " , =」とスペース以外の記号で、最大で128文字まで入力できます。
  - リモートID：IPアドレス、FQDN、Email、Key-IDから選択します。FQDN、Email、Key-IDを選択した場合は、対応した値を入力します。半角の英数字や「& ` ￥ { } " , =」とスペース以外の記号で、最大で128文字まで入力できます。

セッションキー設定
新しいキーの生成間隔：IPsec通信の鍵情報を生成し直す間隔を秒単位で入力します。60秒～604,800秒（7日間）の範囲で設定します。
PFSを有効：IKEでPFS（Perfect Forward Secrecy）機能を使う場合、チェックボックスをオンにします。

IKEトランスフォーム
整合性：IKEで使用する認証アルゴリズムを選択します。
- **SHA1**：SHA1を使用します。
- **MD5**：MD5を使用します。

暗号化：IKEで使用する暗号アルゴリズムを選択します。
- **AES-256-CBC**：AES-CBC（256ビット）を使用します。
- **AES-192-CBC**：AES-CBC（192ビット）を使用します。
- **AES-128-CBC**：AES-CBC（128ビット）を使用します。
- **3DES-CBC**：3DES-CBCを使用します。
- **DES-CBC**：DES-CBCを使用します。

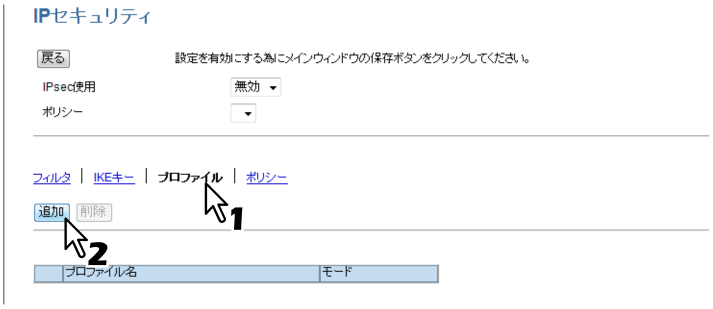
Diffie-Hellmanアルゴリズム：IKEで使用するDiffie -Hellmanグループを選択します。
- **MODP 768（Group 1）**：768ビットのMODPグループを使用します。
- **MODP 1024（Group 2）**：1024ビットのMODPグループを使用します。
- **MODP 2048（Group 14）**：2048ビットのMODPグループを使用します。

IKEキーの追加／修正ページが閉じ、リストに作成したキーが登録されます。

補 足

- ［リセット］をクリックすると、入力した値が消去されます。
- 最大で30個のIKEキーを作成することができます。

5 IPsecメニューの［プロファイル］を選択し、［追加］をクリックします。すでに登録済みのプロファイルを編集する場合は、リストから編集したいプロファイル名をクリックします。



プロファイルの追加／修正ページが表示されます。

6 以下の項目を選択し、［OK］をクリックします。

プロファイル名：プロファイルの名前を入力します。半角の英数字や「# % & + ¥ ' ; ,」以外の記号で、最大63文字まで入力できます。

トンネル設定

トンネルモード：IPsec通信にトンネルモードを使用するかを選択します。
- **Yes**：トンネルモードを使用します。
- **No**：トンネルモードを使用しません。（トランスポートモードを使用します。）

IPv4/IPv6アドレス：トンネルモードの使用時にデータの暗号化／復号化などを行う、ゲートウェイのIPアドレスを入力します。

キーの選択

キー：本機に登録されているIKEキー設定が表示されます。プロファイルに適用するキーを選択します。

プロポーサル

ESPトランスフォーム：ESPに適用するトランスフォームを設定します。
- **整合性**：ESPで使用する認証アルゴリズムを選択します。
  - **SHA1**：SHA1を使用します。
  - **MD5**：MD5を使用します。
- **暗号化**：ESPで使用する暗号アルゴリズムを選択します。
  - **AES-256-CBC**：AES-CBC（256ビット）を使用します。
  - **AES-192-CBC**：AES-CBC（192ビット）を使用します。

- **AES-128-CBC**：AES-CBC（128ビット）を使用します。
- **3DES-CBC**：3DES-CBCを使用します。
- **DES-CBC**：DES-CBCを使用します。
- **None**：暗号化をしません。

AHトランスフォーム：AHに適用するトランスフォームを設定します。

- **整合性**：AHで使用する認証アルゴリズムを選択します。
  - **SHA1**：SHA1を使用します。
  - **MD5**：MD5を使用します。

セッションキー設定：IPsec通信に使用するセッションキーの設定をします。

- **セッションキー設定**：セッションキーを生成し直す間隔を設定します。生成間隔は、時間またはデータ量で設定することができます。設定したい方法のチェックボックスをオンにして、ボックスに数値を入力します。
  - **新しいキーの生成間隔［　］/秒**：キーの生成間隔を時間（秒）で設定します。180～86,400秒（24時間）の範囲で設定します。
  - **新しいキーの生成間隔［　］/キロバイト**：キーの生成間隔をデータ量（キロバイト）で設定します。20,480～214,783,647KBの範囲で設定します。

IPCOMPトランスフォーム：IPCOMPトランスフォームを使用する場合は選択します。

IPフィルタ

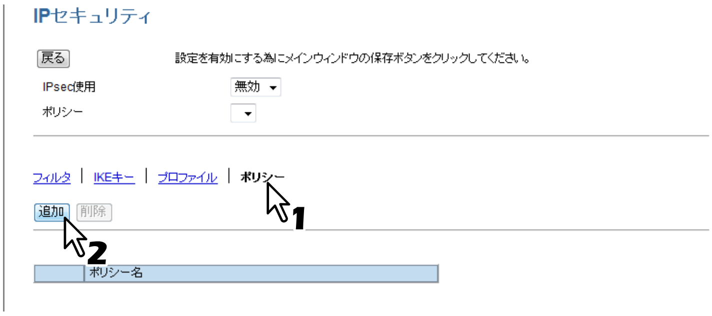
IPフィルタ：本機に登録されているフィルタ設定がリストで表示されます。プロファイルに適用するフィルタのチェックボックスをオンにします。なお、複数のフィルタが登録されている場合は、リストの並び順を変更することもできます。並び順を変えたいフィルタの［MOVE］欄をクリックし、［上に移動］／［下に移動］をクリックすると、フィルタを上／下に移動させることができます。

プロファイルの追加／削除ページが閉じ、リストに作成したプロファイルが登録されます。

補 足

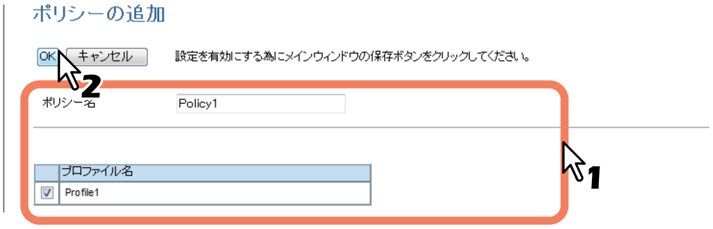
最大で30個のプロファイルを作成することができます。

7 IPsecメニューの［ポリシー］を選択し、［追加］をクリックします。すでに登録済みのポリシーを編集する場合は、リストから編集したいポリシー名をクリックします。



ポリシーの追加／修正ページが表示されます。

8 以下の項目を選択し、［OK］をクリックします。



ポリシー名：ポリシーの名前を入力します。半角の英数字や「# % & + ¥ ' ; ,」以外の記号で、最大63文字まで入力できます。
プロファイル名：本機に登録されているプロファイル設定がリストで表示されます。ポリシーに適用するプロファイルのチェックボックスをオンにします。

ポリシーの追加／修正ページが閉じ、リストに作成したポリシーが登録されます。

補 足

- 最大で10個のポリシーを作成することができます。
- 登録されたポリシーは、IPセキュリティの設定ページの［ポリシー］で選択することができます。
P.324「IPセキュリティ設定のセットアップ手順」

□ ポリシーを削除する

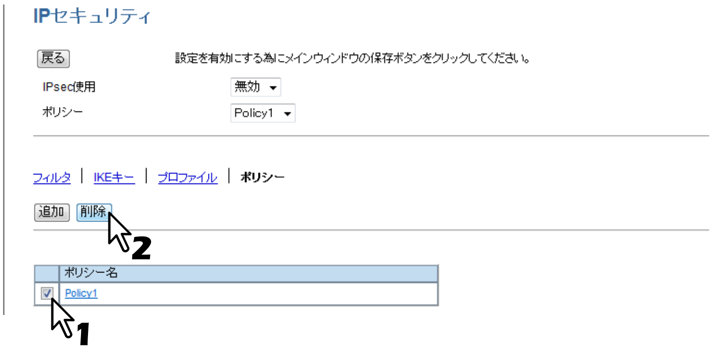
不要なポリシーを削除します。

IPsecのポリシーを削除する

補 足

- フィルタ、IKE キー、プロファイルの登録内容もポリシーと同じ手順で削除することができます。以下の手順の［ポリシー］を各項目に置き換えてお読みください。
- ポリシーを削除しても、ポリシーに登録されていたフィルタ、IKEキー、プロファイルの登録内容は削除されません。フィルタ、IKEキー、プロファイルの登録内容を削除したい場合は、個別に削除する必要があります。
- すべてのポリシーを削除したい場合は、［IPsec使用］を［無効］に設定してから、ポリシーを削除してください。
P.324「IPセキュリティをセットアップする」

1 IPsecメニューの［ポリシー］を選択し、削除するポリシーのチェックボックスをオンにして、［削除］をクリックします。



選択したポリシーが本機から削除されます。

■ IPsec用証明書をインストールする

本機でIPsecを利用した暗号化通信を行う際に、IKEの認証に証明書を使用する場合は、IPsec用証明書をインストールする必要があります。IPsec用証明書をインストールするには、認証機関から入手またはCAサーバーで発行した証明書をインストールします。また、SCEPでCAサーバーから証明書を自動取得することもできます。

注 意

- 本機は以下のエンコード方式のCA証明書およびユーザ証明書をサポートします。
  - CA証明書：　DER、BASE64、PKCS#7
  - ユーザ証明書：　PKCS#12
- 本機は、md5RSAまたはsha1RSAアルゴリズムの証明書のみサポートしています。これらのアルゴリズムの証明書を使用しているか確認してください。
- 本機でIPsec通信を行うには、オプションのIPsecオプション（GP-1080）が必要です。
- TopAccess上に表示されるIPsec用証明書の設定メニューは、IPセキュリティ機能が使用可能な場合のみ表示されます。（［管理者］タブ＞［セットアップ］メニュー＞［ネットワーク］サブメニュー＞［セキュリティ設定］＞［IPsec用証明書］）
- ユーザ証明書を本機にインストールするときは、セキュリティを確保するため、本機とクライアントコンピュータをクロスケーブルで接続し、インストールすることを推奨します。

P.332「IPsec用証明書をインストールする」
P.334「登録したIPsec用証明書を削除する」
P.336「IPsec用証明書を自動取得する」
P.338「自動取得したIPsec用証明書を削除する」

IPsec用証明書をインストールする

1 TopAccessの管理者モードを起動します。

P.110「TopAccess管理者モードの起動」

2 ［セットアップ］メニューをクリックし、［ネットワーク］サブメニューをクリックします。

P.121「ネットワーク設定をセットアップする」

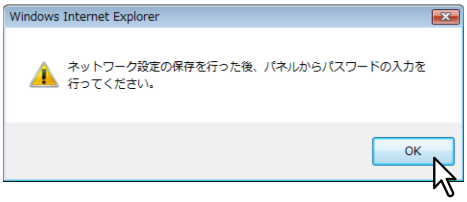
3 リンクをクリックするかページをスクロールして、［セキュリティ設定］をクリックします。

セキュリティ設定ページが表示されます。

4 ［IPsec用証明書］の［インポート］の［参照］をクリックして、IPsec用証明書ファイルを選択し、［アップロード］をクリックします。

警告メッセージが表示されます。

5 ［OK］をクリックします。

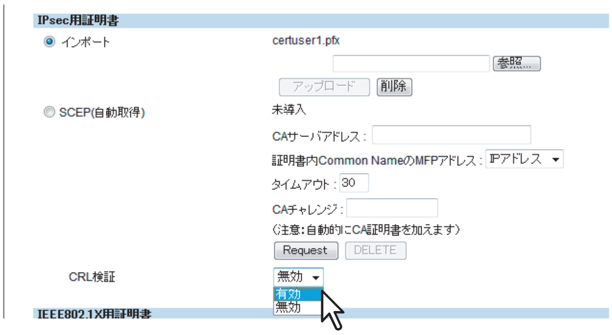


IPsec用証明書がインストールされます。
CRL検証を［有効］にする場合は次の手順へ、設定しない場合は手順7進みます。

補 足

表示される警告メッセージは、IPsec用証明書をインストールした後に、本機の操作パネルからパスワードの入力が必要なことを通知するメッセージです。パスワードを入力しないと、証明書を使用することができません。

6 ［CRL検証］の［有効］を選択します。



注 意

- ネットワーク障害等でCRLの取得に失敗した場合も、認証に失敗します。
- CRL 検証の有効／無効を切り替えた場合は、設定を保存した後、本機の電源を一度オフにし、再度オンにしてください。

7 ［インポート］を選択し、［戻る］をクリックしてセキュリティ設定ページを閉じます。

8 ［ネットワーク］サブメニューのページで［保存］をクリックします。

9 IPsec設定を行う前に、本機の操作パネルから登録したIPsec用証明書のパスワードを入力する必要があります。

パスワードの入力方法については、**設定管理ガイド**の以下の章を参照してください。
第2章「設定項目（管理者設定）」－「ネットワーク設定」－「ユーザ証明書の復号」

10 以下の設定でIPsecを有効に設定することができます。

P.323 「IPセキュリティの設定」

登録したIPsec用証明書を削除する

注 意

使用中のIPsec用証明書を削除することはできません。

1 TopAccessの管理者モードを起動します。

P.110 「TopAccess管理者モードの起動」

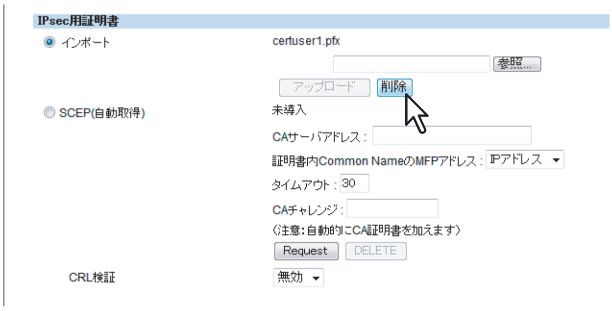
2 ［セットアップ］メニューをクリックし、［ネットワーク］サブメニューをクリックします。

P.121 「ネットワーク設定をセットアップする」

3 リンクをクリックするかページをスクロールして、［セキュリティ設定］をクリックします。

セキュリティ設定ページが表示されます。

4 ［IPsec用証明書］の［インポート］の［削除］をクリックします。

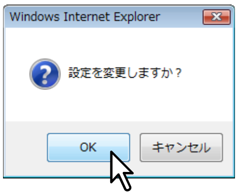


設定の確認ダイアログボックスが表示されます。

注 意

IPsec用証明書がインポートされていない場合は、削除することはできません。

5 ［OK］をクリックします。



IPsec用証明書が削除されます。

6 ［戻る］をクリックしてセキュリティ設定ページを閉じます。

7 ［ネットワーク］サブメニューのページで［保存］をクリックします。

IPsec用証明書を自動取得する

1 **TopAccessの管理者モードを起動します。**

📖 P.110 「TopAccess管理者モードの起動」

2 **［セットアップ］メニューをクリックし、［ネットワーク］サブメニューをクリックします。**

📖 P.121 「ネットワーク設定をセットアップする」

3 **リンクをクリックするかページをスクロールして、［セキュリティ設定］をクリックします。**

セキュリティ設定ページが表示されます。

4 **［IPsec用証明書］の［SCEP（自動取得）］で以下の項目を入力し、［要求］をクリックします。**

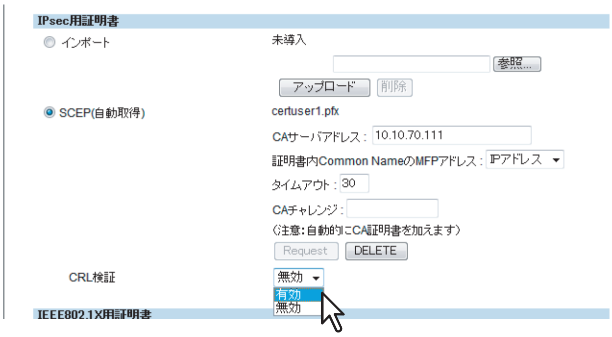
CAサーバアドレス：CAサーバーのIPアドレスまたはFQDNを入力します。最大128文字まで入力できます。
証明書内CommonNameのMFPアドレス：証明書のCommon Nameに記述する本機のアドレスを、IPアドレスまたはFQDNのどちらにするかを選択します。
タイムアウト：CAサーバーが応答しない場合に、通信を終了するタイムアウト時間を入力します。
CAチャレンジ：CAチャレンジを入力します。

注 意

- ［CAサーバアドレス］でFQDNを使用してCAサーバーを指定する場合は、DNSサーバーを設置しDNSの設定を有効にする必要があります。
- ［証明書のCommon NameのMFPアドレス］で［FQDN］を使用する場合は、DNSサーバーに本機のIPアドレスが登録されている必要があります。

IPsec用証明書が取得されます。
CRL検証を［有効］にする場合は次の手順へ、設定しない場合は手順6進みます。

5 ［CRL検証］の［有効］を選択します。



注 意

- ネットワーク障害等でCRLの取得に失敗した場合も、認証に失敗します。
- CRL 検証の有効／無効を切り替えた場合は、設定を保存した後、本機の電源を一度オフにし、再度オンにしてください。

6 ［IPsec用証明書］の［SCEP（自動取得)］を選択し、［戻る］をクリックしてセキュリティ設定ページを閉じます。

注 意

IPsec用証明書と同時にCA証明書も自動取得されます。CA証明書がすでに自動取得されていた場合は、新しいCA証明書を自動取得させるために、一度、IPsec用証明書のSCEPの［削除］をクリックして自動取得されていたCA証明書を削除し、［取得］をクリックして新たに証明書を自動取得してください。

7 ［ネットワーク］サブメニューのページで［保存］をクリックします。

8 以下の設定でIPsecを有効に設定することができます。

P.323「IPセキュリティの設定」

自動取得したIPsec用証明書を削除する

注 意

使用中のIPsec用証明書を削除することはできません。

1 **TopAccessの管理者モードを起動します。**

📖 P.110 「TopAccess管理者モードの起動」

2 **［セットアップ］メニューをクリックし、［ネットワーク］サブメニューをクリックします。**

📖 P.121 「ネットワーク設定をセットアップする」

3 **リンクをクリックするかページをスクロールして、［セキュリティ設定］をクリックします。**

セキュリティ設定ページが表示されます。

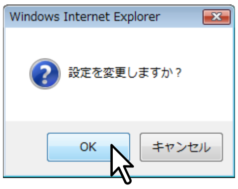
4 **［IPsec用証明書］の［SCEP（自動取得）］を選択し、［削除］をクリックします。**

設定の確認ダイアログボックスが表示されます。

注 意

- IPsec用証明書と同時に自動取得したCA証明書も削除されます。
- IPsec用証明書が自動取得されていない場合は、削除することはできません。

5 **［OK］をクリックします。**



IPsec用証明書が削除されます。

6 ［戻る］をクリックしてセキュリティ設定ページを閉じます。

7 ［ネットワーク］サブメニューのページで［保存］をクリックします。

■ IPsecセッションをフラッシュする

IPsec通信に使用するキーの漏えいや、セキュリティの侵害が発生した場合、フラッシュコネクション機能を使用して、現在のセッションを手動で消去（フラッシュ）し、新しいセッションを開始させることができます。また、何らかの理由によりSAD（Security Association Database）の情報を消去したい場合にも、フラッシュコネクション機能で情報を消去することができます。

IPsecセッションをフラッシュする

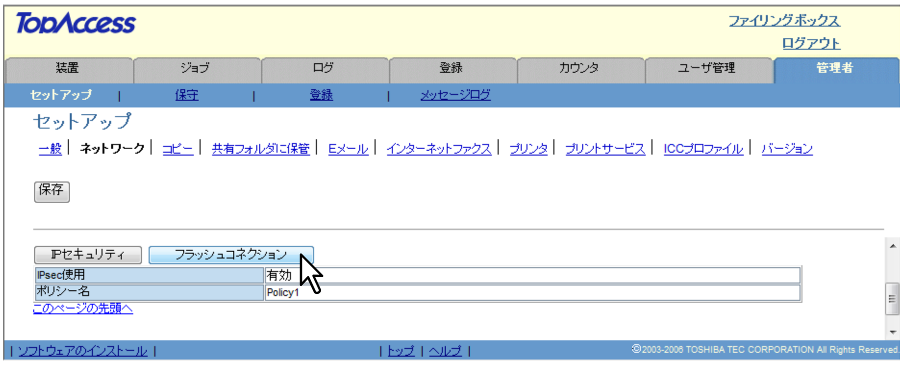
1 **TopAccessの管理者モードを起動します。**

📖 P.110 「TopAccess管理者モードの起動」

2 **［セットアップ］メニューをクリックし、［ネットワーク］サブメニューをクリックします。**

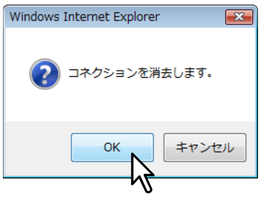
📖 P.121 「ネットワーク設定をセットアップする」

3 **リンクをクリックするかページをスクロールして、［フラッシュコネクション］をクリックします。**



フラッシュの確認ダイアログボックスが表示されます。

4 **［OK］をクリックします。**



IPsecのセッションがフラッシュされます。
フラッシュ後、ダイアログボックスが表示されるので［OK］をクリックします。

メタスキャンの設定

メタスキャン機能を使用すると、スキャンの［Eメール送信］や［共有フォルダに保管］機能を利用し、スキャンした画像データにメタデータを添付して、ワークフローサーバーなどに送信することができます。
メタデータの内容は「XMLフォーマットファイル」で定義します。メタスキャン時、XMLフォーマットファイルに記述した各フィールド（変数）に該当する情報が格納され、これをXMLファイル形式のメタデータとして添付します。なお、フィールドには、あらかじめ定められた情報を格納するフィールドのほかに、管理者が格納する情報をカスタマイズできる「拡張フィールド」を定義することもできます。
メタスキャンの設定では、メタスキャンテンプレート（メタデータ送信用のテンプレート）の登録・インポート・エクスポートや、XMLフォーマットファイルのインポート・削除、拡張フィールドの登録などが設定できます。

P.340「メタスキャンテンプレートを登録または編集する」
P.360「メタスキャンテンプレートをメンテナンスする」
P.365「XMLフォーマットファイルをメンテナンスする」

注 意

- メタスキャン機能を使用するには、オプションのメタスキャンオプション（GS-1010）が必要です。
- TopAccess上に表示されるメタスキャンの設定メニュー（［メタスキャン］タブ）は、メタスキャン機能が使用可能な場合のみ表示されます。
- メタスキャンの設定は、管理者のみ設定することができます。

■ メタスキャンテンプレートを登録または編集する

メタスキャン機能を利用するには、メタスキャン用のテンプレートを登録する必要があります。メタスキャンテンプレートには、スキャンの［Eメール送信］と［共有フォルダに保管］のエージェントを設定することができます。
また、メタデータに「拡張フィールド」を含める場合は、拡張フィールドの属性を登録する必要があります。
メタスキャンテンプレートや拡張フィールド属性は、グループごとに管理します。最大で100個のグループを作成することができ、各グループには最大で24個のテンプレートを作成することができます。
テンプレートやグループをはじめて作成するときは、まず各テンプレートをどのようにグループ分けするかを考え、グループを作成します。グループを作成したら、必要なテンプレートや拡張フィールド属性を登録します。

P.340「メタスキャンテンプレートグループを登録する」
P.346「メタスキャンテンプレートを登録する」
P.353「拡張フィールド属性を登録する」

補 足

メタスキャンのテンプレートグループ、テンプレート、拡張フィールド属性は、管理者がTopAccess上で作成して管理します。作成したテンプレートは、ユーザが操作パネルから選択して利用することができます。メタスキャンテンプレートを操作パネルから利用する方法については、**スキャンガイド**を参照してください。

□ メタスキャンテンプレートグループを登録する

テンプレートを作成する前に、テンプレートを管理するメタスキャンテンプレートグループを定義する必要があります。メタスキャンテンプレートグループを各部門やユーザごと、または用途別などに作成して、テンプレートを分類することができます。

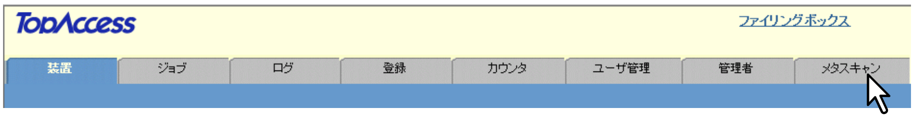
P.341「メタスキャンテンプレートグループを登録・編集する」
P.344「メタスキャンテンプレートグループをリセットする」

メタスキャンテンプレートグループを登録・編集する

最大100個のメタスキャンテンプレートグループを作成することができます。グループを作成するには、グループ名や所有者、Eメール通知設定、使用するXMLフォーマットファイルを定義します。

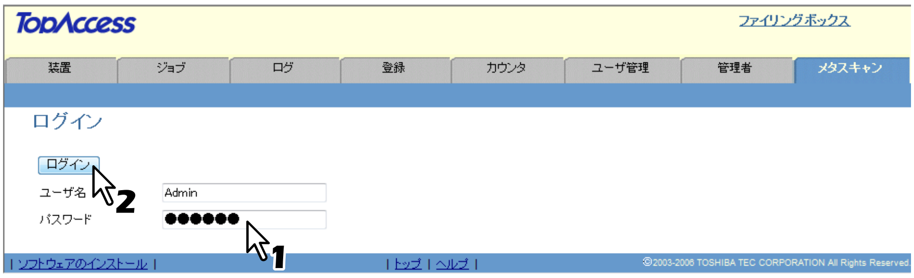
メタスキャンテンプレートグループ情報を作成、編集する

1 ［メタスキャン］タブをクリックします。



ログインページが表示されます。

2 ［パスワード］ボックスに管理者用のパスワードを入力し、［ログイン］をクリックします。

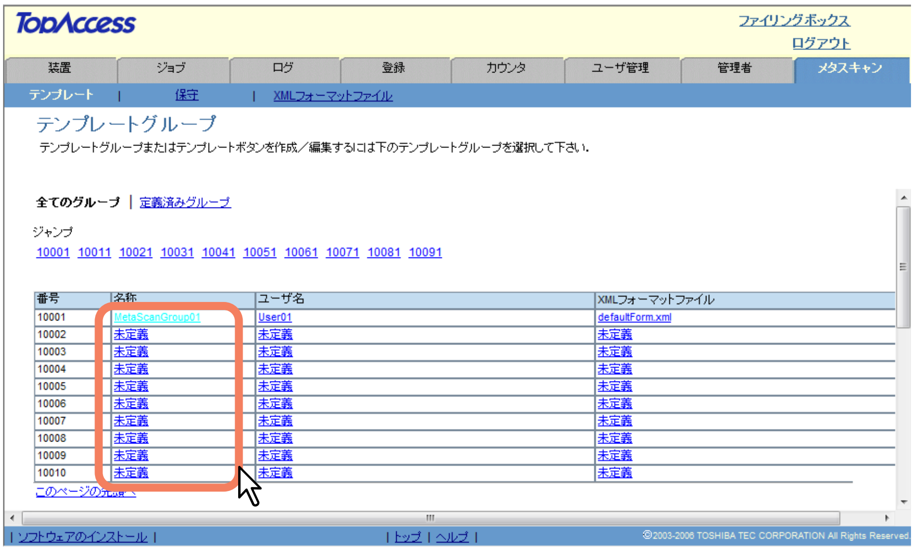


- ユーザ名のボックスは変更しないでください。TopAccessの管理者モードのログイン時は、常に「Admin」でログインする必要があります。
- テンプレートグループページが表示されます。

補 足

工場出荷時の状態では、管理者パスワードは「123456」に設定されています。

3 メタスキャンテンプレートグループを作成する場合は、[未定義] グループリンクをクリックします。グループ情報を編集したい場合は、定義済みのグループ名リンクをクリックします。



- 未定義のグループを選択した場合は、グループ情報の登録ページが表示されます。手順5に進みます。
- 定義済みのグループを選択した場合は、選択したグループのメタスキャンテンプレート一覧ページが表示されます。次の手順に進みます。

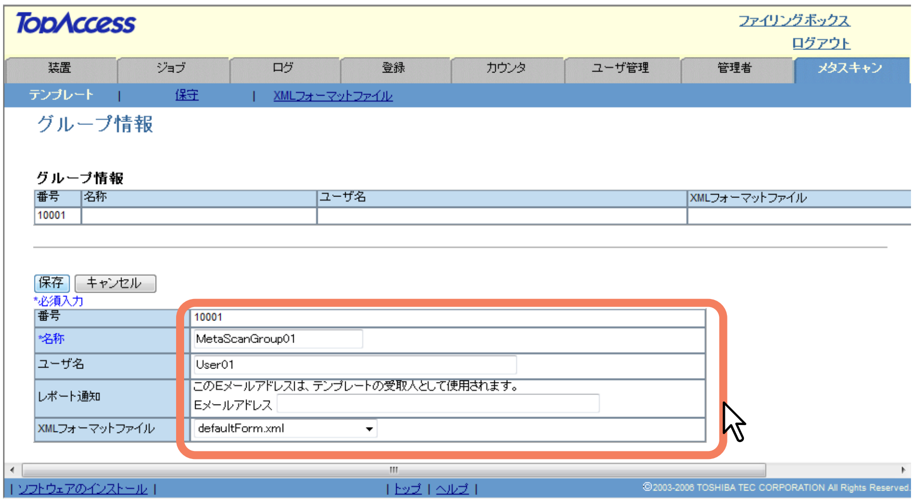
補 足

- 初期表示では、100個のメタスキャンテンプレートグループのすべてが表示されます。[定義済みグループ] リンクをクリックすると、定義済みのメタスキャンテンプレートグループのみを表示させることができます。
- 作成または編集するメタスキャンテンプレートグループの番号が事前に分かっている場合は、[ジャンプ] リンクで目的の番号をクリックします。

4 [編集] をクリックし、グループ情報を定義、または編集します。

グループ情報の登録ページが表示されます。

5 必要に応じて、以下の項目を入力します。



番号：メタスキャンテンプレートグループの番号を表示します。
名称：メタスキャンテンプレートグループのグループ名を入力します。
ユーザ名：メタスキャンテンプレートグループの所有者名を入力します。
レポート通知：各テンプレートでレポート通知を有効に設定した場合に、初期設定の通知先として表示されるEメールアドレスを入力します。レポート通知を行うかどうかは、テンプレートごとに設定することができます。
XMLフォーマットファイル：スキャンデータに添付するメタデータのフォーマットとして使用するXMLフォーマットファイルを選択します。

注 意

XMLフォーマットファイルは、本機に登録されているファイルの中から選択します。登録のしかたは、以下の説明を参照してください。
P.365 「XMLフォーマットファイルをインポートする」

6 ［保存］をクリックし、変更を適用します。

7 必要に応じて、拡張フィールド属性を設定します。

P.353 「拡張フィールド属性を登録する」

メタスキャンテンプレートグループをリセットする

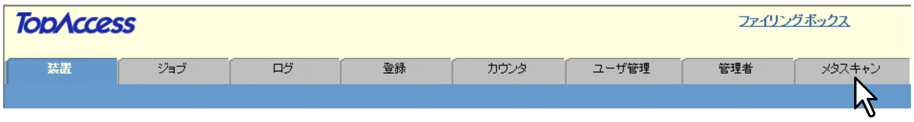
不要なメタスキャンテンプレートグループをリセットし、未定義のグループに戻すことができます。

注 意

メタスキャンテンプレートグループをリセットすると、グループに登録されているテンプレートは、すべて削除されます。

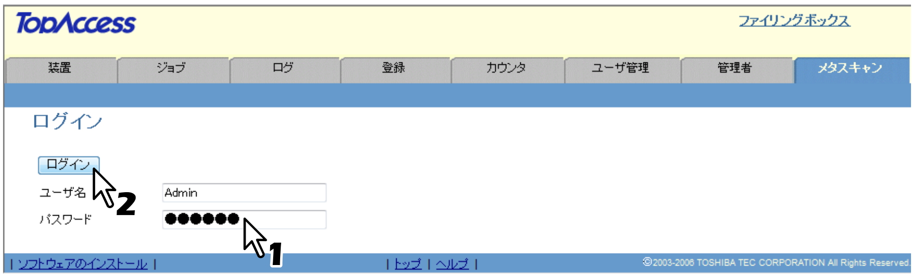
メタスキャンテンプレートグループをリセットする

1 ［メタスキャン］タブをクリックします。



ログインページが表示されます。

2 ［パスワード］ボックスに管理者用のパスワードを入力し、［ログイン］をクリックします。

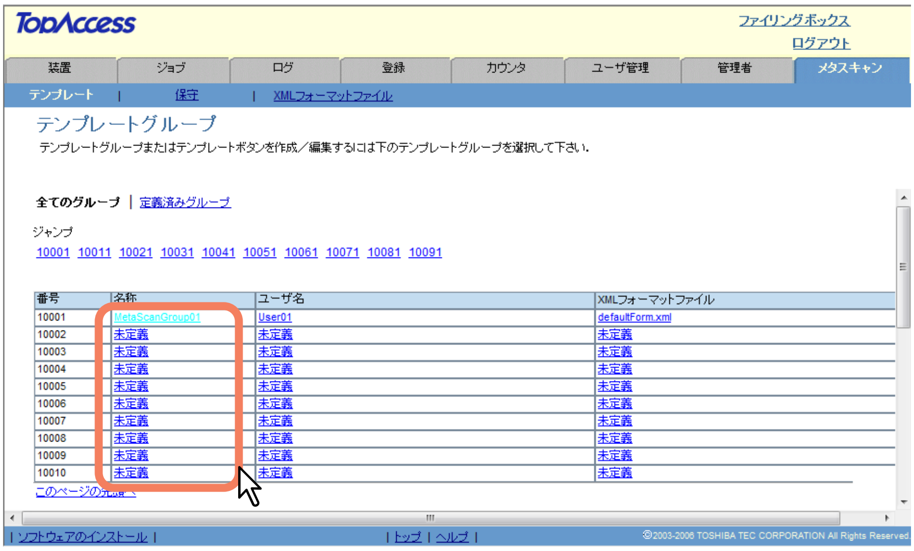


- ユーザ名のボックスは変更しないでください。TopAccessの管理者モードのログイン時は、常に「Admin」でログインする必要があります。
- テンプレートグループページが表示されます。

補 足

工場出荷時の状態では、管理者パスワードは「123456」に設定されています。

3 リセットしたい定義済みのグループ名リンクをクリックします。



メタスキャンテンプレートページが表示されます。

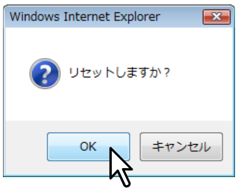
補 足

- 初期表示では、100個のメタスキャンテンプレートグループのすべてが表示されます。[定義済みグループ]リンクをクリックすると、定義済みのメタスキャンテンプレートグループのみを表示させることができます。
- 定義または編集するメタスキャンテンプレートグループの番号が事前に分かっている場合は、[ジャンプ]リンクで目的の番号をクリックします。

4 [リセット] をクリックします。

リセットの確認ダイアログボックスが表示されます。

5 [OK] をクリックします。



メタスキャンテンプレートグループがリセットされ、未定義のグループに戻ります。

□ メタスキャンテンプレートを登録する

各メタスキャンテンプレートグループには、最大で24個のテンプレートを作成することができます。メタスキャンテンプレート登録では、本機の操作パネルに表示される名称やエージェント設定を指定することができます。

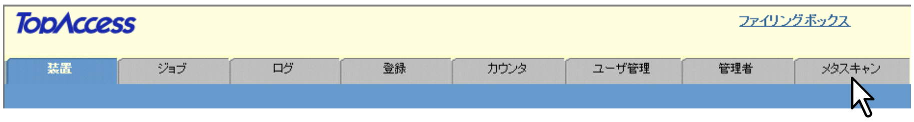
📖 P.346 「メタスキャンテンプレートを登録・編集する」
📖 P.351 「メタスキャンテンプレートをリセットする」

メタスキャンテンプレートを登録・編集する

メタスキャンテンプレートでは、スキャンの［共有フォルダに保管］と［Eメール送信］を設定することができます。

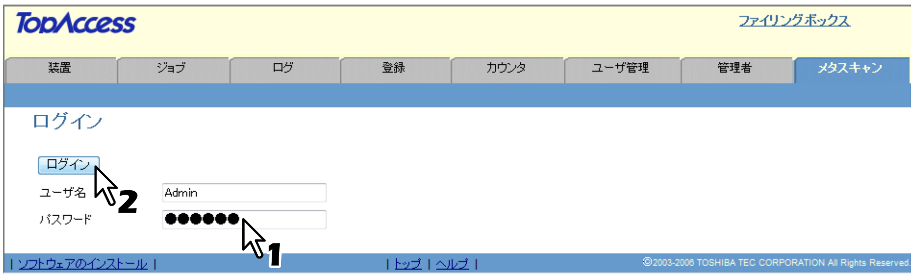
メタスキャンテンプレートを登録する、または編集する

1 ［メタスキャン］タブをクリックします。



ログインページが表示されます。

2 ［パスワード］ボックスに管理者用のパスワードを入力し、［ログイン］をクリックします。

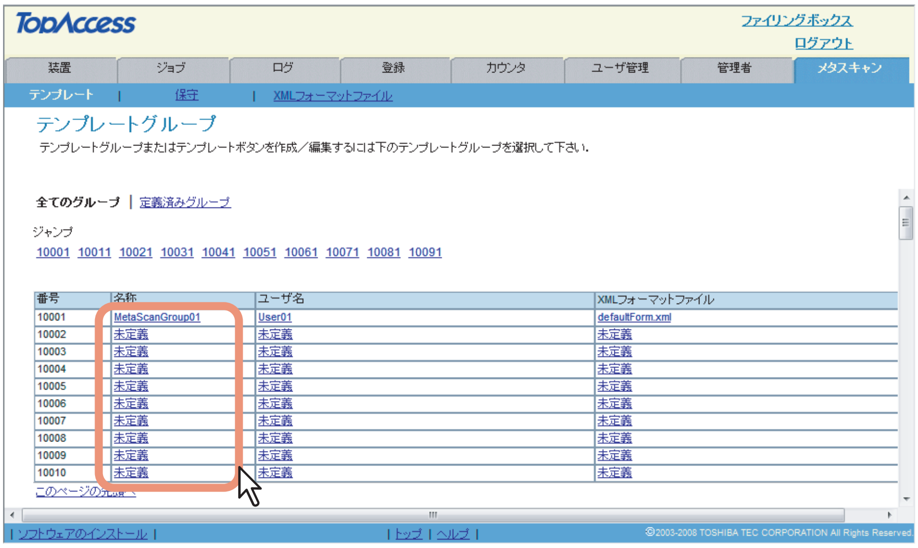


- ユーザ名のボックスは変更しないでください。TopAccessの管理者モードのログイン時は、常に「Admin」でログインする必要があります。
- テンプレートグループページが表示されます。

補 足

工場出荷時の状態では、管理者パスワードは「123456」に設定されています。

3 メタスキャンテンプレートを登録または編集したい定義済みのグループ名リンクをクリックします。

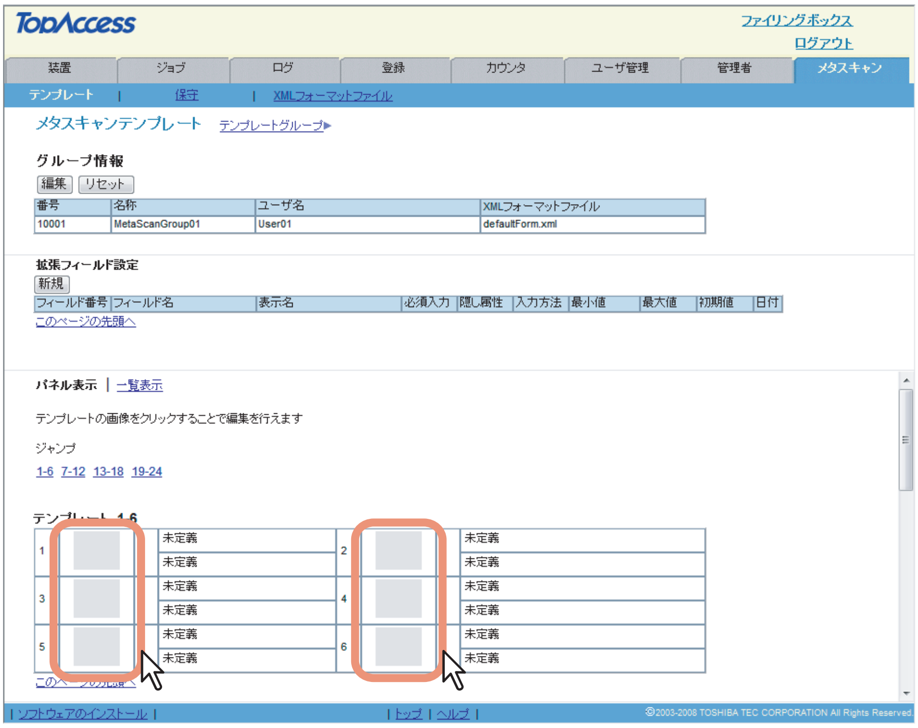


メタスキャンテンプレートページが表示されます。

補 足

- 初期表示では、100個のメタスキャンテンプレートグループのすべてが表示されます。[定義済みグループ] リンクをクリックすると、定義済みのメタスキャンテンプレートグループのみを表示させることができます。
- 定義または編集するメタスキャンテンプレートグループ番号が事前に分かっている場合は、[ジャンプ] リンクをクリックします。

4 新しいテンプレートを作成する場合は、テンプレートリストから［未定義］アイコンをクリックします。既存のテンプレートを編集するときは定義済みアイコンをクリックします。

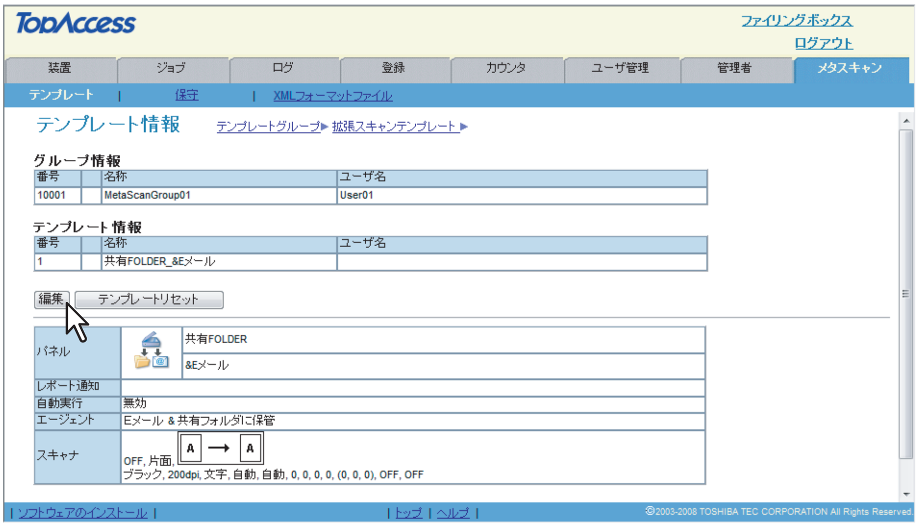


- 未定義のテンプレートアイコンをクリックした場合は、エージェントの選択ページが表示されます。この場合は、手順6に進みます。
- 定義済みテンプレートアイコンをクリックした場合は、テンプレート情報ページが表示されます。この場合は、次の手順に進みます。

補 足

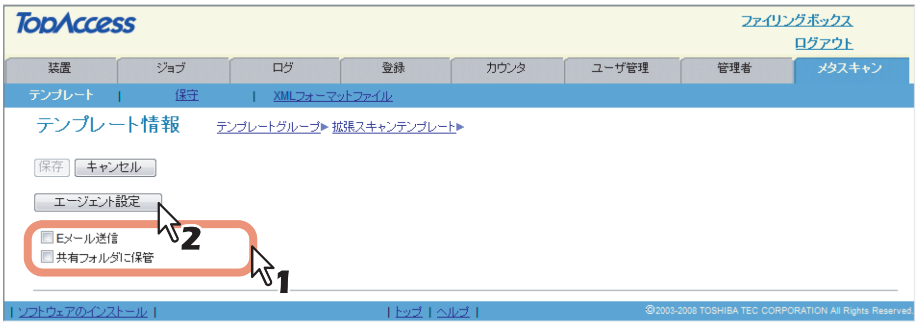
- ［パネル表示］または［一覧表示］のどちらかをクリックすると、テンプレートリストの表示を切り替えることができます。
- 定義または編集するメタスキャンテンプレートが事前に分かっている場合は、[ジャンプ] リンクをクリックします。

5 ［編集］をクリックし、テンプレートのプロパティを定義または編集します。



テンプレート情報ページが表示されます。

6 エージェントを選択し、［エージェント設定］をクリックします。



［Eメール送信］または［共有フォルダに保管］のいずれかを選択します。2つのエージェントを組み合わせることもできます。

7 ページに表示されている各ボタンをクリックし、テンプレートプロパティを編集します。

[パネル設定]：テンプレートのアイコン設定を指定します。📖 P.350「パネル設定（メタスキャンテンプレート）」

パネル設定

画像	
名称1	共有FOLDER
名称2	&Eメール
ユーザ名	
自動実行	無効
レポート通知	

[宛先設定]：送信する宛先を指定します。Eメール送信エージェントを作成するときに設定します。
📖 P.350 「宛先設定（メタスキャンテンプレート）」

To: 宛先設定

To: 宛先	

Cc: 宛先設定

Cc: 宛先	

補 足

宛先指定方法が「To／Bcc」のときは、[To：宛先] ／ [Bcc：宛先] を表示します。
宛先指定方法が「To／Bcc」から「To／Cc」に変更された場合、Bcc送信で登録したアドレスはCc送信として処理されます。「To／Cc」から「To／Bcc」に変更された場合、Cc送信で登録したアドレスはBcc送信として処理されます。
📖 P.191 「Eメール設定」

To: 宛先設定

To: 宛先	

Bcc: 宛先設定

Bcc: 宛先	

[Eメール設定]：Eメールメッセージとして文書をどのように送信するかを設定します。Eメール送信エージェントを作成するときに設定します。
📖 P.350 「Eメール設定（メタスキャンテンプレート）」

Eメール設定

件名	(マシン名称)からのスキャン[(テンプレート名称)](日付)(時間)
送信者アドレス	
送信者名	
本文	
ファイル形式	PDF(マルチ)
暗号化	無効
ファイル名	DocMMDDYY(MMDDYYは日付です)
分割送信サイズ	分割無

[共有フォルダに保管設定]：本機の共有フォルダ、USBメディアまたはネットワークフォルダに文書をどのように保存するかを設定します。共有フォルダに保管エージェントを作成するときに設定します。
📖 P.350 「共有フォルダに保管設定（メタスキャンテンプレート）」

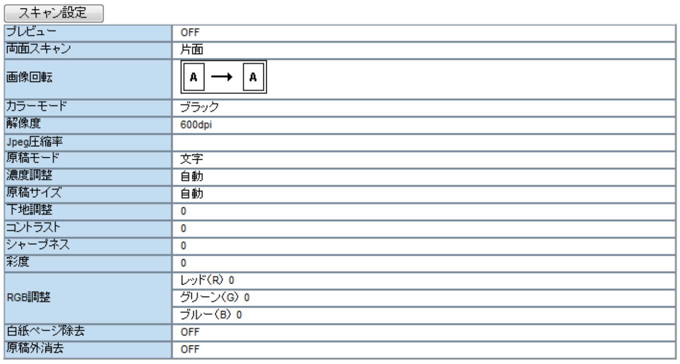
共有フォルダに保管設定

ファイル形式	TIFF(マルチ)
暗号化	無効
宛先	\\MFP-05212774\FILE_SHARE\
ファイル名	DocMMDDYY(MMDDYYは日付です)

補 足

共有フォルダ保管エージェントを設定したメタスキャンテンプレートを使用してスキャンした場合、指定した宛先にテンプレート名と同じ名称のフォルダが自動的に作成され、そのフォルダの中にスキャンデータとメタデータが保管されます。なお、スキャンデータとメタデータは、[共有フォルダに保管] の [フォーマット] で指定したファイル名で保存されます。

[スキャン設定]：文書をどのようにスキャンするかを設定します。
📖 P.350 「スキャン設定（メタスキャンテンプレート）」


スキャン設定

プレビュー	OFF
両面スキャン	片面
画像回転	A → A
カラーモード	ブラック
解像度	600dpi
Jpeg圧縮率	
原稿モード	文字
濃度調整	自動
原稿サイズ	自動
下地調整	0
コントラスト	0
シャープネス	0
彩度	0
RGB調整	レッド(R) 0
	グリーン(G) 0
	ブルー(B) 0
白紙ページ除去	OFF
原稿外消去	OFF

[拡張フィールド設定]：拡張フィールドの初期値を設定します。拡張フィールドを利用するときに必要に応じて設定します。
📖 P.351 「拡張フィールド設定（メタスキャンテンプレート）」

拡張フィールド設定

ExField1	

8 テンプレートプロパティのセットアップを完了したら、[保存] をクリックします。

設定したプロパティが登録されます。

パネル設定（メタスキャンテンプレート）

パネル設定のページでは、タッチパネル画面にテンプレートアイコンをどのように表示するかを設定します。また、テンプレートの通知機能を設定することができます。セットアップ手順は、プライベートテンプレートの登録と同じです。
📖 P.54 「パネル設定（プライベートテンプレート）」

宛先設定（メタスキャンテンプレート）

宛先リストのページでは、Eメール文書を送信する宛先のEメールアドレスを指定します。
宛先を指定するには、相手先のEメールアドレスを手動で入力したり、アドレス帳から個人やグループを選択します。また、LDAPサービスを使って検索することもできます。
セットアップ手順は、プライベートテンプレートの登録と同じです。
📖 P.55 「宛先設定（プライベートテンプレート）」

Eメール設定（メタスキャンテンプレート）

Eメール設定ページでは、送信されるEメール文書のプロパティを設定します。
セットアップ手順は、プライベートテンプレートの登録と同じです。
📖 P.63 「Eメール設定（プライベートテンプレート）」

共有フォルダに保管設定（メタスキャンテンプレート）

共有フォルダに保管設定ページでは、スキャンファイルの保存方法および保存先を設定します。
セットアップ手順は、プライベートテンプレートの登録と同じです。
📖 P.66 「共有フォルダに保管設定（プライベートテンプレート）」

補 足

共有フォルダ保管エージェントを設定したメタスキャンテンプレートを使用してスキャンした場合、指定した宛先にテンプレート名と同じ名称のフォルダが自動的に作成され、そのフォルダの中にスキャンデータとメタデータが保管されます。なお、スキャンデータとメタデータは、[共有フォルダに保管] の［フォーマット］で指定したファイル名で保存されます。

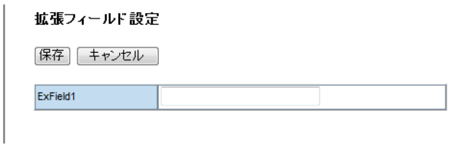
スキャン設定（メタスキャンテンプレート）

スキャン設定ページでは、どのように原稿をスキャンするかを設定します。
セットアップ手順は、プライベートテンプレートの登録と同じです。
📖 P.70 「スキャン設定（プライベートテンプレート）」

拡張フィールド設定（メタスキャンテンプレート）

拡張フィールド設定ページでは、グループに登録されている各拡張フィールドの初期値を入力することができます。詳しくは以下の説明を参照してください。

📖 P.353 「拡張フィールド属性を登録・編集する」

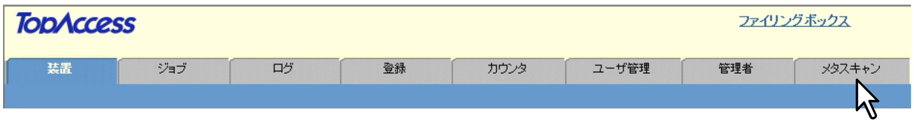


メタスキャンテンプレートをリセットする

不要なメタスキャンテンプレートをリセットし、未定義のテンプレートに戻すことができます。

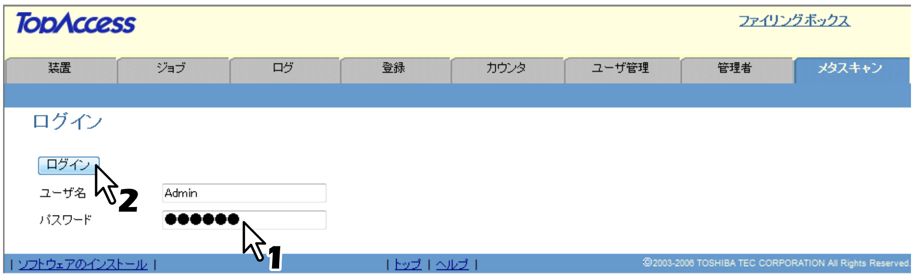
メタスキャンテンプレートをリセットする

1 ［メタスキャン］タブをクリックします。



ログインページが表示されます。

2 ［パスワード］ボックスに管理者用のパスワードを入力し、［ログイン］をクリックします。

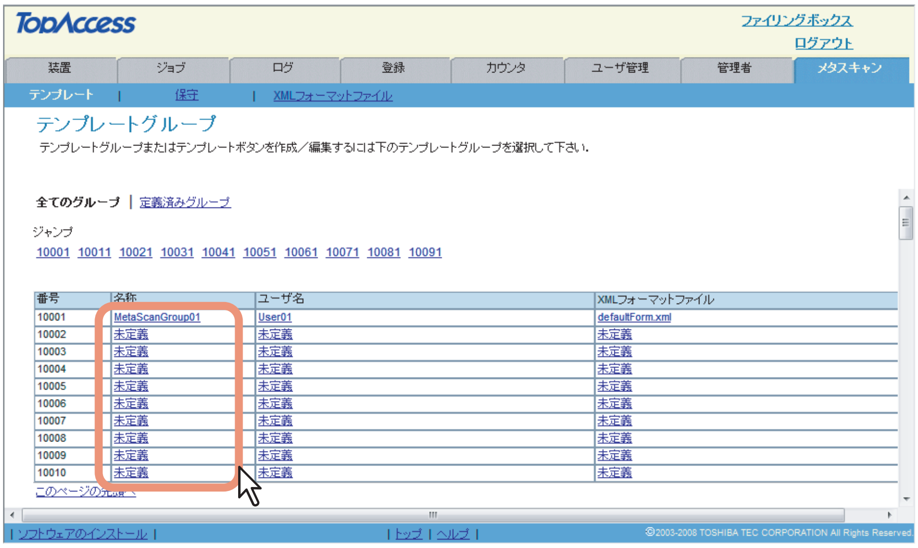


- ユーザ名のボックスは変更しないでください。TopAccessの管理者モードのログイン時は、常に「Admin」でログインする必要があります。
- テンプレートグループページが表示されます。

補 足

工場出荷時の状態では、管理者パスワードは「123456」に設定されています。

3 リセットしたいテンプレートを含むグループ名リンクをクリックします。

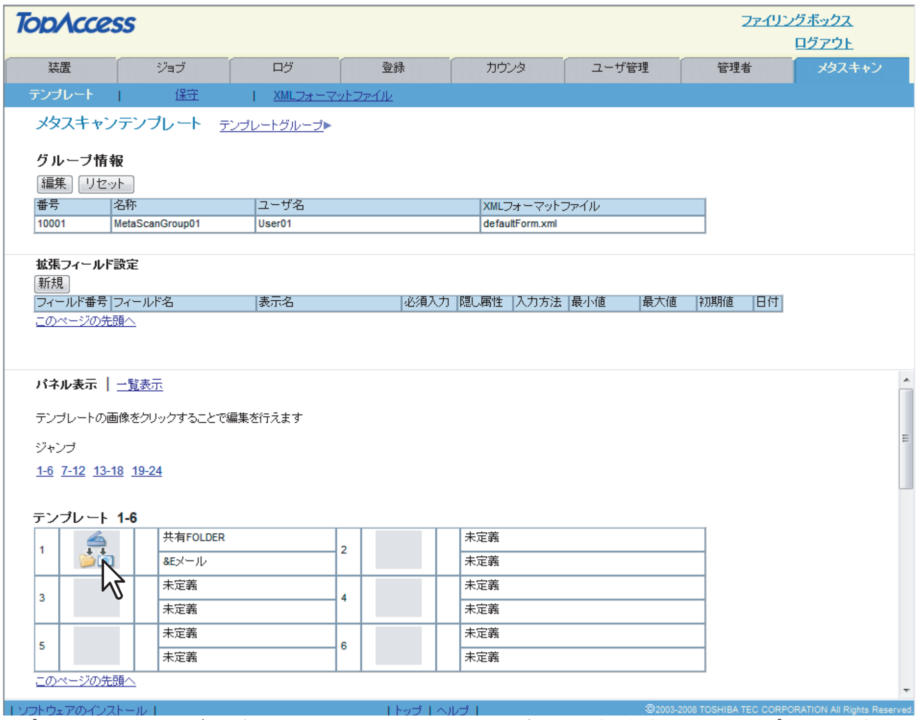


メタスキャンテンプレートページが表示されます。

補 足

- 初期表示では、100個のメタスキャンテンプレートグループのすべてが表示されます。[定義済みグループ] リンクをクリックすると、定義済みのメタスキャンテンプレートグループのみを表示させることができます。
- 定義または編集するメタスキャンテンプレートグループ番号が事前に分かっている場合は、[ジャンプ] リンクをクリックします。

4 リセットしたいテンプレートのアイコンをクリックします。

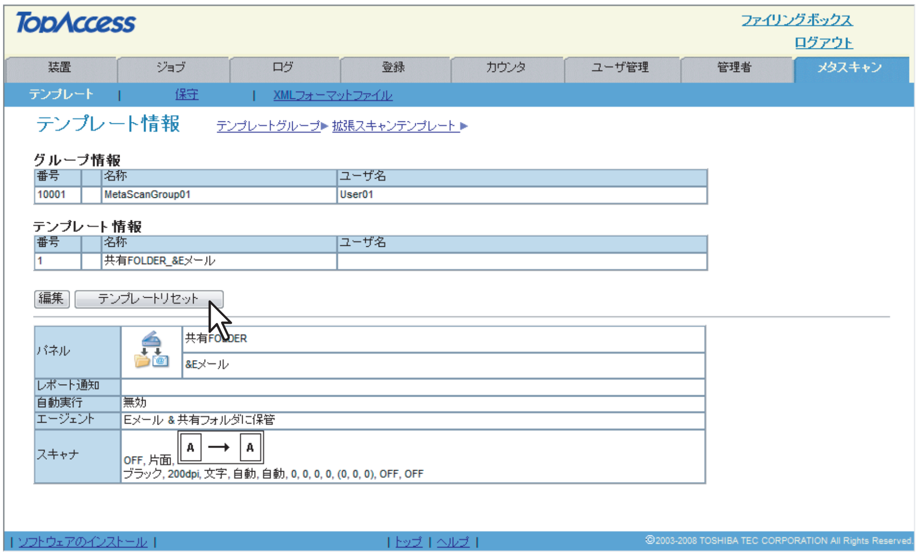


テンプレートリストが一覧表示で表示されている場合は、定義済みのテンプレート名をクリックします。

補 足

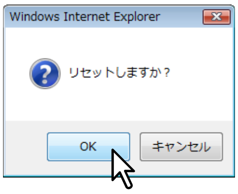
- ［パネル表示］または［一覧表示］のどちらかをクリックすると、テンプレートリストの表示を切り替えることができます。
- 削除するメタスキャンテンプレート番号が事前に分かっている場合は、［ジャンプ］リンクをクリックし、目的のテンプレートを即座に表示させることができます。

5 ［テンプレートリセット］をクリックします。



リセットの確認ダイアログボックスが表示されます。

6 ［OK］をクリックします。



テンプレートがリセットされ未定義のテンプレートに戻ります。

□ 拡張フィールド属性を登録する

メタデータのフィールド（変数）には、あらかじめ定められた情報を格納するフィールドのほかに、管理者が格納する情報をカスタマイズできる「拡張フィールド」を定義することもできます。管理者は拡張フィールド属性の設定で、拡張フィールドの種類や格納する値を定義することができます。
拡張フィールドは、メタスキャンテンプレートのグループごとに作成します。最大で25個の拡張フィールドを作成することができます。作成した拡張フィールドは、グループ内に登録されるすべてのテンプレートに適用されます。

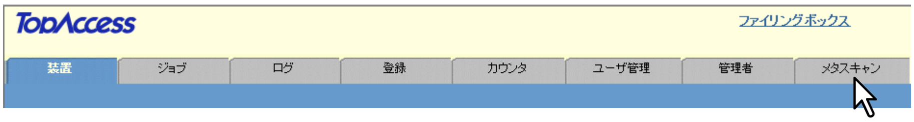
📖 P.353 「拡張フィールド属性を登録・編集する」
📖 P.357 「拡張フィールド属性を削除する」

拡張フィールド属性を登録・編集する

拡張フィールドの種類や格納する値を定義します。

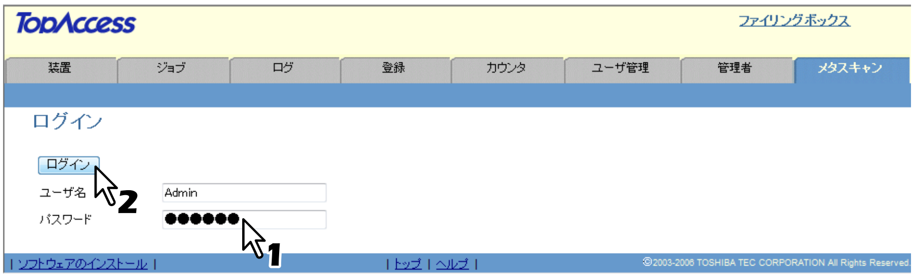
拡張フィールド属性を登録する、または編集する

1 ［メタスキャン］タブをクリックします。



ログインページが表示されます。

2 ［パスワード］ボックスに管理者用のパスワードを入力し、［ログイン］をクリックします。

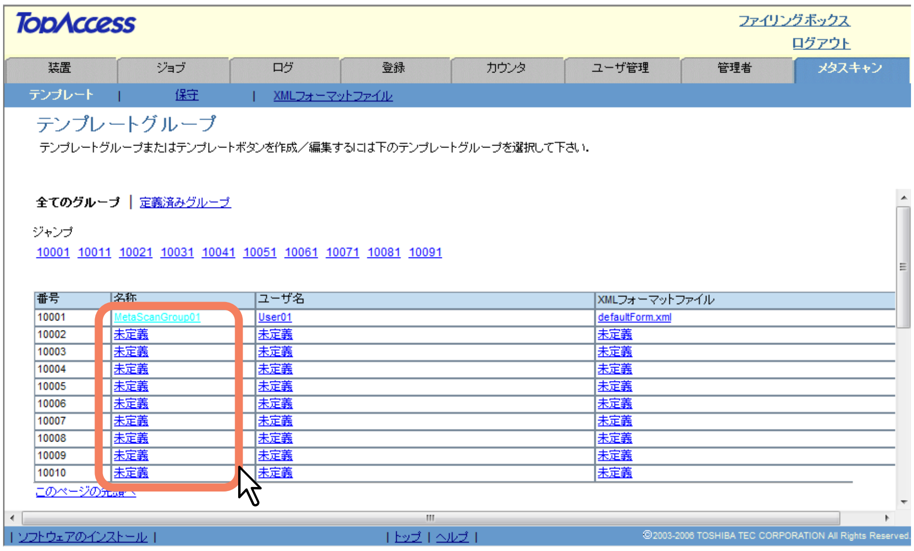


- ユーザ名のボックスは変更しないでください。TopAccessの管理者モードのログイン時は、常に「Admin」でログインする必要があります。
- テンプレートグループページが表示されます。

補 足

工場出荷時の状態では、管理者パスワードは「123456」に設定されています。

3 メタスキャンテンプレートを登録または編集したい定義済みのグループ名リンクをクリックします。

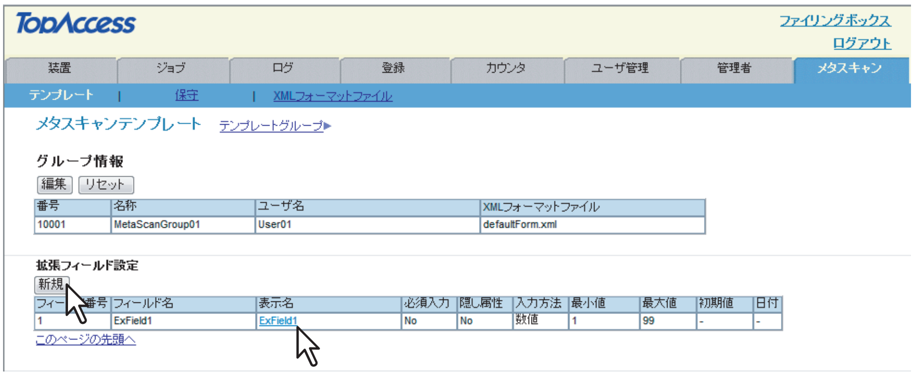


メタスキャンテンプレートページが表示されます。

補 足

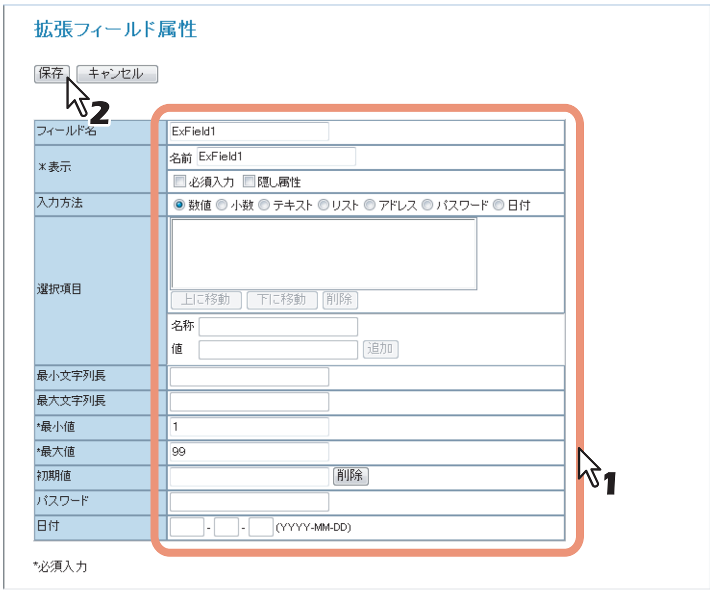
- 初期表示では、100個のメタスキャンテンプレートグループのすべてが表示されます。[定義済みグループ]リンクをクリックすると、定義済みのメタスキャンテンプレートグループのみを表示させることができます。
- 定義または編集するメタスキャンテンプレートグループ番号が事前に分かっている場合は、［ジャンプ］リンクをクリックします。

4 新しい拡張フィールドを作成する場合は、［新規］をクリックします。既存の拡張フィールドを編集するときは定義済みフィールド名のリンクをクリックします。



拡張フィールド属性ページが表示されます。

5 以下の項目を選択し、［保存］をクリックします。



フィールド番号：既存の拡張フィールド設定を編集する場合のみ、選択した拡張フィールド設定のフィールド番号を表示します。新しい拡張フィールドを作成する場合は表示されません。フィールド番号は、拡張フィールドを本機に登録する際、自動的に割り当てられます。

注 意

拡張フィールド設定のリストに表示されるフィールド番号と、XMLフォーマットファイルに記述される拡張フィールドの番号は、組み合わせて使用されます。たとえば、フィールド番号「1」に定義した情報は、XMLフォーマットファイルの拡張フィールド「1」（<!--$VALUE1$-->）に格納されます。フィールド番号と同じ番号の拡張フィールドがXMLフォーマットファイルに記述されていない場合は、情報が格納されません。

フィールド名：拡張フィールドの名称を設定します。

注 意

フィールド名に入力された文字列は、<!--$FIELDNAME1$-->、<!--$FIELDNAME2-->のように、フィールド番号に対応した変数に格納されます。

表示：拡張フィールドを操作パネル上に表示する際の表示のしかたを設定します。
- **名前**：操作パネル上に表示する拡張フィールドの名称を設定します。最大256文字まで入力できます。
- **必須入力**：情報を必ず入力しなければならない拡張フィールドを作成する場合、チェックボックスをオンにします。
- **隠し属性**：操作パネル上に表示しない拡張フィールドを作成する場合、チェックボックスをオンにします。

入力方法：拡張フィールドの種類を選択します。
- **数値**：整数を入力する拡張フィールドを作成します。
- **小数**：小数を入力する拡張フィールドを作成します。
- **テキスト**：文字列を入力する拡張フィールドを作成します。
- **リスト**：リストから値を選択する拡張フィールドを作成します。
- **アドレス**：アドレスを入力する拡張フィールドを作成します。
- **パスワード**：パスワードを入力する拡張フィールドを作成します。
- **日付**：日付を入力する拡張フィールドを作成します。

補 足

［入力方法］で選択した拡張フィールドの種類と、設定項目の関係は下表のとおりです。なお、必ず設定しなければならない項目には「＊」が表示されます。

入力方法 （拡張フィールドの種類）	必須の設定項目	任意の設定項目
数値	［最大値］、［最小値］ ＊　各値は、-999,999,999,999～999,999,999,999の範囲で設定できます。	［初期値］
小数	［最大値］、［最小値］ ＊　各値は、-999,999,999,999.999999～999,999,999,999.999999の範囲で設定できます。	［初期値］
テキスト	［最大文字列長］、［最小文字列長］ ＊　各値は、0～128文字の範囲で設定できます。	［初期値］
リスト	［選択項目］	［初期値］ ＊　登録した選択項目の中から選択します。
アドレス	なし	［初期値］
パスワード	なし	［パスワード］
日付	なし	［日付］

選択項目：リストの拡張フィールドで選択する項目を設定します。選択項目のフィールドには、登録した選択項目が表示されます。フィールドに項目を登録する場合は、［名称］と［値］を入力して［追加］をクリックします。項目を選択して［上に移動］をクリックすると項目が上に移動し、［下に移動］をクリックすると項目が下に移動します。また、フィールドから不要な項目を削除する場合は、項目を選択して［削除］をクリックします。
- **名称**：項目の名称を入力します。
- **値**：その項目を選択した場合に適用する値（数値や文字列などの情報）を入力します。

注 意

- 項目の登録制限は、選択項目のフィールドに表示される文字数の合計が、半角／全角文字にかかわらず127文字までとなります。
- 名称や値にセミコロンを使用することはできません。

補 足

［上に移動］、［下に移動］ はe-STUDIO455 Seriesおよびe-STUDIO855 Seriesで使用できます。

最小文字列長：拡張フィールドに文字列を入力する場合の、最小の文字数を設定します。
最大文字列長：拡張フィールドに文字列を入力する場合の、最大の文字数を設定します。
最小値：拡張フィールドに数値を入力する場合の、最小の数値を設定します。
最大値：拡張フィールドに数値を入力する場合の、最大の数値を設定します。
初期値：拡張フィールドにあらかじめ設定される値を設定します。
パスワード：パスワードの拡張フィールドにあらかじめ設定される値を設定します。
日付：日付の拡張フィールドにあらかじめ設定される日付を設定します。

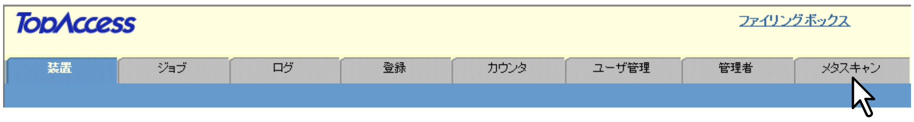
拡張フィールド属性ページが閉じ、リストに作成した拡張フィールドが登録されます。

拡張フィールド属性を削除する

不要な拡張フィールド属性を削除します。

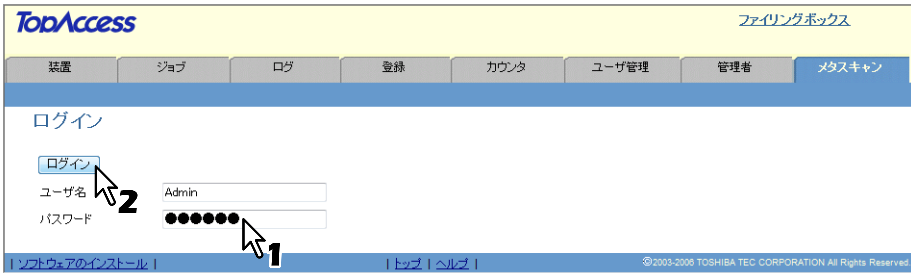
拡張フィールド属性を削除する

1 ［メタスキャン］タブをクリックします。



ログインページが表示されます。

2 ［パスワード］ボックスに管理者用のパスワードを入力し、［ログイン］をクリックします。

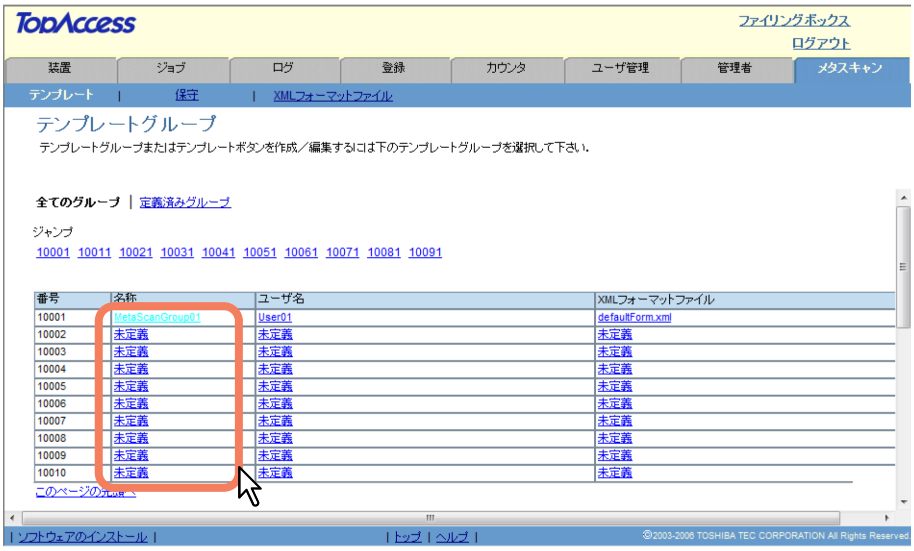


- ユーザ名のボックスは変更しないでください。TopAccessの管理者モードのログイン時は、常に「Admin」でログインする必要があります。
- テンプレートグループページが表示されます。

補 足

工場出荷時の状態では、管理者パスワードは「123456」に設定されています。

3 削除したい拡張フィールドを含むグループ名リンクをクリックします。

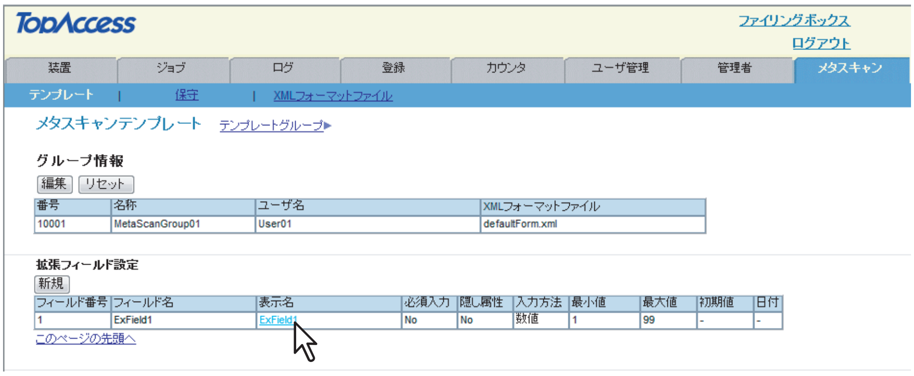


メタスキャンテンプレートページが表示されます。

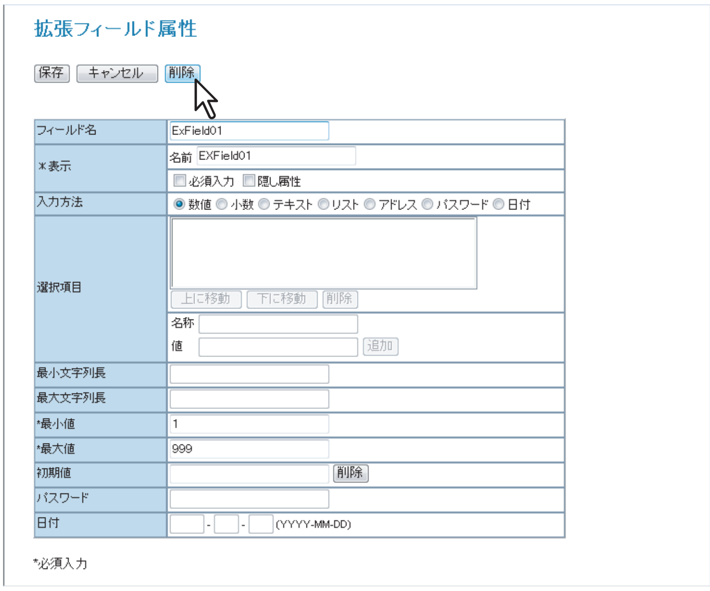
補 足

- 初期表示では、100個のメタスキャンテンプレートグループのすべてが表示されます。[定義済みグループ] リンクをクリックすると、定義済みのメタスキャンテンプレートグループのみを表示させることができます。
- 定義または編集するメタスキャンテンプレートグループ番号が事前に分かっている場合は、[ジャンプ] リンクをクリックします。

4 削除したい拡張フィールド名のリンクをクリックします。

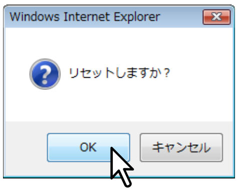


5 ［削除］をクリックします。



削除の確認ダイアログボックスが表示されます。

6 ［OK］をクリックします。



拡張フィールドが削除されます。

注 意

拡張フィールド設定のリストに表示されるフィールド番号と、XMLフォーマットファイルに記述される拡張フィールドの番号は、組み合わせて使用されます。たとえば、フィールド番号「1」に定義した情報は、XMLフォーマットファイルの拡張フィールド「1」（<!--$VALUE1$-->）に格納されます。フィールド番号と同じ番号の拡張フィールドがXMLフォーマットファイルに記述されていない場合は、情報が格納されません。

■ メタスキャンテンプレートをメンテナンスする

メタスキャンテンプレートのグループ、テンプレート、拡張フォーマット属性の情報を、XML形式のファイルでインポートまたはエクスポートすることができます。

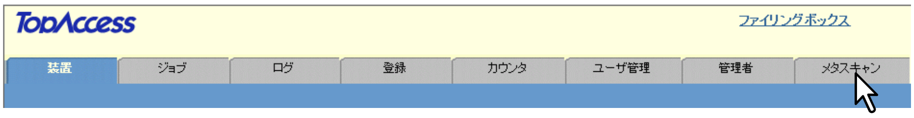
📖 P.360 「メタスキャンテンプレートをエクスポートする」
📖 P.362 「メタスキャンテンプレートをインポートする」

□ メタスキャンテンプレートをエクスポートする

管理者は、本機に登録されているメタスキャンテンプレートの情報を、XML形式でエクスポートすることができます。

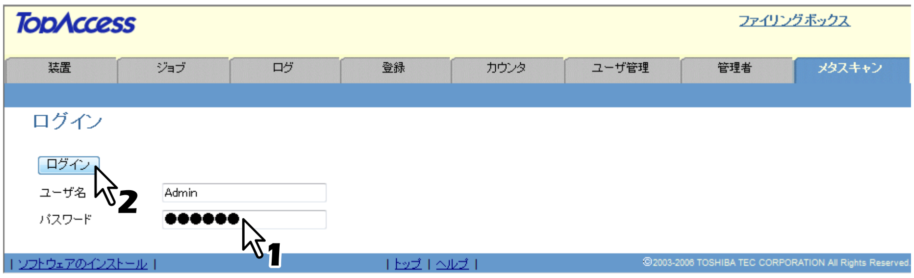
メタスキャンテンプレート、拡張フォーマット設定をエクスポートする

1 ［メタスキャン］タブをクリックします。



ログインページが表示されます。

2 ［パスワード］ボックスに管理者用のパスワードを入力し、［ログイン］をクリックします。

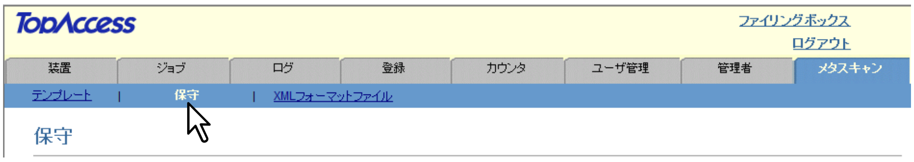


- ユーザ名のボックスは変更しないでください。TopAccessの管理者モードのログイン時は、常に「Admin」でログインする必要があります。
- テンプレートグループページが表示されます。

補 足

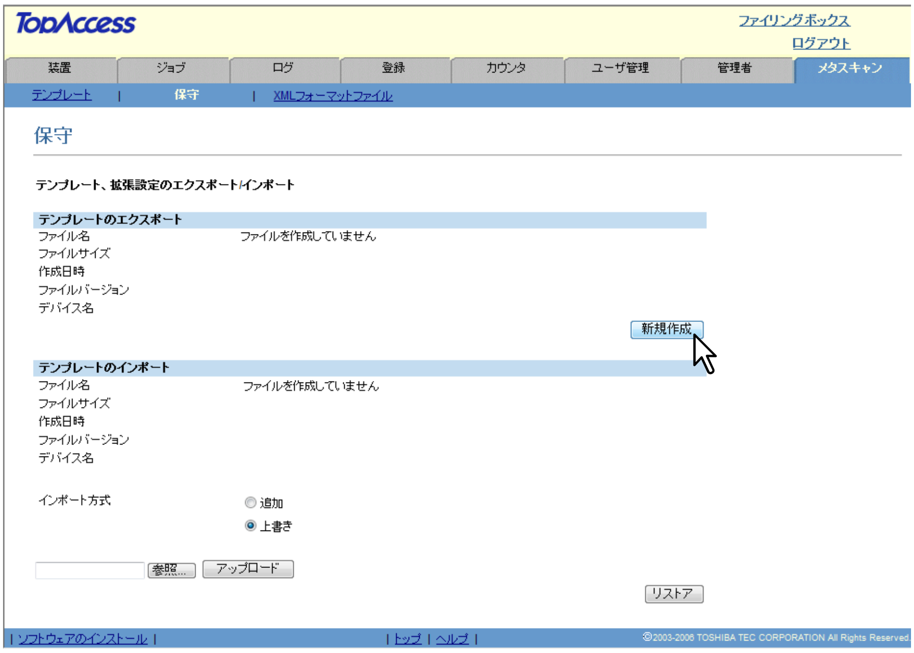
工場出荷時の状態では、管理者パスワードは「123456」に設定されています。

3 ［保守］メニューをクリックします。



保守ページが表示されます。

4 テンプレートのエクスポートエリアの［新規作成］をクリックします。

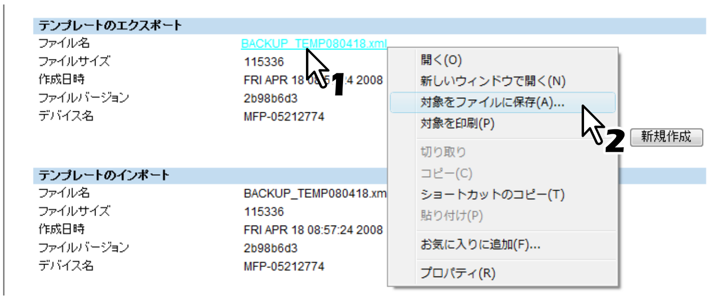


エクスポートファイル情報が表示されます。

補 足

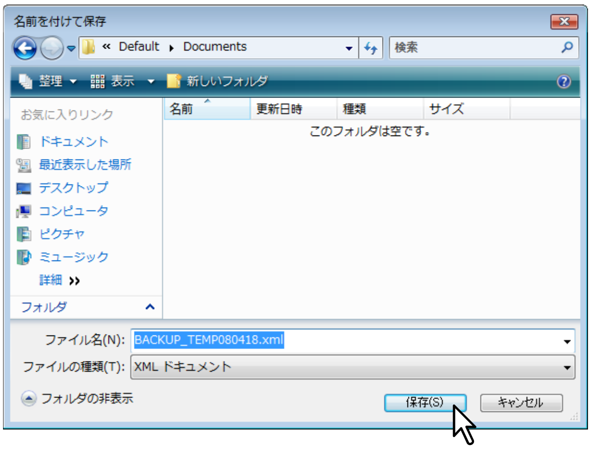
以前にテンプレート情報を新規作成したり、エクスポートやインポートした場合は、最近の操作で作成されたファイルのリンクと情報がテンプレートのエクスポートエリアに表示されます。リンクをクリックすると、最近の操作で作成されたファイルを保存することができます。
なお、これらの情報をすべて削除したい場合は、［保守］メニューの右下にある［リストア］をクリックします。

5 ［ファイル名］リンクを右クリックし、［対象をファイルに保存］を選択します。



［名前を付けて保存］ダイアログボックスが表示されます。

6 ファイルの保存先を選択し、［保存］をクリックします。



メタスキャンテンプレート情報のXMLファイルが、選択した場所に保存されます。

□ メタスキャンテンプレートをインポートする

他のe-STUDIO6530C Series、e-STUDIO4520C Series、e-STUDIO855 Series、またはe-STUDIO455 Seriesのメタスキャンテンプレート情報や、管理者がXML形式で作成したテンプレート情報をインポートすることができます。
メタスキャンテンプレートのインポート方法は、本機に登録済みのテンプレートにインポートしたテンプレートの情報を追加する方法と、登録済みのテンプレートをすべて削除してインポートしたテンプレートの情報に書き換える方法があります。
取り込むファイルは、TopAccessのメタスキャンテンプレートデータのフォーマットに準じたタグ構造のXML形式で作成されている必要があります。詳しくは、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

注 意

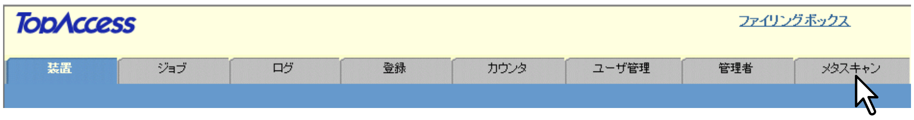
本機に登録されていないXMLフォーマットファイルを使用するメタスキャンテンプレートをインポートする場合は、そのテンプレートで使用するXMLフォーマットファイルを、あらかじめ本機に登録しておく必要があります。インポート時、テンプレートで使用するXMLフォーマットファイルが本機に登録されていなかった場合は、デフォルトのXMLフォーマットファイルが割り当てられます。

メタスキャンテンプレート、拡張フォーマット設定をインポートする

注 意

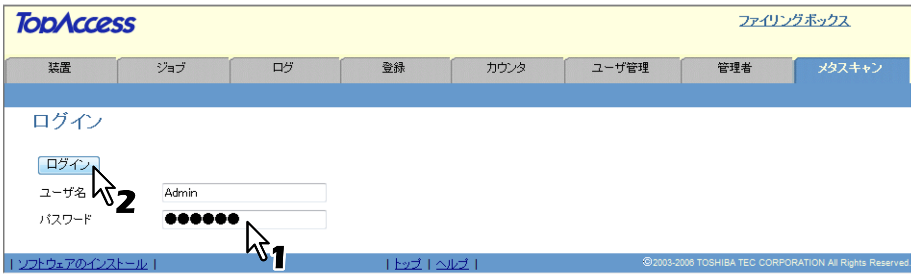
テンプレート情報をインポートする前に、現在処理中のジョブや、プライベート印刷ジョブ、予約印刷ジョブ、お試し印刷ジョブがないことを確認してください。これらのジョブがある場合、テンプレートをインポートすることができません。それでもテンプレート情報のインポートに時間がかかる場合は、本機がスリープモードに入ってからデータのインポートを行ってください。

1 ［メタスキャン］タブをクリックします。



ログインページが表示されます。

2 ［パスワード］ボックスに管理者用のパスワードを入力し、［ログイン］をクリックします。



- ユーザ名のボックスは変更しないでください。TopAccessの管理者モードのログイン時は、常に「Admin」でログインする必要があります。
- テンプレートグループページが表示されます。

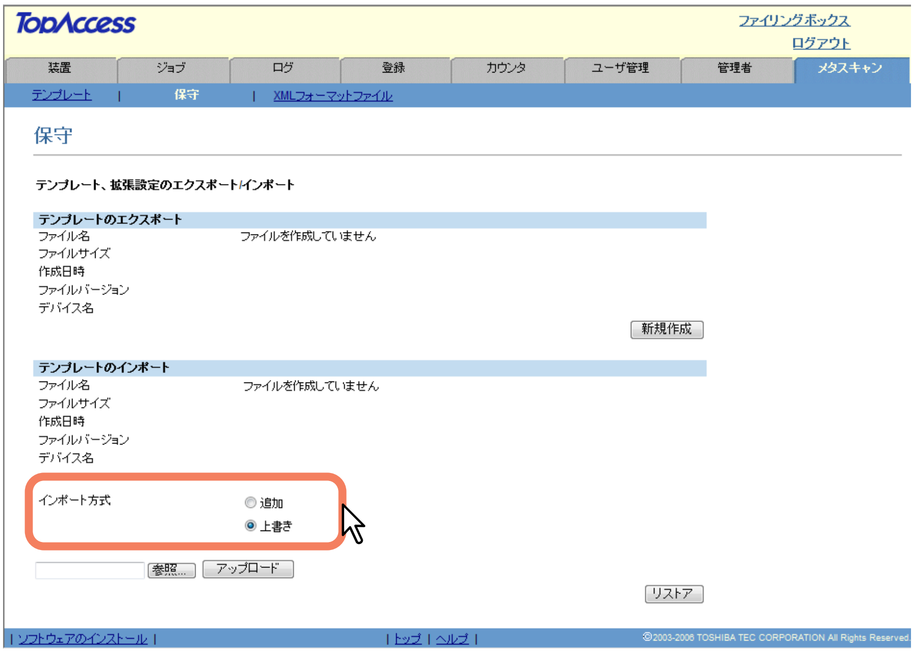
補 足

工場出荷時の状態では、管理者パスワードは「123456」に設定されています。

3 ［保守］メニューをクリックします。

保守ページが表示されます。

4 テンプレートのインポートエリアの［インポート方式］を選択します。

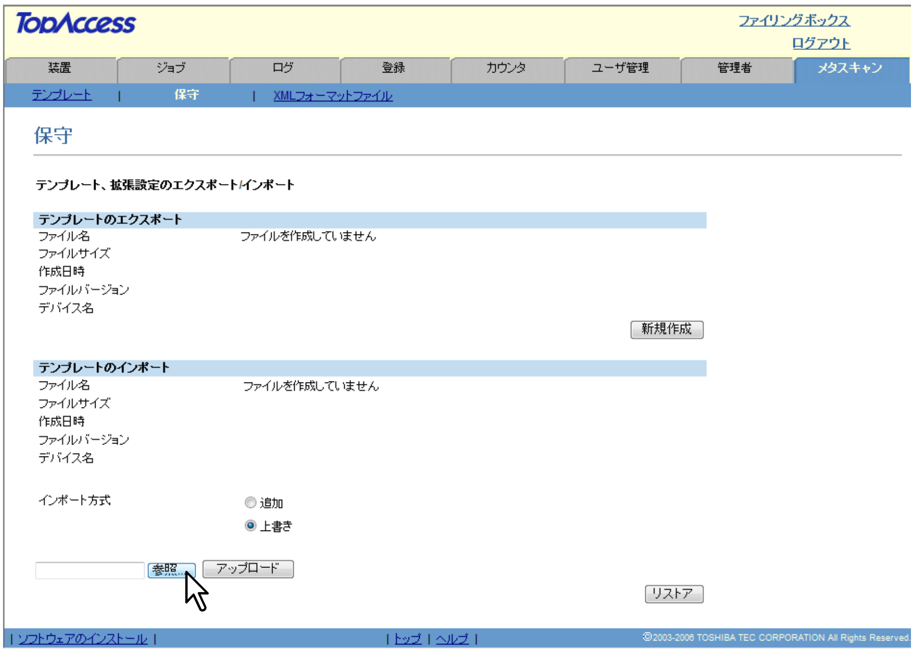


追加：本機に登録済みのメタスキャンテンプレート情報に、インポートするテンプレートの情報を追加します。
上書き：本機に登録済みのメタスキャンテンプレート情報をすべて削除し、インポートするテンプレートの情報に書き換えます。

補 足

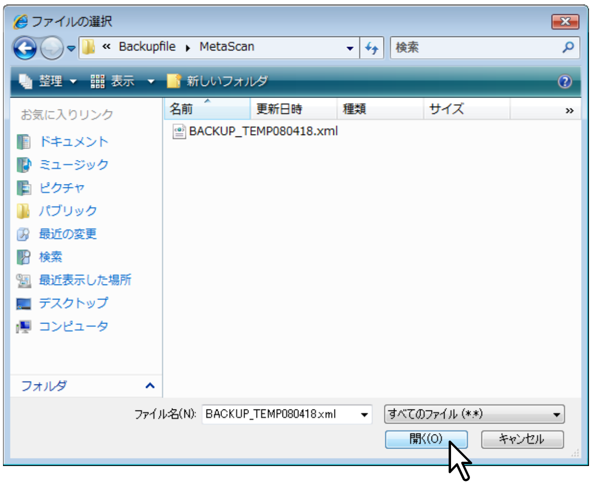
以前にテンプレート情報を新規作成したり、エクスポートやインポートした場合は、最近の操作で作成されたファイルの情報がテンプレートのインポートエリアに表示されます。
なお、これらの情報をすべて削除したい場合は、［保守］メニューの右下にある［リストア］をクリックします。

5 ［参照］をクリックします。

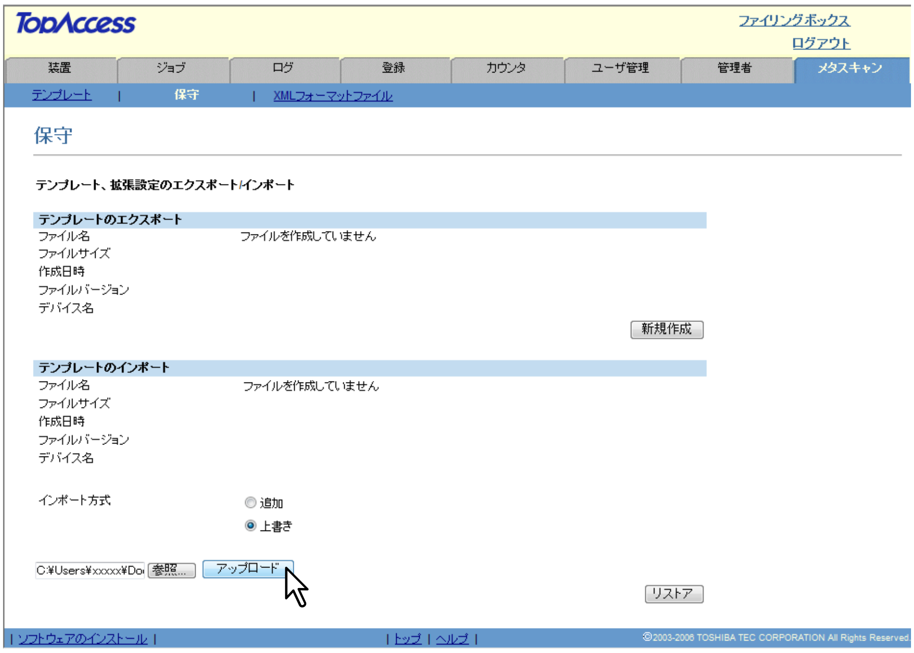


［ファイルの選択］ダイアログボックスが表示されます。

6 目的のテンプレート情報を含むXMLファイルを選択し、［開く］をクリックします。



7 ［アップロード］をクリックします。



メタスキャンテンプレート情報データが、本機にインポートされます。

■ XMLフォーマットファイルをメンテナンスする

メタデータのフォーマットとして使用する「XMLフォーマットファイル」をインポートしたり、登録したファイルを削除したりすることができます。メタスキャン時、本機はXMLフォーマットファイルに記述された各フィールドの変数に該当する情報を格納し、これをXML形式ファイルのメタデータとして添付します。

📖 P.365 「XMLフォーマットファイルをインポートする」
📖 P.367 「XMLフォーマットファイルを削除する」

なお、XMLフォーマットファイルはUTF-8のXML形式で作成する必要があります。XMLフォーマットファイルのサンプルや変数については、以下の説明を参照してください。

📖 P.369 「デフォルトXMLフォーマットファイル」
📖 P.371 「XMLフォーマットファイルの変数」

補 足

- スキャンデータに添付されるXML形式のメタデータのファイル名は、スキャンデータのファイル名と同じ名前になります。なお、スキャンデータのファイル形式でシングルページ（[TIFF（シングル）] など）を選択した場合、メタデータのファイル名は、下記の場合によって異なります。
  - [共有フォルダに保管] サブメニューにおいて [シングルページファイルの保存場所設定] が、「サブフォルダを作成し保存」の場合は、サブフォルダ名がメタデータのファイル名になります。
  - [共有フォルダに保管] サブメニューにおいて [シングルページファイルの保存場所設定] が、「サブフォルダを作成せずに保存」の場合は、スキャンデータのファイル名からページ番号を除いたものがメタデータのファイル名になります。

  [共有フォルダに保管] については、以下の説明を参照してください。
  📖 P.185 「シングルページファイルの保存場所の設定」
- スキャンデータに添付されるXML形式のメタデータのファイル名に、XMLフォーマットファイルの変数を使用することもできます。テンプレートの [共有フォルダに保管設定] や [Eメール設定] にある [ファイル名] の設定で、ファイル名の入力ボックスに使用したい変数を入力します。
  たとえば、「TODAY_IS_<!--DAY-->」と入力した場合、ファイル名は「TODAY_IS_XX」（XX部分はスキャンした日付）となります。
  なお、ファイル名の変数「<!--$FILE$-->」や、ファイルのパスの変数「<!--$PATH$-->」を入力することはできません。

□ XMLフォーマットファイルをインポートする

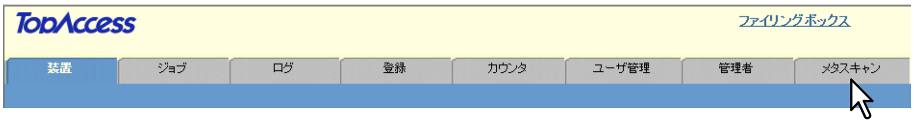
スキャンデータに添付するメタデータのフォーマットとして使用するXMLフォーマットファイルをインポートします。
本機には最大で99個のXMLフォーマットファイルをインポートすることができます。

XMLフォーマットファイルをインポートする

注 意

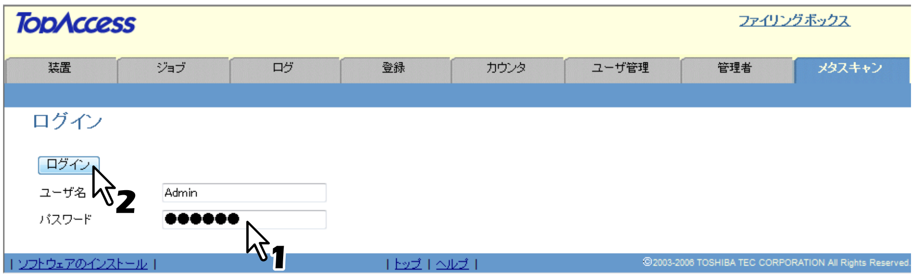
XMLフォーマットファイルをインポートする前に、現在処理中のジョブや、プライベート印刷ジョブ、予約印刷ジョブ、お試し印刷ジョブがないことを確認してください。これらのジョブがある場合、XMLフォーマットファイルをインポートすることができません。それでもXMLフォーマットファイルのインポートに時間がかかる場合は、本機がスリープモードに入ってからデータのインポートを行ってください。

1 **[メタスキャン] タブをクリックします。**



ログインページが表示されます。

2 ［パスワード］ボックスに管理者用のパスワードを入力し、［ログイン］をクリックします。

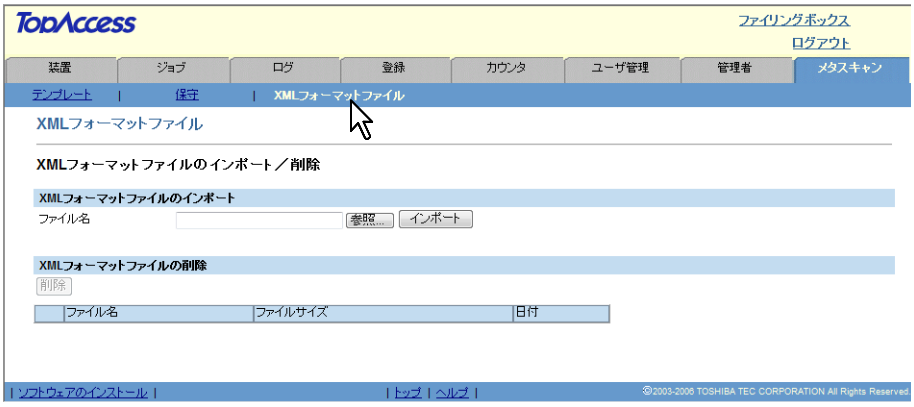


- ユーザ名のボックスは変更しないでください。TopAccessの管理者モードのログイン時は、常に「Admin」でログインする必要があります。
- テンプレートグループページが表示されます。

補 足

工場出荷時の状態では、管理者パスワードは「123456」に設定されています。

3 ［XMLフォーマットファイル］メニューをクリックします。

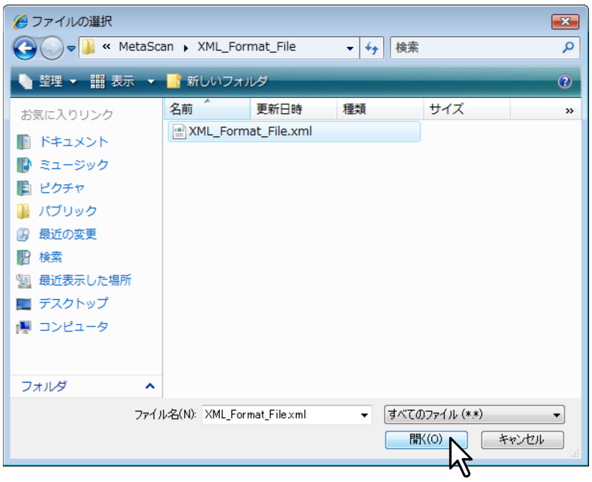


XMLフォーマットファイルページが表示されます。

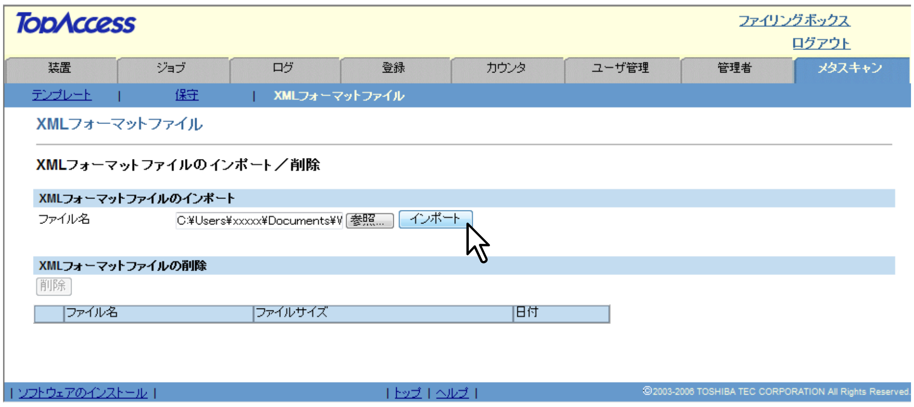
4 XMLフォーマットファイルのインポートエリアの［参照］をクリックします。

［ファイルの選択］ダイアログボックスが表示されます。

5 目的のXMLフォーマットファイルを選択し、［開く］をクリックします。



6 ［インポート］をクリックします。



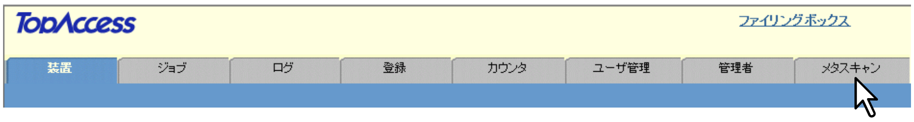
XMLフォーマットファイルが本機にインポートされ、XMLフォーマットファイルのリストに登録されます。

□ XMLフォーマットファイルを削除する

不要なXMLフォーマットファイルを削除します。

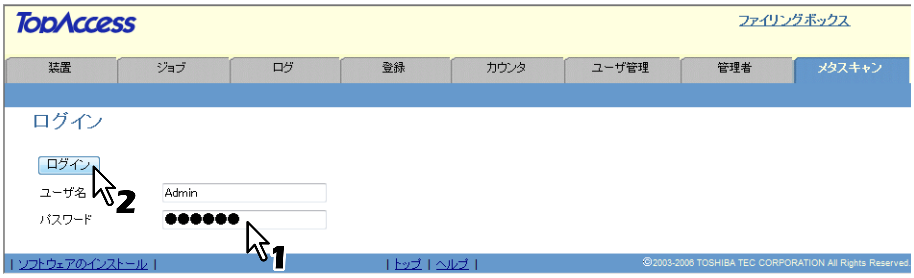
XMLフォーマットファイルを削除する

1 ［メタスキャン］タブをクリックします。



ログインページが表示されます。

2 ［パスワード］ボックスに管理者用のパスワードを入力し、［ログイン］をクリックします。

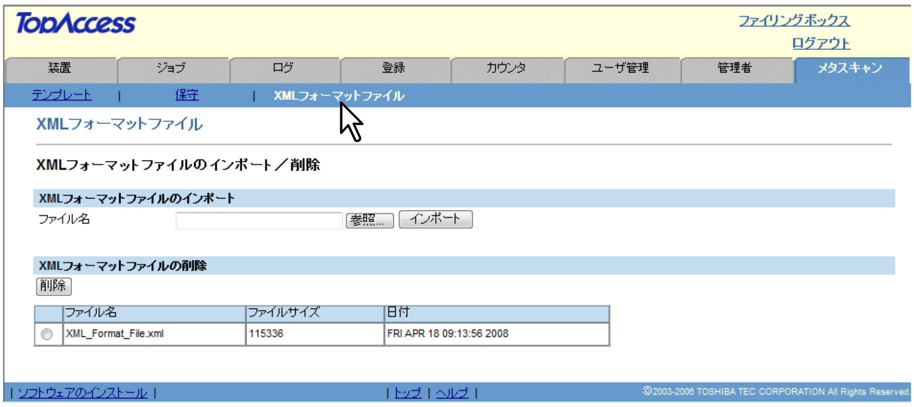


- ユーザ名のボックスは変更しないでください。TopAccessの管理者モードのログイン時は、常に「Admin」でログインする必要があります。
- テンプレートグループページが表示されます。

補 足

工場出荷時の状態では、管理者パスワードは「123456」に設定されています。

3 ［XMLフォーマットファイル］メニューをクリックします。

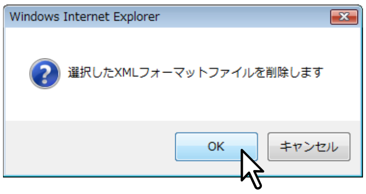


XMLフォーマットファイルページが表示されます。

4 XMLフォーマットファイルの削除エリアのリストから、削除したいXMLフォーマットファイルを選択し、［削除］をクリックします。

削除の確認ダイアログボックスが表示されます。

5 ［OK］をクリックします。



XMLフォーマットファイルが本機にインポートされ、XMLフォーマットファイルのリストに登録されます。

□ デフォルトXMLフォーマットファイル

本機に初期設定で登録されているXMLフォーマットファイルの内容は以下のとおりです。XMLフォーマットファイルはUTF-8のXML形式で作成します。メタスキャン時、本機はXMLフォーマットファイルに記述された各フィールドの変数に該当する情報を格納し、これをXML形式ファイルのメタデータとして添付します。

補 足

XMLフォーマットファイルの構造やタグ名称などは、お使いになる環境に合わせて自由に設計することができます。なお、変数（<!--$ xxxx $-->で記述した部分）の名前や、メタスキャン時に各変数に格納される情報については、以下の説明を参照してください。

📖 P.371 「XMLフォーマットファイルの変数」

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!-- Sample XML format file version 1.0.0 -->
<mfp_metadata>
    <device_info>
        <ip_address><!--$IP$--></ip_address>
        <host_name><!--$HOST$--></host_name>
        <location><!--$LOCATION$--></location>
        <contact_tel><!--$CONTACTTEL$--></contact_tel>
        <FW_version><!--$FWVER$--></FW_version>
        <manufacture><!--$MANUFACT$--></manufacture>
        <model><!--$MODEL$--></model>
        <serial><!--$SERIAL$--></serial>
        <tempt_file_ver><!--$TEMPVER$--></tempt_file_ver>
    </device_info>
    <scan_info>
        <scanned_date><!--$YEAR$-->-<!--$MONTH$-->-<!--$DAY$--></scanned_date>
        <scanned_time><!--$DATE$-->T<!--$TIME$--></scanned_time>
        <color_mode><!--$COLORMODE$--></color_mode>
        <resolution><!--$RESOLUTION$--></resolution>
        <file_format><!--$FILEFORMAT$--></file_format>
        <no_of_files><!--$NUMFILE$--></no_of_files>
        <no_of_pages><!--$PAGES$--></no_of_pages>
        <workflow><!--$WORKFLOW$--></workflow>
    </scan_info>
    <user_info>
        <user_id><!--$USER$--></user_id>
        <dept_code><!--$DEPTCODE$--></dept_code>
        <user_email><!--$MYEMAIL$--></user_email>
    </user_info>
    <user_input>
        <field1 name="<!--$FIELDNAME1$-->"><!--$VALUE1$--></field1>
        <field2 name="<!--$FIELDNAME2$-->"><!--$VALUE2$--></field2>
        <field3 name="<!--$FIELDNAME3$-->"><!--$VALUE3$--></field3>
        <field4 name="<!--$FIELDNAME4$-->"><!--$VALUE4$--></field4>
        <field5 name="<!--$FIELDNAME5$-->"><!--$VALUE5$--></field5>
        <field6 name="<!--$FIELDNAME6$-->"><!--$VALUE6$--></field6>
        <field7 name="<!--$FIELDNAME7$-->"><!--$VALUE7$--></field7>
        <field8 name="<!--$FIELDNAME8$-->"><!--$VALUE8$--></field8>
        <field9 name="<!--$FIELDNAME9$-->"><!--$VALUE9$--></field9>
        <field10 name="<!--$FIELDNAME10$-->"><!--$VALUE10$--></field10>
        <field11 name="<!--$FIELDNAME11$-->"><!--$VALUE11$--></field11>
        <field12 name="<!--$FIELDNAME12$-->"><!--$VALUE12$--></field12>
        <field13 name="<!--$FIELDNAME13$-->"><!--$VALUE13$--></field13>
```

```
        <field14 name="<!--$FIELDNAME14$-->"><!--$VALUE14$--></field14>
        <field15 name="<!--$FIELDNAME15$-->"><!--$VALUE15$--></field15>
        <field16 name="<!--$FIELDNAME16$-->"><!--$VALUE16$--></field16>
        <field17 name="<!--$FIELDNAME17$-->"><!--$VALUE17$--></field17>
        <field18 name="<!--$FIELDNAME18$-->"><!--$VALUE18$--></field18>
        <field19 name="<!--$FIELDNAME19$-->"><!--$VALUE19$--></field19>
        <field20 name="<!--$FIELDNAME20$-->"><!--$VALUE20$--></field20>
        <field21 name="<!--$FIELDNAME21$-->"><!--$VALUE21$--></field21>
        <field22 name="<!--$FIELDNAME22$-->"><!--$VALUE22$--></field22>
        <field23 name="<!--$FIELDNAME23$-->"><!--$VALUE23$--></field23>
        <field24 name="<!--$FIELDNAME24$-->"><!--$VALUE24$--></field24>
        <field25 name="<!--$FIELDNAME25$-->"><!--$VALUE25$--></field25>
    </user_input>
</mfp_metadata>
```

□ XMLフォーマットファイルの変数

XMLフォーマットファイルに定義できる変数は下表のとおりです。メタスキャン時、変数に該当する情報が格納されます。

変数	格納される情報	値
<!--IP-->	IPアドレス	string
<!--$HOST$-->	ホスト名	string
<!--$LOCATION$-->	ロケーション	string
<!--$CONTACT$-->	連絡先の情報	string
<!--$CONTACTTEL$-->	連絡先の電話番号	string
<!--$YEAR$-->	年	string
<!--$MONTH$-->	月	string
<!--DAY-->	日	string
<!--$TIME$-->	時間	string
<!--$USER$-->	認証ユーザ名	string
<!--$MYEMAIL$-->	認証ユーザのEメールアドレス	string
<!--$DEPTCODE$-->	部門コード	string
<!--$WORKFLOW$-->	ワークフロープロセス名	string
<!--$FWVER$-->	ファームウェアバージョン	string
<!--$MODEL$-->	モデル名	string
<!--$SERIAL$-->	シリアル番号	string
<!--$MANUFACT$-->	メーカー名	string
<!--$TEMPVER$-->	テンプレートファイルバージョン	string
<!--$NUMFILE$-->	画像ファイル数	string
<!--$RESOLUTION$-->	解像度	string
<!--$PAGES$-->	スキャンしたページ数	string
<!--$FILEFORMAT$-->	ファイルのフォーマット	MultipleTIFF singleTIFF MultiplePDF singlePDF MultipleSLIMPDF singleSLIMPDF MultipleXPS singleXPS JPEG
<!--$COLORMODE$-->	カラーモード	BLACK GRAY SCALE FULL COLOR AUTO COLOR
<!--$VALUEn$-->	拡張フィールドn ＊ 「n」部分には、フィールド番号（1～25の範囲）を入力します。	string
<!--$FIELDNAMEn$-->	フィールド名n ＊ 「n」部分には、フィールド番号（1～25の範囲）を入力します。	string

補 足

拡張フィールドは、メタスキャン時に格納する情報を管理者がカスタマイズできるフィールドです。拡張フィールドの定義については、以下の説明を参照してください。

P.353 「拡張フィールド属性を登録する」

8
オプション機能の設定

9

付録

このセクションには、以下の内容が記載されています。

クライアントコンピュータに証明書をインストールする 374

Microsoft管理コンソール（MMC）を設定する 374

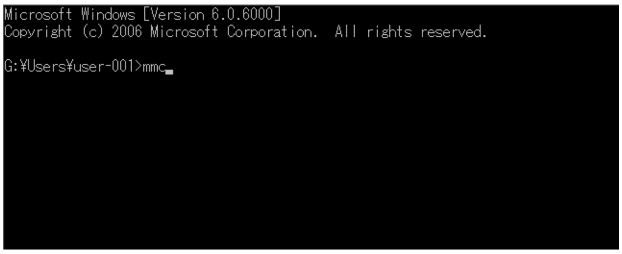
クライアントコンピュータに証明書をインポートする 376

クライアントコンピュータに証明書をインストールする

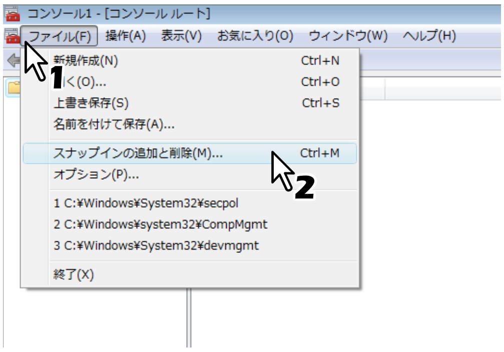
Microsoft管理コンソール（MMC）を設定する

ここでは、Windows Vistaで設定する例で説明します。別のバージョンのWindowsをお使いの場合も手順は同じです。

1 **コマンド プロンプトを開いて「mmc」と入力し、[Enter] キーを押します。**

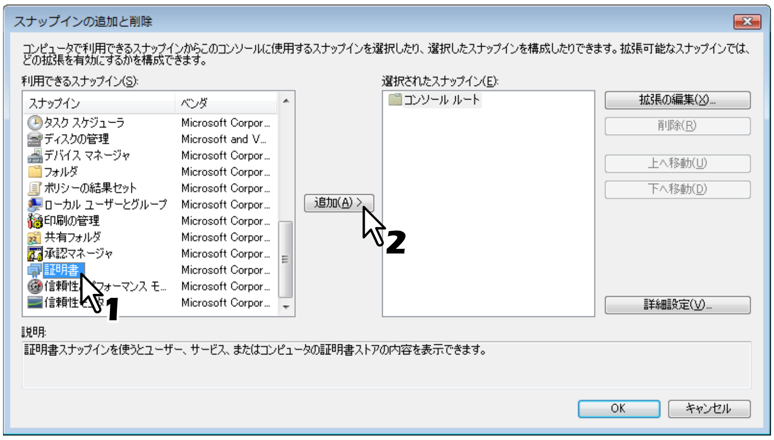


2 **表示されるウィンドウの［ファイル］または［コンソール］メニューから、［スナップインの追加と削除］を選択します。**



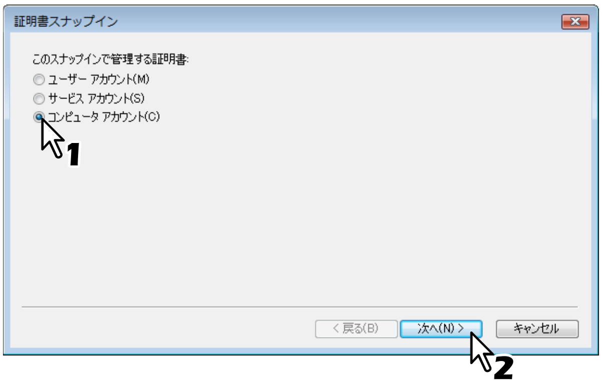
［スナップインの追加と削除］ダイアログボックスが表示されます。

3 **［利用できるスナップイン］の一覧から［証明書］を選択し、［追加］をクリックします。**



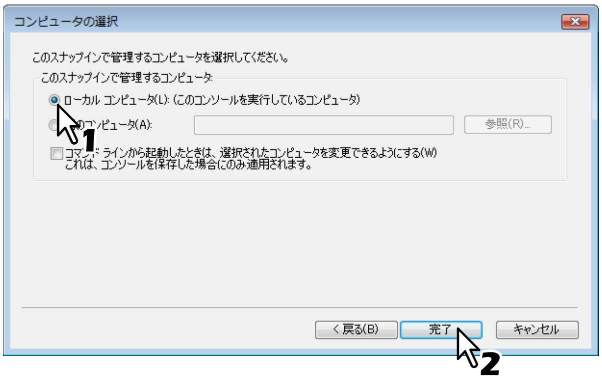
- Windows XP/2000の場合、［追加］をクリックして一覧を表示してから［証明書］を選択してください。
- ［証明書スナップイン］ダイアログボックスが表示されます。

4 ［コンピュータ アカウント］を選択し、［次へ］をクリックします。



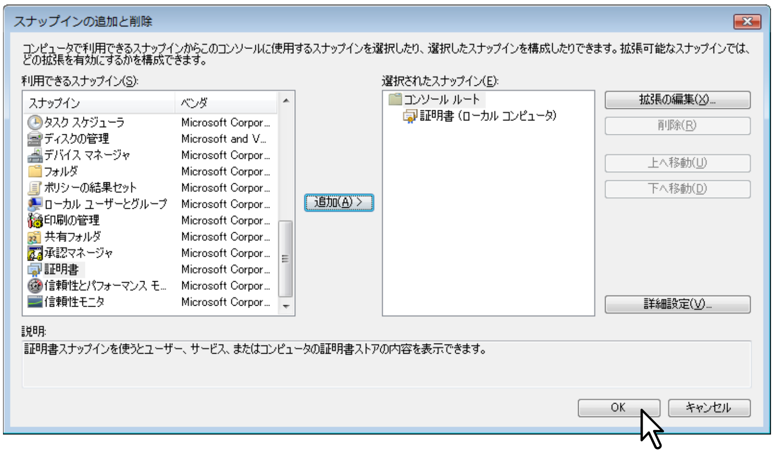
［コンピュータの選択］ダイアログボックスが表示されます。

5 ［ローカル コンピュータ（このコンソールを実行しているコンピュータ）］を選択し、［完了］をクリックします。

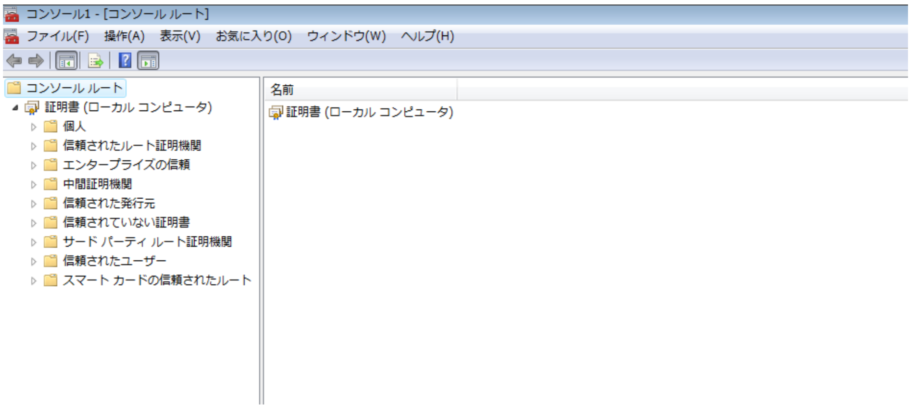


［コンピュータの選択］ダイアログボックスが閉じます。

6 ［コンソール ルート］フォルダの下に［証明書（ローカル コンピュータ）］が追加されていることを確認し、［OK］をクリックします。



7 設定を保存します。

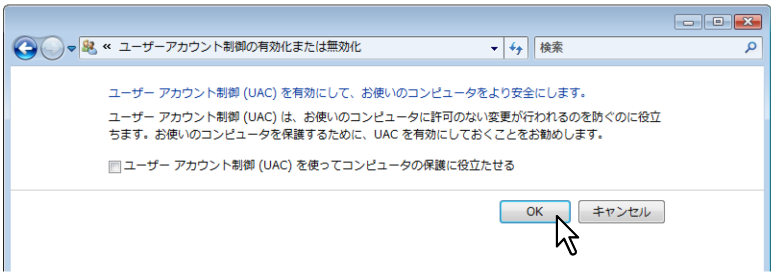


クライアントコンピュータに証明書をインポートする

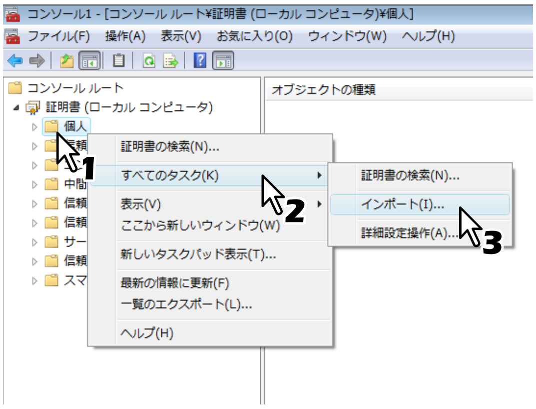
ここでは、Windows Vistaにインポートする例で説明します。別のバージョンのWindowsをお使いの場合も手順は同じです。

注 意

- Windows Vistaの場合、Administrators（管理者）所属のユーザでログインする必要があります。
- Windows Vistaの場合、[ユーザー アカウント制御］が無効になっていることを確認してください。[コントロールパネル］>［ユーザー アカウント］>［ユーザー アカウント制御の有効化または無効化］と進み、[ユーザー アカウント制御（UAC）を使ってコンピュータの保護に役立たせる］チェックボックスをオフにします。

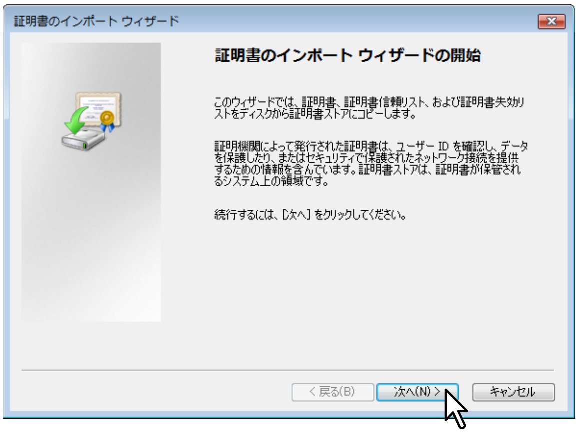


1 Microsoft管理コンソール（MMC）で、証明書を格納するフォルダを選択・右クリックし、［すべてのタスク］>［インポート］を選択します。



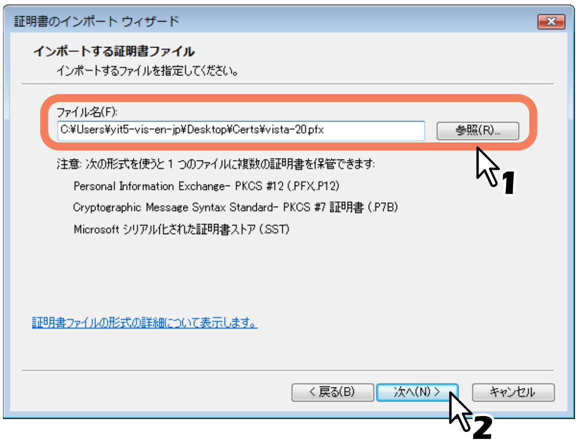
- 証明書の種類に応じて、適切なフォルダを選択してください。
  自己証明書（.crt）：コンソールルート ＞ 証明書（ローカルコンピュータ）＞ 信頼されたルート証明書
  クライアント証明書（.pfx）：コンソールルート ＞ 証明書（ローカルコンピュータ）＞個人
  CA証明書（.cert）：コンソールルート ＞ 証明書（ローカルコンピュータ）＞ 信頼されたルート証明書
- ［証明書のインポート ウィザード］が表示されます。

2 ［証明書のインポート ウィザード］で、［次へ］をクリックします。

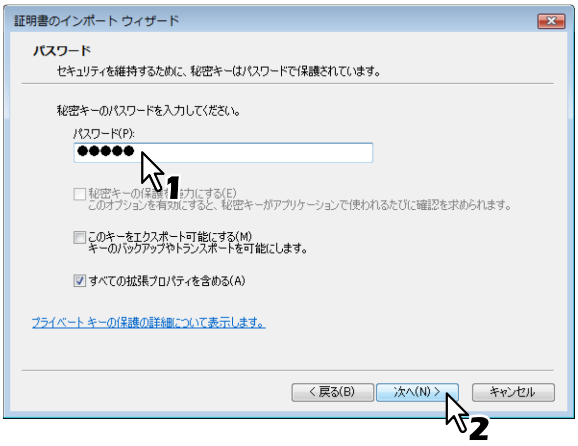


クライアント証明書をインポートする場合は、次の手順に進みます。それ以外の場合は、手順5へ進んでください。

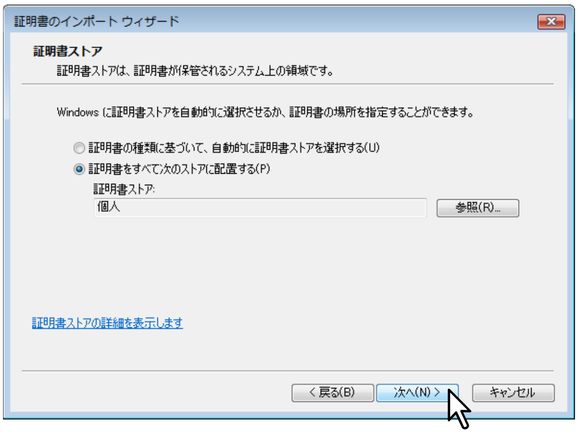
3 ［参照］をクリックしてインストールする証明書を選択し、［次へ］をクリックします。



4 秘密キーのパスワードを入力し、［次へ］をクリックします。



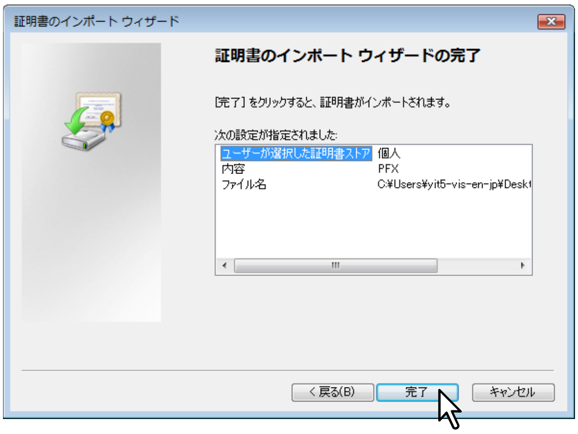
5 ［次へ］をクリックします。



注 意

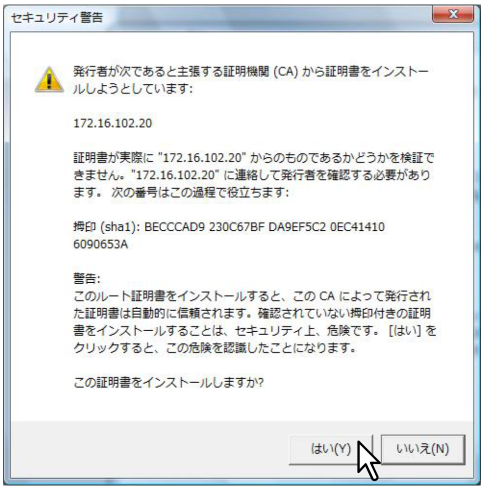
［参照］ボタンから証明書ストアを変更しないでください。

6 ［完了］をクリックします。

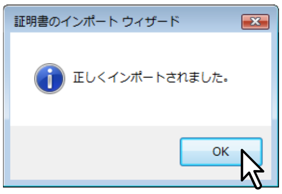


補 足

以下のセキュリティ警告メッセージが表示された場合は、［はい］をクリックします。

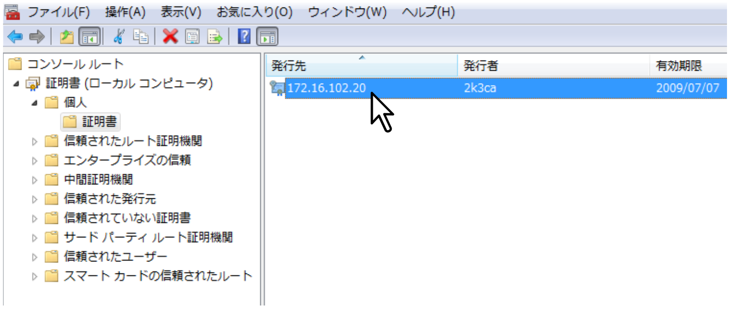


7 ［OK］をクリックして、インポートを完了します。



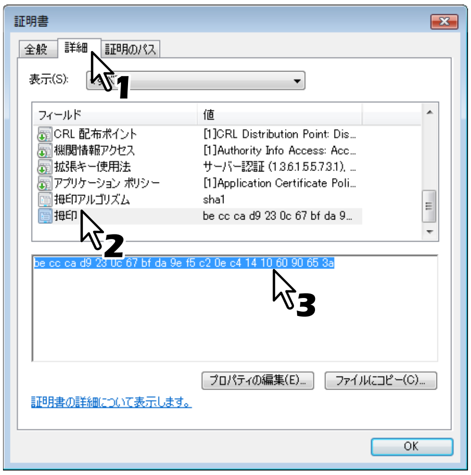
- Windows Vista コンピュータにクライアント証明書（.pfx）をインストールする場合は、次の手順に進みます。それ以外の場合は、インストールは完了です。
- 他に証明書をインストールする必要がある場合は、手順をはじめから繰り返してください。

8 インポートしたクライアント証明書をダブルクリックします。



［証明書］ウィンドウが表示されます。

9 ［詳細］タブをクリックし、［拇印］を選択して40桁の拇印を確認します。



10 コマンド プロンプトを開き、「netsh」コマンド を以下にならって実行します。

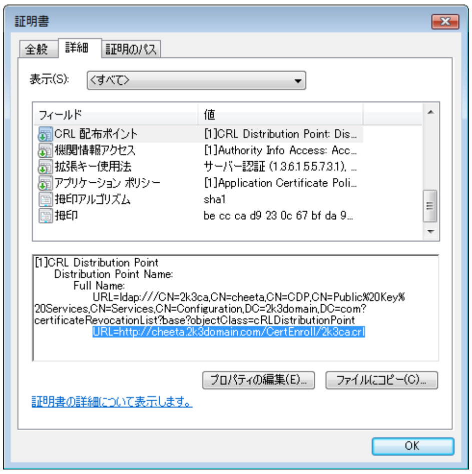
補 足

Windows VistaでAdministrators（管理者）所属のユーザ以外で利用している場合は、コマンドプロンプトのアイコンを右クリックして表示されるメニューから［管理者として実行］を選択する方法で一時的にAdministrators（管理者）権限でコマンドを実行することができます。

- 手順9で確認した拇印を使用して、次のコマンドを入力します。
  netsh http add sslcert ipport=0.0.0.0:5358 certhash=（ここに40桁の拇印を入力）appid={00112233-4455-6677-8899-AABBCCDDEEFF}
- 拇印はスペースを省いて入力します。

注 意

インポートしたクライアント証明書が「Certificate Revocation List（CRL）」を用いて作成されたものである場合、FQDNによるCAサーバーへのアクセスが可能であるかを確認する必要があります（下図を参照）。



FQDNによる接続が確立されていない場合は、以下のいずれかの対処を行うよう、管理者へ問い合わせてください。

- 以下のフォルダパスからアクセスできる「hosts」ファイルに、IPアドレスとホスト名を追加します。
  C:\WINNT\system32\drivers\etc
- 適切な名前解決処理が行われるように、DNSサーバーを設定します。

索引

数字

2in1/4in1 177

A

A4ワイド印刷モード(PCL) 197
AHトランスフォーム 330
AppleTalk使用 129
AppleTalkゾーン 129
AppleTalkの設定 129

B

Bccアドレス表示 193
Bonjour使用 129
Bonjourの設定 129

C

CA証明書 152, 170
CMYKソースプロファイルの設定 214

D

DDNS使用 133
DDNSの設定 132
Diffie -Hellmanアルゴリズム 328
DNS使用 131
DNSの設定 131

E

ECM 62, 84, 181
ESPトランスフォーム 329
Ethernet通信速度／方式 123
Eメールアドレス 55, 83, 95, 141
Eメール印刷の設定 207
Eメール設定
　共有テンプレート 249, 251
　ファクス／インターネットファクス受信転送 256, 261
　プライベートテンプレート 53, 63
　メールボックス 93, 96
　メタスキャンテンプレート 349, 350
Eメール送信エージェント 90, 92, 255
Eメール送信のユーザ認証設定 315, 317
Eメール転送使用 141
Eメールヘッダ印刷 207
Eメール本文最大印刷枚数 207
Eメール／インターネットファクス送信最大容量 140

F

FAX受信用メモリ容量 21, 114
FAX送信用メモリ容量 21, 114
FTP印刷使用 206
FTP印刷の設定 206
FTP印刷パスワード 206
FTP印刷ユーザ名 206
FTPクライアントの設定 144
FTPサーバー使用 144
FTPサーバーの設定 144
Fコード設定 93, 94

H

HTTPサーバー使用 138
HTTPの設定 138

I

ICCプロファイル 208
IEEE802.1X用証明書 163, 166, 167, 169
IKEv1 327
IKEv2 328
IKEキータイプ 327
IKEキー名 327
IKEトランスフォーム 328
IPCOMPトランスフォーム 330
IPP印刷使用 204
IPP印刷の設定 204
IPPポート80使用 204
IPsec使用 324
IPsecメニュー 324
IPsec用証明書 333, 335, 336, 338
IPv4/IPv6アドレス 329
IPv6使用 127
IPv6の設定 127
IPX/SPX使用 128
IPX/SPXの設定 128
IPXトラップアドレス 148
IPアドレス 125
IP衝突検出 125
IPセキュリティ 324
IPトラップコミュニティ 147, 172
IPフィルタ 330
IPフィルタリング 126
IPフィルタリング使用 126
IPフィルタリングルール 126

J

Jpeg圧縮率 72

L

LDAPサーバー 59
LDAPサーバー名 228
LDAPサービス 227
LDAP使用 130
LDAP認証 281, 287
LDAPの設定 130
Link-Localホスト名 129
LLMNR 127
LLTD 173
LLTDの設定 173
LPD印刷使用 203
LPD印刷の設定 203
LPDバナー 203
LT<-->A4/LD<-->A3 197

M

MACアドレス フィルタリング 127
MACアドレス フィルタリングルール 127
MACアドレス フィルタリング使用 127
MDNリプライ 207
MFPモデル 21, 114

N

N/Wファクスの設定 188
N/Wファクスの保管先の設定 189
NDS使用 137
NetBIOS名 135
NetWare印刷の設定 206
NetWareの設定 137
NetWareログイン名 206

P

PCL改行設定 198, 200
PCLフォームライン 198, 200
PCLフォントサイズ 198, 200
PCLフォント番号 198, 200
PCLフォントピッチ 198, 200
POP Before SMTP 140
POP3クライアント使用 142

POP3クライアントの接続タイムアウト時間 143
POP3サーバーアドレス 142
POP3サーバアドレス取得 125
POP3の設定 142
PWD 84

R

Raw bi-directional使用 203
Raw TCP印刷使用 203
Raw TCP印刷の設定 203
Raw印刷ジョブ印刷初期値設定 198
Raw印刷ジョブ設定 199
Raw印刷ジョブ__ステイプル 198
Raw印刷ジョブ__排紙トレイ 198
Raw印刷ジョブ__用紙サイズ 198
Raw印刷ジョブ__用紙タイプ 198
Raw印刷ジョブ__用紙向き 198
Raw印刷ジョブ__両面印刷 198
RGBソースプロファイルの設定 209
RGB調整 73

S

SCEP 161, 162, 167, 169, 336, 338
SEP 62, 84
SID 84
SID/PWD 62
SLP使用 145
SLPの設定 145
SMBクライアントのSMB署名 136
SMBサーバのSMB署名 136
SMBサーバプロトコル 134
SMBの設定 134
SMTPクライアント使用 139
SMTPクライアントの接続タイムアウト時間 140
SMTPクライアントの設定 139
SMTPサーバーアドレス 140
SMTPサーバー使用 141
SMTPサーバアドレス取得 125
SMTPサーバーの設定 141
SNMP V3使用 147
SNMP V3トラップ使用 147
SNMP V3トラップユーザ名 147
SNMP V3トラップ認証パスワード 147
SNMP V3トラップ認証プロトコル 147
SNMP V3トラッププライバシーパスワード 147
SNMP V3トラッププライバシープロトコル 147
SNMP使用 146
SNMPの設定 146
SNMPユーザ情報の作成 147
SNTPサーバアドレス取得 125
SNTP使用 143
SNTPの設定 143
SSL URL 205
SSL/TLS 139
SSL使用 130, 138, 139, 142, 144, 204
SSLポート番号 138, 143, 145, 205
SUB 62, 84

T

TCP/IPの設定 123
TSIG/SIG(0)キーファイル 133
TSIG/SIG(0)プライベートキーファイル 134
TTL 145

U

URL 204
USBメディアを使用 68

W

Web Serviceの設定 172
WEB設定 118
Windowsドメイン認証 281, 282
WINSサーバアドレス取得 124

X

XMLフォーマットファイル 343, 365

あ

アカウントマネージャ 295
アカウント名 143
アップロードソフトウェア 217
宛先アドレス 326
宛先指定方法 192
宛先設定
　共有テンプレート 249, 250
　ファクス／インターネットファクス受信転送 256, 257
　プライベートテンプレート 53, 55
　メールボックス 93, 95
　メタスキャンテンプレート 349, 350
宛先の設定 184
宛先ポート 326
アドレス設定方法 124
暗号化 64, 67, 262, 265
暗号化レベル 65, 67, 263, 265

い

一般
　WEB設定 118
　サマータイム設定 118
　節電モードの設定 116
　装置情報 114
　日付と時間 117
　ファイリングボックス通知情報イベントの設定 116
一般設定 197
インサーター 22
印刷キューポーリングレート 206
印刷ジョブ
　削除する 27
　実行する 28
　表示する 26
印刷ログ 34
インターネットファクスエージェント 255
インターネットファクス受信転送 254
インターネットファクス設定
　共有テンプレート 249, 251
　ファクス／インターネットファクス受信転送 256, 261
　プライベートテンプレート 53, 61
　メールボックス 93, 95
インターネットファクス／ファクス（中継）
　エージェント 90, 92
インターネットプロトコルバージョン 134, 326
インポート 158, 163, 234, 238, 333

え

エージェント設定 52, 92, 248, 255, 348
エクスポート／ログのクリア 236, 242, 244
エラーメール転送をする 207
エラーメールの転送先アドレス 207
エラーメッセージの出力 207
エラーメッセージを送信する 55, 95

お

オートクリア 116
オプション 22
オフランプ印刷 141

オフランプセキュリティ 141

か
海外指定 62, 84
会社名 83
回線2設定 180
回線指定 62, 84
解像度 62, 71, 180
カウンタリセット 273
課金部門 295
カセット 22
画像 54
画像回転 71
紙サイズ 22
カラー原稿モード 177
カラーモード 71, 176
カラーリミテーション 274, 295
カラーリミテーションの上限枚数 274, 295
管理者パスワード 115
管理者メッセージ 115
管理する
　スキャンジョブ 31
　アドレス帳 82
　印刷ジョブ 26
　カウンタ 99
　ファクス／インターネットファクスジョブ 29
　メールボックス 90

き
キーの選択 329
期間の設定 184
起動する 9
機能拡張オプション 22
機能タブ 17
給紙方法 199
キューネーム 200
キュー名 115
給紙方法 200
共有テンプレート 246, 252, 253
共有フォルダに保管
　N/Wファクスの設定 188
　N/Wファクスの保管先の設定 189
　宛先の設定 184
　期間の設定 184
　検索間隔の設定 187
　シングルページファイルの構成の設定 186
　シングルページファイルの保存場所の設定 185
　ファイル保存時のユーザ名とパスワード表示設定 186
　フォーマットの設定 185
　フォルダ名の設定 185
　本体保存先の設定 184
　リモート１／２の設定 187
共有フォルダに保管エージェント 90, 92, 255
共有フォルダに保管設定
　共有テンプレート 250, 251
　ファクス／インターネットファクス受信転送 256, 264
　プライベートテンプレート 54, 66
　メールボックス 94, 96
　メタスキャンテンプレート 349, 350
許可レベル 148
切り捨て印刷 181

く
グループ
　削除する 89
　編集する 88

け
警告 22
警告トラップ使用 147
掲示板 92
掲示板メールボックス 90
ゲートウェイ 125
権限 65, 67, 263, 265
原稿印刷 95, 255
原稿外消去 73
原稿サイズ 72
原稿モード 62, 72, 181
言語選択 118, 217
現在のフレームタイプ 129
検索間隔の設定 187
検索方法 130
件名 61, 63, 191, 194, 262

こ
高精細 62
コピーエージェント 52, 248
コマンドポート 68, 188, 189, 266
コメント 95
コンテキスト名 148
コントラスト 72

さ
サーチ時間 228
サーチベース 228
サーバーアドレス 228
サーバー名称 68, 187, 189, 266
サーバ証明書 154
サービスコンテキスト 137
サービスツリー 137
サービス電話番号 115
サービス名 129
再起動 245
最大コピー部数 177
彩度 73
サブネットマスク 125
サブメニューバー 17
サマータイム 118
サマータイム設定 118

し
自局番号 180
自局番号（回線2） 180
自局名称 179
自己証明書 154
下地調整 72
自動実行 55
自動節電時間 116
自動両面 178
シャープネス 72
終了音量 180
縮小印刷 181
受信方法 180
受信元記録 181
受信ログ 37
手動削除 184
状態 21, 22
ジョブ完了メッセージを送信する 55, 95
シリアル番号 21, 114
シングルページファイルの構成の設定 186
シングルページファイルの保存場所の設定 185
親展 92
親展メールボックス 90

シンボルセット 198, 200

す

スーパースリープ 116
スーパースリープモードからの復帰設定 173
スキャナ名 172
スキャンエージェント 52, 248
スキャンジョブ
　削除する 32
　表示する 31
スキャン設定
　共有テンプレート 250, 251
　プライベートテンプレート 54, 70
　メタスキャンテンプレート 350, 351
スキャンログ 39
スコープ 145
スタートページ印刷 197
ステイプル 200
スリープ移行時間 116

せ

姓 83
精細 62
セカンダリDNSサーバーアドレス
　IPv4 131
　IPv6 131
セカンダリSNTPアドレス 143
セカンダリWINSサーバーアドレス 136
セカンダリパスワード 133
セカンダリポート番号 138
セカンダリログインネーム 133
セキュリティ設定 151, 332
セキュリティ方式 133
セッション確保時間 118
セッションキー設定 328, 330
設置場所 21, 115
節電モードの設定 116
セットアップ
　Eメール 190
　ICCプロファイル 208
　一般 112
　インターネットファクス 193
　共有フォルダに保管 182
　コピー 175
　ネットワーク 121
　バージョン 215
　ファクス 178
　プリンタ 195
　プリントサービス 201
全部門のカウンタリセット 271

そ

送信者アドレス 61, 64, 191, 194, 262
送信者名 61, 64, 191, 194, 262
送信方法 62, 84
送信ログ 35
装置情報 21, 114
ソートモード 178
ソフトウェアのアップロード 217
ソフトウェアのインストール 17
ソフトウェアの削除 219

た

タイプ 22
タイムゾーン 117
ダイヤルタイプ 180
ダイヤルタイプ（回線2） 180
ダイレクト送信 62
縦横交互排紙 181
タブ
　［カウンタ］ 100, 102
　［管理者］ 111
　［ジョブ］ 26, 29, 31
　［装置］ 20
　［登録］ 42, 82, 91
　［保守］ 217
　［メタスキャン］ 341
　［ログ］ 34, 35, 37, 39

ち

中継親局結果表 182
中継孫局送信 93, 96

つ

通信管理記録自動印刷 181
通知設定 229
次のネットワークフォルダに保存する 187

て

データクローニング機能 115
手差し用紙 177
デバイス名 129, 135, 173
デフォルトプロファイル 209, 214
転送 92, 255
転送メールボックス 90
テンプレート
　管理する 42
　登録する 340
　編集する 49, 346, 353
電話番号 22, 83
電話番号（セキュリティ） 63
電話番号2 83

と

同報送信結果表 181
トータルカウンタ 100
トップ 18
トナー 22
ドメインサーバアドレス取得 124
ドメイン名の取得 124
ドメイン名 133
トラップ送信先 147
トンネル設定 329

な

名 83
内蔵ブラウザ 119
内部認証 281

に

［　］日後に削除 184
日時 118
日時指定送信 63
認証 140, 205, 228
認証トラップ使用 147
認証パスワード 148
認証プロトコル 148

ね

ネットワーク
AppleTalkの設定 129
Bonjourの設定 129
DDNSの設定 132
DNSの設定 131
FTPクライアントの設定 144
FTPサーバーの設定 144
HTTPの設定 138
IPv6の設定 127
IPX/SPXの設定 128
IPセキュリティ 324
LDAPの設定 130
LLTDの設定 173
NetWareの設定 137
POP3の設定 142
SMBの設定 134
SMTPクライアントの設定 139
SMTPサーバーの設定 141
SNMPの設定 146
SNTPの設定 143
TCP/IPの設定 123
Web Serviceの設定 172
セキュリティ設定 151
フィルタリングの設定 126
ネットワークパス 68, 188, 189, 266
ネットワークフォルダを使用しない 188, 184
ネットワークフォルダを使用する 184, 188

の

濃度調整 62, 72, 181
濃度調整（カラー） 177
濃度調整（ブラック） 177

は

排紙トレイ 200
バインダリサーバー使用 137
白紙は印字しない 199, 200
白紙ページ除去 73
箱番号 94
パスワード
Fコード設定 94
IPP印刷設定 205
N/Wファクスの保管先の設定 189
NetWare印刷の設定 206
POP3設定 143
SMB設定 135
SMTPクライアント設定 140
SNMP設定 148
共有フォルダに保管設定 68, 266
ネットワークフォルダ設定 188
ファクス設定 63
ボックス設定 69, 267
パスワードの確認 68, 69, 115, 188, 189, 266, 267
バックアップ 220
バックアップドメインコントローラ 135
発信ポート 326
発信元アドレス 326
発信元記録 181
パネル設定
共有テンプレート 249, 250
プライベートテンプレート 53, 54
メタスキャンテンプレート 349, 350
パンチユニット 22

ひ

備考 83
日付と時間 117
日付表示形式 117
標準時間との差 118

ふ

ファイリングボックス 115
ファイリングボックス通知情報イベントの設定 116
ファイリングボックスに保管 255
ファイリングボックスに保管エージェント 90, 92
ファイリングボックス容量 21, 114
ファイル形式 61, 64, 66, 192, 262, 264
ファイル削除 226
ファイル保存先 184
ファイル保存時のユーザ名とパスワード表示設定 186
ファイル名 65, 69, 263, 266
ファクス 22
ファクス受信転送 254
ファクス設定
共有テンプレート 249, 251
プライベートテンプレート 53, 61
ファクス／インターネットファクスエージェント 52, 248
ファクス／インターネットファクスジョブ
削除する 30
表示する 29
フィールド番号 355
フィールド名 356
フィニッシャ 22
フィルタアクション 326
フィルタリングの設定 126
フィルタ名 326
フォーマットの設定 185
フォルダ名 69, 267
フォルダ名の設定 185
付加情報2 130
付加情報１ 130
部署名 83
普通 62
復活送信 181
ブック両面 177
部門カウンタ 102
部門管理 269
部門管理設定 278
部門コード 114, 278
部門コード強制 115, 279
部門名称 274
プライバシープロトコル 148
プライベートグループ 42, 340
プライマリDNSサーバーアドレス
IPv4 131
IPv6 131
プライマリSNTPアドレス 143
プライマリWINSサーバーアドレス 135
プライマリドメインコントローラ 135
プライマリパスワード 133
プライマリポート番号 138
プライマリログインネーム 133
ブラック原稿モード 177
ブラックリミテーション 274, 295
ブラックリミテーションの上限枚数 274, 295
フリガナ 83

プリンタ
Raw印刷ジョブ印刷初期値設定 198
Raw印刷ジョブ設定 199
一般設定 197
プリンタ情報 172
プリンタプロファイルの設定 214
プリンタ名 172
プリントサービス
Eメール印刷の設定 207
FTP印刷の設定 206
IPP印刷の設定 204
LPD印刷の設定 203
NetWare印刷の設定 206
Raw TCP印刷の設定 203
フレームタイプ 129
プレビュー 71
フレンドリーネーム 172
プロトコル 174, 68
プロトコルタイプ 326
プロファイル名 329, 331
プロポーサル 329
分割受信 207
分割受信待ち時間 207
分割送信サイズ 65, 192, 263
分割ページサイズ 61, 195
文書名 69, 267

へ

ページメモリサイズ 21
ヘッダ印刷モード 199, 200
ヘルプ 18

ほ

ポーリング結果表 182
ポーリングレート 143, 144
保守 216
ホスト名 133
保存先 69, 267
保存パス 184
ボックス設定
共有テンプレート 250, 251
ファクス／インターネットファクス受信転送 256, 267
プライベートテンプレート 54, 69
メールボックス 94, 96
ボックス番号 69, 267
ポリシー 324
ポリシー名 331
本体保存先の設定 184
本文 61, 64, 262
本文印刷 207
本文送信 192, 195
本文（初期値） 192, 195

ま

マガジンソート 177
マスタパスワード 64, 67, 262, 265

む

無線LAN証明書 152

め

名称 21, 44, 114, 343
名称1 55
名称2 55
メインメモリサイズ 21
メールボックス 90
メッセージ 22
メッセージログ 268
メニューバー 17
メモリ送信 62
メモリ送信結果表 181

も

モニタ音量 180

ゆ

ユーザー証明書 152
ユーザがネットワークフォルダを
指定することを認める 188
ユーザ管理設定 282, 287, 291
ユーザパスワード 64, 67, 262, 265
ユーザ名 44, 55, 95, 148, 343
優先サーバー 137
優先送信 63

よ

用紙サイズ 22, 200
用紙タイプ 200
用紙向き 200
容量 22

り

リードコミュニティ 146
リードライトコミュニティ 147
リストア 223
リトライ回数 192, 195
リトライ間隔 192, 195
リモート1 ....68, 265
リモート１／２の設定 187
リモート2 ....69, 266
リモート受信 180
両面印刷 181, 200
両面スキャン 71
リンガ音量 180
リンクローカルアドレス 127

れ

レポート通知 44, 55, 95, 343
レンダリングインテント 215
連絡先
削除する 85
装置情報 21, 115
編集する 82

ろ

ローカル共有フォルダ容量 21, 114
ローカルフォルダを使用 67, 265
ロールベースアクセス 284, 289
ログインタイプ 143
ログイン名 140
ログインユーザ名 68, 188, 189, 266
ログオン 135

わ

ワークスペース容量 21, 114

FC-5520C/6520C/6530C
FC-2330C/2830C/3520C/4520C
DP-2520/3570/4570
DP-6550/7550/8550
OMJ080019D0

東芝デジタル複合機
TopAccessガイド

＜開発・製造元＞
東芝テック株式会社
＜販売元＞
東芝テックビジネスソリューション株式会社

R071220F0203-TTEC
Ver04 2009-06

© 2008, 2009 TOSHIBA TEC CORPORATION All rights reserved